ICOM

取扱説明書[導入編]

RoIP GATEWAY

VE-PG4

はじめに

1 ご使用になる前に

2 無線機の導入

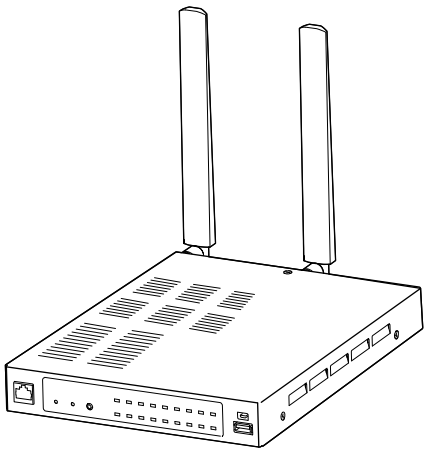
3 無線LANトランシーバーの導入

4 内線の構築

5 保守について

6 ご参考に

本書では、導入時に必要な基本的な説明を記載しています。
また、設定画面の各項目については、取扱説明書[活用編]に記載していますので、必要に応じてご覧ください。



Icom Inc.

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
本製品は、弊社製無線機をVoIPネットワークに融合するコンバーターユニットです。
ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

登録商標/著作権

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。
AMBE+2は、Digital Voice Systems, Inc.の商標です。
Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。
なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。
本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。
本ソフトウェア、および本ドキュメントは、アイコム株式会社が著作権を保有します。

本書の表記について

本書は、次の表記規則にしたがって記述しています。

「　」表記：本製品の各メニューと、そのメニューに属する設定画面の名称を(「」)で囲んで表記します。
[　]表記：キー、ランプ、ポート、各設定画面の設定項目名を([ ])で囲んで表記します。
〈　〉表記：設定画面上に設けられたコマンドボタンの名称を(〈 〉)で囲んで表記します。

※ 本書は、Ver. 1.14のファームウェアを使用して説明しています。
※ 本書では、Windows 10の画面を例に説明しています。
※ 本書では、パナソニック社製IP電話機(KX-UT123N、KX-UT136N、KX-HDV130N、KX-HDV230N)を「KXシリーズ」と表記しています。
※ 本書では、IP100Hを「無線LANトランシーバー」、IP500H、IP501H、IP502H、IP500Mを「IP無線機」、IPネットワーク対応のデジタル無線機を「デジタル無線機」と表記しています。
※ 本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使いになるパソコンと多少異なる場合があります。
※ 本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。

音声圧縮(符号化)方式について

本製品は、米国DVS社の開発したAMBE(Advanced Multi-Band Excitation)方式を採用しており、AMBE+2™方式に対応しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form U.S. Patent Nos. #8,595,002, #8,359,197, #8,315,860,#8,200,497, #7,970,606 and #6,912,495 B2.

はじめに

本製品の概要について

◎IPネットワークを介して、本製品に接続した特定小電力トランシーバーやデジタル簡易業務用無線機で通話したり、IP電話機と無線機で通話できたりします。
4G/3G回線で接続されるIP無線機や無線LANトランシーバーの通信も制御できます。
※2019年5月現在、パナソニック社製IP電話機(KXシリーズ)が使用できます。
※IP無線機コントローラーとの接続には、4G/3G回線を利用します。
※無線LANトランシーバーは50台、IP電話機は25台まで本製品に登録できます。

◎無線機だけでなく、構内放送設備なども本製品に接続できます。

◎本製品に接続している無線機への緊急通知、本製品や接続機器の異常監視ができます。

◎市販のUSBメモリーを本製品のUSBポートに接続することで、無線機の通話録音、ファームウェアの更新、設定の保存/復元ができます。

◎ネットワーク管理機能として、SNMPに対応しています。

◎IPフィルター機能を搭載していますので、アクセス制限ができます。

◎10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-Tの自動切り替えに対応しています。

取り扱い上のご注意

◎本製品は一般事務用機器として設計されています。
消防法令に定義された非常用放送設備にはご使用いただけません。

◎本製品は、高度な信頼性が必要な用途に使用されることを目的とした製品ではありません。
本製品が原因で発生したいかなる損害についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

◎パソコンやその他の周辺機器の取り扱いは、それぞれに付属する取扱説明書に記載する内容にしたがってください。

◎次に示す内容をよくお読みになってから、本製品の設定ファイルや弊社ホームページ http://www.icom.co.jp/ より提供されるアップデート用ファームウェアファイルをご使用ください。
本製品以外の機器への書き込み、改変による障害、および書き込みに伴う本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失、または停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

◎本製品が原因で発生した債務不履行、または不法行為に基づく損害賠償の責任は、当社に故意、または過失のある場合を除いて、本製品の購入代金と同等金額を上限といたします。

◎本製品に隠れた瑕疵があった場合、無償にて当該瑕疵を修理、または瑕疵のない同一製品、もしくは同等品に交換いたしますが、当該瑕疵に基づく損害賠償の責任は一切負いません。

◎本書に記載しているのは、構成例です。
指定機種以外の無線機中継ができる場合がありますが、関係法令にしたがって運用してください。

◎2019年5月現在、SQL（スケルチ)による音声受信判定方式(取扱説明書[活用編])に対応する無線機は、IC-4800、IC-4810、IC-D50、IC-D60、IC-DPR5、IC-DPR6、IC-MS5010だけです。

RS-PG4(監視ツール)について
本製品に接続された無線機の設置場所には、無線機の送信状態などを監視する管理者が必要です。
設置した場所に管理者がいない状態でご使用になるときは、本製品と同じネットワークに接続されたパソコンからRS-PG4を起動して、監視できる環境を構築してください。
RS-PG4は、弊社ホームページのサポート情報(サポート情報→各種ダウンロード)からダウンロードできます。

はじめに

出荷時のおもな設定値

設定メニュー	設定画面	設定項目	設定名称	設定値
ネットワーク設定	IPアドレス	IPアドレス設定	IPアドレス	192.168.0.1
			サブネットマスク	255.255.255.0
	DHCPサーバー	DHCPサーバー設定	DHCPサーバー	無効
ルーター設定	WAN接続先	回線種別設定	回線種別	LANポートとして使用する
無線機ポート設定	外部入出力（EXT）	外部入出力モード設定	接続機器	無線機（EXT1/2）
				外部入出力機器（EXT3/4）
		外部入出力設定	ポート選択	1
		無線機機種設定	無線機機種	IC-4810
管理	管理者	管理者パスワードの変更	管理者ID	admin（変更不可）
			現在のパスワード	admin（半角小文字）

※上記以外の設定値については、別紙の取扱説明書[活用編]をご覧ください。
※本製品の管理者用ID（admin）は、変更できません。

不正アクセス防止のアドバイス
本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。
数字だけでなくアルファベット（大文字/小文字）や記号などを組み合わせた長く複雑なものにされることをおすすめします。

取扱説明書の構成について

本製品の取扱説明書は、本製品に付属の「ご使用になる前に」、弊社ホームページに掲載の下記取扱説明書（PDFファイル）で構成されています。

ご使用になる前に（別紙）

本製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を説明しています。
また、本製品の初期化操作など、保守についても説明しています。

取扱説明書[導入編]（本書）

本製品の基本的な方法について、本書を最初からお読みいただくことで、設定や設置の作業ができるように構成しています。

取扱説明書[活用編]（別紙）

本製品に設定できる詳細な機能について、設定メニューごとに詳細を説明しています。

取扱説明書[構築編]（別紙）

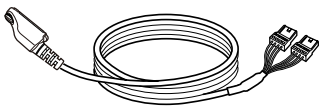
他拠点接続やブリッジ接続など、弊社対応機器との連携や構築例を説明しています。

はじめに

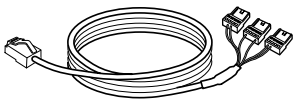
別売品について

（2019年5月現在）

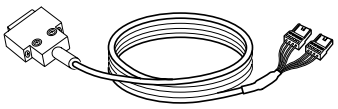
OPC-2269
携帯機接続ケーブル（約5m）



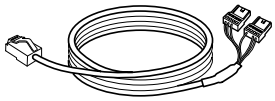
OPC-2270
車載機接続ケーブル（約5m）



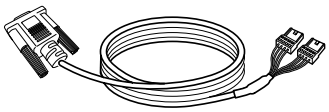
OPC-2271
車載機接続ケーブル（約5m）



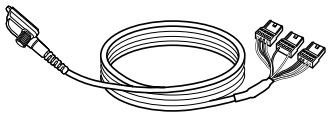
OPC-2346
車載機接続ケーブル（約5m）



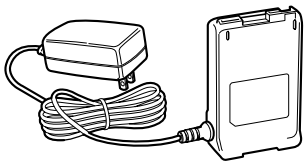
OPC-2389
シリアル通信対応機器接続ケーブル（約5m）



OPC-2412
IC-SAT100用接続ケーブル（約5m）

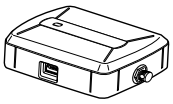


AD-107H
外部電源装置



HM-204
防水スピーカーマイクロホン

CT-24
デジタルボイスコンバーター



IP100FS
リモートコミュニケーター

本製品に接続する機器により接続ケーブルなど、必要な弊社別売品が異なりますのでご注意ください。

- OPC-2269　：IC-4800、IC-4810、IC-D50、IC-D60、IC-DPR5、IC-DPR6
- OPC-2270　：IC-D5005、IC-DPR1
- OPC-2271　：IC-MS4880
- OPC-2346　：IC-MS5010
- OPC-2389　：シリアル通信対応機器
- OPC-2412　：IC-SAT100
- AD-107H★1　：IC-4800、IC-4810、IC-D50、IC-D60、IC-DPR5、IC-DPR6
- CT-24★2　：IC-DU5505CN、IC-DU6505BN、IC-D6005N

★1 本製品に接続する携帯機の電源は、AD-107H（別売品）をご使用ください。
バッテリーパック、またはバッテリーケースで携帯機を運用すると、本製品が誤動作する原因になります。

★2 本製品にはCT-24相当のAMBE+2ボコーダーが4個内蔵されています。
接続された機器や使用する音声プロトコルの組み合わせ（取扱説明書［活用編］）により、内蔵されているAMBE+2ボコーダーの割当が不足した場合は、別途CT-24が必要になります。
※2019年5月現在、本製品で使用できるネットワーク対応のデジタル無線機は、IC-DU5505CN、IC-DU6505BN、IC-D6005Nだけです。

はじめに

別売品について

（2019年5月現在）

PM-IP500

IP無線機の位置情報を確認したい場合は、地図上に位置情報を表示するためのソフトウェアとして、PM-IP500（弊社ホームページからダウンロードできる無償ソフトウェア）があります。
弊社ホームページに掲載の「PM-IP500 ご利用ガイド」をよくお読みいただき、手順にしたがってインストールしてください。

Virtual Serial Port

本製品に接続しているシリアル通信対応機器をTCP/IP経由で制御するためのソフトウェアとして、Virtual Serial Port（弊社ホームページからダウンロードできる無償ソフトウェア）があります。
6-13ページをよくお読みいただき、手順にしたがってインストールしてください。

CS-IP100H

IP100Hをパソコンから設定するためのクローニングソフトウェアとして、CS-IP100H（弊社ホームページからダウンロードできる無償ソフトウェア）があります。
弊社ホームページに掲載の「CS-IP100H取扱説明書」をよくお読みいただき、手順にしたがって別売品のクローニングケーブルを接続してください。
※これらのソフトウェアは、機能の拡張や改良のため、アップデートすることがあります。
更新作業をする前に、弊社ホームページに記載の内容をご確認ください。

別売品についてのご注意

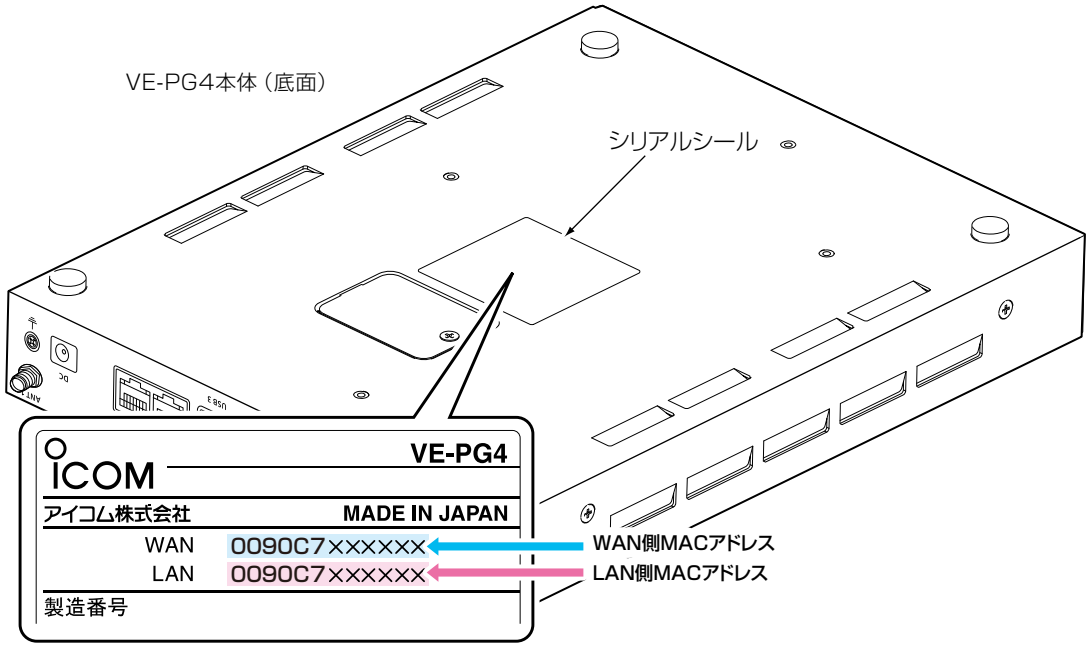
弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じるネットワーク機器の破損、故障、または動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

はじめに

本体MACアドレスが必要なときは

本体MACアドレス(機器固有の番号)は、本製品底面のシリアルシール(下図)に12桁で記載されています。

本製品をインターネットに接続してご使用になる場合、ご契約の接続業者、またはプロバイダーや提供を受けるサービスによっては、モデムに直接接続するネットワーク機器(本製品)がそれぞれ独自に持っているWAN側MACアドレス(機器固有の番号)を、ご契約の接続業者、またはプロバイダーに対して事前申請を必要とする場合があります。
そのような場合、申請、および登録が完了するまで、本製品を利用してインターネットに接続できません。
※LAN側のMACアドレスではありませんのでご注意ください。



※MACアドレスの記載位置は、お買い上げの製品によって若干異なる場合があります。

ご参考
上記のMACアドレスは、設定画面でも確認できます。(取扱説明書[活用編])

ご使用になる前に

第 1 章

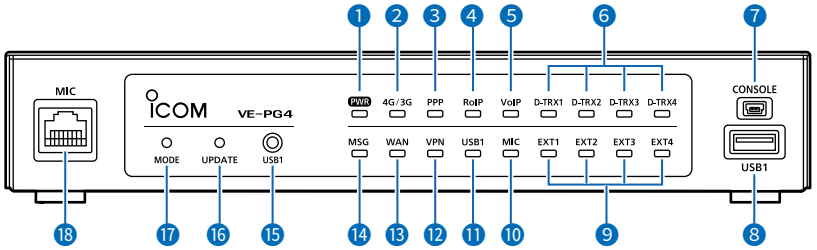
この章では、
本製品のおもな機能などを説明しています。

1. 各部の名称と機能 …… 1-2
■ 前面部 …… 1-2
■ 後面部 …… 1-6
■ 側面部/底面部 …… 1-8
2. おもな機能について …… 1-9
■ 通話エリア拡張 …… 1-9
■ VoIP電話システムと無線機連携 …… 1-9
■ 無線機コントローラーとの接続 …… 1-10
■ IP無線機コントローラーとの接続 …… 1-12
■ 位置情報とプレゼンス表示 …… 1-12
■ ルーター機能 …… 1-12
■ VPN機能 …… 1-12
■ 簡易音声録音機能 …… 1-12
■ 仮想シリアルポート機能 …… 1-12
3. 接続や設置について …… 1-13
■ マグネットの取り付け …… 1-13
■ アンテナの取り付け …… 1-14
4. 設定のしかた …… 1-15
■ 設定用のパソコンに固定IPアドレスを設定する …… 1-15
■ 設定に使うパソコンを接続する …… 1-16
■ 設定画面にアクセスするには …… 1-17
■ 設定画面の名称と機能について …… 1-18
■ 設定画面の表示について …… 1-19
■ 本体IPアドレスを変更するときは …… 1-21

1. 各部の名称と機能

■ 前面部

ランプの動作、接続部やボタンについて説明します。



❶ [PWR]ランプ ……
- ● 緑点灯 ： 動作中
- ☼ 緑点滅 ： 起動中
- ☼ 赤点滅 ： UID表示
- 消　灯 ： 電源OFF時

※電源投入時、すべてのランプが点滅(赤→緑)します。
※起動中、[PWR]ランプは緑点灯→緑点滅→緑点灯の順で遷移します。

❷ [4G/3G]ランプ ……
- ● 緑点灯 ： 4G時 受信レベル2本以上
- ☼ 緑点滅 ： 4G時 受信レベル0～1本
- ● 赤点灯 ： 3G時 受信レベル2本以上
- ☼ 赤点滅 ： 3G時 受信レベル0～1本
- 消　灯 ： 圏外、またはSIMカード未装着

❸ [PPP]ランプ ……
- ● 緑点灯 ： 4G/3G接続完了時
- 消　灯 ： 上記以外

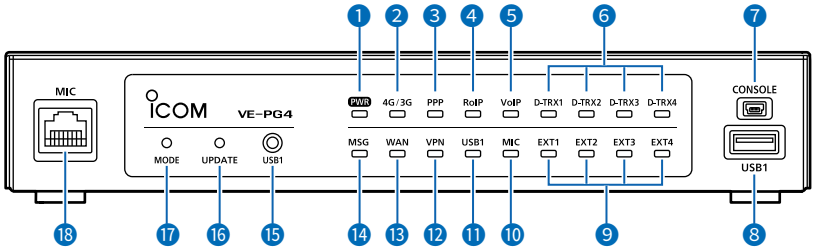
❹ [RoIP]ランプ ……
- ● 緑点灯 ： IP無線機コントローラーからの音声/データ受信中
- ● 橙点灯 ： IP無線機コントローラーと音声/データ送受信中
- ● 赤点灯 ： IP無線機コントローラーへの音声/データ送信中
- 消　灯 ： 上記以外

❺ [VoIP]ランプ ……
- ● 緑点灯 ： IP回線接続成功時(全エントリー)
- ☼ 緑点滅 ： 通話中(1通話以上)
  ※接続失敗中の通話は緑点滅
- ☼ 赤点滅 ： IP回線接続失敗時(1エントリー以上)
- 消　灯 ： 未登録時/接続試行中

❻ [D-TRX](1～4)ランプ ……
(デジタル無線機使用時)
- ● 緑点灯 ： デジタル無線機から受信中
- ● 橙点灯 ： デジタル無線機と送受信中
- ● 赤点灯 ： デジタル無線機へ送信中
- 消　灯 ： 上記以外

1. 各部の名称と機能

■ 前面部



❼ [CONSOLE]ポート ……
(USB2.0/1.1)

本製品の設定にターミナルソフトウェアを使用するとき、USBケーブル(市販品)を接続します。

※本製品とパソコンをUSBケーブルで接続し、ご使用していただくために必要なUSBドライバーおよびインストールガイドについては、弊社ホームページからダウンロードできます。(下記参照)

※USBケーブル(miniBタイプ)、ターミナルソフトウェアは、別途ご用意ください。

❽ [USB1]ポート ……
(USB3.0)

設定復元やファームウェアの更新などで使用するUSBメモリー(市販品)を差し込むポートです。

また、無線機への通話録音をUSB経由で外部ストレージに保存できます。

※後面部にもUSBポートがありますが、ストレージデバイスが接続できるのは1つのUSBポートだけです。
使用方法や注意事項については、5-11ページをご覧ください。

※あらかじめ、USBデバイス内のデータをバックアップしてから、ご使用ください。

※指紋認証型、アプリケーション認証(パスワード認証)型など、セキュリティー対応型のUSBメモリーは使用できません。

※すべてのUSBデバイスでの動作を保証するものではありません。

※本製品に内蔵されたCT-24相当のAMBE+2ボコーダーの割当数(最大4個)が不足する場合は、CT-24(別売品)をUSBポートに接続してください。
追加できるCT-24は2台までです。(P.2-12)

USBドライバーのダウンロードについて

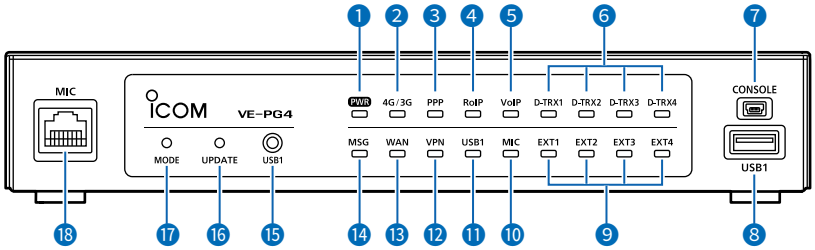
本製品の[CONSOLE]ポートは、弊社ネットワーク機器用のUSBドライバーで動作します。
弊社ホームページ(下記)にアクセスして、[ネットワーク機器]→「通信機能拡張ユニット」をクリックすると、弊社ネットワーク機器対応のUSBドライバーが表示されます。

アイコム株式会社 ファームウェア/ドライバ ダウンロード
http://www.icom.co.jp/support/download/firmware_driver/

※弊社ホームページからのダウンロード手順については、予告なく変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。

1. 各部の名称と機能

■ 前面部



❾ [EXT](1～4)ランプ……
- 緑点灯：外部機器から入力時/無線機からの音声受信中
- 橙点灯：外部入出力使用中/無線機との音声送受信中
- 赤点灯：外部機器へ出力時/無線機へ音声送信中
- 消　灯：上記以外

❿ [MIC]ランプ……
- 緑点灯：[MIC]ポートに受信中
- 橙点灯：[MIC]ポートと送受信中
- 赤点灯：[MIC]ポートから送信中

⓫ [USB1]ランプ……
- 緑点灯：USBメモリー接続時
- ☼緑点滅：USBメモリーアクセス中
- 赤点灯：USBメモリーからの設定読み出しや、ファームウェアアップデート失敗
- 消　灯：USBメモリー未接続時/取りはずし準備完了

⓬ [VPN]ランプ……
- 緑点灯：IPsecトンネル接続確立時(1つ以上)
- 消　灯：接続未確立時/VPN未設定時/設定無効時

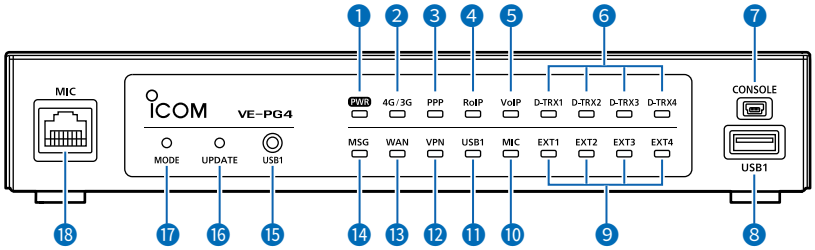
⓭ [WAN]ランプ……
- 緑点灯：WAN接続完了
  PPP確立時(PPPoE)
  IPアドレス取得成功(DHCPクライアント)
- ☼赤点滅：認証エラー(PPPoE)
  IPアドレス取得失敗(DHCPクライアント)
- 消　灯：上記以外

⓮ [MSG]ランプ……
- 緑点灯：オンライン更新(ファームウェア更新あり)
- ☼緑点滅：初期化動作移行中
  オンライン更新(ファームウェアダウンロード中)
- 消　灯：上記以外

⓯ 〈USB1〉ボタン……
[USB1]ポート(❽)に接続したUSBストレージデバイスを取りはずすときは、[USB1]ランプ(⓫)が点灯(緑)から消灯に切り替わるまでボタンを押します。

1. 各部の名称と機能

■ 前面部



⑯ **〈UPDATE〉ボタン** …… 最新ファームウェアがあるとき、[MSG]ランプ(⑭)が点灯(緑)から点滅(緑)に切り替わるまでボタンを押して、ファームウェアを更新します。
※4G/3G回線をご使用にならない場合、ファームウェアの更新や確認には、インターネットへの接続環境が必要です。
※ペン先などを利用して押してください。

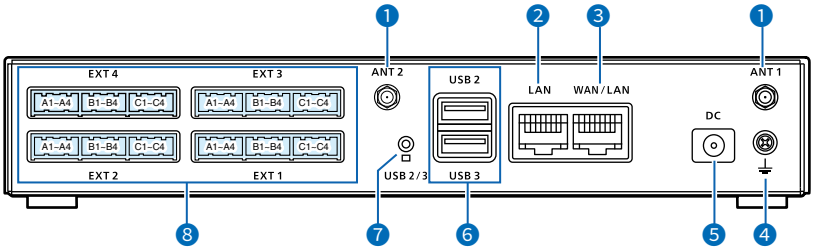
⑰ **〈MODE〉ボタン** …… 設定を初期化するときに使用します。(P.5-4)
※ペン先などを利用して押してください。

⑱ **[MIC]ポート** …… 別売品のスピーカーマイクロホンを接続するときは、「カチッ」と音が鳴るまで差し込んでください。
※誤動作の原因になりますので、本製品の電源を入れたままスピーカーマイクロホンを取り付けたり、取りはずしたりしないでください。
※故障の原因になりますので、[MIC]ポートにLANケーブルを接続しないでください。
※[MIC]ポートにスピーカーマイクロホンを接続すると[EXT1]ポートの音声入出力が切断されます。
[MIC]ポートと[EXT1]ポートの音声入出力を同時に使用することはできませんのでご注意ください。

1. 各部の名称と機能

■ 後面部

ランプの動作、接続部やボタンについて説明します。

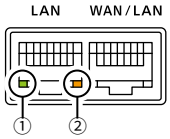


❶ [ANT1]/[ANT2]
アンテナコネクター ……

4G/3G回線で接続されるIP無線機と通信する場合は、本製品にアンテナの取り付けが必要です。（P.1-14）
※十分な性能でご使用いただくため、アンテナは必ず2本とも接続してください。
※[ANT1]はGPSと共用です。

❷ [LAN]ポート ……
（RJ-45型）

HUBなどのネットワーク機器と接続します。

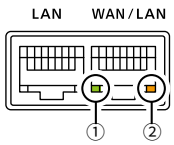


点灯: 接続時
点滅: データ通信中
①緑色: 1000BASE-T時
②橙色: 10BASE-T/100BASE-TX時

ランプ表示

❸ [WAN/LAN]ポート ……
（RJ-45型）

回線種別の設定によって、用途が異なります。（取扱説明書[活用編]）
◎「LANポートとして使用する」（初期設定）に設定時
[LAN]ポートに切り替わりますので、HUBやルータータイプモデムなどのネットワーク機器と接続します。
◎「DHCPクライアント」/「固定IP」/「PPPoE」に設定時
[WAN]ポートに切り替わりますので、ADSL、VDSL、CATVでお使いのブリッジタイプモデム、またはFTTHでお使いの回線終端装置と接続します。



点灯: 接続時
点滅: データ通信中
①緑色: 1000BASE-T時
②橙色: 10BASE-T/100BASE-TX時

ランプ表示

❹ アース端子 ……

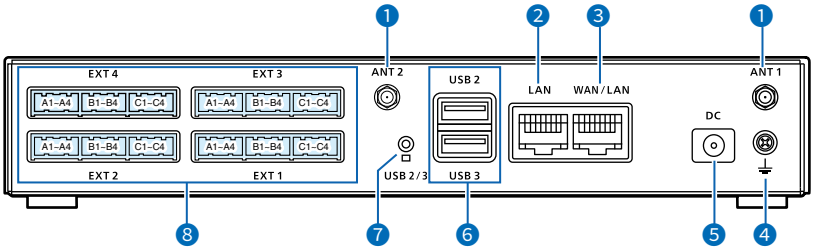
市販のアース線を接続します。

❺ DCジャック ……

本製品に付属のACアダプターを接続します。

1. 各部の名称と機能

■ 後面部



❻ [USB2]/[USB3]ポート ……
（USB3.0）

設定復元やファームウェアの更新などで使用するUSBメモリー（市販品）を差し込むポートです。
また、無線機への通話録音をUSB経由で外部ストレージに保存できます。
※前面部にもUSBポートがありますが、ストレージデバイスが接続できるのは1つのUSBポートだけです。
使用方法や注意事項については、5-11ページをご覧ください。
※あらかじめ、USBデバイス内のデータをバックアップしてから、ご使用ください。
※指紋認証型、アプリケーション認証（パスワード認証）型など、セキュリティー対応型のUSBメモリーは使用できません。
※すべてのUSBデバイスでの動作を保証するものではありません。
※本製品に内蔵されたCT-24相当のAMBE+2ボコーダーの割当数（最大4個）が不足する場合は、CT-24（別売品）をUSBポートに接続してください。
追加できるCT-24は2台までです。（P.2-12）

❼ 〈USB2/3〉ボタン ……

[USB2]/[USB3]ポート（❻）に接続したUSBストレージデバイスを取りはずすときは、ボタンの下部にある[USB2/3]ランプが点灯（緑）から消灯に切り替わるまでボタンを押します。

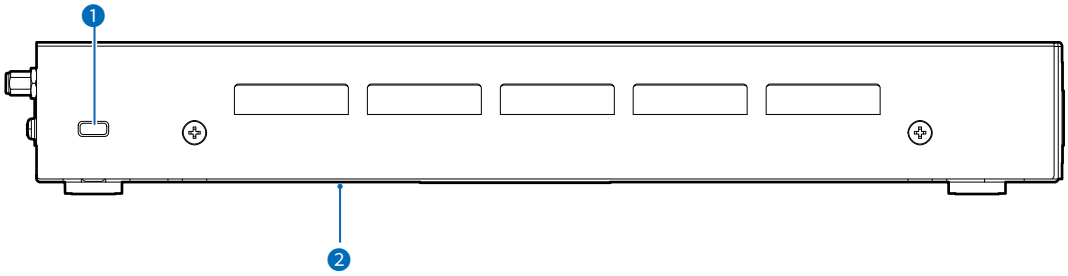
❽ [EXT]（1～4）ポート……

必要に応じて設定を変更して、各機器の電源が切れていることを確認してから、本製品と外部機器（または無線機）を接続します。
※初期設定で、[EXT1]/[EXT2]ポートは、IC-4810と接続できるように設定されています。
[EXT3]/[EXT4]ポートは、外部入出力機器と接続できるように設定されています。
※[EXT]（1～4）ポートの詳細については、6-20ページをご覧ください。

1. 各部の名称と機能

■ 側面部/底面部

接続各部について説明します。



❶ セキュリティースロット ……

市販のセキュリティーワイヤーで本製品を固定するときに使用します。
セキュリティーワイヤーを固定してから、本製品のセキュリティースロットに取り付けてください。
※取り付け方法については、ご使用になるセキュリティーワイヤーの取扱説明書をご覧ください。
※セキュリティーワイヤーには、シリンダーヘッド部の横からワイヤーが出るものと、上から出るものがあります。
ご利用の環境に応じたセキュリティーワイヤーをご用意ください。

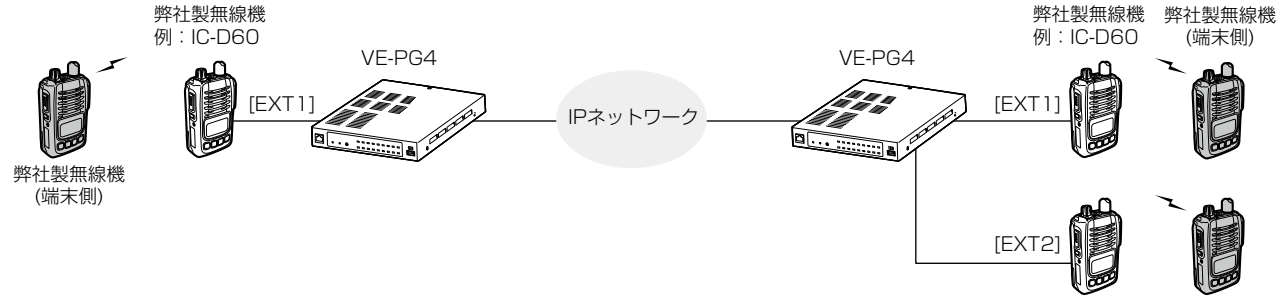
❷ SIMカードスロット ……

SIMカードを取り付けるスロットです。
※SIMカードの装着や交換は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

2. おもな機能について

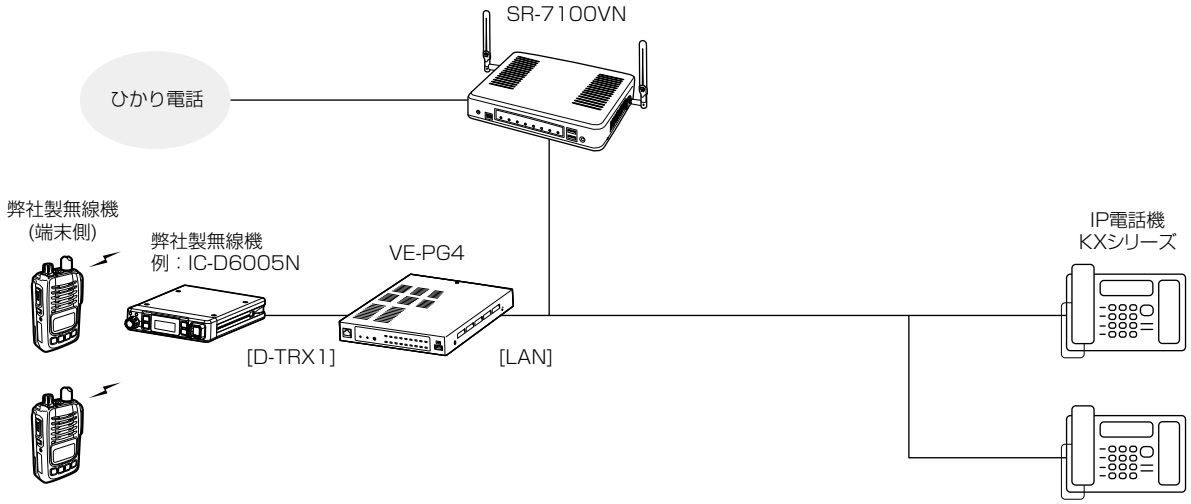
■ 通話エリア拡張

本製品に無線機★を接続すると、無線機接続端子間やネットワーク内に接続された無線機間で相互に通話できます。
★接続できる無線機は弊社指定のものに限られます。また、接続には別売品の専用ケーブルが必要です。



■ VoIP電話システムと無線機連携

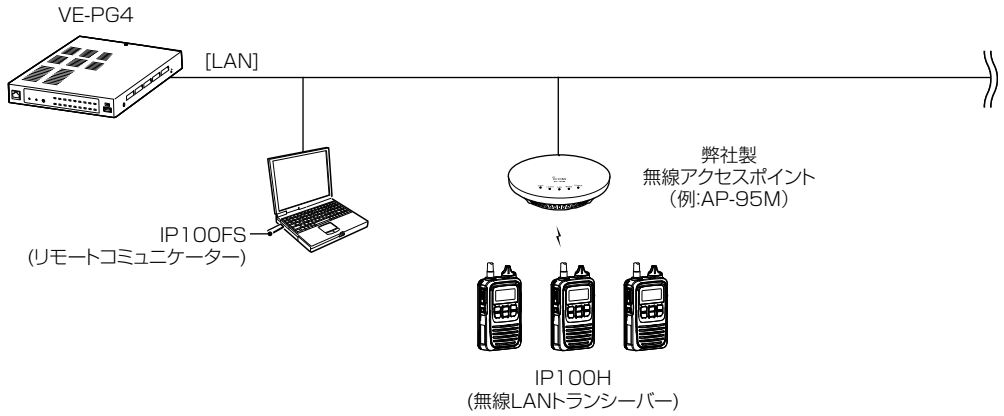
◎ 内線電話として、IP電話機を最大25台登録できます。
◎ 本製品に収容したIP電話機と無線機間で相互に通話できます。
　IP電話機から端末側無線機を指定して呼び出せます。
◎ SR-7100VNなど簡易中継サーバー（上位SIPサーバー）と接続すると、IP電話回線を使用して外線通話ができます。



2. おもな機能について

■ 無線機コントローラーとの接続

無線LANトランシーバーを制御するコントローラーとして、IPネットワークを経由した呼び出しやメッセージの送受信に対応しています。
※無線LANトランシーバーを最大50台登録できます。
※ご利用になるためには、無線アクセスポイントが必要です。
※2019年5月現在、弊社製IP100H、IP100FSが使用できます。



単信/複信通信

本製品は、2種類(単信/複信)の通信方式に対応しています。
単信は送信と受信を交互に切り替えて交信する方式、複信は電話のように同時通話できる方式です。
本製品に登録した無線LANトランシーバーごとに、「無線機個別」画面(P.3-7)で通信方式を設定します。
※複信通信が設定されている場合は、IP100Hに別売品のマイクロホンなどを接続することで、相手が送信しているときでも、電話のように同時通話できます。
詳しくは、IP100Hの取扱説明書をご覧ください。

全体/グループ呼び出し

全体、グループ呼び出しごとに、「同報」(1対N：単信通信)、「会議」(多者間通話：複信通信)が設定できます。
※本製品の「無線機追加」画面で登録したIP100H、IP100FSを、「呼出先設定」画面でグループに分け、呼び出すためのグループ番号を割り当てる必要があります。

近隣呼出機能

特定のエリアに限定して運用をするときに使用する機能です。
端末側で近隣呼出機能を「ON」にしている状態で全体/グループ呼び出しをすると、接続している無線アクセスポイントと同一エリア内のIP100Hを呼び出します。
※この機能を使用するには、本製品の「無線機個別」画面で端末ごとの近隣呼出機能を「有効」にし、「近隣呼出接続」画面でエリア内の無線アクセスポイント(BSSID)を登録しておく必要があります。

2. おもな機能について

■ 無線機コントローラーとの接続

トークグループ

あらかじめ本製品にトークグループとして登録しておいたグループから、端末側でどのグループに所属するかを選択できる機能です。

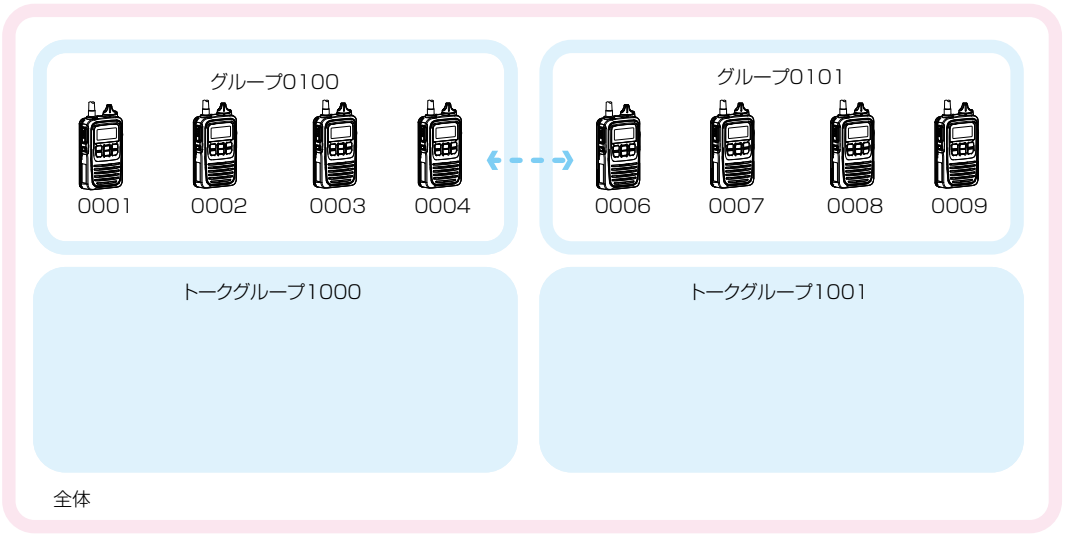
同じトークグループに所属するほかの端末とグループ呼び出しができます。

図のように、トークグループ（例：1000）を選択すると、その端末（例：0004）は通常のグループ（例：0100）からはずれます。

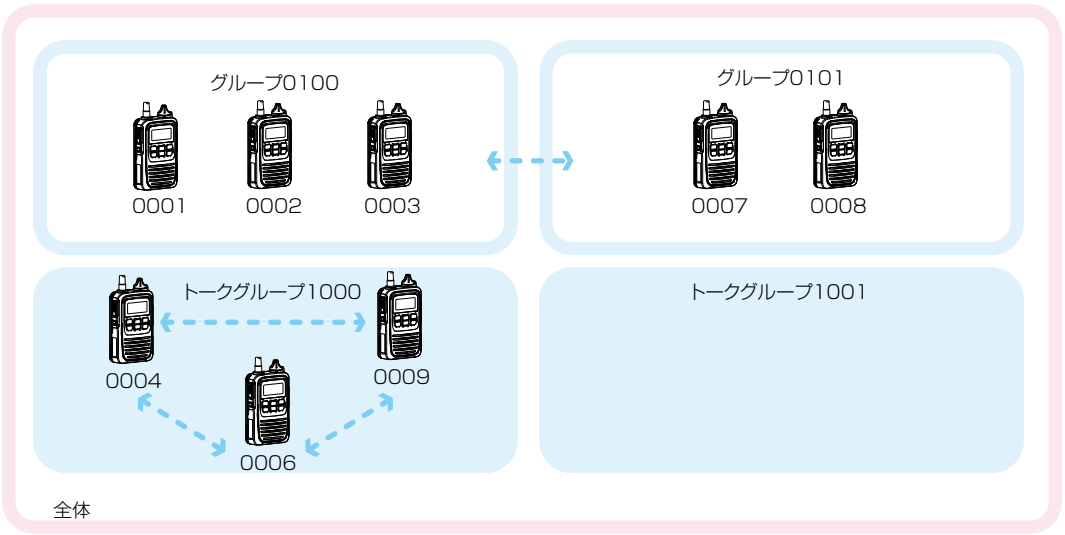
※この機能を使用できるのは、IP無線機と無線LANトランシーバーだけです。

※IP100Hでの操作方法については、3-9ページをご覧ください。

トークグループOFF時



トークグループ選択時



※本製品の「呼出先設定」画面と「アドレス帳」画面でトークグループ番号を登録する必要があります。

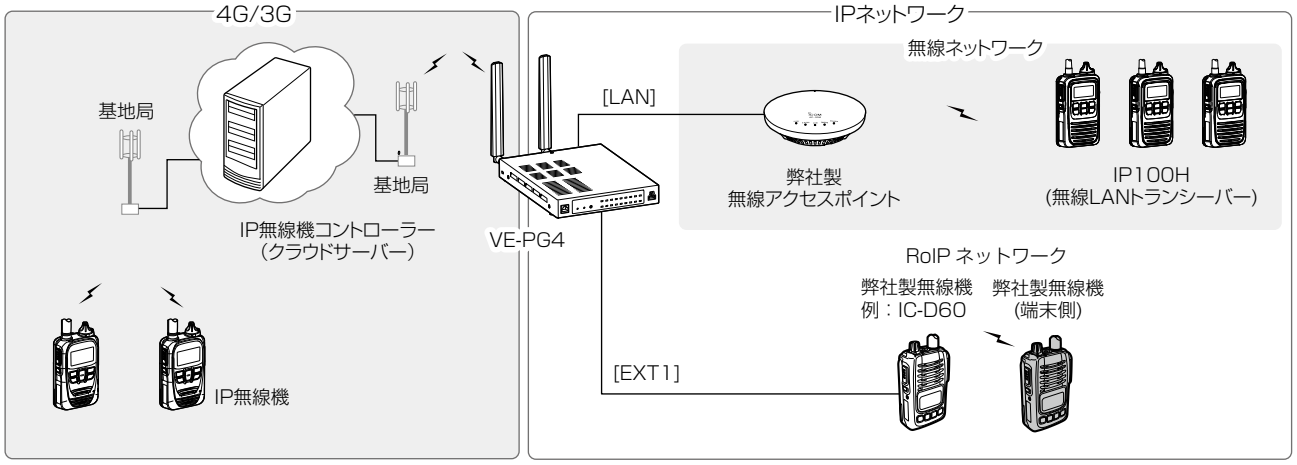
※トークグループ種別が「管理用」に設定されている場合は、複数のトークグループと通話できます。

※全体呼び出しの対象にトークグループを含めるかどうか、トークグループの呼び出し対象にどのIP100FSを含めるかなど、本製品で設定します。

2. おもな機能について

■ IP無線機コントローラーとの接続

IP無線機コントローラーに接続すると、IP無線機と無線LANトランシーバー、無線機間の相互接続ができます。
※4G/3G回線使用時は十分な性能でご使用いただくため、アンテナは2本とも取り付けてください。



■ 位置情報とプレゼンス表示

PM-IP500(弊社ホームページからダウンロードできる無償ソフトウェア)を使用して、IP無線機の位置情報とプレゼンス情報を確認できます。
※位置情報を表示できるのは、お買い上げ時に、IP無線機のGPS機能が有効に設定され、本製品側で情報を取得できる場合だけです。
※ご使用になるために必要な動作環境など、別紙のPM-IP500ご利用ガイドでご確認ください。

■ ルーター機能

本製品のルーター機能を使用すると、本製品に接続したパソコンや機器からインターネットに接続できます。
※ お使いのブリッジタイプモデム、またはFTTHでお使いの回線終端装置を本製品の[WAN]ポートに接続します。
※ 初期設定では、本製品のルーター機能(回線種別)は、「LANポートとして使用する」に設定されています。
(取扱説明書[活用編])
ご契約の回線接続業者との契約内容にしたがって、回線種別(DHCPクライアント/PPPoE/固定IP)を設定してください。

■ VPN機能

VPN(Virtual Private Network)機能を使用すると、インターネット上の2地点を暗号化通信で接続して、仮想的なネットワークを構成できます。
※ VPN機能を使用する場合は、本製品の[WAN]ポートにWAN回線を接続し、ルーター機能(回線種別)の設定が必要です。
※接続先に合わせて、IPsecトンネルを登録してください。(取扱説明書[活用編])

■ 簡易音声録音機能

指定した無線機や全体/グループの通話録音データをUSB経由で外部ストレージに録音できます。

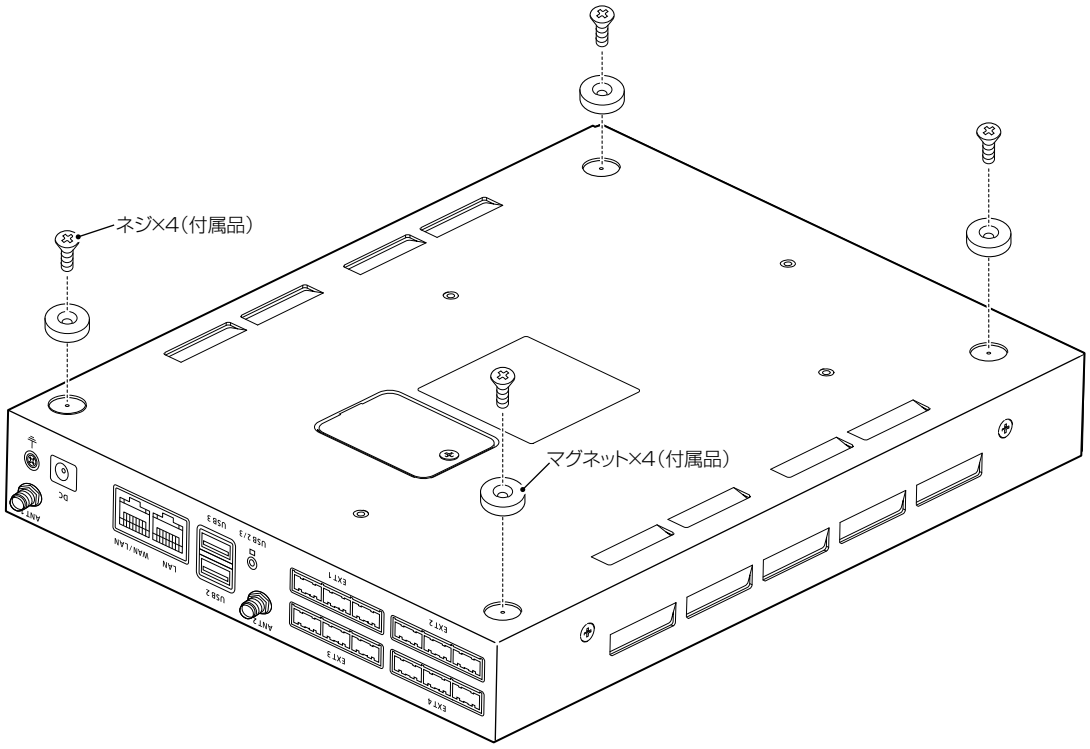
■ 仮想シリアルポート機能

シリアル通信対応製品を本製品に接続し、仮想シリアルポートを利用して遠隔から制御できます。

3. 接続や設置について

■ マグネットの取り付け

付属のマグネットを図のように底面部に取り付けると、本製品を固定できます。
※6mmより長いネジは、絶対に使用しないでください。



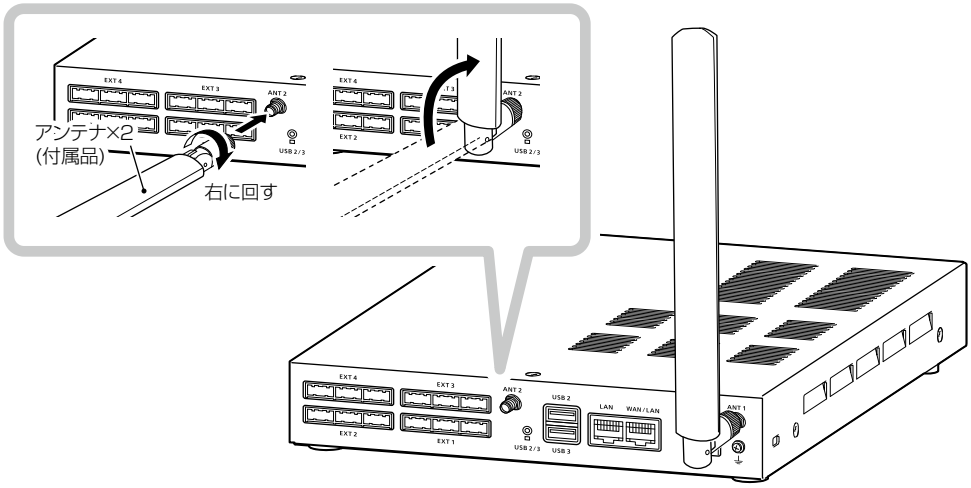
ご注意

◎マグネットで、指を挟まないようご注意ください。
◎心臓ペースメーカーなど電子医療機器をお使いのかたは、心臓ペースメーカーなどの植え込み部位に近づけたり、当てたりしないでください。電子医療機器などの動作に影響を与え、生命の危険があります。
◎時計、コンパスや精密機器、キャッシュカードやクレジットカードなどの磁気/ICカードを近づけないでください。製品の誤動作の原因になったり、磁気/ICカードの内容が消去されたりすることがあります。

3. 接続や設置について

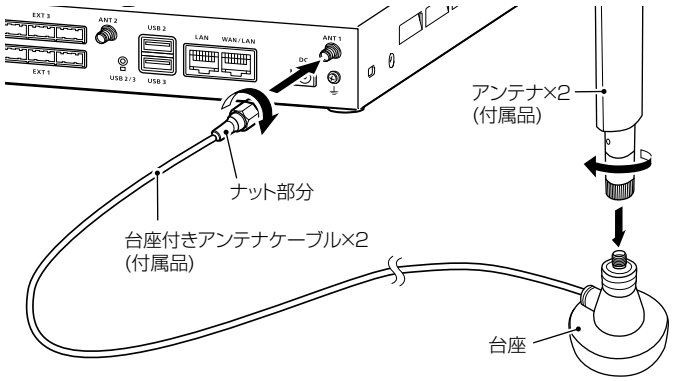
■ アンテナの取り付け

4G/3G回線で接続されるIP無線機の通信を制御する場合は、本製品にアンテナの取り付けが必要です。
2本のアンテナは、ダイバーシティーやMIMOとして機能しますので、マルチパスに強く、安定した電波状態で通信できます。
取り付けるときは、アンテナの根元を右方向に手で締まる程度まで回します。
取りはずすときは、アンテナの根元を持って左方向に回します。
※十分な性能でご使用いただくため、アンテナは、2本とも取り付けてください。
※電波状況が悪いと感じられたときは、アンテナの向き、または本製品の設置場所を変更してください。



台座付きアンテナケーブルについて

設置場所に余裕がなく、アンテナを本製品に直接取り付けられない場合は、台座付きアンテナケーブル(ケーブル長：約1.5m)をご使用ください。
底面のマグネットが吸着するスチール製の棚などに台座を固定できます。
※振動がなく、落下の危険がない安定した場所に取り付けてください。
※落下防止のため、人の通行をさまたげる場所には設置しないでください。



⚠警告

本製品に取り付けたアンテナを持って本製品を振り回さないでください。
本人やほかの人に当たるなどして、けがや破損、および故障の原因になります。

ご注意

技術基準適合証明(工事設計認証)を受けていますので、付属のアンテナおよび台座付きアンテナケーブル以外は使用できません。

4. 設定のしかた

出荷時、本製品のIPアドレスは「192.168.0.1」、DHCPサーバー機能は「無効」に設定されています。
本製品の設定画面にアクセスするときは、接続するパソコンに固定IPアドレスの設定が必要です。

■ 設定用のパソコンに固定IPアドレスを設定する

Windows 10を例に、固定IPアドレス(例：192.168.0.100)をパソコンに設定する手順について説明します。

1 〈スタート〉(ロゴボタン)で右クリックし、表示されたメニューで[ネットワーク接続(W)]をクリックします。

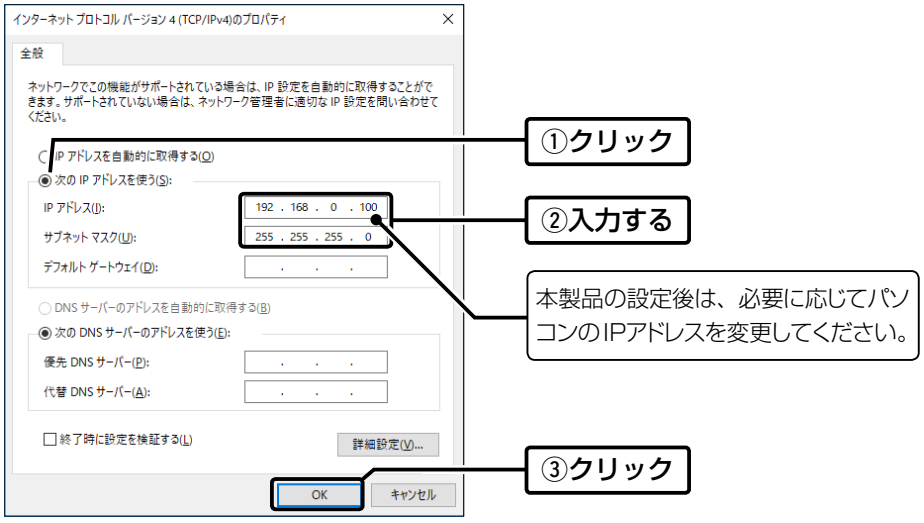
2 [アダプターのオプションを変更する]をクリックします。

3 [イーサネット]を右クリックし、表示されたメニューで[プロパティ(R)]をクリックします。

4 [ユーザーアカウント制御]のメッセージが表示された場合は、〈続行(C)〉をクリックします。

5 「イーサネットのプロパティ」画面で、[インターネットプロトコル バージョン4(TCP/IPv4)]を選択し、〈プロパティ(R)〉をクリックします。
「インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)のプロパティ」画面(別画面)を表示します。

6 [次のIPアドレスを使う(S)]をクリックし、[IPアドレス(I)](例：192.168.0.100)と[サブネットマスク(U)](例：255.255.255.0)を入力して、〈OK〉をクリックします。

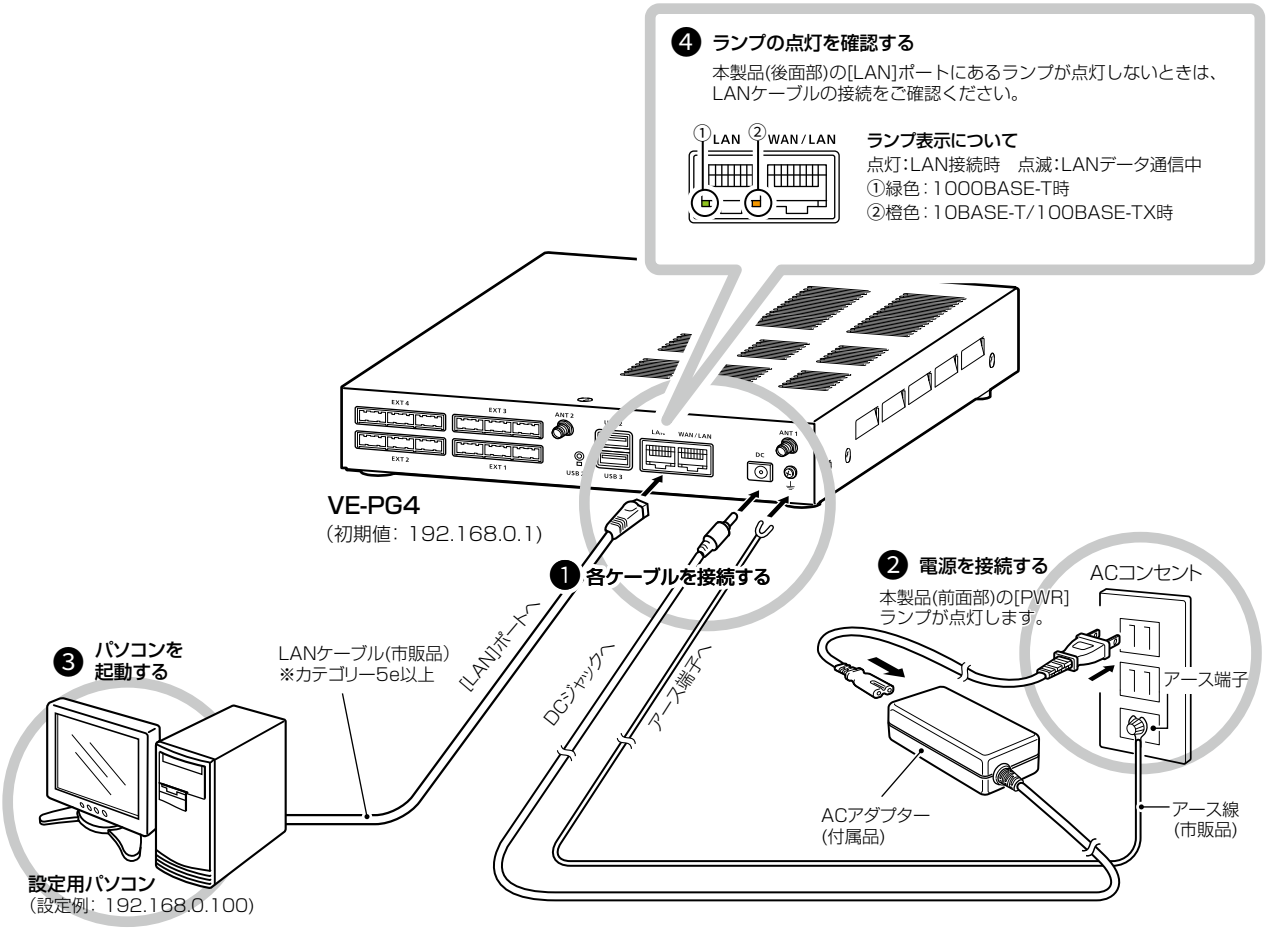


7 〈OK〉をクリックします。

4. 設定のしかた

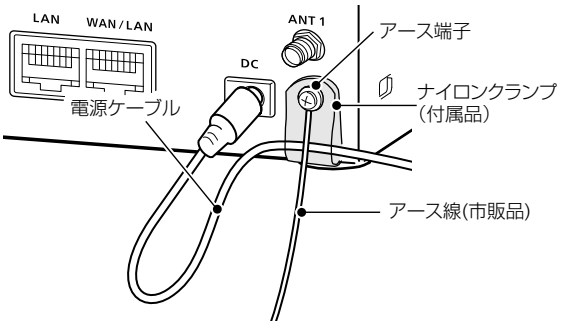
■ 設定に使うパソコンを接続する

本製品の電源を入れ、ランプの点灯を確認します。



ACアダプターの抜け防止について

図のように電源ケーブルをナイロンクランプ(付属品)に通してから、アース端子に固定してください。



⚠ 警告

◎本製品のアース端子を、ガス管や水道管には絶対に接続しないでください。

◎落雷したときの電気的ショックの緩和、感電やノイズの回り込みを防止するため、本製品のアース端子は、市販のアース線を使用して、コンセントのアース端子、または地中に埋めたアース棒(市販品)に必ず接続してください。

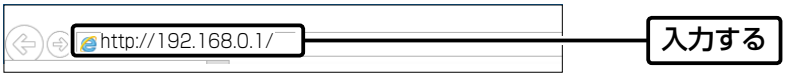
4. 設定のしかた

■ 設定画面にアクセスするには

本製品に接続したパソコンのWWWブラウザーから、本製品の設定画面にアクセスする手順について説明します。

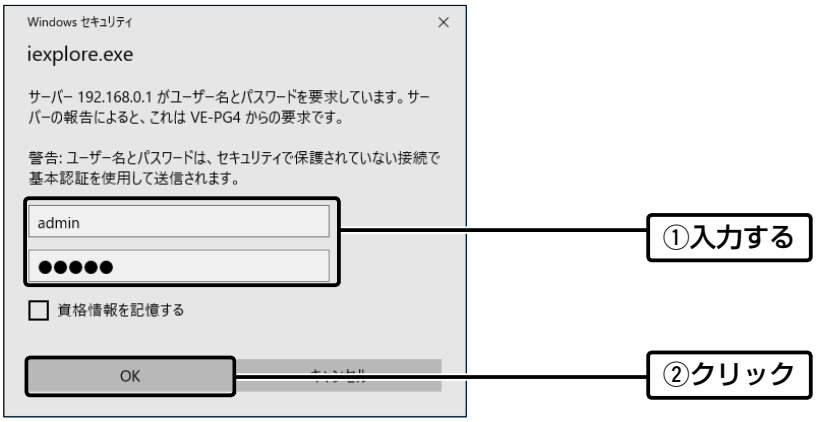
1 WWWブラウザーを起動します。

2 本製品に設定されたIPアドレスをWWWブラウザーのアドレスバーに入力します。
出荷時、本製品のIPアドレスは「192.168.0.1」に設定されています。



3 [Enter]キーを押します。
[ユーザー名]と[パスワード]を求める画面が表示されます。

4 [ユーザー名]欄に「admin」、[パスワード]欄に「admin」(初期設定)を入力し、〈OK〉をクリックすると、設定画面が表示されます。



WWWブラウザーについて

Microsoft Internet Explorer 11で動作確認しています。
設定画面が正しく表示できるように、WWWブラウザーのJavaScript機能、およびCookieは有効にしてください。
※Microsoft Internet Explorer 8以前をご使用の場合は、正しく表示できないことがあります。

4. 設定のしかた

■ 設定画面の名称と機能について

設定画面の名称と各画面に含まれる項目を説明します。
設定画面の構成について詳しくは、6-6ページをご覧ください。

※説明には、「IPアドレス」画面を使用しています。

❶ 設定画面選択メニュー …… 各メニューのタイトル上にマウスポインターを合わせてクリックすると、そのメニューに含まれる設定画面へのリンクが表示されます。

❷ 設定画面表示エリア …… [設定画面選択メニュー](❶)で選択したメニューに含まれる設定画面へのリンク(例：ネットワーク設定/IPアドレス)をクリックしたとき、その内容が表示されます。

❸ 設定ボタン …… 設定した内容の登録や取り消しをします。
※表示画面によって、表示されるボタンの種類や位置が異なります。

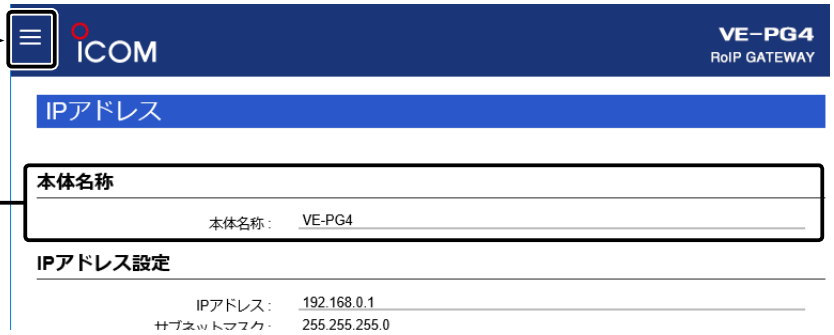
4. 設定のしかた

■ 設定画面の表示について

WWWブラウザーのウィンドウサイズによって表示方法が異なります。
ウィンドウの幅を狭くすると、メニューが折りたたまれ「≡」が表示されます。
さらに狭くすると項目がすべて縦に表示されます。
ご使用になるパソコンの画面サイズに合わせて調整してください。

設定画面：大

設定画面：中



設定画面：小

4. 設定のしかた

■ 設定画面の表示について

「≡」をクリックすると、折りたたまれたメニューが表示されます。

4. 設定のしかた

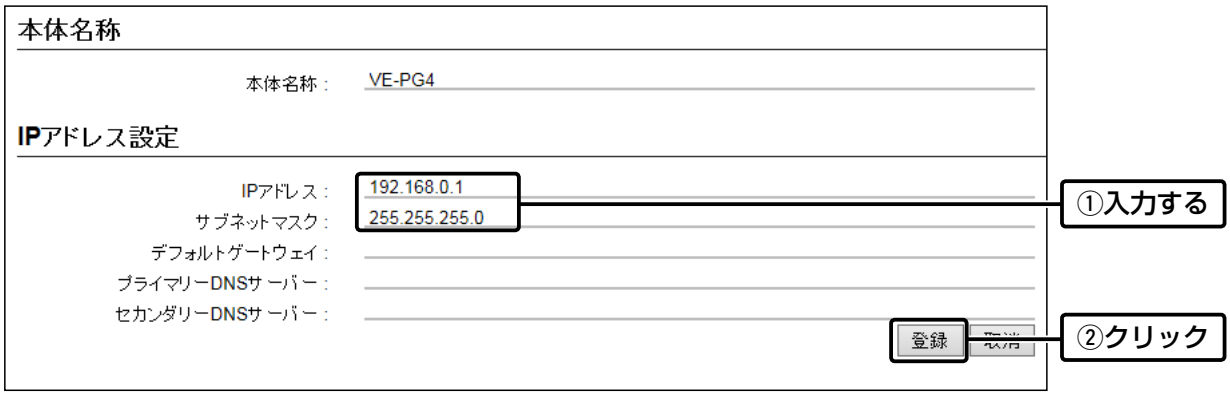
ネットワーク設定 > IPアドレス > IPアドレス設定

■ 本体IPアドレスを変更するときは

本製品のIPアドレスを変更するときは、既存のネットワークと重複しないように設定します。

1 「ネットワーク設定」メニュー、「IPアドレス」の順にクリックします。

2 「IPアドレス」画面で、[IPアドレス設定]項目の設定を変更し、〈登録〉をクリックします。



3 設定変更後、[設定画面に戻る]と表示された文字の上にマウスポインターを移動してクリックします。
[ユーザー名]と[パスワード]を求める画面が表示されます。(P.1-17)
※IPアドレスの「ネットワーク部(例：192.168.0)」を変更したときは、設定に使用するパソコンの「ネットワーク部」についても本製品と同じに変更します。

IPアドレスの割り当てかた

IPアドレスは、「ネットワーク部」と「ホスト部」の2つの要素から成り立っています。
出荷時の本製品のIPアドレス「192.168.0.1」(クラスC)を例とすると、最初の「192.168.0」までが「ネットワーク部」で、残りの「1」を「ホスト部」といいます。
「ネットワーク部」が同じIPアドレスを持つネットワーク機器(パソコンなど)は、同じネットワーク上にあると認識されます。
さらに「ホスト部」によって同じネットワーク上にある各ネットワーク機器を識別しています。
以上のことから、IPアドレスを割り当てるときは、次のことに注意してください。

- 同じネットワークに含めたいネットワーク機器に対しては、「ネットワーク部」をすべて同じにする
- 同じネットワーク上の機器に対して、「ホスト部」を重複させない
- ネットワークアドレス(ホスト部の先頭、および「0」)を割り当てない
- ブロードキャストアドレス(ホスト部の末尾、および「255」)を割り当てない

無線機の導入

第 2 章

この章では、
本製品のポートに無線機を接続して、ご使用いただくために必要な基本設定の手順を説明しています。

1. ご使用になるまでの流れ …… 2-2
■ 設定の流れについて …… 2-2
2. 接続する無線機を設定する …… 2-3
■ 無線機の設定について …… 2-3
■ 無線機のチャンネル設定と設置距離について …… 2-4
■ 電波干渉の低減について …… 2-4
3. 設定画面で接続する無線機を選択する …… 2-5
■ 無線機の設定について（ユニキャストの場合） …… 2-5
4. 無線機を接続する …… 2-8
■ 通話するときは …… 2-9
5. IC-MS4880を使用する場合 …… 2-10
■ 通話するときは …… 2-11
6. デジタル無線機を使用する場合 …… 2-12
■ デジタル無線機をネットワーク接続する …… 2-13
■ 設定項目について …… 2-15
■ 設定のしかた …… 2-16
■ 通話するときは …… 2-18
7. IP無線機を使用する場合 …… 2-19
8. スピーカーマイクロホンを使用する場合 …… 2-21
9. 無線機の通話を録音する場合 …… 2-23
■ 設定のしかた …… 2-23
■ 録音データについて …… 2-24
10. 自動チャンネル切替機能を使用する場合 …… 2-25
■ 自動チャンネル切替機能について …… 2-25
■ 設定項目について …… 2-26
■ 設定のしかた …… 2-27
■ 通話するときは …… 2-31
■ 自動チャンネル切替機能の動作について …… 2-32
11. IC-SAT100を使用する場合 …… 2-33

2　無線機の導入

1. ご使用になるまでの流れ

■ 設定の流れについて

本製品のポートに接続する無線機を設定する場合の流れです。

1. 必要なものを確認する(P.iv)

本製品に接続する無線機により接続ケーブルなど、必要な弊社別売品が異なりますのでご注意ください。

2. 接続する無線機を設定する(P.2-3)

本製品に接続する無線機のチャンネルや音量などを設定します。
※無線機の設定について詳しくは、ご使用になる無線機の取扱説明書を併せてご覧ください。
※無線機を本製品に接続する前に、無線機の設定を完了しておいてください。

3. 設定画面で接続する無線機を選択する(P.2-5)

設定画面にアクセスして、本製品に接続する無線機と呼出先の個別番号を設定します。
※運用形態に応じて各機能を設定してください。

4. 無線機を接続する(P.2-8)

弊社指定の接続ケーブルを使用して、本製品と無線機を接続します。
※各機器の電源が切れていることを確認してから、本製品と無線機を接続してください。

対応無線機について

2019年5月現在、本製品に接続できる弊社製無線機は、下記のとおりです。
※相互使用できる端末側無線機については、ご使用になる無線機の取扱説明書をご覧いただくか、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

◎デジタル簡易無線機(登録局)　:IC-D50、IC-D60、IC-DPR5、IC-DPR6、IC-D5005、IC-DPR1、IC-D6005N★
◎デジタル簡易無線機(免許局)　:IC-DU5505CN★、IC-DU6505BN★
◎特定小電力　:IC-4800、IC-4810
◎特定小電力(同時通話型)　:IC-MS4880、IC-MS5010
◎SATELLITE PTT　:IC-SAT100

★印は、本製品で使用できるIPネットワーク対応のデジタル無線機です。

2. 接続する無線機を設定する

■ 無線機の設定について

本製品に接続する無線機を下表のように設定します。

※通話チャンネル、トーンスケルチ/ユーザーコード(UC)、個別呼び出し機能については、端末側無線機も同じ設定をしてください。

無線機の設定について詳しくは、ご使用になる無線機の取扱説明書を併せてご覧ください。

設定項目＼製品名	特定小電力無線機	
	IC-4800	IC-4810
通話チャンネル	単信1～20の任意	
音量	8	12
トーンスケルチ/ユーザーコード(UC)	トーンスケルチを使用	
ポケットビープ(PB)	ポケットビープ OFF	
個別呼び出し機能	個別呼び出し機能 OFF	
パワーセーブ機能	パワーセーブ機能 OFF	

設定項目＼製品名	特定小電力無線機(同時通話型)
	IC-MS5010
単信/半複信	Sc-47
BUSY出力設定	bu-AM（SQL対応のため）
音量(Vol)	7（つまみで設定）
ポケットビープ(PB)	ポケットビープ OFF
個別呼び出し機能	個別呼び出し機能 OFF

設定項目＼製品名	デジタル簡易無線機(登録局)					
	IC-D50	IC-D60	IC-DPR5	IC-DPR6	IC-D5005	IC-DPR1
通話チャンネル	1～14、16～30の任意					
音量	5				7	
トーンスケルチ/ユーザーコード(UC)	ユーザーコード(UC)を使用					
ポケットビープ(PB)	ポケットビープ OFF					
個別呼び出し機能	個別呼び出し機能 OFF					
パワーセーブ機能	パワーセーブ機能 OFF				－	

◎通話音質に影響しますので、本製品に接続する無線機は、上表の値を基準に設定してください。

◎予期しない外来雑音やほかの無線機の信号で誤動作しないように、端末側無線機も同じトーンスケルチ/ユーザーコード(UC)を設定してください。

◎無線機のビープ音で本製品が誤動作しないように、本製品に接続する無線機は、ポケットビープをOFFに設定してください。

◎本製品のポート(EXT1～4)は、個別呼び出し機能に対応していませんので、本製品に接続する無線機、端末側無線機とも個別呼び出し機能をOFFにしてください。

◎通話開始時の頭切れを軽減させるため、パワーセーブ機能をOFFにしてください。

◎VE-PG4では、複信モードに設定されたIC-MS5010は動作保証対象外になります。

IC-MS4880をご使用になる場合

本製品にIC-MS4880を接続して使用する場合は、IC-4880以外の無線機と混在して運用できません。

IC-MS4880での注意事項については、2-10ページをご覧ください。

デジタル無線機をご使用になる場合

本製品にデジタル無線機をネットワーク接続して使用する場合は、販売店へ無線機の設定をご依頼ください。

なお、本製品に接続された機器や使用する音声プロトコルの組み合わせにより、別途CT-24が必要になる場合があります。

※デジタル無線機の設定やCT-24の接続方法、運用上の注意事項については、2-12ページをご覧ください。

IC-SAT100をご使用になる場合

本製品にIC-SAT100を接続して使用する場合は、IC-SAT100側の設定で、1つのトークグループだけになるようにしておいてください。IC-SAT100での注意事項については、2-33ページをご覧ください。

2. 接続する無線機を設定する

■ 無線機のチャンネル設定と設置距離について

本製品に無線機を2台以上接続する場合、チャンネル間隔、アンテナ間距離について、どちらも大きくはなすことにより、無線機の相互干渉による影響を低減できます。

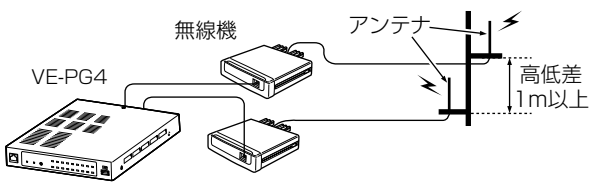
	IC-D50/IC-D60 IC-DPR5/IC-DPR6 IC-D5005/IC-DPR1	IC-4800/IC-4810 IC-MS4880/IC-MS5010
IC-D50/IC-D60 IC-DPR5/IC-DPR6 IC-D5005/IC-DPR1	推奨チャンネル間隔：10チャンネル以上 推奨アンテナ間距離：5m以上	推奨アンテナ間距離：3m以上
IC-4800/IC-4810 IC-MS4880/IC-MS5010	推奨アンテナ間距離：3m以上	推奨チャンネル間隔：5チャンネル以上 推奨アンテナ間距離：3m以上

ご注意
本製品に無線機を2台以上接続する場合、無線機同士の電波干渉を防ぐため、上記を参考に通話チャンネルを設定し、無線機同士の距離(携帯機)やアンテナの設置場所(車載機)が近すぎないように設置してください。

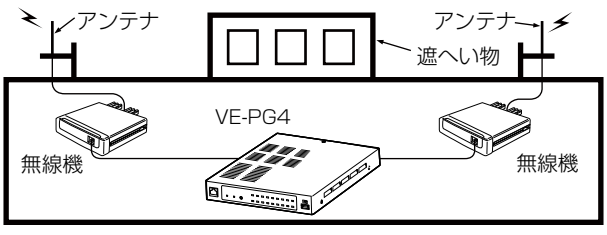
■ 電波干渉の低減について

本製品に無線機を2台以上接続する場合、無線機の相互干渉により通信性能が劣化することがありますので、下記の方法により電波干渉を低減させてください。

アンテナの指向性を活用する
水平面に対して指向特性がない無指向性アンテナでも、垂直方向は電波が弱くなります。
2本のアンテナを固定する位置に高低差(1m以上)をつけることで、電波干渉が低減することがあります。



周囲の遮へい物を利用する
金属補強材が埋め込まれたコンクリート壁や金属製のロッカーなどで、互いのアンテナを遮るような位置に設置すると、電波干渉が低減することがあります。



Lowパワーに設定する
(無線機の送信出力を変更できる場合)
アンテナの設置場所を変更しても電波干渉が低減しない場合、本製品に接続する無線機の送信出力をLowに設定すると、電波干渉が低減することがあります。
ただし、Lowパワーに設定すると、電波の届く範囲が狭くなり、場所によっては交信しにくくなることがあります。

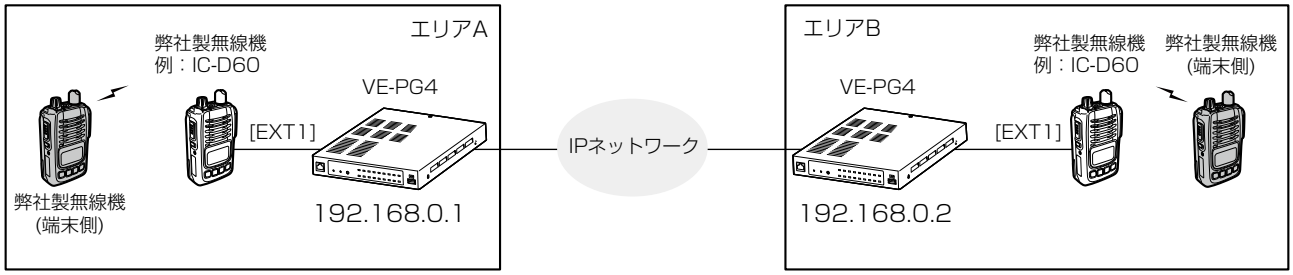
3. 設定画面で接続する無線機を選択する

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

ブリッジ接続設定 > ブリッジ接続

■ 無線機の設定について(ユニキャストの場合)

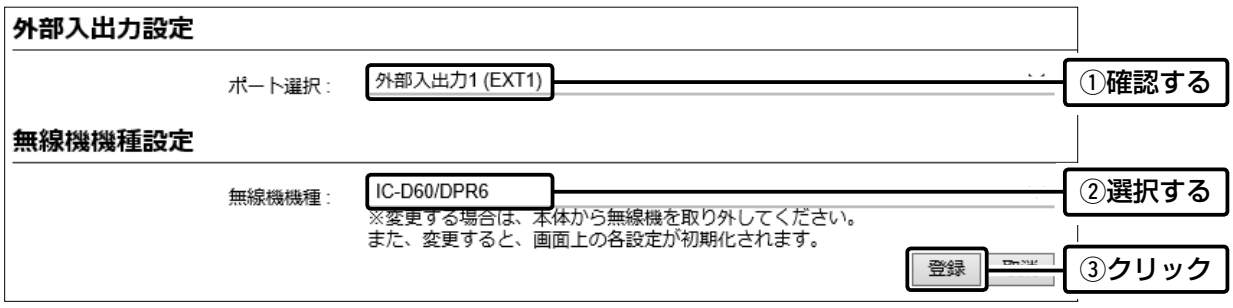
単一の通信ポートを指定して、特定の無線機に送信する場合に、ユニキャストを選択します。
本製品の[EXT1]ポートに無線機を接続する場合を例に説明します。
※エリアB側も下記を参考に設定します。



1 「無線機ポート詳細設定」メニュー、「外部入出力(EXT)」の順にクリックします。
「外部入出力(EXT)」画面が表示されます。

2 [外部入出力モード設定]項目で、[EXT1]ポートの接続機器が「無線機」になっていることを確認します。
※接続機器を変更すると、外部入出力に関する設定が初期化されますのでご注意ください。

3 接続するポートを確認し、無線機(例：IC-D60/DPR6)を選択して、〈登録〉をクリックします。
※機種を変更すると、画面上の各設定が初期化されますのでご注意ください。



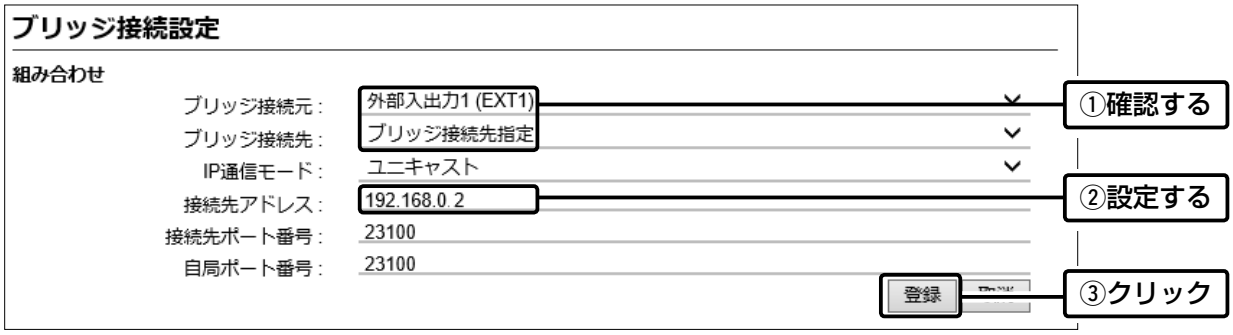
(次ページにつづく)

3. 設定画面で接続する無線機を選択する

■ 無線機の設定について（ユニキャストの場合）

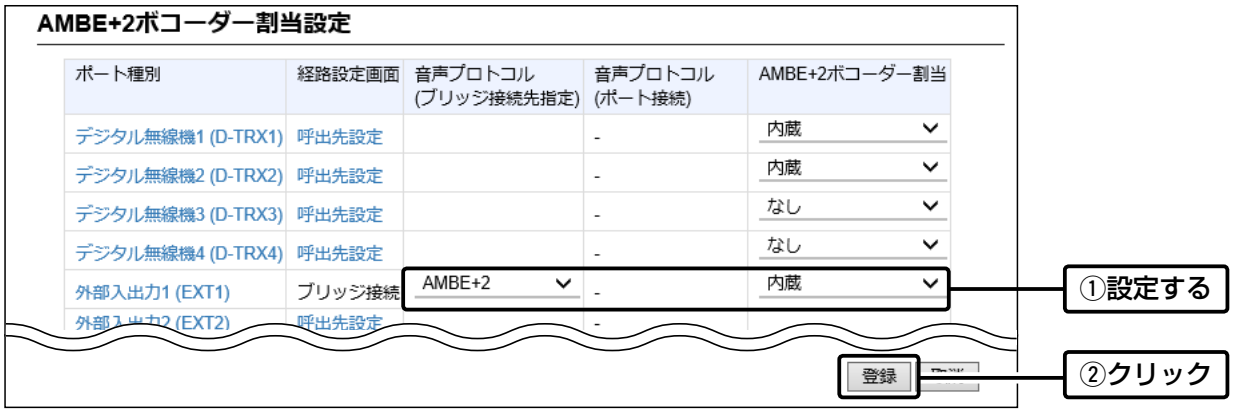
4 「ブリッジ接続設定」メニュー、「ブリッジ接続」の順にクリックします。
「ブリッジ接続」画面が表示されます。

5 [ブリッジ接続設定]項目で、ブリッジの接続元（例：EXT1）と接続先（ブリッジ接続先指定）を選択し、接続先のIPアドレス（例：エリアBにあるVE-PG4）を設定して、〈登録〉をクリックします。
※ブリッジ接続を設定すると、無線機ポートの設定内容が「呼出先設定」画面から消去されますのでご注意ください。



※確認画面が表示されますので、画面にしたがって操作してください。

6 [AMBE+2ボコーダー割当設定]項目で、外部入出力1(EXT1)の音声プロトコル（ブリッジ接続先指定）から音声プロトコルを選択し、〈登録〉をクリックします。
※初期設定では、本製品に内蔵されたAMBE+2ボコーダーはすべてデジタル無線機に割り当てられています。
内蔵のAMBE+2ボコーダーを使用する場合、使用していないデジタル無線機から外部入出力1にAMBE+2ボコーダー割当を変更してください。
内蔵のAMBE+2ボコーダーが不足する場合は、別途CT-24が必要になります。

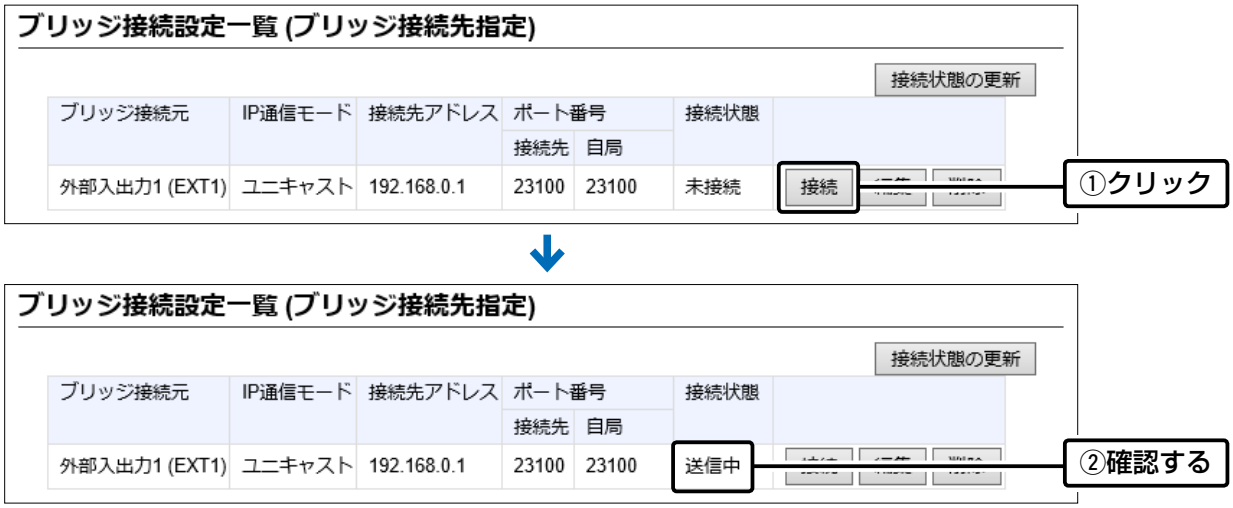


（次ページにつづく）

3. 設定画面で接続する無線機を選択する

■ 無線機の設定について（ユニキャストの場合）

7 ［ブリッジ接続設定一覧（ブリッジ接続先指定）］項目で、〈接続〉をクリックします。
「送信中」が表示されたことを確認します。

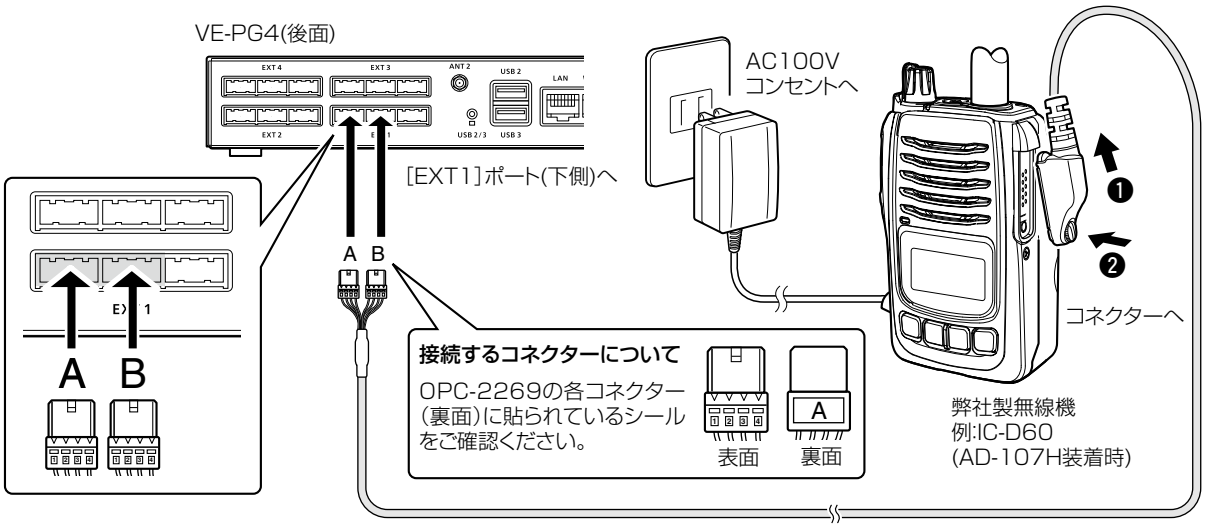


4. 無線機を接続する

1 チャンネルや音量、送信出力など、必要な設定が完了したら、無線機の電源を切ります。

※無線機の設定について詳しくは、2-3ページ、およびご使用になる無線機の取扱説明書を併せてご覧ください。

2 VE-PG4の電源を切り、接続する各機器の電源が切れていることを確認してから、図のように別売品の接続ケーブルを取り付けてください。



※上図は、VE-PG4の[EXT1]ポート(下側)に無線機を接続する場合の接続図です。

3 無線機の接続が完了したら、各機器の電源を入れます。

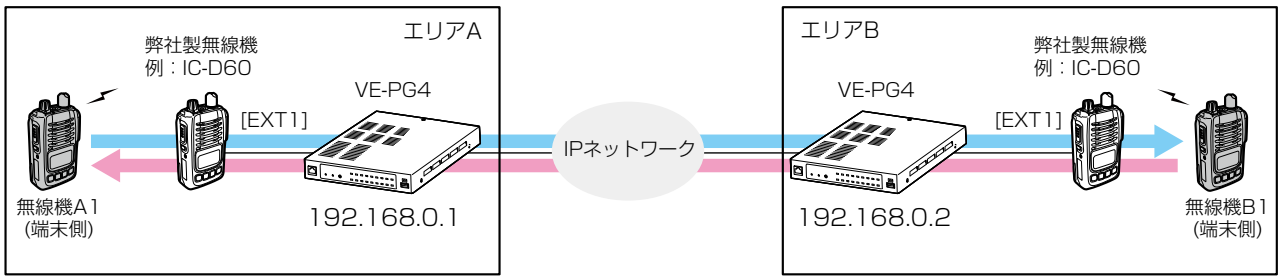
接続や設置についてのご注意

◎無線機を交換する場合も、上記と同様に各機器の電源を切ってから無線機を取りはずしてください。
◎接続する機種を変更する場合は、無線機の電源を切り、取りはずしてから、本製品の設定画面で接続するポートの「無線機機種」を変更してください。
◎パソコンやACアダプターなどの機器の近くに、本製品に接続する無線機を設置しないでください。
ノイズの影響を受けて、無線機が誤動作することがあります。
◎無線機に向かって話す声が小さいと、強制的に通信が切断されることがあります。
このような場合は、無線機に向かって話す声を大きくして、本製品の設定画面で、無線機を接続するポートの制御設定を「VOX」にして、「音声スレッシュ」の設定値を小さくしてください。
◎端末側無線機とIP電話機を近づけて使用しないでください。
◎本製品に接続する携帯機の電源は、弊社指定のものをご使用ください。
バッテリーパック、または電池ケースで携帯機を運用すると、本製品が誤動作する原因になります。

4. 無線機を接続する

■ 通話するときは

※エリア内の無線機(端末側)は、本製品に接続した無線機と同じ設定をしてください。



1. エリアA

無線機A1の[PTT]を押しながら、マイクロホンに向かって話します。
送信状態になり、エリアBの無線機を呼び出します。

2. エリアA

呼び出したあと、無線機A1の[PTT]スイッチをはなします。
受信状態に戻ります。

3. エリアB

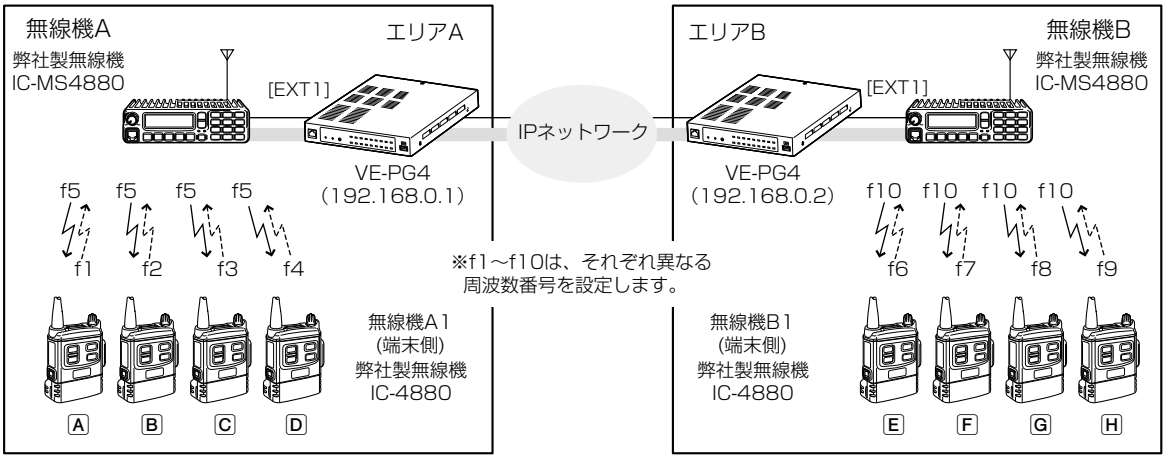
無線機B1の[PTT]スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって話します。
送信状態になり、エリアAの無線機に応答します。

4. エリアB

通話が終わったら、無線機B1の[PTT]スイッチをはなします。
受信状態に戻ります。

5. IC-MS4880を使用する場合

下記は、エリアA、エリアBのVE-PG4に1台ずつIC-MS4880を接続した場合の構成例です。



◎エリアA、エリアBのそれぞれでIC-4880(子機)を4台ずつ利用できます。
◎エリアA－エリアB間では、最大8人による双方向同時通話ができます。
◎VE-PG4はユニキャストで運用してください。
◎IC-MS4880(親機)で送話音をモニターできるのは、同じエリアのIC-4880(子機)だけです。
◎IC-MS4880(親機)からIC-4880(子機)を呼び出しできません。

IC-MS4880運用時の監視ツールについて

監視ツール(RS-PG4)で、無線機ポートの送信中表示やロック機能は、使用できません。

IC-MS4880の別売品の併用について

本製品とIC-MS4880を接続するとき、IC-MS4880の拡張用ポートに接続しますので、このポートを使用する別売品は併用できません。

IC-MS4880の設定について

IC-MS4880の取扱説明書を参考に、右表のように設定してください。
※お使いの環境によっては、設定値を微調整する必要があります。
※予期しない外来雑音やほかの無線機の信号で誤動作しないように、IC-4880(子機)も同じトーンスケルチを設定してください。

通話チャンネル(M-ch番号)	1～10の任意
音量	任意
トーンスケルチ	トーンスケルチを使用
マイク感度	5(初期設定値)
拡張接続(有線拡張機能)	OFF(初期設定値)

IC-MS4880の接続台数について

1台のVE-PG4に最大4台のIC-MS4880(親機)を接続できます。
※2台以上のIC-MS4880をVE-PG4に接続する場合は、無線機の相互干渉を低減させるため、送受信チャンネルを5チャンネル以上空けて設定し、アンテナを3m以上はなして設置してください。(IC-MS4880取扱説明書の「周波数番号一覧表」)

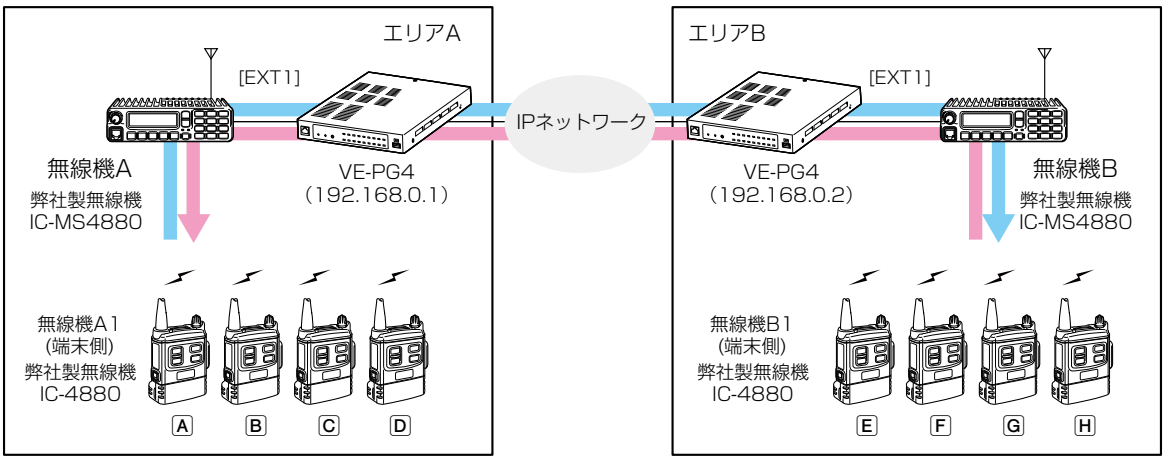
接続や設置についてのご注意

◎同じ機種の無線機に交換する場合も、各機器の電源を切ってから無線機を取りはずしてください。
◎接続する無線機を別の機種に変更する場合は、無線機の電源を切り、取りはずしてから、本製品の設定画面で接続するポートの「無線機機種」を変更してください。
◎パソコンやACアダプターなどの機器の近くに、本製品に接続する無線機を設置しないでください。
ノイズの影響を受けて、無線機が誤動作することがあります。

5. IC-MS4880を使用する場合

■ 通話するときは

※エリア内の無線機(端末側)は、トーンなど本製品に接続した無線機と同じ設定をしてください。



無線機Aから無線機Eを呼び出す場合

1. エリアA

無線機Aの[通話]スイッチを押して、「ON」にします。マイクロホンに向かって「こちら○○です。××さんどうぞ。」のように発声して、エリアBの無線機Eに呼びかけます。

2. エリアB

無線機Aから呼び出された無線機Eも、無線機の[通話]スイッチを押して、「ON」にします。マイクロホンに向かって「こちら××です。○○さんどうぞ。」のように発声すると、電話と同様に同時通話ができます。

3. エリアA/B

無線機A、または無線機Eの[通話]スイッチを押して、「OFF」にすると、通話が終了します。

※すべての無線機(A～H)で同様の呼び出しができます。

無線機Eから無線機Aを呼び出す場合

1. エリアB

無線機Eの[通話]スイッチを押して、「ON」にします。マイクロホンに向かって「こちら××です。○○さんどうぞ。」のように発声して、エリアAの無線機Aに呼びかけます。

2. エリアA

無線機Eから呼び出された無線機Aも、無線機の[通話]スイッチを押して、「ON」にします。マイクロホンに向かって「こちら○○です。××さんどうぞ。」のように発声すると、電話と同様に同時通話ができます。

3. エリアA/B

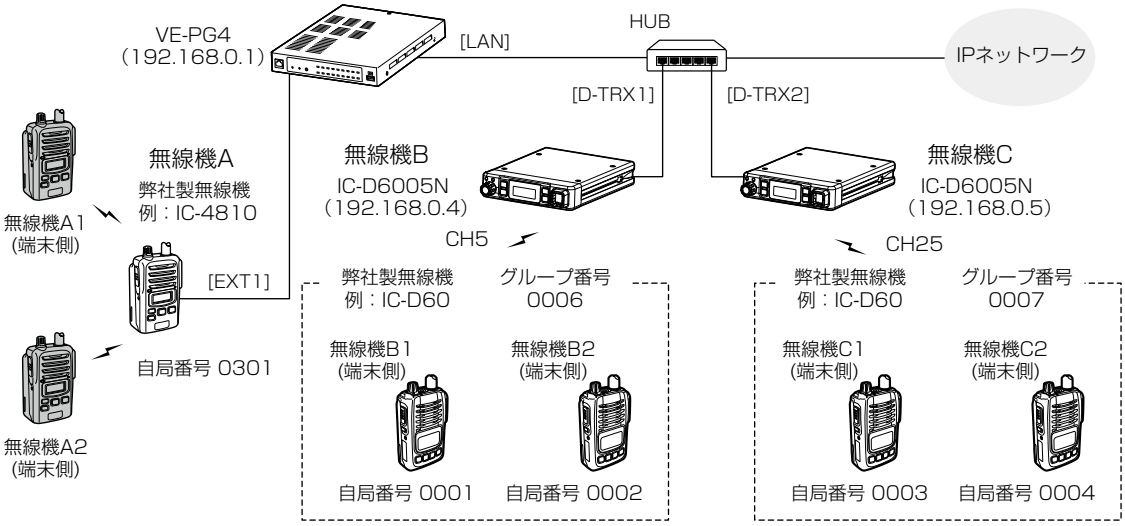
無線機A、または無線機Eの[通話]スイッチを押して、「OFF」にすると、通話が終了します。

通話中の音声について

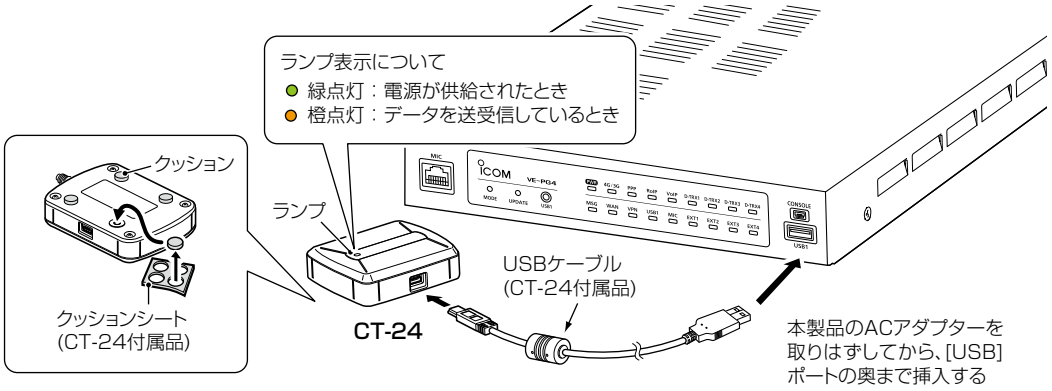
◎通話中の音声は、無線機A～無線機Hのすべてに同時に聞こえます。
◎無線機Aと無線機Eの通話中に、ほかの無線機が[通話]スイッチを押すと割り込みができます。
◎割り込みをするときは、ほかの無線機の通話を邪魔しないようにしてください。

6. デジタル無線機を使用する場合

下記は、本製品にデジタル無線機として、2台のIC-D6005Nをネットワーク接続した場合の構成例です。
※本製品にデジタル無線機をネットワーク接続して使用する場合は、ご利用になるネットワーク環境や構成をご確認の上、接続する無線機の動作モード変更(送受信機)とネットワーク設定を販売店へご依頼ください。
※使用する機器の種類や音声プロトコルの組み合わせにより、AMBE+2ボコーダー割当が必要になります。



※使用する機器の種類や音声プロトコルの組み合わせにより、本製品に内蔵されたCT-24相当のAMBE+2ボコーダーの割当数(最大4個)が不足する場合は、別途CT-24が必要になります。



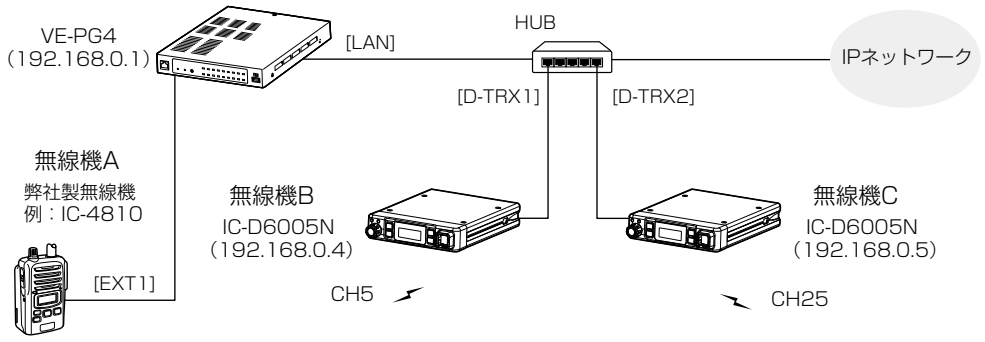
6. デジタル無線機を使用する場合

無線機ポート詳細設定 > デジタル無線機（D-TRX）

■ デジタル無線機をネットワーク接続する

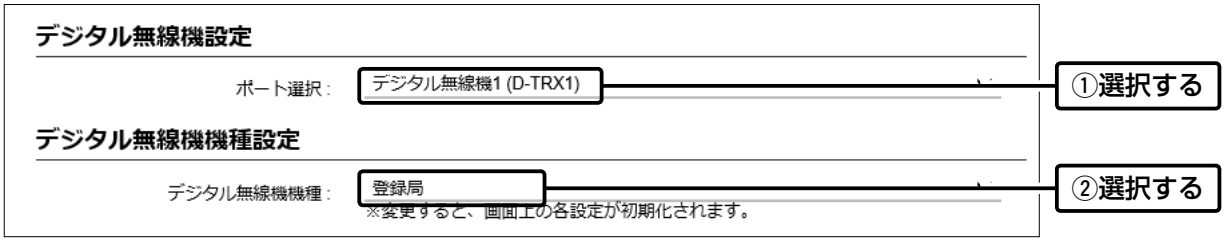
デジタル無線機をご使用になるネットワークに接続して、本製品の設定画面で、[デジタル無線機接続設定]項目を設定します。

※本書では、IC-D6005Nの動作モードやネットワーク設定が完了しているものとして説明しています。

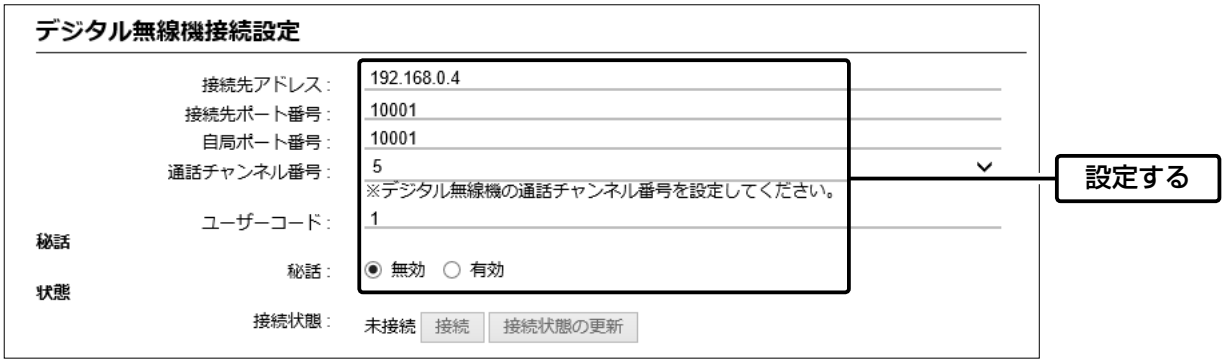


1 「無線機ポート詳細設定」メニュー、「デジタル無線機（D-TRX）」の順にクリックします。
「デジタル無線機（D-TRX）」画面が表示されます。

2 [デジタル無線機設定]項目で、ポート（例：D-TRX1）と接続するデジタル無線機（例：登録局）を選択します。
※IC-DU6505BNの場合は「免許局」、IC-D6005Nの場合は「登録局」を選択してください。



3 無線機B（IC-D6005N）に設定されているIPアドレス、ポート番号、使用する通話チャンネル、ユーザーコードなどを設定します。



（次ページにつづく）

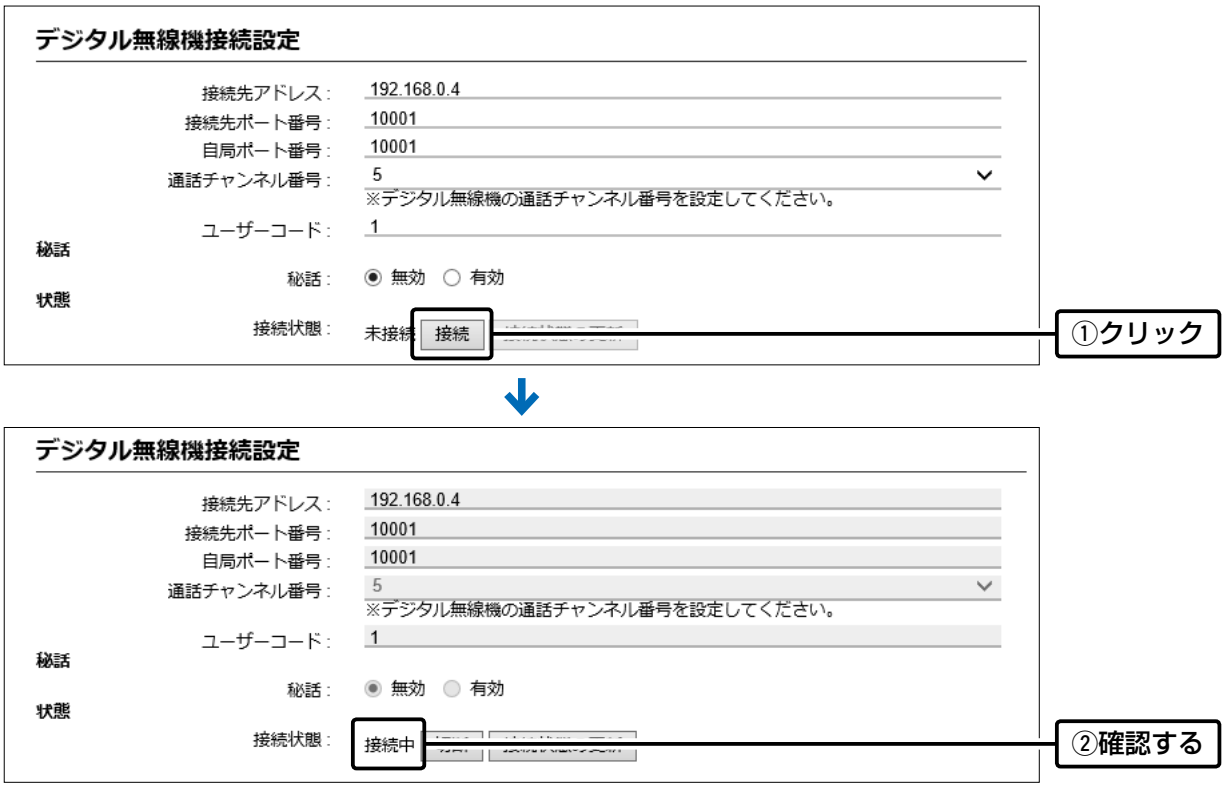
6. デジタル無線機を使用する場合

無線機ポート詳細設定 > デジタル無線機（D-TRX）

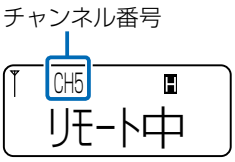
■ デジタル無線機をネットワーク接続する

4 〈登録〉をクリックします。

5 [デジタル無線機接続設定]項目で、〈接続〉をクリックします。



※「接続中」に切り替わると、無線機B（IC-D6005N）本体の表示部に「リモート中」の表示（文字）と設定したチャンネル番号が表示されます。



※上図はIC-D6005N本体の表示部です。

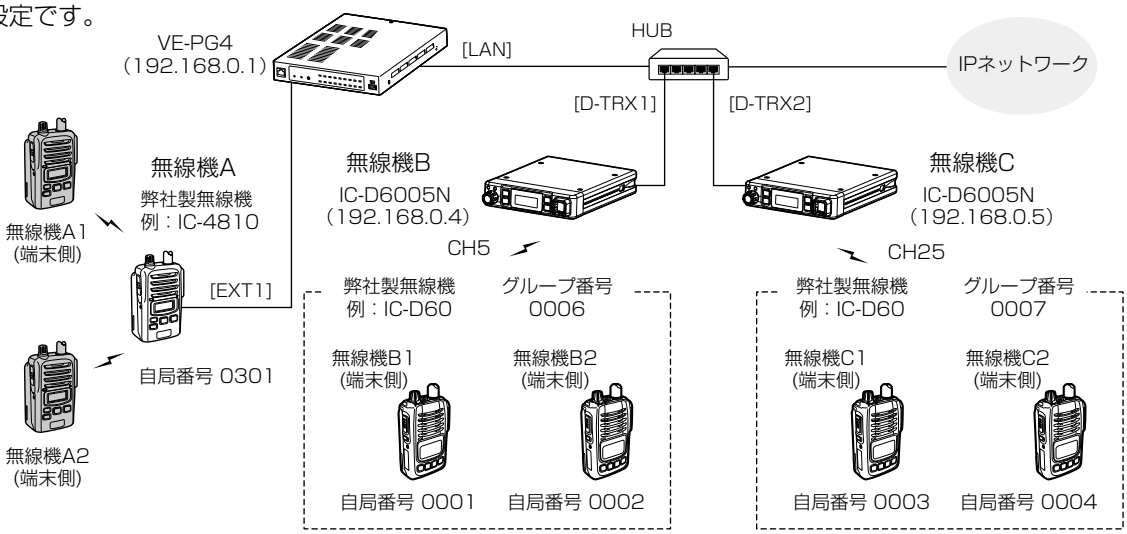
6 無線機C（IC-D6005N）についても同様に設定します。（手順3～5）

6. デジタル無線機を使用する場合

■ 設定項目について

端末側無線機を個別に呼び出すために、本製品の設定画面にアクセスして、下記項目の設定内容を確認、または変更します。

※グループ番号0006と0007は、端末側無線機が帰属(接続)する無線機(親機)に関係なくグループ呼び出しする場合の設定です。



	設定画面	設定項目	設定名称	設定内容
無線機B	ブリッジ接続設定 > ブリッジ接続	AMBE+2ボコーダー	AMBE+2	デジタル無線機1(D-TRX1):内蔵(初期設定)
無線機C		割当設定	ボコーダー割当	デジタル無線機2(D-TRX2):内蔵(初期設定)
無線機A	無線機ポート詳細設定 > 外部入出力 (EXT)	外部入出力モード設定	接続機器(EXT1)	無線機(初期設定)
		無線機機種設定	無線機機種	IC-4810(初期設定)
	呼出先設定 > 呼出先設定	呼出先設定	呼出種別	個別(初期設定)
			呼出先番号	0301(初期設定)
			無線機ポート	外部入出力1 (EXT1)(初期設定)
無線機B1	呼出先設定 > 呼出先設定	呼出先設定	呼出種別	個別
			呼出先番号	0001
			無線機ポート	デジタル無線機1 (D-TRX1)
無線機B2	呼出先設定 > 呼出先設定	呼出先設定	呼出種別	個別
			呼出先番号	0002
			無線機ポート	デジタル無線機1 (D-TRX1)
無線機C1	呼出先設定 > 呼出先設定	呼出先設定	呼出種別	個別
			呼出先番号	0003
			無線機ポート	デジタル無線機2 (D-TRX2)
無線機C2	呼出先設定 > 呼出先設定	呼出先設定	呼出種別	個別
			呼出先番号	0004
			無線機ポート	デジタル無線機2 (D-TRX2)
グループ0006	呼出先設定 > 呼出先設定	呼出先設定	呼出種別	グループ
			呼出先番号	0006
			無線機ポート	デジタル無線機1 (D-TRX1) デジタル無線機2 (D-TRX2)
グループ0007	呼出先設定 > 呼出先設定	呼出先設定	呼出種別	グループ
			呼出先番号	0007
			無線機ポート	デジタル無線機1 (D-TRX1) デジタル無線機2 (D-TRX2)

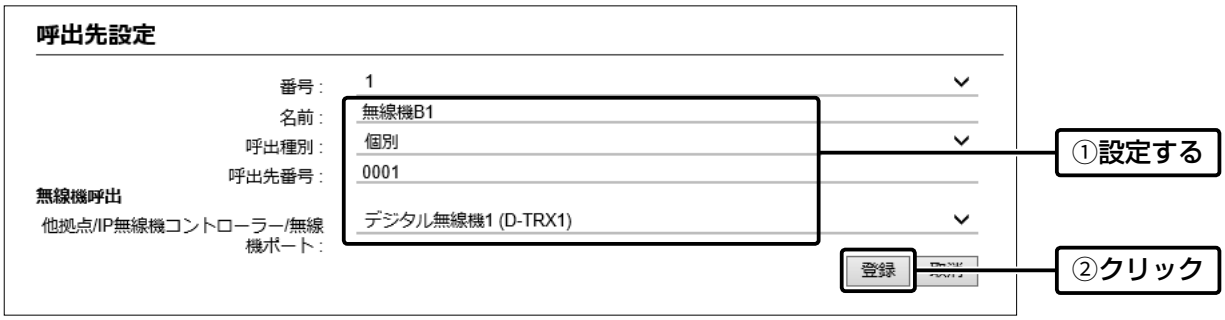
6. デジタル無線機を使用する場合

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 設定のしかた

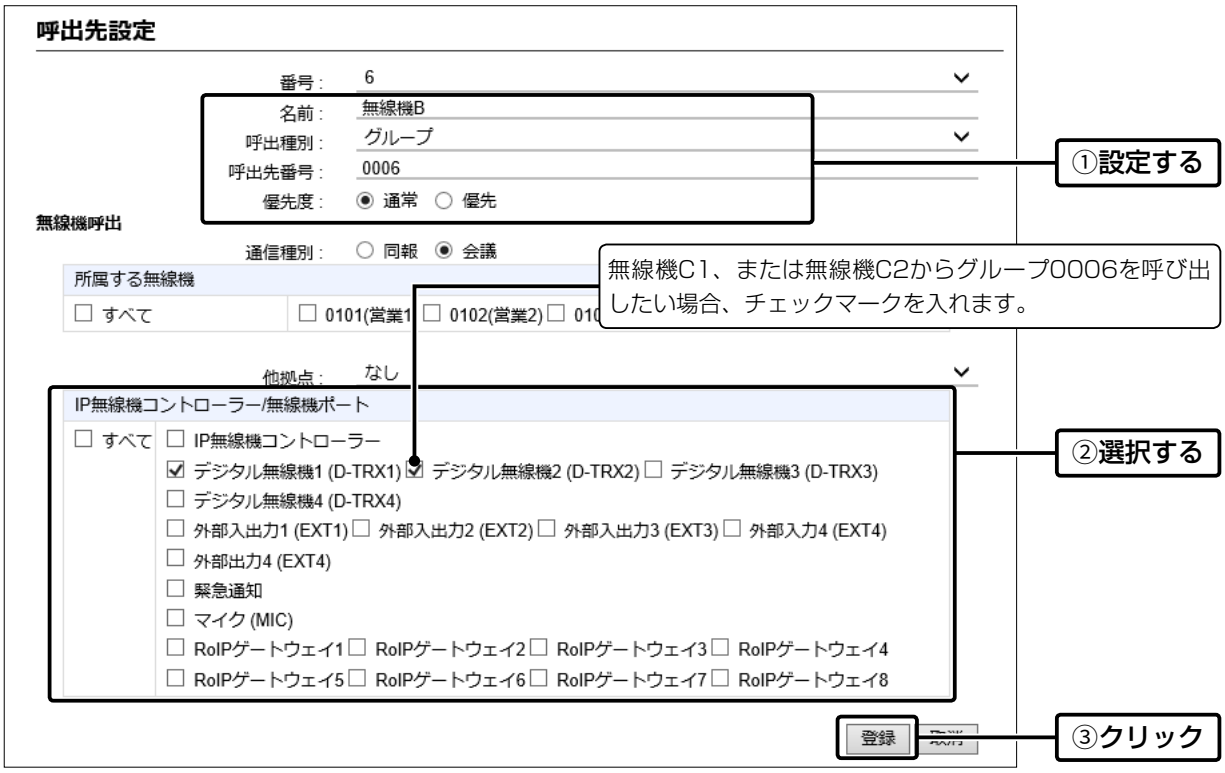
1 「呼出先設定」メニュー、「呼出先設定」の順にクリックします。
「呼出先設定」画面が表示されます。

2 [呼出先設定]項目で、名前、呼出種別、呼出先番号、無線機ポートを設定して、〈登録〉をクリックします。



3 無線機B2、無線機C1、無線機C2についても同様に設定します。(手順2)

4 [呼出先設定]項目で、名前、呼出種別、呼出先番号、所属する無線機ポートを設定して、〈登録〉をクリックします。



5 グループ番号0007についても同様に設定します。(手順4)

(次ページにつづく)

6. デジタル無線機を使用する場合

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 設定のしかた

6 [呼出先設定一覧(グループ)]項目、[呼出先設定一覧(個別)]で、登録した内容を確認します。

呼出先設定一覧 (グループ)

すべて	番号	名前	呼出先番号	優先度	所属する無線機台数	他拠点	IP無線機コントローラー/無線機ポート		
☐	6	無線機B	0006	通常	-	-	あり	編集	削除
☐	7	無線機C	0007	通常	-	-	あり	編集	削除

選択削除 全削除

①確認する

呼出先設定一覧 (個別)

すべて	番号	名前	呼出先番号	他拠点/IP無線機コントローラー/無線機ポート		
☐	1	無線機B1	0001	デジタル無線機1 (D-TRX1)	編集	削除
☐	2	無線機B2	0002	デジタル無線機1 (D-TRX1)	編集	削除
☐	3	無線機C1	0003	デジタル無線機2 (D-TRX2)	編集	削除
☐	4	無線機C2	0004	デジタル無線機2 (D-TRX2)	編集	削除
☐	1970	デジタル無線機1 (D-TRX1)	0201	デジタル無線機1 (D-TRX1)	編集	削除
☐	1971	デジタル無線機2 (D-TRX2)	0202	デジタル無線機2 (D-TRX2)	編集	削除
☐	1972	デジタル無線機3 (D-TRX3)	0203	デジタル無線機3 (D-TRX3)	編集	削除
☐	1973	デジタル無線機4 (D-TRX4)	0204	デジタル無線機4 (D-TRX4)	編集	削除
☐	1974	外部入力1 (EXT1)	0351	-	編集	削除
☐	1975	外部出力1 (EXT1)	0301	外部入出力1 (EXT1)	編集	削除
☐	1976	外部入力2 (EXT2)	0352	-	編集	削除

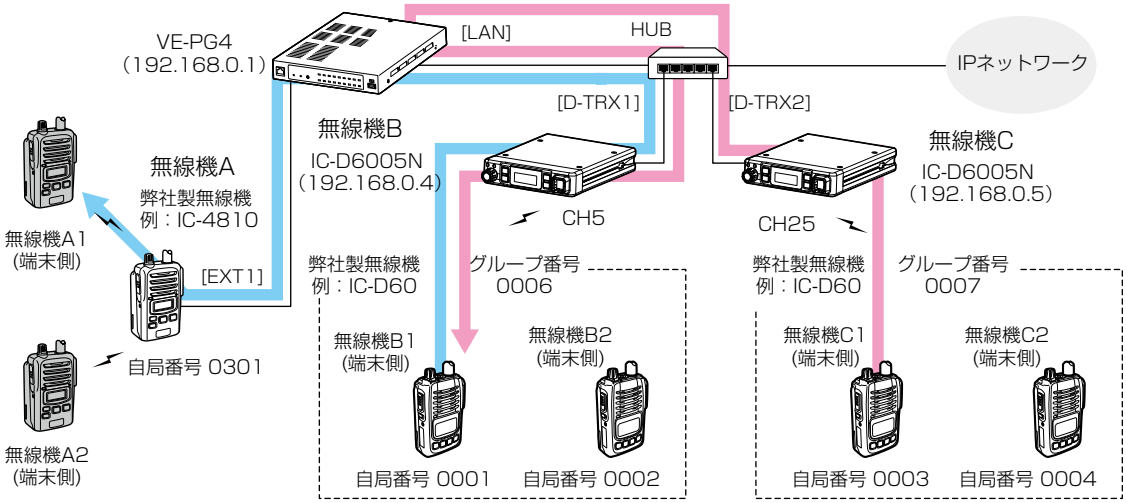
②確認する

③確認する

6. デジタル無線機を使用する場合

■ 通話するときは

※無線機(端末側)は、トーンなど本製品に接続した無線機と同じ設定をしてください。
※本書では、無線機(端末側)の自局番号設定や個別番号設定が完了しているものとして説明しています。



無線機B1から無線機A1(A2)を呼び出す場合

1. 無線機B1で、無線機A1(A2)を呼び出す相手先番号(無線機の画面表示：個別0301)を選択します。
2. 無線機B1の[PTT]スイッチを押します。
   • 送信状態になります。
3. 呼び出したあと、無線機B1の[PTT]スイッチをはなします。
4. 無線機A1の[PTT]スイッチを押して、応答します。
5. 通話が終わったら、無線機A1の[PTT]スイッチをはなします。
   • 受信状態に戻ります。

無線機C1から無線機B1を呼び出す場合

1. 無線機C1で、無線機B1の自局番号(無線機の画面表示：個別0001)を選択します。
   • グループ0006を呼び出したいときは、グループ番号(無線機の表示：グループ0006)を選択します。
2. 無線機C1の[PTT]スイッチを押します。
   • 送信状態になります。
3. 呼び出したあと、無線機C1の[PTT]スイッチをはなします。
4. 無線機B1の[PTT]スイッチを押して、応答します。
5. 通話が終わったら、無線機B1の[PTT]スイッチをはなします。
   • 受信状態に戻ります。

無線機A1から無線機B1を呼び出すには

設定のしかた

1. 「無線機ポート詳細設定」メニュー、「外部入出力 (EXT)」の順にクリックします。
   • 「外部入出力 (EXT)」画面が表示されます。
2. [外部入出力設定]項目で、ポート(例：外部入出力1(EXT1))を選択します。
3. [ブリッジ通信設定]項目で、[呼出種別]欄を「個別」、[相手局番号]欄を「0001」に設定し、〈登録〉をクリックします。

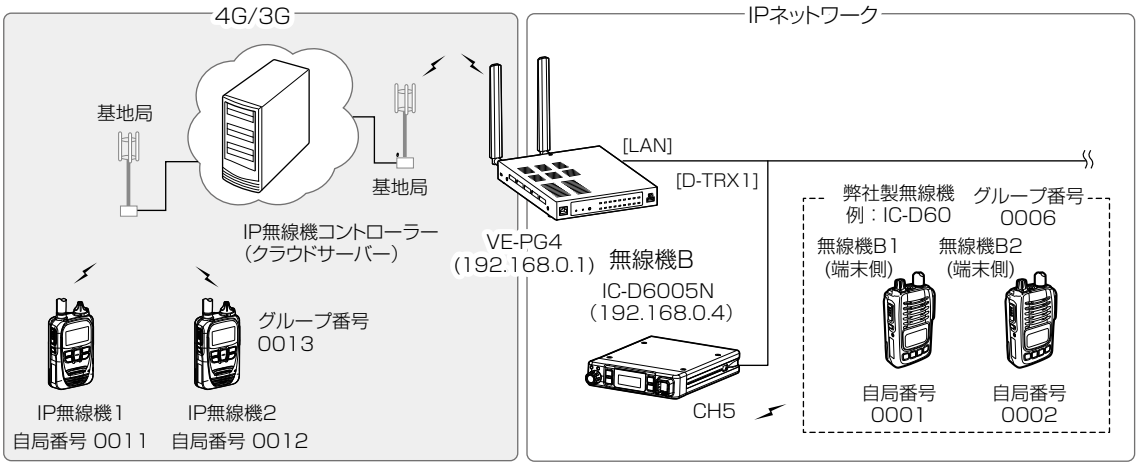
通話のしかた

1. 無線機A1の[PTT]スイッチを押します。
   • 送信状態になります。
2. 呼び出したあと、無線機A1の[PTT]スイッチをはなします。
3. 無線機B1の[PTT]スイッチを押して、応答します。
4. 通話が終わったら、無線機B1の[PTT]スイッチをはなします。
   • 受信状態に戻ります。

7. IP無線機を使用する場合

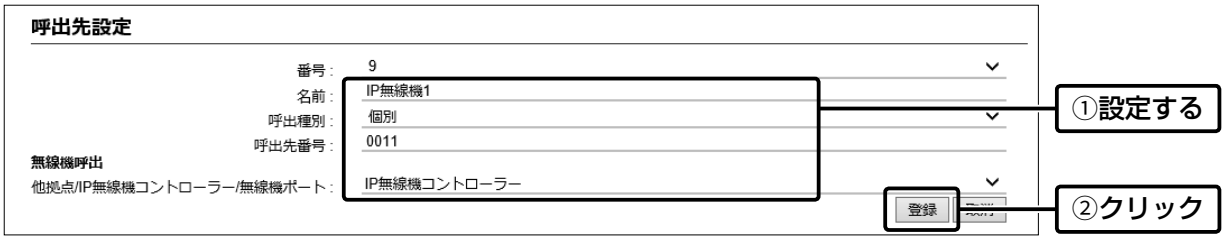
呼出先設定 > 呼出先設定

SIMカード装着時、本製品は4G/3G回線を使用して、IP無線機コントローラーに接続できます。
下記は、2台のIP無線機と相互接続した場合の構成例です。
※4G/3G回線使用時は十分な性能でご使用いただくため、アンテナは2本とも取り付けてください。
※IPネットワークで運用するIC-D6005Nなどの設定については、2-12ページをご覧ください。



1 「呼出先設定」メニュー、「呼出先設定」の順にクリックします。
「呼出先設定」画面が表示されます。

2 [呼出先設定]項目で、名前、呼出種別、呼出先番号、IP無線機コントローラーを設定して、〈登録〉をクリックします。



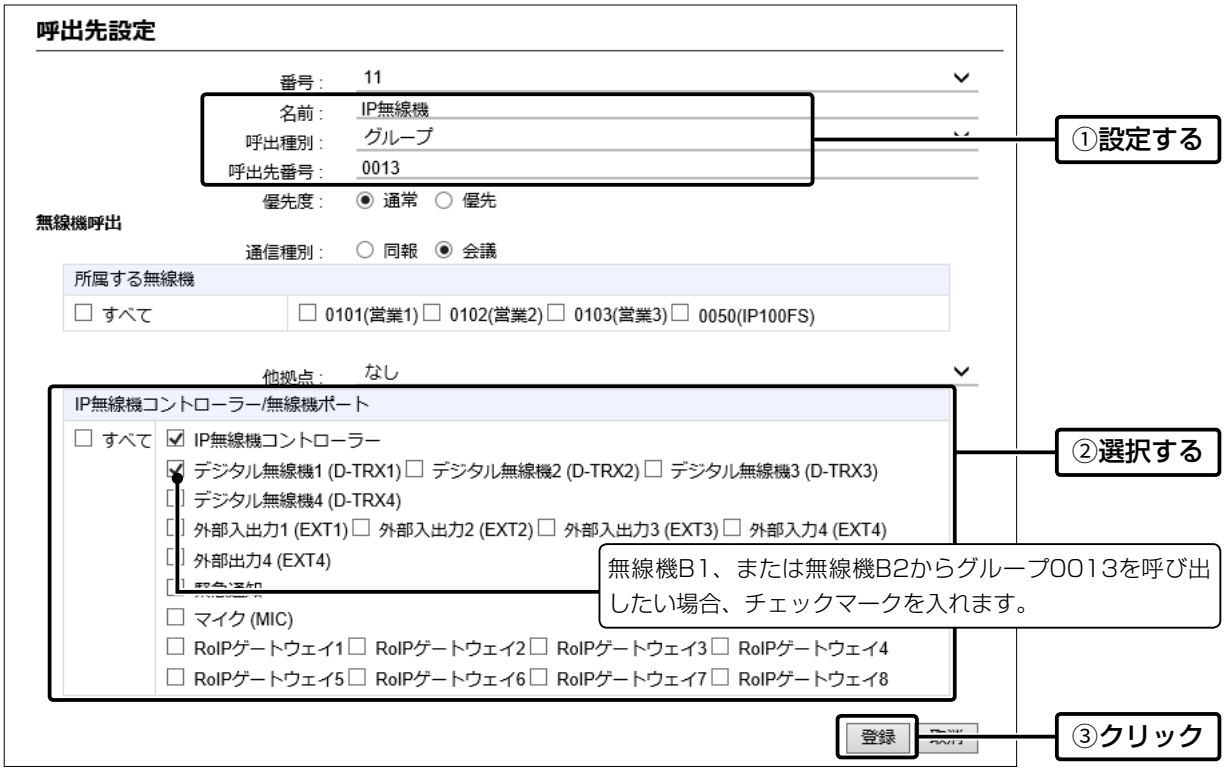
3 IP無線機2についても同様に設定します。(手順2)

(次ページにつづく)

7. IP無線機を使用する場合

呼出先設定 > 呼出先設定

4 [呼出先設定]項目で、名前、呼出種別、呼出先番号、所属するIP無線機コントローラーを設定して、〈登録〉をクリックします。



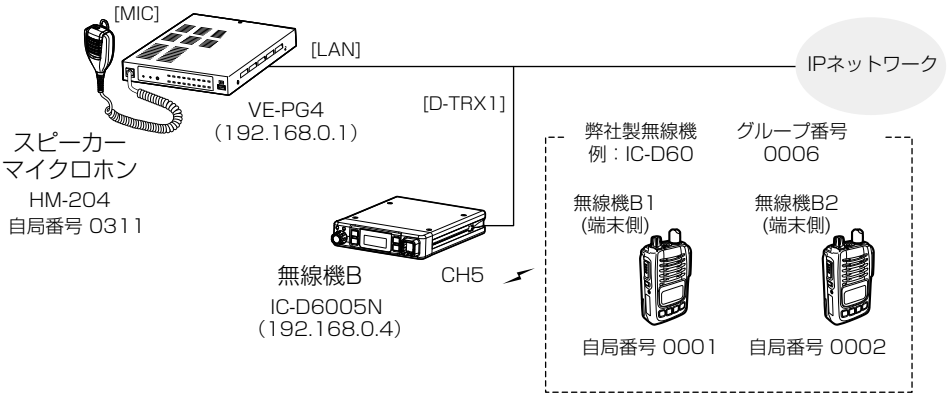
5 [呼出先設定一覧(グループ)]項目、[呼出先設定一覧(個別)]で、登録した内容を確認します。

8. スピーカーマイクロホンを使用する場合

無線機ポート詳細設定 > マイク (MIC)

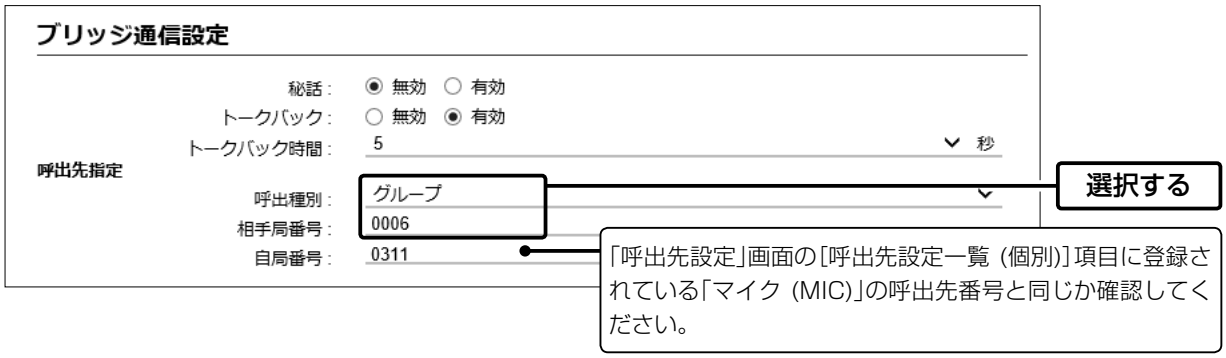
呼出先設定 > 呼出先設定

下記は、本製品の[MIC]ポートにスピーカーマイクロホンを接続した場合の構成例です。
※[MIC]ポートにスピーカーマイクロホンを接続すると[EXT1]ポートの音声入出力が切断されます。
　[MIC]ポートと[EXT1]ポートの音声入出力を同時に使用することはできませんのでご注意ください。
※本製品では、HM-204(別売品)をお使いいただけます。(2019年5月現在)

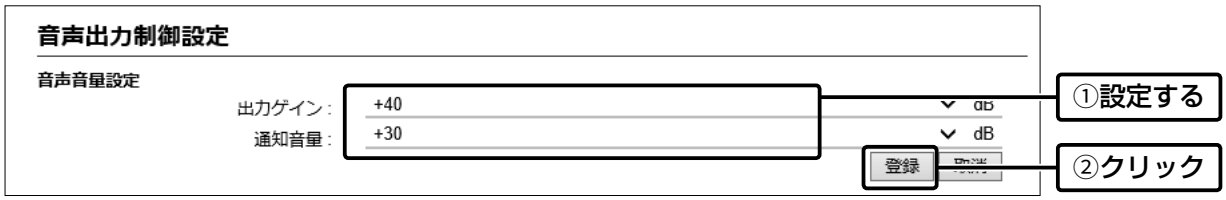


1 「無線機ポート詳細設定」メニュー、「マイク (MIC)」の順にクリックします。
「マイク (MIC)」画面が表示されます。

2 [ブリッジ通信設定]項目で、スピーカーマイクロホンからの呼出先(例：グループ0006)を選択し、自局番号を確認します。



3 [音声出力制御設定]項目で、出力ゲイン、通知音量を設定して、〈登録〉をクリックします。
※音量は設定画面以外では変更できません。



(次ページにつづく)

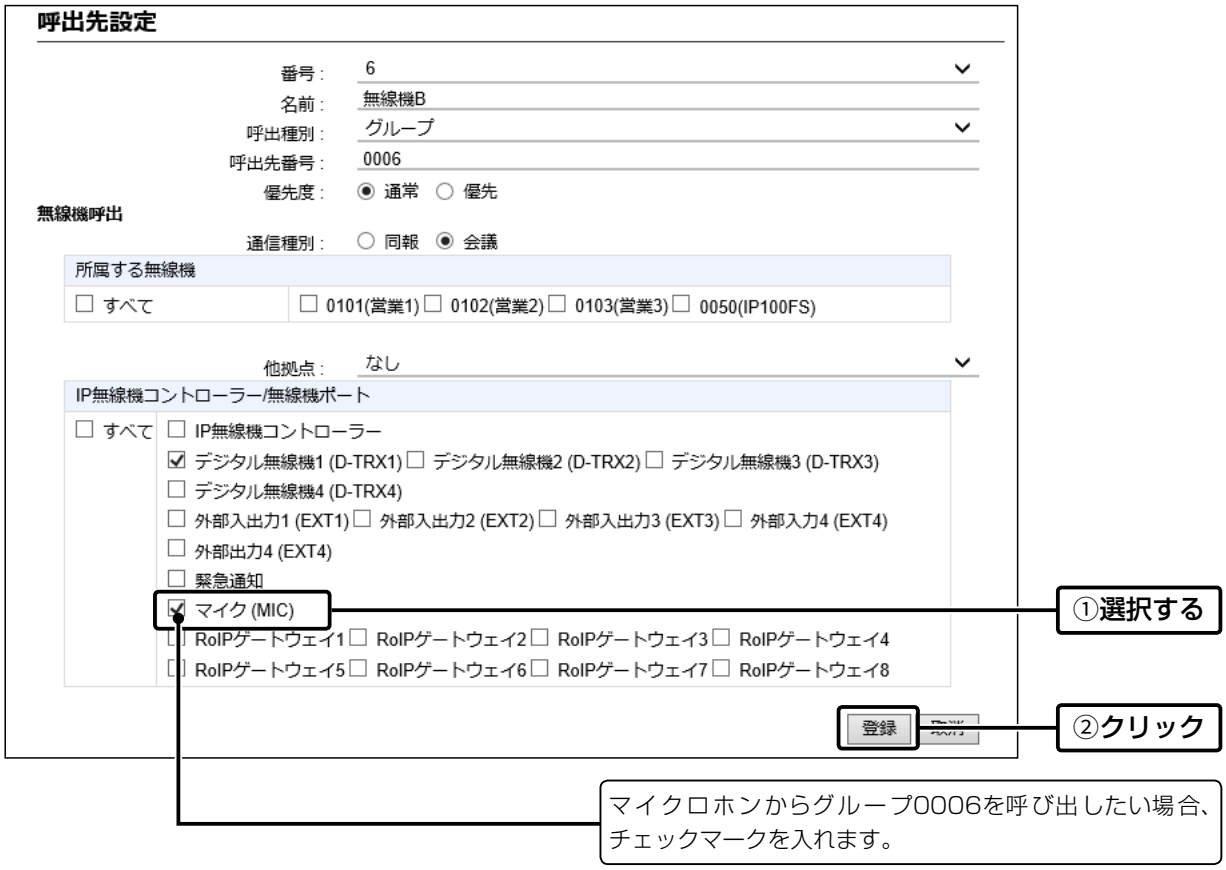
8. スピーカーマイクロホンを使用する場合

無線機ポート詳細設定 > マイク (MIC)

呼出先設定 > 呼出先設定

4 「呼出先設定」メニュー、「呼出先設定」の順にクリックします。
「呼出先設定」画面が表示されます。

5 スピーカーマイクロホンから呼び出したいグループで、所属する無線機ポートに「マイク (MIC)」を追加して、〈登録〉をクリックします。



9. 無線機の通話を録音する場合

指定した端末や全体/グループの通話音声をUSB経由で外部ストレージに録音できます。
登録できる録音設定は4ボックスまでで、1ボックスの設定に録音対象となる条件を1つ設定できます。
※IP電話機同士、IP電話機とIP無線機、直接通話しているデジタル無線機、ブリッジ接続での通話は対象外です。
※録音中に一定時間、無音を検出すると録音を停止します。(初期設定：5秒)
※録音中のデータ通信は、そのまま無音として保存されます。

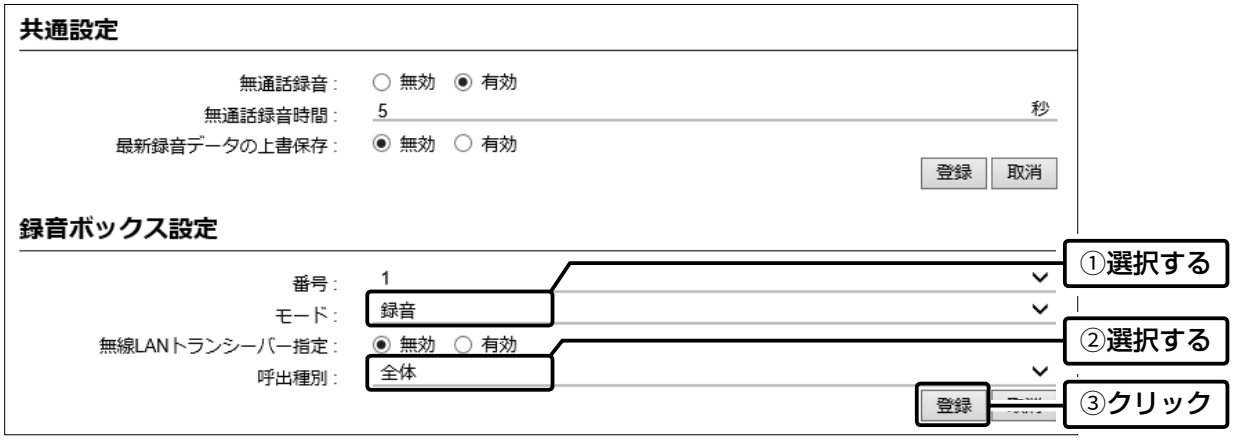
拡張設定 > 無線機通話録音

■ 設定のしかた

本書では、ボックス1で全体呼び出しを録音する場合を例に説明します。

1 「拡張設定」メニュー、「無線機通話録音」の順にクリックします。
「無線機通話録音」画面が表示されます。

2 [録音ボックス設定]項目で、モード(例：録音)と呼出種別(例：全体)を選択し、〈登録〉をクリックします。
※[モード]欄で「モニター」を選択すると、指定した通話を特定のポートから音声出力できます。(取扱説明書[活用編])

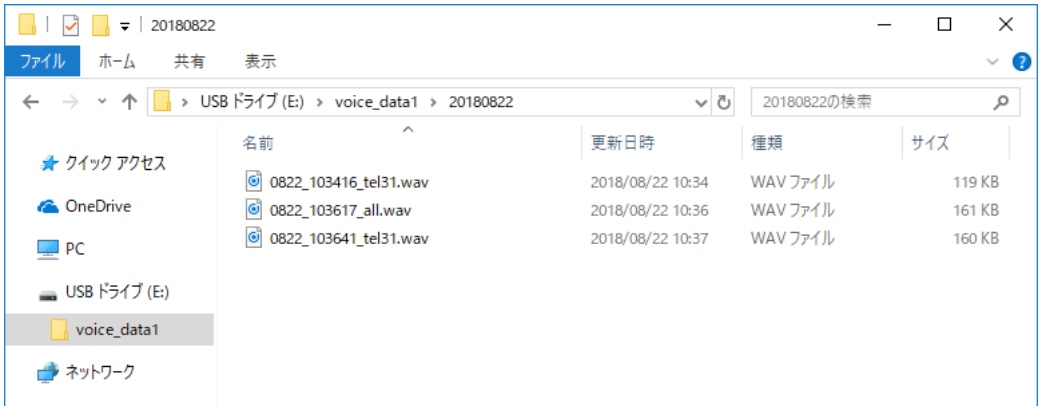


3 [録音ボックス設定一覧]項目で登録内容を確認します。

9. 無線機の通話を録音する場合

■ 録音データについて

本製品のUSBポートに接続した外部ストレージ内に、ボックスごとのフォルダーが生成され、録音データをWAVファイル形式で保存されます。



フォルダー名	voice_data[ボックス番号(1～4)]/保存開始時点の日付	「voice_data1」―「20180928」 (ボックス1/2018年9月28日の場合)
ファイル名 (拡張子(wav)を省略しています)	全体呼び出し	MM(月)DD(日)_HH(時)MM(分)SS(秒)_all
	グループ呼び出し	MM(月)DD(日)_HH(時)MM(分)SS(秒)_group100 (グループ番号100の場合)
	個別呼び出し(通話相手を表示)	MM(月)DD(日)_HH(時)MM(分)SS(秒)_uid10 (個別番号10の場合)
	電話(通話相手を表示)	MM(月)DD(日)_HH(時)MM(分)SS(秒)_tel31 (内線31の電話の場合)
最大ファイルサイズ	1ファイルあたり100MB(100MB以降新しいファイルに切り替え)	

※空き容量が不足して保存できない場合、旧データを削除して新データを書き込むかどうか、設定できます。
※録音開始時に空き容量が10MB以下の場合に、強制削除を実行し空き容量を確保します。
※最低110MB確保できるまで、指定ボックスの古い日付フォルダーから順にフォルダーごと削除されます。
※指定ボックス内で空き容量を確保できないときは、録音しません。

10. 自動チャンネル切替機能を使用する場合

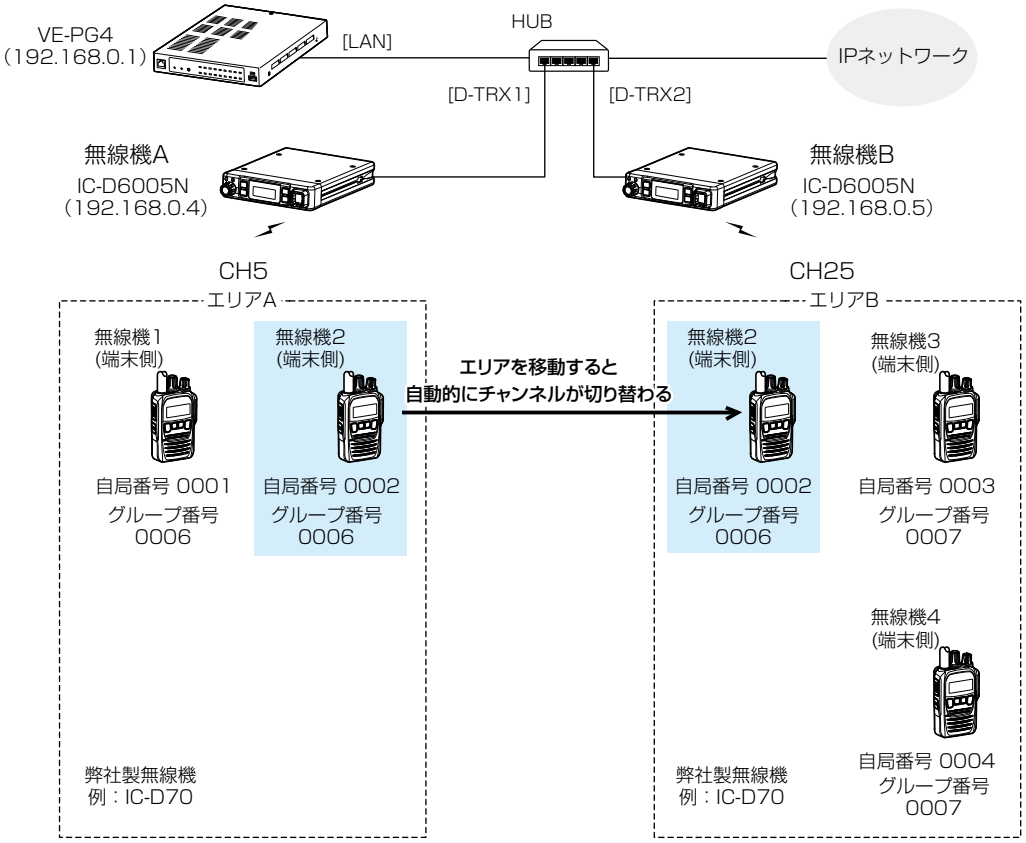
■ 自動チャンネル切替機能について

本製品に接続された各エリアのデジタル無線機(例：IC-D6005N)からの報知情報を受信することで、無線機のメインチャンネルを自動で切り替える機能です。

※2019年5月現在、対応している無線機は、IC-D70、IC-D70BT、IC-DU75です。

※自動チャンネル切替機能は、お買い上げの販売店で設定が必要です。

※自動チャンネル切替機能を使用しているあいだは、GPSデータの受信ができなくなるため、相手局との距離が無線機の画面に表示されません。



10. 自動チャンネル切替機能を使用する場合

■ 設定項目について

本製品の設定画面にアクセスして、下記項目の設定内容を確認、または変更します。
※グループ番号0006と0007は、端末側無線機が帰属(接続)する無線機(親機)に関係なくグループ呼び出しする場合の設定です。

	設定画面	設定項目	設定名称	設定内容
	拡張設定	デジタル無線機	デジタル無線機	有効
	> デジタル無線機コントローラー	コントローラー設定	コントローラー	
		デジタル無線機設定	個別番号	0001、0002、0003、0004
	無線機ポート詳細設定	デジタル無線機	デジタル無線機	有効
	> デジタル無線機 (D-TRX)	制御設定	コントローラー接続	
			送信間隔	60
			D-TRXポート間送信間隔	3
			送信回数	2
無線機1	呼出先設定 > 呼出先設定	呼出先設定	呼出種別	個別
			呼出先番号	0001
			無線機呼出	デジタル無線機コントローラー
無線機2	呼出先設定 > 呼出先設定	呼出先設定	呼出種別	個別
			呼出先番号	0002
			無線機呼出	デジタル無線機コントローラー
無線機3	呼出先設定 > 呼出先設定	呼出先設定	呼出種別	個別
			呼出先番号	0003
			無線機呼出	デジタル無線機コントローラー
無線機4	呼出先設定 > 呼出先設定	呼出先設定	呼出種別	個別
			呼出先番号	0004
			無線機呼出	デジタル無線機コントローラー
グループ0006	呼出先設定 > 呼出先設定	呼出先設定	呼出種別	グループ
			呼出先番号	0006
			デジタル無線機コントローラー	0001、0002
グループ0007	呼出先設定 > 呼出先設定	呼出先設定	呼出種別	グループ
			呼出先番号	0007
			デジタル無線機コントローラー	0003、0004

10. 自動チャンネル切替機能を使用する場合

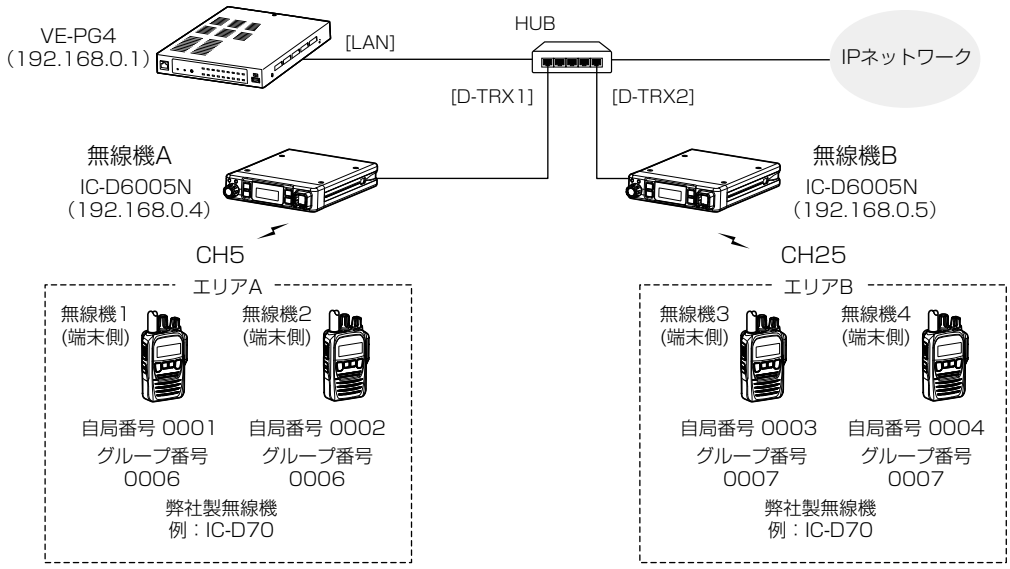
無線機ポート詳細設定 > デジタル無線機 (D-TRX)

呼出先設定 > 呼出先設定

拡張設定 > デジタル無線機コントローラー

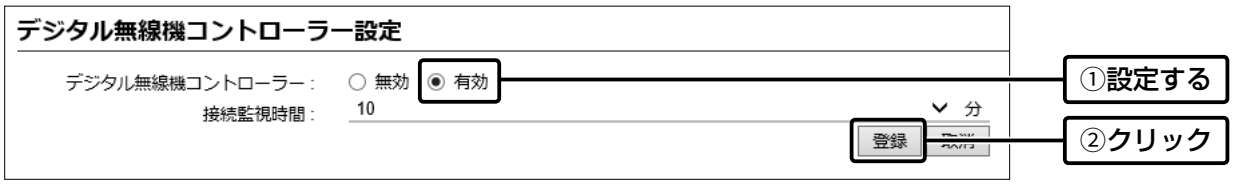
■ 設定のしかた

本書では、本製品にデジタル無線機として、2台のIC-D6005Nをネットワーク接続し、4台のIC-D70を端末として使用する場合を例に説明しています。
※IPネットワークで運用するIC-D6005Nなどの設定については、2-12ページをご覧ください。

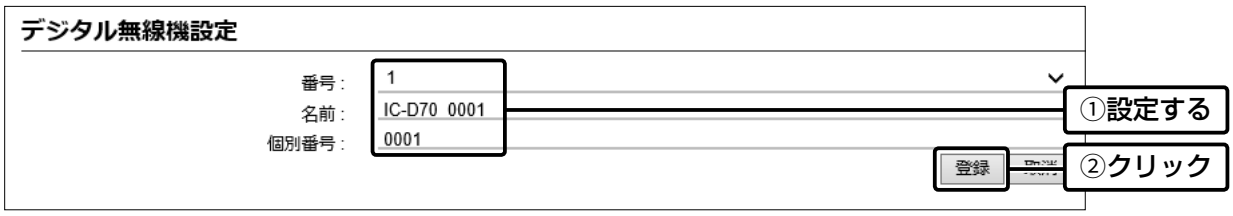


1 「拡張設定」メニュー、「デジタル無線機コントローラー」の順にクリックします。
「デジタル無線機コントローラー」画面が表示されます。

2 [デジタル無線機コントローラー]欄を「有効」に設定して、〈登録〉をクリックします。



3 [デジタル無線機設定]項目で、名前、個別番号(4桁の番号)を設定して、〈追加〉をクリックします。



4 無線機2～4についても同様に設定します。(手順3)

(次ページにつづく)

10. 自動チャンネル切替機能を使用する場合

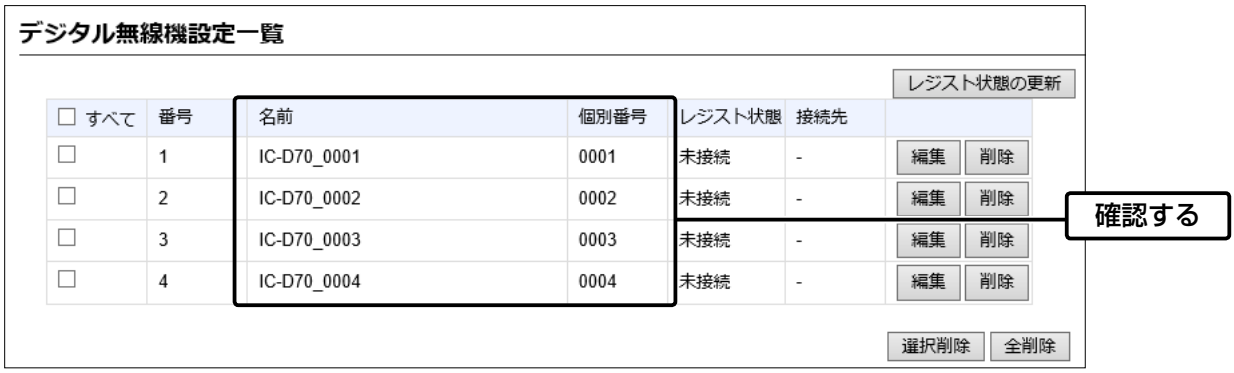
無線機ポート詳細設定 > デジタル無線機 (D-TRX)

呼出先設定 > 呼出先設定

拡張設定 > デジタル無線機コントローラー

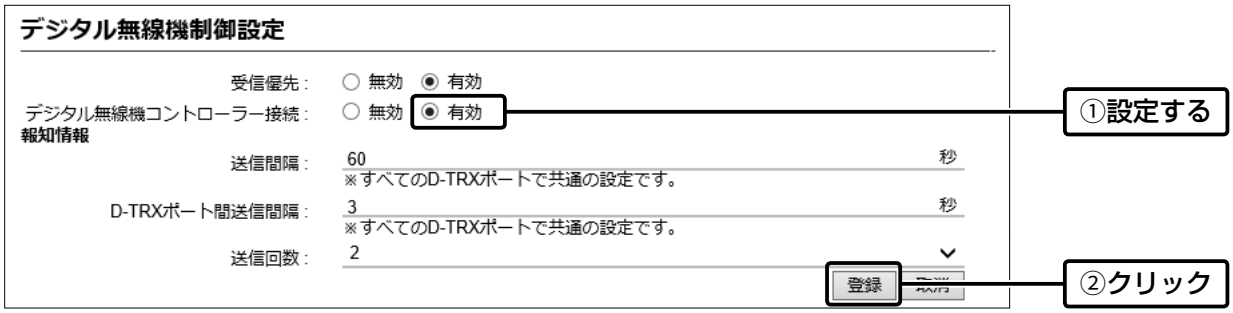
■ 設定のしかた

5 [デジタル無線機設定一覧]項目で、登録した内容を確認します。



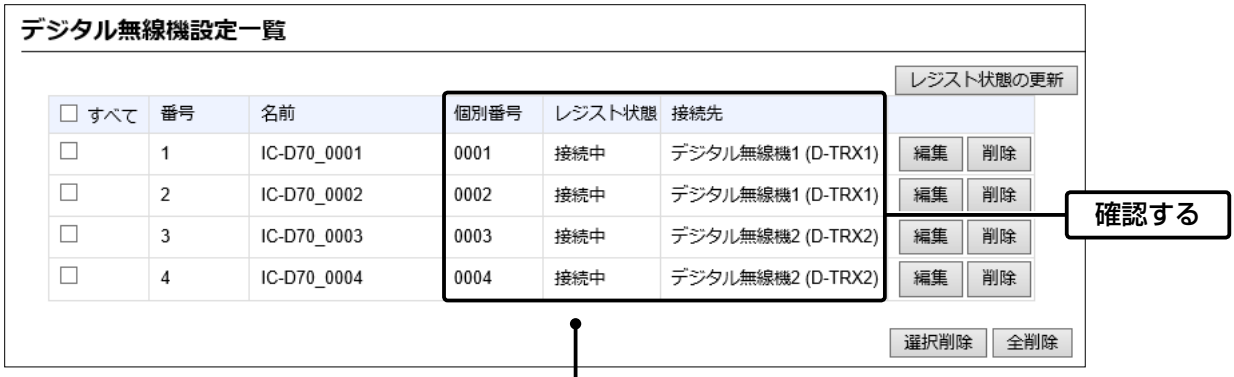
6 「無線機ポート詳細設定」メニュー、「デジタル無線機 (D-TRX)」の順にクリックします。
「デジタル無線機 (D-TRX)」画面が表示されます。

7 [デジタル無線機制御設定]項目で、[デジタル無線機コントローラー接続]欄を「有効」に設定して、〈登録〉をクリックします。



8 「拡張設定」メニュー、「デジタル無線機コントローラー」の順にクリックします。
「デジタル無線機コントローラー」画面が表示されます。

9 [デジタル無線機設定一覧]項目で、接続状態を確認します。



デジタル無線機に接続し、端末側無線機が通話できる状態になると「接続中」が表示され、端末側無線機がいるエリアが(例：デジタル無線機1(D-TRX1))が表示されます。

(次ページにつづく)

10. 自動チャンネル切替機能を使用する場合

無線機ポート詳細設定 > デジタル無線機 (D-TRX)

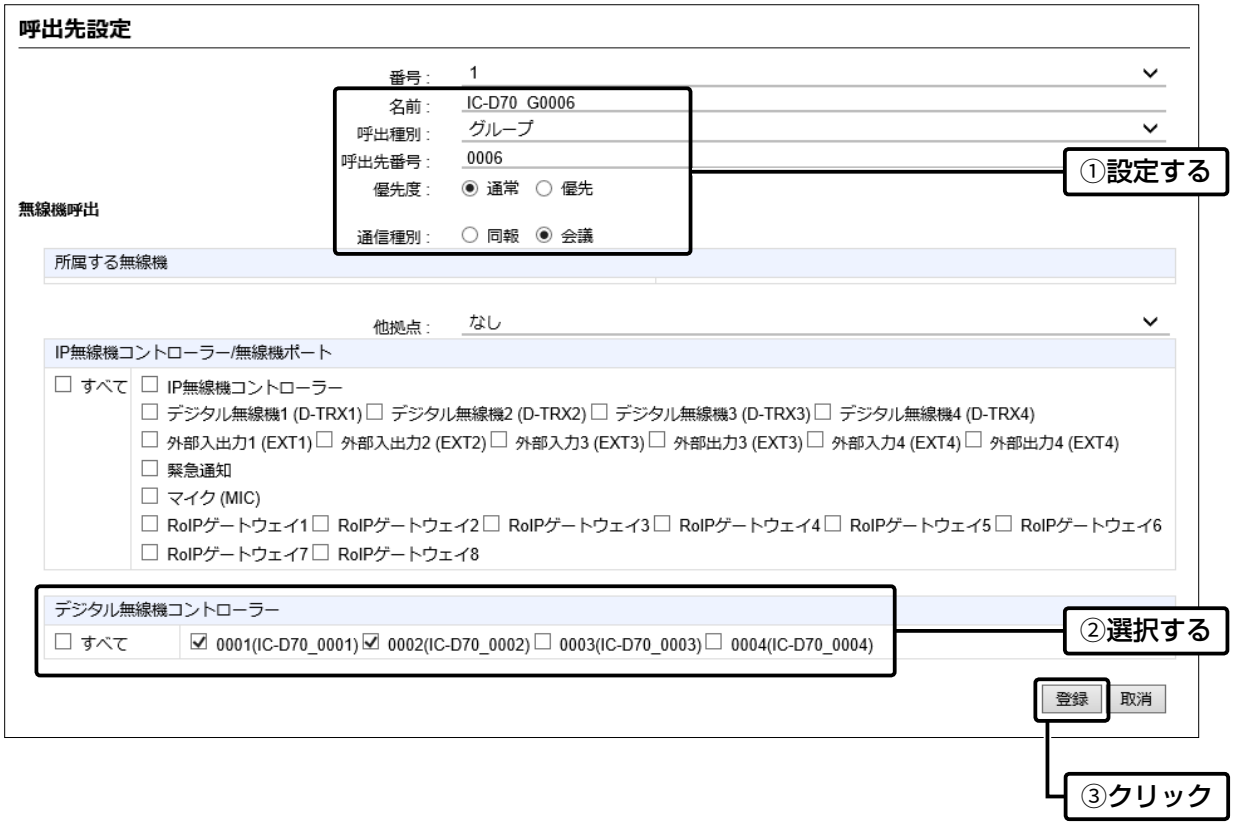
呼出先設定 > 呼出先設定

拡張設定 > デジタル無線機コントローラー

■ 設定のしかた

10 「呼出先設定」メニュー、「呼出先設定」の順にクリックします。
「呼出先設定」画面が表示されます。

11 [呼出先設定]項目で、名前、呼出種別、グループ番号(4桁の数字)を設定して、一覧からグループに所属する端末側無線機を選択し、〈登録〉をクリックします。



12 グループ番号0007についても同様に設定します。(手順11)

(次ページにつづく)

10. 自動チャンネル切替機能を使用する場合

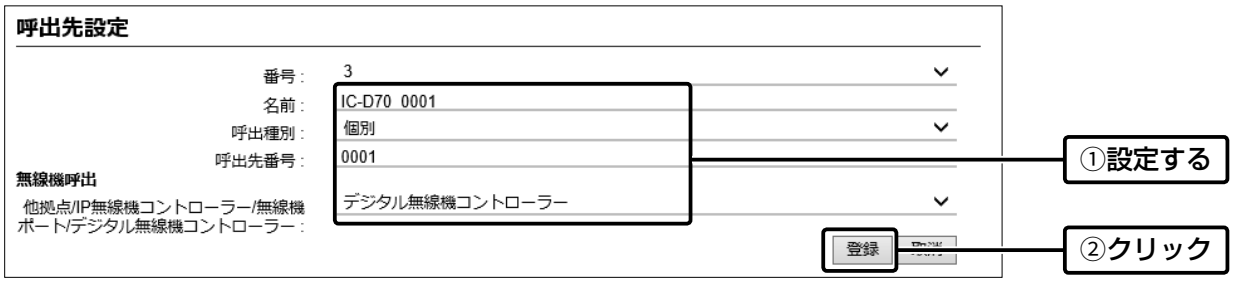
無線機ポート詳細設定 > デジタル無線機 (D-TRX)

呼出先設定 > 呼出先設定

拡張設定 > デジタル無線機コントローラー

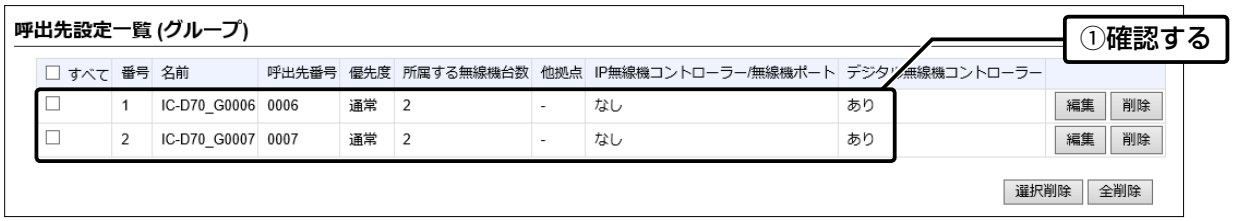
■ 設定のしかた

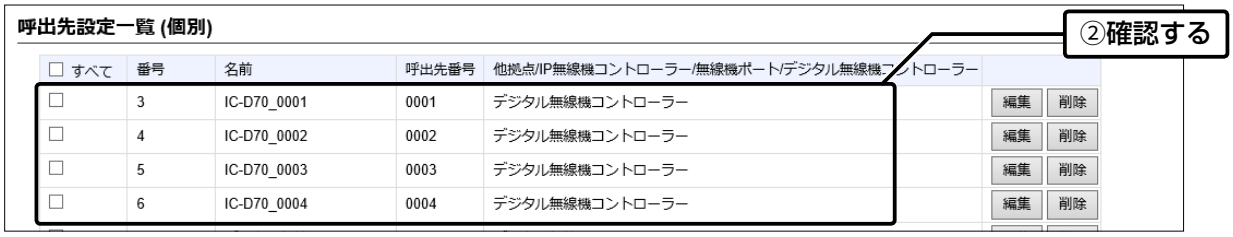
13 [呼出先設定]項目で、名前、呼出種別(個別)、呼出先番号、デジタル無線機コントローラーを設定して、〈登録〉をクリックします。



14 無線機2～4についても同様に設定します。(手順13)

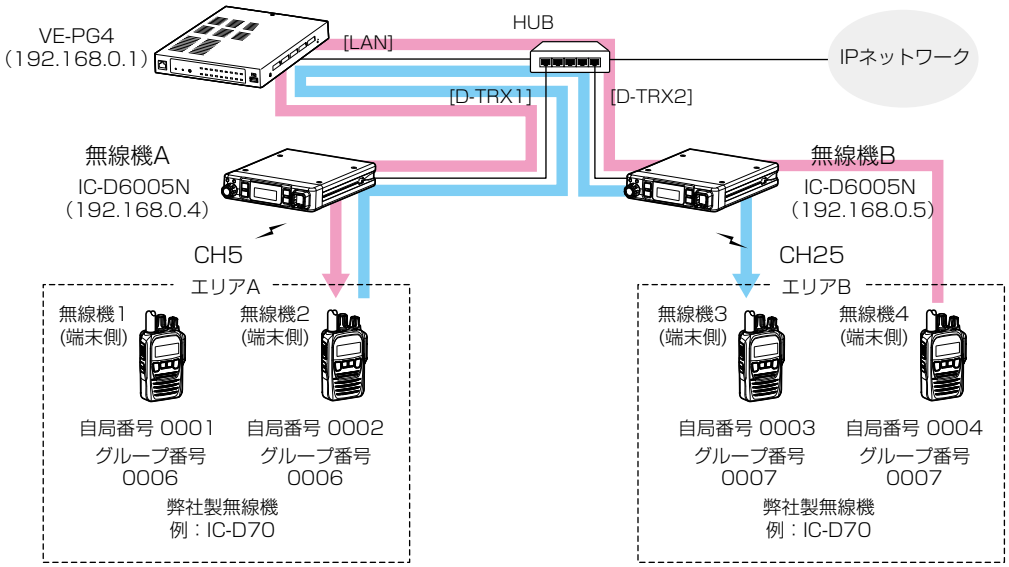
15 [呼出先設定一覧(グループ)]項目、[呼出先設定一覧(個別)]で、登録した内容を確認します。





10. 自動チャンネル切替機能を使用する場合

■ 通話するときは



無線機2から無線機3を呼び出す場合

1. 無線機2で、無線機3を呼び出す相手先番号(無線機の画面表示：個別0003)を選択します。
2. 無線機2の[PTT]スイッチを押します。
   • 送信状態になります。
3. 呼び出したあと、無線機2の[PTT]スイッチをはなします。
4. 無線機3の[PTT]スイッチを押して、応答します。
5. 通話が終わったら、無線機2の[PTT]スイッチをはなします。
   • 受信状態に戻ります。

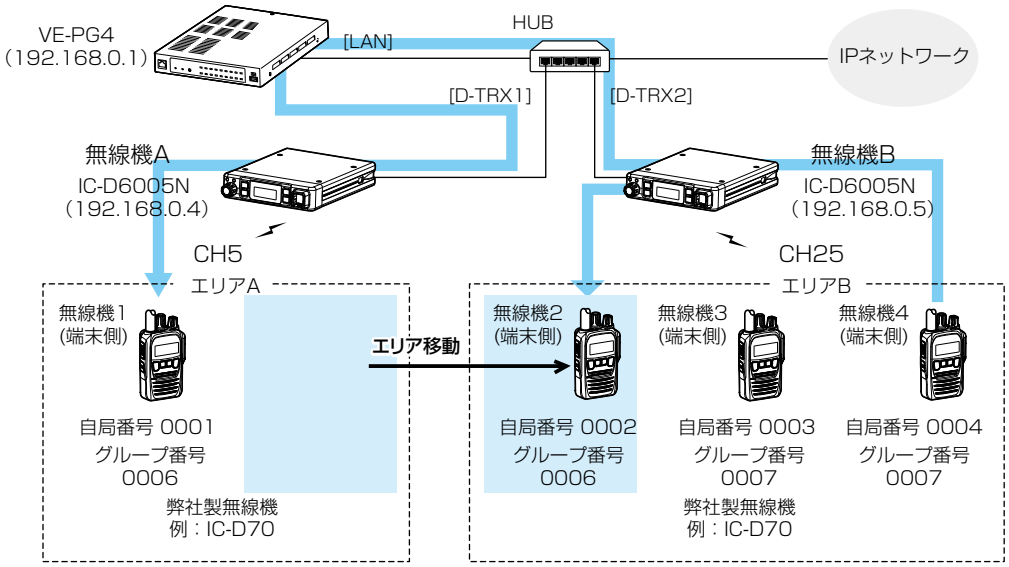
無線機4から無線機2を呼び出す場合

1. 無線機4で、無線機2の自局番号(無線機の画面表示：個別0002)を選択します。
   • グループ0006を呼び出したいときは、グループ番号(無線機の表示：グループ0006)を選択します。
2. 無線機4の[PTT]スイッチを押します。
   • 送信状態になります。
3. 呼び出したあと、無線機4の[PTT]スイッチをはなします。
4. 無線機2の[PTT]スイッチを押して、応答します。
5. 通話が終わったら、無線機2の[PTT]スイッチをはなします。
   • 受信状態に戻ります。

10. 自動チャンネル切替機能を使用する場合

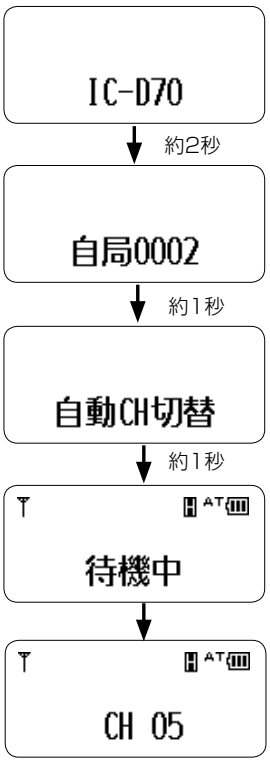
■ 自動チャンネル切替機能の動作について

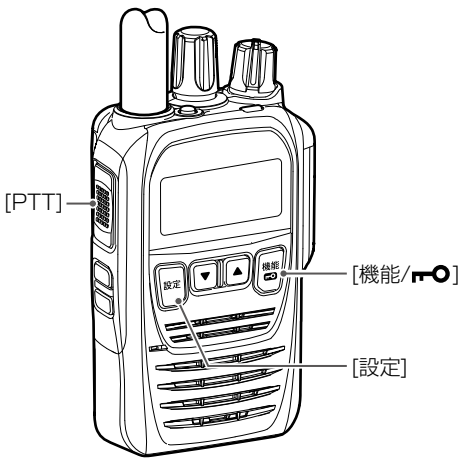
端末側無線機がエリアを移動しても、帰属(接続)する無線機(親機)に関係なく、個別呼び出しやグループ呼び出しができます。
例えば、下図のように無線機4がグループ0006を呼び出した場合、エリアAの無線機1とエリアBの無線機2が呼び出されます。



無線機の動作について

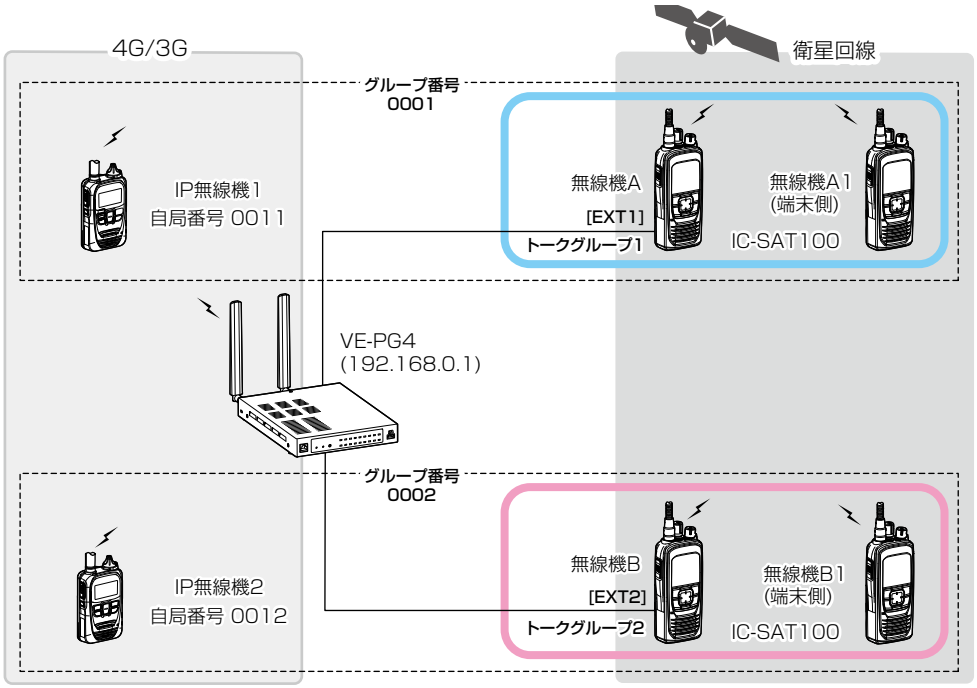
自動チャンネル切替機能が設定された無線機の電源を入れると、右図のようにスキャンを開始します。
起動直後は、報知情報を受信するまで、「待機中」が表示されます。
※報知情報を受信するまでの間に、[PTT]を押しても、送信できません。
※報知情報を受信するまでの間に、[機能/🔑]、または[設定]を押すと「待機中」表示をクリアできます。
※「AT」が点滅中は、報知情報を受信しません。





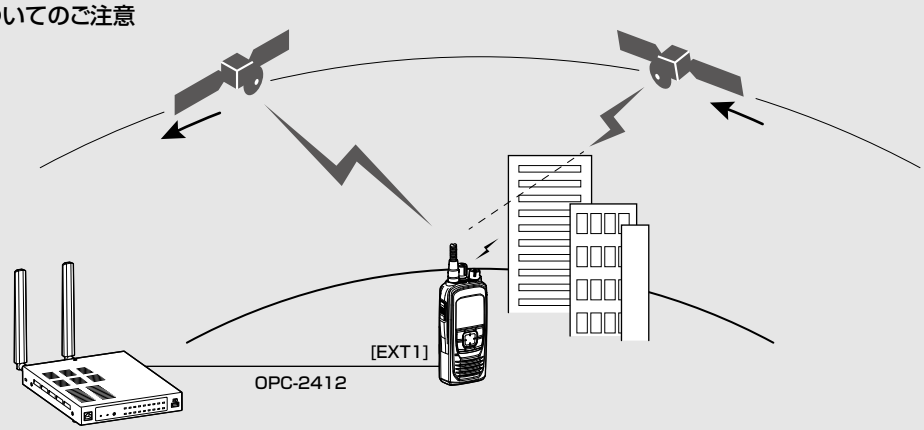
11. IC-SAT100を使用する場合

下記は、本製品にIC-SAT100を接続して、IP無線機と通話できるように設定した場合の構成例です。
本製品で設定したグループやトークグループで、IC-SAT100を呼び出しできます。



※各ポートに接続するIC-SAT100ごとに、グループを固定する必要があります。
IC-SAT100側が、1つのトークグループだけになるように設定しておいてください。
IC-SAT100の緊急呼び出しも、1つのグループ通話として扱われます。
例） トークグループ1：[EXT1]ポートのIC-SAT100
トークグループ2：[EXT2]ポートのIC-SAT100(緊急呼び出し用)
※本製品に接続する前に、IC-SAT100のPCコマンド画面で「マルチコネクター」を選択しておいてください。
([OK]>機能>PCコマンド)

接続や設置についてのご注意



IC-SAT100は、同一軌道を周回する複数の衛星を利用していますが、衛星の位置や障害物の有無によっては、送受信できないことがあります。また、室内やビルの近くなど電波状態の悪い場所では、通信が途切れることがありますので、本製品に接続するIC-SAT100の設置場所はご注意ください。
※OPC-2412(接続ケーブル)の長さは、約5mです。
※本製品の設定画面で接続するポートの「無線機機種」を、「IC-SAT100」に変更してから接続してください。

無線LANトランシーバーの導入

第 3 章

この章では、
本製品の無線機コントローラー機能をご使用いただくために必要な基本設定の手順を説明しています。

1. ご使用になるまでの流れ …… 3-2
■ 設定の流れについて …… 3-2
2. 無線LANトランシーバーの構築について …… 3-4
■ 無線LANトランシーバーの接続について …… 3-4
■ 無線機の登録について …… 3-5
■ 登録の確認/IP100Hの再起動について …… 3-6
■ 無線機の個別設定について …… 3-7
■ グループ呼び出しについて …… 3-8
■ トークグループ呼び出しについて …… 3-9
■ アドレス帳について …… 3-11
■ メッセージについて …… 3-12
■ プレゼンスについて …… 3-13
■ 設定グループで共用するアドレス帳とメッセージについて …… 3-14
3. オーダーコールシステムについて …… 3-15

3　無線LANトランシーバーの導入

1. ご使用になるまでの流れ

■ 設定の流れについて

設定画面を使用して、IP100Hを設定する場合の流れです。
※本書では、IP100Hが接続する無線アクセスポイント側の設定は完了しているものとして説明しています。

1. ネットワーク設定(P.1-21)

ご利用の環境に合わせて、本製品の「IPアドレス」画面でIPアドレス(初期設定：192.168.0.1)、「DHCPサーバー」画面でDHCPサーバー機能(初期設定：無効)を設定します。

2. 無線機の初期設定

個別番号など、使用するIP100H、IP100FSの設定を本製品に登録します。

「無線機追加」画面(P.3-5)

機種、名前、個別番号、パスワード、所属する設定グループを設定します。
※出荷時、パスワードは、「iptrx」に設定されていますので、任意のパスワードに変更してください。
※所属する設定グループごとに使用する共通設定は、「設定グループ」メニューで設定します。

CS-IP100H(クローニングソフトウェア)による設定(P.3-6)

本製品でIP100Hを登録したあと、無線LAN設定(接続する無線アクセスポイント)、アンテナ設定(内部/外部)、保守サーバー接続設定(本製品)を、IP100HごとにCS-IP100Hで設定します。

※CS-IP100Hは、弊社ホームページからダウンロードできるフリーウェアです。
※弊社ホームページに掲載の「CS-IP100H取扱説明書」をよくお読みいただき、手順にしたがって別売品のクローニングケーブルを接続してください。

3. 無線機の個別設定(P.3-7)

「無線機追加」画面で登録したIP100Hごとに、「無線機個別」画面で使用する機能を設定します。

◎アドレス帳からの呼出
◎優先呼出
◎メッセージ
◎通信方式(単信通信/複信通信)
◎近隣呼出
◎プレゼンス

4. 呼出先設定(P.3-8)

「無線機追加」画面で登録したIP100H、IP100FSを、「呼出先設定」画面でグループに分け、呼び出すためのグループ番号を割り当て、呼び出し先ごとに通信種別(同報/会議)を設定します。

設定の更新について
本製品で変更した設定をIP100Hに反映させるためには、IP100Hの再起動が必要になりますので、ご注意ください。

3　無線LANトランシーバーの導入

1. ご使用になるまでの流れ

■ 設定の流れについて

5. 設定グループ(P.3-11～P.3-14)

「無線機追加」画面で登録したIP100H、IP100FSが所属する設定グループごとに設定します。

「アドレス帳」画面

IP100Hが使用するアドレス帳を登録します。(最大50件)

※IP電話機を本製品に収容している場合は、その内線番号を登録できます。

「メッセージ」画面

IP100Hから送信する半角32(全角16)文字★以内の定型メッセージを登録します。(最大10件)

「プレゼンス」画面

IP100Hから送信する半角32(全角16)文字★以内のステータス情報を登録します。(最大10件)

「設定グループ詳細」画面

IP100Hが所属する設定グループで使用するアドレス帳のグループ番号、メッセージのグループ番号を設定します。

★IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。

※環境依存文字を入力しないでください。

環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。

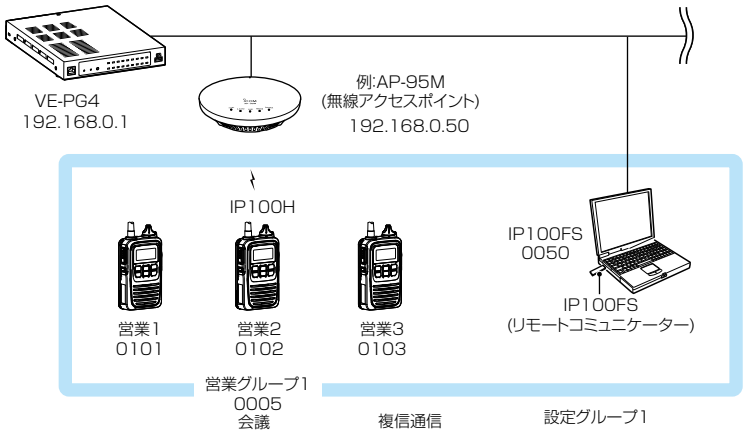
6. マイクゲイン/通知音/終話判定

必要に応じて、「無線機個別」画面でIP100Hのマイクゲインや VOX機能(HS-94/HS-95/HS-97/HS-99接続時)、「設定グループ詳細」画面で各種通知音、終話判定など設定グループで使用する共通設定をします。

2. 無線LANトランシーバーの構築について

■ 無線LANトランシーバーの接続について

本製品に、IP100HやIP100FSを最大50台まで登録できます。
下図を例に、本製品に登録するIP100Hの設定について説明します。
※ご使用になる端末ごとに、個別番号などの設定が必要です。
※本製品のネットワーク上に無線アクセスポイントを接続してください。
※本書では、本製品をお使いになるネットワーク上のDHCPサーバーから、IP100HやIP100FSを使用するパソコンのIPアドレスを自動取得しているものとして説明しています。
※固定IPアドレスで運用される場合など、ネットワーク上でIPアドレスが重複しないようにご注意ください。



2. 無線LANトランシーバーの構築について

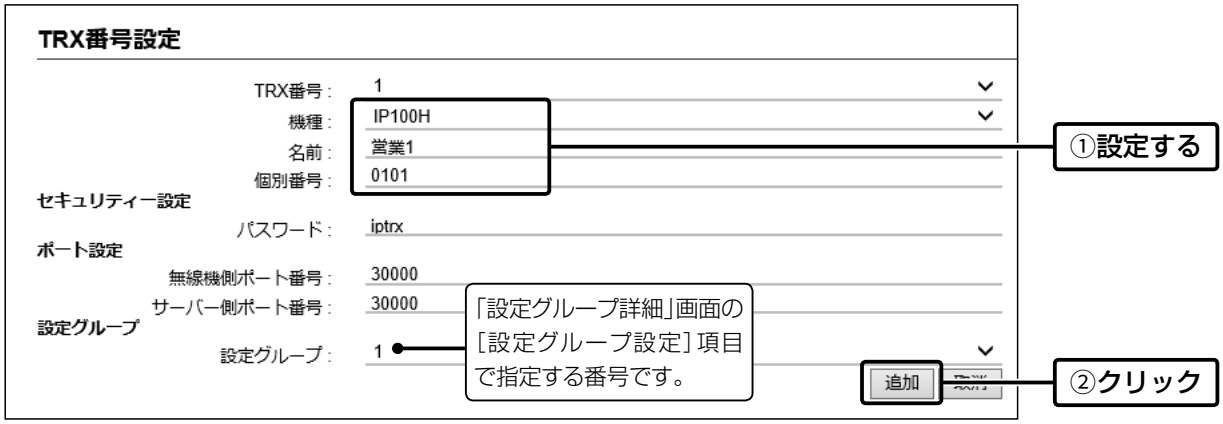
無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機追加

■ 無線機の登録について

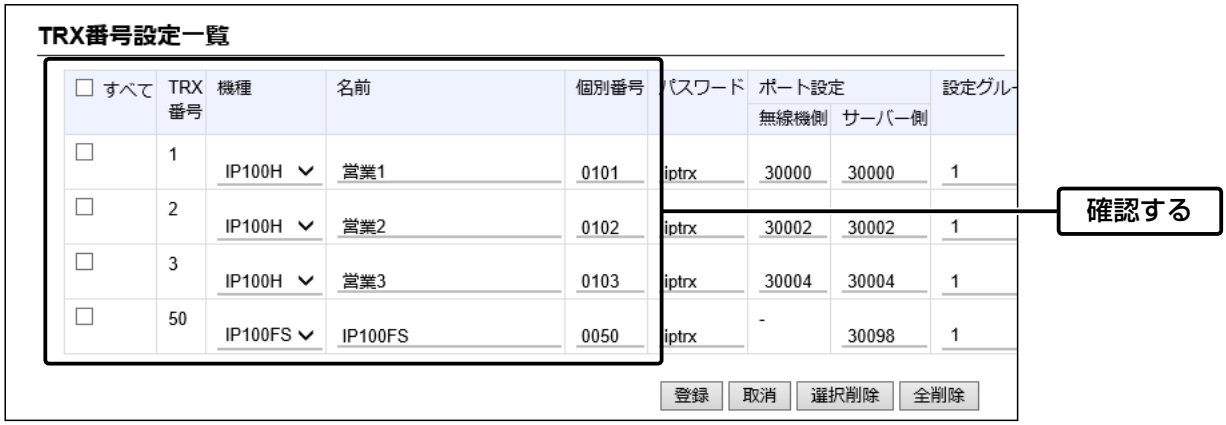
登録するIP100H、IP100FSごとに個別番号を設定します。

1 「無線機コントローラー設定」メニュー、「無線機設定」、「無線機追加」の順にクリックします。
「無線機追加」画面が表示されます。

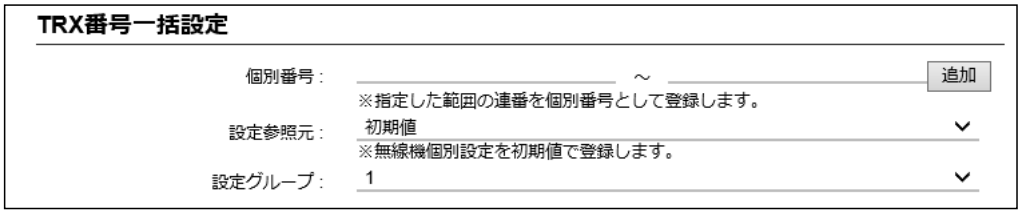
2 [TRX番号設定]項目で、登録する機種、名前、個別番号(4桁の番号)を設定して、〈追加〉をクリックします。
※「有効な設定グループがないため、設定グループ1を自動設定します。設定を変更しますか?」と表示された場合は、〈OK〉をクリックします。



3 [TRX番号設定一覧]項目で、登録した内容を確認します。



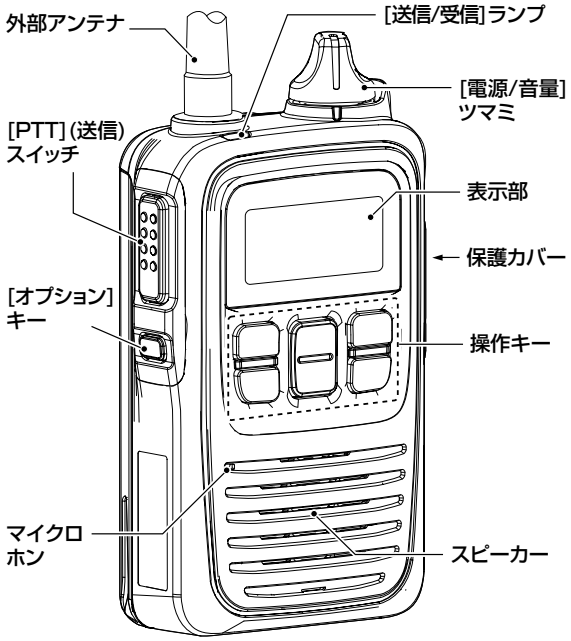
TRX番号一括設定について
連番で個別番号を一括登録したり、すでに登録した設定内容をほかの個別番号にコピーしたりできます。



2. 無線LANトランシーバーの構築について

■ 登録の確認/IP100Hの再起動について

本製品にIP100Hを登録したあと、CS-IP100H（クローニングソフトウェア）でパソコンからIP100Hを設定します。
IP100Hが再起動すると、コントローラーの設定内容を自動的に取得します。
※IP100Hが待受画面を表示しないときは、本製品や無線アクセスポイントの設定を確認してください。

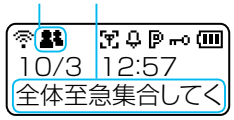


（待受画面）

表示部のアイコンについて

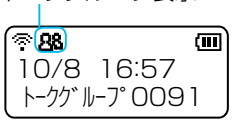
（待受画面）

点滅　スクロール表示



（メッセージ受信時）

トークグループ表示



（トークグループ選択時）

電波状態表示
無線アクセスポイントを経由して、本製品と接続したときに、電波の強度を3段階（目安）で表示します。
※無線アクセスポイントに接続できていないときは点滅（圏外）、本製品と接続できていないときは点灯（未レジスト）を表示します。

呼び出しモード表示
：全体/グループ呼び出し
：個別呼び出し
：電話（発信/着信）
：トークグループ呼び出し
※呼び出しやメッセージを受信したときは、アイコンが点滅します。

近隣呼出機能表示

ポケットビープ機能表示

Pベル機能表示

ロック機能表示

電池残量表示

設定の更新について
本製品で変更した設定をIP100Hに反映させるためには、IP100Hの再起動が必要になりますので、ご注意ください。

2. 無線LANトランシーバーの構築について

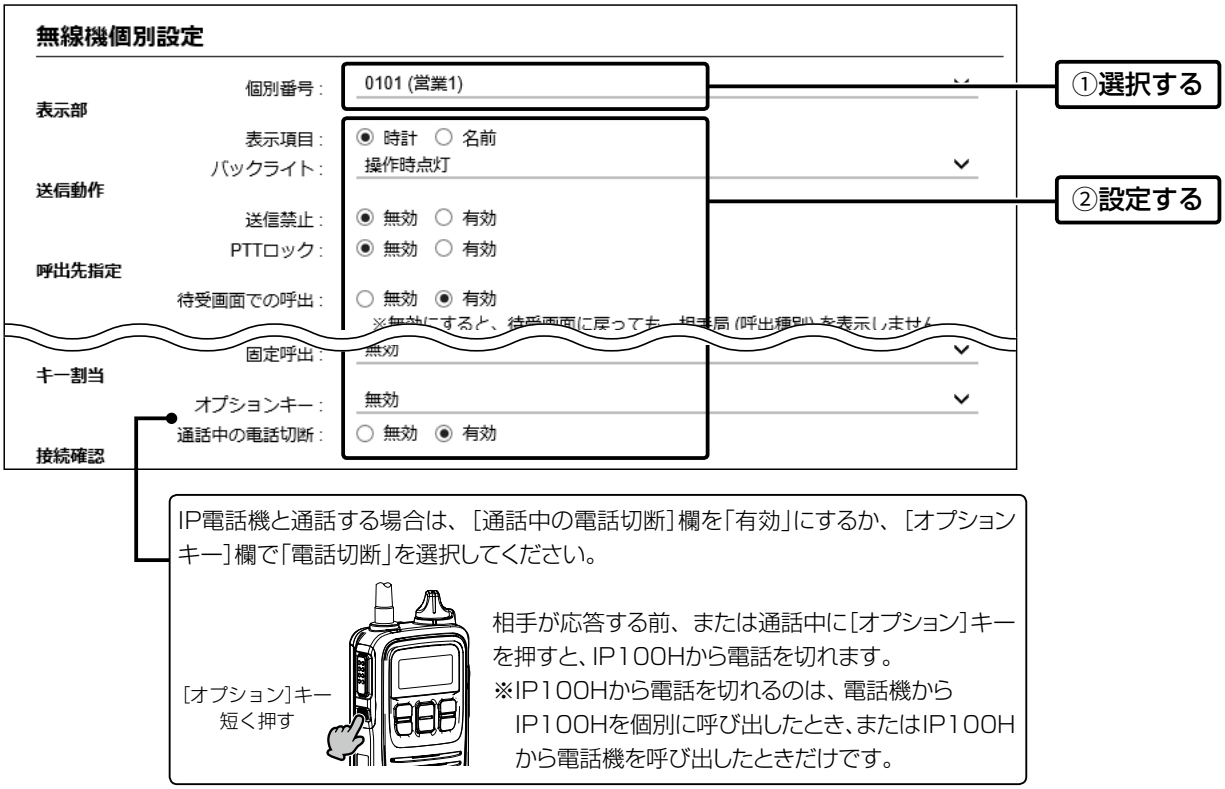
無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機の個別設定について

登録したIP100Hごとに機能の割り当てなどを設定します。
※設定変更後は、IP100Hの再起動が必要です。

1 「無線機コントローラー設定」メニュー、「無線機設定」、「無線機個別」の順にクリックします。
「無線機個別」画面が表示されます。

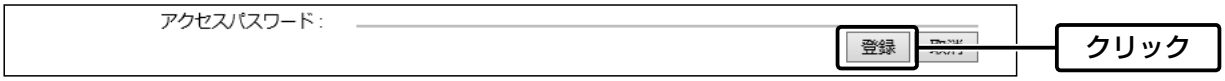
2 [無線機個別設定]項目で、設定する個別番号を選択し、必要に応じて機能の割り当てをします。



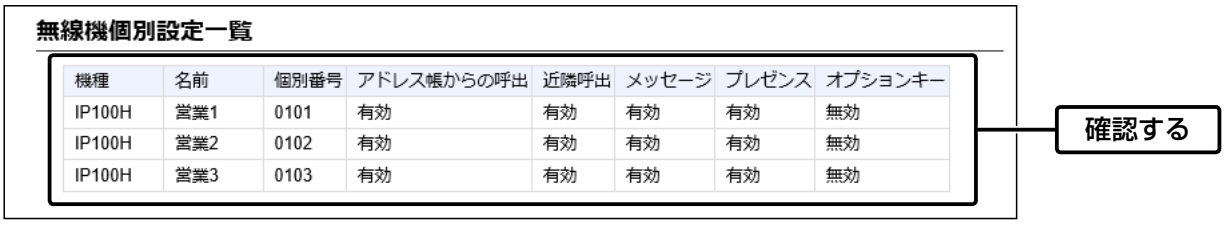
IP電話機と通話する場合は、[通話中の電話切断]欄を「有効」にするか、[オプションキー]欄で「電話切断」を選択してください。

相手が応答する前、または通話中に[オプション]キーを押すと、IP100Hから電話を切れます。
※IP100Hから電話を切れるのは、電話機からIP100Hを個別に呼び出したとき、またはIP100Hから電話機を呼び出したときだけです。

3 〈登録〉をクリックします。



4 [無線機個別設定一覧]項目で、登録した内容を確認します。



機種	名前	個別番号	アドレス帳からの呼出	近隣呼出	メッセージ	プレゼンス	オプションキー
IP100H	営業1	0101	有効	有効	有効	有効	無効
IP100H	営業2	0102	有効	有効	有効	有効	無効
IP100H	営業3	0103	有効	有効	有効	有効	無効

2. 無線LANトランシーバーの構築について

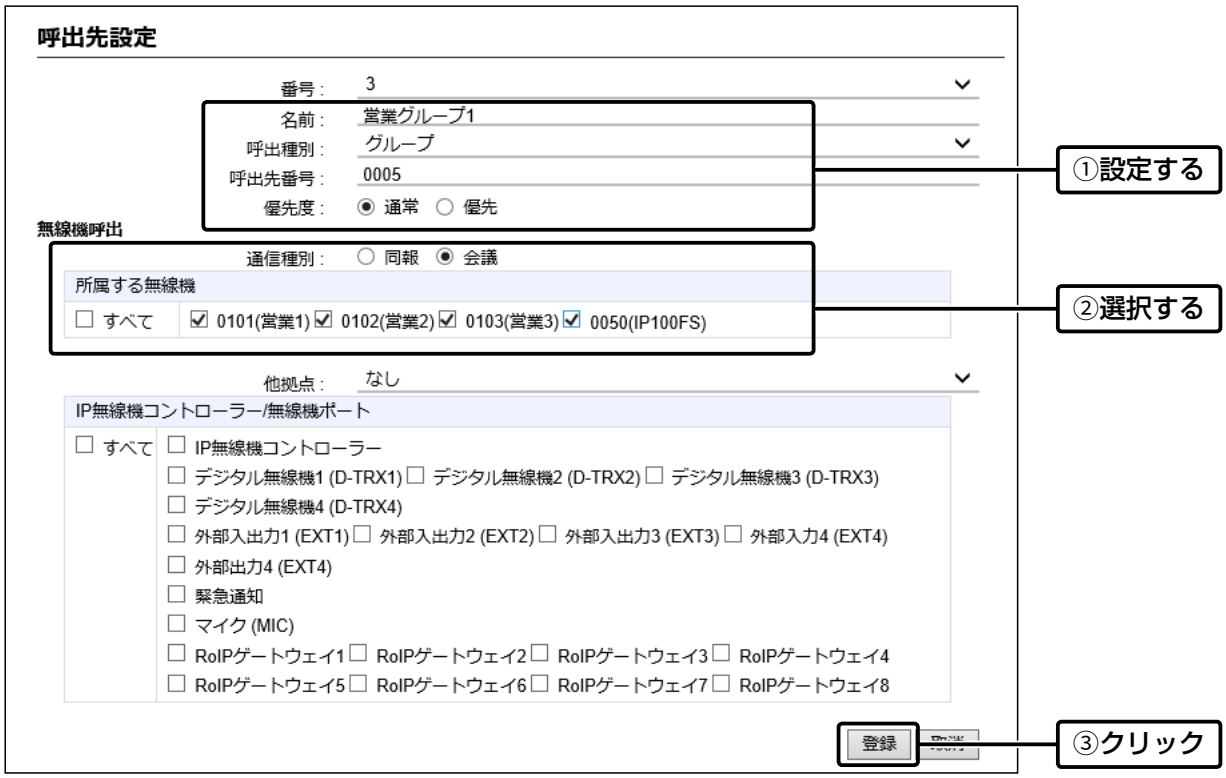
呼出先設定 > 呼出先設定

■ グループ呼び出しについて

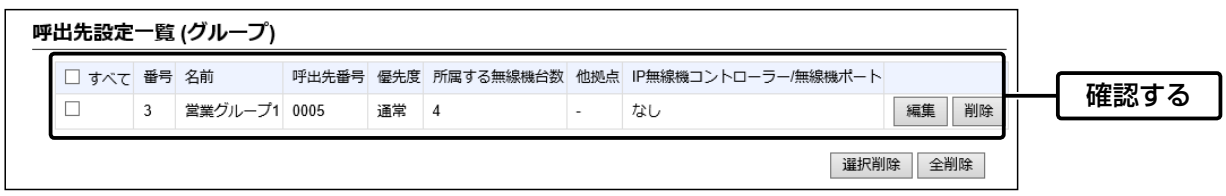
登録したIP100H、IP100FSをグループにして、「会議」(複信通信による多者間通話)を設定する場合を例に説明します。
※この機能を使用する場合は、あらかじめ本製品の「呼出先設定」画面(下図)と「アドレス帳」画面(P.3-11)で、グループ番号を登録しておく必要があります。
※設定変更後は、IP100Hの再起動が必要です。

1 「呼出先設定」メニュー、「呼出先設定」の順にクリックします。
「呼出先設定」画面が表示されます。

2 [呼出先設定]項目で、名前、呼出種別、グループ番号(4桁の数字)を設定して、一覧からグループに所属するIP100H、IP100FSを選択し、〈登録〉をクリックします。



3 [呼出先設定一覧(グループ)]項目で、登録した内容を確認します。



2. 無線LANトランシーバーの構築について

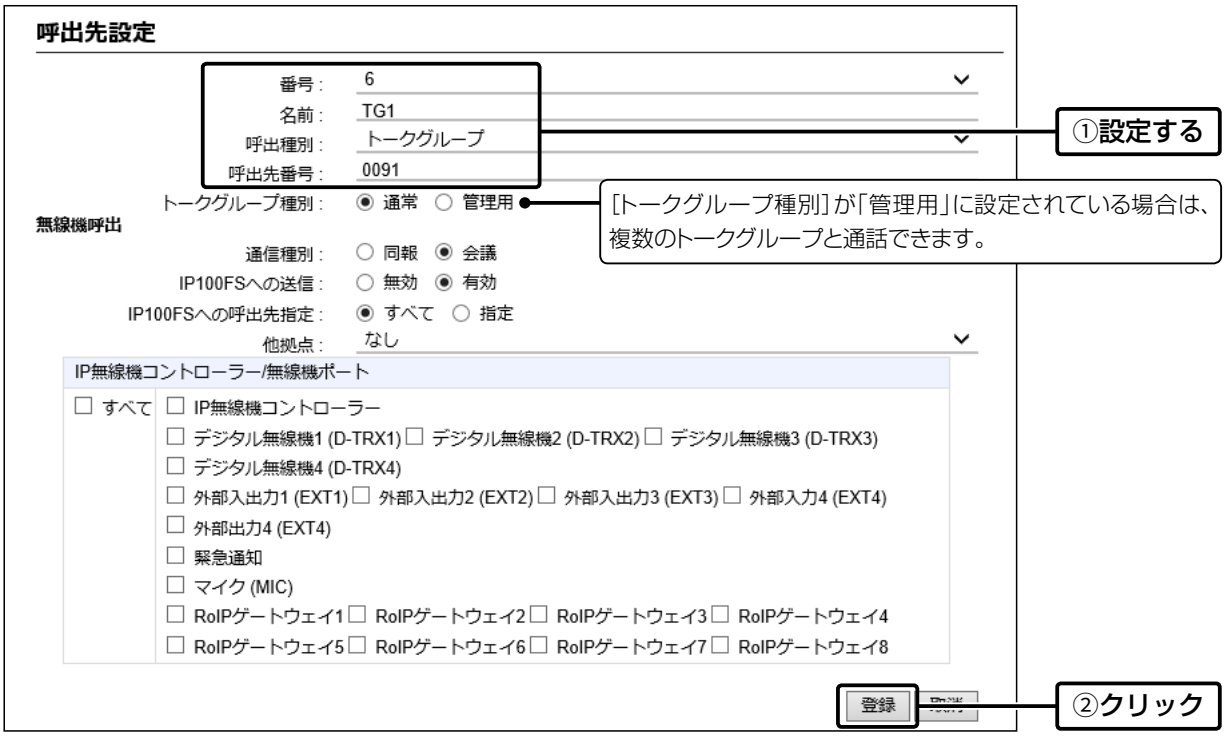
呼出先設定 > 呼出先設定

■ トークグループ呼び出しについて

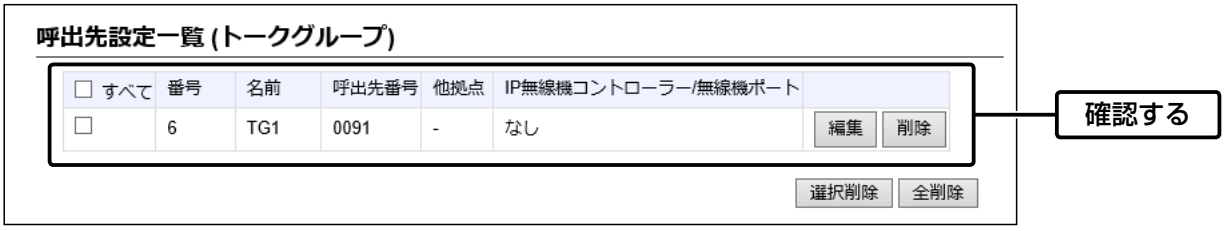
あらかじめ本製品にトークグループとして登録しておいたグループから、IP100H側でどのグループに所属するかを選択できる機能です。
同じトークグループに所属するほかの端末とグループ呼び出しができます。
※この機能を使用する場合は、あらかじめ本製品の「呼出先設定」画面（下図）と「アドレス帳」画面（P.3-11）で、トークグループ番号を登録しておく必要があります。
トークグループを選択するキーは、[FUNC]キー、または[アドレス帳]キーから選択できます。（P.3-10）
※設定変更後は、IP100Hの再起動が必要です。

1 「呼出先設定」メニュー、「呼出先設定」の順にクリックします。
「呼出先設定」画面が表示されます。

2 [呼出先設定]項目で、名前、呼出種別、トークグループ番号（4桁の数字）を設定して、〈登録〉をクリックします。



3 [呼出先設定一覧（トークグループ）]項目で、登録した内容を確認します。



2. 無線LANトランシーバーの構築について

■ トークグループ呼び出しについて

【IP100H側でトークグループを選択するときは】

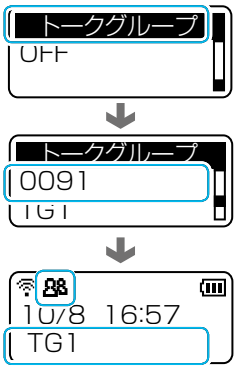
◎ トークグループを[FUNC]キーで選択する

※アドレス帳にトークグループ番号を登録して、トークグループ選択が[FUNC]キーに設定されている場合、使用できます。

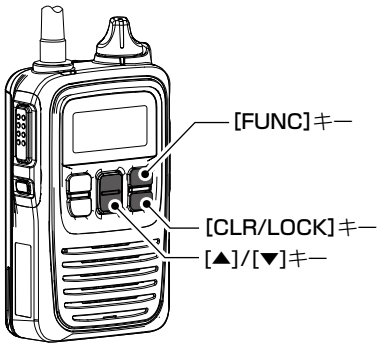
❶ [FUNC]キーを押して、トークグループを選択します。
※キーを押すごとに、本製品で割り当てられた機能（メッセージ/プレゼンス/近隣呼出など）が表示されます。

❷ [▲]/[▼]キーを押して、トークグループの番号を選択します。

❸ [CLR/LOCK]キーを押します。
同じグループ番号（例：0091）を選択したほかの端末と通話できる状態になります。
※トークグループ選択時、本製品の[呼出先設定一覧（グループ）]に設定された通常のグループ呼び出し（P.3-8）は使用できません。
※手順❷でOFFを選択すると、トークグループが解除されます。



トークグループ
選択時の待受画面



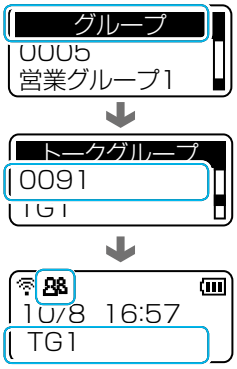
◎ トークグループを[アドレス帳]キーで選択する

※アドレス帳にトークグループ番号を登録して、トークグループ選択が[アドレス帳]キーに設定されている場合、使用できます。

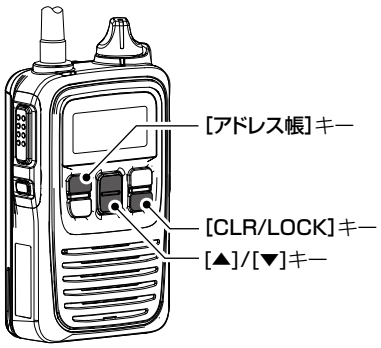
❶ [アドレス帳]キーを押して、グループ(トークグループ)を選択します。
※キーを押すごとに、呼出種別が切り替わります。

❷ [▲]/[▼]キーを押して、トークグループの番号を選択します。

❸ [CLR/LOCK]キーを押します。
同じグループ番号（例：0091）を選択したほかの端末と通話できる状態になります。
※トークグループ選択時、本製品の[呼出先設定一覧（グループ）]に設定された通常のグループ呼び出し（P.3-8）は使用できません。
※手順❷で通常のグループを選択すると、トークグループが解除されます。



トークグループ
選択時の待受画面



2. 無線LANトランシーバーの構築について

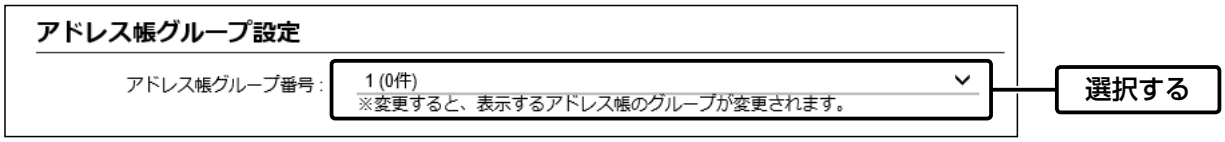
無線機コントローラー設定 > 設定グループ > アドレス帳

■ アドレス帳について

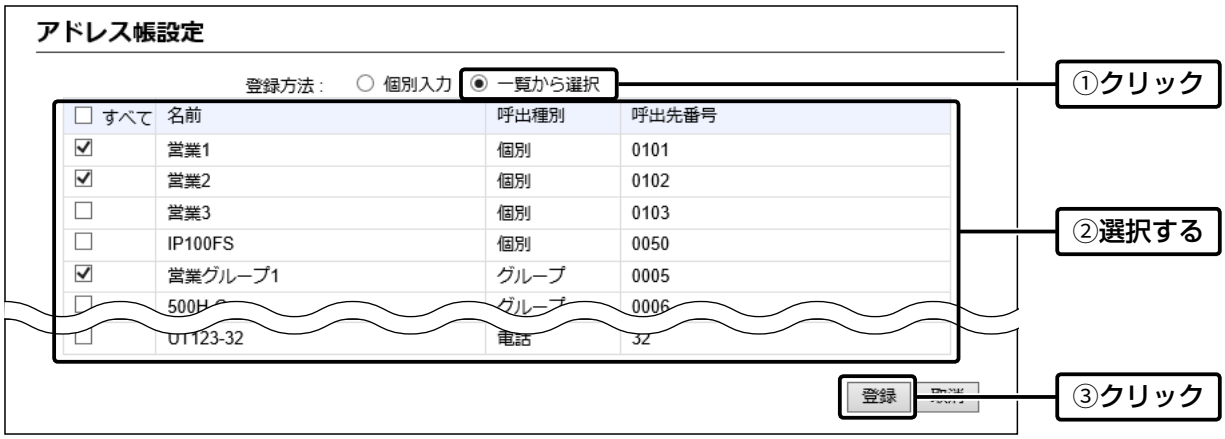
IP100Hが使用するアドレス帳を登録します。
※登録後は、IP100Hの再起動が必要です。
※アドレス帳を使用する場合は、「無線機個別」画面の[アドレス帳からの呼出]欄を「有効」に設定してください。

1 「無線機コントローラー設定」メニュー、「設定グループ」、「アドレス帳」の順にクリックします。
「アドレス帳」画面が表示されます。

2 [アドレス帳グループ設定]項目で、アドレス帳グループ番号を選択します。
※この画面で選択したアドレス帳グループ番号(例：1)を、「設定グループ詳細」画面で指定します。
※グループ番号ごとに、登録されているアドレス帳が切り替わります。(最大50グループ)



3 [一覧から選択]をクリックし、登録する呼出先を選択して、〈登録〉をクリックします。



4 [アドレス帳設定一覧]項目で、登録した内容を確認します。

個別入力する場合の名前について
◎IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。
◎環境依存文字を入力しないでください。
環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。

2. 無線LANトランシーバーの構築について

無線機コントローラー設定 > 設定グループ > メッセージ

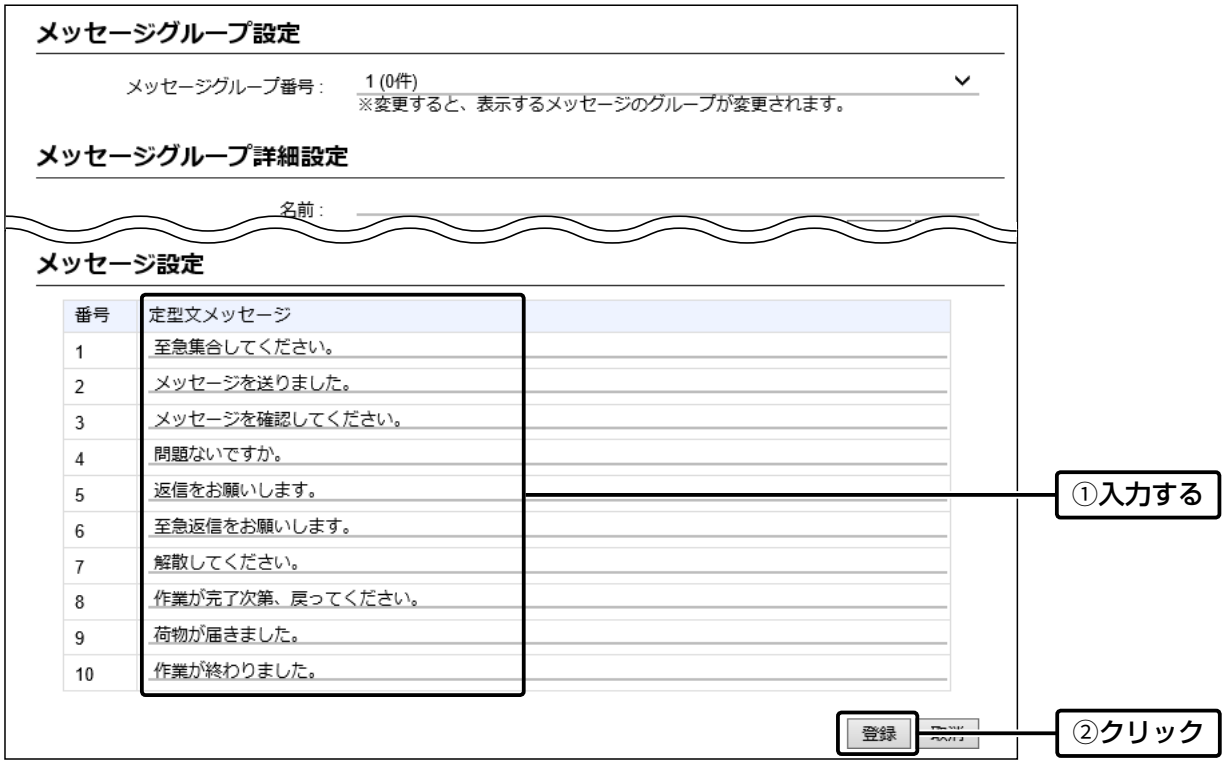
■ メッセージについて

IP100Hが送信するメッセージを登録します。
※登録後は、IP100Hの再起動が必要です。
※メッセージを使用する場合は、「無線機個別」画面の[メッセージ]欄を「有効」に設定してください。

1 「無線機コントローラー設定」メニュー、「設定グループ」、「メッセージ」の順にクリックします。
「メッセージ」画面が表示されます。

2 [メッセージグループ設定]項目で、メッセージグループ番号を選択します。
※この画面で選択したメッセージグループ番号(例：1)を、「設定グループ詳細」画面で指定します。
※グループ番号ごとに、登録されているメッセージが切り替わります。(最大50グループ)

3 [メッセージ設定]項目で、IP100Hから送信できる定型メッセージを半角32(全角16)文字以内で入力して、〈登録〉をクリックします。
※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。
※環境依存文字を入力しないでください。
　環境依存文字を使用すると、100Hの画面で正常に表示されません。
※グループごとに、最大10件まで登録できます。



2. 無線LANトランシーバーの構築について

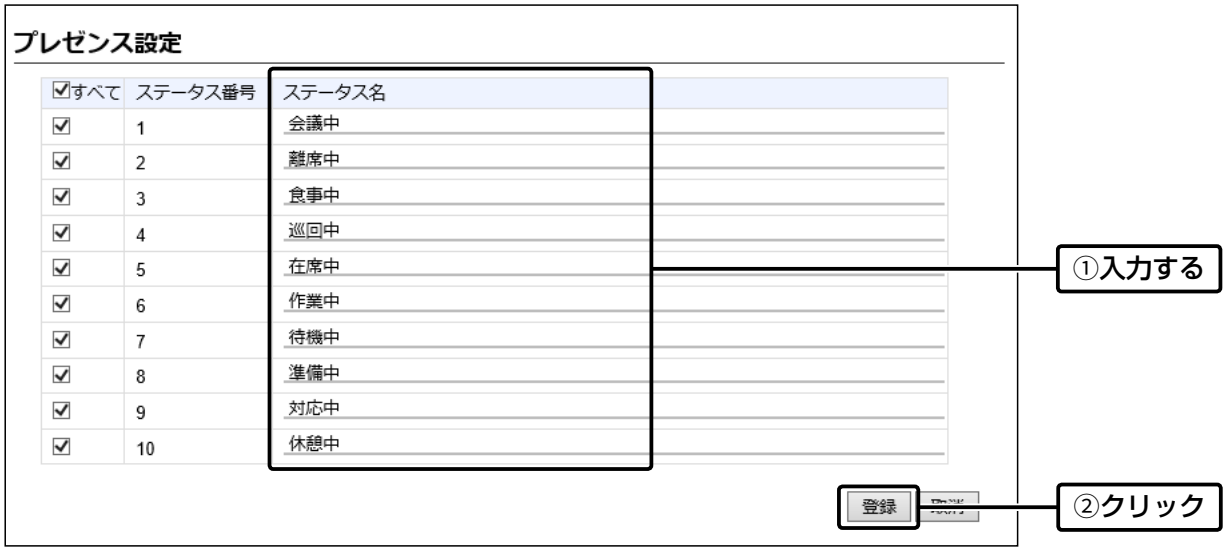
無線機コントローラー設定 > 設定グループ > プレゼンス

■ プレゼンスについて

IP100Hが送信するステータス情報を登録します。
※登録後は、IP100Hの再起動が必要です。
※プレゼンスを使用する場合は、「無線機個別」画面の[プレゼンス]欄を「有効」に設定してください。

1 「無線機コントローラー設定」メニュー、「設定グループ」、「プレゼンス」の順にクリックします。
「プレゼンス」画面が表示されます。

2 [プレゼンス設定]項目で、IP100Hから送信するステータス情報は半角32(全角16)文字以内で入力して、〈登録〉をクリックします。
※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。
※環境依存文字を入力しないでください。
　環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。
※最大10件まで登録できます。
※画面左のチェックマークをはずすと、登録した内容がIP100Hに表示されません。



2. 無線LANトランシーバーの構築について

無線機コントローラー設定 > 設定グループ > 設定グループ詳細

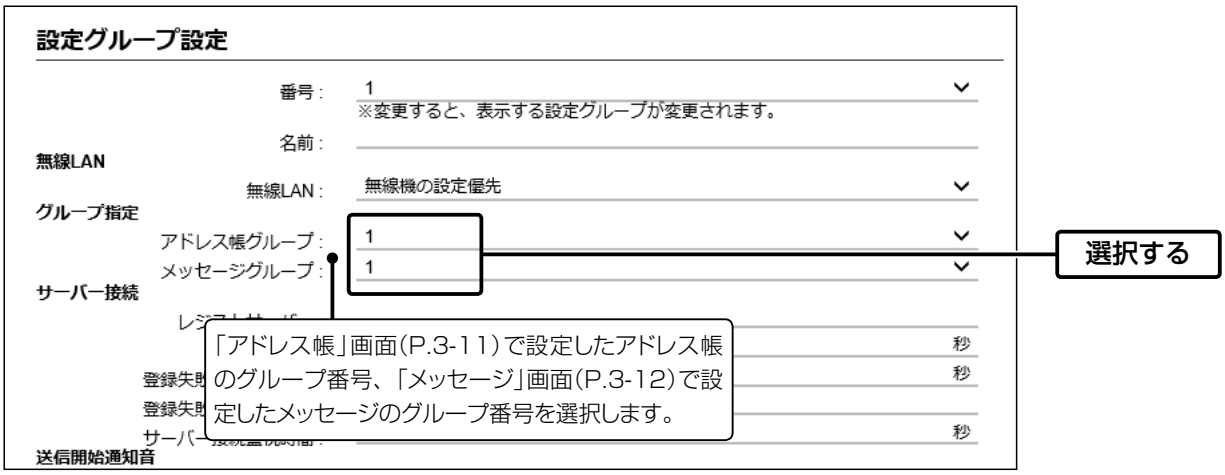
■ 設定グループで共用するアドレス帳とメッセージについて

IP100Hが所属する設定グループで使用するアドレス帳、メッセージを指定します。
※登録後は、IP100Hの再起動が必要です。

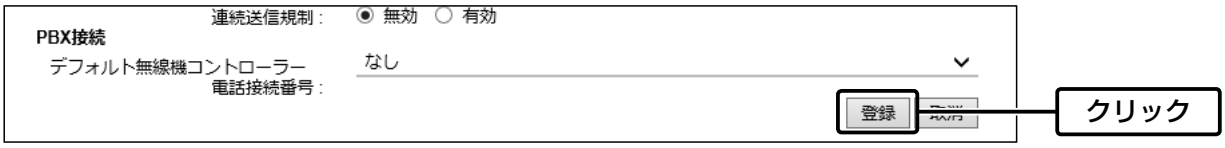
1 「無線機コントローラー設定」メニュー、「設定グループ」、「設定グループ詳細」の順にクリックします。
「設定グループ詳細」画面が表示されます。

2 [設定グループ設定]項目で、設定グループの番号(例：1)を選択します。
※設定グループの番号は、「無線機追加」画面でIP100Hごとに指定した番号です。

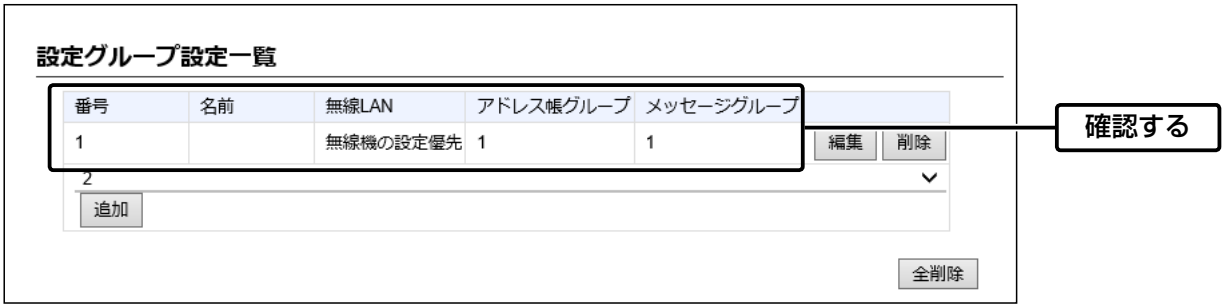
3 [設定グループ設定]項目で、使用するアドレス帳とメッセージのグループ番号を選択します。



4 〈登録〉をクリックします。



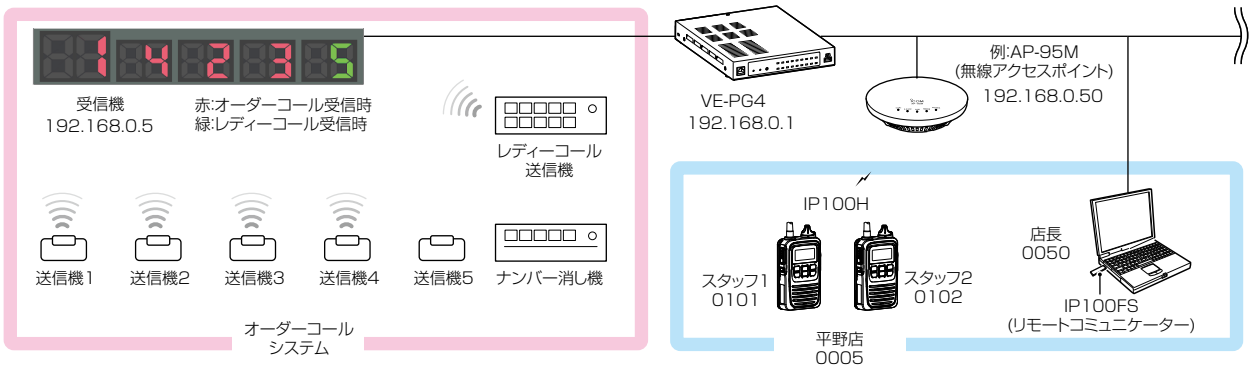
5 [設定グループ設定一覧]項目で、登録した内容を確認します。



3. オーダーコールシステムについて

オーダーコールシステムと連携して運用する場合は、本製品の専用ページにアクセスして設定します。
無線機の再起動後、本製品に登録されたIP100H、IP100FSで、オーダーコールシステムの受信機に表示される内容を常時確認できるようになります。
オーダーコールシステムの送信機からの呼び出しを、IP100Hの音声アナウンス、通知音や振動で確認できます。

※オーダーコールシステムの操作や設定など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書と併せてご覧ください。
本書では、ご使用になるオーダーコールシステムの設定などは完了しているものとして説明しています。



オーダーコールシステム連携時の初期設定について(P.3-16)
オーダーコールシステム受信機のIPアドレスを本製品に登録します。

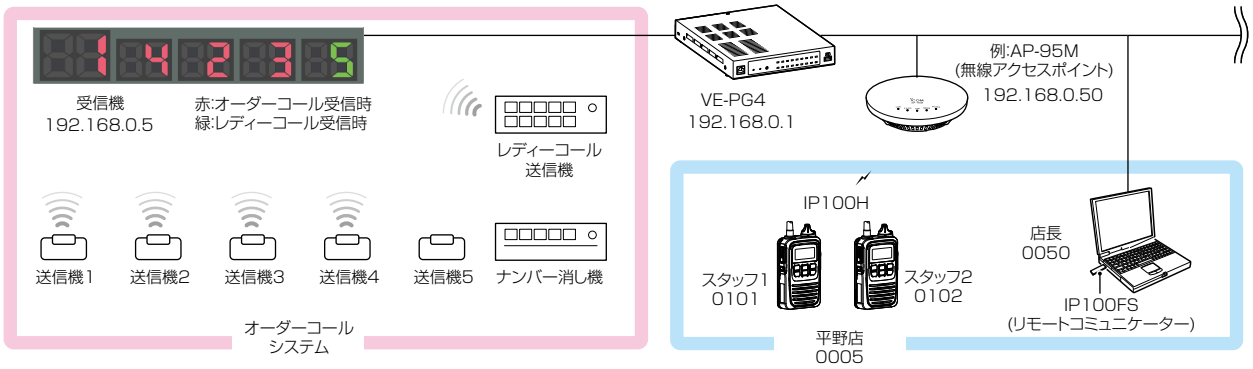
オーダーコールシステム連携時のグループ設定について(P.3-18)
必要に応じて、オーダーコールシステムのグループごとに、呼び出しを確認する音声アナウンスを設定します。

オーダーコールシステム連携時の設定について(P.3-20)
◎「無線機個別」画面で、オーダーコールアナウンス時の通知音量、[オプション]キーの機能を設定します。
◎「設定グループ詳細」画面で、オーダーコール時やレディーコール時の通知音、所属するオーダーコールシステムグループを設定します。

オーダーコールシステム連携時の操作について(P.3-22)
「設定グループ詳細」画面で指定したオーダーコールグループに登録されたすべての受信機に表示されている番号を、確認したり、消去したりできます。

オーダーコールシステム連携時の音声データについて(P.3-23)
音声データ(拡張子:wav)をUSBメモリー(市販品)に保存後、本製品にUSBメモリーを差し込むと、音声アナウンスに使用できます。
※音声データが読み込まれていない状態や通知する内容に一致する音声ファイル名がない場合は、本製品に内蔵された標準音声データを使用します。

3. オーダーコールシステムについて

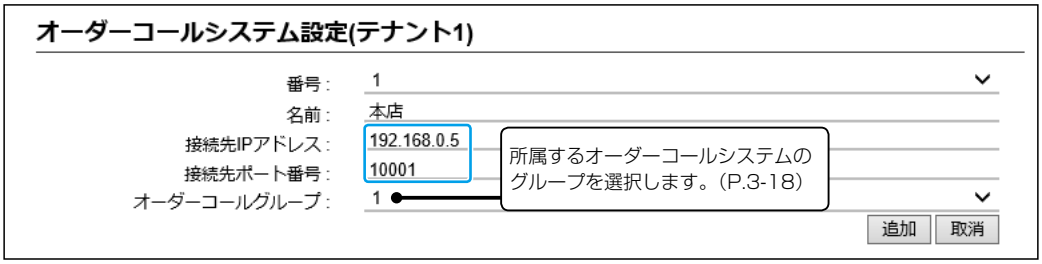


オーダーコールシステム連携時の初期設定について

1. WWWブラウザーのアドレスバーに、「http://[本製品のIPアドレス]/cgi-bin/ordercall.cgi」の形式で、本製品に設定されたIPアドレス(初期設定：192.168.0.1)を入力し、[Enter]キーを押します。
   ※初期設定後、オーダーコールシステムとの接続状態を確認する場合、または連携を解除する場合は、手順1の操作で専用ページにアクセスしてください。

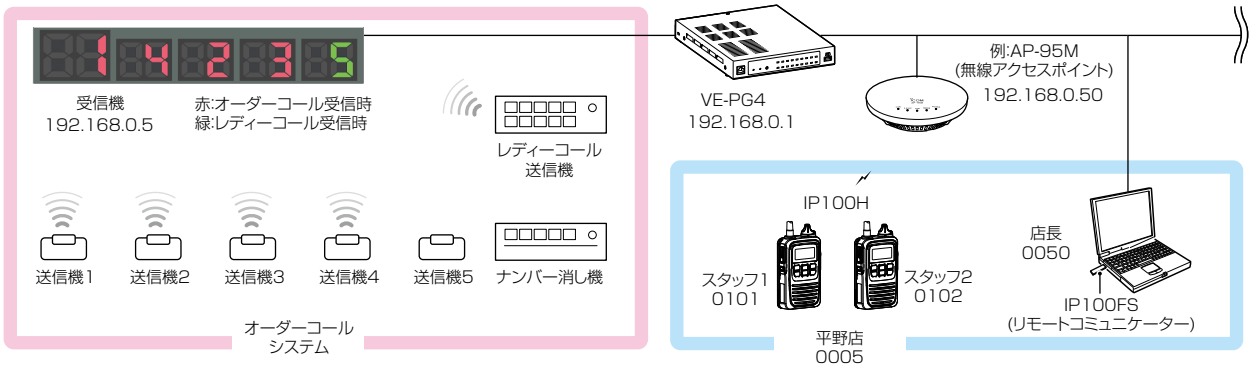
2. 「オーダーコールシステム」画面で、[オーダーコールシステム]欄を「有効」に設定します。

3. 〈登録〉をクリックします。
4. [接続先IPアドレス]欄にオーダーコールシステム受信機のIPアドレス(例：192.168.0.5)、[接続先ポート番号]欄にオーダーコールシステム受信機のポート番号(例：10001)を入力し、〈追加〉をクリックします。
   ※最大20件のオーダーコールシステムを登録し、10グループまで登録できます。



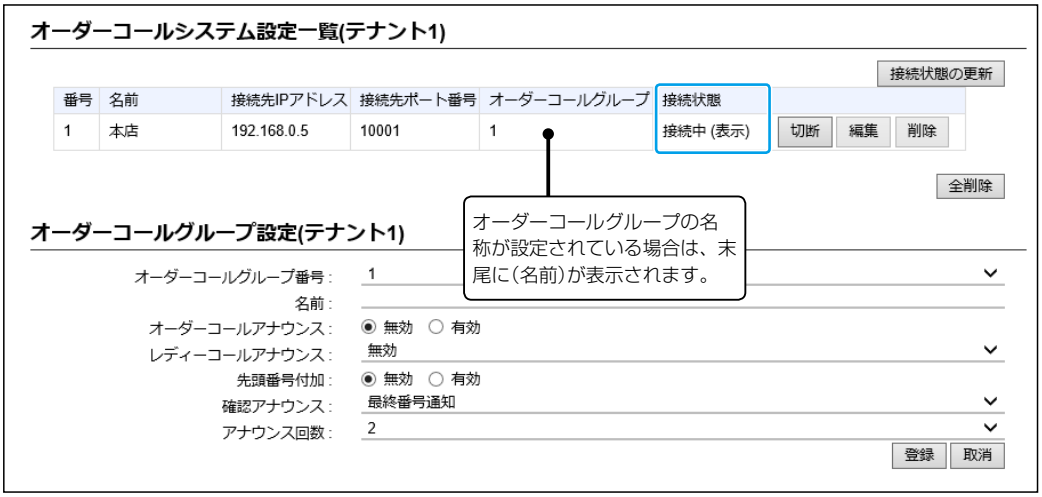
(次ページにつづく)

3. オーダーコールシステムについて



オーダーコールシステム連携時の初期設定について

5. 〈接続〉をクリックして、[接続状態]欄に「接続中」が表示されることを確認します。
   ※〈接続状態の更新〉をクリックしても、「接続中(表示)」、または「接続中」と表示されない場合は、〈編集〉をクリックして設定内容を確認してください。



受信機の複数台接続について

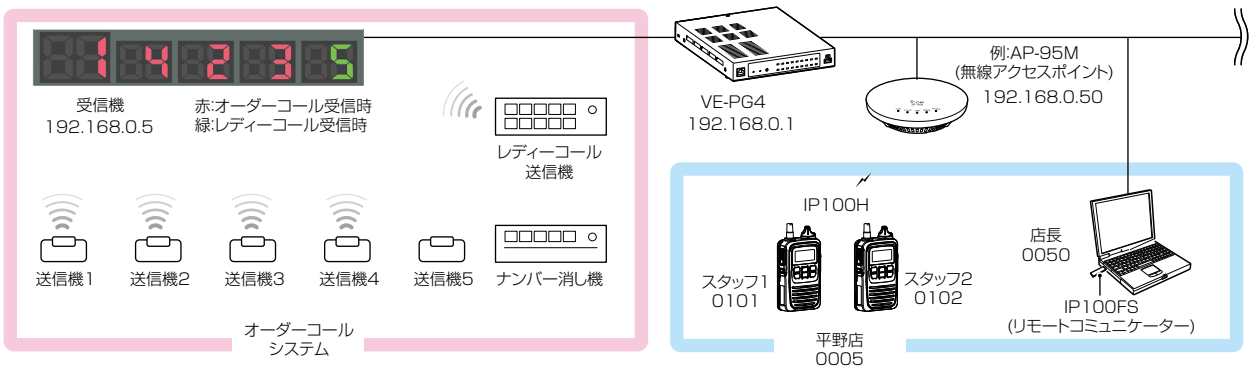
◎オーダーコールグループに対して、複数の受信機が接続できます。

◎受信機を複数接続すると、最初に本製品と接続できた受信機がマスターになり、そのほかの受信機にはマスターと同じ内容が表示されます。

◎各オーダーコールグループで、IP100Hの画面表示と連動する受信機は、表示される接続状態(上図)が「接続中(表示)」になり、そのほかの受信機は「接続中」になります。

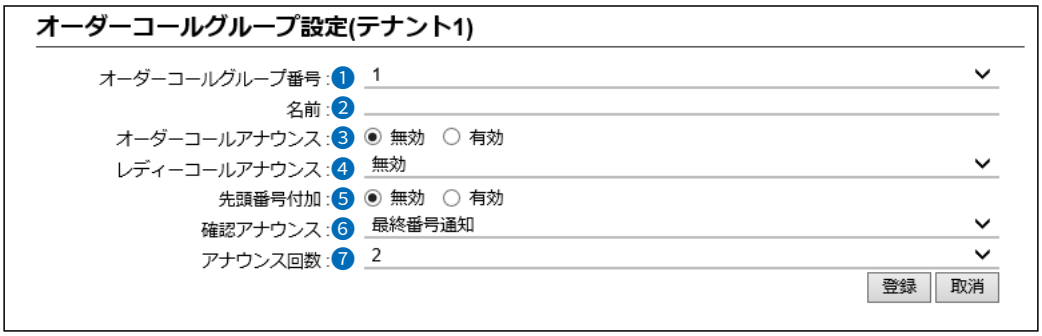
◎IP100Hから消去操作をすると、所属するオーダーコールグループの受信機(マスター)に表示されている一番左の番号を、すべての受信機から一斉に消去できます。
IP100FSからは、任意の番号を消去できます。

3. オーダーコールシステムについて



オーダーコールシステム連携時のグループ設定について

必要に応じて、オーダーコールシステムのグループごとに、呼び出しを確認するアナウンスが設定できます。



❶ オーダーコールグループ番号 …　アナウンスを設定するオーダーコールシステムのグループ番号を、「1」～「10」から選択します。

❷ 名前 ……　任意の名称を、31文字以内で入力します。

❸ オーダーコールアナウンス ……　オーダーコールの送信機で呼び出しボタンが押されると通知する音声アナウンスを設定します。（初期設定：無効）

◎**無効**：　通知しません。

◎**有効**：　押された呼び出しボタンの番号を通知します。

❹ レディーコールアナウンス ……　レディーコールの送信機で呼び出しボタンが押されると通知する音声アナウンス(「コール」)を設定します。（初期設定：無効）

◎**無効**　：通知しません。

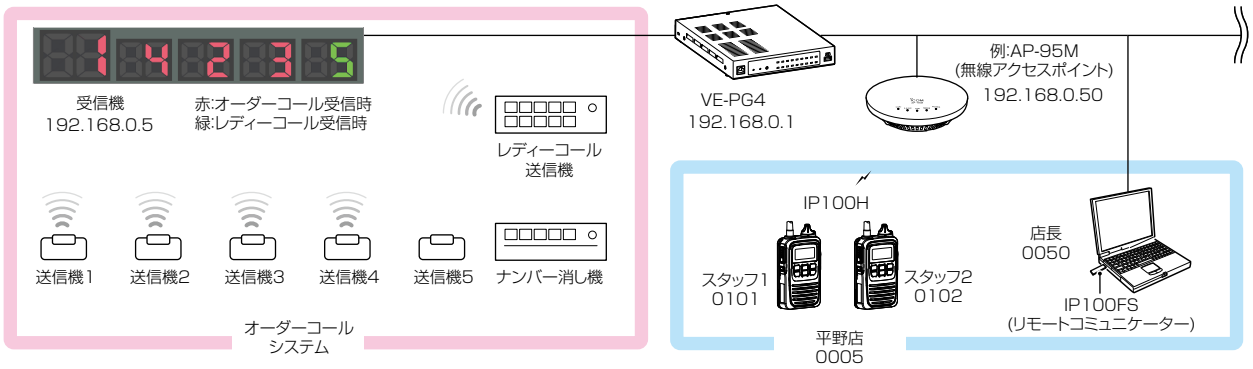
◎**有効(番号通知なし)**：呼び出しボタンが押されたことを通知します。

◎**有効(番号通知あり)**：「コール」(P.3-24)につづき、押された呼び出しボタンの番号を通知します。

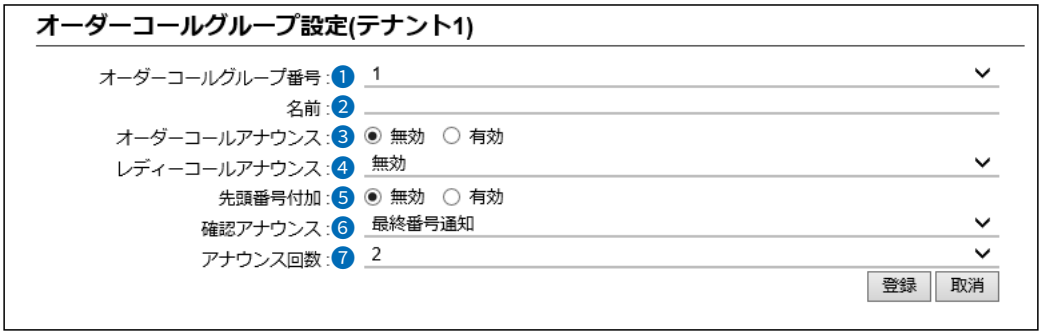
❺ 先頭番号付加 ……　オーダーコール(❸)、またはレディーコール(❹)をアナウンスしたあとに、受信機の一番左に表示されている番号も通知するときに設定します。
先頭番号には「ファースト」(P.3-24)を付加して通知します。
（初期設定：無効）

（次ページにつづく）

3. オーダーコールシステムについて



オーダーコールシステム連携時のグループ設定について



❻ 確認アナウンス ……

IP100Hの[オプション]キーを短く押して、オーダーコール(受信機に表示された番号)を音声アナウンスで確認するときに設定します。

(初期設定：無効)

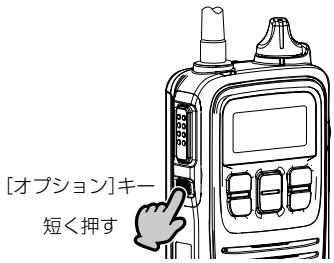
※確認アナウンスの対象になるのは、オーダーコールだけです。

※「無線機個別」画面の[キー割当]で、[確認アナウンス]を「有効」にする必要があります。(P.3-20)

◎**無効**　　：通知しません。

◎**先頭番号通知**：受信機の一番左に表示されている番号に「ファースト」(P.3-24)を付加して通知します。

◎**最終番号通知**：最後に押された送信機の番号を通知します。

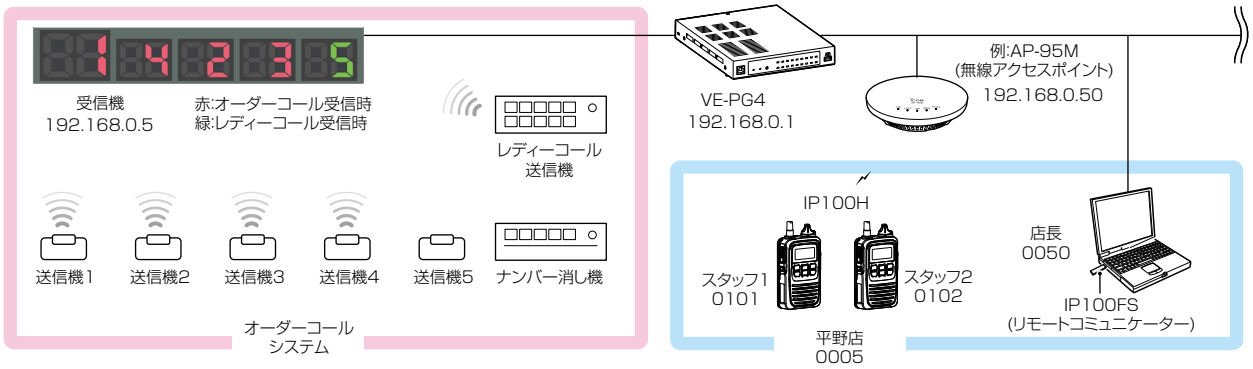


❼ アナウンス回数 ……

オーダーコールアナウンス(❸)、またはレディーコールアナウンス(❹)、確認アナウンス(❻)で通知するときの回数を、「1」～「3」から選択します。

(初期設定：2)

3. オーダーコールシステムについて

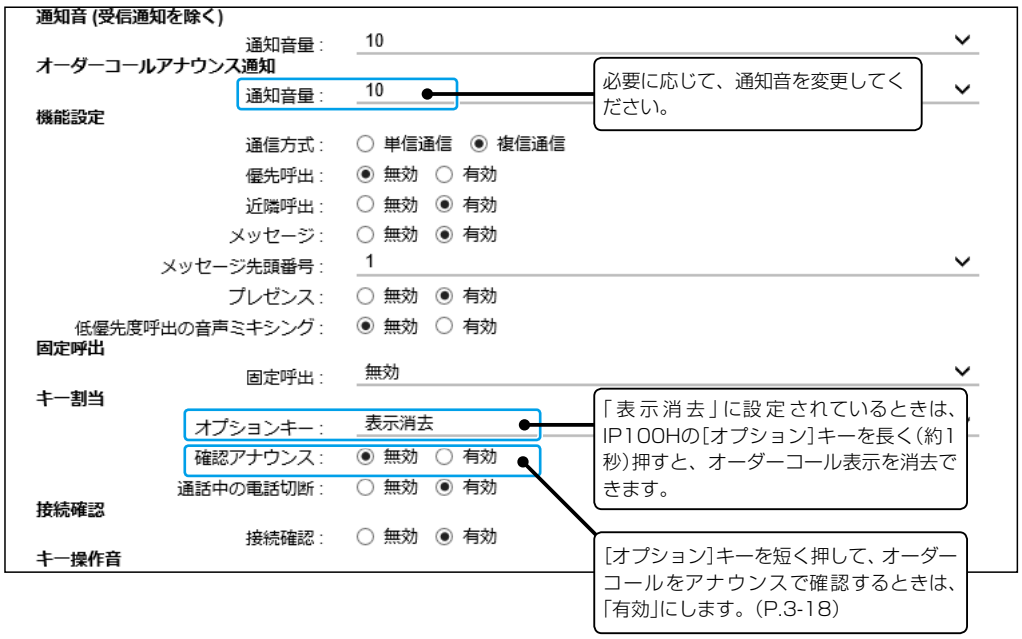


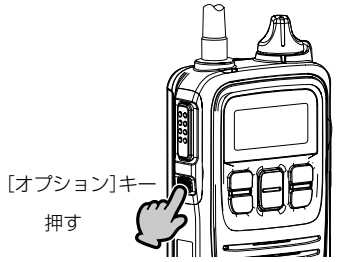
オーダーコールシステム連携時の設定について

オーダーコールシステム連携に切り替わると、表示される設定画面や設定項目が一部変更になります。

「無線機設定」→「無線機個別」画面

◎[オーダーコールアナウンス通知]→[通知音量]
◎[キー割当]→[オプションキー]
◎[キー割当]→[確認アナウンス]
※「表示項目」は、「オーダーコール」(変更不可)になります。

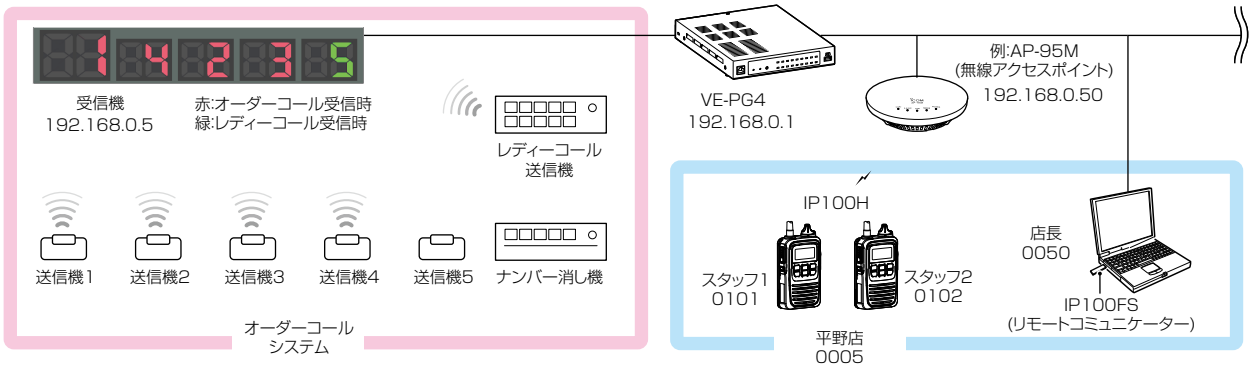




短押し：オーダーコールをアナウンスで確認するとき
長押し：オーダーコールの表示を消去するとき

(次ページにつづく)

3. オーダーコールシステムについて

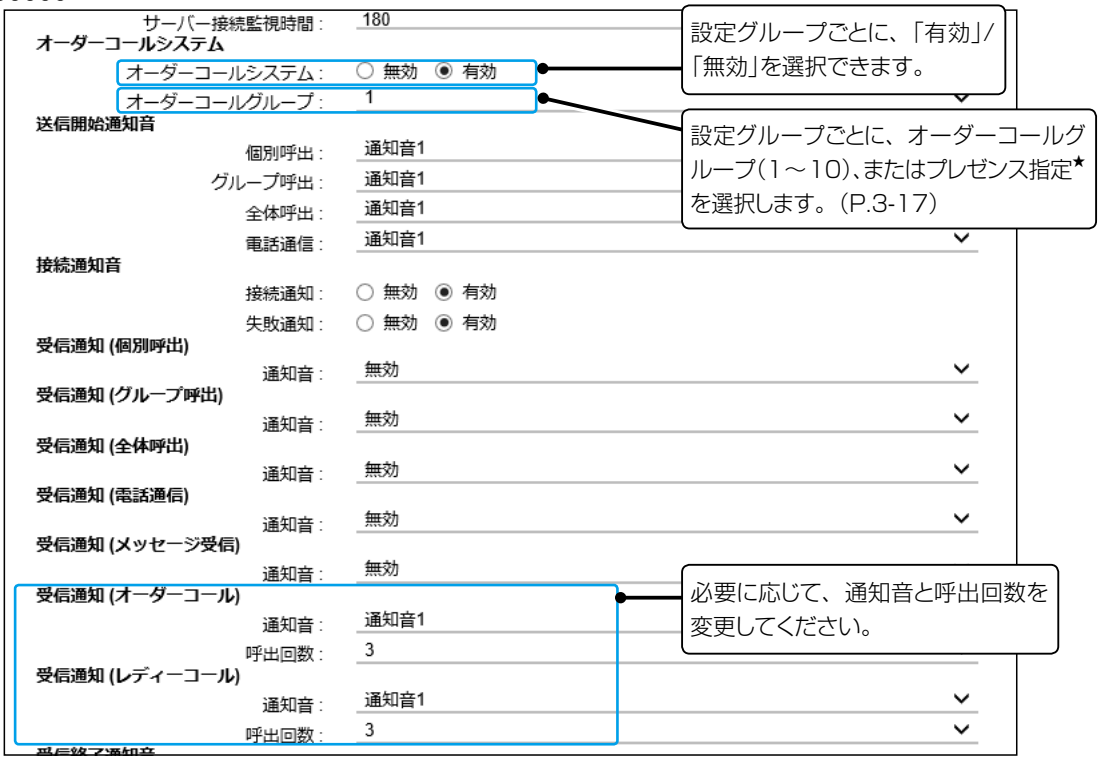


オーダーコールシステム連携時の設定について

オーダーコールシステム連携に切り替わると、表示される設定画面や設定項目が一部変更になります。

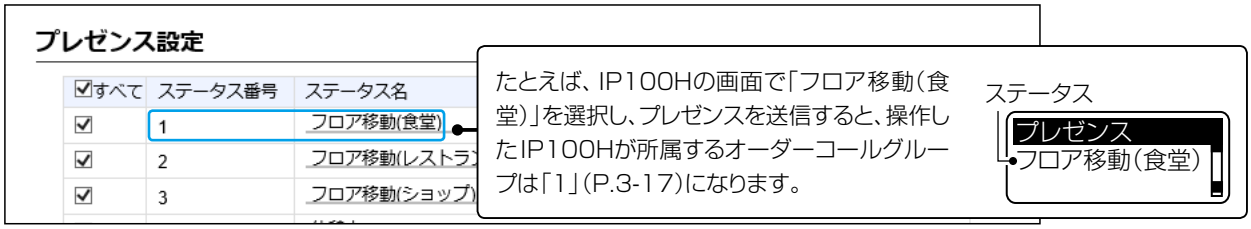
「設定グループ」→「設定グループ詳細」画面

◎[オーダーコールシステム]→[オーダーコールシステム]
◎[オーダーコールシステム]→[オーダーコールグループ]
◎[受信通知音]

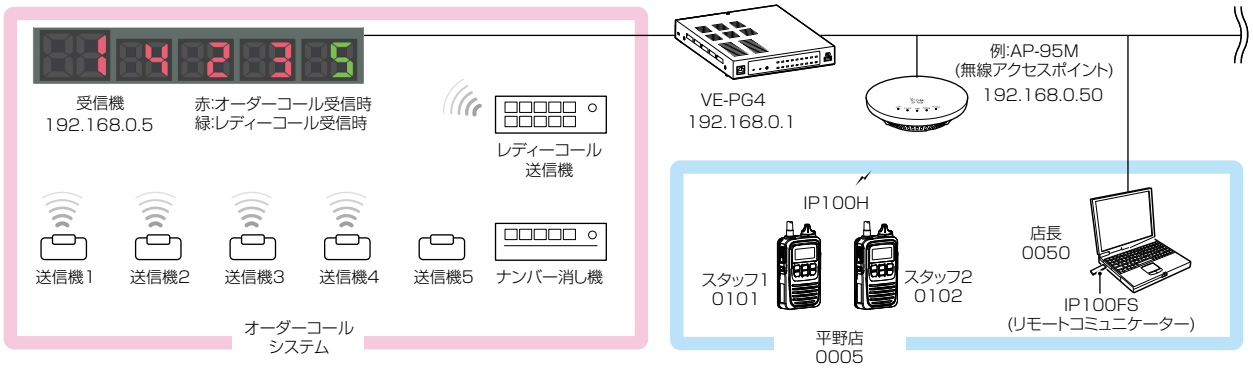


★[オーダーコールグループ]欄で「プレゼンス指定」を選択したときは、送信するステータス情報の番号(下図参照)に応じて、所属するオーダーコールグループが切り替わります。

「設定グループ」→「プレゼンス」画面



3. オーダーコールシステムについて



オーダーコールシステム連携時の操作について

オーダーコールシステム連携に切り替わると、画面に表示される内容や操作が一部変更になります。

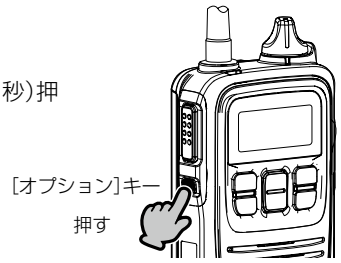
※「設定グループ詳細」画面で指定したオーダーコールグループごとに、受信機に表示されている番号を確認したり消去したりできます。

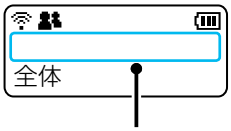
●IP100Hでは

オーダーコールシステム連携時、呼び出しボタンを押した送信機の番号が画面に表示されます。

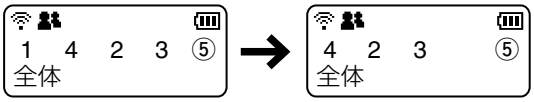
※表示番号の点滅機能には対応していません。

※[オプション]キーに「表示消去」を割り当てている場合、IP100Hの[オプション]キーを長く(約1秒)押すと、受信機の一番左に表示されている番号が消去できます。





通常の待受画面(P.3-6)と異なり、オーダーコールシステム連携時の待受画面には、日時が表示されません。



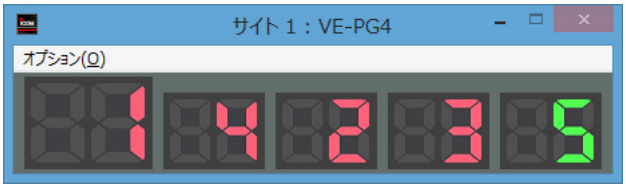
オーダーコールは左から消去されます。

※丸数字はレディーコールを示します。

●IP100FSでは

オーダーコールシステム連携時、オーダーコールシステム受信機の状態画面が別画面で常時表示されます。

※番号表示の点滅機能には対応していません。



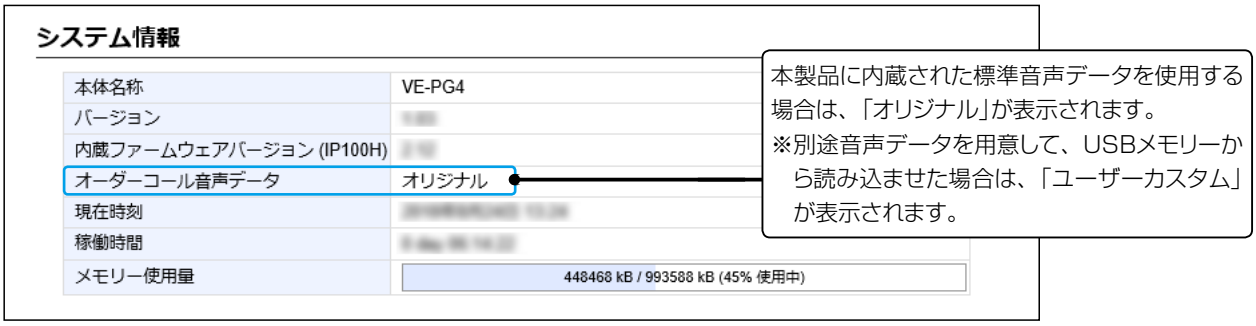
オーダーコール、レディーコールとも任意の番号を消去できます。

消去するときは、画面上の番号表示をクリックします。

3. オーダーコールシステムについて

オーダーコールシステム連携時の音声データについて

オーダーコールシステム連携に切り替わると、「TOP」画面に［オーダーコール音声データ］欄が表示されます。



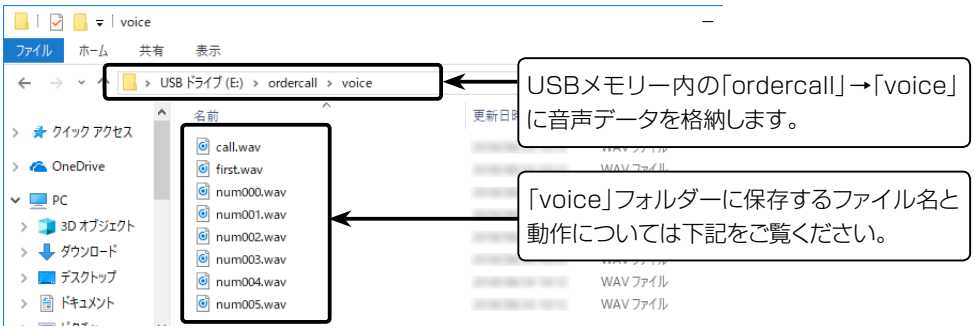
【対応するフォーマットについて】

コーデック	サンプリング周波数	ビット数	チャンネル数	コンテナフォーマット
リニアPCM	8kHz	16ビット	モノラル	wav
G711 μ-law	8kHz	8ビット	モノラル(μ-law)	wav

※あらかじめ音声ファイルの最初と最後に50msの無音区間が挿入されている必要があります。
※音声ファイルは、1つあたり最大5秒までです。
　5秒以上の音声ファイルは最初の5秒区間だけ再生します。
※音声データが読み込まれていない状態や通知する内容に一致する音声ファイル名がない場合は、本製品に内蔵された標準音声データを使用します。

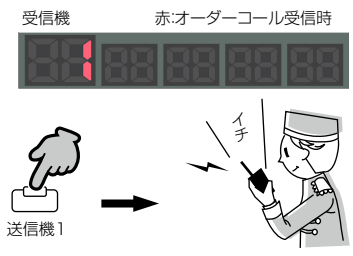
【音声データのファイル名と保存先について】

本製品に読み込ませる音声データ(拡張子：wav)は、下図のようにUSBメモリーにフォルダーを用意し、格納してください。
※USBメモリーのルートフォルダーに自身の本体LAN側MACアドレスと一致するフォルダーがある場合は、その中に格納されているordercallフォルダーに保存されているデータを読み込みます。
　この場合、ルートフォルダーにあるordercallフォルダーは参照されません。



◎ファイル名の数字部分と押されたボタンの番号がリンクしています。
　オーダーコールで、送信機1番の呼び出しボタンを押すと、「num001.wav」を再生します。
　たとえば、「num001.wav」が「イチ」の場合は、「イチ」となります。

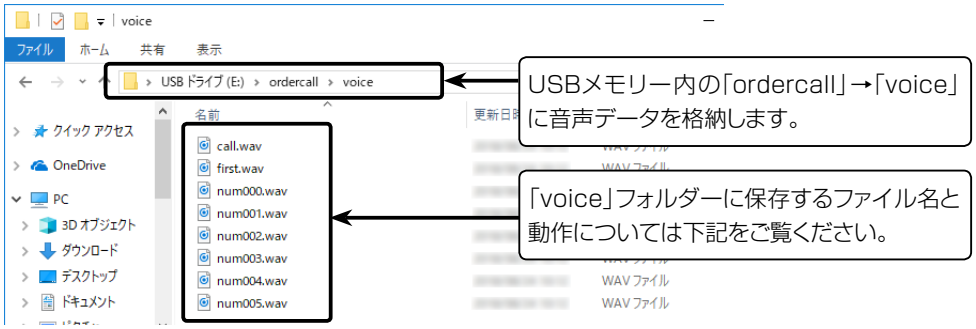
num000.wav ：0番押下
　⟨　　⟨
num099.wav ：99番押下



（次ページにつづく）

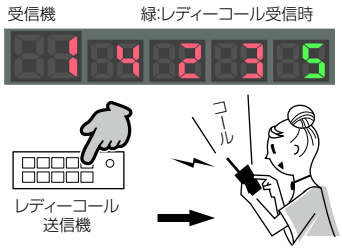
3. オーダーコールシステムについて

【音声データのファイル名と保存先について】



◎レディーコールアナウンス(P.3-18)が「有効(番号通知なし)」に設定されている場合

レディーコールの送信機で呼び出しボタンを押すと、「call.wav」を再生します。
たとえば、「call.wav」が「コール」の場合は、「コール」となります。



◎レディーコールアナウンス(P.3-18)が「有効(番号通知あり)」に設定されている場合

レディーコールの送信機で呼び出しボタンを押すと、「call.wav」と押されたボタンの番号(例:5)を結合し、再生します。
たとえば、「call.wav」が「コール」の場合は、「コール ゴ」となります。

◎先頭番号付加(P.3-18)が「有効」、または確認アナウンス(P.3-19)が「先頭番号通知」に設定されている場合

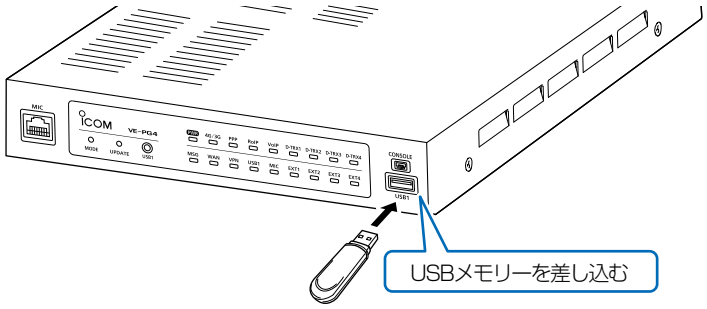
オーダーコールシステム受信機の一番左に表示されている番号をアナウンスするときは、「first.wav」と先頭番号(例:1)を結合し、再生します。
たとえば、「first.wav」が「ファースト」の場合は、「ファースト イチ」となります。

3. オーダーコールシステムについて

オーダーコールシステム連携時の音声データについて

【音声データの読み込みについて】

音声データが保存されたUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込んでください。
また、[USB]ランプが ● 緑点灯しているときに、USBメモリーを取りはずしたり、本製品の電源を切ったりすると、データ消失や故障の原因になります。



ご参考

「管理」メニューの「管理ツール」画面で、[USBメモリー]欄を「有効」に設定してください。
※[USBアクセス許可]欄、[USB認証キー]欄の設定に関係なく使用できます。

ご注意

◎USBメモリーをお使いの前に、「■ USBストレージデバイス使用時のご注意」も併せてご覧ください。（P.5-11）
◎USBメモリーは、1つのUSBポートにだけ接続してください。
　複数のUSBポートを同時には使用できません。
◎読み込んだ音声データをご利用になる場合は、USBメモリーは本製品に取り付けた状態のまま運用してください。
◎音声データを使わなくなった場合など読み込んだ内容を消去するときは、データ保護のため、必ず〈USB〉ボタンを押しつづけ、USBランプが消灯してから、USBメモリーを取りはずしてください。

内線の構築

第 4 章

この章では、
IP電話機をご使用いただくために必要な基本設定の手順を説明しています。

1. ご使用になるまでの流れ …… 4-2
■ 設定の流れについて …… 4-2
2. 内線電話の構築について …… 4-3
■ 電話機などの接続について …… 4-3
■ 電話機の登録について …… 4-4
■ 特番設定 …… 4-6
■ 電話機の設定 …… 4-7
3. 無線機コントローラー電話接続の内線番号設定について …… 4-8
4. 呼出先設定について …… 4-9
5. 呼出先電話番号の設定について …… 4-10
6. KXシリーズの電話機について …… 4-11
■ ご使用になるまでの流れ …… 4-11
■ 固定IPアドレスでご使用になる場合は(KX-UTシリーズ) …… 4-12
■ 固定IPアドレスでご使用になる場合は(KX-HDVシリーズ) …… 4-13
■ 本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は(KX-UTシリーズ) …… 4-14
■ 本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は(KX-HDVシリーズ) …… 4-15
■ 電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには …… 4-16
■ 電話機のボタン機能について(KX-UTシリーズ) …… 4-17
■ 発信操作について(KX-UTシリーズ) …… 4-19
■ 着信操作について(KX-UTシリーズ) …… 4-19
■ 保留/転送操作について(KX-UTシリーズ) …… 4-19
■ 電話機のボタン機能について(KX-HDVシリーズ) …… 4-20
■ 発信操作について(KX-HDVシリーズ) …… 4-22
■ 着信操作について(KX-HDVシリーズ) …… 4-22
■ 保留/転送操作について(KX-HDVシリーズ) …… 4-22
■ 電話機の操作について …… 4-23

4　内線の構築

1. ご使用になるまでの流れ

■ 設定の流れについて

設定画面を使用して設定する場合の流れです。
※運用形態によっては設定不要の項目もありますので、その場合は次の手順に進んでください。

1. ネットワーク設定(P.1-21)

ご利用の環境に合わせて、本製品の「IPアドレス」画面でIPアドレス(初期設定：192.168.0.1)、「DHCPサーバー」画面でDHCPサーバー機能(初期設定：無効)を設定します。

2. IP回線設定(取扱説明書[活用編])

運用形態に応じて、簡易中継サーバー(上位SIPサーバー)との接続設定、またはPeer to Peer(SIPサーバーを経由しない1対1の通話)のSIP URIを設定します。
※簡易中継サーバー(上位SIPサーバー)側に設定された内容をご確認ください。

3. PBX設定(P.4-4～P.4-7)

内線番号などを設定して、ご使用になる端末を本製品に登録します。

「基本」画面/「特番」画面
保留音、特別番号を設定します。

「内線個別」画面/「内線代表」画面/「着信」画面
本製品に登録する端末の内線番号、プリセット発信時の外線選択設定、本製品に接続する端末の機種、外線を着信させる端末の内線代表、または内線番号、鳴り分け判別の選択、内線代表内にある端末の鳴動設定(スライド着信)などを設定します。

「電話機」画面/「電話帳」画面(KXシリーズ)
IP電話機の機能(外線ボタン、機能ボタン)の割り当て、電話帳など、必要に応じて設定します。

4. 呼出先設定(P.4-9)

「内線個別」画面で登録した端末の内線番号を登録します。

5. 呼出先電話番号設定(P.4-10)

「内線個別」画面で登録した端末に呼出先電話番号を割り当て、呼出種別を設定します。

6. 無線機コントローラー電話接続設定

必要に応じて、「無線機コントローラー電話接続」画面で通信設定、各種制御設定、自動切断タイマーなどを設定します。

7. 電話機の登録(P.4-11～P.4-28)

PBX設定完了後、ご使用になる端末側の内線設定をします。
※内線設定、および操作については、ご使用になる端末に付属の取扱説明書を併せてご覧ください。

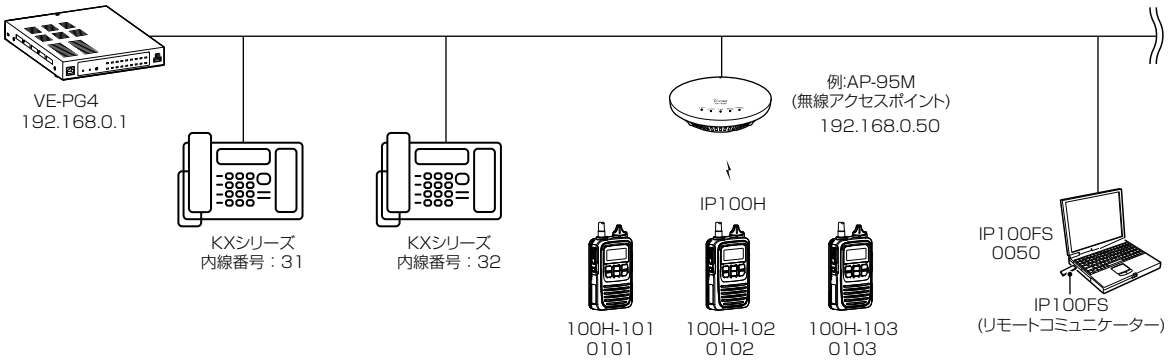
設定の更新について
本製品で変更した設定を端末に反映させるためには、端末の再起動が必要な場合がありますので、ご注意ください。

4　内線の構築

2. 内線電話の構築について

■ 電話機などの接続について

本製品に、IP電話機（SIPフォン）を最大25台まで登録できます。
※2019年5月現在、パナソニック社製IP電話機（KXシリーズ）が使用できます。
※ご使用になるIP電話機ごとに、「内線番号」の設定が必要です。
　内線代表番号やプレフィクスなど、番号が重複しないように構築してください。



使用する端末に内線番号を設定するときは

◎半角数字で2桁～7桁の番号にしてください。
◎緊急通報（110、118、119）の番号は使用しないでください。
◎「0」ではじまる番号は、使用しないでください。
※本製品の設定完了後、電話機本体側の設定をすると、内線電話としてご利用になれます。
※内線設定、および操作については、ご使用になる端末に付属の取扱説明書を併せてご覧ください。

2. 内線電話の構築について

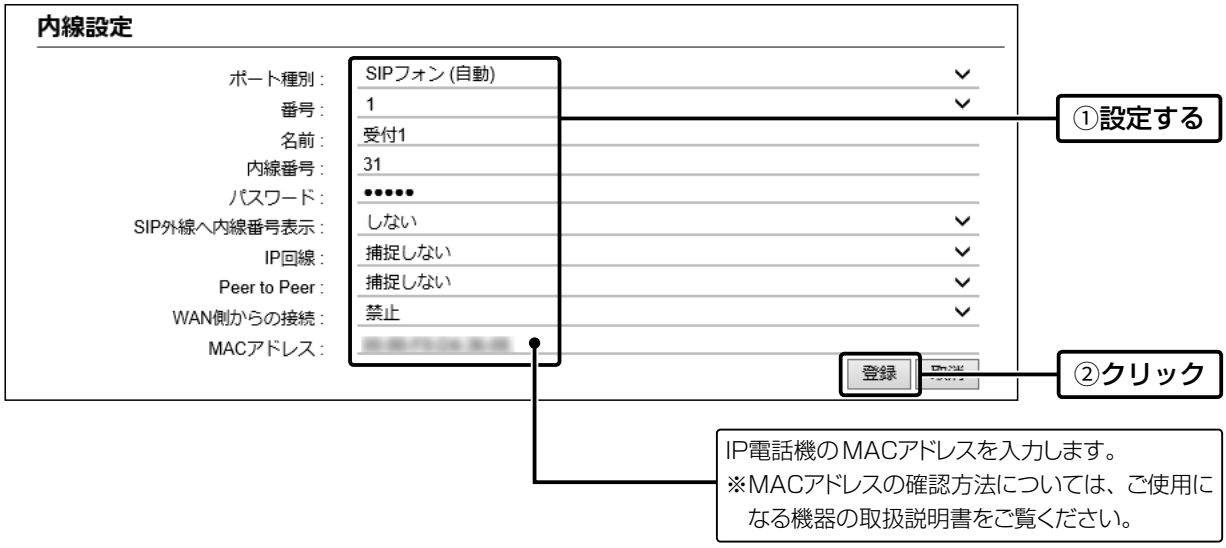
PBX設定 > 内線個別

■ 電話機の登録について

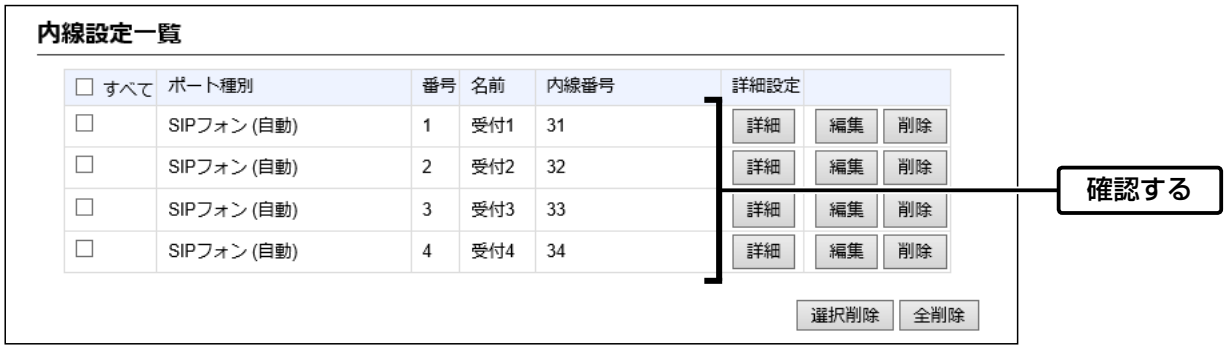
登録する電話機ごとに内線番号を設定します。

1 「PBX設定」メニュー、「内線個別」の順にクリックします。
「内線個別」画面が表示されます。

2 [内線設定]項目で、登録するポート種別、名前、内線番号(2桁～7桁の番号)、パスワード、MACアドレスを設定して、〈登録〉をクリックします。



3 [内線設定一覧]項目で、登録した内容を確認します。



使用する端末に内線番号を設定するときは

◎半角数字で2桁～7桁の番号にしてください。
◎緊急通報(110、118、119)の番号は使用しないでください。
◎「0」ではじまる番号は、使用しないでください。
※本製品の設定完了後、電話機本体側の設定をすると、内線電話としてご利用になれます。
※内線設定、および操作については、ご使用になる端末に付属の取扱説明書を併せてご覧ください。

4　内線の構築

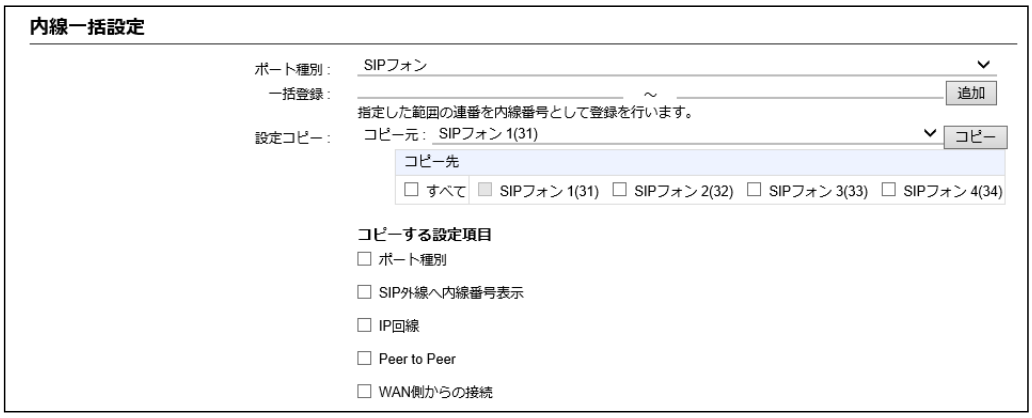
2. 内線電話の構築について

PBX設定 > 内線個別

■ 電話機の登録について

内線一括設定について

連番で内線番号を一括登録したり、すでに登録した設定内容をほかの内線番号にコピーしたりできます。



2. 内線電話の構築について

PBX設定 > 特番

■ 特番設定

フレキシブルボタンのない電話機などで操作したり、内部処理をしたりするために割り当てる特別番号について設定します。

1 「PBX設定」メニュー、「特番」の順にクリックします。
「特番」画面が表示されます。

2 特番を設定して、〈登録〉をクリックします。
※特に問題がある場合を除いては、初期設定でお使いください。
※任意の半角数字と半角記号(#、*)を3桁以内で入力します。
※緊急通報(110、118、119)の番号は使用しないでください。
※「0」ではじまる番号は使用しないでください。
※内線番号や内線代表番号と重複した数字は設定できません。
　また、内線番号や内線代表番号、他の特番の冒頭部と重複した数字や記号も設定できません。

2. 内線電話の構築について

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 電話機の設定

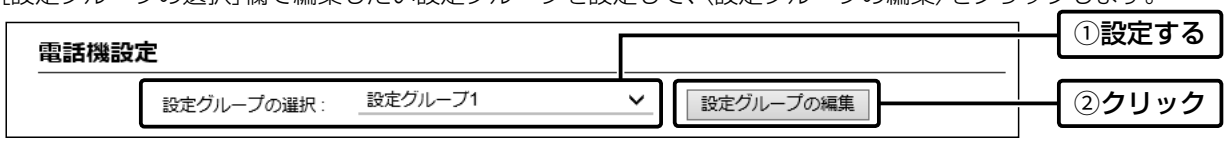
設定グループごとに機能の割り当てなどを設定します。

※電話機(KX-UTシリーズ)の場合を例に説明します。

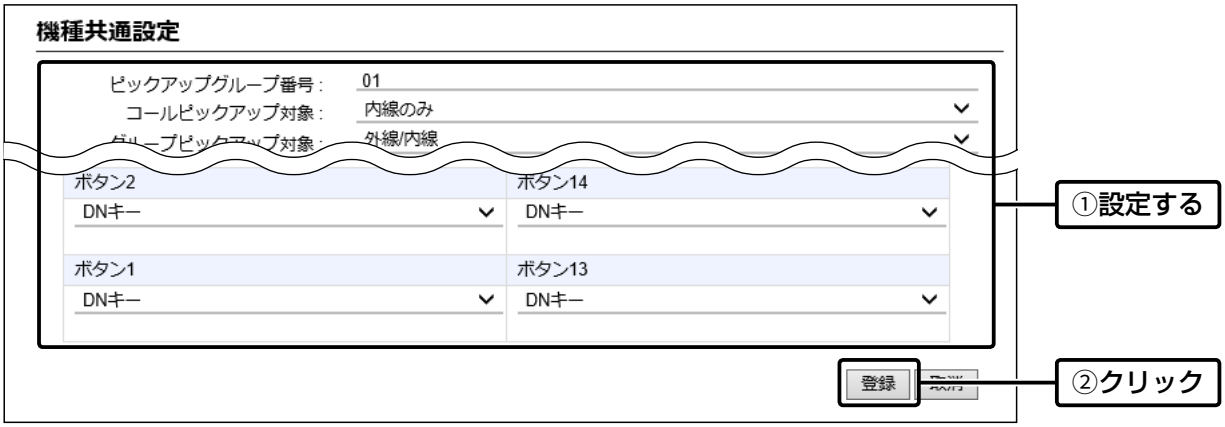
1 「PBX内線詳細設定」メニュー、「電話機(KX-UTシリーズ)」の順にクリックします。

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面が表示されます。

2 [設定グループの選択]欄で編集したい設定グループを設定して、〈設定グループの編集〉をクリックします。



3 必要に応じて機能の割り当てをして、〈登録〉をクリックします。



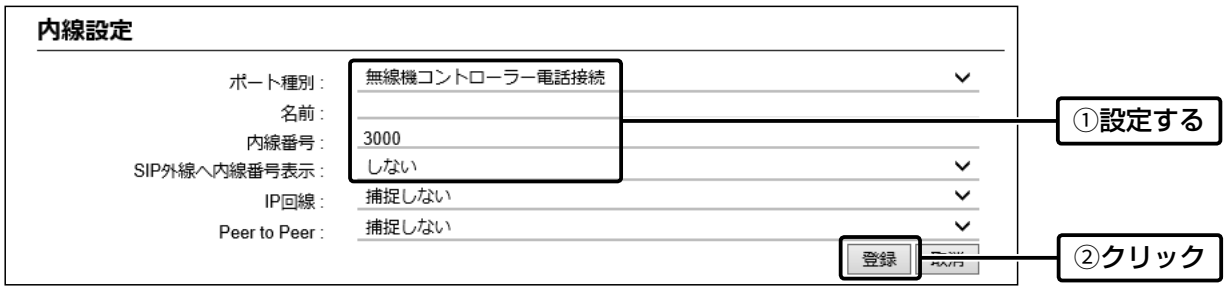
3. 無線機コントローラー電話接続の内線番号設定について

PBX設定 > 内線個別

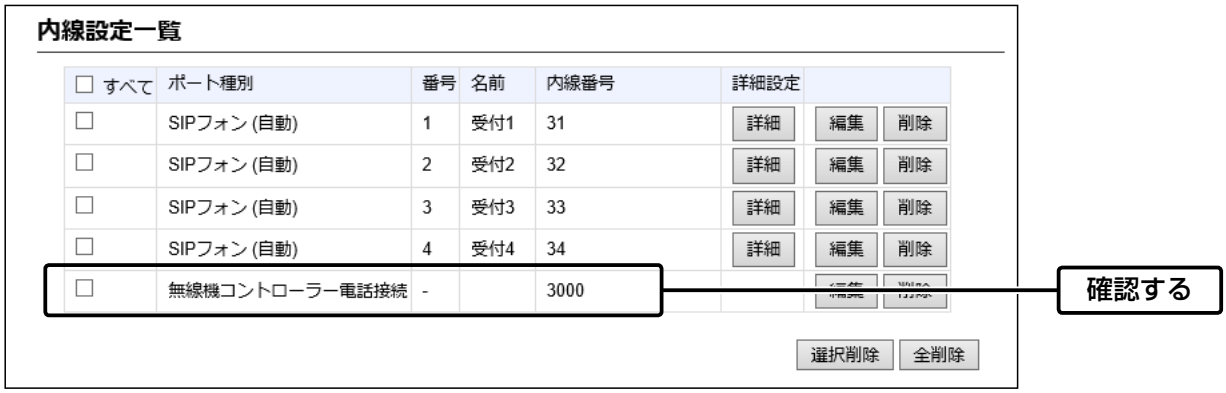
本製品に収容した無線機と電話機が通話するための内線番号を割り当てます。

1 「PBX設定」メニュー、「内線個別」の順にクリックします。
「内線個別」画面が表示されます。

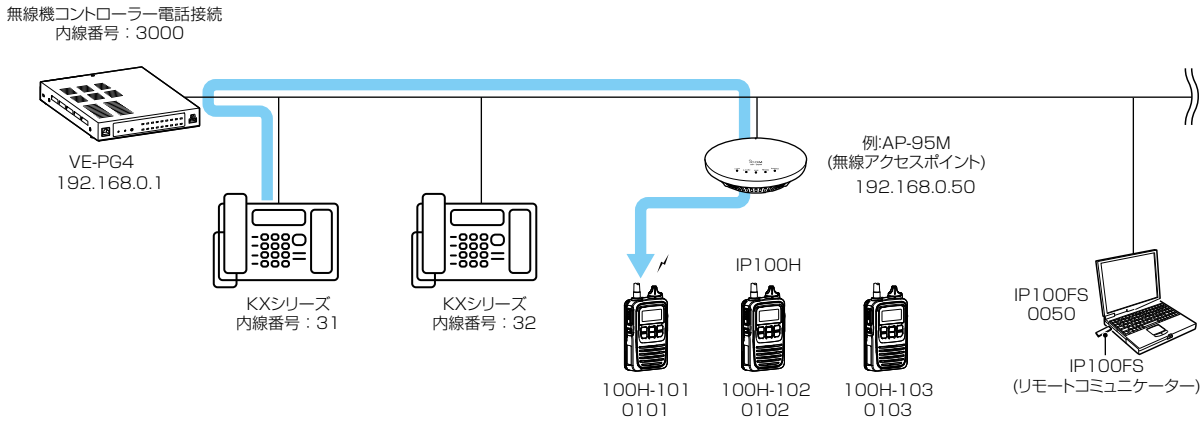
2 [内線設定]項目で、[ポート種別]欄に「無線機コントローラー電話接続」、名前、内線番号(2桁～7桁の番号)を設定して、〈登録〉をクリックします。



3 [内線設定一覧]項目で、登録した内容を確認します。



IP電話機から無線LANトランシーバーを呼び出すときは



IP電話機の受話器を上げて、「無線機コントローラー電話接続の内線番号」+「無線機呼出プレフィクス」+「呼出先番号」をダイヤルします。(例：3000＊101)

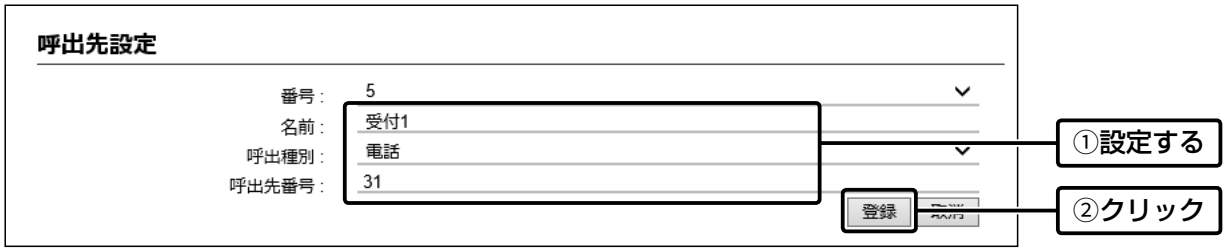
4. 呼出先設定について

呼出先設定 > 呼出先設定

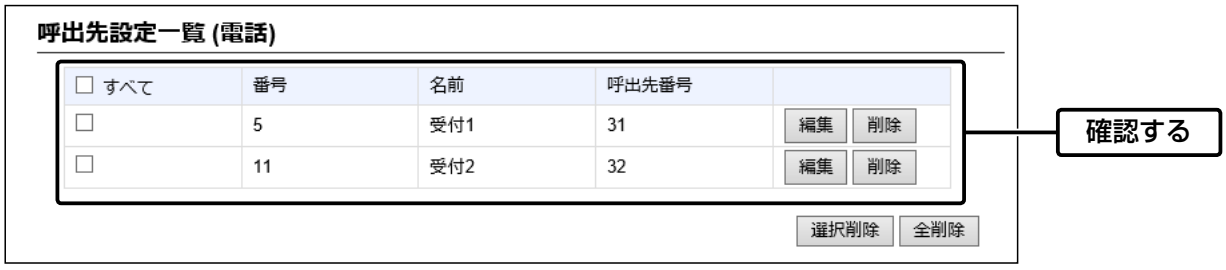
登録した電話機の内線番号を登録します。
※無線LANトランシーバーからIP電話機を呼び出すには、アドレス帳に追加が必要です。（P.3-11）

1 「呼出先設定」メニュー、「呼出先設定」の順にクリックします。
「呼出先設定」画面が表示されます。

2 [呼出先設定]項目で、[呼出種別]欄で「電話」、[呼出先番号]欄でIP電話機の内線番号（例：31）を設定して、〈登録〉をクリックします。



3 [呼出先設定一覧（電話）]項目で、登録した内容を確認します。



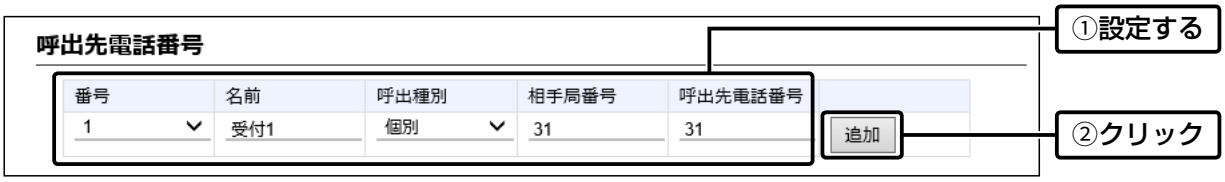
5. 呼出先電話番号の設定について

PBX無線機呼出設定 > 呼出先電話番号

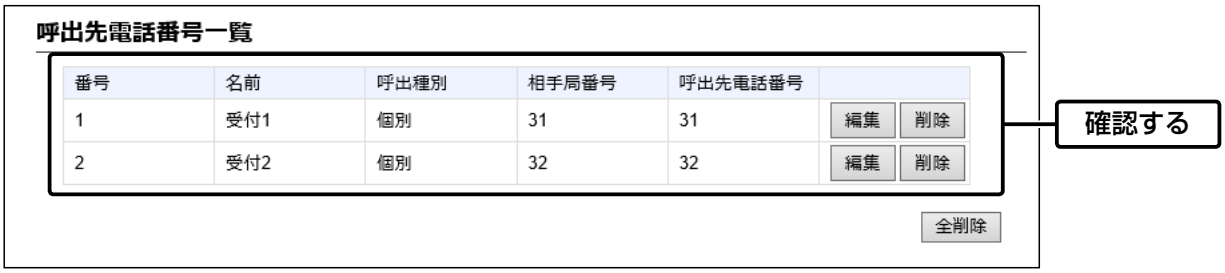
登録した電話機ごとに呼出先電話番号を設定します。
※デジタル無線機と[EXT]ポート配下の無線機が、電話機へ発信するために必要な設定です。

1 「PBX無線機呼出設定」メニュー、「呼出先電話番号設定」の順にクリックします。
「呼出先電話番号設定」画面が表示されます。

2 [呼出先電話番号]項目で、名前、呼出種別、[相手局番号]欄に端末側無線機から呼び出すときに使用する番号、[呼出先電話番号]欄にIP電話機の内線番号(2桁～7桁の番号)を設定して、〈追加〉をクリックします。



3 [呼出先電話番号一覧]項目で、登録した内容を確認します。



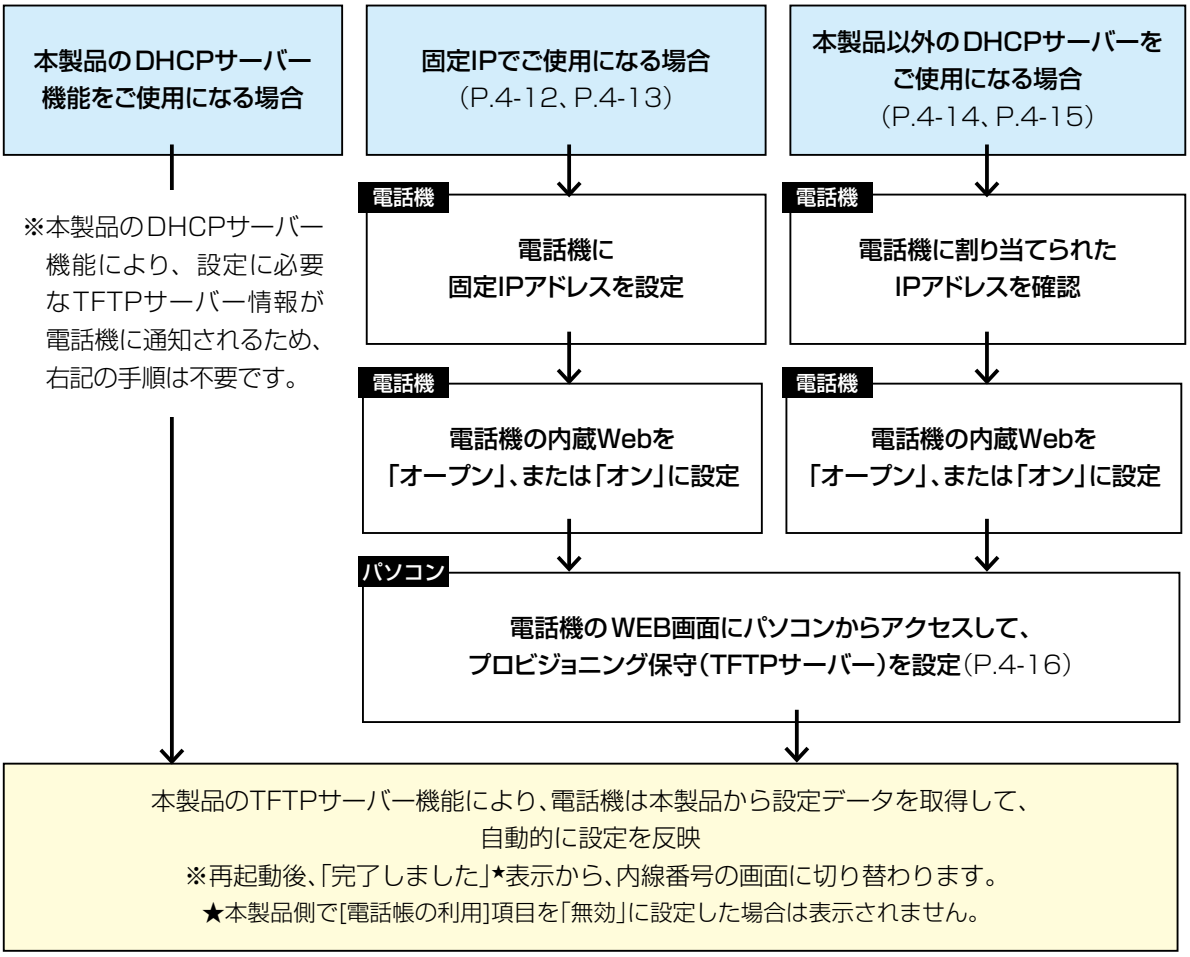
6. KXシリーズの電話機について

■ ご使用になるまでの流れ

本製品にKXシリーズの電話機を登録してご使用になる場合、下記のように接続するネットワーク環境により、初期導入時に電話機側でプレプロビジョニング設定が必要になることがあります。

※本製品側で、ご使用になる電話機ごとのMACアドレス登録や内線番号などの設定が完了しているものとして説明しています。(P.4-4)

※電話機の操作や設定など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書と併せてご覧ください。



ご注意

◎初期導入時以外は、電話機のWEB画面で設定を変更しないでください。
※電話機のWEB画面で設定を変更した項目は、本製品から設定が適用されなくなります。

◎電話機のWEB画面にアクセスして「403 Forbidden エラー」が表示された場合は、内蔵Webで「クローズ」、または「オフ」を設定し、再度「オープン」、または「オン」にしてください。(P.4-12、P.4-13、P.4-14、P.4-15)

◎電話機のWEB画面にアクセスしたあとは、本製品からアクセスできるように電話機を再起動してください。

初期導入時に設定データを取得できないときは

◎電話機のMACアドレスが正しく登録されているか、本製品の設定画面で確認してください。(P.4-4)

◎KXシリーズの電話機を固定IPアドレスでご使用になる場合、または本製品以外のDHCPサーバーを使用する場合、ネットワーク環境によっては、設定データを取得できないことがあります。
同一ネットワーク上にあるDHCPサーバーと切りはなすか、電話機を初期化(P.4-16)してから、設定をやり直してください。

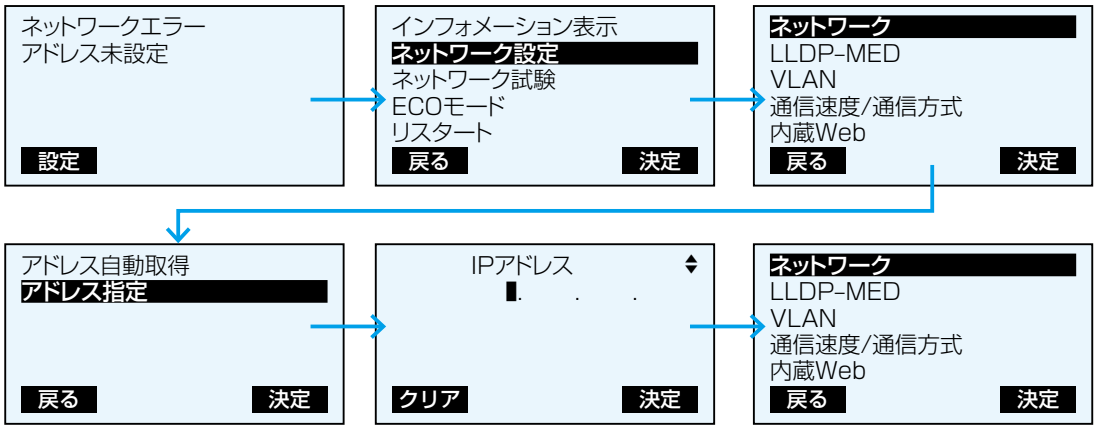
6. KXシリーズの電話機について

■ 固定IPアドレスでご使用になる場合は(KX-UTシリーズ)

固定IPアドレスでご使用になる場合は、初期導入時に電話機側でプレプロビジョニング設定が必要です。
※電話機の操作、設定など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

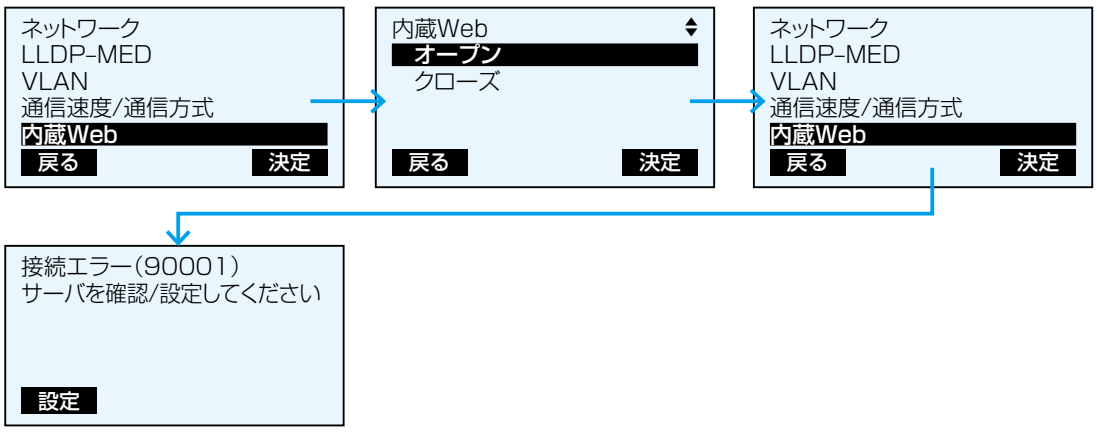
1 設定する電話機の電源を入れます。
※DHCPサーバーや既存のネットワークは、切りはなした状態にしてください。

2 電話機に固定IPアドレスを設定します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで設定項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



❶電話機が起動したら、〈設定〉を押します。
❷「ネットワーク設定」を選択して、〈決定〉を押します。
❸「ネットワーク」を選択して、〈決定〉を押します。
❹「アドレス指定」を選択して、〈決定〉を押します。
❺IPアドレス、サブネットマスク★などを設定して、〈決定〉を押します。
★各設定項目は、カーソルキー(上下)で変更できます。

3 電話機の内蔵Webを「オープン」に設定します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



❶「内蔵Web」を選択して、〈決定〉を押します。
❷「オープン」を選択して、〈決定〉を押します。
❸〈戻る〉を2回押して、待受画面にします。

(P.4-16の「電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには」につづく)

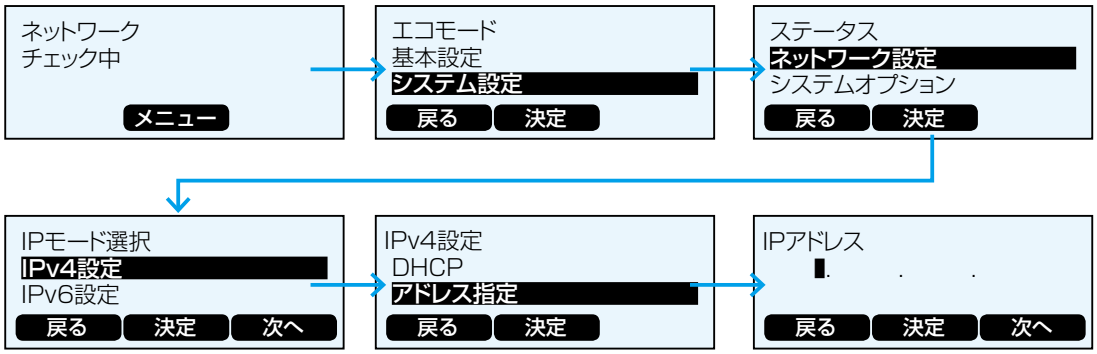
6. KXシリーズの電話機について

■ 固定IPアドレスでご使用になる場合は（KX-HDVシリーズ）

固定IPアドレスでご使用になる場合は、初期導入時に電話機側でプレプロビジョニング設定が必要です。
※電話機の操作、設定など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

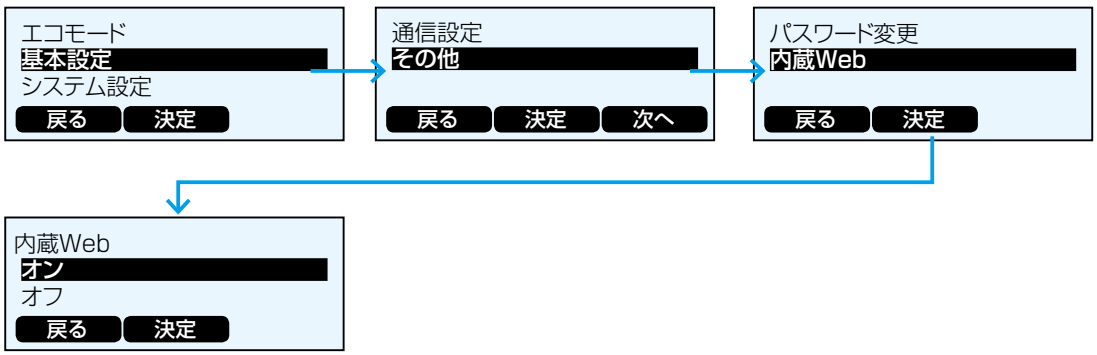
1 設定する電話機の電源を入れます。
※DHCPサーバーや既存のネットワークは、切りはなした状態にしてください。

2 電話機に固定IPアドレスを設定します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで設定項目の切替（上下）、カーソルの移動（左右）をします。



❶電話機が起動したら、〈メニュー〉を押します。
❷「システム設定」を選択して、〈決定〉を押します。
❸「ネットワーク設定」を選択して、〈決定〉を押します。
❹「IPv4設定」を選択して、〈決定〉を押します。
❺「アドレス指定」を選択して、〈決定〉を押します。
❻IPアドレス、サブネットマスク★などを設定して、〈決定〉を押します。
★各設定項目は、カーソルキー（上下）で変更できます。

3 電話機の内蔵Webを「オン」に設定します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで項目の切替（上下）、カーソルの移動（左右）をします。



❶「基本設定」を選択して、〈決定〉を押します。
❷「その他」を選択して、〈決定〉を押します。
❸「内蔵Web」を選択して、〈決定〉を押します。
❹「オン」を選択して、〈決定〉を押します。

（P.4-16の「電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには」につづく）

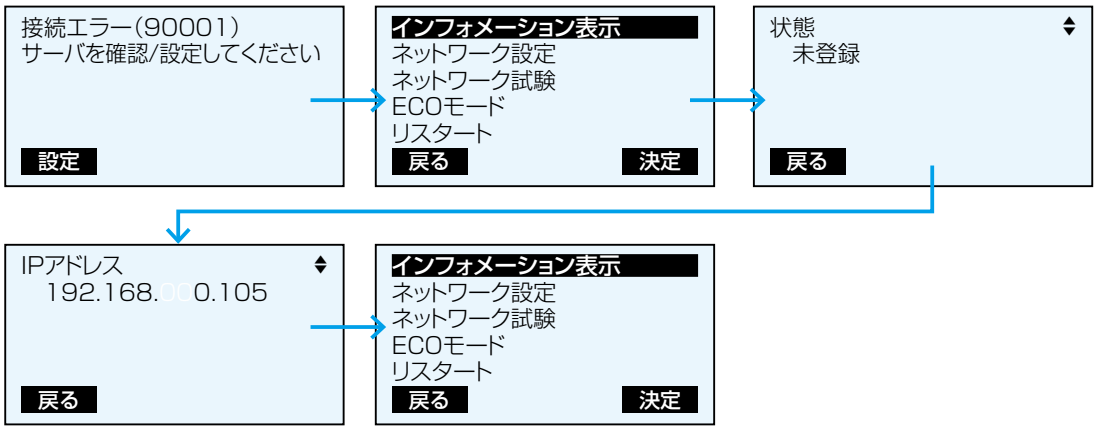
6. KXシリーズの電話機について

■ 本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は（KX-UTシリーズ）

本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は、初期導入時に電話機本体（KX-UTシリーズ）側でプレプロビジョニング設定が必要です。
※電話機本体（KX-UTシリーズ）の操作、設定など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

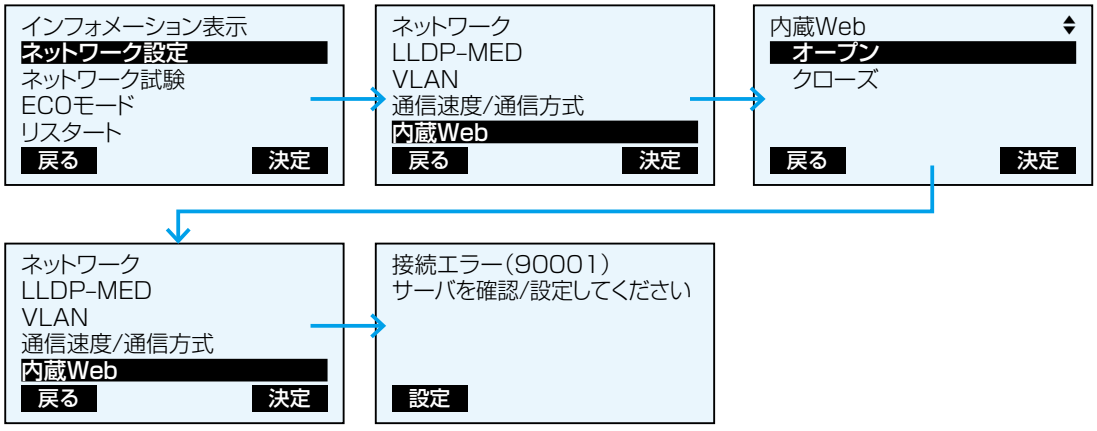
1 使用するDHCPサーバーからIPアドレスを自動取得できる状態で、設定する電話機の電源を入れます。

2 電話機に割り当てられたIPアドレスを確認します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで設定項目の切替（上下）、カーソルの移動（左右）をします。



❶電話機が起動したら、〈設定〉を押します。
❷「インフォメーション表示」を選択して、〈決定〉を押します。
❸カーソルキー（下）を押します。
❹IPアドレスを確認して、〈戻る〉を押します。

3 電話機の内蔵Webを「オープン」に設定します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで項目の切替（上下）、カーソルの移動（左右）をします。



❶「ネットワーク設定」を選択して、〈決定〉を押します。
❷「内蔵Web」を選択して、〈決定〉を押します。
❸「オープン」を選択して、〈決定〉を押します。
❹〈戻る〉を2回押して、待受画面にします。

（P.4-16の「電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには」につづく）

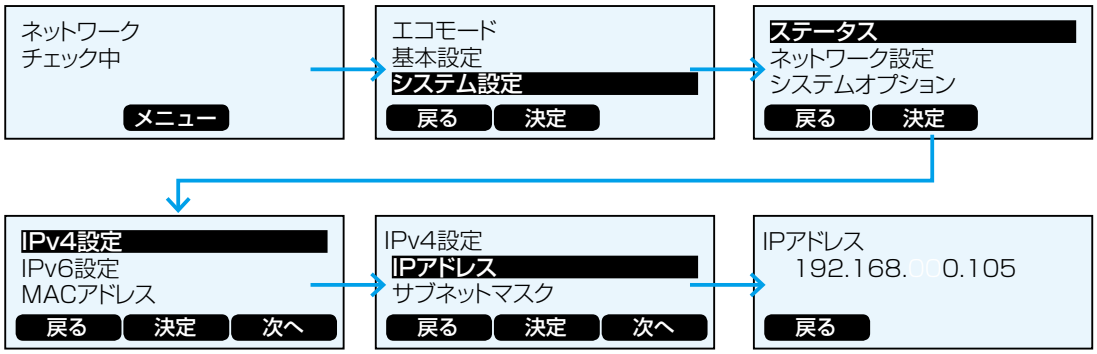
6. KXシリーズの電話機について

■ 本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は（KX-HDVシリーズ）

本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は、初期導入時に電話機本体（KX-HDVシリーズ）側でプレプロビジョニング設定が必要です。
※電話機本体（KX-HDVシリーズ）の操作、設定など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

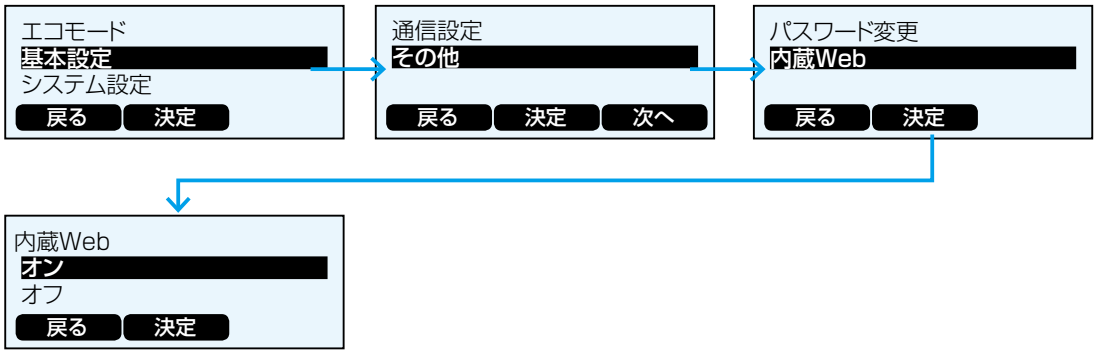
1 使用するDHCPサーバーからIPアドレスを自動取得できる状態で、設定する電話機の電源を入れます。

2 電話機に割り当てられたIPアドレスを確認します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで設定項目の切替（上下）、カーソルの移動（左右）をします。



❶電話機が起動したら、〈設定〉を押します。
❷「システム設定」を選択して、〈決定〉を押します。
❸「ステータス」を選択して、〈決定〉を押します。
❹「IPv4設定」を選択して、〈決定〉を押します。
❺「IPアドレス」を選択して、〈決定〉を押します。
❻IPアドレスを確認して、〈戻る〉を押します。

3 電話機の内蔵Webを「オン」に設定します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで項目の切替（上下）、カーソルの移動（左右）をします。



❶「基本設定」を選択して、〈決定〉を押します。
❷「その他」を選択して、〈決定〉を押します。
❸「内蔵Web」を選択して、〈決定〉を押します。
❹「オン」を選択して、〈決定〉を押します。

（P.4-16の「電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには」につづく）

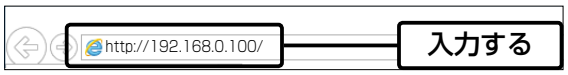
6. KXシリーズの電話機について

■ 電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには

同じネットワーク上のパソコンから、電話機のWEB画面にアクセスして、プロビジョニング保守（TFTPサーバー）を設定します。
※電話機のWEB画面にアクセスするためには、電話機に設定されたIPアドレス（P.4-12～P.4-15）が必要です。

1 WWWブラウザーを起動します。

2 WWWブラウザーのアドレスバーに「http://[電話機のIPアドレス]/」の形式で、電話機に設定されたIPアドレス（例：192.168.0.100）を入力します。



3 [Enter]キーを押します。
[ユーザー名]と[パスワード]を求める画面が表示されます。

4 [ユーザー名]欄に「admin」、[パスワード]欄に「adminpass」を入力し、〈OK〉をクリックします。
電話機のWEB画面が表示されます。

5 WEB画面上部の[保守]タブをクリックします。

6 WEB画面左側の「プロビジョニング保守」をクリックします。

7 [スタンダードファイルURL]欄に、「tftp://[本製品（TFTPサーバー）のIPアドレス]/{MODEL}_{MAC}.cfg」の形式で、本製品に設定されたIPアドレス（例：192.168.0.1）を入力し、〈登録〉をクリックします。
本製品から設定を自動的に取得するため、電話機本体が再起動します。

入力例 tftp://192.168.0.1/{MODEL}_{MAC}.cfg
本製品のIPアドレス

電話機を工場出荷時の状態に戻す場合は
エラーが表示され、登録に失敗した場合は、下記の手順で電話機を初期化してください。

KX-UTシリーズ
①〈設定〉を押します。
②「#136」をダイヤルして、〈決定〉を押します。
③「はい」を選択して、〈決定〉を押します。
④「実行しますか？」が表示されたら「はい」を選択して、〈決定〉を押します。
確認音が鳴り、初期化するために電話機が再起動します。

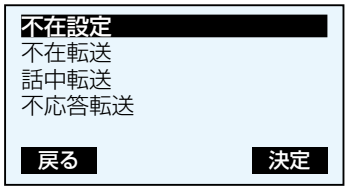
KX-HDVシリーズ
①〈決定〉を押します。
②「システム設定」を選択して〈決定〉を押します。
③「#136」をダイヤルしてます。
④「実行しますか？」が表示されたら「はい」を選択して、〈決定〉を押します。
確認音が鳴り、初期化するために電話機が再起動します。

6. KXシリーズの電話機について

■ 電話機のボタン機能について（KX-UTシリーズ）

本製品に接続して内線子機として使用する場合のボタン機能について説明します。
※電話機の操作など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書と併せてご覧ください。

不在 …… 電話に応答できないときなど、あらかじめ不在設定しておくと、着信を拒否できます。
※「不在転送」、「話中転送」、「不応答転送」（右図）は使用できない機能です。
これらの機能を使用するときは、本製品で設定したフレキシブルボタンや特番を操作してください。（P.4-18）



会議 …… 3者会議通話をするときに使用します。
通話中に会議、または保留を押します。
会議に参加させたい相手へ発信し、応答確認後、会議を押します。

フック …… 通話中に押すと、通話を切断します。
※転送操作中にフック、転送の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。

再ダイヤル …… 直前に電話をかけた相手に再ダイヤルするときに使用します。

メッセージ …… 留守番電話を確認するときに使用します。
待受画面で操作すると、留守番電話操作メニュー（メインメニュー）にログインします。

保留 …… 通話中の相手にしばらく待ってもらうときに押します。
※ほかの電話機からは応答できません。

転送 …… 通話を保留して転送するときに押します。
※転送操作中にフック、転送の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。

ミュート
自動応答 ……

ミュート：
通話中に押すと、マイクがミュート状態になり、こちらの声が相手に聞こえなくなります。
もう一度押すとミュートを解除します。
※ミュート中はスピーカーホン/ヘッドセットが赤色に点滅します。

自動応答：
あらかじめ設定しておくと、着信時、数回鳴動したあと、自動的に応答します。

戻る …… 操作などを取り消すときに使用します。

スピーカーホン/ヘッドセット …… 受話器を置いたまま通話するとき、または電話にヘッドセットを接続して通話するときに使用します。

6. KXシリーズの電話機について

■ 電話機のボタン機能について（KX-UTシリーズ）

フレキシブルボタン（1～24）と特番操作

KX-UT136Nに割り当てられたフレキシブルボタン機能は、下記のように、ほかの内線子機（KX-UT123Nなど）でも特番をダイヤルすると使用できます。

ボタン割当	ほかの内線子機	備考（ダイヤル操作）
ワンタッチ	×	あらかじめ本製品側で登録した電話番号にワンタッチで発信できる機能
DNキー	×	※KX-UT123Nでは内部で2つ固定割り当て
外線状態通知キー	×	
外線発信キー	○	（外線発信特番プレフィクス + 相手先の電話番号）
外線着信キー	×	
パーク	○	（パーク保留・応答するための特番+パーク番号、またはパーク機能を割り当てたフレキシブルボタンの番号（01～24））
不在転送切替	○	（不在転送特番）
不応答転送切替	○	（不応答転送特番）
話中転送切替	○	（話中転送特番）
ヘッドセット	△	※KX-UT123Nではヘッドセット接続時有効
音声呼出	○	（音声呼出特番）

※各機能について詳しくは、別紙の取扱説明書[活用編]をご覧ください。

DNキーについて

◎DNキーは、内線/外線の通話や着信中に1つ、さらに保留など通話呼を保持するときに1つ使用します。
◎DNキーが不足すると通話呼を保留できない、新たな着信を受けられないような事象が発生します。
◎ フレキシブルボタンがないKX-UT123Nでは、DNキーは本体内部に2つ固定割り当され、追加設定はできません。
外線通話中に新たな外線着信を受けると、先の通話を保留したり転送したりできません。（DNキー不足状態のため）
このような場合は、先の通話を終了するか、ほかの電話機であとの着信に応答する必要があります。

パーク保留/応答について

ご使用になる電話機により、本製品で設定した特番、フレキシブルボタン（キー番号）などの操作方法が異なります。
電話機ごとの操作については、本書4-23ページ～4-28ページでご確認ください。

KX-UT136Nで外線を捕捉するときは

KX-UT136Nに割り当てられた〈外線発信キー〉につづけて、電話番号をダイヤルするか、あらかじめ電話番号を登録した〈ワンタッチ〉を押すと、回線を捕捉して外線発信できます。
※外線発信時は、回線捕捉の設定が必要です。
ご使用になる電話機ごとに、「内線個別」画面で、回線を設定してください。
※KX-UT136Nで、電話帳から発信する場合は、〈外線発信キー〉による回線捕捉ができません。

6. KXシリーズの電話機について

■ 発信操作について(KX-UTシリーズ)

1.ダイヤル発信する(P.4-23)
- 受話器を上げ、電話番号をダイヤルする
- 電話番号をダイヤルして受話器を上げる

※ダイヤルした電話番号に応じて、内線/外線に発信します。

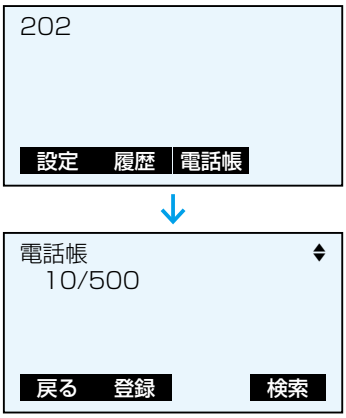
2.ワンタッチで発信する(P.4-23)
- 受話器を上げ、〈ワンタッチ〉を押す
- 〈ワンタッチ〉を押して受話器を上げる

※あらかじめ本製品側で登録した電話番号に発信します。

3.外線発信キーで発信する(P.4-23)
- 受話器を上げ、〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルする
- 〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルして受話器を上げる

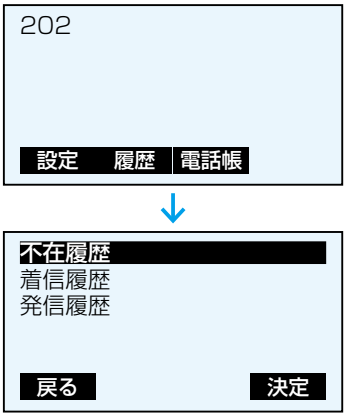
4.電話帳から発信する(P.4-23)

電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる



5.履歴から発信する

①履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する
②相手先を選択してから受話器を上げる



■ 着信操作について(KX-UTシリーズ)

1.内線着信に応答する(P.4-25)
- 受話器を上げる
  (画面に表示されている発信元に応答する場合)
- 高速点滅(緑■)している〈DNキー〉を押す

2.外線着信に応答する(P.4-25)
- 受話器を上げる
  (画面に表示されている発信元に応答する場合)
- 〈外線着信キー〉を押す
- 高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉、または高速点滅(緑■)している〈DNキー〉を押す

※〈外線着信キー〉が割り当てられている場合は、〈DNキー〉は点滅しません。

3.応答を拒否する

着信中に、拒否を押す

※一斉着信時など、ほかの内線子機が鳴動している場合を除き、発信元には話中音が聞こえます。
※アナログ回線から発信された着信の場合、発信元には呼出音が聞こえつづけます。

4.代理で応答する(P.4-27)

自分以外の電話機が着信中に、代理応答の特番を押して、受話器を上げる

※外線からの着信は、高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉でも代理応答できます。
※あらかじめ〈ワンタッチ〉に代理応答の特番を登録しておくと、同様に代理応答できます。

■ 保留/転送操作について(KX-UTシリーズ)

1.自己保留する(保留/解除)(P.4-25)
- 通話中に、保留を押す
- 解除するときは、低速点滅(緑■)している〈DNキー〉を押す

2.転送する(P.4-27)

①通話中に、転送を押す
②転送先の電話番号をダイヤルする
③応答確認後、実行を押す、または受話器を置く

※転送操作中にフック、転送の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。

3.パーク保留/応答する(P.4-27)

①通話中に、〈パーク〉を押す
②低速点滅(緑■)のキー番号を確認する
③転送先に、口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える
④転送先は、伝えられた番号の〈パーク〉(低速点滅(赤■))を押して、応答する

6. KXシリーズの電話機について

■ 電話機のボタン機能について(KX-HDVシリーズ)

本製品に接続して内線子機として使用する場合のボタン機能について説明します。
※電話機の操作など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書と併せてご覧ください。

キャンセル ……
操作などを取り消すときに使用します。
※通話中に押すと、その通話を切断します。

会議 ……
3者会議通話をするときに使用します。
通話中に 会議 、または 保留 を押します。
会議に参加させたい相手へ発信し、応答確認後、 会議 を押します。

再ダイヤル ……
直前に電話をかけた相手に再ダイヤルするときに使用します。

ミュート/自動応答 ……
ミュート：
通話中に押すと、マイクがミュート状態になり、こちらの声が相手に聞こえなくなります。
もう一度押すとミュートを解除します。
※ミュート中は、画面に〈ミュート〉が点滅します。

自動応答：
あらかじめ設定しておくと、着信時、数回鳴動したあと、自動的に応答します。

ヘッドセット ……
電話にヘッドセットを接続して通話するときに使用します。

メッセージ ……
留守番電話を確認するときに使用します。
待受画面で操作すると、留守番電話操作メニュー(メインメニュー)にログインします。

転送 ……
通話を保留して転送するときに押します。
※転送先と通話中に キャンセル を押すと、転送先との通話が切断されます。
もう一度 キャンセル を押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。

保留 ……
通話中の相手にしばらく待ってもらうときに押します。
※ほかの電話機からは応答できません。

スピーカーホン ……
受話器を置いたまま通話するときに使用します。

− 音量 + ……
着信音量、ハンドセット音量、ヘッドセット音量、スピーカー音量を調整するときに使用します。

ライン1/P1 ……
機能を割り当てて使用します。
電話機(KX-HDVシリーズ)の設定画面で、フレキシブルボタン1に割り当てた機能が反映されます。
※KX-HDV130Nにあるボタンです。

ライン2/P2 ……
機能を割り当てて使用します。
電話機(KX-HDVシリーズ)の設定画面で、フレキシブルボタン2に割り当てた機能が反映されます。
※KX-HDV130Nにあるボタンです。

6. KXシリーズの電話機について

■ 電話機のボタン機能について（KX-HDVシリーズ）

フレキシブルボタン（1～24）と特番操作

KX-HDV230Nに割り当てられたフレキシブルボタン機能は、下記のように、ほかの内線子機（KX-HDV130Nなど）でも特番をダイヤルすると使用できます。

ボタン割当	ほかの内線子機	備考（ダイヤル操作）
ワンタッチ	×	あらかじめ本製品側で登録した電話番号にワンタッチで発信できる機能
DNキー	×	※KX-HDV130Nでは、ライン1/P1 [　]、ライン2/P2 [　] に「DNキー」、「通話転送」、「ブラインド転送」、「会議通話」、「未使用」設定時
外線状態通知キー	×	
外線発信キー	○	（外線発信特番プレフィクス + 相手先の電話番号）
外線着信キー	×	
パーク	○	（パーク保留・応答するための特番+パーク番号、またはパーク機能を割り当てたフレキシブルボタンの番号（01～24））
不在転送切替	○	（不在転送特番）
不応答転送切替	○	（不応答転送特番）
話中転送切替	○	（話中転送特番）
通話転送	×	
ブラインド転送	×	
会議通話	×	
音声呼出	○	（音声呼出特番）

※各機能について詳しくは、別紙の取扱説明書[活用編]をご覧ください。

DNキーについて

◎DNキーは、内線/外線の通話や着信中に1つ、さらに保留など通話呼を保持するときに1つ使用します。
◎DNキーが不足すると通話呼を保留できない、新たな着信を受けられないような事象が発生します。
◎KX-HDV130Nでは、ライン1/P1 [　]、ライン2/P2 [　] にDNキー以外を割り当てた場合、内部にDNキーが2つ動作します。
また上記とは別に、内部にDNキー（保留/転送用）が1つ動作します。
※ ライン1/P1 [　]、ライン2/P2 [　] にDNキーを割り当てても、DNキーは2つしか動作しません。

パーク保留/応答について

ご使用になる電話機により、本製品で設定した特番、フレキシブルボタン（キー番号）などの操作方法が異なります。
電話機ごとの操作については、本書4-23ページ～4-28ページでご確認ください。

増設ユニット（1～5）

◎増設ユニットを取り付けることで、使用するフレキシブルボタンを増やすことができます。（最大5台）
◎2台目以降は、フレキシブルボタンに割り当てられる機能は制限されています。（取扱説明書［活用編］）

6. KXシリーズの電話機について

■ 発信操作について(KX-HDVシリーズ)

1.ダイヤル発信する(P.4-24)

- 受話器を上げ、電話番号をダイヤルする
- 電話番号をダイヤルして受話器を上げる

※ダイヤルした電話番号に応じて、内線/外線に発信します。

2.ワンタッチで発信する(P.4-24)

- 受話器を上げ、〈ワンタッチ〉を押す
- 〈ワンタッチ〉を押して受話器を上げる

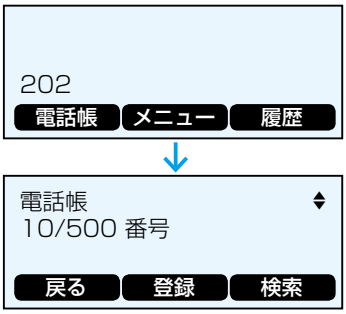
※あらかじめ本製品側で登録した電話番号に発信します。

3.外線発信キーで発信する(P.4-24)

- 受話器を上げ、〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルする
- 〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルして受話器を上げる

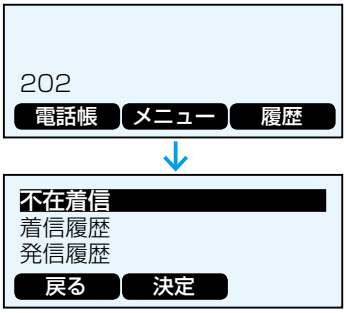
4.電話帳から発信する(P.4-24)

電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる



5.履歴から発信する

①履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する
②相手先を選択してから受話器を上げる



■ 着信操作について(KX-HDVシリーズ)

1.内線着信に応答する(P.4-26)

- 受話器を上げる
  (画面に表示されている発信元に応答する場合)
- 高速点滅(青■)している〈DNキー〉を押す

2.外線着信に応答する(P.4-26)

- 受話器を上げる
  (画面に表示されている発信元に応答する場合)
- 〈外線着信キー〉を押す
- 高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉、または高速点滅(青■)している〈DNキー〉を押す

※〈外線着信キー〉が割り当てられている場合は、〈DNキー〉は点滅しません。

3.応答を拒否する

着信中に、拒否を押す

※一斉着信時など、ほかの内線子機が鳴動している場合を除き、発信元には話中音が聞こえます。
※アナログ回線から発信された着信の場合、発信元には呼出音が聞こえつづけます。

4.代理で応答する(P.4-28)

自分以外の電話機が着信中に、代理応答の特番を押して、受話器を上げる

※外線からの着信は、高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉でも代理応答できます。
※あらかじめ〈ワンタッチ〉に代理応答の特番を登録しておくと、同様に代理応答できます。

■ 保留/転送操作について(KX-HDVシリーズ)

1.自己保留する(保留/解除)(P.4-26)

- 通話中に、保留を押す
- 解除するときは、低速点滅(青■)している〈DNキー〉、または〈外線着信キー〉を押す

2.転送する(P.4-28)

①通話中に、転送を押す
②転送先の電話番号をダイヤルする
③応答確認後、実行を押す、または受話器を置く

3.パーク保留/応答する(P.4-28)

①通話中に、〈パーク〉を押す
②低速点滅(青■)のキー番号を確認する
③転送先に、口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える
④転送先は、伝えられた番号の〈パーク〉(低速点滅(赤■))を押して、応答する

6. KXシリーズの電話機について

■ 電話機の操作について

ご使用になる電話機により、本製品で設定した特番、フレキシブルボタン(キー番号)などの操作方法が異なります。

操作		KX-UT136N	KX-UT123N
発信	**ダイヤル発信 (内線/外線)** ★1★2	◎受話器を上げ、電話番号をダイヤルする ◎電話番号をダイヤルして受話器を上げる	◎受話器を上げ、電話番号をダイヤルする ◎電話番号をダイヤルして受話器を上げる
	電話帳発信 (内線/外線) ★1	電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる	電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる
	ワンタッチ (内線/外線) ★1	◎受話器を上げ、〈ワンタッチ〉を押す ◎〈ワンタッチ〉を押して受話器を上げる ※あらかじめ本製品側で登録した電話番号に発信します。	—
	外線発信キー/外線キー (外線)	◎受話器を上げ、〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルする ◎〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルして受話器を上げる	—
	短縮ダイヤル発信 (内線/外線) ★1	あらかじめ本製品側で登録した共用電話帳の短縮番号をダイヤルする	あらかじめ本製品側で登録した共用電話帳の短縮番号をダイヤルする
	履歴発信 (内線/外線) ★1	① 履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する ②相手先を選択してから受話器を上げる	① 履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する ②相手先を選択してから受話器を上げる

★1 外線時は、回線捕捉の設定が必要です。
ご使用になる電話機ごとに、「内線個別」画面で、捕捉するIP回線を設定してください。

★2 回線捕捉が設定されていない場合、外線時は、ダイヤルする前に外線発信特番を押してください。

6. KXシリーズの電話機について

■ 電話機の操作について

操作		KX-HDV230N	KX-HDV130N
発信	**ダイヤル発信 (内線/外線)** ★1★2	◎受話器を上げ、電話番号をダイヤルする ◎電話番号をダイヤルして受話器を上げる	◎受話器を上げ、電話番号をダイヤルする ◎電話番号をダイヤルして受話器を上げる
	電話帳発信 (内線/外線)★1	電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる	電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる
	ワンタッチ (内線/外線) ★1	◎受話器を上げ、〈ワンタッチ〉を押す ◎〈ワンタッチ〉を押して受話器を上げる ※あらかじめ本製品側で登録した電話番号に発信します。	ライン1/P1 [ ]、ライン2/P2 [ ] に「ワンタッチ」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。
	外線発信キー/外線キー (外線)	◎受話器を上げ、〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルする ◎〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルして受話器を上げる	ライン1/P1 [ ]、ライン2/P2 [ ] に「外線発信キー」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。
	短縮ダイヤル発信 (内線/外線) ★1	あらかじめ本製品側で登録した共用電話帳の短縮番号をダイヤルする	あらかじめ本製品側で登録した共用電話帳の短縮番号をダイヤルする
	履歴発信 (内線/外線)★1	①履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する ②相手先を選択してから受話器を上げる	①履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する ②相手先を選択してから受話器を上げる

★1 外線時は、回線捕捉の設定が必要です。
ご使用になる電話機ごとに、「内線個別」画面で、捕捉するIP回線を設定してください。

★2 回線捕捉が設定されていない場合、外線時は、ダイヤルする前に外線発信特番を押してください。

6. KXシリーズの電話機について

■ 電話機の操作について

操作		KX-UT136N	KX-UT123N
着信	**内線着信に応答**	◎受話器を上げる（画面に表示されている発信元に応答する場合） ◎高速点滅（緑■）している〈DNキー〉を押す	受話器を上げる （画面に表示されている発信元に応答する場合）
	外線着信に応答	◎受話器を上げる（画面に表示されている発信元に応答する場合） ◎高速点滅（緑■）している〈外線着信キー〉を押す ◎高速点滅（赤■）している〈外線状態通知キー〉、または高速点滅（緑■）している〈DNキー〉を押す	受話器を上げる （画面に表示されている発信元に応答する場合）
	着信拒否	あらかじめ[不在]を押し、不在設定を「オン」にしておく ※内線着信時、着信拒否（切断）します。 発信元には話中音が聞こえます。 ※外線着信時は鳴動しないだけで〈外線状態通知キー〉は高速点滅（赤■）し、切断しません。	あらかじめ[不在]を押し、不在設定を「オン」にしておく ※内線着信時、着信拒否（切断）します。 発信元には話中音が聞こえます。 ※外線着信時、ほかに外線着信を確認できる電話機がある場合は、切断しません。
通話保留（自己保留）		通話中に[保留]を押す	通話中に[保留]を押す
保留解除		保留中に低速点滅（緑■）している〈DNキー〉を押す	保留中に[保留]を押す ※受話器を置いたままだとハンズフリー通話状態になります。

6. KXシリーズの電話機について

■ 電話機の操作について

操作		KX-HDV230N	KX-HDV130N
着信	内線着信に応答	◎受話器を上げる（画面に表示されている発信元に応答する場合） ◎高速点滅（青■）している〈DNキー〉を押す	受話器を上げる （画面に表示されている発信元に応答する場合） ※ ライン1/P1 [ ] 、ライン2/P2 [ ] に「DNキー」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。
	外線着信に応答	◎受話器を上げる（画面に表示されている発信元に応答する場合） ◎高速点滅（青■）している〈外線着信キー〉を押す ◎高速点滅（赤■）している〈外線状態通知キー〉、または高速点滅（青■）している〈DNキー〉を押す	受話器を上げる （画面に表示されている発信元に応答する場合） ※ ライン1/P1 [ ] 、ライン2/P2 [ ] に「外線着信キー」、「外線状態通知キー」、「DNキー」のいずれかを割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。
	着信拒否	あらかじめ不在設定（〈決定〉キー⇒転送/不在⇒不在設定）を「オン」にしておく ※内線着信時、着信拒否（切断）します。 発信元には話中音が聞こえます。 ※外線着信時は鳴動しないだけで〈外線状態通知キー〉は高速点滅（赤■）し、切断しません。	あらかじめ不在設定（〈決定〉キー⇒転送/不在⇒不在設定）を「オン」にしておく ※内線着信時、着信拒否（切断）します。 発信元には話中音が聞こえます。 ※外線着信時、ほかに外線着信を確認できる電話機がある場合は、切断しません。
通話保留（自己保留）		通話中に保留 [ ] を押す	通話中に保留 [ ] を押す
保留解除		保留中に低速点滅（青■）している〈DNキー〉を押す ※受話器を置いたままだとハンズフリー通話状態になります。	保留中に保留 [ ] を押す ※ ライン1/P1 [ ] 、ライン2/P2 [ ] に「DNキー」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。 ※受話器を置いたままだとハンズフリー通話状態になります。

6. KXシリーズの電話機について

■ 電話機の操作について

操作	KX-UT136N	KX-UT123N
パーク保留★ （保留特番：＊90）	①通話中に〈パーク〉を押す ②低速点滅(緑■)のキー番号を確認する ③転送先に口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える	①通話中に[転送]を押す ②「＊90」+「パーク番号」をダイヤルする ※パーク番号は01～24（例：＊9001） ③保留音を確認して通話を切る ④転送先に口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える
パーク応答 （応答特番：＊91）	伝えられた番号の〈パーク〉（低速点滅(赤■)）を押して、応答する	「＊91」+「パーク番号」をダイヤルして発信する （例：＊9101）
呼出転送	①通話中に[転送]を押す ②転送先の電話番号をダイヤルする ③応答確認後、実行を押す、または受話器を置く ※転送操作中に[フック]、[転送]の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。	①通話中に[転送]を押す ②転送先の電話番号をダイヤルする ③応答確認後、実行を押す、または受話器を置く ※転送操作中に[フック]、[転送]の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。
代理応答 （コールピックアップ特番：＊81）	自分以外の電話機が着信中に代理応答の特番を押して、受話器を上げる ※外線からの着信は、高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉でも代理応答できます。 ※あらかじめ〈ワンタッチ〉に代理応答の特番を登録しておくと、同様に代理応答できます。	自分以外の電話機が着信中に代理応答の特番を押して、受話器を上げる

★ パーク保留は、通話中に保留した電話を任意の電話機から応答できる機能です。
※転送先には、パーク保留したキー番号を口頭や内線で伝えます。
※パーク番号の1桁「01～09」をダイヤルする場合は、「0」を省略できます。（例：＊9001→＊901）

A（保留中の相手）　B（転送元）　C（転送先）

6. KXシリーズの電話機について

■ 電話機の操作について

操作	KX-HDV230N	KX-HDV130N
パーク保留★ （保留特番：＊90）	①通話中に〈パーク〉を押す ②低速点滅(青■)のキー番号を確認する ③転送先に口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える	①通話中に[転送]を押す ②「＊90」+「パーク番号」をダイヤルする ※パーク番号は01～24（例：＊9001） ③保留音を確認して通話を切る ④転送先に口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える ※ [ライン1/P1]、[ライン2/P2] に「パーク」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。
パーク応答 （応答特番：＊91）	伝えられた番号の〈パーク〉（低速点滅(赤■)）を押して、応答する	「＊91」+「パーク番号」をダイヤルして発信する （例：＊9101） ※ [ライン1/P1]、[ライン2/P2] に「パーク」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。
呼出転送	①通話中に[転送]を押す ②転送先の電話番号をダイヤルする ③応答確認後、実行を押す、または受話器を置く ※転送先と通話中に [キャンセル] を押すと、転送先との通話が切断されます。 もう一度 [キャンセル] を押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。	①通話中に[転送]を押す ②転送先の電話番号をダイヤルする ③応答確認後、実行を押す、または受話器を置く ※転送先と通話中に [キャンセル] を押すと、転送先との通話が切断されます。 もう一度 [キャンセル] を押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。
代理応答 （コールピックアップ特番：＊81）	自分以外の電話機が着信中に代理応答の特番を押して、受話器を上げる ※外線からの着信は、高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉でも代理応答できます。 ※あらかじめ〈ワンタッチ〉に代理応答の特番を登録しておくと、同様に代理応答できます。	自分以外の電話機が着信中に代理応答の特番を押して、受話器を上げる

★ パーク保留は、通話中に保留した電話を任意の電話機から応答できる機能です。
※転送先には、パーク保留したキー番号を口頭や内線で伝えます。
※パーク番号の1桁「01～09」をダイヤルする場合は、「0」を省略できます。（例：＊9001→＊901）

A（保留中の相手）　B（転送元）　C（転送先）

保守について

第 5 章

この章では、
本製品の設定内容の保存、ファームウェアを更新する手順について説明しています。

1. 設定内容の確認または保存 …… 5-2
2. 保存された設定の書き込み(復元) …… 5-3
3. 設定を出荷時の状態に戻すには …… 5-4
   ■ 〈MODE〉ボタンを使用する …… 5-4
   ■ 設定画面を使用する …… 5-5
4. ファームウェアを更新する …… 5-6
   ■ ファームウェアについて …… 5-6
   ■ ファームウェアの更新についてのご注意 …… 5-6
   Ⓐ ファイルを指定して更新する …… 5-7
   Ⓑ オンライン更新 …… 5-8
   Ⓒ 〈UPDATE〉ボタンを使用して更新する …… 5-9
5. USBメモリーによる自動設定機能について …… 5-10
   ■ USBストレージデバイス使用時のご注意 …… 5-11
   ■ 対応するUSBストレージデバイスの規格 …… 5-11
   ■ 自動設定に使用するファイル名の付けかた …… 5-12
   ■ 自動バックアップされる設定ファイルについて …… 5-12
   ■ 複数台分の設定ファイルを1つのUSBメモリーで管理するには …… 5-13
6. USBメモリーから自動で設定を復元するには …… 5-14
   ■ 設定ファイルを保存して復元するまでの手順 …… 5-14
7. USBメモリーからファームウェアを更新するには …… 5-16
   ■ 更新するまでの手順 …… 5-16
8. USBメモリー用の認証キーを設定するには …… 5-18
   ■ 設定のしかた …… 5-18

5 保守について

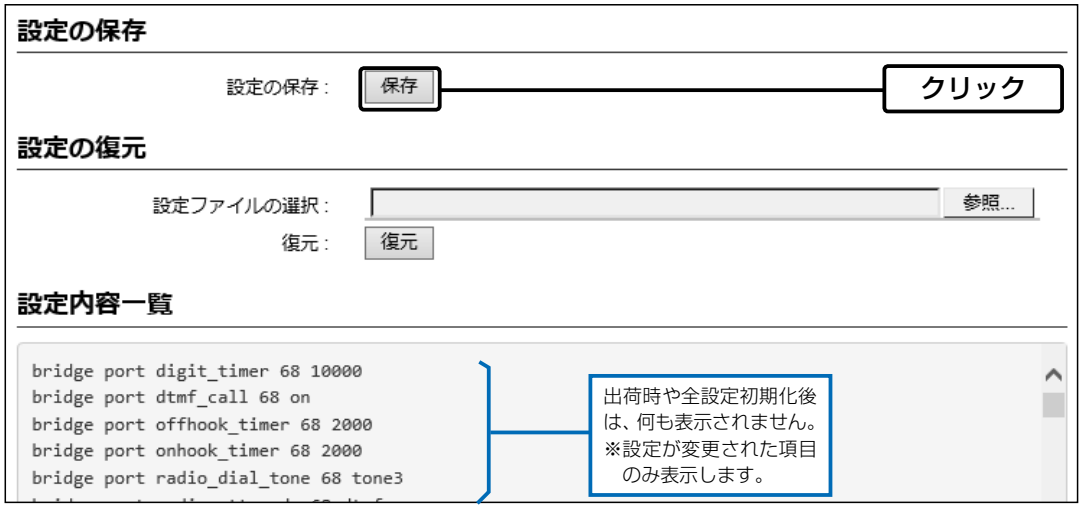
1. 設定内容の確認または保存

管理 > 設定の保存/復元

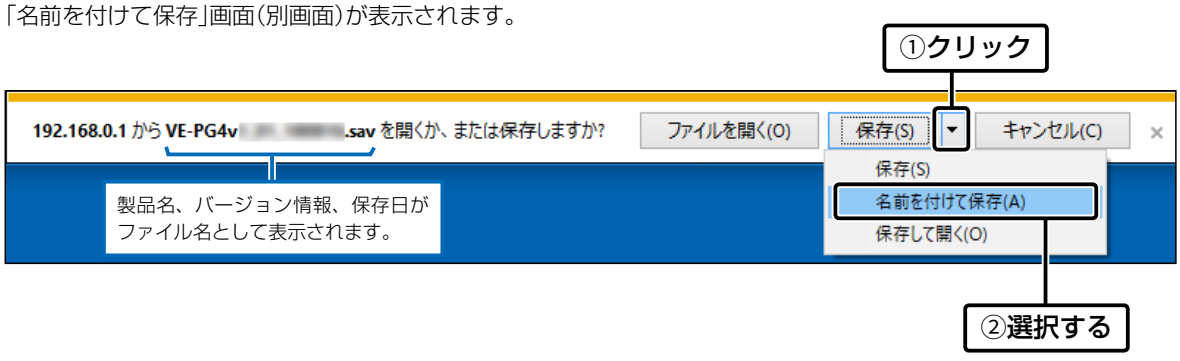
本製品の設定画面で変更された内容を確認して、その内容を設定ファイル(拡張子:sav)としてパソコンに保存できます。
※保存した設定ファイル(拡張子:sav)は、本製品以外の製品では使用できません。
※設定を保存しておくと、誤って設定内容が失われたときなどに利用できます。

1 「管理」メニュー、「設定の保存/復元」の順にクリックします。
「設定の保存/復元」画面が表示されます。

2 [設定の保存]項目の〈保存〉をクリックします。
ファイルの確認画面(別画面)が表示されます。



3 〈保存(S)〉の「▼」をクリックして、「名前を付けて保存(A)」を選択します。
「名前を付けて保存」画面(別画面)が表示されます。



4 保存する場所を選択して、〈保存(S)〉をクリックします。
選択した場所に設定ファイル(拡張子:sav)が保存されます。

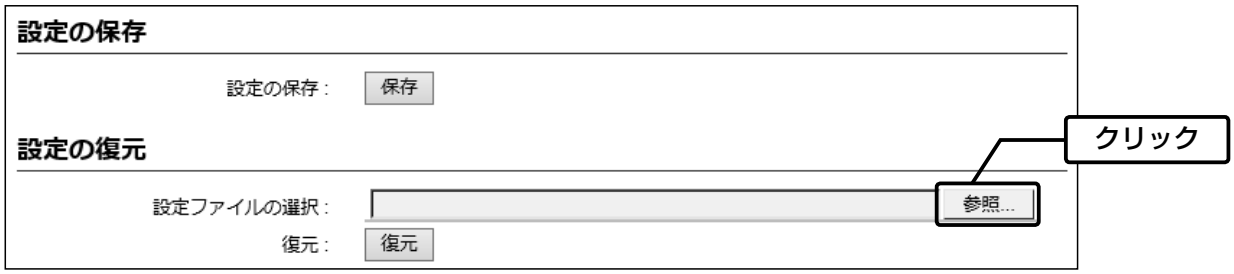
2. 保存された設定の書き込み(復元)

管理 > 設定の保存/復元

本製品の設定画面からパソコンに保存した設定ファイル(P.5-2)を本製品に書き込む手順を説明します。

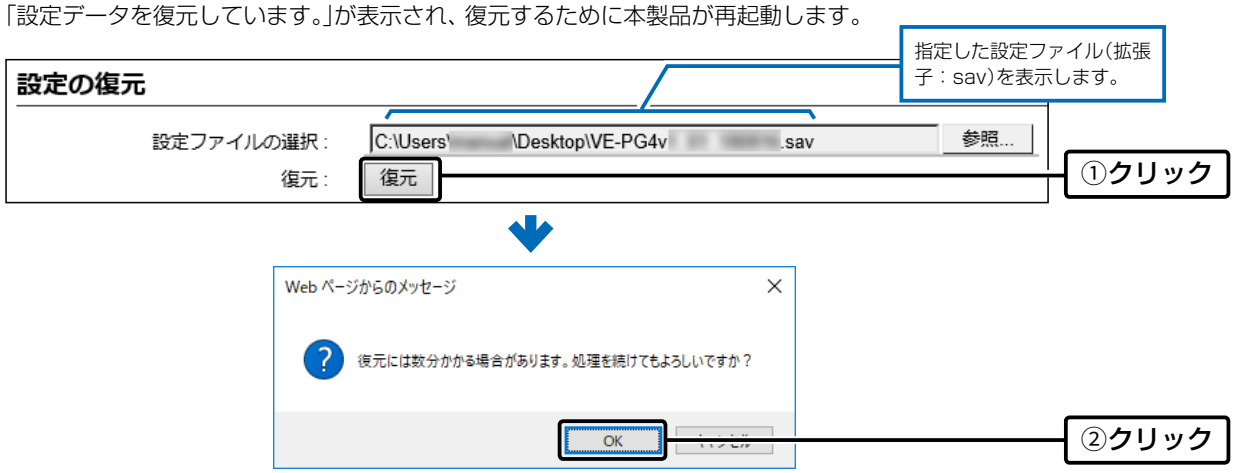
1 「管理」メニュー、「設定の保存/復元」の順にクリックします。
「設定の保存/復元」画面が表示されます。

2 [設定の復元]項目の〈参照...〉をクリックします。
「アップロードするファイルの選択」画面(別画面)が表示されます。



3 「アップロードするファイルの選択」画面(別画面)から、設定ファイル(拡張子:sav)を指定して、〈開く(O)〉をクリックします。
[設定ファイルの選択]欄のテキストボックスに、書き込む設定ファイルが表示されます。

4 〈復元〉をクリックします。
「設定データを復元しています。」が表示され、復元するために本製品が再起動します。



5 再起動後、[Back]と表示された文字の上にマウスポインターを移動してクリックすると、設定画面に戻ります。
設定画面に戻らないときは、復元中ですので、しばらくしてから再度クリックしてください。
(接続するパソコンや本製品の電源は、絶対に切らないでください。)

設定ファイルについてのご注意
本製品以外の機器へ書き込み、改変による障害、および書き込みに伴う本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失、または停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

3. 設定を出荷時の状態に戻すには

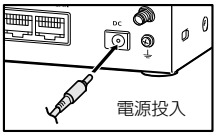
ネットワーク構成を変更するときなど、既存の設定データをすべて消去して、設定をはじめからやりなおすときは、本製品の設定内容を出荷時の状態に戻せます。
そのときの状況に応じて、次の2とおりの方法があります。

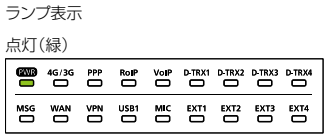
■ 〈MODE〉ボタンを使用する

1 本製品からすべての機器を取りはずして、電源を入れる

[PWR]ランプの点灯を確認してから、手順2の操作を開始してください。

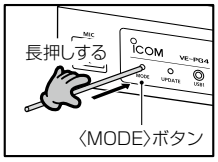
※ご使用の環境により、[POWER]ランプ以外の状態は異なります。

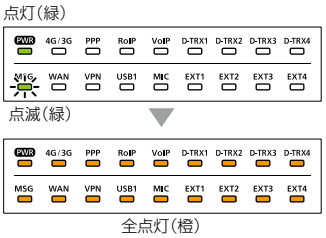




2 すべてのランプが ● 橙点灯するまで、〈MODE〉ボタンを押す

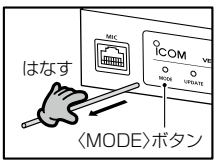
※〈MODE〉ボタンを押すと、[MODE]ランプが緑点滅します。
そのまま押しつづけると、すべてのランプが橙点灯します。

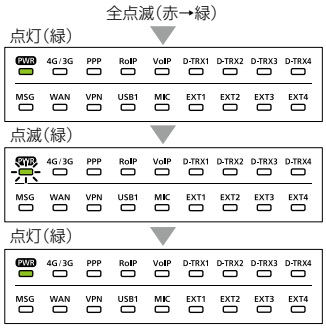




3 すべてのランプが ● 橙点灯したことを確認して、〈MODE〉ボタンから手をはなす

※[PWR]ランプが ● 緑点灯すると、初期化完了です。





ご注意
初期化すると、本製品のIPアドレスは、「192.168.0.1」(初期設定)になります。
初期化実行後、本製品にアクセスできなくなった場合は、パソコンのIPアドレスを変更してください。

3. 設定を出荷時の状態に戻すには

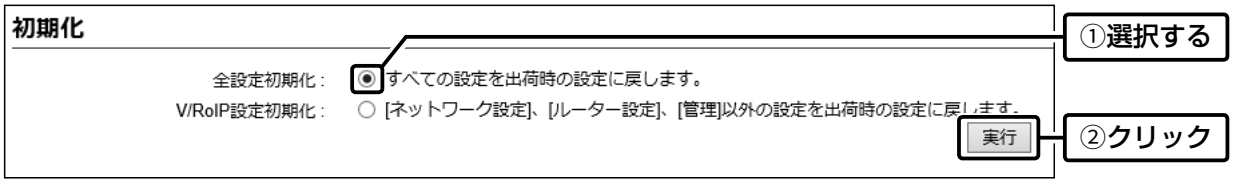
管理 > 初期化

本製品に設定されたIPアドレスと管理者パスワードがわかっていて、そのIPアドレスで設定画面にアクセスできるときは、本製品の設定画面から、すべての設定を出荷時の状態に戻せます。
IPアドレスと管理者パスワードが不明な場合などの初期化については、5-4ページをご覧ください。

■ 設定画面を使用する

1 「管理」メニュー、「初期化」の順にクリックします。
「初期化」画面が表示されます。

2 初期化したい条件（例：全設定初期化）を選択して、〈実行〉をクリックします。



3 〈OK〉をクリックします。
出荷時の状態に戻すために、本製品が再起動します。

4 再起動完了後、[設定画面に戻る]と表示された文字の上にマウスポインターを移動してクリックします。

初期化の条件について
◎全設定初期化をクリックした場合
本製品に設定されたすべての内容を出荷時の状態に戻します。
初期化すると、本製品のIPアドレスは「192.168.0.1」（初期設定）になります。
初期化実行後、本製品にアクセスできなくなった場合は、パソコンのIPアドレスを変更してください。

◎V/RoIP設定初期化をクリックした場合
「ネットワーク設定」メニュー、「ルーター設定」メニュー、「管理」メニュー以外で設定した内容だけを出荷時の状態に戻します。
初期化実行後、無線LANトランシーバー、IP電話機が使用できなくなりますので、必要に応じて、設定してください。

4. ファームウェアを更新する

本製品の設定画面からファームウェアを更新できます。

Ⓐ ファイルを指定して更新する
オンライン更新できない環境では、あらかじめ弊社ホームページからダウンロードしたファームウェアを指定して、手動で更新できます。

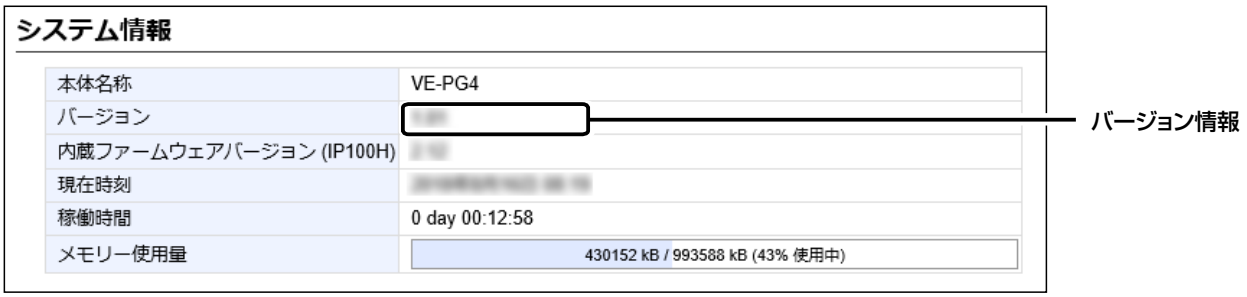
Ⓑ オンライン更新（P.5-8）
4G/3G回線、またはインターネットから本製品のファームウェアを最新の状態に自動更新できます。

Ⓒ〈UPDATE〉ボタンを使用して更新する（P.5-9）
本体の〈UPDATE〉ボタンを押して、本製品のファームウェアを最新の状態に更新できます。

TOP

■ ファームウェアについて

ファームウェアは、本製品を動作させるために、出荷時から本製品のフラッシュメモリーに書き込まれているプログラムです。
このプログラムは、機能の拡張や改良のため、バージョンアップすることがあります。
更新を実行する前に、本製品の設定画面にアクセスして、「TOP」画面に表示されるバージョン情報を確認してください。
ファームウェアを更新すると、機能の追加など、本製品を最良の状態にできます。



■ ファームウェアの更新についてのご注意

◎ 更新中は、絶対に本製品の電源を切らないでください。
更新中に電源を切ると、データの消失や故障の原因になります。

◎ ご使用のパソコンでファイアウォール機能が動作していると、更新できないことがあります。
更新できない場合は、ファイアウォール機能を無効にしてください。

◆ ファームウェアの更新結果については、自己責任の範囲となります。
次に示す内容をよくお読みになってから、弊社ホームページ http://www.icom.co.jp/ より提供される本製品のアップデート用ファームウェアファイルをご使用ください。
本製品以外の機器への書き込み、改変による障害、および書き込みに伴う本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失、あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

4. ファームウェアを更新する

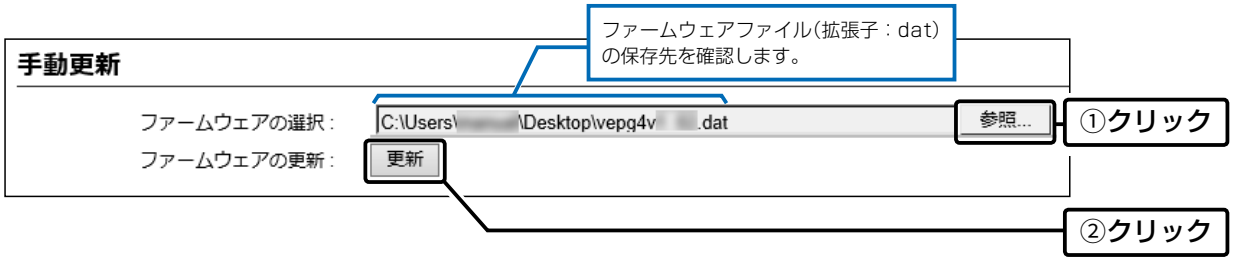
管理 > ファームウェアの更新

Ⓐ ファイルを指定して更新する

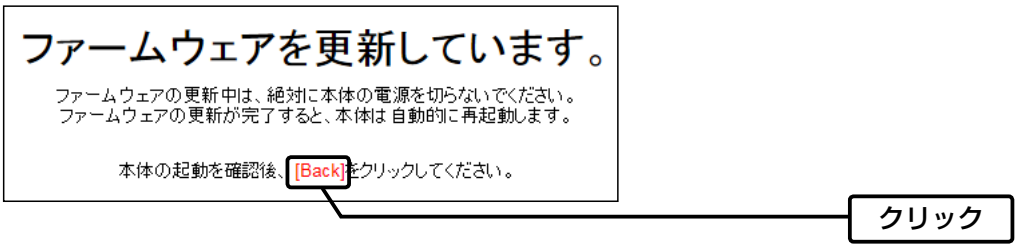
ファームウェアの更新を実行する前に、現在の設定内容を保存されることをおすすめします。(P.5-2)
※ 更新後、既存の設定内容が初期化されるファームウェアファイルがありますので、ダウンロードするときは、弊社ホームページに記載の内容をご確認ください。
※ 日常、管理者以外の端末から更新できないように、設定画面へのアクセス制限の設定をおすすめします。(取扱説明書[活用編])

1 「管理」メニュー、「ファームウェアの更新」の順にクリックします。
「ファームウェアの更新」画面が表示されます。

2 下記のように、弊社ホームページよりダウンロードして解凍したファームウェアファイル(拡張子：dat)の保存先を指定して、更新します。



3 更新完了後、[Back]と表示された文字の上にマウスポインターを移動してクリックすると、設定画面に戻ります。
設定画面に戻らないときは、ファームウェアの更新中ですので、しばらくしてから再度クリックしてください。
(接続するパソコンや本製品の電源は、絶対に切らないでください。)



ご注意
[Back]の操作(手順3)で設定画面に戻るようになるまで、ご使用のパソコンや本製品の電源を絶対に切らないでください。
途中で電源を切ると、データの消失や誤動作の原因になります。
※初期設定に戻るような注意書きがあるバージョンアップ用ファームウェアの場合は、上図の[Back]をクリックしても設定画面に戻れないことがあります。
その場合は、接続するパソコンのIPアドレスを「例:192.168.0.100」に設定してから、本製品の設定画面「192.168.0.1」にアクセスしなおしてください。

4. ファームウェアを更新する

管理 > ファームウェアの更新

Ⓑオンライン更新

下記の手順で、最新のファームウェアを確認後、[MSG]ランプが●緑点灯しているときは、本製品のファームウェアをオンラインで更新できます。

※ 自動更新機能が「有効」に設定されているときに、オンラインで新しいファームウェアを検知します。（取扱説明書［活用編］）

※ ファームウェアの確認には、4G/3G回線、またはインターネット回線への接続が必要です。
また、インターネット回線接続時は、本製品へのDNS設定、デフォルトゲートウェイの設定が必要です。

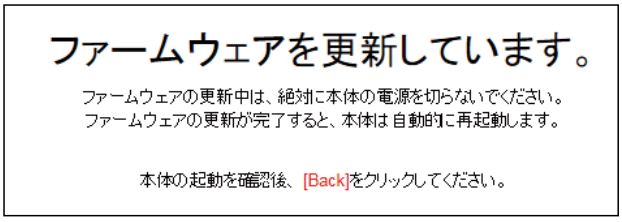
※ 更新を実行する前に、現在の設定内容を保存されることをおすすめします。（P.5-2）

1 「管理」メニュー、「ファームウェアの更新」の順にクリックします。
「ファームウェアの更新」画面が表示されます。

2 ［ファームウェアの確認］欄の〈確認〉をクリックして、表示される更新内容を確認します。
※「新しいファームウェアはありません。」が表示され、[MSG]ランプが消灯のときは、更新は必要ありません。

3 〈ファームウェアを更新〉をクリックします。
弊社のアップデート管理サーバーにアクセスを開始します。
※更新により、既存の設定内容が初期化されるファームウェアファイルがありますので、更新を実行する前に、表示される更新内容をご確認ください。

4 更新が完了するまで、お待ちください。
弊社のアップデート管理サーバーに接続すると、ファームウェアのダウンロードを開始し、更新後は、自動的に再起動します。



4. ファームウェアを更新する

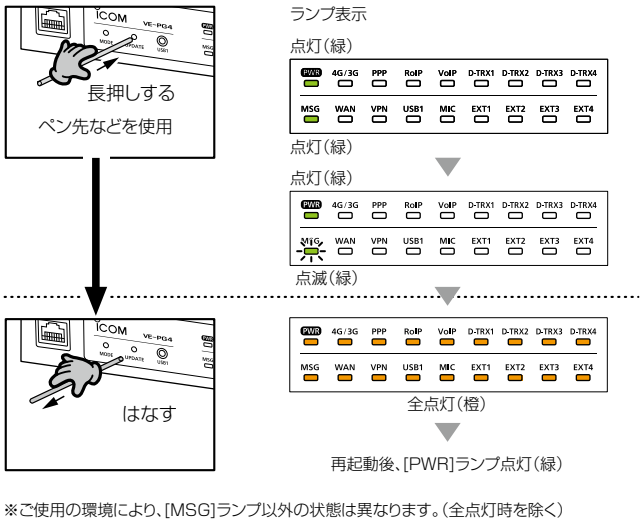
管理 > ファームウェアの更新

ⓒ〈UPDATE〉ボタンを使用して更新する

[MSG]ランプが●緑点灯した場合は、下記の手順で、本製品のファームウェアをバージョンアップできます。
※オンラインファーム検知時、ファームウェアは自動的に更新されません。
※更新内容によっては、アップデート管理サーバーから本製品のファームウェアが自動更新されることがあります。
運用中にファームウェアを更新して本製品が再起動しますので、自動更新を望まない場合は「無効」(初期設定:有効)に設定してください。
※4G/3G回線をご使用の場合、自動更新機能は設定できません。

1 [MSG]ランプが●緑点灯から☼緑点滅に切り替わるまで、〈UPDATE〉ボタンを押します。

2 [MSG]ランプが☼緑点滅したことを確認して、〈UPDATE〉ボタンから手をはなします。
ファームウェアのダウンロードを開始し、更新後は自動的に再起動します。
※本製品が再起動したあと、ご使用の端末を再起動してください。



※ご使用の環境により、[MSG]ランプ以外の状態は異なります。(全点灯時を除く)

5. USBメモリーによる自動設定機能について

本製品のUSBポートにUSBメモリー(市販品)を接続すると、あらかじめUSBメモリーに保存されたファームウェアファイルや設定ファイル(本製品の設定が保存されたファイル)を本製品に自動で読み込みます。
また、本製品のLAN側MACアドレスをフォルダー名とするフォルダーを作成することで、1つのUSBメモリーを使用して、複数台(本製品)の設定復元やファームウェアの更新ができます。
※操作方法については、5-14ページ～5-16ページをご覧ください。

◎ファームウェアの更新

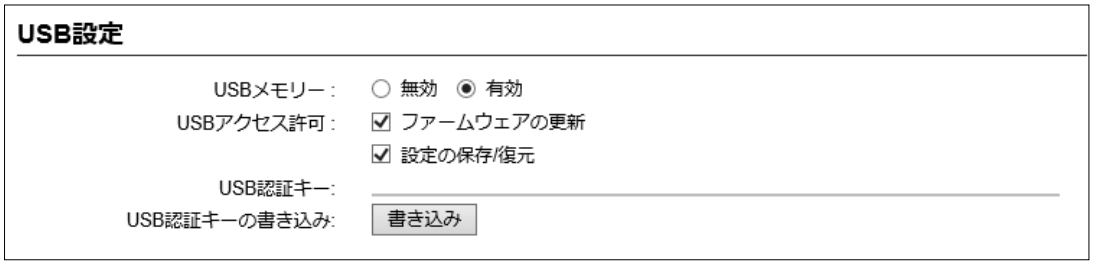
本製品のファームウェアファイル(拡張子：dat)をUSBメモリーに保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、ファームウェアを更新します。

◎設定の保存／復元

本製品の設定ファイルをUSBメモリーに保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、自動で設定を復元します。

ご参考

「管理」メニューの「管理ツール」画面で、[USBメモリー]欄が「有効」に設定されているとき、USBメモリーが差し込まれると、USBメモリーへのアクセスが開始されます。



（※画面の内容は、初期設定です。）

5. USBメモリーによる自動設定機能について

■ USBストレージデバイス使用時のご注意

◎ 指紋認証型、アプリケーション認証(パスワード認証)型など、セキュリティー対応型のUSBメモリーは使用できません。
◎ ご使用になる前に、あらかじめ、USBメモリー内のデータをバックアップしてください。
◎ データ保護のため、必ず[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーの接続や取りはずしをしてください。
設定保存/復元、ファームウェアの更新で使用する場合など、USBメモリーを接続中([USB]ランプ● 緑点灯中)は、絶対にUSBメモリーを取りはずさないでください。
ファイルの消失や故障の原因になります。
◎ USBメモリーは、1つのUSBポートにだけ接続してください。
複数のUSBポートを同時には使用できません。
◎ USBメモリーを差し込むときは、形状と差し込み方向に注意して、奥まで確実に差し込んでください。
◎ USBメモリーを接続中は、[USB]ランプが● 緑点灯します。
設定復元中やファームウェアの更新中は、[MSG]ランプが緑色で点滅します。
◎ 本製品の設定画面でUSB認証キーが設定(P.5-18)されている場合、差し込まれたUSBメモリー側の認証キーと一致しないときは、自動設定機能は動作しません。
◎ 設定を復元する直前の設定値は、設定ファイル(bakdata.sav)として、本製品に接続したUSBメモリーにバックアップされます。
◎ USBメモリーに保存された設定ファイルやファームウェアファイルが、本製品に適用されているものと同じ場合や、破損していたり、本製品以外のものであったりするときは、自動設定、またはファームウェアの更新をしません。
※本製品で動作中のものと異なる設定ファイルやファームウェアファイルが、USBメモリーに保存されている場合は、その内容で自動設定されます。
◎ 設定ファイルとファームウェアファイルの両方がUSBメモリーに保存されている場合は、設定復元、ファームウェアの更新の順に自動設定を実行します。

■ 対応するUSBストレージデバイスの規格

インターフェース：USB3.0/2.0/1.1
デバイス　　：USB 大容量デバイス(USB Mass Storage Class)
フォーマット　　：FAT16/FAT32(exFATやNTFSなど、ほかのフォーマットには対応していません。)
※すべてのUSB対応周辺機器で動作を保証するものではありません。
※装着するデバイスの消費電流に応じてセルフパワー供給が必要になる事があります。

5. USBメモリーによる自動設定機能について

■ 自動設定に使用するファイル名の付けかた

設定ファイル名は、「savedata」(拡張子：sav)でUSBメモリーに保存してください。

※自動設定に使用する設定ファイルは、「管理」メニュー→「設定の保存/復元」画面→[設定の保存]項目(P.5-2)で保存したものと、自動バックアップされる設定ファイル以外は、使用できません。

ファームウェアファイル名は、「firmware」(拡張子：dat)でUSBメモリーに保存してください。

※ファームウェアの更新に使用するファームウェアファイルは、弊社ホームページからダウンロードし、解凍してから、ファームウェアファイル名を変更してください。

■ 自動バックアップされる設定ファイルについて

バックアップは、下記のファイル名で、最大10世代前まで自動バックアップされます。
最新のバックアップ設定ファイルは、bakdata.savで自動バックアップされます。

例：1世代前のファイル名　bakdata_1.sav
2世代前のファイル名　bakdata_2.sav
3世代前のファイル名　bakdata_3.sav
～　中略　～
10世代前のファイル名　bakdata_10.sav

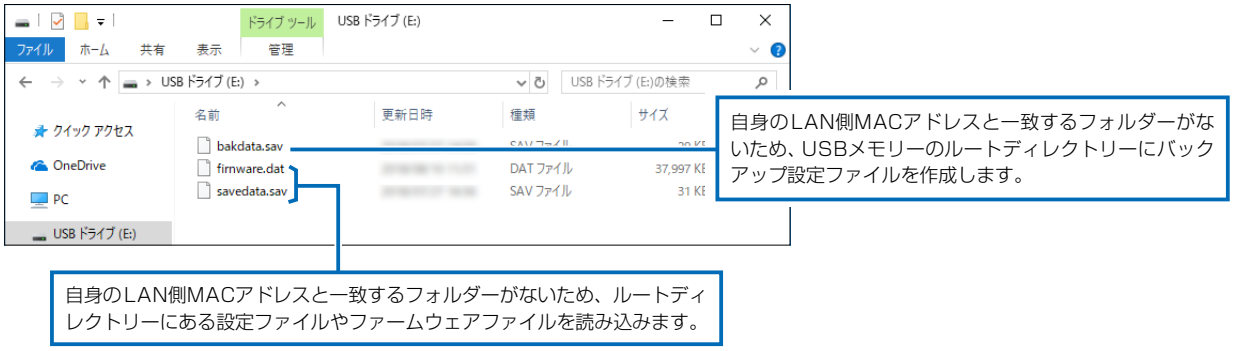
※10世代を超えると、最も古いバックアップ設定ファイル(bakdata_10.sav)が削除されます。
また、削除と同時に、ファイル名の数字が1世代後退します。(例：bakdata_9.sav→bakdata_10.sav)
※ファームウェアファイルは、バックアップされません。
※本製品の設定内容を変更した場合に、設定ファイル(bakdata.sav)が自動バックアップされます。

5. USBメモリーによる自動設定機能について

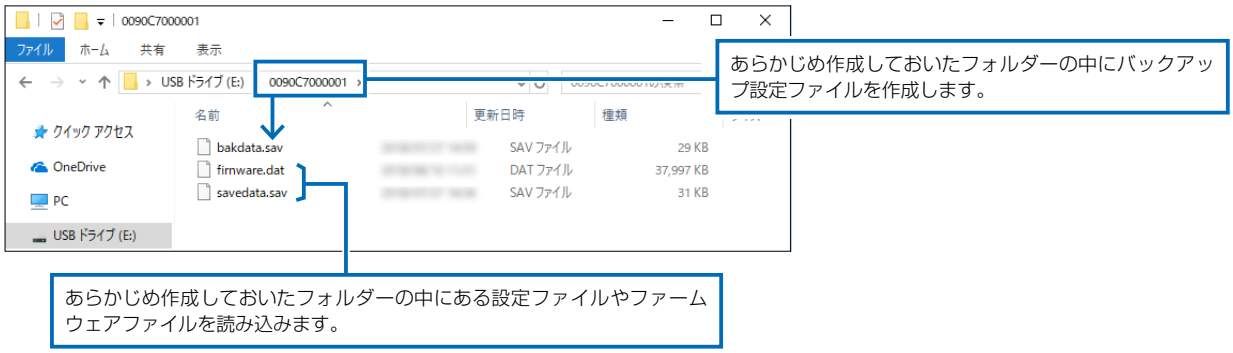
■ 複数台分の設定ファイルを1つのUSBメモリーで管理するには

1つのUSBメモリーを使用して、本製品(複数台分)の設定復元やファームウェアの更新をするときは、あらかじめ、本製品のシリアルシールに記載されているLAN側MACアドレス(P.vi)をフォルダー名★とするフォルダーを作成し、そのフォルダーに本製品の設定ファイルやファームウェアファイルを保存しておく必要があります。
★全角のフォルダー名は使用できません。

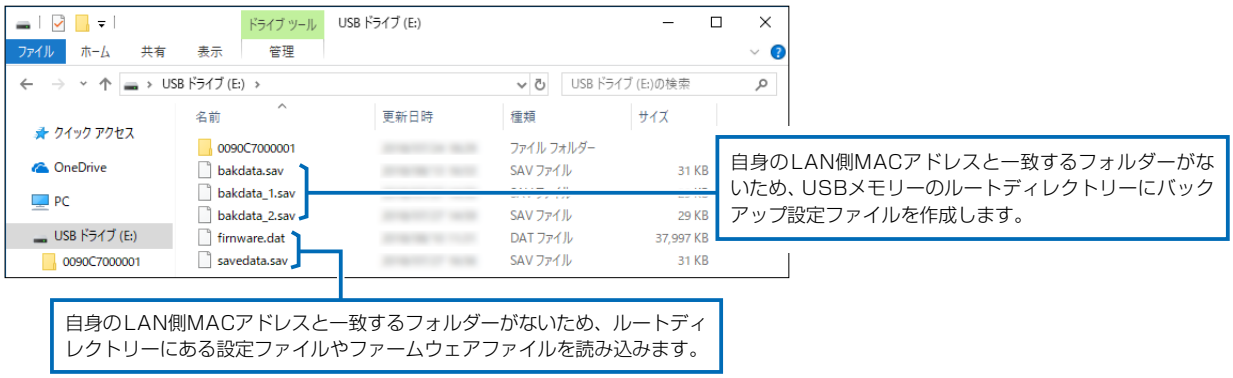
ルートディレクトリーにフォルダーがないとき



自身のLAN側MACアドレス(例：0090C7000001)と一致するフォルダーがあるとき



自身のLAN側MACアドレス(例：0090C7000002)と一致するフォルダーがないとき



6. USBメモリーから自動で設定を復元するには

管理 > 設定の保存/復元

本製品の設定ファイルをUSBメモリー(市販品)に保存後、設定が異なる本製品にUSBメモリーを差し込んで、自動で設定を復元するまでの手順について説明します。
※ 使用条件については、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.5-10)をご覧ください。

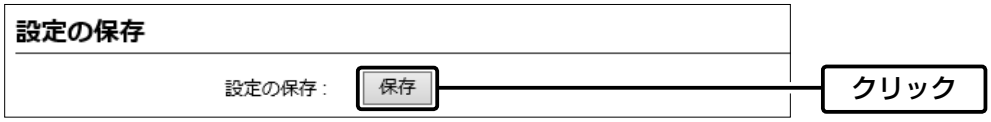
■ 設定ファイルを保存して復元するまでの手順

1 USBメモリーをパソコンに差し込みます。

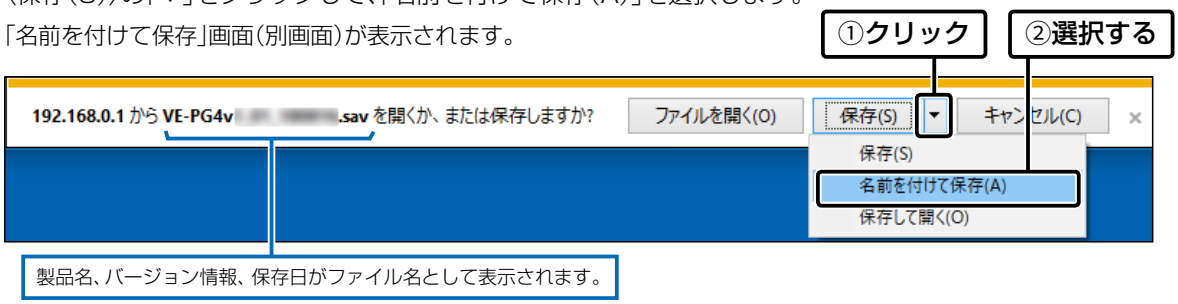
2 本製品の設定画面にアクセスします。(P.1-17)

3 「管理」メニュー、「設定の保存/復元」の順にクリックします。
「設定の保存/復元」画面が表示されます。

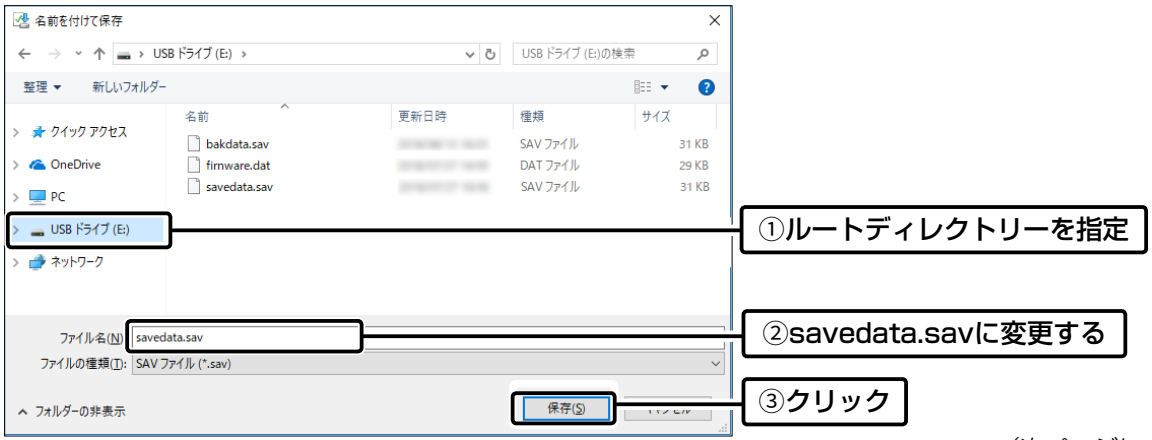
4 [設定の保存]欄の〈保存〉をクリックします。
ファイルの確認画面(別画面)が表示されます。



5 〈保存(S)〉の「▼」をクリックして、「名前を付けて保存(A)」を選択します。
「名前を付けて保存」画面(別画面)が表示されます。



6 「名前を付けて保存」(別画面)画面で、設定ファイルの保存先にUSBメモリーのルートディレクトリーを指定し、ファイル名を「savedata.sav」に変更してから、〈保存(S)〉をクリックします。
※ ファイル名は、必ず「savedata.sav」に変更してください。
「savedata.sav」以外のファイル名では、USBメモリーからの復元に使用できません。



(次ページにつづく)

6. USBメモリーから自動で設定を復元するには

管理 > 設定の保存/復元

■ 設定ファイルを保存して復元するまでの手順

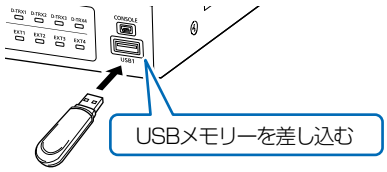
7 USBメモリーをパソコンから取りはずします。

※USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。

8 設定を復元する本製品を用意します。

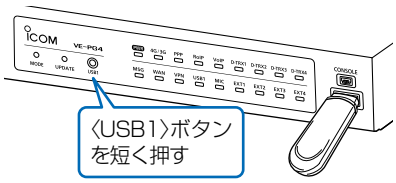
9 savedata.savが保存されたUSBメモリーを本製品のUSBポートに差し込みます。

USBメモリーが接続されると、[USB]ランプが● 緑点灯します。(例:USB1)



10 〈USB〉ボタンを短く押します。

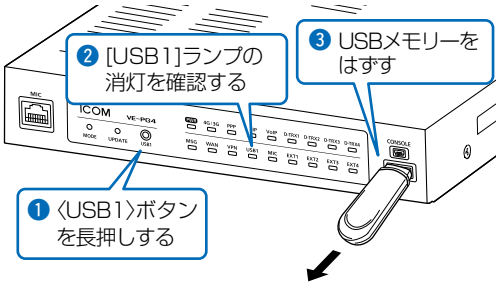
設定の復元するため、本製品が再起動します。



11 [PWR]ランプが● 緑点灯に切り替わったことを確認してから、[USB]ランプが消灯するまで、〈USB〉ボタンを押しつづけます。

[USB]ランプ消灯後、本製品からUSBメモリーを取りはずします。

※USBメモリーには、復元前の設定内容を保存した設定ファイルが自動でバックアップファイル(bakdata.sav)として保存されています。



ご注意

◎設定復元が完了するまで、絶対にUSBメモリーを取りはずしたり、電源を切ったりしないでください。
途中で、USBメモリーを取りはずしたり、電源を切ったりすると、設定ファイルの消失や故障の原因になります。
また、設定復元が完了するまで、本製品の設定画面にアクセスしないでください。

◎データ保護のため、必ず[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーを取りはずしてください。

ご参考

「管理」メニューの「管理ツール」画面で、[USBメモリー]欄(P.5-10)が「有効」(初期設定)に設定されているとき、USBメモリーが差し込まれた本製品の電源を入れると、USBメモリーへのアクセスが開始されます。

7. USBメモリーからファームウェアを更新するには

弊社ホームページよりダウンロードした本製品のファームウェアファイル(拡張子:dat)をUSBメモリー(市販品)に保存して、本製品のファームウェアを更新するまでの手順について説明します。

※使用条件については、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.5-10)をご覧ください。
※更新を実行する前に、「ファームウェアの更新についてのご注意」(P.5-6)をご覧ください。

■ 更新するまでの手順

1 本製品のファームウェアファイルを弊社ホームページよりダウンロードして、解凍します。

2 ファームウェアファイルのファイル名をfirmware.datに変更します。
※ファイル名は、必ず「firmware.dat」に変更してください。
「firmware.dat」以外のファイル名は、USBメモリーからの更新には使用できません。

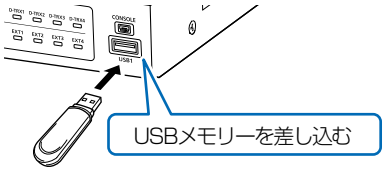
3 USBメモリーをパソコンに差し込みます。

4 firmware.datをUSBメモリーのルートディレクトリーに保存します。

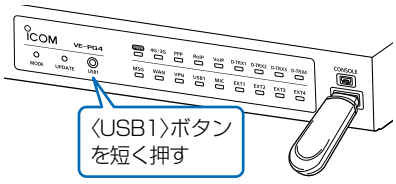
5 USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。

6 ファームウェアを更新する本製品を用意します。

7 firmware.datが保存されたUSBメモリーを本製品のUSBポートに差し込みます。
USBメモリーが接続されると、[USB]ランプが● 緑点灯します。



8 〈USB〉ボタンを短く押します。
ファームウェアを更新するため、本製品が再起動します。



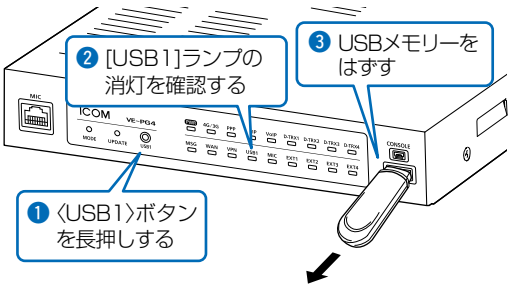
ご注意
ファームウェアの更新が完了するまで、絶対にUSBメモリーを取りはずしたり、電源を切ったりしないでください。
更新中に、USBメモリーを取りはずしたり、電源を切ったりすると、故障の原因になります。

(次ページにつづく)

7. USBメモリーからファームウェアを更新するには

■ 更新するまでの手順

9 [PWR]ランプが ● 緑点灯に切り替わったことを確認してから、[USB]ランプが消灯するまで、〈USB〉ボタンを押しつづけます。
[USB]ランプ消灯後、本製品からUSBメモリーを取りはずします。



ご注意
データ保護のため、必ず[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーを取りはずしてください。

更新後は、本製品の設定画面にアクセスして、ファームウェアバージョンを確認してください。
USBメモリーに保存された設定ファイルやファームウェアファイルが本製品に適用されているものと同じとき、破損や本製品以外のものである場合は、自動設定、またはファームウェアの更新をしません。

8. USBメモリー用の認証キーを設定するには

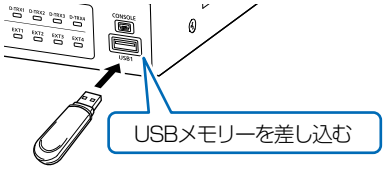
管理 > 管理ツール

本製品にUSB認証キーを設定することで、認証キーが一致するUSBメモリーを使用したときだけ、設定ファイルの自動バックアップ、設定の復元、ファームウェアの更新ができます。

■ 設定のしかた

1 USB認証キーの書き込みに使用するUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込みます。(例：USB1)

※あらかじめ、USBメモリーに保存されたUSB認証キー(ファイル名：usbkey.dat)を変更する場合も、そのUSBメモリーを差し込みます。



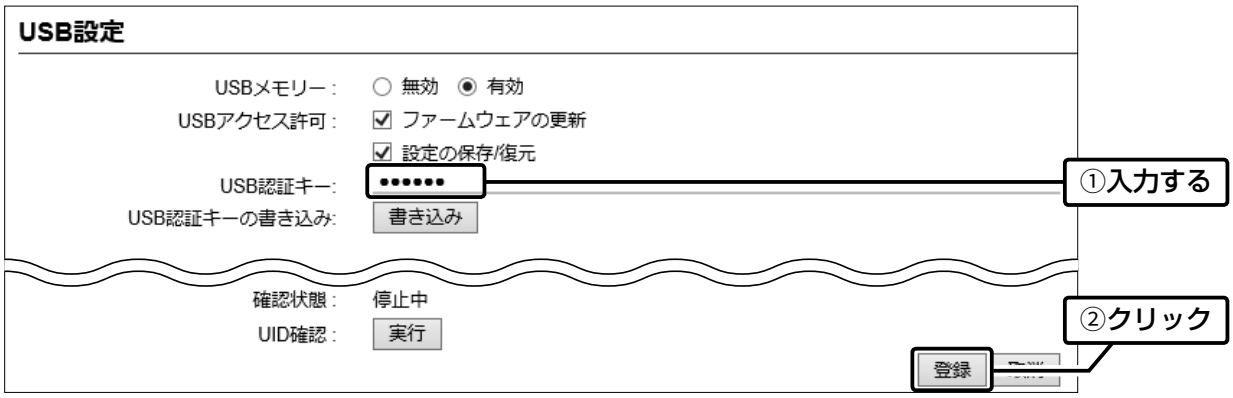
2 本製品の設定画面にアクセスします。(P.1-17)

3 「管理」メニュー、「管理ツール」の順にクリックします。

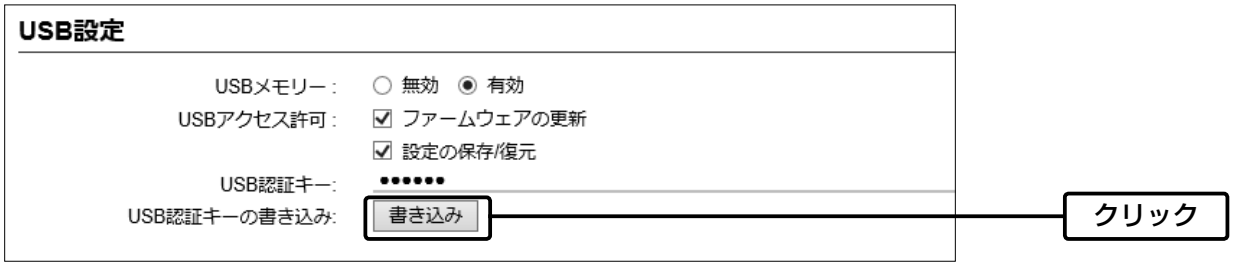
「管理ツール」画面を表示します。

4 [USB設定]項目の[USB認証キー]欄に、大文字/小文字の区別に注意して、任意の半角英数字64文字以内で入力して、〈登録〉をクリックします。

※USB認証キーを変更する場合は、テキストボックスの内容を削除してから入力してください。



5 〈書き込み〉をクリックします。



(次ページにつづく)

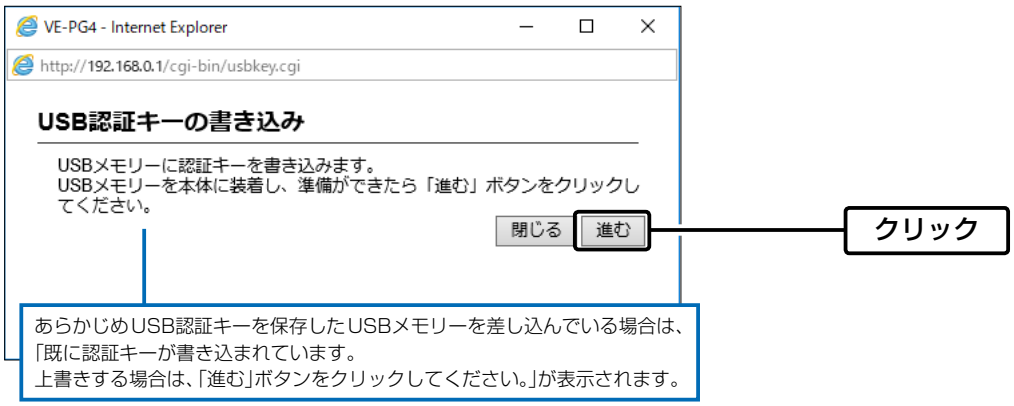
8. USBメモリー用の認証キーを設定するには

管理 > 管理ツール

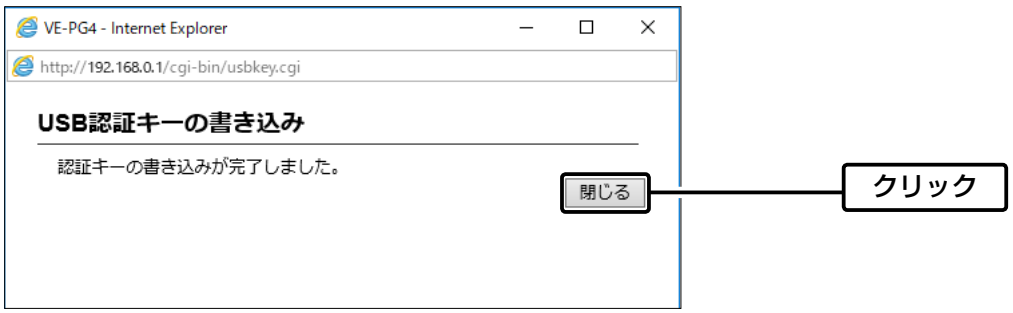
■ 設定のしかた

6 「USB認証キーの書き込み」(別画面)が表示されたら、〈進む〉をクリックします。

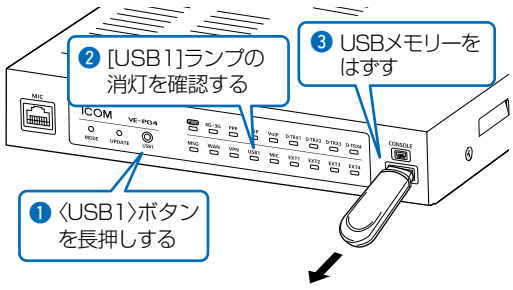
※書き込みを中止する場合は、〈閉じる〉をクリックします。



7 「認証キーの書き込みが完了しました。」が表示されたら、〈閉じる〉をクリックします。



8 本製品からUSBメモリーを取りはずします。(例：USB1)



ご注意

データ保護のため、必ず[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーを取りはずしてください。

ご参考に

第 6 章

この章では、
困ったときの対処法、設定画面の構成、仕様などを説明しています。

1. 困ったときは …… 6-2
2. Telnet/SSHで接続するには …… 6-4
   ■ Telnet/SSHコマンドについて …… 6-4
   ■ [CONSOLE]ポートを使用する …… 6-5
3. 設定画面の構成について …… 6-6
4. 機能一覧 …… 6-11
   ■ 通信機能 …… 6-11
   ■ 電話機能 …… 6-11
   ■ ルーター機能 …… 6-11
   ■ ネットワーク管理機能 …… 6-11
   ■ システム関連機能 …… 6-11
   ■ その他 …… 6-11
5. 外部機器接続について …… 6-12
   ■ 構内放送設備など外部機器を接続する場合は …… 6-12
6. Virtual Serial Portについて …… 6-13
   ■ 動作環境 …… 6-13
   ■ 本製品の設定について …… 6-14
   ■ Virtual Serial Portのインストールと設定 …… 6-16
   ■ Virtual Serial Portのアンインストールについて …… 6-18
7. 定格 …… 6-19
   ■ 一般仕様 …… 6-19
   ■ 有線部 …… 6-19
   ■ ポート詳細 …… 6-20

6 ご参考に

1. 困ったときは

下記のような現象は、故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。
それでも異常があるときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

[PWR]ランプが点灯しない

●ACアダプターが本製品に接続されていない
→ 本製品のACアダプター、およびDCプラグの接続を確認する

●ACアダプターをパソコンなどの電源と連動したコンセントに接続している
→ 本製品のACアダプターを壁などのコンセントに直接接続する

[LAN]ポート(後面部)のランプが点灯しない

●LANケーブルが本製品と正しく接続されていない
→ 本製品やパソコンの[LAN]ポート、またはLANケーブルを確認する

●パソコン、またはHUBの電源が入っていない
→ パソコンとHUBの電源が入っていることを確認する

本製品の設定画面が正しく表示されない

●WWWブラウザーのJavaScript機能、およびCookieを無効に設定している
→ JavaScript機能、およびCookieを有効に設定する

●Microsoft Internet Explorer 8.0以前を使用している
→ Microsoft Internet Explorer 9.0以降を使用する

本製品の設定画面にアクセスできない

●パソコンのIPアドレスを設定していない
→ 本製品の初期設定では、DHCPサーバー機能が無効のため、パソコンのIPアドレスを固定IPアドレスに設定する

●IPアドレスのネットワーク部が、本製品とパソコンで異なっている
→ パソコンに設定されたIPアドレスのネットワーク部を本製品と同じにする

●ご使用のWWWブラウザーにプロキシサーバーが設定されている
→ Internet Explorerの「ツール(T)」メニューから「インターネットオプション(O)」、[接続]タブ、〈LANの設定(L)〉の順に操作して、[設定を自動的に検出する(A)]や[LANにプロキシサーバーを使用する(X)]にチェックマークが入っていないことを確認する

インターネットに接続できない

●回線接続業者に契約をしたが、工事完了、または使用開始の通知がない
→ 契約、または工事の完了日をご契約の回線接続業者に確認する

●使用する機器のMACアドレスを登録していない
→ 登録が必要な回線接続業者の場合は、本製品の本体MACアドレス(WAN側MACアドレス)を登録する(P.vi)

●ブリッジタイプモデム、または回線終端装置(FTTH)をご使用の場合で、ご契約の回線接続業者への接続方法を間違えている
→ 該当する回線種別(DHCPクライアント、固定IP、PPPoE)を、ご契約の回線接続業者に確認する

●ブロードバンドモデム、または回線終端装置(FTTH)が本製品と正しく接続されていない
→ ブリッジタイプモデム、または回線終端装置(FTTH)の場合は、本製品の回線種別の設定をご契約の回線接続業者との契約内容にしたがって変更(DHCPクライアント、固定IP、PPPoE)してから[WAN]ポートと接続する
ルータータイプモデムの場合は、本製品の回線種別を初期設定(LANポートとして使用する)で、[LAN]ポートと接続する

●WAN(回線接続業者)側からIPアドレスが取得できていない
→ 本製品とブリッジタイプモデム、または回線終端装置(FTTH)の接続を確認する
WAN側から取得したIPアドレスを確認するときは、「ルーター設定」メニューにある「WAN接続先」画面の[回線状態表示]に表示される内容を確認する

●DNSサーバーのIPアドレスが正しく指定されていない
→「ネットワーク設定」メニュー、または「ルーター設定」メニューでDNSサーバーの設定を確認する

ルーター機能設定時に[WAN/LAN]ポート(WAN側)から本製品にアクセスできない

●出荷時に登録されているIPフィルターの設定により、WAN側から本製品へのアクセスを遮断しているため
→ ⚠**注意** IPフィルターの変更によるセキュリティーの低下で生じる結果については、弊社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

6　ご参考に

1. 困ったときは

USBメモリーにアクセスできない

●本製品のUSBメモリー機能を無効に設定している
→ 本製品のUSBメモリー機能を有効に設定する

通話音が途切れる (マルチキャスト)

●同じ同報グループ(マルチキャストアドレス、ポート番号が同じ)で2ヵ所以上から同時送信している
→ 常時接続する場合、そのうちの1つだけを使用する
→ 複数の送信がある場合、常時接続を中止する
【ご参考】　同一グループ内で同時送信すると、ストリームの混信を起こします。
常時接続状態の端末が存在する場合、無音と混信し激しく音が途切れているように聞こえる場合があります。

外線への発信をキャンセルできない

●SIP制御における発信中継していないため、本製品が呼び出し中を認識できていない
→ 外線GW装置(中継サーバー)の設定において、SIP183中継を「する」に設定する

外部入力、外部出力において、入力デジタルゲイン、出力デジタルゲインが動作しない

●外部入力の出力先を外部出力へ接続した場合、内部CODECを使用せずに接続されているため
→ 入力アナログゲイン、出力アナログゲインを使用する

外部出力への音声信号がフェードイン・フェードアウトしない

●外部入出力分離にて、外部入力の接続先が外部出力になっていない
→ 外部入力の接続先を外部出力に設定する

オンラインバージョンアップができない (SIMカード未装着時)

●LANケーブルが [WAN]ポートに接続されていない
→ [WAN]ランプの点灯(緑)を確認する
LANケーブルが接続されていない場合は、[WAN]ポートに接続する

●デフォルトゲートウェイとDNSサーバーアドレスを設定していない
→「ネットワーク設定」メニューの「IPアドレス」画面、「ルーター設定」メニューの「WAN接続先」画面で設定を確認する
設定されていない場合は、デフォルトゲートウェイとDNSサーバーアドレスを設定する(P.1-21)

●ファイアウォールなどで遮断されている
→ ネットワーク管理者に相談し、ファイアウォールの設定を確認する

IP無線機との中継通信ができない(通信が不安定な状態)

●[4G/3G]ランプが消灯(圏外)、または点滅している(電波が弱い状態)
→ 使用場所を変更する

LTE/3Gサービスとの通信が遮断されている

●[PPP]ランプが消灯している
→ [4G/3G]ランプの点灯を確認する
→ LTE/3Gサービス開通が完了していることを確認する
→ LTE/3Gサービス側(障害情報など)を確認する

PM-IP500の画面にIP無線機が表示されない

● VE-PG4のIPアドレスが正しく設定されていない
→ VE-PG4のIPアドレスを確認する

● VE-PG4のパスワードが正しく設定されていない
→ VE-PG4のパスワードを確認する

● 無線機情報フィルタリング設定が有効になっている
→ フィルタリングポリシーとフィルタリングリストを確認する

※IP無線機の位置情報を表示できるのは、お買い上げ時に、IP無線機のGPS機能が有効に設定され、本製品側で情報を取得できる場合だけです。

2. Telnet/SSHで接続するには

Telnet/SSHでの接続について説明します。
ご使用のOSやTelnet/SSHクライアントが異なるときは、それぞれの使用方法をご確認ください。
※出荷時、「Telnet/SSH設定」項目の[Telnet]欄が「無効」に設定されているため、Telnetクライアントから本製品にアクセスできません。（取扱説明書[活用編]）
※本製品のTelnetで採用している文字コードは、UTF-8です。
Windows標準のTelnetクライアントでは対応できない場合がありますので、UTF-8に対応したターミナルソフトウェアをご使用ください。

【ログインについて】
① 下記を入力して、ログインします。
login ：admin（固定）
Password：admin
※「管理者」画面で設定したパスワードを入力します。（取扱説明書[活用編]）
出荷時や全設定初期化時のpasswordは、adminです。
② ログインに成功すると、プロンプト VE-PG4> が表示されます。

【設定の保存について】
設定変更後、「save」を入力して[Enter]キーを押します。
※コマンド入力で保存をしていない場合、本体再起動後、設定の変更が失われます。

【ログアウトについて】
「quit」、「exit」、「logout」コマンドを実行すると、ログアウトします。

■ Telnet/SSHコマンドについて

使用できるTelnet/SSHコマンドの表示方法と、コマンド入力について説明します。

コマンド一覧……
[Tab]キーを押すと、使用できるコマンドの一覧が表示されます。
コマンド名の入力につづいて[Tab]キーを押すと、サブコマンドの一覧が表示されます。

コマンドヘルプ……
コマンドの意味を知りたいときは、コマンド名につづいて、「？」を入力するとコマンドのヘルプが表示されます。
例）VE-PG4> save ？（saveコマンドのヘルプを表示する場合）
※「help」を入力して[Enter]キーを押すと、全ヘルプの一覧が表示されます。
※Windows標準のTelnetクライアントでは文字化けする場合がありますので、UTF-8に対応したターミナルソフトウェアをご使用ください。

コマンド名の補完……
コマンド名を先頭から数文字入力し[Tab]キーを押すと、コマンド名が補完されます。
入力した文字につづくコマンドが1つしかないときは、コマンド名を最後まで補完します。
例）s[Tab]→save
複数のコマンドがあるときは、1回目の押下でビープ音コマンドを送出し、2回目以降の押下でコマンド候補を表示します。
例）res[Tab]→reset restart
※ビープ音は、お使いのターミナルソフトウェアやOSの設定により、音の有無、音色が異なります。

2. Telnet/SSHで接続するには

■ [CONSOLE]ポートを使用する

本製品の[CONSOLE]ポートとパソコンの[USB]ポートを、市販のUSBケーブル(miniBタイプ)で接続すると、ターミナルソフトウェアから設定できます。
※ご使用していただくためには、USBドライバーが必要です。
※弊社ホームページから、USBドライバーとインストールガイドをダウンロードしていただき、手順にしたがってインストールしてください。
※USBドライバーをインストールしたあと、ターミナルソフトウェアのCOMポートを下記の値に設定します。

◎[接続方法]の選択　：USBケーブルを接続しているCOMポートの番号を指定します。
◎通信速度　：115200(ビット/秒)
◎データビット　：8
◎パリティー　：なし
◎ストップビット　：1
◎フロー制御　：なし

※設定後、何も入力せずに[Enter]キーを押すと、「VE-PG4 login:」と表示されます。

3. 設定画面の構成について

本製品の全設定を初期化したとき、WWWブラウザーに表示される画面構成です。

設定メニュー	設定画面	設定項目
TOP	TOP	システム情報
		MACアドレス
		WANステータス
		LTE情報
情報表示	ネットワーク情報	インターフェース
		Ethernetポート接続情報
		DHCPリース情報
	SYSLOG	SYSLOG
	ブリッジ情報	ブリッジ情報
		ポート接続情報
	PBX情報	内線代表一覧
		内線一覧
	発着信記録	発着信記録
	内線子機情報	内線子機情報
	LTE情報	モジュール情報
		SIM情報
		LTE情報
ネットワーク設定	IPアドレス	本体名称
		IPアドレス設定
	DHCPサーバー	DHCPサーバー設定
		静的DHCPサーバー設定
		静的DHCPサーバー設定一覧
	スタティックルーティング	IP経路情報
		スタティックルーティング設定
		スタティックルーティング設定一覧
	ポリシールーティング	送信元ルーティング設定
		送信元ルーティング設定一覧
ルーター設定	WAN接続先	回線状態表示
		回線種別設定
	アドレス変換	アドレス変換設定
		DMZホスト設定
		静的マスカレードテーブル設定
		静的マスカレードテーブル設定一覧
	IPフィルター	一般設定
		IPフィルター設定
		IPフィルター設定一覧
	簡易DNS	簡易DNSサーバー設定
		簡易DNSサーバー設定一覧
	VPN	IPsec設定
		IPsecトンネル設定
		IPsecトンネル設定一覧
ブリッジ接続	ブリッジ接続	ブリッジ接続設定
		ブリッジ接続設定一覧(組み合わせ)
		ブリッジ接続設定一覧(ブリッジ接続先指定)
		AMBE+2ボコーダー割当設定
	ブリッジ個別呼出	ブリッジ個別呼出ルール設定の保存と書き込み
		ブリッジ個別呼出ルール設定
		ブリッジ個別呼出ルール設定一覧

3. 設定画面の構成について

設定メニュー	設定画面	設定項目
無線機コントローラー設定	RoIP通信設定	他拠点通信設定
		VoIP拡張設定
	テナント設定	テナント番号
	RoIPサーバー	通話優先順位設定
	他拠点接続	他拠点接続設定
		他拠点設定一覧
	近隣呼出接続	近隣呼出接続設定
		アクセスポイント検索設定
		近隣呼出接続設定一覧
	無線機管理	無線機管理
	無線機追加	TRX番号設定
		TRX番号設定一覧
		TRX番号一括設定
	無線機個別	無線機個別設定
		無線機個別設定コピー
		無線機個別設定一覧
	無線LAN	無線LAN設定
		無線LAN設定一覧
	アドレス帳	アドレス帳グループ設定
		アドレス帳グループ詳細設定
		アドレス帳設定の保存と書き込み
		アドレス帳設定
		アドレス帳設定一覧
	メッセージ	メッセージグループ設定
		メッセージグループ詳細設定
		メッセージ設定の保存と書き込み
		メッセージ設定
	プレゼンス	プレゼンス設定
	設定グループ詳細	設定グループ設定一覧
		設定グループ設定
		設定グループ一括設定
無線機ポート詳細設定	デジタル無線機 (D-TRX)	デジタル無線機設定
		デジタル無線機機種設定
		デジタル無線機接続設定
		デジタル無線機通信設定
		デジタル無線機制御設定
	外部入出力(EXT)	外部入出力モード設定
		外部入出力設定
		無線機機種設定
		ブリッジ通信設定
		無線機制御設定
		無線機への音声送信制御設定
		無線機からの音声受信制御設定
	緊急通知	ブリッジ通信設定
	マイク (MIC)	ブリッジ通信設定
		マイク制御設定
		マイク入力制御設定
		音声出力制御設定

3. 設定画面の構成について

設定メニュー	設定画面	設定項目
無線機ポート詳細設定	RoIPゲートウェイ	RoIPゲートウェイ設定
		RoIPゲートウェイ接続設定
		RoIPゲートウェイ通信設定
		RoIPゲートウェイ制御設定
		ブリッジ通信設定
呼出先設定	呼出先番号変換	呼出先番号変換設定の保存と書き込み
		呼出先番号変換
		呼出先番号変換一覧
	呼出先設定	呼出先設定
		呼出先設定一覧(全体)
		呼出先設定一覧(グループ)
		呼出先設定一覧(トークグループ)
		呼出先設定一覧(管理用トークグループ)
		呼出先設定一覧(個別)
		呼出先設定一覧(電話)
		呼出先一括設定
拡張設定	緊急通知	緊急通知設定
	異常監視	LANポートリンクダウン
		PING疎通テスト
		SIPサーバーレジスト
	IP無線機情報フィルタリング	IP無線機情報フィルタリング設定
		フィルタリングリスト設定
		フィルタリングリスト一括設定
	無線機ポート拡張	VoIP設定
	無線機通話録音	共通設定
		録音ボックス設定
		録音ボックス設定一覧
	デジタル無線機コントローラー	デジタル無線機コントローラー設定
IP回線設定	IP回線	SIPサーバー設定
		SIPサーバー設定一覧
		SIPサーバー一括設定
	Peer to Peer	Peer to Peer共通設定
		Peer to Peer設定
		Peer to Peer設定一覧
	VoIP電話帳	VoIP電話帳の保存と書き込み
		VoIP電話帳への登録
		VoIP電話帳登録一覧
PBX設定	基本	基本設定
	特番	共通特番設定
		電話機特番設定
		無線機呼出プレフィクス設定
		外線発信特番設定
	内線個別	内線設定
		内線設定一覧
		内線一括設定
		内線個別詳細
	内線代表	内線代表設定
		内線代表設定一覧
	着信	着信設定

3. 設定画面の構成について

設定メニュー	設定画面	設定項目
PBX無線機呼出設定	呼出先電話番号	呼出先電話番号設定の保存と書き込み
		呼出先電話番号
		呼出先電話番号一覧
	無線機発信規制	無線機発信規制種別
		無線機発信規制設定
		無線機発信規制設定一覧
PBX内線詳細設定	電話機(KX-UTシリーズ)	電話機のメンテナンス
		電話機設定
		機種個別設定(KX-UTシリーズ)
		電話機音設定
		着信音パターン
		着信音パターン割り当て
	電話機(KX-HDVシリーズ)	電話機のメンテナンス
		電話機設定
		電話機音設定
		着信音パターン
		着信音パターン割り当て
	増設ユニット(KX-HDV230) (1～5)	電話機のメンテナンス
		電話機設定
		機種個別設定(KX-HDV230)
		ボタン割当(ページ1)
		ボタン割当(ページ2)
	電話帳	設定グループの選択
		電話帳の保存と書き込み
		電話帳への登録
		電話帳登録一覧
	無線機コントローラー電話接続	無線機コントローラー電話接続設定
		通信設定
		制御設定
		音声送信制御設定
		音声受信制御設定
		V/RoIP制御設定
		自動切断タイマー設定
	コンバーターブリッジ	コンバーターブリッジ設定
		接続設定
		通信設定
		制御設定
		音声送信制御設定
		音声受信制御設定
		V/RoIP制御設定
		自動切断タイマー設定

3. 設定画面の構成について

設定メニュー	設定画面	設定項目
PBX拡張設定	拡張	SIP拡張設定
		VoIP設定
	優先制御	優先レベル設定
		個別着信優先レベル設定
		個別着信優先レベル設定一覧
	番号計画	電話番号ルーティング設定
		電話番号ルーティング設定一覧
		番号計画例外ルール
		発信先番号変換ルール設定
		発信先番号変換ルール一覧
		発信規制ルール設定
		発信規制ルール一覧
	外線サービスグループ	外線サービスグループ設定
	通話数制限	通話数制限設定(システム全体)
		通話数制限設定
	ゲートウェイ接続	ゲートウェイ接続設定
		ゲートウェイ接続設定一覧
	番号表示変換	発信元回線設定
		番号表示変換ルール設定
		番号表示変換ルール設定一覧
	DIDボックス	使用するボックス
		DIDボックス設定
		DIDボックス設定一覧
管理	管理者	管理者パスワードの変更
	管理ツール	USB設定
		HTTP/HTTPS設定
		Telnet/SSH設定
		UID確認
	時計	時刻設定
		自動時計設定
		SNTPサーバー設定
	SYSLOG	SYSLOG設定
	SNMP	SNMP設定
	ネットワークテスト	PINGテスト
		経路テスト
	再起動	再起動
	設定の保存/復元	設定の保存
		設定の復元
		設定内容一覧
	初期化	初期化
	ファームウェアの更新	ファームウェア情報
		オンライン更新
		自動更新
		手動更新

4. 機能一覧

■ 通信機能

- 弊社製無線機との通信
- 外部入出力音声スルー
- オートフェーダー
- 割り込み順位設定
- マルチキャストモード
- ユニキャストモード
- 緊急通知
- VOX

■ 電話機能

- 内線登録(SIP:25)
- 上位SIPサーバー接続(100件)
- 内線代表着信
- マルチラインキー
- パーク保留/パーク応答
- 代理応答
- 保留転送
- 不在転送/不応答転送
- 多機能電話機設定対応
- 電話帳設定(共通300件/グループ100件)
  KX-UTシリーズ、KX-HDVシリーズ用
- Peer to Peer(電話帳500件)
- ゲートウェイ接続
- 番号表示変換
- 発信番号変換
- 発信番号規制
- 外線通話本数制限

■ ルーター機能

- PPPoE接続
- DHCPクライアント接続
- 固定IP接続
- IPマスカレード
- 静的マスカレード
- DMZ
- DHCPサーバー機能
- 静的DHCPサーバー機能
- スタティックルーティング
- ポリシールーティング
- IPフィルター
- DNS代理応答
- VPN

■ ネットワーク管理機能

- SYSLOG
- SNMP(MIB-II)

■ システム関連機能

- 他拠点接続機能
- VoIPシステムとの通信(ブリッジ接続)
- プレゼンス情報表示
  (IP無線機:PM-IP500、IP100H:WEB画面やIP100FS)
- 位置情報表示
  (IP無線機:PM-IP500、IP100H:WEB画面やIP100FS)
- オーダーコールシステム対応
- 無線LANトランシーバーコントローラー機能
- IP無線機ゲートウェイ機能
- 自動チャンネル切替機能(報知情報)

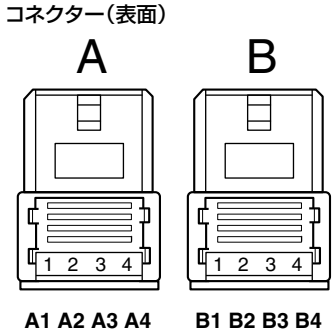
■ その他

- 接続制限機能(管理者ID/パスワード)
- 内部時計設定
- ファームウェアの更新(WEB/USB)
- 設定保存/復元(WEB/USB)
- WWWメンテナンス(HTTP/HTTPS)
- TELNETメンテナンス(TELNET/SSH)
- コンソールメンテナンス(USB)
- オンラインファームアップ(自動/手動)
- ネットワークケーブル接続監視
- ネットワーク疎通監視
- レジスト監視
- 経路通信品質チェック
- 簡易音声録音

5. 外部機器接続について

■ 構内放送設備など外部機器を接続する場合は

下記を参考に配線した接続ケーブルをご用意いただき、VE-PG4と外部機器を接続します。
※ポートの詳細については、本書6-20ページをご覧ください。
※A2、A4、B4はGND(–)側になります。
※B1～B4については、必要に応じて、本製品の設定画面で機能を切り替えられます。



A1/A2：音声出力(OUT)
A3/A4：音声入力(IN)
B1/B2：リレー出力
B1/B4：制御出力
B2/B4：8V電源供給
B3/B4：制御入力

6. Virtual Serial Portについて

Virtual Serial Portを使用すると、VE-PG4に接続しているシリアル通信対応機器をTCP/IP経由で制御できます。
※弊社ホームページのサポート情報(サポート情報→各種ダウンロード)から、Virtual Serial Portをダウンロードできます。
※最大64個まで仮想シリアルポートを追加できます。

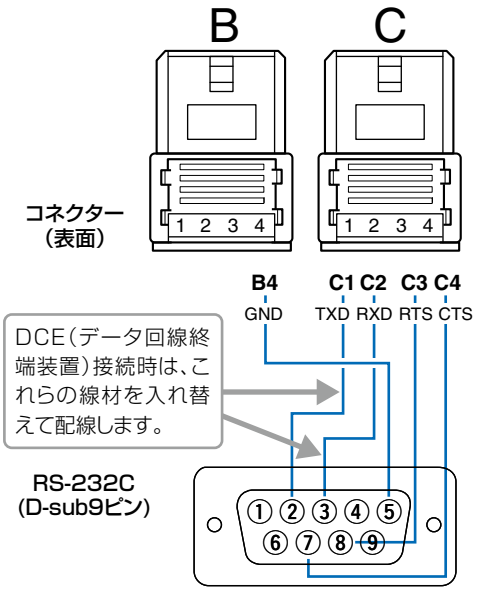
■ 動作環境

対応OS
◎Windows 10 (32ビット/64ビット版)
◎Windows 8.1 (32ビット/64ビット版)
◎Windows 7 (32ビット/64ビット版：Service Pack1以降)
※上記の日本語OSに対応しています。
ただし、Windows 8.1のRTバージョンには対応していません。
※すべてのパソコンでの動作を保証するものではありません。

対応ケーブル
OPC-2389

ご注意
◎Virtual Serial Portはネットワークを使用するため、データの遅延が発生することがあります。
その場合は、シリアルポートをコントロールするソフトウェアで、タイムアウトの設定を長めにすると効果があります。
◎DCE(データ回線終端装置)を接続する場合は、クロス接続する必要があります。(右記配線図参照)

配線図 (例:DTE(データ端末装置)接続時)

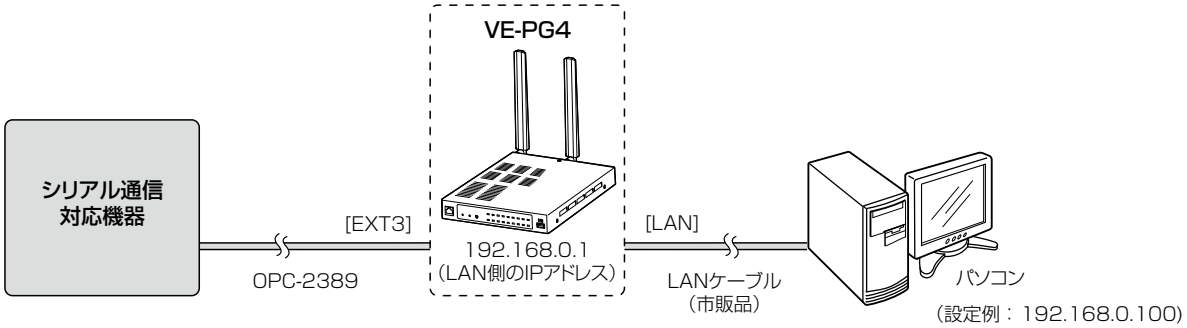


6. Virtual Serial Portについて

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力 (EXT)

■ 本製品の設定について

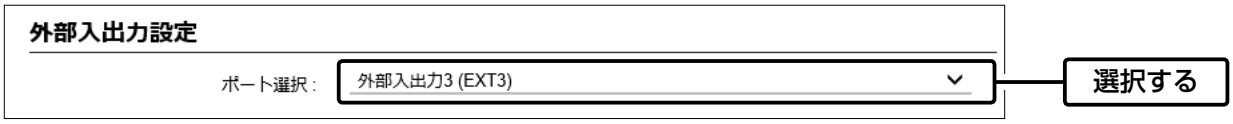
Virtual Serial Portをご使用になる前に、シリアル通信対応機器を接続する本製品のポートについて、「外部入出力(EXT)」画面で「シリアル通信」★を「有効」にしてください。



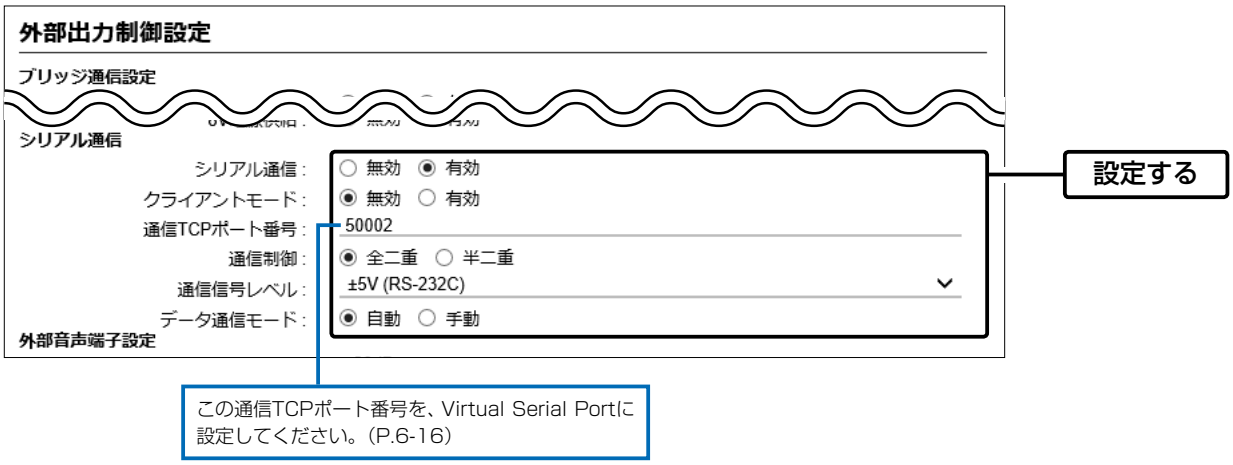
※本書では、VE-PG4の[EXT3]ポート(下側)にシリアル通信対応機器を接続する場合を例に説明しています。
※シリアル通信の各設定項目について詳しくは、別紙の取扱説明書[活用編]をご覧ください。
★接続機器の設定により、シリアル通信関連の項目が、下記のように異なりますのでご注意ください。
◎接続機器を「外部入出力機器」にした場合　：[外部出力制御設定]項目内
◎無線機機種を「汎用設定」にした場合　　：「無線機接続設定」項目内

1 「無線機ポート詳細設定」メニュー、「外部入出力 (EXT)」の順にクリックします。
「外部入出力 (EXT)」画面が表示されます。

2 [外部入出力設定]項目の[ポート選択]で、「外部入出力3」を選択します。



3 「外部出力制御設定」★項目で、下記のようにシリアル通信を設定します。

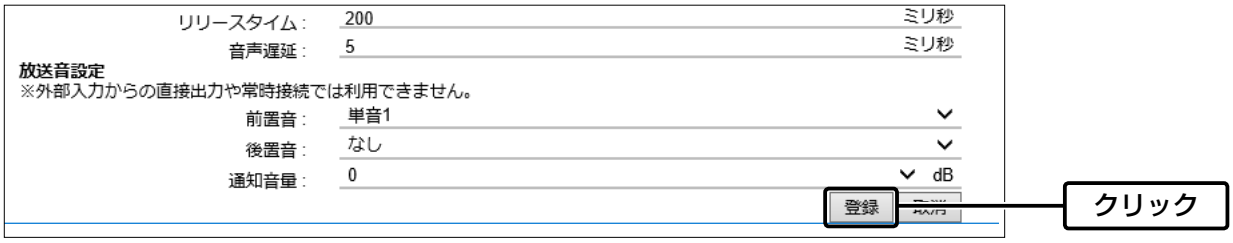


(次ページにつづく)

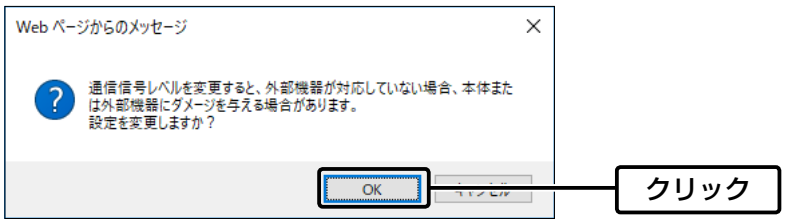
6. Virtual Serial Portについて

■ 本製品の設定について

4 「外部入出力 (EXT)」画面最下部の〈登録〉をクリックします。



5 表示された画面の内容を確認してから、〈OK〉をクリックします。



6. Virtual Serial Portについて

■ Virtual Serial Portのインストールと設定

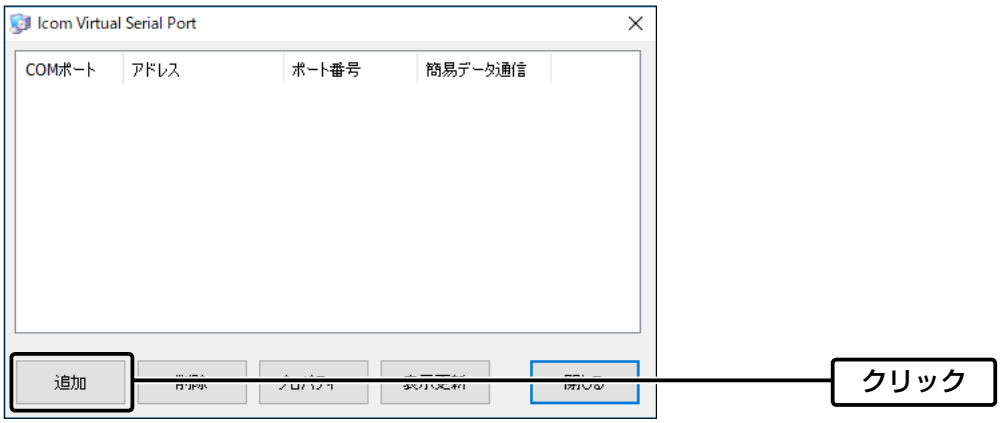
1 管理者権限でログオンします。
※ほかのアプリケーションを起動しているときは、すべて終了してください。

2 弊社ホームページよりダウンロードしたファイルを解凍後、保存先フォルダーを開きます。

3 「VirtualSerialPort.exe」(EXEファイル)をダブルクリックします。
※ご使用のパソコンで、拡張子が表示されないときは、フォルダーオプションから拡張子の表示設定を変更してください。

4 「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、〈はい〉をクリックします。

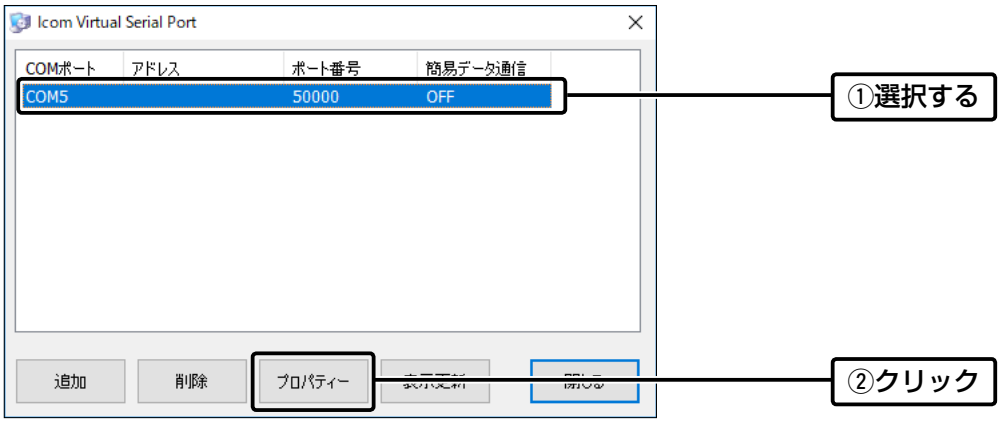
5 Virtual Serial Portを起動したら、〈追加〉をクリックします。



※〈追加〉をクリックしてから、完了まで時間がかかる場合がありますので、しばらくお待ちください。
※Windows セキュリティや再起動の確認画面が表示された場合は、画面にしたがって操作してください。

6 上図の画面にCOMポート番号(例：COM5)が表示されたら、インストール完了です。
※COMポート番号は、ご使用になるパソコンにより異なります。

7 設定するCOMポート番号(例：COM5)を選択して、〈プロパティー〉をクリックします。



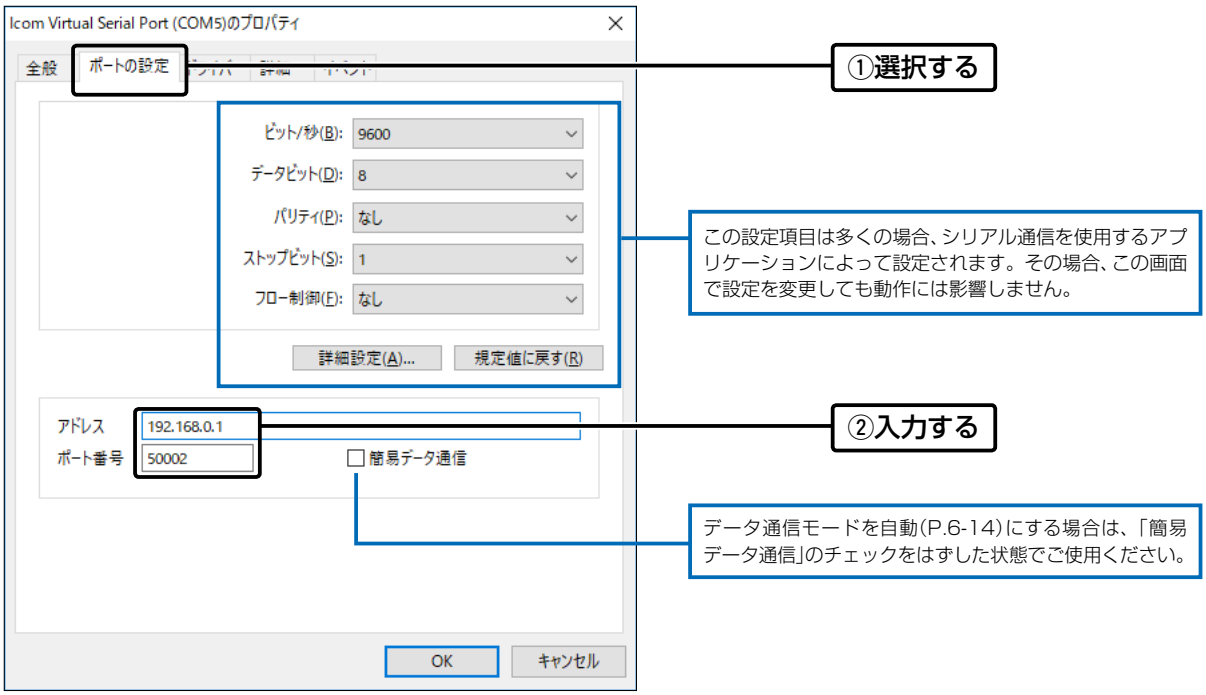
※設定するCOMポート番号をダブルクリックしても同様に操作できます。

(次ページにつづく)

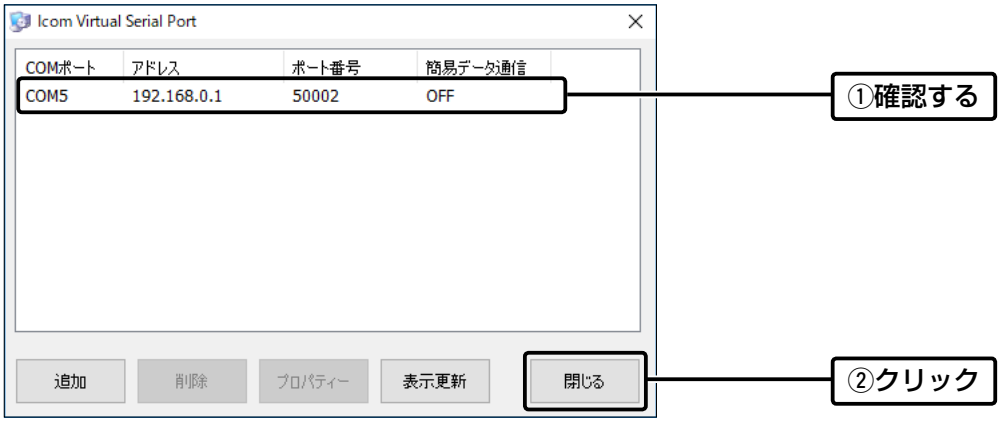
6. Virtual Serial Portについて

■ Virtual Serial Portのインストールと設定

8 [ポートの設定]タブをクリックして、[アドレス]欄に本製品のIPアドレス、通信TCPポート番号(P.6-14)を入力して、〈OK〉をクリックします。



9 設定内容を確認したら、〈閉じる〉をクリックします。



6. Virtual Serial Portについて

■ Virtual Serial Portのアンインストールについて

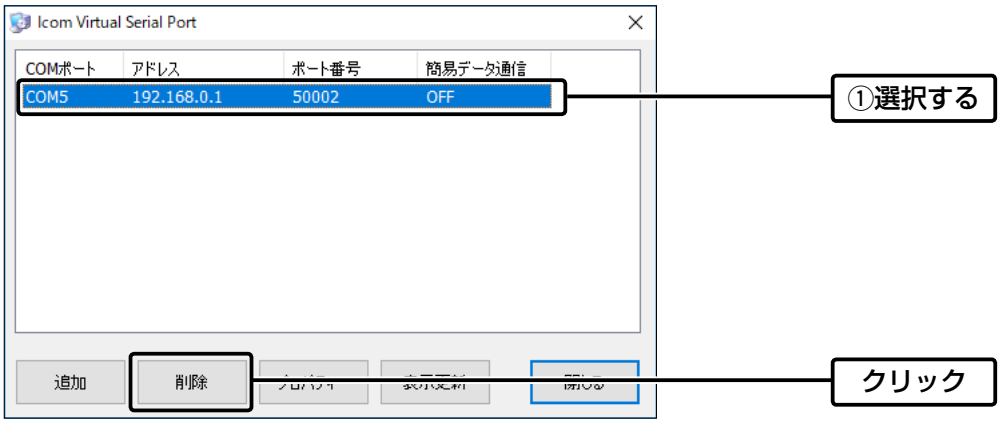
1 管理者権限でログオンします。
※ほかのアプリケーションを起動しているときは、すべて終了してください。

2 Virtual Serial Portの保存先フォルダーを開きます。

3 「VirtualSerialPort.exe」(EXEファイル)をダブルクリックします。
※ご使用のパソコンで、拡張子が表示されないときは、フォルダーオプションから拡張子の表示設定を変更してください。

4 「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、〈はい〉をクリックします。

5 Virtual Serial Portを起動したら、削除するCOMポート番号(例：COM5)を選択して、〈削除〉をクリックします。



※〈削除〉をクリックしてから、完了まで時間がかかる場合がありますので、しばらくお待ちください。
※複数のCOMポート番号を削除するときは、[Shift]キー、または[Ctrl]キーを押しながら選択します。
※ご使用になるパソコンによっては、再起動の確認画面が表示されますので、画面にしたがって操作してください。

7. 定格

定格･仕様･外観等は､改良のため予告なく変更する場合があります。

■ 一般仕様

電　　源：DC12V±10%[DCプラグ極性：⊖—◉—⊕]
※ACアダプター(付属品)は、AC100V±10%
最大55W(付属のACアダプター使用時)
使 用 環 境：温度0～40℃、湿度5～95%(結露状態を除く)
外 形 寸 法：約213(W)×36.8(H)×270(D)mm(突起物を除く)
重　　量：約1.8kg(付属品を除く)
適 合 規 格：クラスB情報技術装置(VCCI)
インターフェース：ランプ(PWR、4G/3G、PPP、RoIP、VoIP、D-TRX1～4、MSG、WAN、VPN、USB1、MIC、EXT1～4、USB2/3)
ボタン(MODE、UPDATE、USB1、USB2/3)
[USB]ポート×3　：USB Aタイプ(USB3.0)
[CONSOLE]ポート：USB miniBタイプ(USB2.0/1.1)

■ 有線部

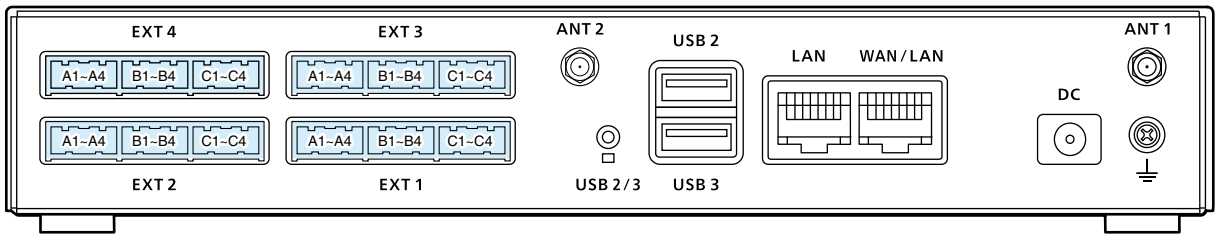
インターフェース
ネットワーク部：[WAN/LAN]ポート(RJ-45型)×1(Auto MDI/MDI-X)
[LAN]ポート(RJ-45型)×1(Auto MDI/MDI-X)
●IEEE802.3/10BASE-T準拠
●IEEE802.3u/100BASE-TX準拠
●IEEE802.3ab/1000BASE-T準拠
EXT(1～4)部：音声入力　－10dBs/－40dBs 切替 入力インピーダンス約10kΩ 不平衡
音声出力　0dBs/－20dBs 切替 600Ω負荷対応 不平衡/8Ω1W スピーカー
制御入力　低電圧接点(DC3.3V 1mA)/電圧入力(3～16V)
制御出力　無電圧接点(30V 500mA)/オープンコレクター(3～16V 10mA)
コネクター　2.54mm ピッチクイックコネクター(4極×3)×4
通 信 速 度：ネットワーク部　10/100/1000Mbps(自動切り替え/全二重)
透過プロトコル：IPv4
呼制御プロトコル：SIP
コ ー デ ッ ク：G.711u、AMBE+2

6 ご参考に

7. 定格

■ ポート詳細

図中のピン番号を参考に、下表で各ポートの機能をご確認ください。



ピン番号	機能
A1	汎用音声出力(VE-PG4側)/重畳PTT制御
A2	アナログGND
A3	汎用音声入力(VE-PG4側)/重畳スケルチ検出
A4	アナログGND
B1	汎用制御出力/単独PTT制御 リレー出力
B2	シリアル通信(半二重用)/8V電源供給 リレー出力
B3	汎用制御入力/単独スケルチ検出
B4	共通GND
C1	シリアル通信 TXD(VE-PG4側)
C2	シリアル通信 RXD(VE-PG4側)
C3	シリアル通信 RTS(VE-PG4側)
C4	シリアル通信 CTS(VE-PG4側)

※B1～B4については、必要に応じて、本製品の設定画面で機能を切り替えられます。

◎A1/A2端子(+/−)：音声出力端子

使用するときは、接続するアンプ等の端子仕様に合わせて、本製品の出力ゲインを設定してください。
設定を間違えると、放送設備が破損する原因となることがありますのでご注意ください。
放送用ページングアンプまでの延長距離は、 10m以内にしてください。
複数の機器を接続する場合、アースループによるノイズや誤動作にご注意ください。
基準レベル　　：スピーカー/0dBs/−20dBs (0dBs=0.775Vrms)切替式
適用負荷インピーダンス：600Ω以上(スピーカー：8Ω)

◎A3/A4端子(+/−)：音声入力端子

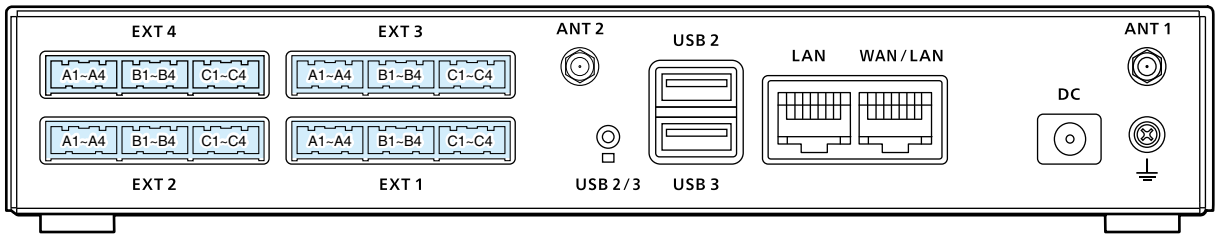
接続する機器の仕様に合わせて、本製品の入力ゲインを設定してください。
また、エレクトレットコンデンサー型マイク以外を接続する場合、マイク用給電設定は「有効」にしないでください。
基準レベル　　：−10dBs/−40dBs (0dBs=0.775Vrms)切替式
入力インピーダンス　：約10kΩ(給電時は約1kΩ)
給電電圧　　：約2.2V(エレクトレットコンデンサーマイク用)

◎B1/B2端子(+/−)：リレー出力端子

外部機器のON/OFF制御に使用します。
「外部入出力 (EXT)」画面の[外部出力制御設定]項目で機能を切り替えられます。
弱電制御用の制御出力端子のため、30V/500mA以下でご使用ください。

7. 定格

■ ポート詳細



ピン番号	機能
A1	汎用音声出力(VE-PG4側)/重畳PTT制御
A2	アナログGND
A3	汎用音声入力(VE-PG4側)/重畳スケルチ検出
A4	アナログGND
B1	汎用制御出力/単独PTT制御 リレー出力
B2	シリアル通信(半二重用)/8V電源供給 リレー出力
B3	汎用制御入力/単独スケルチ検出
B4	共通GND
C1	シリアル通信 TXD(VE-PG4側)
C2	シリアル通信 RXD(VE-PG4側)
C3	シリアル通信 RTS(VE-PG4側)
C4	シリアル通信 CTS(VE-PG4側)

※B1～B4については、必要に応じて、本製品の設定画面で機能を切り替えられます。

◎B1/B4端子(+/−)：汎用制御出力端子

外部機器へのON/OFF制御に使用します。
「外部入出力 (EXT)」画面の[制御回路設定]項目で機能を切り替えられます。
オープンコレクター出力(3～16V 10mA以下)で使用ください。

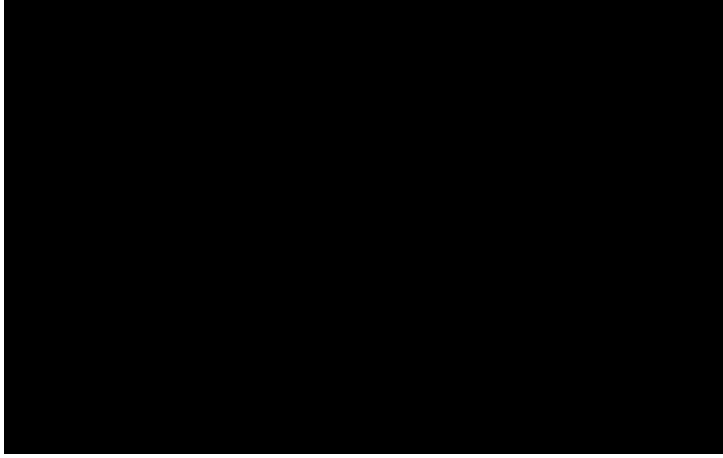
◎B2/B4端子(+/−)：8V電源供給端子

外部機器への8V電源供給に使用します。
「外部入出力 (EXT)」画面の[制御回路設定]項目で設定できます。
30mA以下でご使用ください。

◎B3/B4端子(+/−)：汎用制御入力端子

外部機器からのON/OFF制御に使用します。
「外部入出力 (EXT)」画面の[外部制御端子設定]項目で動作条件を設定できます。
電圧入力(3V～16V/10kΩ以上)としても、接点入力(3.3V/1mA以下)としても使用できます。

高品質がテーマです。



A7461-2J-3
© 2018–2019 Icom Inc. 201905

アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32

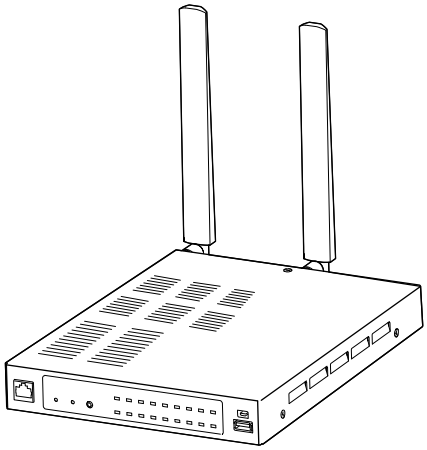
ICOM

取扱説明書[構築編]

RoIP GATEWAY

VE-PG4

本書は、他拠点接続やブリッジ接続など、弊社対応機器との連携や構築例などを説明しています。
詳細な機能を設定するときなどは、取扱説明書[活用編]と併せてご覧ください。



Icom Inc.

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
本製品は、弊社製無線機をVoIPネットワークに融合するコンバーターユニットです。
ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

※本書では、設定に使用するパソコン、本製品のIPアドレスなどは、別紙の取扱説明書[導入編]で、接続および設定が完了しているものとして説明しています。

登録商標/著作権

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。
AMBE+2は、Digital Voice Systems, Inc.の商標です。
Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。
なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。
本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。
本ソフトウェア、および本ドキュメントは、アイコム株式会社が著作権を保有します。

本書の表記について

本書は、次の表記規則にしたがって記述しています。

「　」表記：本製品の各メニューと、そのメニューに属する設定画面の名称を(「」)で囲んで表記します。
[　]表記：各キーやポート、各設定画面の設定項目名を([])で囲んで表記します。
〈　〉表記：設定画面上に設けられたコマンドボタンの名称を(〈〉)で囲んで表記します。

※ 本書は、Ver. 1.05のファームウェアを使用して説明しています。
※ 本書では、Windows 10の画面を例に説明しています。
※ 本書では、パナソニック社製IP電話機(KX-UT123N、KX-UT136N、KX-HDV130N、KX-HDV230N)を「KXシリーズ」と表記しています。
※ 本書では、IP100Hを「無線LANトランシーバー」、IP500H、IP501H、IP502H、IP500Mを「IP無線機」、IPネットワーク対応のデジタル無線機を「デジタル無線機」と表記しています。
※ 本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使いになるパソコンと多少異なる場合があります。
※ 本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。

音声圧縮(符号化)方式について

本製品は、米国DVS社の開発したAMBE(AdvancedMulti-Band Excitation)方式を採用しており、AMBE+2™方式に対応しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form U.S. Patent Nos. #8,595,002, #8,359,197, #8,315,860,#8,200,497, #7,970,606 and #6,912,495 B2.

はじめに

取扱説明書の構成について

本製品の取扱説明書は、本製品に付属の「ご使用になる前に」、弊社ホームページに掲載の下記取扱説明書（PDFファイル）で構成されています。

ご使用になる前に（別紙）

本製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を説明しています。
また、本製品の初期化操作など、保守についても説明しています。

取扱説明書[導入編]（別紙）

本製品の基本的な方法について、本書を最初からお読みいただくことで、設定や設置の作業ができるように構成しています。

取扱説明書[活用編]（別紙）

本製品に設定できる詳細な機能について、設定メニューごとに詳細を説明しています。

取扱説明書[構築編]（本書）

他拠点接続やブリッジ接続など、弊社対応機器との連携や構築例を説明しています。

はじめに

システム構築について

◎本製品は1台で無線機や無線LANトランシーバー、IP電話機を収容できます。

◎無線LANトランシーバーは50台、IP電話機は25台まで本製品に登録できます。
※無線LANトランシーバーを収容する場合は、同一ネットワーク上に無線アクセスポイントを接続してください。
※導入時の設定について詳しくは、取扱説明書[導入編]をご覧ください。

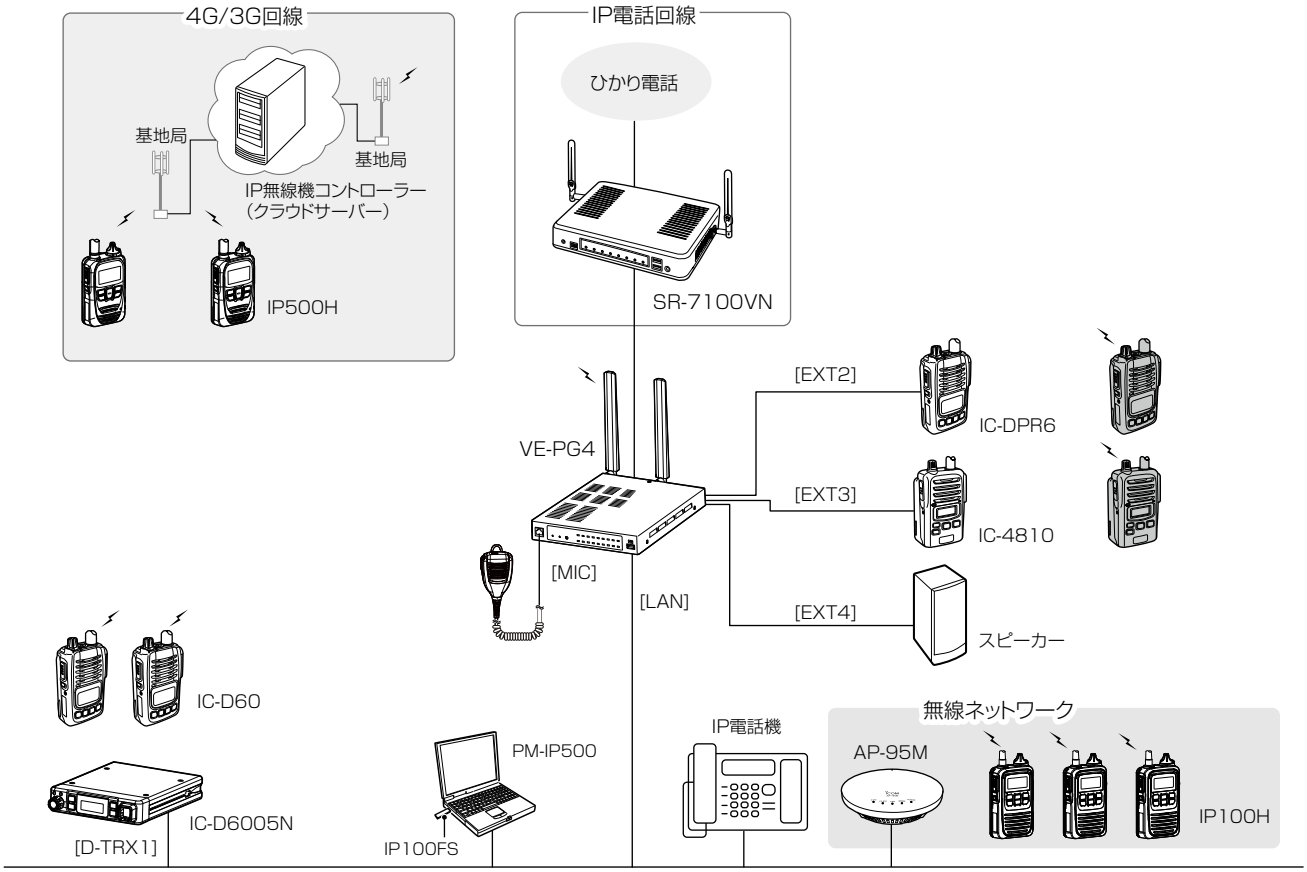
◎本製品に収容した端末とIP無線機を通信させる場合は、本製品にSIMカードとアンテナを装着し、4G/3G回線と接続する必要があります。
詳しくはお買い上げの販売店におたずねください。

◎初期設定では、本製品の無線機ポートに呼出先番号（個別）が割り当てられていますので、本製品の「呼出先設定」画面でご確認ください。
本製品に収容する無線機やIP電話機を登録する場合は、番号が重複しないように注意してください。

◎IP無線機の個別番号やグループ番号などは、IP無線機コントローラー側で設定されたものを本製品の「呼出先設定」画面に登録してください。

◎[MIC]ポートにマイクロホンを接続した場合、[EXT1]ポートから音声の入出力はされません。

◎IP電話回線（外線）を利用する場合は、SR-7100VNなど上位SIPサーバーとの接続が必要です。



RS-PG4（監視ツール）について
本製品に接続された無線機の設置場所には、無線機の送信状態などを監視する管理者が必要です。
設置した場所に管理者がいない状態でご使用になるときは、本製品と同じネットワークに接続されたパソコンからRS-PG4を起動して、監視できる環境を構築してください。
RS-PG4は、弊社ホームページのサポート情報（サポート情報→各種ダウンロード）からダウンロードできます。

もくじ

はじめに …… i

登録商標/著作権 …… i
本書の表記について …… i
音声圧縮(符号化)方式について …… i
取扱説明書の構成について ……ii
システム構築について …… iii

構築例

1. 館内放送と連携して使用する場合…… 1

■ 設定項目について …… 2
■ 設定について …… 3
■ 運用のしかた …… 6

2. 緊急通知機器による緊急放送をする場合…… 7

■ 設定項目について …… 8
■ 設定について …… 9
■ 緊急放送するときは ……11

3. 他拠点接続を使用する場合 ……12

■ 設定項目について ……13
■ 本社(マスター)側の設定について ……14
■ 営業所1(サブ)側の設定について ……16
■ 営業所2(サブ)側の設定について ……18

4. IP電話回線を使用する場合 ……20

■ 設定項目について ……21
■ SR-7100VNの設定について……21
■ VE-PG4の設定について ……22

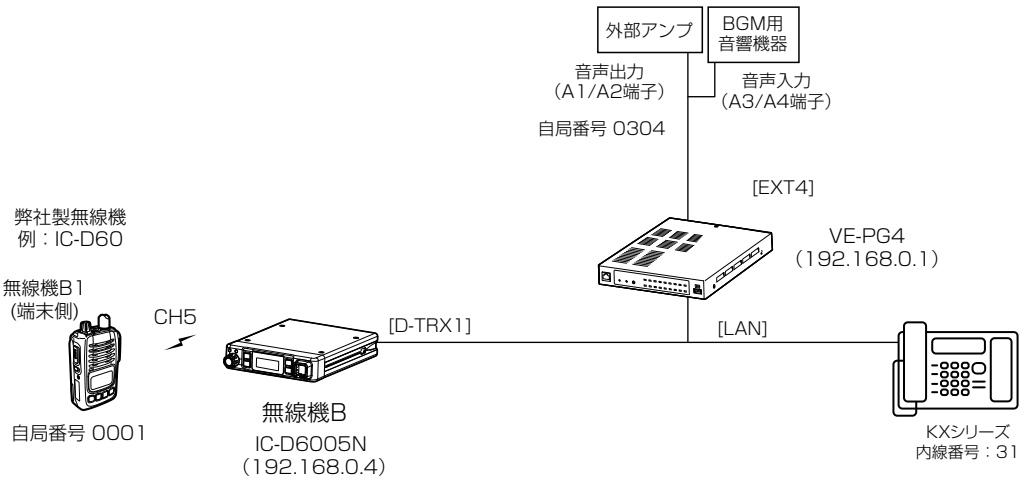
5. コンバーターブリッジを使用する場合 ……23

■ 設定項目について ……23
■ VE-PG3の設定について ……24
■ VE-PG4の設定について ……26
■ 運用のしかた ……28

構築例

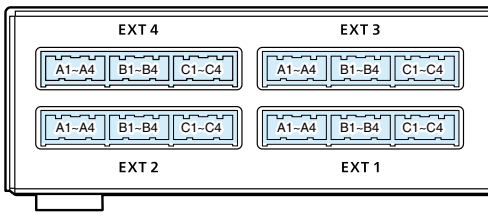
1. 館内放送と連携して使用する場合

本製品に外部機器を使用して、放送システムに接続すると、無線機やIP電話機から館内放送ができます。
ふだんは外部アンプからのBGMが流れていますが、無線機やIP電話機から着信すると、BGMを止めて館内放送時に切り替わります。
※本書では、下図のように構築し、無線機やIP電話機から発信すると、BGMを止めて放送する場合を例に説明しています。



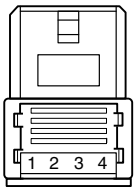
館内放送用の外部機器を接続する場合は

本製品と館内放送用の外部機器を接続するために、下図を参考に配線した接続ケーブルをご用意ください。
※外部機器を接続するポートの詳細については、取扱説明書[導入編]6章をご覧ください。



コネクター(表面)

A



A1 A2 A3 A4

A1/A2：音声出力(OUT)
A3/A4：音声入力(IN)

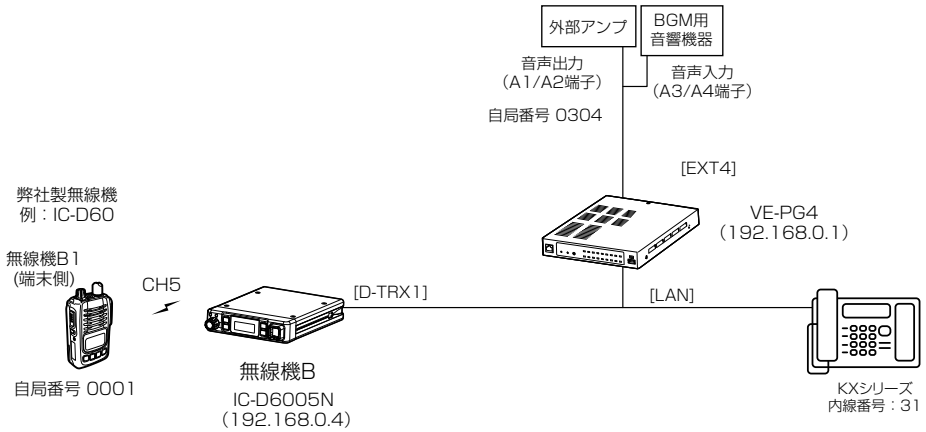
※A2、A4はGND(–)側になります。

構築例

1. 館内放送と連携して使用する場合

■ 設定項目について

端末側無線機やIP電話機から館内放送するために、本製品の設定画面にアクセスして、下記項目の設定内容を確認、または変更します。



	設定画面	設定項目	設定名称	設定内容
外部機器	無線機ポート詳細設定 > 外部入出力（EXT）	外部入出力モード設定	接続機器(EXT4)	外部入出力機器(初期設定)
			外部入出力モード(EXT4)	分離(初期設定)
		外部入力制御設定	入力接続先	外部出力
			有効タイミング	常時接続
			基準レベル	任意設定(接続する機器に応じて変更)
			入力オフセットゲイン	
			入力デジタルゲイン	
		外部出力制御設定	基準レベル	任意設定(接続する機器に応じて変更)
			出力オフセットゲイン	
			出力デジタルゲイン	
			フェードアウト	任意設定(状況に応じて変更)
			フェードイン	
			前置音	
			後置音	
			通知音量	
	呼出先設定 > 呼出先設定	呼出先設定	呼出種別	個別(初期設定)
			呼出先番号	0304(初期設定)
			無線機ポート	外部出力4 (EXT4)(初期設定)
無線機B1	呼出先設定 > 呼出先設定	呼出先設定	呼出種別	個別
			呼出先番号	0001
			無線機ポート	デジタル無線機1 (D-TRX1)
IP電話機	PBX設定 > 特番	無線機呼出プレフィクス設定	個別呼出	*(初期設定)
	PBX設定 > 内線個別	内線設定 (内線子機)	ポート種別	SIPフォン(自動)
			内線番号	31
			パスワード	任意設定
		(電話接続用)	ポート種別	無線機コントローラー電話接続
			内線番号	3000
	PBX内線詳細設定 > 無線機コントローラー電話接続	V/RoIP制御設定	電話機への通話開始通知	任意設定(状況に応じて変更)
			通知音量	
		自動切断タイマー設定	無通話切断タイマー	5(秒) (状況に応じて変更)
	PBX拡張設定 > 優先制御	優先レベル設定	個別着信	優先

1. 館内放送と連携して使用する場合

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力 (EXT)

呼出先設定 > 呼出先設定

PBX内線詳細設定 > 無線機コントローラー電話接続

PBX拡張設定 > 優先制御

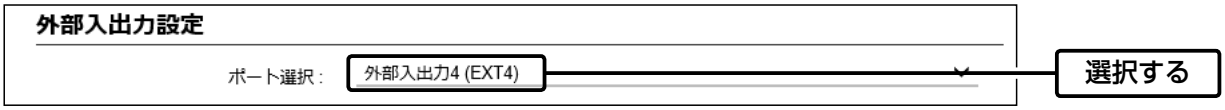
■ 設定について

※本製品にデジタル無線機やIP電話機の接続が完了しているものとしています。

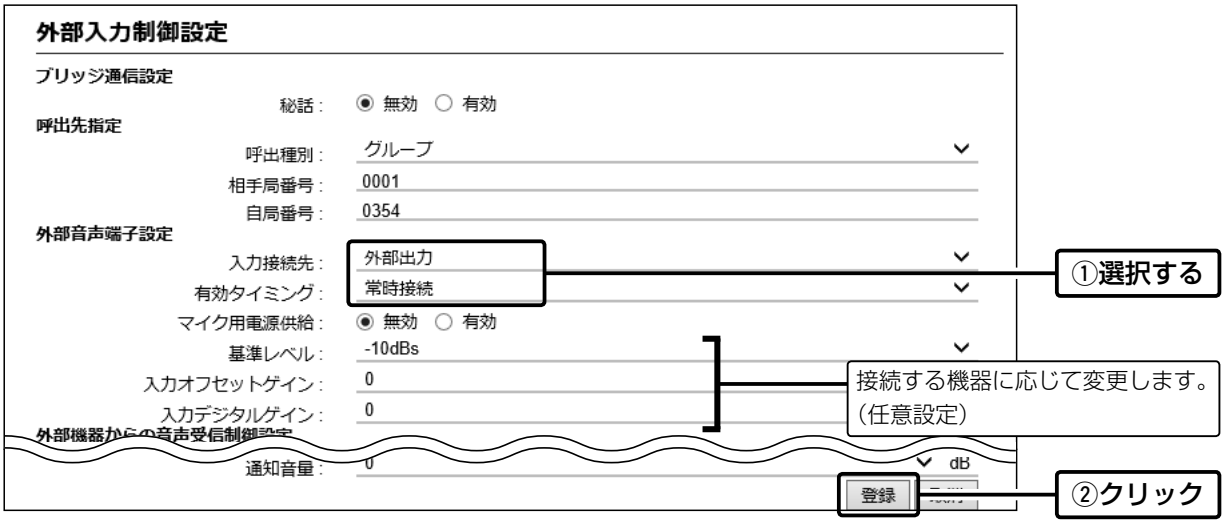
1 「無線機ポート詳細設定」メニュー、「外部入出力(EXT)」の順にクリックします。
「外部入出力(EXT)」画面が表示されます。

2 [外部入出力モード設定]項目で、[EXT4]ポートの接続機器が「外部入出力機器」、外部入出力モードが「分離」になっていることを確認します。
※接続機器を変更すると、外部入出力に関する設定が初期化されますのでご注意ください。

3 [外部入出力設定]項目で、ポート(例：外部入出力4(EXT4))を選択します。



4 [外部入力制御設定]項目で、入力接続先(例：外部出力)、有効タイミング(例：常時接続)を選択し、〈登録〉をクリックします。



(次ページにつづく)

1. 館内放送と連携して使用する場合

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力 (EXT)

呼出先設定 > 呼出先設定

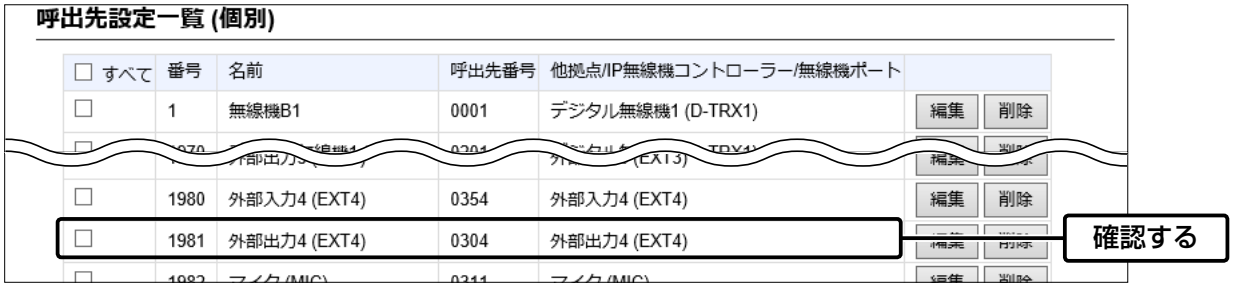
PBX内線詳細設定 > 無線機コントローラー電話接続

PBX拡張設定 > 優先制御

■ 設定について

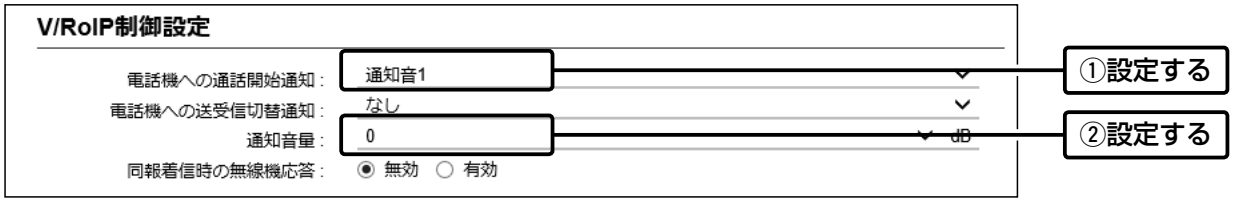
5 「呼出先設定」メニュー、「呼出先設定」の順にクリックします。
「呼出先設定」画面が表示されます。

6 [呼出先設定一覧(個別)]で、登録されている内容を確認します。

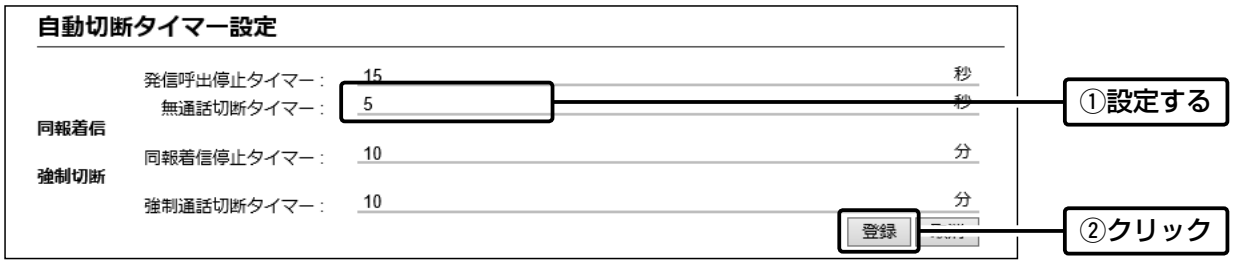


7 「PBX内線詳細設定」メニュー、「無線機コントローラー電話接続」の順にクリックします。
「無線機コントローラー電話接続」画面が表示されます。

8 [V/RoIP制御設定]項目で、電話機への通話開始通知音(例：通知音1)、通知音量(例：0)を選択します。



9 [自動切断タイマー設定]項目で、[無通話切断タイマー]欄を「5秒」に設定して、〈登録〉をクリックします。
※初期設定では、無通話切断タイマーは15秒に設定されていますので、状況に応じて変更してください。



(次ページにつづく)

1. 館内放送と連携して使用する場合

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力 (EXT)

呼出先設定 > 呼出先設定

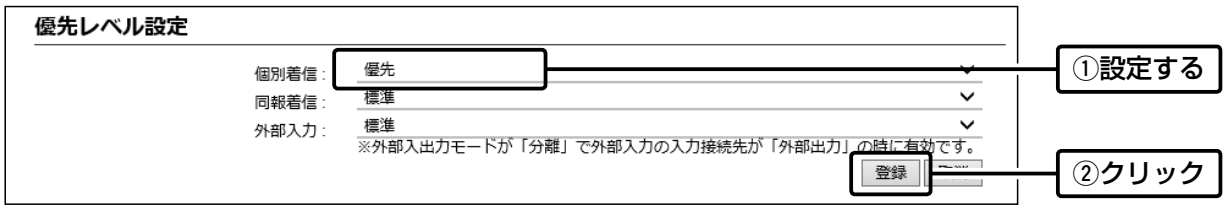
PBX内線詳細設定 > 無線機コントローラー電話接続

PBX拡張設定 > 優先制御

■ 設定について

10 「PBX拡張設定」メニュー、「優先制御」の順にクリックします。
「優先制御」画面が表示されます。

11 館内放送時にBGMを止めて放送するために、[優先レベル設定]項目で[個別着信]欄を「優先」に設定して、〈登録〉をクリックします。

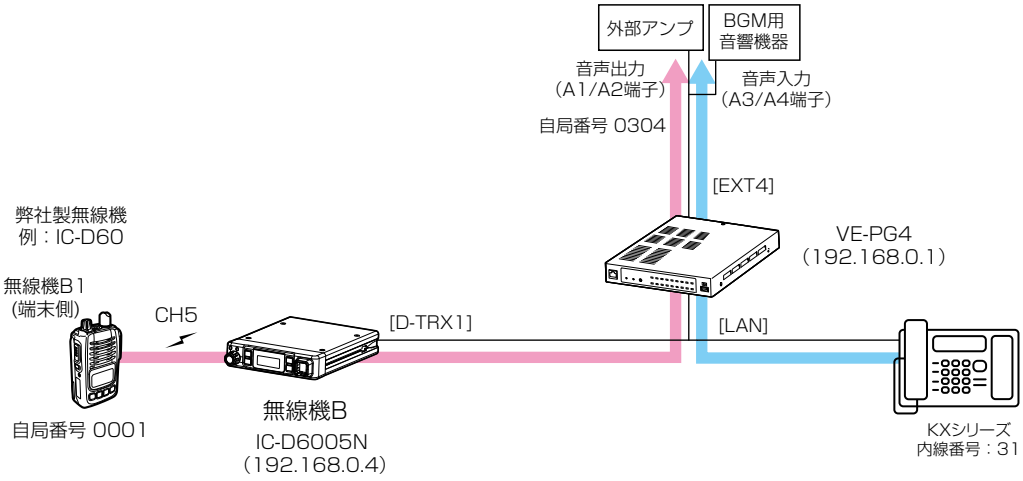


構築例

1. 館内放送と連携して使用する場合

■ 運用のしかた

※無線機(端末側)は、トーンなど本製品に接続した無線機と同じ設定をしてください。
※本書では、無線機(端末側)の自局番号設定や個別番号設定が完了しているものとしています。



無線機B1から放送する場合

1. 無線機B1の通話チャンネルを無線機Bにあわせ、外部アンプの自局番号(無線機の画面表示：個別0304)を選択します。
2. [PTT]スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって話します。
   - [EXT4]ポートに接続された外部機器は、館内BGMを止めて、無線機からの音声を放送します。
3. 無線機の[PTT]スイッチをはなすと、館内放送が終了します。
   - 館内放送が終了したあとは、BGMが流れます。

IP電話機から放送する場合

1. IP電話機の受話器を上げて、「無線機コントローラー電話接続の内線番号」+「無線機呼出プレフィクス」+「呼出先番号」をダイヤルします。
   (例：3000＊304)。
   - [EXT4]ポートに接続された外部機器は、館内BGMをフェードアウトして、前置音のあとにIP電話機からの音声を放送します。
2. IP電話機からの通話を切断、または無音状態が5秒(設定例)経過すると、館内放送が終了します。
   - 後置音を設定している場合は、館内放送が終了したあとに後置音が鳴り、BGMがフェードインします。

無線機B1からの音声を前置音のあとに放送するには

設定のしかた

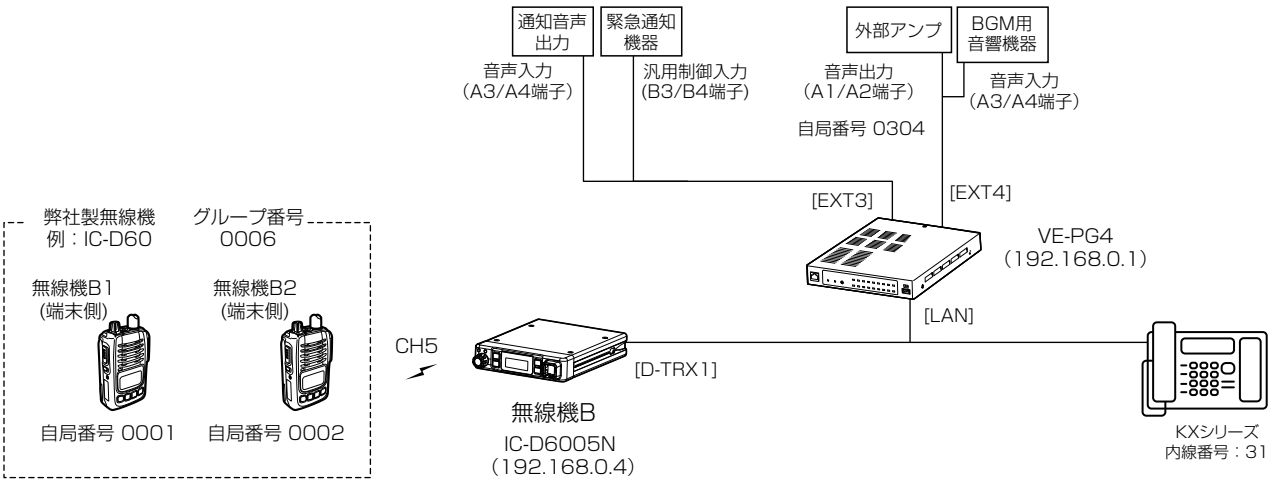
1. 「PBX無線機呼出設定」メニュー、「呼出先電話番号」の順にクリックします。
   - 「呼出先電話番号」画面が表示されます。
2. [呼出種別]欄を「個別」、[相手局番号]欄を「1304」、[呼出先電話番号]欄を「3000＊304」に設定し、〈追加〉をクリックします。

放送のしかた

1. 無線機B1の通話チャンネルを無線機Bにあわせ、登録した相手局番号(無線機の画面表示：個別1304)を選択し、[PTT]スイッチを長く(約1秒)押します。
   - 設定された内容にしたがい、BGMがフェードアウトし、前置音が動作します。
2. 再度[PTT]スイッチを押して、マイクロホンに向かって話すと、放送されます。
3. [PTT]スイッチをはなすと、5秒後に放送が終了します。
   - 設定された内容にしたがい、後置音につづいて、BGMがフェードインします。

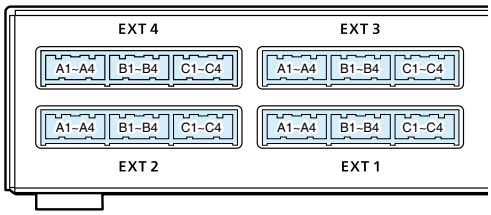
2. 緊急通知機器による緊急放送をする場合

緊急通知機器の汎用制御入力(B3/B4端子)がONになると、外部アンプと無線機に緊急放送できます。
緊急放送をするときは、外部アンプや無線機が通話中でもこれらを切断終了し、緊急放送を優先します。
※緊急通知機器は通知時に動作するスイッチ端子があるものとします。
※本書では、下図のように構築する場合を例に説明しています。

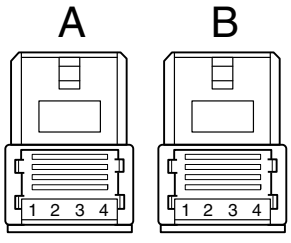


本製品に外部機器を接続する場合は

本製品と外部機器を接続するために、下図を参考に配線した接続ケーブルをご用意ください。
※外部機器を接続するポートの詳細については、取扱説明書[導入編]6章をご覧ください。



コネクター(表面)



館内放送用

A1/A2：音声出力(OUT)
A3/A4：音声入力(IN)

※A2、A4はGND(–)側になります。

緊急通知用

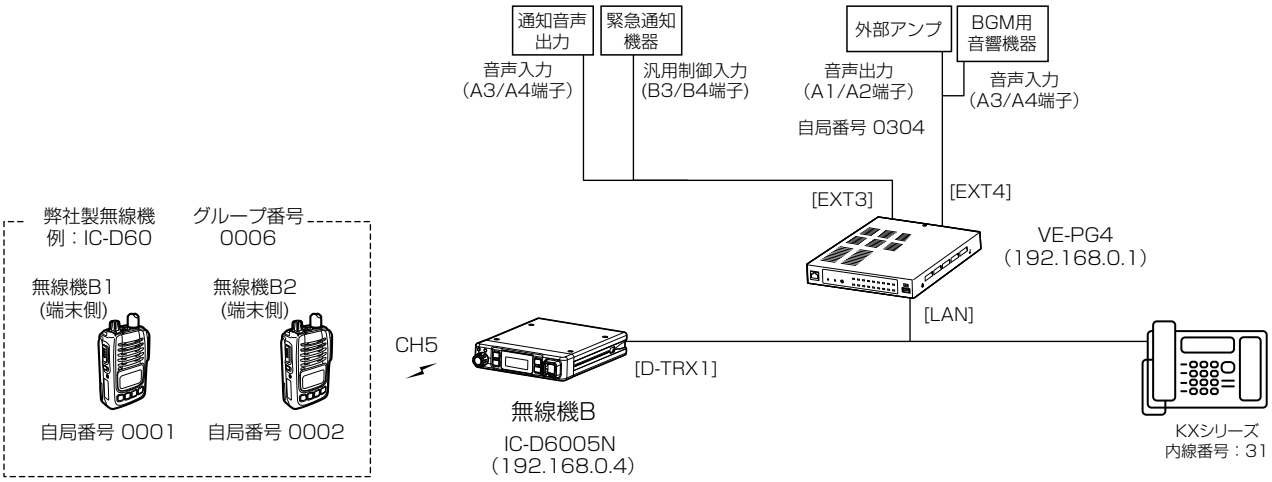
A1/A2：音声出力(OUT)
A3/A4：音声入力(IN)
B3/B4：制御入力
※A2、A4、B4はGND(–)側になります。

構築例

2. 緊急通知機器による緊急放送をする場合

■ 設定項目について

緊急放送をするために、本製品の設定画面にアクセスして、下記項目の設定内容を確認、または変更します。
※館内放送用外部機器の接続については、1ページをご覧ください。



	設定画面	設定項目	設定名称	設定内容
外部機器	無線機ポート詳細設定 >	外部入出力モード設定	接続機器(EXT3)	外部入出力機器(初期設定)
(緊急通知用)	外部入出力 (EXT)		外部入出力モード(EXT3)	分離(初期設定)
		外部入力制御設定	入力接続先	緊急
			有効タイミング	制御入力検出時
			入力パターン	任意設定(状況に応じて変更)
			イベント発生検出時間	
			イベント解除検出時間	
			制御入力検出	任意設定(接続する機器に応じて変更)
			制御入力プルアップ	
	拡張設定 > 緊急通知	緊急通知設定	デジタル無線機1 (D-TRX1)	有効
			外部出力4 (EXT4)	有効
無線機B	無線機ポート詳細設定 >	デジタル無線機設定	ポート選択	デジタル無線機1 (D-TRX1)
	デジタル無線機 (D-TRX)	ブリッジ通信設定	呼出種別	グループ
			相手局番号	0006

2. 緊急通知機器による緊急放送をする場合

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力 (EXT)

無線機ポート詳細設定 > デジタル無線機 (D-TRX)

拡張設定 > 緊急通知

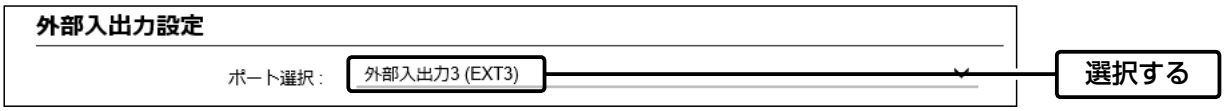
■ 設定について

※本書では、本製品にデジタル無線機、IP電話機、館内放送用機器の接続が完了しているものとしています。

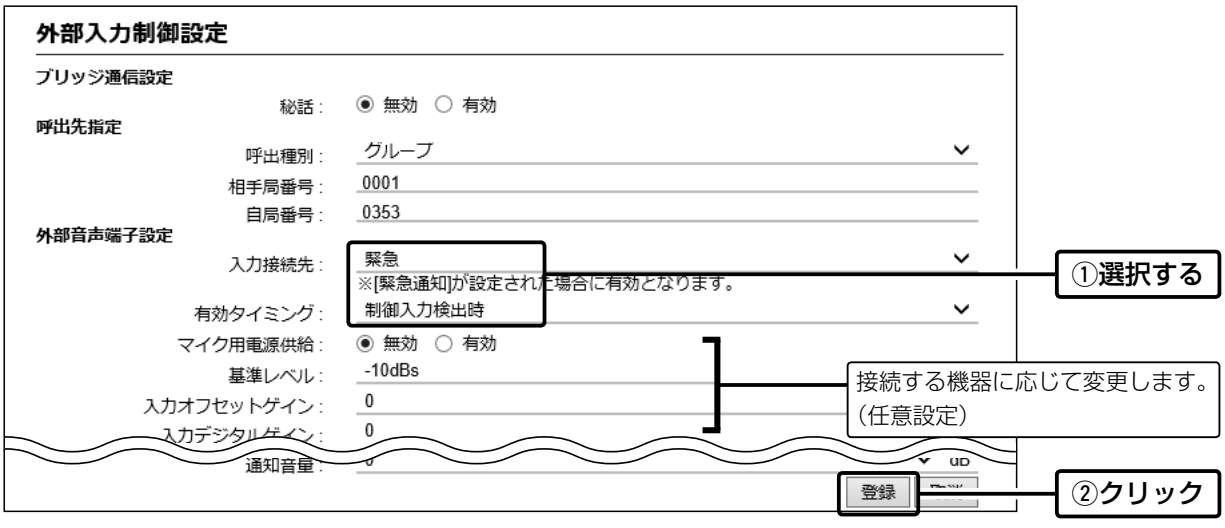
1 「無線機ポート詳細設定」メニュー、「外部入出力(EXT)」の順にクリックします。
「外部入出力(EXT)」画面が表示されます。

2 [外部入出力モード設定]項目で、[EXT3]ポートの接続機器が「外部入出力機器」、外部入出力モードが「分離」になっていることを確認します。
※接続機器を変更すると、外部入出力に関する設定が初期化されますのでご注意ください。

3 [外部入出力設定]項目で、ポート(例：外部入出力3(EXT3))を選択します。



4 [外部入力制御設定]項目で、入力接続先(例：緊急)、有効タイミング(例：制御入力検出時)を選択し、〈登録〉をクリックします。



(次ページにつづく)

2. 緊急通知機器による緊急放送をする場合

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力 (EXT)

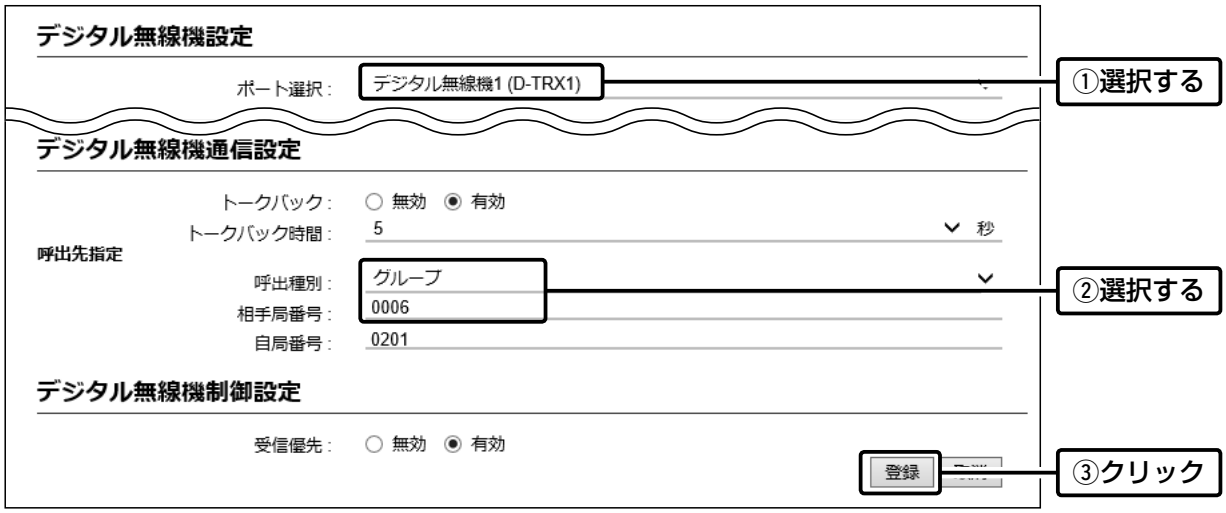
無線機ポート詳細設定 > デジタル無線機 (D-TRX)

拡張設定 > 緊急通知

■ 設定について

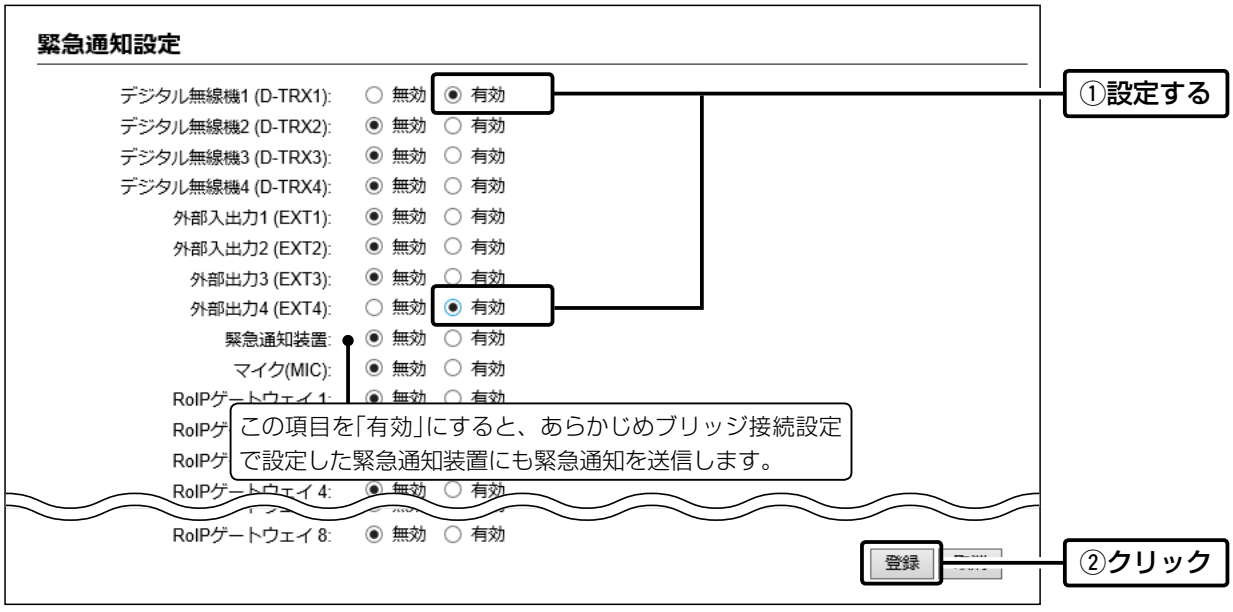
5 「無線機ポート詳細設定」メニュー、「デジタル無線機 (D-TRX)」の順にクリックします。
「デジタル無線機 (D-TRX)」画面が表示されます。

6 [デジタル無線機設定]項目でポート(例：D-TRX1)を選択し、[デジタル無線機通信設定]欄で緊急通知の通知先(例：グループ0006)を選択して、〈登録〉をクリックします。



7 「拡張設定」メニュー、「緊急通知」の順にクリックします。
「緊急通知」画面が表示されます。

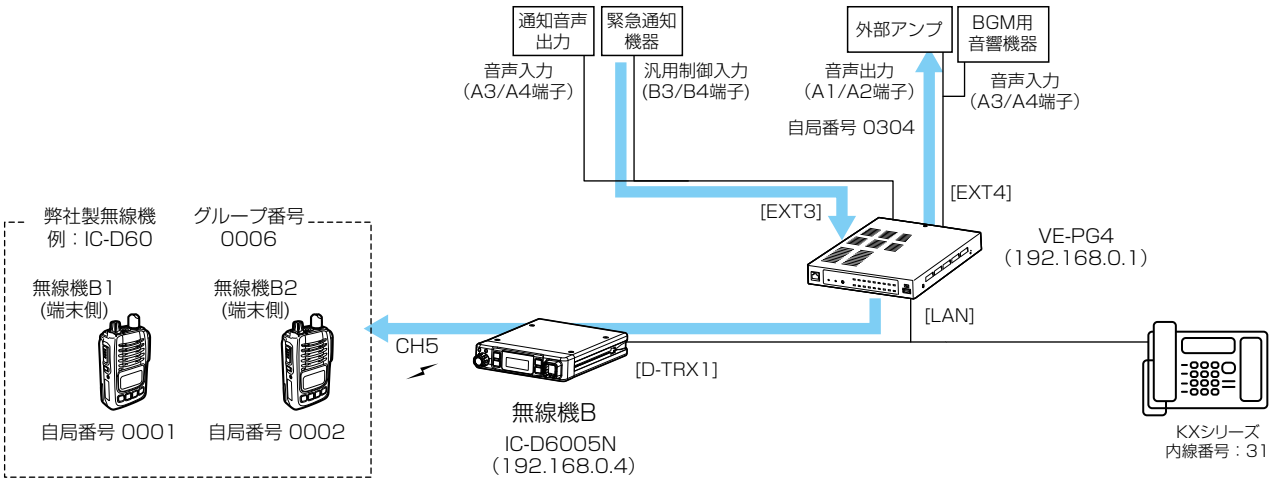
8 緊急通知の通知先(例：D-TRX1とEXT4)を「有効」に設定して、〈登録〉をクリックします。



2. 緊急通知機器による緊急放送をする場合

■ 緊急放送するときは

緊急通知機器が信号を受信すると、外部アンプと無線機に緊急放送する場合を例に説明しています。
無線機(端末側)は、トーンなど本製品に接続した無線機と同じ設定をしてください。
※本書では、無線機(端末側)の自局番号設定や個別番号設定が完了しているものとしています。

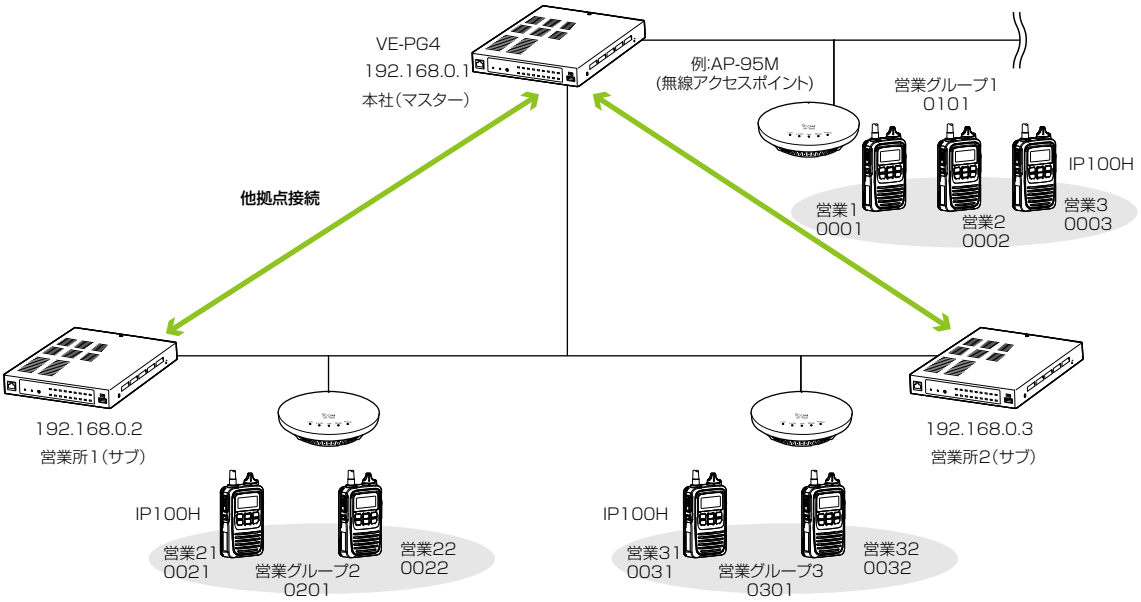


緊急通知機器からの緊急放送

1. 緊急通知機器が信号を受信すると、外部スイッチがONに切り替わります。
2. 通常の放送や無線機とIP電話機の通話を切断して、館内BGMが停止し、緊急通知機器からの緊急放送になります。
   • 同時に無線機Bも送信状態に切り替わり、緊急放送になります。
3. 緊急通知機器からの制御信号(短絡)が解放すると、緊急放送が終了します。
   • 緊急放送が終了したあと、館内BGMが再開します。

3. 他拠点接続を使用する場合

他拠点接続機能を使用すると、複数の拠点を接続して、はなれた拠点間で通話ができるようになります。
※1台のマスターに対して、最大10台のサブ(他拠点)が接続できます。
※必要に応じて、本製品をVPNルーターとしてご使用ください。
※本製品のVPN機能は、SR-7100VN、AP-9500と互換性があります。(取扱説明書[活用編]参照)
※2018年9月現在、他拠点接続機能に対応し、無線LANトランシーバーを制御するコントローラーとして使用できるのは、本製品、IP1000CとAP-9500(コントローラー機能搭載バージョン)です。
本書では、下図のように構築し、本製品同士を他拠点接続して、営業所1と営業所2がお互いのグループ(営業グループ2/3)を呼び出す場合を例に説明しています。



3. 他拠点接続を使用する場合

無線機コントローラー設定 > RoIP通信設定

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 設定項目について

他拠点接続機能を使用するために、本製品の設定画面にアクセスして、下記項目の設定内容を確認、または変更します。

	設定画面	設定項目	設定名称	設定内容
本社(マスター)	無線機コントローラー設定 > RoIP通信設定	他拠点通信設定	他拠点通信モード	マスター
	無線機コントローラー設定 > > RoIPサーバー設定> 他拠点接続	他拠点接続設定	接続先アドレス	192.168.0.2(営業所1)
				192.168.0.3(営業所2)
	呼出先設定 > 呼出先設定	呼出先設定 (営業所1)	呼出種別	グループ
			呼出番号	0201
			他拠点	1(営業所1(サブ))
		呼出先設定 (営業所2)	呼出種別	グループ
			呼出番号	0301
			他拠点	2(営業所2(サブ))
営業所1	無線機コントローラー設定 > RoIP通信設定	他拠点通信設定	他拠点通信モード	サブ(初期設定)
	無線機コントローラー設定 > > RoIPサーバー設定> 他拠点接続	他拠点接続設定	接続先アドレス	192.168.0.1(本社)
	呼出先設定 > 呼出先設定	呼出先設定 (営業所1)	呼出種別	グループ
			呼出番号	0201
			所属する無線機	0021、0022
			他拠点	1(本社(マスター))
		呼出先設定 (営業所2)	呼出種別	グループ
			呼出番号	0301
			他拠点	1(本社(マスター))
営業所2	無線機コントローラー設定 > RoIP通信設定	他拠点通信設定	他拠点通信モード	サブ(初期設定)
	無線機コントローラー設定 > > RoIPサーバー設定> 他拠点接続	他拠点接続設定	接続先アドレス	192.168.0.1(本社)
	呼出先設定 > 呼出先設定	呼出先設定 (営業所1)	呼出種別	グループ
			呼出番号	0201
			他拠点	1(本社(マスター))
		呼出先設定 (営業所2)	呼出種別	グループ
			呼出番号	0301
			所属する無線機	0031、0032
			他拠点	1(本社(マスター))

3. 他拠点接続を使用する場合

無線機コントローラー設定 > RoIP通信設定

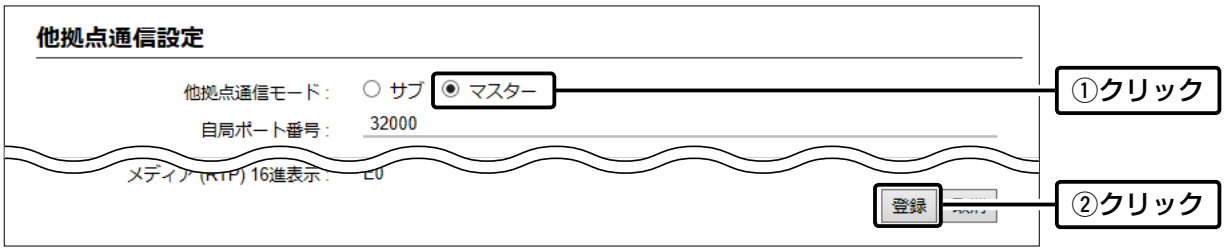
呼出先設定 > 呼出先設定

■ 本社(マスター)側の設定について

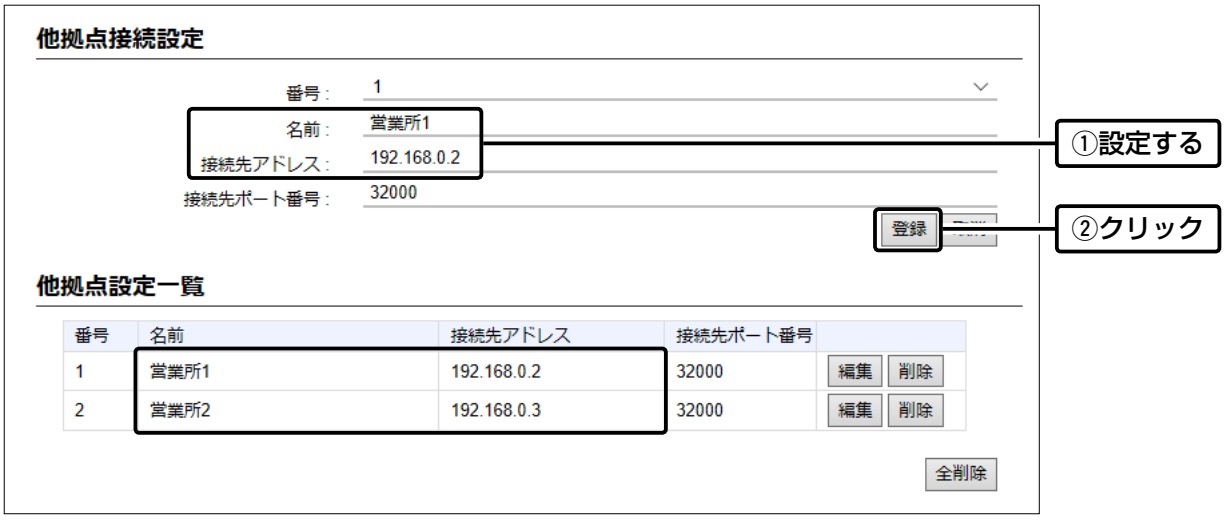
※本書では、端末側の設定が完了しているものとしています。

1 「無線機コントローラー設定」メニュー、「RoIP通信設定」の順にクリックします。
「RoIP通信設定」画面が表示されます。

2 [他拠点通信設定]項目で、他拠点通信モードを「マスター」に設定します。



3 「RoIPサーバー設定」→「他拠点接続」画面で、接続先VE-PG4(例：営業所1(サブ)、営業所2(サブ))のIPアドレスを設定します。



4 「呼出先設定」メニュー、「呼出先設定」の順にクリックします。
「呼出先設定」画面が表示されます。

(次ページにつづく)

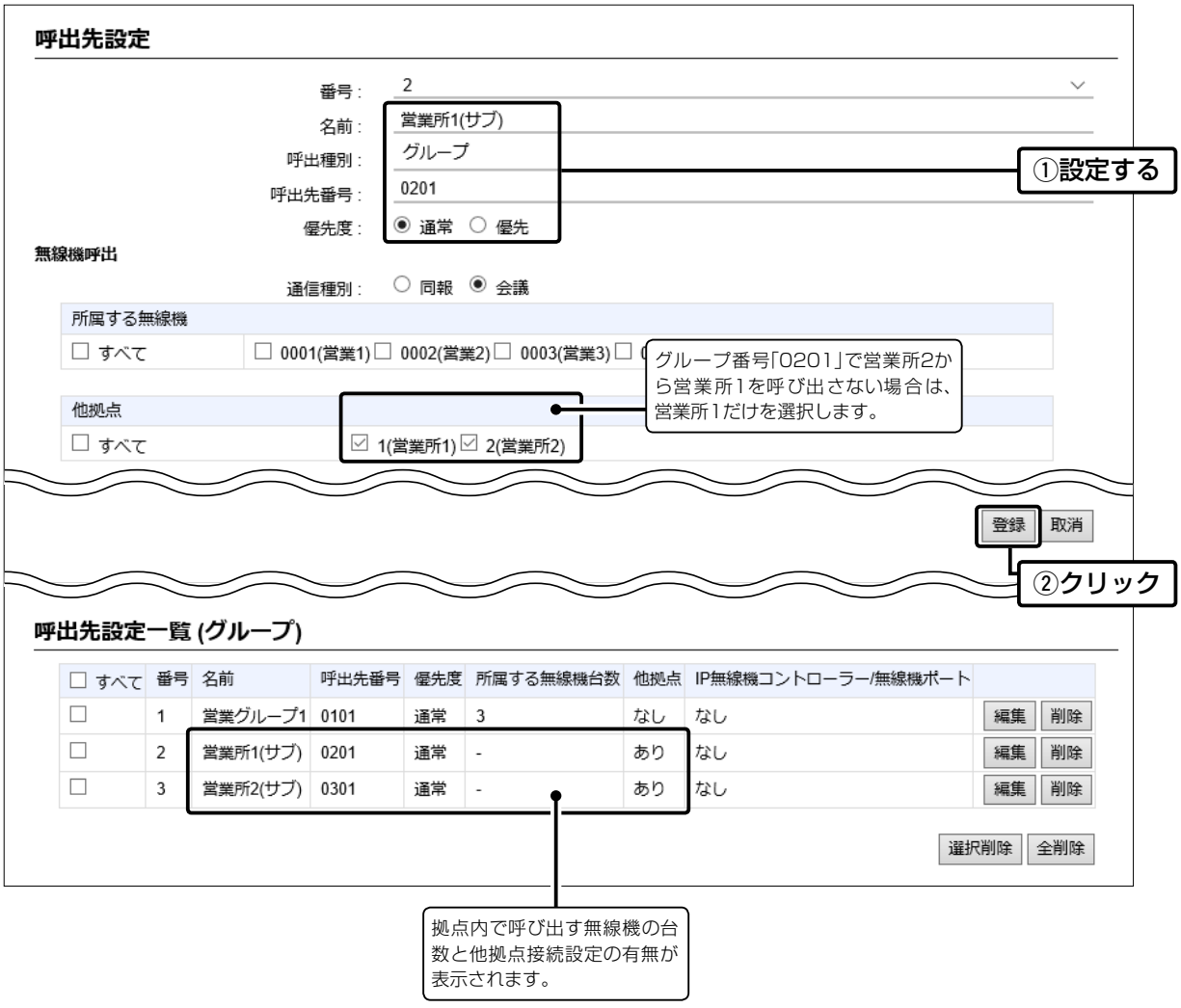
3. 他拠点接続を使用する場合

無線機コントローラー設定 > RoIP通信設定

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 本社(マスター)側の設定について

5 呼出種別を「グループ」、グループ番号(例：0201)、優先度(例：通常)、他拠点(例：営業所1、営業所2)を設定します。



アドレス帳の登録について

設定したグループを呼び出すために、アドレス帳に追加登録してください。

1. 「無線機コントローラー設定」メニュー、「設定グループ」、「アドレス帳」の順にクリックします。
   • 「アドレス帳」画面が表示されます。
2. [アドレス帳グループ設定]項目で、アドレス帳グループ番号を選択します。
3. [一覧から選択]をクリックし、登録する呼出先を選択して、〈登録〉をクリックします。

※登録後は、IP100Hの再起動が必要です。

3. 他拠点接続を使用する場合

無線機コントローラー設定 > RoIP通信設定

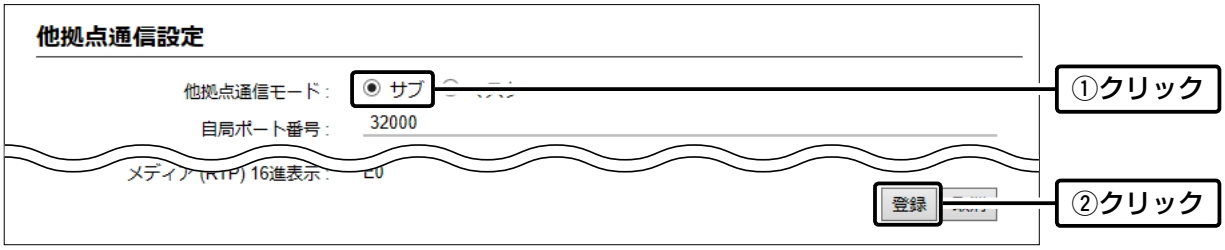
呼出先設定 > 呼出先設定

■ 営業所1(サブ)側の設定について

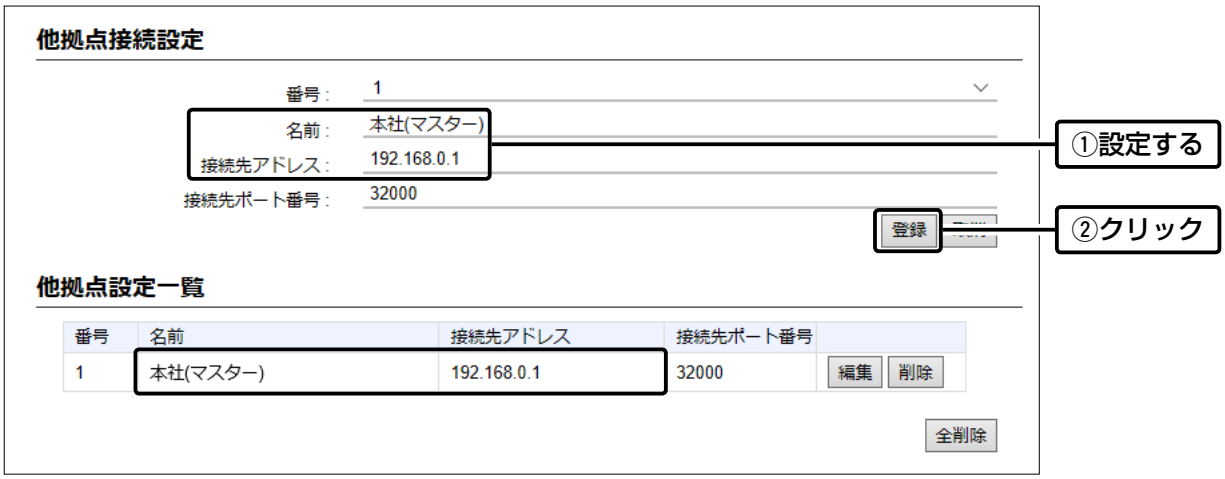
営業グループ2(グループ番号「0201」)を呼び出す場合を例に説明しています。

1 「無線機コントローラー設定」メニュー、「RoIP通信設定」の順にクリックします。
「RoIP通信設定」画面が表示されます。

2 [他拠点通信設定]項目で、他拠点通信モードを「サブ」に設定します。



3 「RoIPサーバー設定」→「他拠点接続」画面で、接続先VE-PG4(例 :本社(マスター))のIPアドレスを設定します。



4 「呼出先設定」メニュー、「呼出先設定」の順にクリックします。
「呼出先設定」画面が表示されます。

(次ページにつづく)

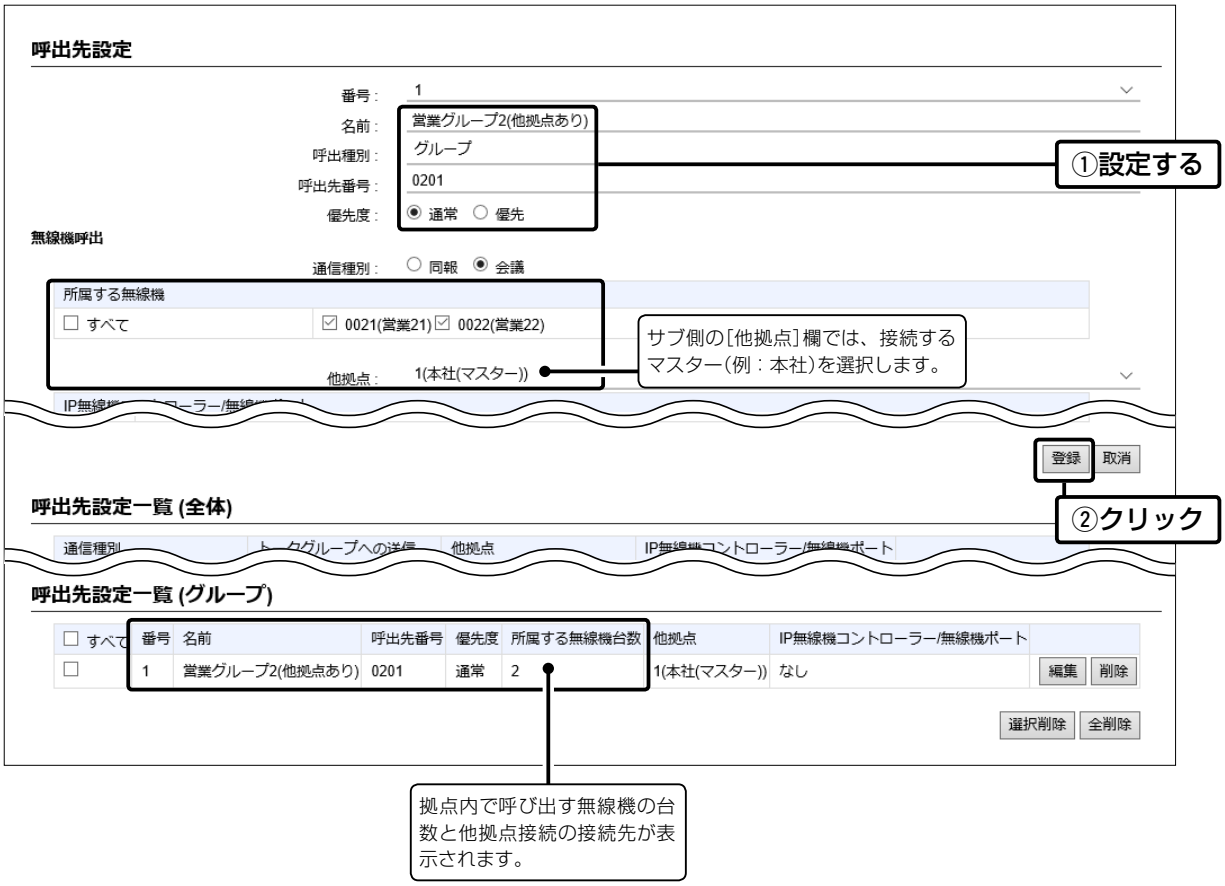
3. 他拠点接続を使用する場合

無線機コントローラー設定 > RoIP通信設定

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 営業所1(サブ)側の設定について

5 呼出種別を「グループ」、グループ番号(例：0201)、優先度(例：通常)、所属する無線機、他拠点(例：本社(マスター))を設定します。



アドレス帳の登録について

設定したグループを呼び出すために、アドレス帳に追加登録してください。

※登録後は、IP100Hの再起動が必要です

1. 「無線機コントローラー設定」メニュー、「設定グループ」、「アドレス帳」の順にクリックします。
   • 「アドレス帳」画面が表示されます。
2. [アドレス帳グループ設定]項目で、アドレス帳グループ番号を選択します。
3. [一覧から選択]をクリックし、登録する呼出先を選択して、〈登録〉をクリックします。

3. 他拠点接続を使用する場合

無線機コントローラー設定 > RoIP通信設定

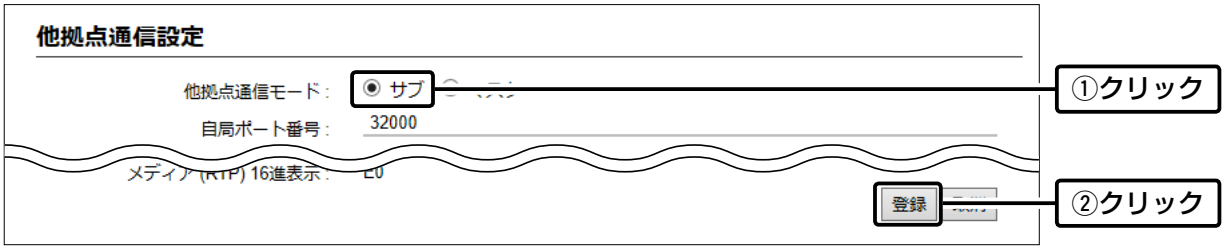
呼出先設定 > 呼出先設定

■ 営業所2(サブ)側の設定について

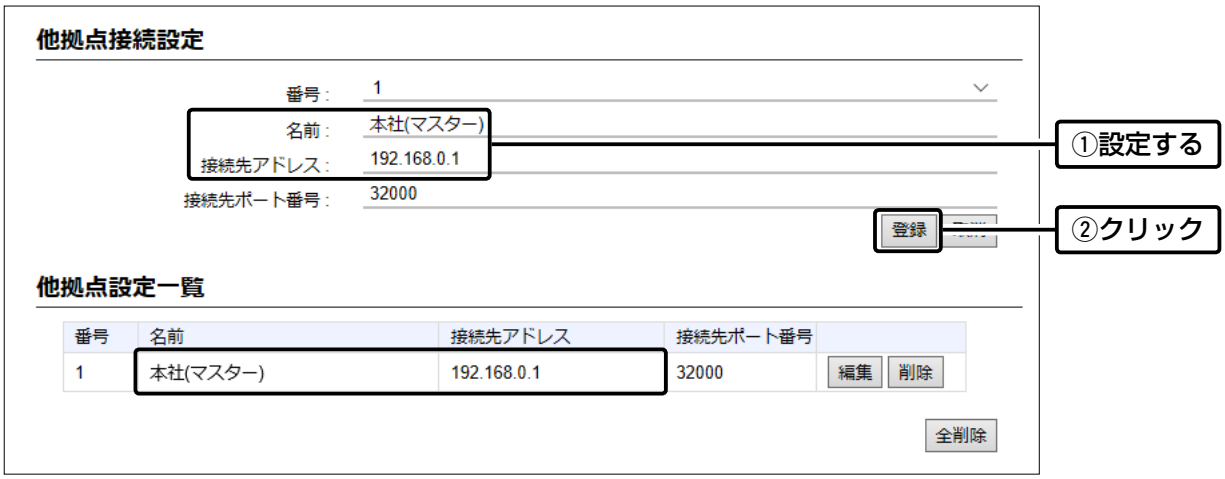
営業グループ2(グループ番号「0201」)を呼び出す場合を例に説明しています。

1 「無線機コントローラー設定」メニュー、「RoIP通信設定」の順にクリックします。
「RoIP通信設定」画面が表示されます。

2 [他拠点通信設定]項目で、他拠点通信モードを「サブ」に設定します。



3 「RoIPサーバー設定」→「他拠点接続」画面で、接続先VE-PG4(例 :本社(マスター))のIPアドレスを設定します。



4 「呼出先設定」メニュー、「呼出先設定」の順にクリックします。
「呼出先設定」画面が表示されます。

(次ページにつづく)

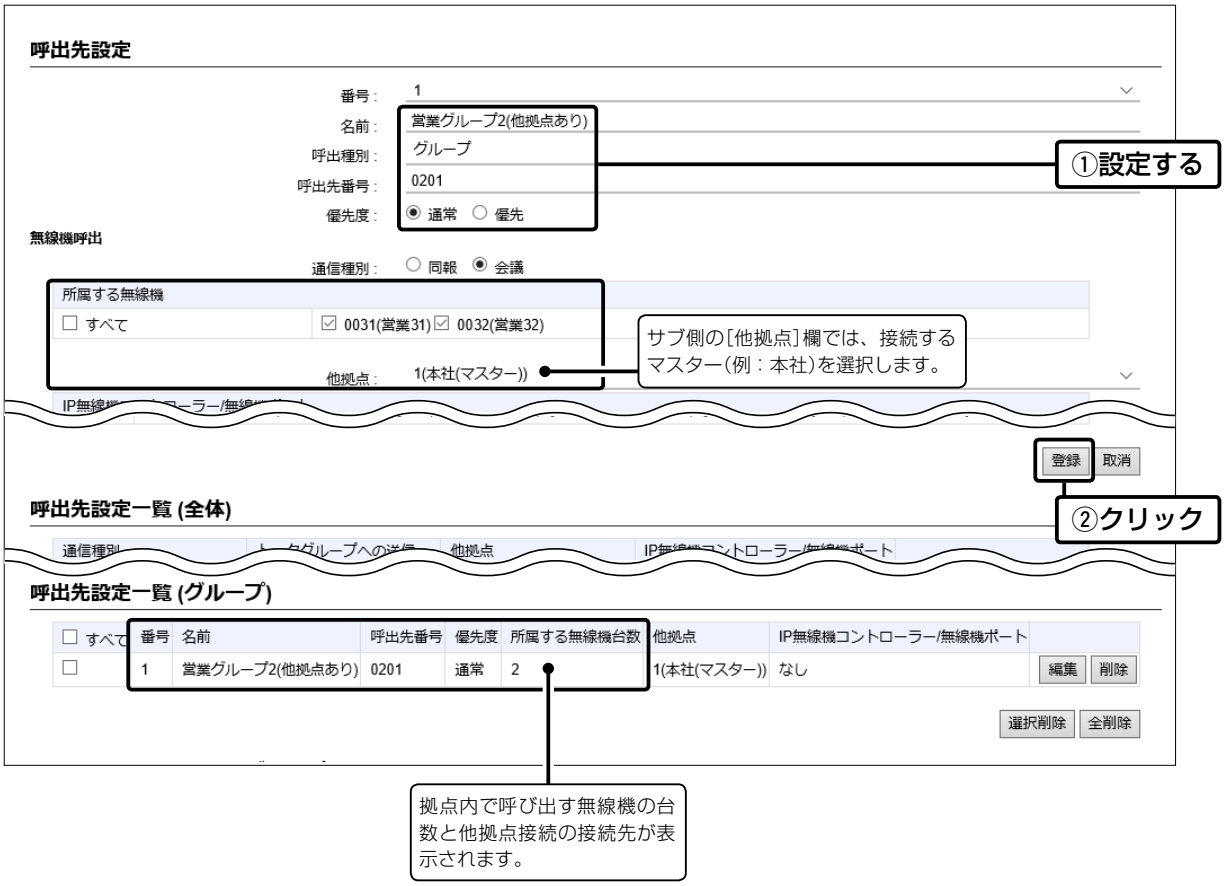
3. 他拠点接続を使用する場合

無線機コントローラー設定 > RoIP通信設定

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 営業所2(サブ)側の設定について

5 呼出種別を「グループ」、グループ番号(例：0201)、優先度(例：通常)、所属する無線機、他拠点(例：本社(マスター))を設定します。



アドレス帳の登録について

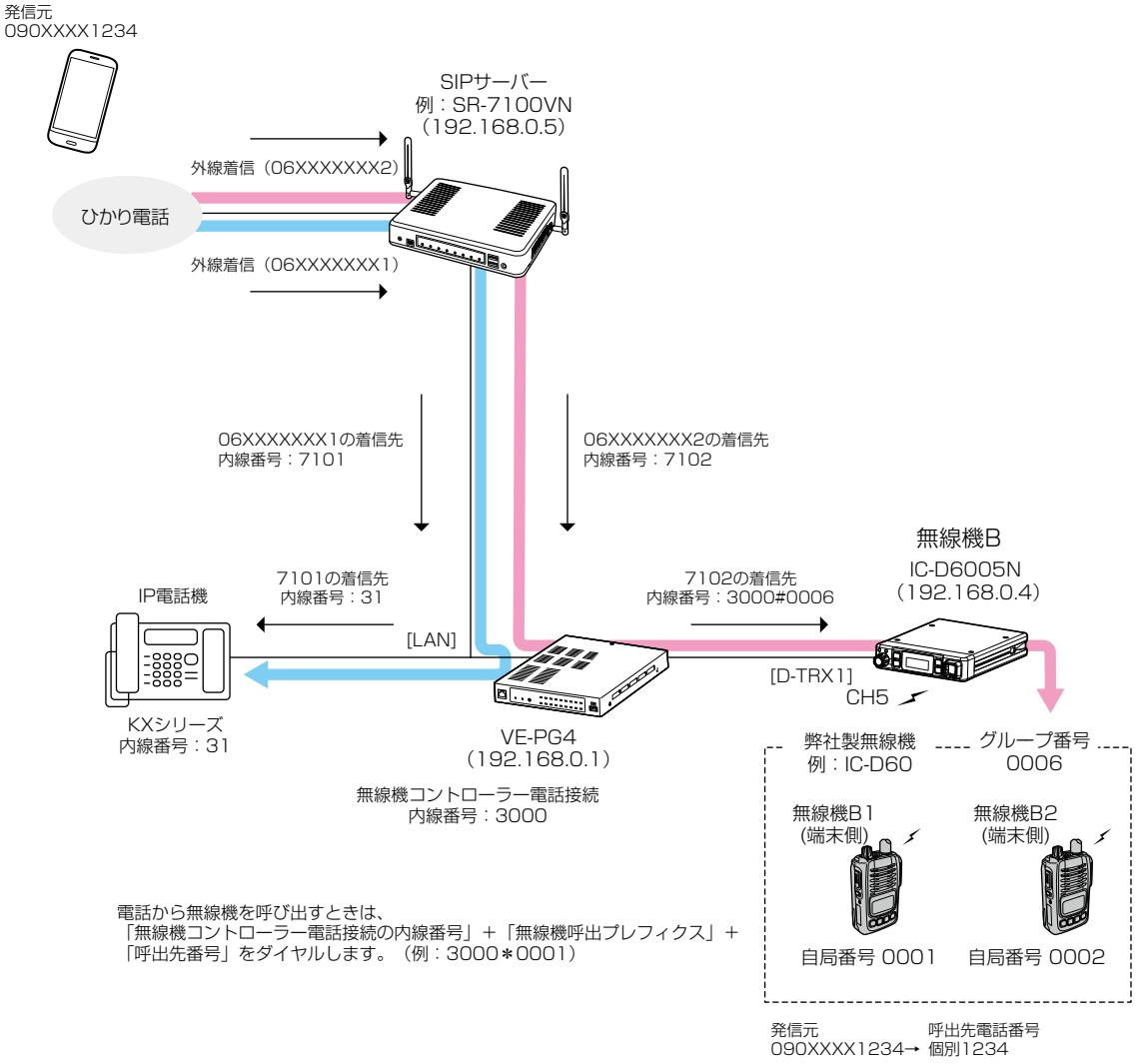
設定したグループを呼び出すために、アドレス帳に追加登録してください。

1. 「無線機コントローラー設定」メニュー、「設定グループ」、「アドレス帳」の順にクリックします。
   - 「アドレス帳」画面が表示されます。
2. [アドレス帳グループ設定]項目で、アドレス帳グループ番号を選択します。
3. [一覧から選択]をクリックし、登録する呼出先を選択して、〈登録〉をクリックします。

※登録後は、IP100Hの再起動が必要です。

4. IP電話回線を使用する場合

SR-7100VNなど簡易中継サーバー（上位のSIPサーバー）と接続すると、IP電話回線を使用して外線通話ができます。
※本書では、下図のように構築し、SIPサーバーに登録した外線電話番号にかかってくると、IP電話機や無線機に着信する場合を例に説明しています。
※IP電話機やデジタル無線機の設定や接続は、完了しているものとしています。



4. IP電話回線を使用する場合

■ 設定項目について

設定画面にアクセスして、下記項目の設定内容を確認、または変更します。

	設定画面	設定項目	設定名称	設定内容
SR-7100VN	PBX設定 > 内線個別	内線個別設定	内線番号	7101、7102
			パスワード	任意設定
	PBX設定 > 着信	着信設定	着信内線番号	7101（06XXXXXXX1の着信先）
				7102（06XXXXXXX2の着信先）
	PBX拡張設定 > 拡張	SIP拡張設定	内線ドメイン	LAN IPアドレス（初期設定）
VE-PG4	IP回線設定 > IP回線	SIPサーバー設定	IP電話番号	7101、7102
			SIPサーバーアドレス	192.168.0.5（SR-7100VNのIPアドレス）
			SIPサービスドメイン	192.168.0.5（SR-7100VNの内線ドメイン）
			ユーザーID	7101、7102
				（SR-7100VNで設定した内線番号）
			パスワード	（SR-7100VNで設定したパスワード）
	PBX設定 > 着信	着信設定	着信内線番号	31（7101の着信先）
				3000#0006（7102の着信先）
	PBX無線機呼出設定 > 呼出先電話番号	呼出先電話番号	呼出種別	個別
			相手局番号	1234
			呼出先電話番号	090XXXX1234（発信元の電話番号）

PBX設定 > 着信

■ SR-7100VNの設定について

※本書では、SR-7100VNのIPアドレスやIP回線、内線番号（PBX設定）などの設定は、完了しているものとしています。

1 「PBX設定」メニュー、「着信」の順にクリックします。
「着信」画面が表示されます。

2 外線電話番号に対して着信先（子機となるVE-PG4）を設定して、〈登録〉をクリックします。

4. IP電話回線を使用する場合

IP回線設定 > IP回線

PBX設定 > 着信

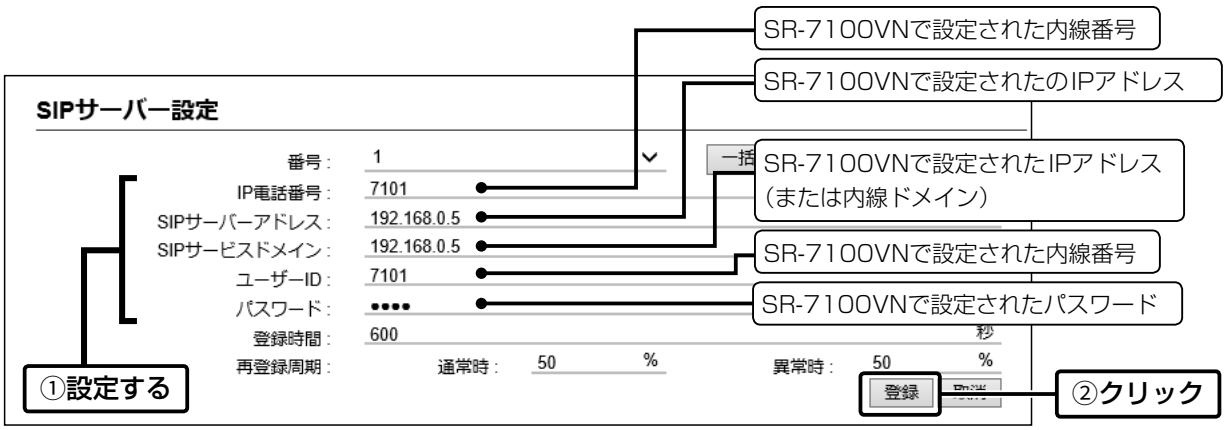
PBX無線機呼出設定 > 呼出先電話番号

■ VE-PG4の設定について

※本書では、IP電話機や無線機の設定や接続は、完了しているものとして説明しています。

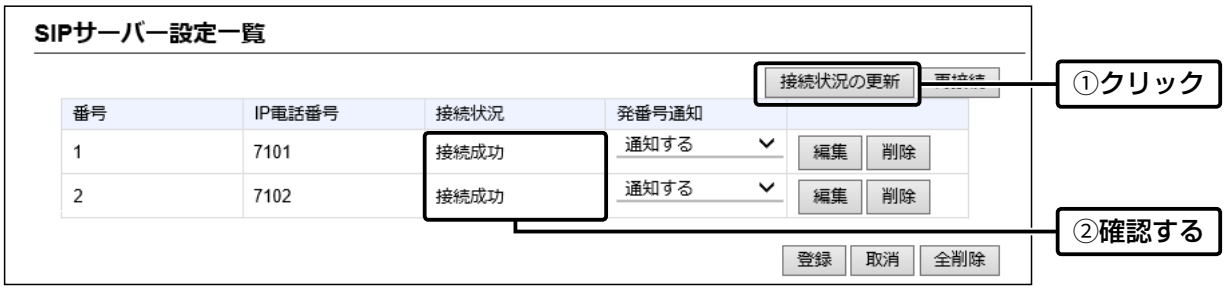
1 「IP回線設定」メニュー、「IP回線」の順にクリックします。
「IP回線」画面が表示されます。

2 接続するSIPサーバーで設定された内容を入力して、〈登録〉をクリックします。（例：7101）



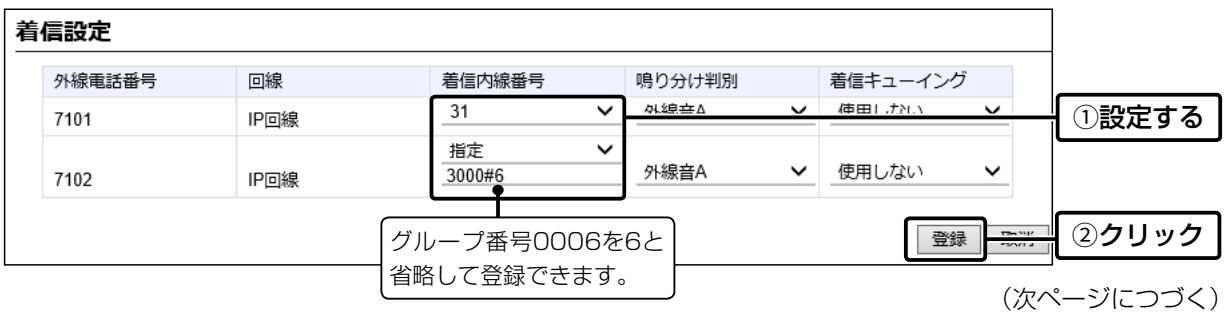
3 IP電話番号「7102」についても、手順2と同様に設定します。

4 [SIPサーバー設定一覧]項目の〈接続状況の更新〉をクリックします。



5 「PBX設定」メニュー、「着信」の順にクリックします。
「着信」画面が表示されます。

6 手順2、3で設定したIP電話番号に対して着信先を設定して、〈登録〉をクリックします。



（次ページにつづく）

4. IP電話回線を使用する場合

IP回線設定 > IP回線

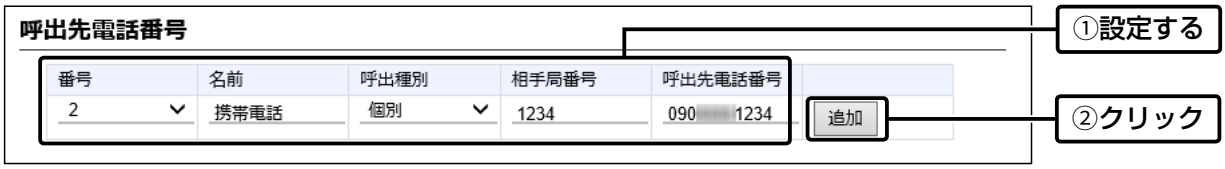
PBX設定 > 着信

PBX無線機呼出設定 > 呼出先電話番号

■ VE-PG4の設定について

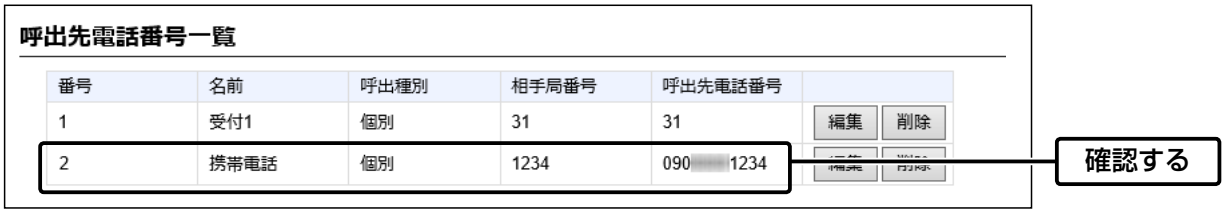
7 「PBX無線機呼出設定」メニュー、「呼出先電話番号」の順にクリックします。
「呼出先電話番号」画面が表示されます。

8 [呼出先電話番号]項目で、名前、呼出種別、[相手局番号]欄に端末側無線機から呼び出すときに使用する番号、[呼出先電話番号]欄に電話番号(例：090XXXX1234)を設定して、〈追加〉をクリックします。



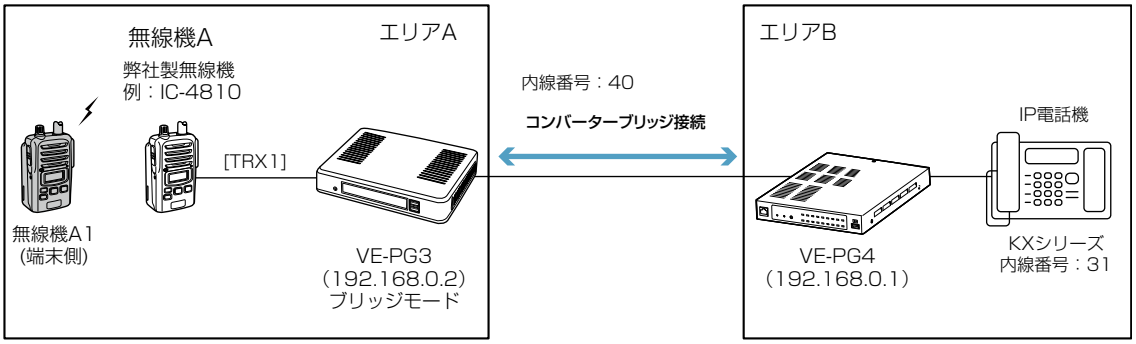
※追加した番号(090XXXX1234)から電話がかかってくると、端末側無線機の画面に「1234」が表示されます。

9 [呼出先電話番号一覧]項目で、登録した内容を確認します。



5. コンバーターブリッジを使用する場合

本製品のコンバーターブリッジ(仮想ポート)を使用すると、ブリッジモードで動作するVE-PG3、IP1000Cのブリッジなどに接続できます。
下図のように接続した場合、エリアBのIP電話機から、ブリッジモードで動作するVE-PG3に接続されたエリアAの無線機に発信できます。
※通話開始は電話機側からだけの動作になります。
※本書では、下図のように構築する場合を例に説明しています。



■ 設定項目について

コンバーターブリッジ接続するために、設定画面にアクセスして、下記項目の設定内容を確認、または変更します。

	設定画面	設定項目	設定名称	設定内容
VE-PG3 (エリアA)	動作モード設定 > 動作モード設定	動作モード設定	動作モード	ブリッジ
		IP通信モード設定	無線機1(TRX1)	ユニキャスト
			無線機2(TRX2)	ユニキャスト
	ブリッジ接続設定 > > ブリッジ接続先	ブリッジ接続先設定	ポート種別	無線機1 (TRX1)
			接続先アドレス	192.168.0.1
			接続先ポート番号	24200(VE-PG4の自局ポート番号)
			音声Codec	G.711u(初期設定)
		ブリッジ接続先設定一覧	接続状態	送信中
	ポート詳細設定 > 無線機1 (TRX1)	無線機機種設定	無線機機種	IC-4810(初期設定)
VE-PG4 (エリアB)	ブリッジ接続設定 > ブリッジ接続	AMBE+2ボコーダー割当設定	音声プロトコル(ポート接続)	コンバーターブリッジ1：G.711u(初期設定)
	PBX設定 > 内線個別	内線設定 (コンバーターブリッジ)	ポート種別	コンバーターブリッジ
			番号	1
			内線番号	40
		内線設定 (IP電話機)	ポート種別	SIPフォン(自動)
			内線番号	31
			パスワード	任意
			MACアドレス	(IP電話機のMACアドレス)
	PBX内線詳細設定 > コンバーターブリッジ	コンバーターブリッジ設定	内線番号	40(コンバーターブリッジ1)
		接続設定	IP通信モード	ユニキャスト
			接続先アドレス	192.168.0.2
			接続先ポート番号	21500(VE-PG3の自局ポート番号)
			接続状態	送信中

5. コンバーターブリッジを使用する場合

動作モード設定 > 動作モード設定

ブリッジ接続設定 > ブリッジ接続先

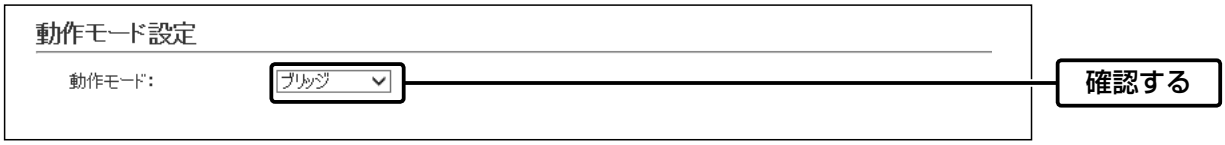
ポート詳細設定 > 無線機1（TRX1）

■ VE-PG3の設定について

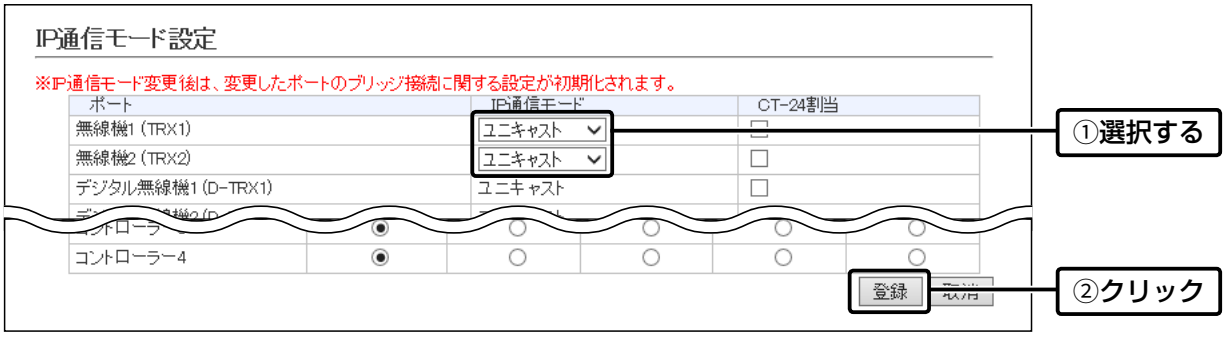
※本書では、VE-PG3のIPアドレスなどの設定は、完了しているものとしています。

1 「動作モード設定」メニューをクリックします。
「動作モード設定」画面が表示されます。

2 動作モードが「ブリッジ」に設定されていることを確認します。



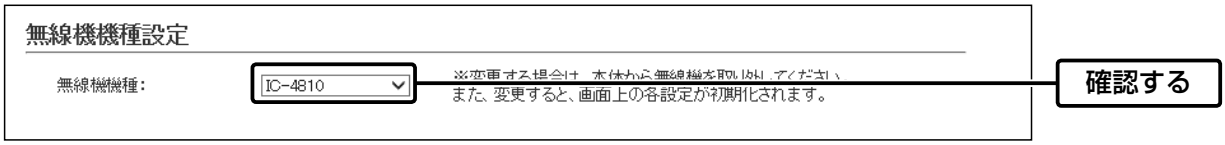
3 無線機1(TRX1)と無線機2(TRX2)の[IP通信モード]欄で「ユニキャスト」を選択し、〈登録〉をクリックします。



※表示される画面にしたがって、本製品を再起動します。

4 再起動後、「ポート詳細設定」メニュー、「無線機1(TRX1)」の順にクリックします。
「無線機1(TRX1)」画面が表示されます。

5 接続する無線機が、「IC-4810」(初期設定)になっていることを確認します。



6 「ブリッジ接続設定」メニュー、「ブリッジ接続先」の順にクリックします。
「ブリッジ接続先」画面が表示されます。

（次ページにつづく）

5. コンバーターブリッジを使用する場合

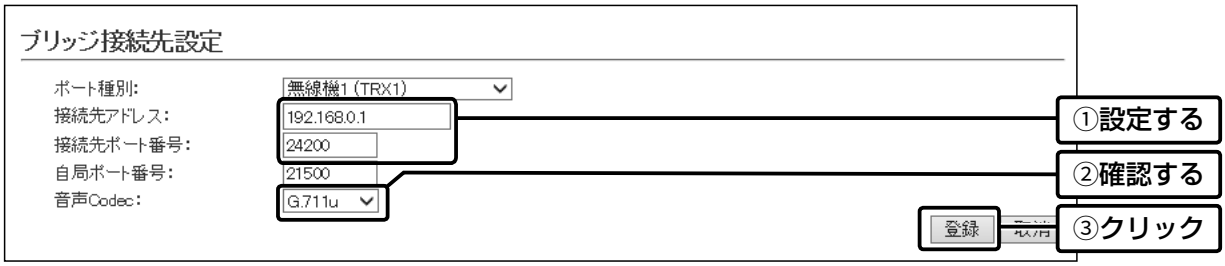
動作モード設定 > 動作モード設定

ブリッジ接続設定 > ブリッジ接続先

ポート詳細設定 > 無線機1（TRX1）

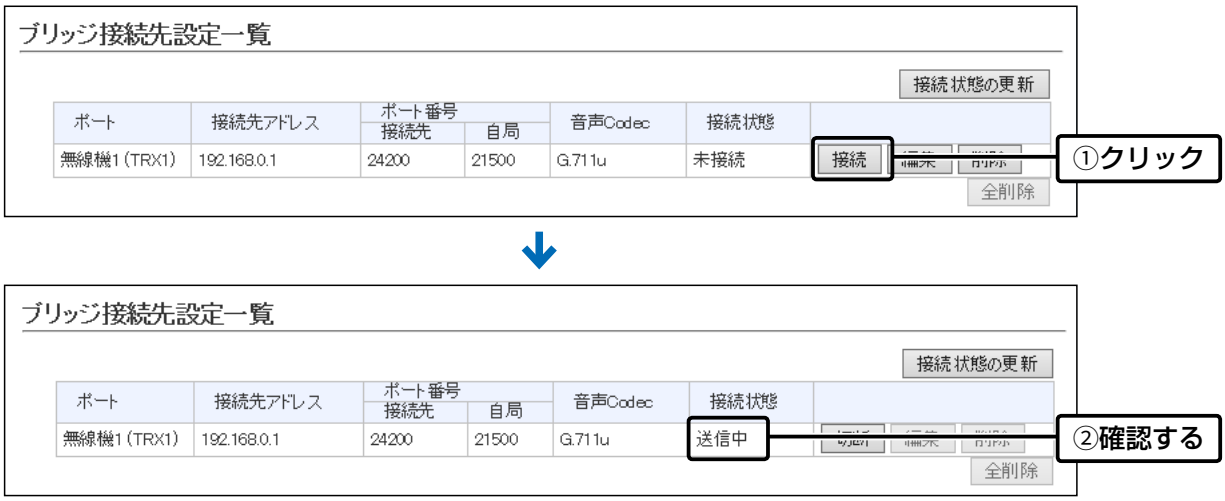
■ VE-PG3の設定について

7 接続先のVE-PG4（エリアB）に設定されたIPアドレス（例：192.168.0.1）、コンバーターブリッジ1のポート番号（例：24200）を入力し、音声Codecを確認してから、〈登録〉をクリックします。



8 [ブリッジ接続先設定一覧]項目で、接続するポートの〈接続〉をクリックします。

※無線機1（TRX1）が「送信中」になっていることを確認します。



5. コンバーターブリッジを使用する場合

ブリッジ接続設定 > ブリッジ接続

PBX設定 > 内線個別

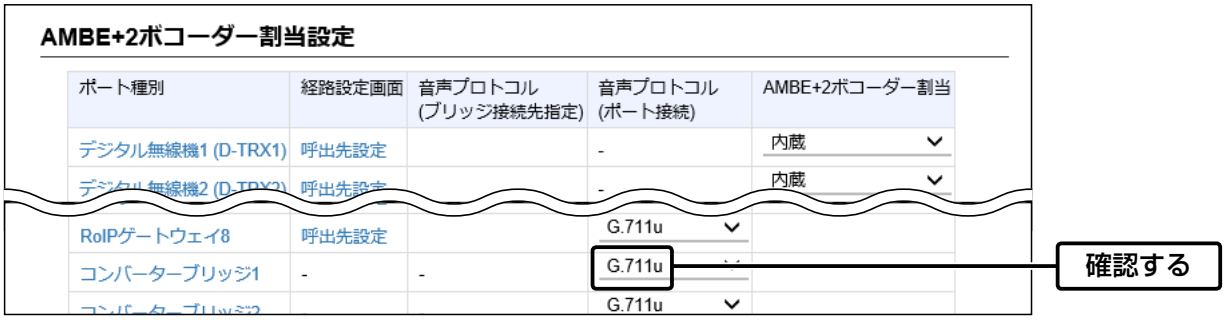
PBX内線詳細設定 > コンバーターブリッジ

■ VE-PG4の設定について

※本書では、IP電話機(内線番号)などの設定は、完了しているものとしています。

1 「ブリッジ接続設定」メニュー、「ブリッジ接続」の順にクリックします。
「ブリッジ接続」画面が表示されます。

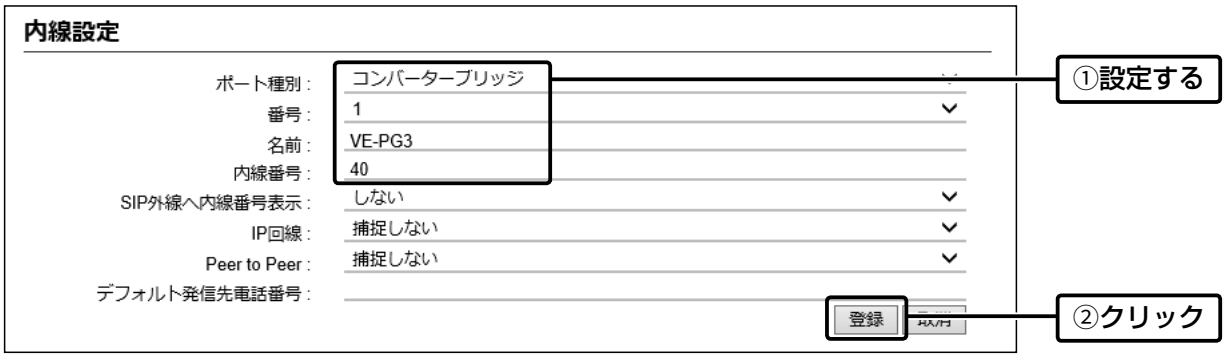
2 コンバーターブリッジの音声プロトコルが、「G.711u」(初期設定)になっていることを確認します。



※コンバーターブリッジで使用できる音声プロトコルは、「G.711u」、「無線機電話プロトコル」、「ブリッジプロトコル」、「AMBE+2」の4種類です。
接続先がIP1000CやAP-9500(無線LANトランシーバー機能搭載)の場合は「無線機電話プロトコル」、VE-PG4の場合は「ブリッジプロトコル」を選択してください。

3 「PBX設定」メニュー、「内線個別」の順にクリックします。
「内線個別」画面が表示されます。

4 下記のように、[内線設定]項目でコンバーターブリッジ1に対して内線番号(例：40)を設定します。



5 「PBX内線詳細設定」メニュー、「コンバーターブリッジ」の順にクリックします。
「コンバーターブリッジ」画面が表示されます。

(次ページにつづく)

5. コンバーターブリッジを使用する場合

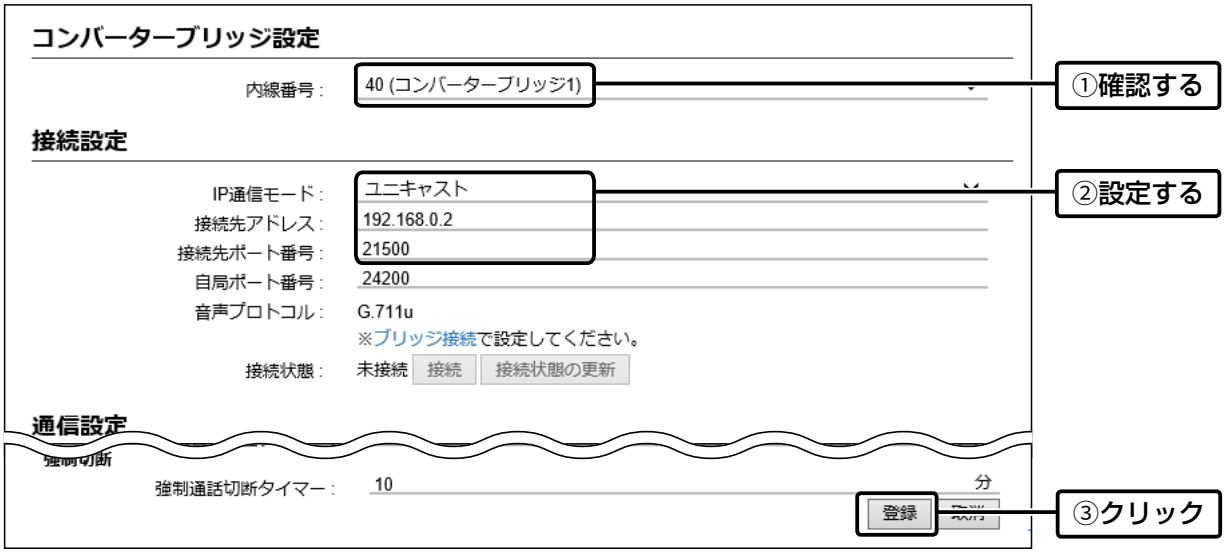
ブリッジ接続設定 > ブリッジ接続

PBX設定 > 内線個別

PBX内線詳細設定 > コンバーターブリッジ

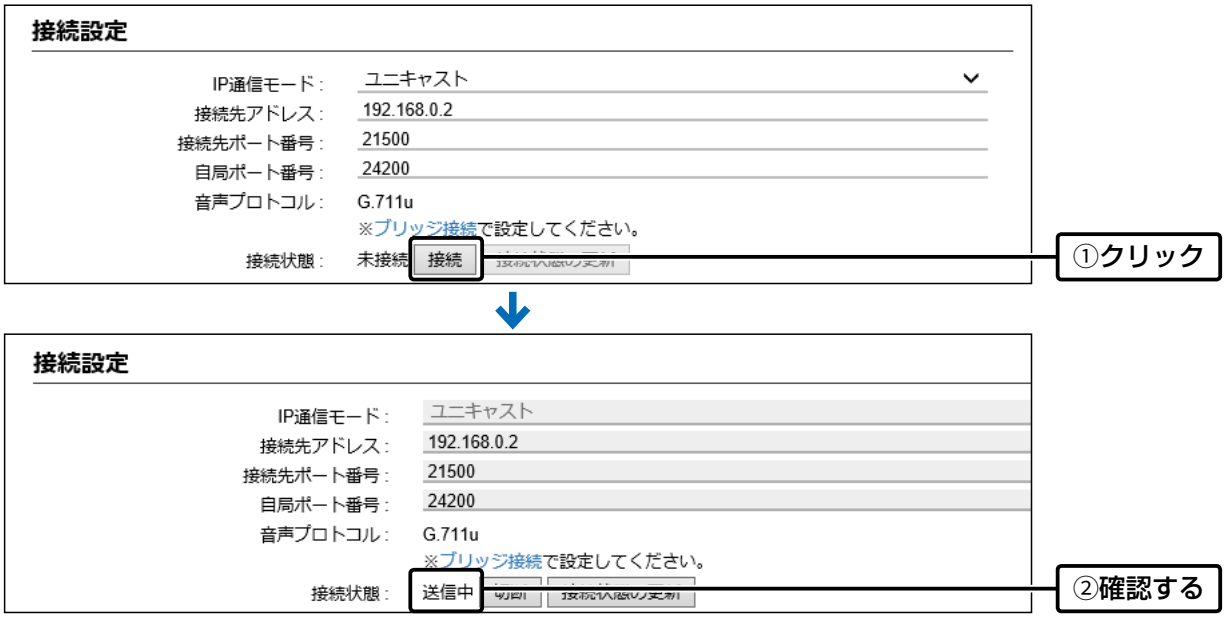
■ VE-PG4の設定について

6 [IP通信モード]欄で「ユニキャスト」を選択し、接続先のVE-PG3(エリアA)に設定されたIPアドレス(例：192.168.0.2)、無線機1(TRX1)のポート番号(例：21500)を入力し、〈登録〉をクリックします。



7 〈接続〉をクリックします。

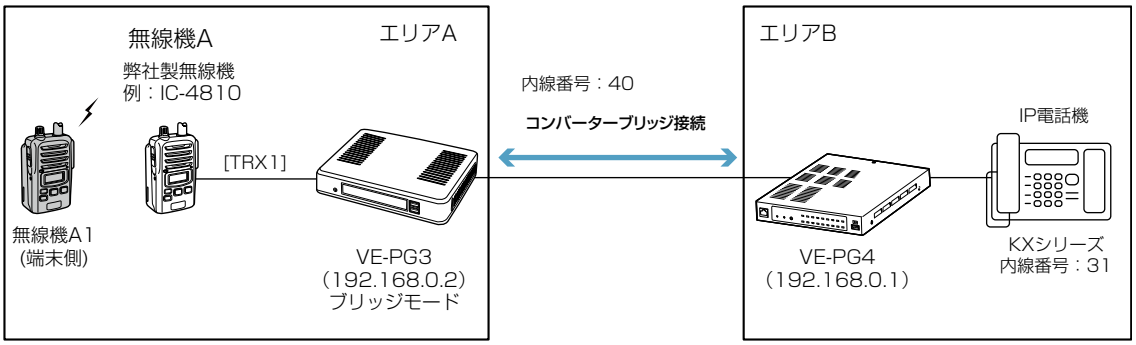
「送信中」となっていることを確認します。



5. コンバーターブリッジを使用する場合

■ 運用のしかた

エリアBのIP電話機から「40」をダイヤルして、エリアAの無線機（A1）を呼び出す場合を例に説明しています。



1. エリアB

IP電話機の受話器を上げて、内線「40」をダイヤルします。

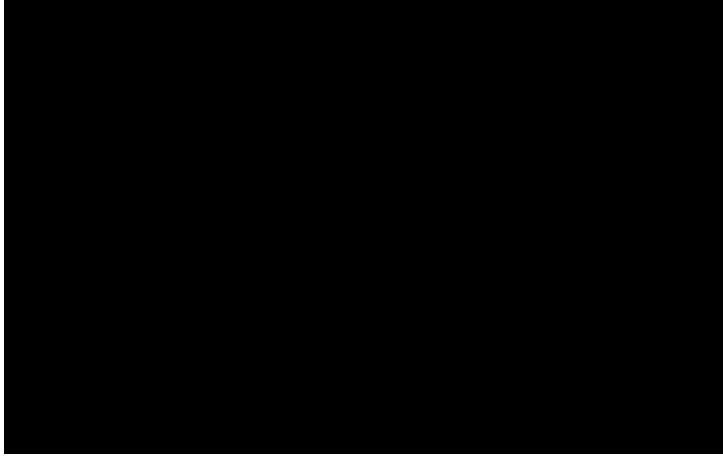
2. エリアA

VE-PG3に接続した無線機Aと同じ通話チャンネルに設定されたエリアA内の端末側無線機（A1）を呼び出します。

ご注意

◎電話機同士のような双方向通話はできません。
　通話相手が話し終わったことを確認してから、話しはじめてください。
◎IP電話機が受話器を置くと、通信が切断されます。
　無線機、IP電話機ともに無音状態が約15秒★つづいても、通信が切断されます。
　★本製品の「コンバーターブリッジ」画面で、接続するポート（1～20）ごとに設定を変更できます。

高品質がテーマです。



アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32

A7461-4J
© 2018 Icom Inc.

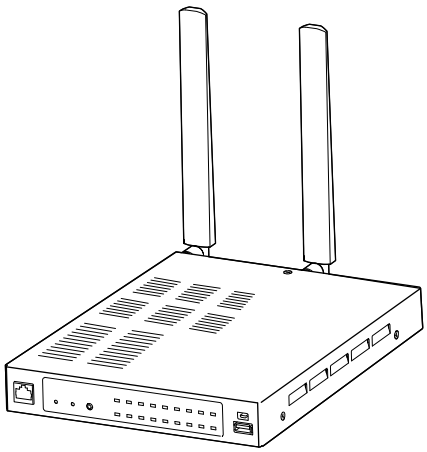
ICOM

取扱説明書[活用編]

RoIP GATEWAY

VE-PG4

本書は、本製品で設定できるさまざまな機能について、メニューの設定画面ごとに詳しく説明しています。
取扱説明書[導入編]に記載されていない詳細な機能を設定するときなど、本書と併せてご覧ください。



Icom Inc.

はじめに
1　TOP
2　情報表示
3　ネットワーク情報
4　ルーター設定
5　ブリッジ接続設定
6　無線機コントローラー設定
7　無線機ポート詳細設定
8　呼出先設定
9　拡張設定
10　IP回線設定
11　PBX設定
12　PBX無線機呼出設定
13　PBX内線詳細設定
14　PBX拡張設定
15　管理

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
本製品は、弊社製無線機をVoIPネットワークに融合するコンバーターユニットです。
ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

登録商標/著作権

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。
AMBE+2は、Digital Voice Systems, Inc.の商標です。
Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。
なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。
本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。
本ソフトウェア、および本ドキュメントは、アイコム株式会社が著作権を保有します。

本書の表記について

本書は、次の表記規則にしたがって記述しています。
「　」表記：本製品の各メニューと、そのメニューに属する設定画面の名称を(「 」)で囲んで表記します。
[　]表記：キー、ランプ、ポート、各設定画面の設定項目名を([ ])で囲んで表記します。
〈　〉表記：設定画面上に設けられたコマンドボタンの名称を(〈 〉)で囲んで表記します。

※ 本書は、Ver. 1.14のファームウェアを使用して説明しています。
※ 本書では、Windows 10の画面を例に説明しています。
※ 本書では、パナソニック社製IP電話機(KX-UT123N、KX-UT136N、KX-HDV130N、KX-HDV230N)を「KXシリーズ」と表記しています。
※ 本書では、IP100H、IP100FSを「無線LANトランシーバー」、IP500H、IP501H、IP502H、IP500Mを「IP無線機」、IPネットワーク対応のデジタル無線機を「デジタル無線機」と表記しています。
※ 本書では、無線LANトランシーバーを制御するコントローラー(VE-PG4、IP1000C、AP-9500)を「無線機コントローラー」と表記しています。
※ 本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使いになるパソコンと多少異なる場合があります。
※ 本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。

音声圧縮(符号化)方式について

本製品は、米国DVS社の開発したAMBE(AdvancedMulti-Band Excitation)方式を採用しており、AMBE+2™方式に対応しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form U.S. Patent Nos. #8,595,002, #8,359,197, #8,315,860,#8,200,497, #7,970,606 and #6,912,495 B2.

はじめに

取扱説明書の構成について

本製品の取扱説明書は、本製品に付属の「ご使用になる前に」、弊社ホームページに掲載の下記取扱説明書（PDFファイル）で構成されています。

ご使用になる前に（別紙）

本製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を説明しています。
また、本製品の初期化操作など、保守についても説明しています。

取扱説明書[導入編]（別紙）

本製品の基本的な方法について、本書を最初からお読みいただくことで、設定や設置の作業ができるように構成しています。

取扱説明書[活用編]（本書）

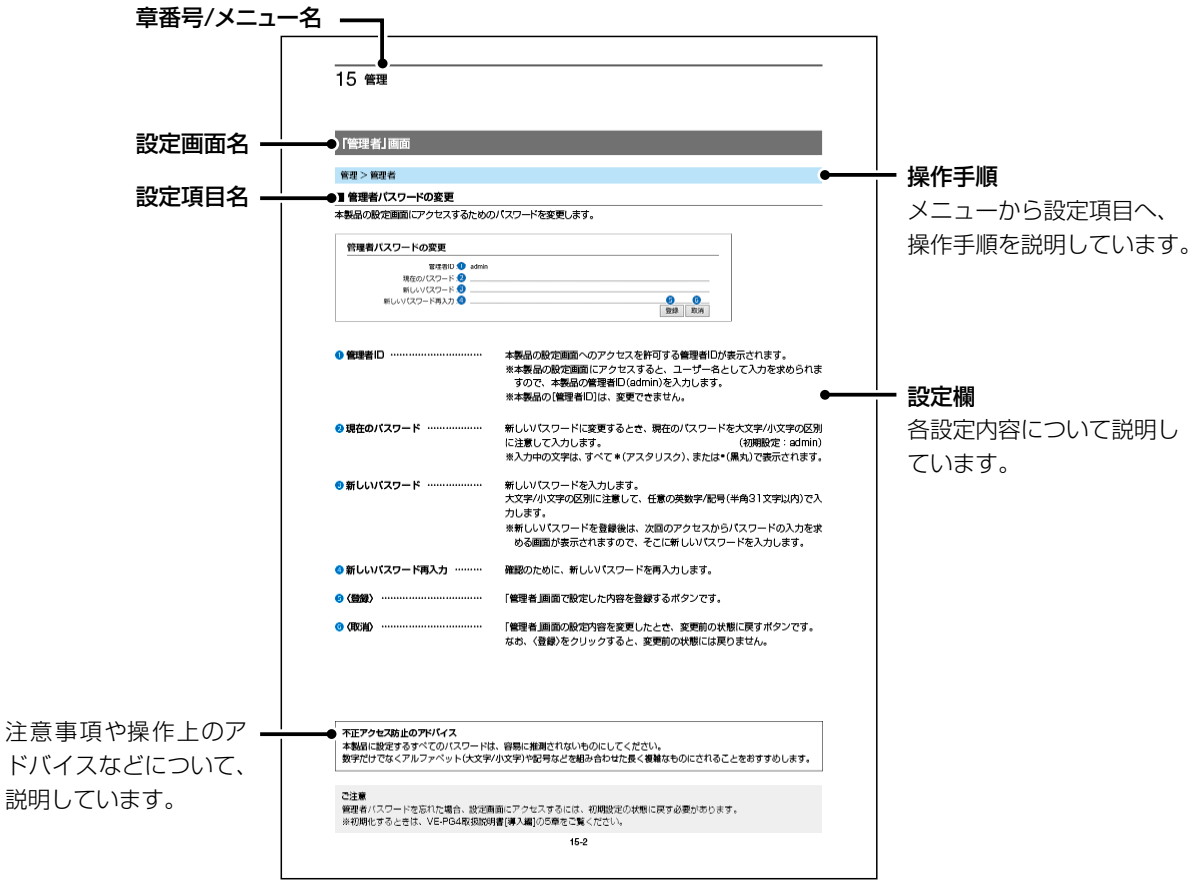
本製品に設定できる詳細な機能について、設定メニューごとに詳細を説明しています。

取扱説明書[構築編]（別紙）

他拠点接続やブリッジ接続など、弊社対応機器との連携や構築例を説明しています。

説明ページの構成について

本書は、次のような構成で説明しています。



TOP

第 1 章

この章では、
「TOP」画面の設定について説明します。

「TOP」画面 …… 1-2
■ システム情報 …… 1-2
■ MACアドレス …… 1-2
■ WANステータス …… 1-3
■ LTE情報 …… 1-3

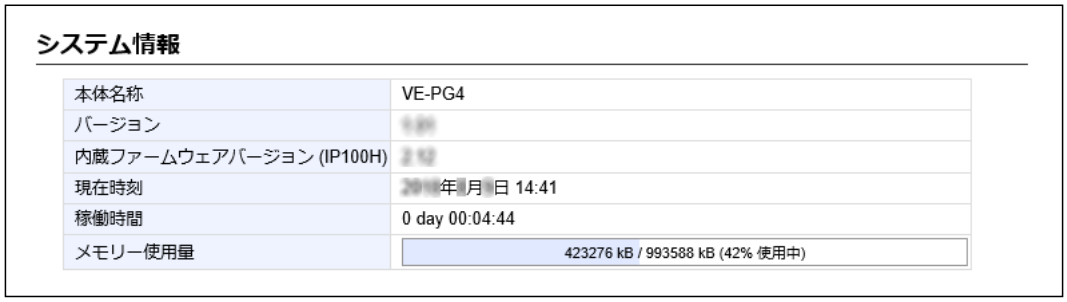
1 TOP

「TOP」画面

TOP

■ システム情報

ファームウェアのバージョン情報、時刻、稼働時間、メモリー使用量が表示されます。

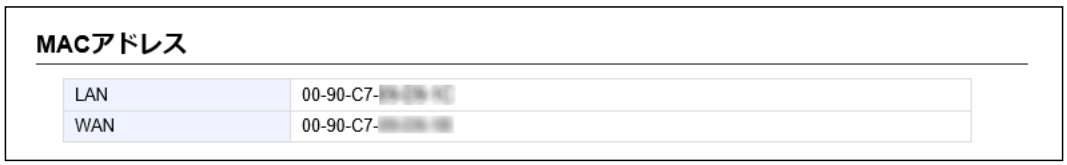


※本製品に登録されたIP100Hごとのファームウェアのバージョン情報は、「無線機管理」画面で確認できます。（P.6-14）

TOP

■ MACアドレス

本製品のMACアドレス（LAN/WAN）が表示されます。



※MACアドレスは、本製品のようなネットワーク機器がそれぞれ独自に持っている機器固有の番号で、12桁（00-90-C7-××-××-××）で表示されています。

※本製品本体に貼られているシリアルシールでも、MACアドレスを確認できます。

1 TOP

「TOP」画面

TOP

■ WANステータス

「ルーター設定」メニューの「WAN接続先」画面で設定したWAN側回線への接続状態が表示されます。
※下図は、初期設定での表示内容です。

WANステータス

回線種別	LANポートとして使用する
接続先名	
接続状態	
IPアドレス	
デフォルトゲートウェイ	
DNSサーバー	

TOP

■ LTE情報

本製品にSIMカードが装着されている場合に、本製品の電波状態やIP無線機コントローラーとの接続状況などが表示されます。

LTE情報

❶	ネットワーク情報	4G
❷	電波強度	強
❸	接続状態	接続中
❹	保守サーバーアクセス時間	[redacted]
❺	保守サーバーの確認	確認

❶ ネットワーク情報 …… 現在接続している回線が、「4G」、「3G」で表示されます。

❷ 電波強度 …… 電波の強度(目安)が、「圏外」、「弱」、「中」、「強」で表示されます。

❸ 接続状態 …… 4G/3G回線の接続状態が、「初期化処理中」、「初期化処理失敗」、「接続試行中」、「接続中」、「未接続」で表示されます。

❹ 保守サーバーアクセス時間 …… IP無線機コントローラーにアクセスした日時が表示されます。
※ここに表示される日時は、「自動時計設定」項目(P.15-10)の設定に関わらず、無線通信モジュールから取得した日時になります。

❺ 保守サーバーの確認 …… IP無線機コントローラーにアクセスできているか確認するときに、クリックするボタンです。

情報表示

第 2 章

この章では、
「情報表示」画面の設定について説明します。

「ネットワーク情報」画面 …… 2-2
■ インターフェース …… 2-2
■ Ethernetポート接続情報 …… 2-2
■ DHCPリース情報 …… 2-2
「SYSLOG」画面 …… 2-3
■ SYSLOG …… 2-3
「ブリッジ情報」画面 …… 2-4
■ ブリッジ情報 …… 2-4
■ ポート接続情報 …… 2-5
「PBX情報」画面 …… 2-6
■ 内線代表一覧 …… 2-6
■ 内線一覧 …… 2-7
「発着信記録」画面 …… 2-8
■ 発着信記録 …… 2-8
「内線子機情報」画面 …… 2-9
■ 内線子機情報 …… 2-9
「LTE情報」画面 …… 2-10
■ モジュール情報 …… 2-10
■ SIM情報 …… 2-10
■ LTE情報 …… 2-11

2 情報表示

「ネットワーク情報」画面

情報表示 > ネットワーク情報

■ インターフェース

「ネットワーク設定」メニュー→「スタティックルーティング」画面→[IP経路情報]項目に表示された[経路]について、その詳細が表示されます。

インターフェース

インターフェース	IPアドレス	サブネットマスク
br-lan	192.168.0.1	255.255.255.0

情報表示 > ネットワーク情報

■ Ethernetポート接続情報

本製品のポートについて、通信速度と通信モードが表示されます。
※下図は、WAN接続先の回線種別を「LANポートとして使用する」に設定した情報です。

Ethernetポート接続情報

インターフェース	MACアドレス	リンク状態
LAN	00-90-C7-[redacted]	100BASE-TX full-duplex
WAN / LAN		リンクダウン

※本製品の[LAN]ポート、[WAN/LAN]ポートは、接続モードが「自動(Auto)」となっています。
接続する機器側も「自動(Auto)」に設定することで、通信に最適な速度、モードが自動選択されます。
※接続する機器を100Mbps、または10Mbpsで固定する場合、半二重(half-duplex)設定にしてください。
弊社製品に限らず、自動(Auto)と固定速度full-duplexとがネゴシエーションする場合、自動(Auto)側はhalf-duplexと認識されることがあり、パフォーマンスが著しく低下する原因になることがあります。
※通信速度に関係なく、接続するHUBを「full-duplex」固定に設定すると、[Ethernetポート接続情報]項目で「half-duplex」と表示されることがあります。

情報表示 > ネットワーク情報

■ DHCPリース情報

本製品のDHCPサーバー機能(P.3-4)を使用している場合、本製品に接続する端末に割り当てされたIPアドレスの状態と有効期限が表示されます。

DHCPリース情報

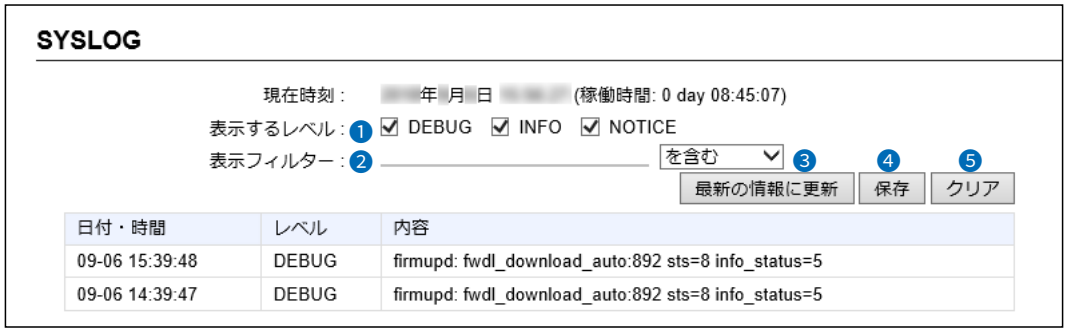
ホスト名	MACアドレス	IPアドレス	リース期限
[redacted]	[redacted]	192.168.0.30	[redacted]

「SYSLOG」画面

情報表示 > SYSLOG

■ SYSLOG

本製品のログ情報が表示されます。



❶ 表示するレベル ……

非表示に設定するときは、非表示にするレベルのチェックボックスをクリックして、チェックマーク[✔]をはずします。
※「SYSLOG」画面のチェックボックス状態は、保存されません。
設定画面へのアクセスごとに、元の状態に戻ります。
※すべてのチェックマーク[✔]をはずすことはできません。

❷ 表示フィルター ……

表示内容を絞りこむときに使用するフィルターです。
フィルターとして使用するテキスト(例：dhcp)を入力し、「を含む」/「を含まない」を選択します。

❸〈最新の情報に更新〉 ……

[表示するレベル](❶)欄でチェックマーク[✔]のあるレベルについてのSYSLOG情報を最新の状態にするボタンです。
※最大1000件のログ情報を記憶できます。
1000件を超えると、古いログ情報から削除されます。

❹〈保存〉 ……

[表示するレベル](❶)欄に応じた内容を保存するボタンです。
※クリックして、表示された画面にしたがって操作すると、ログ情報をテキスト形式(拡張子：txt)で保存できます。

❺〈クリア〉 ……

すべてのログ情報を削除するボタンです。

2 情報表示

「ブリッジ情報」画面

情報表示 > ブリッジ情報

■ ブリッジ情報

「ブリッジ接続設定」メニューの「ブリッジ接続」画面で、ブリッジ接続先を指定した場合に、その設定内容と接続状態が表示されます。
※初期設定では、各ブリッジ接続先は「無線機コントローラー」になっています。

ブリッジ情報

ポート種別	ブリッジ接続先	IP通信モード	接続先アドレス	ポート番号		音声プロトコル	AMBE+2ボコーダー割当	接続状態
				接続先	自局			
デジタル無線機1 (D-TRX1)	ブリッジ接続先指定	ユニキャスト	192.168.0.64	23000	23000	G.711u	内蔵	送信中
デジタル無線機2 (D-TRX2)	無線機コントローラー	-	-	-	-	-	内蔵	-
デジタル無線機3 (D-TRX3)	無線機コントローラー	-	-	-	-	-	内蔵	-
デジタル無線機4 (D-TRX4)	ブリッジ接続先指定	ユニキャスト	ブリッジ個別呼出		23006	AMBE+2	なし	送信中
外部入出力1 (EXT1)	無線機コントローラー	-	-	-	-	-	なし	-
外部入出力2 (EXT2)	無線機コントローラー	-	-	-	-	-	なし	-
外部入出力3 (EXT3)	無線機コントローラー	-	-	-	-	-	なし	-
外部入力4 (EXT4)	無線機コントローラー	-	-	-	-	-	なし	-
外部出力4 (EXT4)	無線機コントローラー	-	-	-	-	-	なし	-
緊急通知	無線機コントローラー	-	-	-	-	-	なし	-
マイク (MIC)	ブリッジ接続先指定	マルチキャスト	239.255.255.1	22510	22510	G.711u	なし	未接続
RoIPゲートウェイ1	無線機コントローラー	-	-	-	-	-	-	-
RoIPゲートウェイ2	無線機コントローラー	-	-	-	-	-	-	-
RoIPゲートウェイ3	無線機コントローラー	-	-	-	-	-	-	-
RoIPゲートウェイ4	無線機コントローラー	-	-	-	-	-	-	-
RoIPゲートウェイ5	無線機コントローラー	-	-	-	-	-	-	-
RoIPゲートウェイ6	無線機コントローラー	-	-	-	-	-	-	-
RoIPゲートウェイ7	RoIPゲートウェイ8	-	-	-	-	-	なし	-
RoIPゲートウェイ8	RoIPゲートウェイ7	-	-	-	-	-	なし	-

◎[音声プロトコル]欄、[AMBE+2ボコーダー割当]欄には、「ブリッジ接続」画面の[AMBE+2ボコーダー割当]項目で設定した内容が表示されます。

2 情報表示

「ブリッジ情報」画面

情報表示 > ブリッジ情報

■ ポート接続情報

ポート種別ごとに設定した内容と接続先が表示されます。

ポート接続情報

ポート種別	IP通信モード	接続先アドレス	ポート番号		音声プロトコル	AMBE+2ボコーダー割当	接続状態
			接続先	自局			
RoIPゲートウェイ1	-	-	-	-	-	なし	-
RoIPゲートウェイ2	-	-	-	-	-	なし	-
RoIPゲートウェイ3	-	-	-	-	-	なし	-
RoIPゲートウェイ4	-	-	-	-	-	なし	-
RoIPゲートウェイ5	-	-	-	-	-	なし	-
RoIPゲートウェイ6	-	-	-	-	-	なし	-
RoIPゲートウェイ7	ユニキャスト	192.168.0.5	24412	24412	AMBE+2	なし	送信中
RoIPゲートウェイ8	ユニキャスト	192.168.0.6	24414	24414	AMBE+2	なし	送信中
コンバーターブリッジ1	-	-	-	-	-	なし	-
コンバーターブリッジ2	-	-	-	-	-	なし	-
コンバーターブリッジ18	-	-	-	-	-	なし	-
コンバーターブリッジ19	-	-	-	-	-	なし	-
コンバーターブリッジ20	-	-	-	-	-	なし	-

◎RoIPゲートウェイ(1～8)には、「無線機ポート詳細設定」メニューの「RoIPゲートウェイ」画面にある[RoIPゲートウェイ接続設定]項目で設定した内容が表示されます。
◎コンバーターブリッジ(1～20)には、「PBX内線詳細設定」メニューの「コンバーターブリッジ」画面にある[接続設定]項目で設定した内容が表示されます。
◎[音声プロトコル]欄、[AMBE+2ボコーダー割当]欄には、「ブリッジ接続」画面の[AMBE+2ボコーダー割当]項目で設定した内容が表示されます。

2　情報表示

「PBX情報」画面

情報表示 > PBX情報

■ 内線代表一覧

登録された内線子機(IP電話機)に対する各内線代表番号と、内線代表の設定内容が表示されます。
※画面の内容は、各内線子機の登録例です。

内線代表一覧

内線代表に属さない内線 ❶		3000 4001 4002
200 ❷ (営業部)	内線一覧 ❸	31 32
	1次着信	31
	2次着信 ❹	32
	3次着信	なし
300 (購買部)	内線一覧	33 34
	順次着信	33 34

❶ **内線代表に属さない内線** …… 内線代表に所属しない内線子機の内線番号が表示されます。

❷ **内線代表番号** …… 内線子機が所属する内線代表の内線番号と内線代表名が表示されます。

❸ **内線一覧** …… 内線代表に所属する内線子機の内線番号が表示されます。

❹ **内線代表着信設定** …… 内線代表番号(❷)に着信したとき、鳴動させる内線子機の内線番号が表示されます。

2 情報表示

「PBX情報」画面

情報表示 > PBX情報

■ 内線一覧

登録された内線子機(IP電話機)の設定内容が表示されます。
※画面の内容は、各内線子機の登録例です。

❶ 内線番号 ……
登録された内線の内線番号が表示されます。
※名前が登録されている場合は、名前も表示されます。

❷ 内線代表番号 ……
登録された内線が所属している内線代表の内線代表番号が表示されます。
※内線代表に所属しない内線の場合は、「内線代表なし」が表示されます。

❸ ポート種別 ……
登録された内線の機種(SIPフォン(自動)、SIPフォン(KX-UTシリーズ)、SIPフォン(KX-HDVシリーズ)、標準SIPフォン、標準SIPフォン(WLAN)、無線機コントローラー電話接続、コンバーターブリッジ)が表示されます。

❹ ダイヤルイン番号 ……
登録された内線に着信するダイヤルイン番号が表示されます。
※ダイヤルイン(着信内線番号)が設定されていない場合は、「なし」が表示されます。

❺ 自動捕捉回線番号 ……
登録された内線で発信するときの回線捕捉が表示されます。

❻ WAN側からの接続 ……
登録された内線へのWAN側からの登録(レジスト)について、設定(禁止/許可)が表示されます。

❼ MACアドレス ……
登録された内線(KXシリーズ)のMACアドレスが表示されます。

❽ IPアドレス ……
登録された内線が使用しているIPアドレスが表示されます。
※内線が本製品に接続していない(電源が入っていないなど)場合は、「未接続」が表示されます。
※無線機コントローラー電話接続、またはコンバーターブリッジの場合は、「-」が表示されます。

「発着信記録」画面

情報表示 > 発着信記録

■ 発着信記録

本製品のブリッジ接続、RS-PG4による無線機の送信停止(ロック)、電話機能などの履歴が表示されます。

❶**〈最新の情報に更新〉** …… 履歴を最新の情報にするボタンです。
※約1000件の履歴を記録できます。
約1000件を超えると、古い履歴から削除されます。

❷**〈保存〉** …… 表示された履歴を保存するボタンです。
※クリックして、表示された画面にしたがって操作すると、履歴をテキスト形式(拡張子：txt)で保存できます。

❸**〈クリア〉** …… 表示された履歴を削除するボタンです。

「内線子機情報」画面

情報表示 > 内線子機情報

■ 内線子機情報

本製品に登録した内線子機(IP電話機)の情報が表示されます。

内線子機情報

名前 ❶	内線番号 ❷	ポート種別 ❸	バージョン ❹	IPアドレス ❺	プレゼンス ❻
受付1	31	SIPフォン (自動 KX-UTシリーズ)	[illegible]	192.168.0.31	オンライン
受付2	32	SIPフォン (自動 KX-UTシリーズ)	[illegible]	192.168.0.34	オンライン
受付3	33	SIPフォン (自動)			オフライン
受付4	34	SIPフォン (自動)			オフライン
	3000	無線機コントローラー電話接続			
	4001	コンバーターブリッジ			
	4002	コンバーターブリッジ			

❶ 名前 ……

「PBX設定」メニュー→「内線個別」画面の[内線設定]項目に登録された名前が表示されます。

❷ 内線番号 ……

「PBX設定」メニュー→「内線個別」画面の[内線設定]項目に登録された内線番号が表示されます。

❸ ポート種別 ……

「PBX設定」メニュー→「内線個別」画面の[内線設定]項目に登録されたポート種別が表示されます。
※「SIPフォン(自動)」に設定された内線子機を本製品に接続した(電源が入っている)場合は、取得した機種情報を上図のように表示されます。

❹ バージョン ……

本製品に登録した内線子機(KXシリーズ)のファームウェア情報が表示されます。
※内線子機(KXシリーズ)を本製品に接続していない(電源が入っていないなど)場合やKXシリーズ以外は、空欄になります。
※[ポート種別](❸)がSIPフォン以外の場合、空欄になります。

❺ IPアドレス ……

本製品に登録した内線子機が使用しているIPアドレスが表示されます。
※内線子機を本製品に接続していない(電源が入っていないなど)場合は、空欄になります。
※[ポート種別](❸)がSIPフォン以外の場合、空欄になります。

❻ プレゼンス ……

本製品に登録した内線子機の使用状況が表示されます。

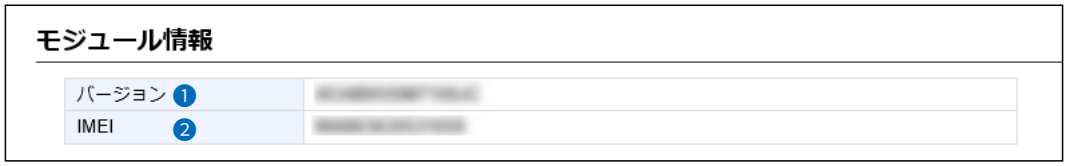
オフライン ：電話機未登録
オンライン★ ：電話機登録成功
電話中★ ：通話中(保留中)
離席★ ：不在転送設定中(無線系端末を除く)
★は登録成功時
※[ポート種別](❸)がSIPフォン以外の場合、空欄になります。

「LTE情報」画面

情報表示 > LTE情報

■ モジュール情報

無線通信モジュール(通信ユニット)情報が表示されます。



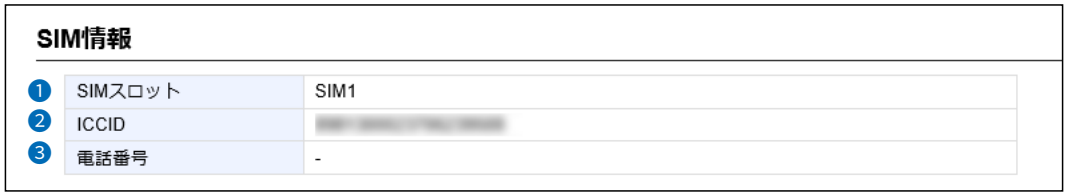
❶ **バージョン** …… 通信ユニットのバージョン情報が表示されます。

❷ **IMEI** …… 通信ユニットのIMEI情報が表示されます。

情報表示 > LTE情報

■ SIM情報

本製品に装着されている有効なSIMの情報が表示されます。



❶ **SIMスロット** …… 現在使用しているSIMスロットが表示されます。

❷ **ICCID** …… SIMカードのICCID情報が表示されます。
※[SIMスロット](❶)の情報が取得できない場合、表示されません。

❸ **電話番号** …… 現在使用しているSIMカードの電話番号が表示されます。
※[SIMスロット](❶)の情報が取得できない場合、表示されません。

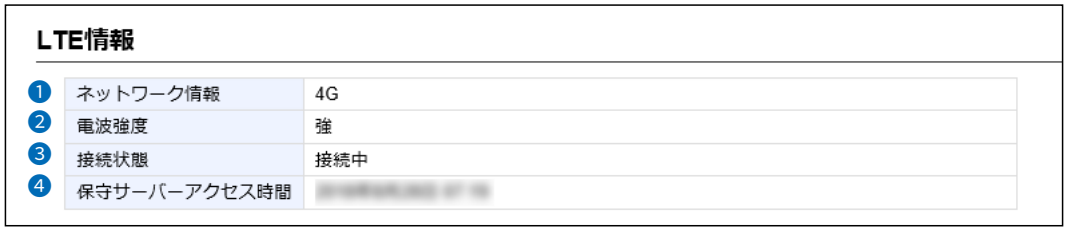
2 情報表示

「LTE情報」画面

情報表示 > LTE情報

■ LTE情報

本製品にSIMカードが装着されている場合に、本製品の電波状態やIP無線機コントローラーとの接続状況などが表示されます。



❶ ネットワーク情報 …… 現在接続している回線が、「4G」、「3G」で表示されます。

❷ 電波強度 …… 電波の強度(目安)が、「圏外」、「弱」、「中」、「強」で表示されます。

❸ 接続状態 …… 4G/3G回線の接続状態が、「初期化処理中」、「初期化処理失敗」、「接続試行中」、「接続中」、「未接続」で表示されます。

❹ 保守サーバーアクセス時間 …… IP無線機コントローラーにアクセスした日時が表示されます。
※ここに表示される日時は、「自動時計設定」項目(P.15-10)の設定に関わらず、無線通信モジュールから取得した日時になります。

ネットワーク設定

第 3 章

この章では、
「ネットワーク設定」画面の設定について説明します。

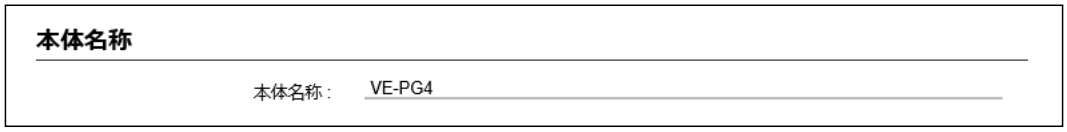
「IPアドレス」画面 …… 3-2
■ 本体名称 …… 3-2
■ IPアドレス設定 …… 3-3
「DHCPサーバー」画面 …… 3-4
■ DHCPサーバー設定 …… 3-4
■ 静的DHCPサーバー設定 …… 3-7
■ 静的DHCPサーバー設定一覧 …… 3-7
「スタティックルーティング」画面 …… 3-8
■ IP経路情報 …… 3-8
■ スタティックルーティング設定 …… 3-9
■ スタティックルーティング設定一覧 …… 3-9
「ポリシールーティング」画面 …… 3-10
■ 送信元ルーティング設定 …… 3-10
■ 送信元ルーティング設定一覧 …… 3-10

「IPアドレス」画面

ネットワーク設定 > IPアドレス

■ 本体名称

本製品の名称を設定します。



本体名称…… Telnet/SSHで本製品に接続したとき、ここで設定した本体名称が表示されます。（初期設定：VE-PG4）

※半角英数字(a～z、A～Z、0～9、－)を、任意の31文字以内で設定します。なお、半角英数字以外の文字は、使用しないでください。

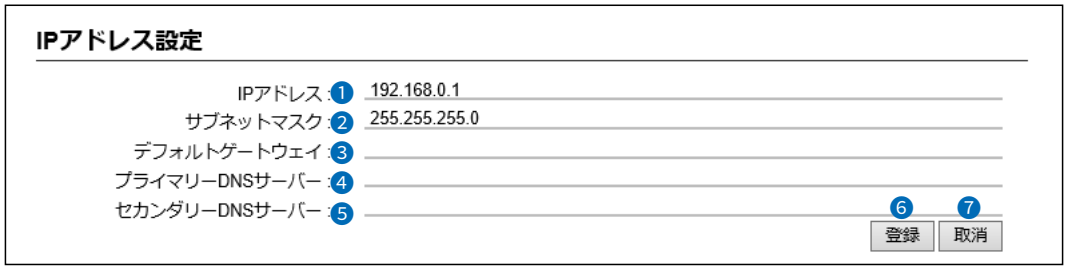
※「－(ハイフン)」を本体名称の先頭、または末尾に使用すると、登録できません。

「IPアドレス」画面

ネットワーク設定 > IPアドレス

■ IPアドレス設定

本製品のIPアドレスを設定します。



❶ IPアドレス ……

本製品のIPアドレスを入力します。（初期設定：192.168.0.1）
本製品を現在稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたネットワークアドレスに変更してください。
※本製品のDHCPサーバー機能を使用する場合は、[割り当て開始IPアドレス]欄(P.3-4)についてもネットワーク部を同じに設定してください。

❷ サブネットマスク ……

本製品のサブネットマスク(同じネットワークで使用するIPアドレスの範囲)を設定します。（初期設定：255.255.255.0）
※本製品を現在稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたサブネットマスクに変更してください。

❸ デフォルトゲートウェイ ……

本製品のIPアドレスとネットワーク部が異なる接続先と通信する場合、パケット転送先機器のIPアドレスを入力します。
※本製品と同じIPアドレスは登録できません。

❹ プライマリーDNSサーバー ……

本製品がアクセスするDNSサーバーのアドレスを入力します。
※使い分けたいアドレスが2つある場合は、優先したいほうのアドレスを入力してください。

❺ セカンダリーDNSサーバー ……

[プライマリーDNSサーバー](❹)欄と同様に、本製品がアクセスするDNSサーバーのアドレスを入力します。
※必要に応じて、使い分けたいDNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。

❻〈登録〉 ……

[IPアドレス設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

❼〈取消〉 ……

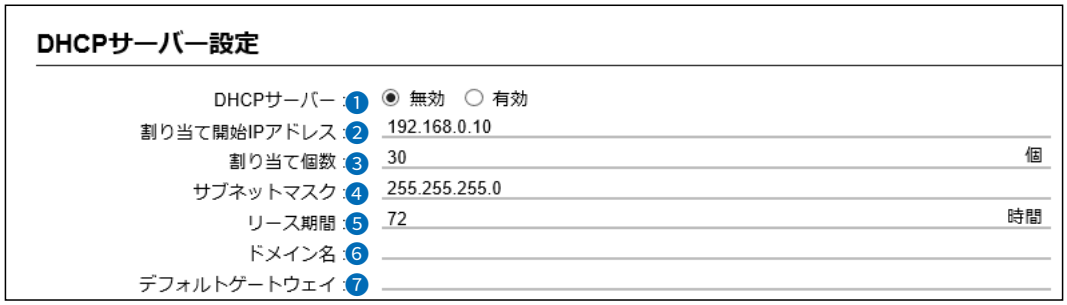
[IPアドレス設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「DHCPサーバー」画面

ネットワーク設定 > DHCPサーバー

■ DHCPサーバー設定

本製品のDHCPサーバー機能を設定します。



❶ DHCPサーバー ……

本製品のDHCPサーバー機能を設定します。（初期設定：無効）
「有効」に設定すると、［割り当て開始IPアドレス］（❷）欄と［割り当て個数］（❸）欄に設定された内容にしたがって、DHCPサーバーとして動作します。

❷ 割り当て開始IPアドレス ……

本製品に接続する端末へ、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定します。（初期設定：192.168.0.10）

❸ 割り当て個数 ……

本製品が自動割り当てできるIPアドレスの個数を設定します。
（初期設定：30）
［割り当て開始IPアドレス］（❷）欄に設定されたIPアドレスから連続で自動割り当てできるIPアドレスの最大個数は、「0～128」（個）までです。
※128個を超える分については設定できませんので、手動でクライアントに割り当ててください。
※「0」を設定したときは、自動割り当てをしません。

❹ サブネットマスク ……

［割り当て開始IPアドレス］（❷）欄に設定されたIPアドレスに対するサブネットマスクを設定します。（初期設定：255.255.255.0）

❺ リース期間 ……

DHCPサーバーが割り当てるIPアドレスの有効期間を時間で指定します。
（初期設定：72）
設定できる範囲は、「1～9999」（時間）です。

❻ ドメイン名 ……

指定のドメイン名を設定する必要があるときは、DHCPサーバーが有線で接続する端末に通知するネットワークアドレスのドメイン名を253文字（半角英数字）以内で入力します。

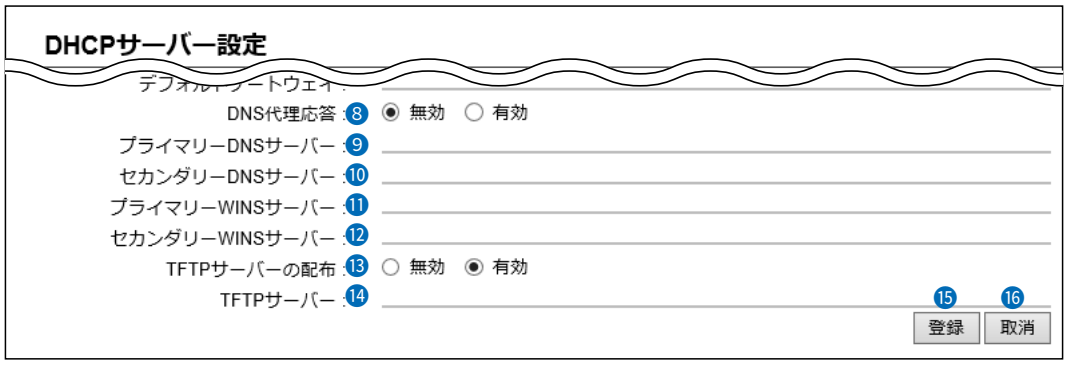
❼ デフォルトゲートウェイ ……

本製品のDHCPサーバー機能を使用するときに、クライアントに通知するデフォルトゲートウェイアドレスを入力します。
※空白にした場合は、本製品のIPアドレスを通知します。

「DHCPサーバー」画面

ネットワーク設定 > DHCPサーバー

■ DHCPサーバー設定



※説明のため、[DNS代理応答](⑧)欄を[無効]に設定したときに表示される画面を使用しています。

⑧ DNS代理応答 ……

本製品のDNS代理応答機能を設定します。（初期設定：有効）
DNS代理応答機能とは、端末からのDNS要求をプロバイダー側のDNSサーバーへ転送する機能です。
「有効」に設定すると、本製品のアドレスをネットワーク上の端末にDNSサーバーとして設定している場合、本製品が接続する先のDNSサーバーのアドレスが変更になったときでも、端末側の設定を変更する必要がありません。

⑨ プライマリーDNSサーバー ……

DNSサーバーを利用する場合は、DNSサーバーアドレスを入力します。
DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したいほうのアドレスを入力します。
※[DNS代理応答](⑧)欄を「有効」に設定している場合は、この欄と[セカンダリーDNSサーバー](⑩)欄は表示されず、本製品がプライマリーDNSサーバーとして通知されます。

⑩ セカンダリーDNSサーバー ……

[プライマリーDNSサーバー](⑨)欄と同様、DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。

⑪ プライマリーWINSサーバー …

本製品のDHCPサーバー機能を利用するときに、クライアントに通知するWINSサーバーアドレスを入力します。
WINSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したいほうのアドレスを入力します。

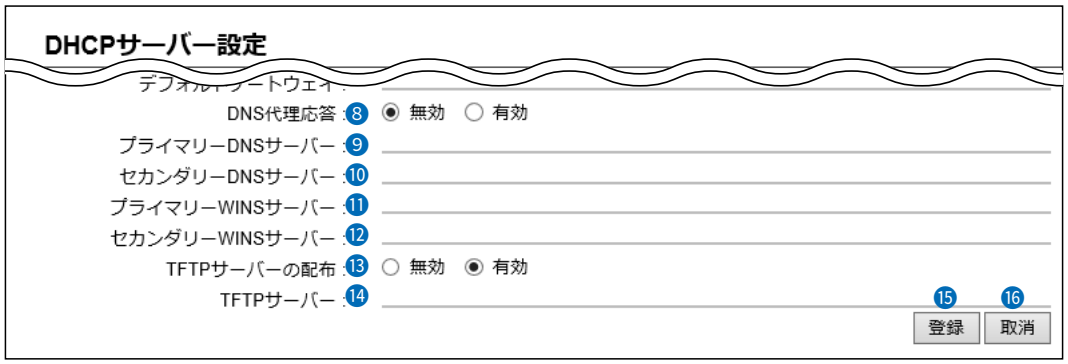
⑫ セカンダリーWINSサーバー …

[プライマリーWINSサーバー](⑪)欄と同様、WINSサーバーのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。

「DHCPサーバー」画面

ネットワーク設定 > DHCPサーバー

■ DHCPサーバー設定



※説明のため、[DNS代理応答](⑧)欄を[無効]に設定したときに表示される画面を使用しています。

⑬ TFTPサーバーの配布……

KXシリーズの電話機を設定(プロビジョニング)するために、本製品のTFTPサーバー機能を設定します。 (初期設定：有効)
「有効」に設定すると、電話機は本製品から設定データを取得して、自動的に設定を反映します。
※ご使用になる電話機ごとに、「内線個別」画面でMACアドレスの登録が必要です。
※電話機は、DHCPサーバーからTFTPサーバー(⑭)のアドレスを取得しますので、固定IPアドレスで運用される場合は、VE-PG4取扱説明書[導入編]の4章をご覧ください。

⑭ TFTPサーバー……

KXシリーズの電話機が設定(プロビジョニング)を取得するために、接続するTFTPサーバーのアドレスを入力します。 (初期設定：空白)
※空白の場合は、本製品のIPアドレス(P.3-3)を通知します。

⑮〈登録〉……

[DHCPサーバー設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

⑯〈取消〉……

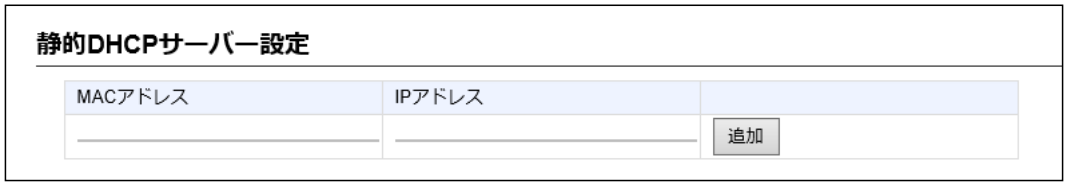
[DHCPサーバー設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「DHCPサーバー」画面

ネットワーク設定 > DHCPサーバー

■ 静的DHCPサーバー設定

固定IPアドレスを特定の端末に割り当てる設定です。



端末のMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを登録します。
※本製品のDHCPサーバー機能を使用する場合に有効です。(P.3-4)
※入力後は、〈追加〉をクリックしてください。
※最大32個の組み合わせまで登録できます。
※DHCPサーバー機能により自動で割り当てられるIPアドレスの範囲外でIPアドレスを設定してください。
例：[DHCPサーバー設定]項目(P.3-4)で、[割り当て開始IPアドレス]欄と[割り当て個数]欄が初期値の場合は、192.168.0.40以降のIPアドレスを設定してください。
※本製品のIPアドレスと重複しないように設定してください。

ネットワーク設定 > DHCPサーバー

■ 静的DHCPサーバー設定一覧

[静的DHCPサーバー設定]項目で登録した内容が表示されます。

※画面の値は、登録例です。

〈削除〉…… 登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

「スタティックルーティング」画面

ネットワーク設定 > スタティックルーティング

■ IP経路情報

パケットの送信において、そのパケットをどのルーター、またはどの端末に配送すべきかの情報が表示されます。
※この項目では、現在有効な経路だけが表示されます。

IP経路情報

宛先 ❶	サブネットマスク ❷	ゲートウェイ ❸	経路 ❹
192.168.0.0	255.255.255.0		br-lan
192.168.10.0	255.255.255.0	192.168.0.254	br-lan

❶ **宛先** ……　ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスが表示されます。

❷ **サブネットマスク** ……　宛先IPアドレスに対するサブネットマスクが表示されます。

❸ **ゲートウェイ** ……　宛先IPアドレスに対するゲートウェイが表示されます。

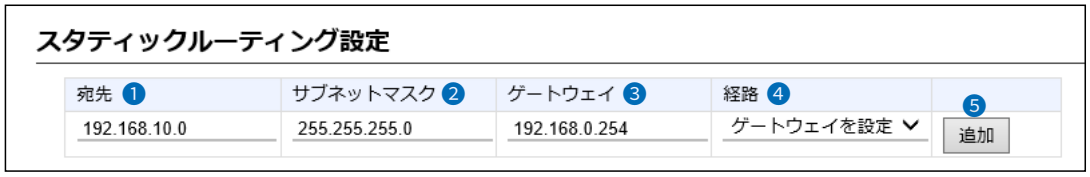
❹ **経路** ……　宛先IPアドレスに対する転送先インターフェースが表示されます。
◎**br-lan**　：インターフェースがLANの場合
◎**eth0**　：インターフェースがWAN側の場合
◎**ppp0～ppp7**：インターフェースがWAN側PPPoEの場合
◎**vti0～vti31**：インターフェースがIPsecの場合

「スタティックルーティング」画面

ネットワーク設定 > スタティックルーティング

■ スタティックルーティング設定

パケットの中継経路を最大32件まで登録できます。



❶ **宛先** …… 対象となる相手先のIPアドレスを入力します。

❷ **サブネットマスク** …… 対象となる宛先のIPアドレスに対するサブネットマスクを入力します。

❸ **ゲートウェイ** …… パケット転送先ルーターのIPアドレスを入力します。

❹ **経路** …… 宛先IPアドレスに対する転送先インターフェースを、「ゲートウェイを選択」、「ppp0(WAN01)～ppp7(WAN08)」、「vti0～vti31」から選択します。

❺ **〈追加〉** …… クリックすると、入力内容が登録されます。
[スタティックルーティング設定一覧]項目で登録した内容を確認できます。

ネットワーク設定 > スタティックルーティング

■ スタティックルーティング設定一覧

[スタティックルーティング設定]項目で登録した内容が表示されます。
※画面の値は、入力例です。

❶ **〈編集〉** …… 登録した内容を編集するときは、該当する欄の〈編集〉をクリックします。

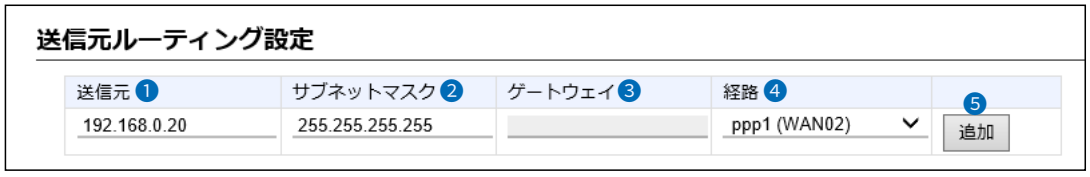
❷ **〈削除〉** …… 登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

「ポリシールーティング」画面

ネットワーク設定 > ポリシールーティング

■ 送信元ルーティング設定

送信元の端末(パソコンなど)を特定して、パケットの中継経路を最大32件まで登録できます。



❶ **送信元** …… 送信元のIPアドレスを入力します。

❷ **サブネットマスク** …… 対象となる送信元のIPアドレスに対するサブネットマスクを入力します。

❸ **ゲートウェイ** …… [経路](❹)で「ゲートウェイを設定」を選択した場合に、パケット転送先ルーターのIPアドレスを入力します。

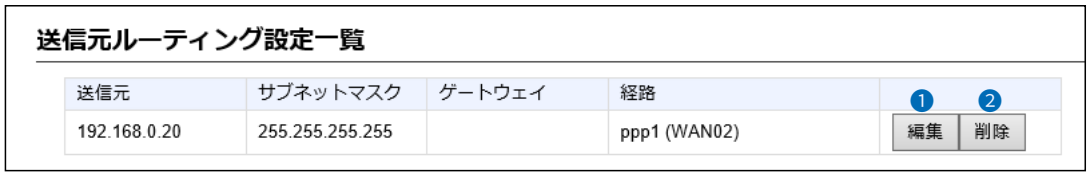
❹ **経路** …… 対象となる送信元IPアドレスから送られてきたパケットの転送先インターフェースを、「ゲートウェイを設定」、「ppp0(WAN01)～ppp7(WAN08)」、「vti0～vti31」から選択します。

❺ **〈追加〉** …… クリックすると、入力内容が登録されます。
[送信元ルーティング設定一覧]項目で登録した内容を確認できます。

ネットワーク設定 > ポリシールーティング

■ 送信元ルーティング設定一覧

[送信元ルーティング設定]項目で登録した内容が表示されます。
※画面の値は、入力例です。



❶ **〈編集〉** …… 登録した内容を編集するときは、該当する欄の〈編集〉をクリックします。

❷ **〈削除〉** …… 登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

ルーター設定

第 4 章

この章では、
「ルーター設定」画面の設定について説明します。

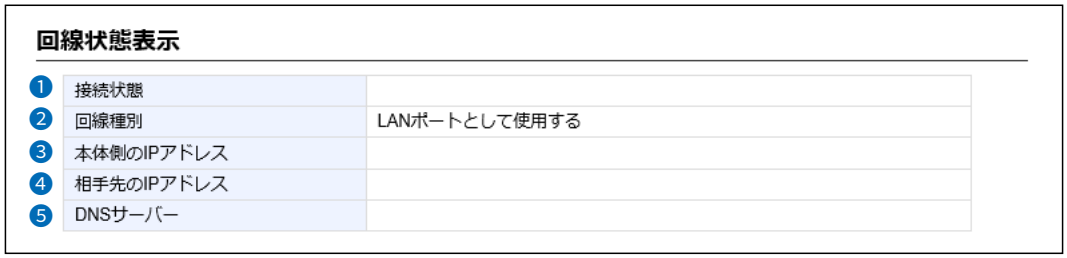
「WAN接続先」画面 …… 4-2
■ 回線状態表示（LANポートとして使用する設定時） …… 4-2
■ 回線状態表示（DHCPクライアント設定時） …… 4-3
■ 回線状態表示（固定IP設定時） …… 4-4
■ 回線状態表示（PPPoE設定時） …… 4-5
■ 回線種別設定 …… 4-6
■ 回線設定（DHCPクライアント設定時） …… 4-7
■ 回線設定（固定IP設定時） …… 4-8
■ 回線設定（PPPoE設定時） …… 4-9
■ 回線設定一覧（PPPoE設定時） …… 4-12
「アドレス変換」画面 …… 4-13
■ アドレス変換設定 …… 4-13
■ DMZホスト設定 …… 4-13
■ 静的マスカレードテーブル設定 …… 4-14
■ 静的マスカレードテーブル設定一覧 …… 4-15
「IPフィルター」画面 …… 4-16
■ 一般設定 …… 4-16
■ IPフィルター設定 …… 4-17
■ IPフィルター設定一覧 …… 4-22
「簡易DNS」画面 …… 4-23
■ 簡易DNSサーバー設定 …… 4-23
■ 簡易DNSサーバー設定一覧 …… 4-23
「VPN」画面 …… 4-24
■ IPsec設定 …… 4-24
■ IPsecトンネル設定 …… 4-25
■ IPsecトンネル設定一覧 …… 4-27

「WAN接続先」画面

ルーター設定 > WAN接続先

■ 回線状態表示（LANポートとして使用する設定時）

登録された回線への接続状態が表示されます。



❶ **接続状態** …… 何も表示されません。

❷ **回線種別** …… 本製品に設定されている回線への接続方式が表示されます。

❸ **本体側のIPアドレス** …… 何も表示されません。

❹ **相手先のIPアドレス** …… 何も表示されません。

❺ **DNSサーバー** …… 何も表示されません。

「WAN接続先」画面

ルーター設定 > WAN接続先

■ 回線状態表示（DHCPクライアント設定時）

登録された回線への接続状態が表示されます。
※下図は、表示例です。

回線状態表示

❶	接続状態	接続中
❷	回線種別	DHCPクライアント
❸	本体側のIPアドレス	[redacted]
❹	相手先のIPアドレス	[redacted]
❺	DNSサーバー	[redacted]

❶ **接続状態** …… WAN側回線への接続状態が「ケーブル未接続」/「接続試行中」/「接続中」で表示されます。

❷ **回線種別** …… 本製品に設定されている回線への接続方式が表示されます。

❸ **本体側のIPアドレス** …… 本製品のWAN側のIPアドレスが表示されます。

❹ **相手先のIPアドレス** …… ご契約の回線接続業者のIPアドレスが表示されます。

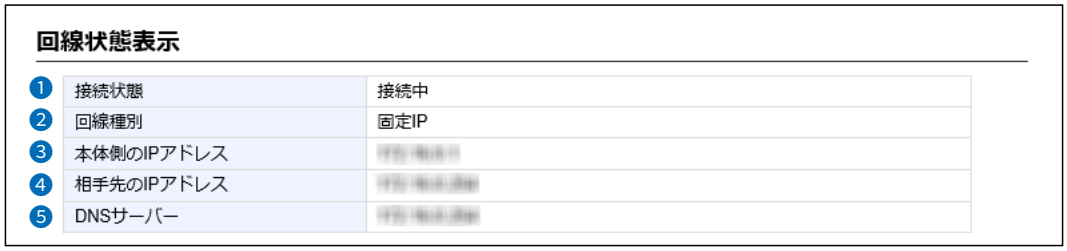
❺ **DNSサーバー** …… ご契約の回線接続業者のDNSサーバーIPアドレスが表示されます。

「WAN接続先」画面

ルーター設定 > WAN接続先

■ 回線状態表示（固定IP設定時）

登録された回線への接続状態が表示されます。
※下図は、表示例です。



❶ **接続状態** …… WAN側回線への接続状態が「未接続」/「ケーブル未接続」/「接続中」で表示されます。

❷ **回線種別** …… 本製品に設定されている回線への接続方式が表示されます。

❸ **本体側のIPアドレス** …… 本製品のWAN側に設定されているIPアドレスが表示されます。

❹ **相手先のIPアドレス** …… ご契約の回線接続業者のIPアドレスが表示されます。

❺ **DNSサーバー** …… ご契約の回線接続業者のDNSサーバーIPアドレスが表示されます。

「WAN接続先」画面

ルーター設定 > WAN接続先

■ 回線状態表示(PPPoE設定時)

登録された回線への接続状態が表示されます。
※登録したPPPoE接続先から、PPPoEセッションを２つまで同時に接続できます。
※第１セッションは本製品のデフォルトゲートウェイに設定されます。
※第２セッションを利用する場合、必要なルーティング設定(スタティックルーティング、ポリシールーティング)を設定する必要があります。
※下図は、表示例です。

回線状態表示

❶	PPPoEセッション	第１セッション	第２セッション
❷	接続先の選択	WAN01 接続	なし 接続
❸	接続状態		
❹	回線種別	PPPoE	PPPoE
❺	本体側のIPアドレス		
❻	相手先のIPアドレス		
❼	DNSサーバー		
❽	接続時間		

❶ PPPoEセッション ……　第１セッション、第２セッションがそれぞれ表示されます。

❷ 接続先の選択 ……　[回線設定]項目(P.4-9)で登録したWAN側回線への接続先から選択します。
※回線接続中は、選択できません。
〈接続〉/〈切断〉
手動で回線を接続、および切断するとき、クリックします。
※〈切断〉は、回線が接続されているとき表示されます。
※接続操作をしても[接続状態](❸)欄に「接続中」と表示されない場合は、登録した設定内容やWAN側の接続ケーブル(リンク状態)をご確認ください。

❸ 接続状態 ……　WAN側回線への接続状態が「未接続」/「ケーブル未接続」/「接続試行中」/「接続中」で表示されます。

❹ 回線種別 ……　本製品に設定されている回線への接続方式が表示されます。

❺ 本体側のIPアドレス ……　本製品のWAN側に設定されているIPアドレスが表示されます。

❻ 相手先のIPアドレス ……　ご契約の回線接続業者のIPアドレスが表示されます。

❼ DNSサーバー ……　ご契約の回線接続業者のDNSサーバーIPアドレスが表示されます。

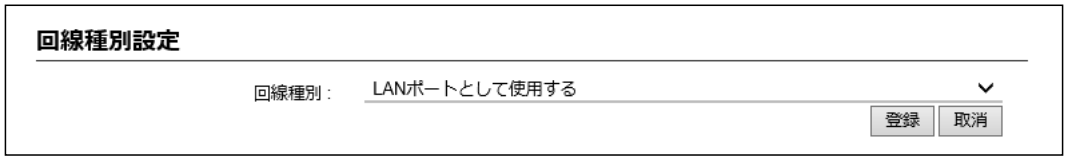
❽ 接続時間 ……　ご契約の回線接続業者に接続してから、この画面にアクセスした時点までの時間が表示されます。

「WAN接続先」画面

ルーター設定 > WAN接続先

■ 回線種別設定

WAN/LANポートの回線種別についての設定です。



回線種別……　ご契約の回線接続業者から指定された回線種別を選択します。
（初期設定：LANポートとして使用する）

LANポートとして使用する
[LAN]ポートに切り替わりますので、HUBやルーターなどのネットワーク機器と接続します。

DHCPクライアント
本製品のWAN側IPアドレスを、ご契約の回線接続業者から「DHCP」方式で取得します。

固定IP
本製品のWAN側IPアドレスを、ご契約の回線接続業者から指定された固定のIPアドレスを割り当てて使用するときに選択します。

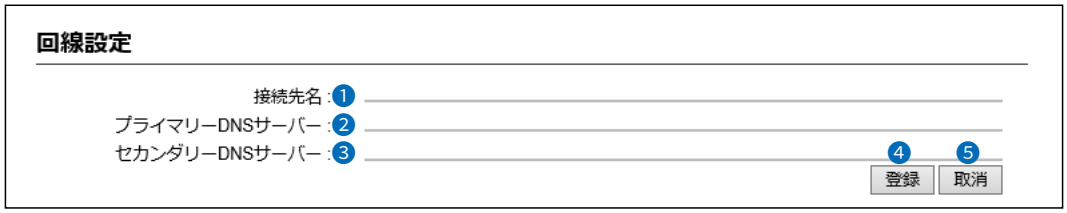
PPPoE
本製品のWAN側IPアドレスを、ご契約の回線接続業者から「PPPoE」方式で取得します。

「WAN接続先」画面

ルーター設定 > WAN接続先

■ 回線設定（DHCPクライアント設定時）

本製品のWAN側について設定します。



❶ 接続先名 …… ご契約の回線接続業者の名前を任意の英数字、半角31（全角31）文字以内で入力します。

❷ プライマリーDNSサーバー …… ご契約の回線接続業者から指定されたDNSサーバーアドレスを入力します。DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したいほうのアドレスを入力します。

❸ セカンダリーDNSサーバー …… [プライマリーDNSサーバー]（❷）欄と同様、DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、DNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。

❹〈登録〉 …… [回線種別設定]項目、[回線設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

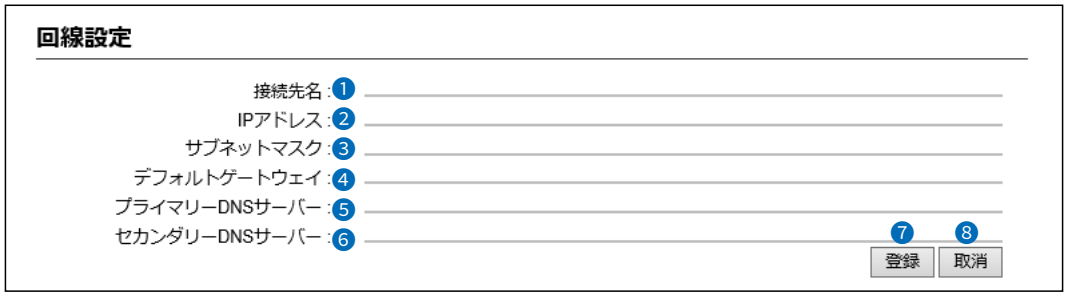
❺〈取消〉 …… [回線種別設定]項目、[回線設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「WAN接続先」画面

ルーター設定 > WAN接続先

■ 回線設定（固定IP設定時）

本製品のWAN側について設定します。



❶ 接続先名 …… ご契約の回線接続業者の名前を任意の英数字、半角31（全角31）文字以内で入力します。

❷ IPアドレス …… ご契約の回線接続業者から指定された本製品のWAN側IPアドレスを入力します。

❸ サブネットマスク …… ご契約の回線接続業者から指定された本製品のWAN側のサブネットマスクを入力します。

❹ デフォルトゲートウェイ …… ご契約の回線接続業者から指定された本製品のデフォルトゲートウェイを入力します。

❺ プライマリーDNSサーバー …… ご契約の回線接続業者から指定されたDNSサーバーアドレスを入力します。DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したいほうのアドレスを入力します。

❻ セカンダリーDNSサーバー …… [プライマリーDNSサーバー]（❺）欄と同様、DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、DNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。

❼〈登録〉 …… [回線種別設定]項目、[回線設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

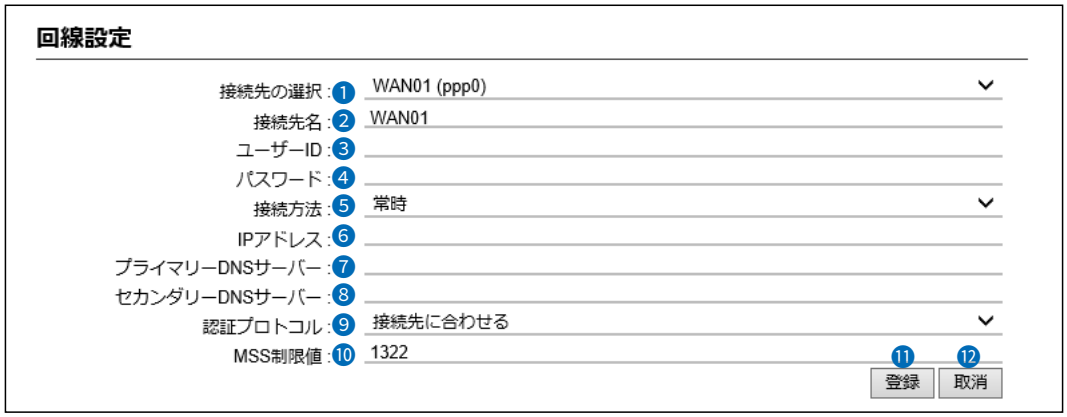
❽〈取消〉 …… [回線種別設定]項目、[回線設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「WAN接続先」画面

ルーター設定 > WAN接続先

■ 回線設定(PPPoE設定時)

本製品のWAN側について設定します。



❶ 接続先の選択 ……

接続先を追加/編集するときは、〈▼〉をクリックして、「WAN01(ppp0)」～「WAN08(ppp7)」(最大8件まで設定可能)から選択します。
(初期設定：WAN01(ppp0))

❷ 接続先名 ……

ご契約の回線接続業者の名前を任意の英数字、半角31(全角31)文字以内で入力します。
※[接続先の選択](❶)欄に設定した接続先名が表示されます。

❸ ユーザーID ……

ご契約の回線接続業者から指定されたログインユーザー名、またはアカウント名を大文字/小文字の表記に注意して入力します。

❹ パスワード ……

ご契約の回線接続業者から指定されたログインパスワードを大文字/小文字の表記に注意して入力します。
入力中の文字は、すべて＊(アスタリスク)、または●(黒丸)で表示されます。

❺ 接続方法 ……

「PPPoE」回線への接続方法を選択します。　(初期設定：常時)

◎手動

[回線状態表示]項目(P.4-5)の〈接続〉/〈切断〉をクリックして、回線を手動で接続、または切断できます。
※本製品を起動したときは、切断された状態です。

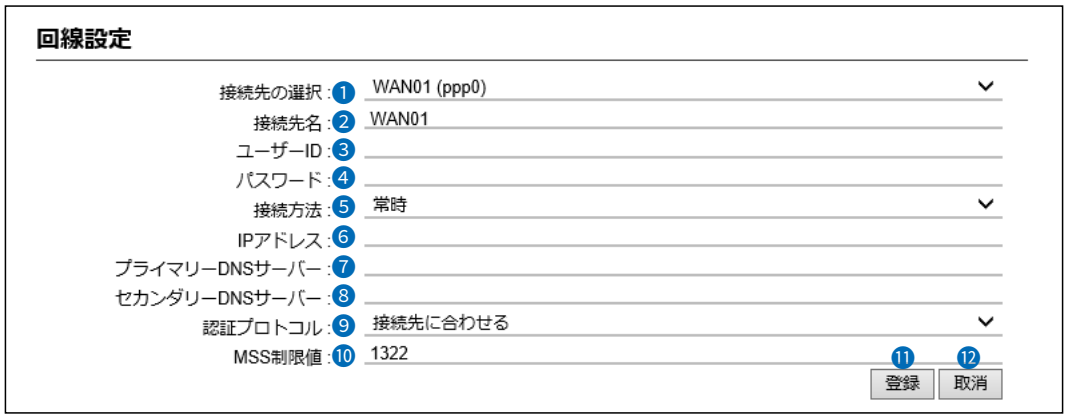
◎常時

常時接続します。
[接続先の選択](❶)欄で指定した接続先と常に接続状態を保持します。
※本製品を起動したときは、接続された状態です。
※[回線状態表示](P.4-5)項目の〈接続〉/〈切断〉をクリックすると、手動で操作できます。

「WAN接続先」画面

ルーター設定 > WAN接続先

■ 回線設定(PPPoE設定時)



❻ IPアドレス …… ご契約の回線接続業者から指定されたときに限り、本製品のWAN側IPアドレスを入力します。

❼ プライマリーDNSサーバー …… ご契約の回線接続業者から指定されたDNSサーバーアドレスを入力します。DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したいほうのアドレスを入力します。

❽ セカンダリーDNSサーバー …… [プライマリーDNSサーバー](❼)欄と同様、DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、DNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。

❾ 認証プロトコル …… ご契約の回線接続業者から指定された、認証プロトコルを設定します。
(初期設定：接続先に合わせる)
指定のない場合は、「接続先に合わせる」でご使用ください。

◎接続先に合わせる
PAP/CHAPを相手先の要求に応じて自動切換します。

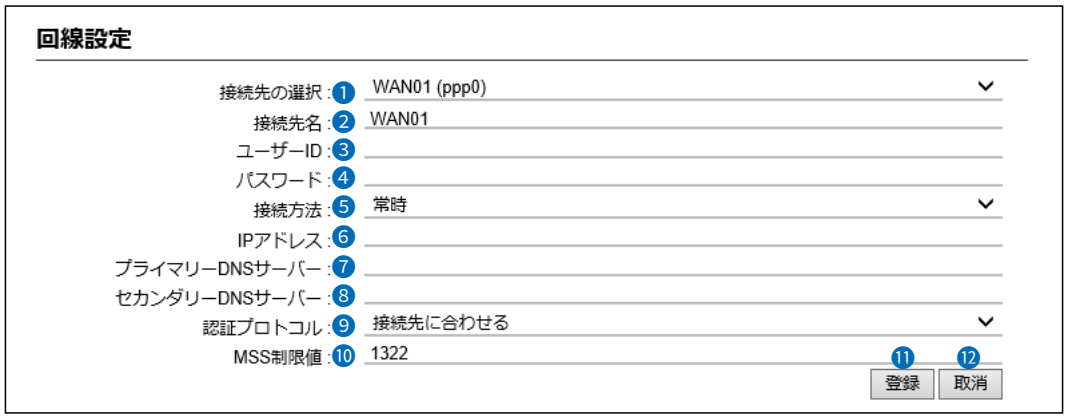
◎PAP
パスワードによってユーザーを識別します。パスワードが暗号化されないなどの弱点があります。

◎CHAP
認証情報のやり取りが暗号化されるため、PAPよりも安全性が高い認証プロトコルです。

「WAN接続先」画面

ルーター設定 > WAN接続先

■ 回線設定(PPPoE設定時)



❿ MSS制限値 ……

ご契約の回線接続業者から指定されている場合に限り、WAN側回線への最大有効データ長を数字で指定します。　（初期設定：1322）
設定できる範囲は、「536～1452(バイト)」です。
MSS値とは、受信できるTCP最大セグメントサイズのことです。一般に、MSS値は、フラグメントが発生しない範囲で大きいほどよいとされています。しかし、[PPPoE]回線のMTUは、通常のEthernetのMTU(1500バイト)より小さいためMSS値が大きくなりすぎると、パケットがインターネット上を通過しないことがありますのでご注意ください。

⓫〈登録〉 ……

[回線種別設定]項目、[回線設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

⓬〈取消〉 ……

[回線種別設定]項目、[回線設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「WAN接続先」画面

ルーター設定 > WAN接続先

■ 回線設定一覧(PPPoE設定時)

[回線設定]項目(P.4-9)で登録した接続先の一覧です。

〈削除〉…… ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。

「アドレス変換」画面

ルーター設定 > アドレス変換

■ アドレス変換設定

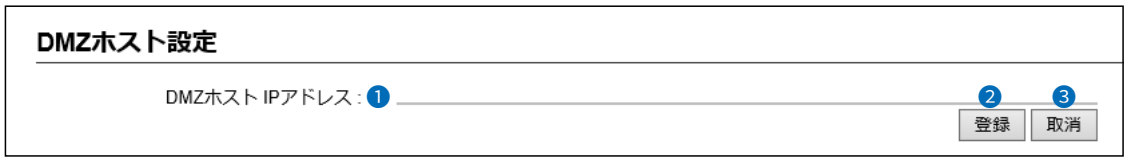
本製品のアドレス変換を設定します。
※回線種別を「LANポートとして使用する」に設定しているときは、動作しません。

アドレス変換…… 本製品のアドレス変換機能を設定します。（初期設定：有効）
「有効」に設定すると、本製品のIPマスカレード機能を使用して、WAN側グローバルアドレスをプライベートアドレスに変換します。

ルーター設定 > アドレス変換

■ DMZホスト設定

本製品のDMZホスト機能を設定します。
※回線種別を「LANポートとして使用する」に設定しているときは、動作しません。



❶ DMZホスト IPアドレス …… DMZホスト機能（非武装セグメント）の対象となるパソコン（ホスト）のIPアドレスを入力します。DMZホスト機能を使用すると、WAN（インターネット）側から発信された転送先不明のIPフレームを、LAN側に存在する特定IPアドレスへ転送できます。
これにより、本製品のLAN側に存在する端末で各種サーバーを運用したり、ネットワーク対戦ゲームをしたりできますが、転送先に設定した端末のIPアドレスに対してセキュリティーが低下しますので、ご使用には十分ご注意ください。
※DMZホスト機能と静的マスカレードテーブルを同時に使用した場合は、静的マスカレードテーブルの設定が優先されます。
※セキュリティーの低下で生じる結果については、弊社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

❷〈登録〉 …… [アドレス変換設定]項目、[DMZホスト設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

❸〈取消〉 …… [アドレス変換設定]項目、[DMZホスト設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「アドレス変換」画面

ルーター設定 > アドレス変換

■ 静的マスカレードテーブル設定

テーブルに追加すると、マスカレードIP(ルーターグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルとポート番号により判定し、ここで指定したプライベートIPアドレスを割り当てたローカル端末へ転送します。

❶ WAN側ポート……

[プロトコル](❹)欄で選択したプロトコルに対するWAN側ポートをポート番号で指定するときは、「指定」を選択し、隣のテキストボックスにポート番号を入力します。ポート番号で指定しない場合は、ニーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、Telent、Web、Whois)から選択します。

❷ LAN側IP……

該当するパケットを転送するLAN側プライベートIPアドレスを入力します。

❸ LAN側ポート……

[プロトコル](❹)欄で選択したプロトコルに対するLAN側ポートをポート番号で指定するときは、「指定」を選択し、隣のテキストボックスにポート番号を入力します。ポート番号で指定しない場合は、ニーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、Telent、Web、Whois)から選択します。

❹ プロトコル……

TCP、UDP、TCP/UDP、GRE、ESPから選択します。

❺〈追加〉……

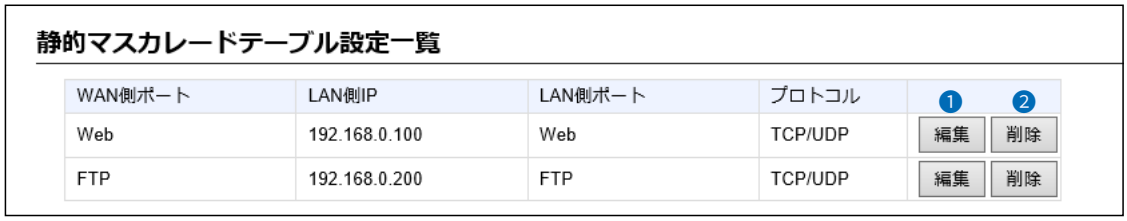
静的マスカレードテーブルを本製品に登録するとき、クリックします。
※最大32個のマスカレードテーブルを登録できます。

「アドレス変換」画面

ルーター設定 > アドレス変換

■ 静的マスカレードテーブル設定一覧

[静的マスカレードテーブル設定]項目で登録した内容が表示されます。



❶〈編集〉 …… 登録した内容を編集するときは、該当する欄の〈編集〉をクリックします。
※登録されている内容は、[静的マスカレードテーブル設定]項目に表示されます。

❷〈削除〉 …… 登録した内容を削除するときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

「IPフィルター」画面

ルーター設定 > IPフィルター

■ 一般設定

登録した条件に該当するパケットの通過と阻止についての設定です。
※回線種別を「LANポートとして使用する」に設定しているときは、動作しません。
※IPフィルターの変更によるセキュリティーの低下で生じる結果については、弊社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

❶ 遮断時の動作 ……　パケットを遮断するときの動作を選択します。（初期設定：破棄）
◎**破棄**：パケットを破棄し、相手に何も返しません。
◎**拒絶**：受け取らないという拒否パケットを相手に返します。

❷ IPフィルター不一致時のSYSLOG ……　WAN側から開始し、どのIPフィルターにも一致しないパケットの場合、遮断します。このとき、ログに記録するかどうかを設定します。
（初期設定：無効）
※大量のログを処理すると、システム処理速度に影響します。

❸〈登録〉 ……　[一般設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

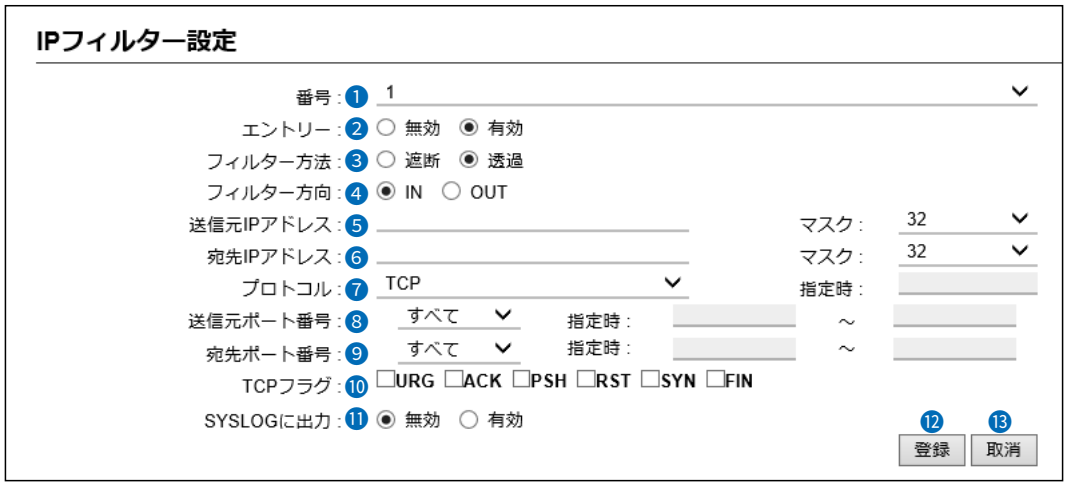
❹〈取消〉 ……　[一般設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「IPフィルター」画面

ルーター設定 > IPフィルター

■ IPフィルター設定

登録した条件に該当するパケットの通過と阻止についての設定です。
※回線種別を「LANポートとして使用する」に設定しているときは、動作しません。
※IPフィルターの変更によるセキュリティーの低下で生じる結果については、弊社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。



※説明のため、[プロトコル](❼)欄を「TCP」に設定したときに表示される画面を使用しています。

❶ 番号 ……

IPフィルターが比較する順位を指定します。
選択できる範囲は、「1」～「64」です。　（初期設定：1）
※[IPフィルター設定一覧]項目に登録されている番号は選択できません。
IPフィルター機能を使用時、本製品が受信、または送信するパケットと[IPフィルター設定一覧]項目の内容を比較します。

❷ エントリー ……

登録するフィルターの使用について設定します。　（初期設定：有効）
登録しても使用しないときは、「無効」を選択します。
「無効」で登録すると、下図のように、[IPフィルター設定一覧]項目の[番号]欄に「(off)」が表示されます。
※番号「1」のフィルターを無効にした例です。

番号	フィルター方法 フィルター方向	プロトコル (TCPフラグ)	送信元IPアドレス (送信元ポート番号) 宛先IPアドレス (宛先ポート番号)	SYSLOGに出力	
1 (off)	透過 IN	すべて	* (*) * (*)	無効	編集 削除

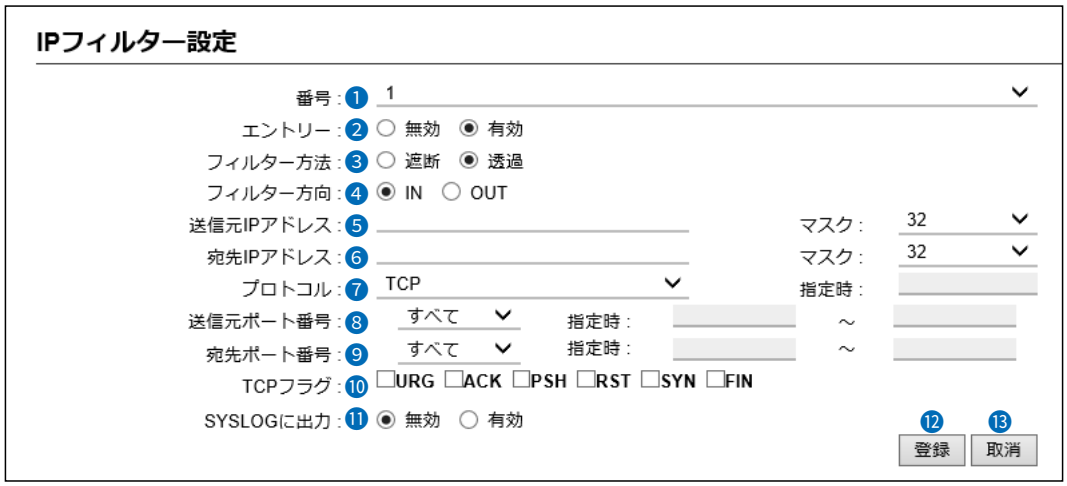
❸ フィルター方法 ……

フィルタリングの方法は、次の2とおりから選択します。　（初期設定：透過）
◎**遮断**：フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて破棄します。
◎**透過**：フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて通過させます。

「IPフィルター」画面

ルーター設定 > IPフィルター

■ IPフィルター設定



※説明のため、[プロトコル](❼)欄を「TCP」に設定したときに表示される画面を使用しています。

❹ フィルター方向 ……

フィルターの対象となるパケットの通信方向を設定します。（初期設定：IN）

◎**IN**　：WAN側から本製品が受信するパケットに対してフィルタリング処理をします。

◎**OUT**　：本製品からWAN側に送信するパケットに対してフィルタリング処理をします。

❺ 送信元IPアドレス ……

送信元ホストのIPアドレス、サブネットマスク(ビット数)を設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリング処理します。
何も設定しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。マスク(ビット数)の選択できる範囲は、「1」～「32」です。

❻ 宛先IPアドレス ……

宛先ホストのIPアドレス、サブネットマスク(ビット数)を設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリング処理します。
何も設定しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
マスク(ビット数)の選択できる範囲は、「1」～「32」です

❼ プロトコル ……

フィルタリングの対象となるパケットのトランスポート層プロトコルを選択する項目です。（初期設定：すべて）

◎**すべて**　：すべてのプロトコルに一致します。

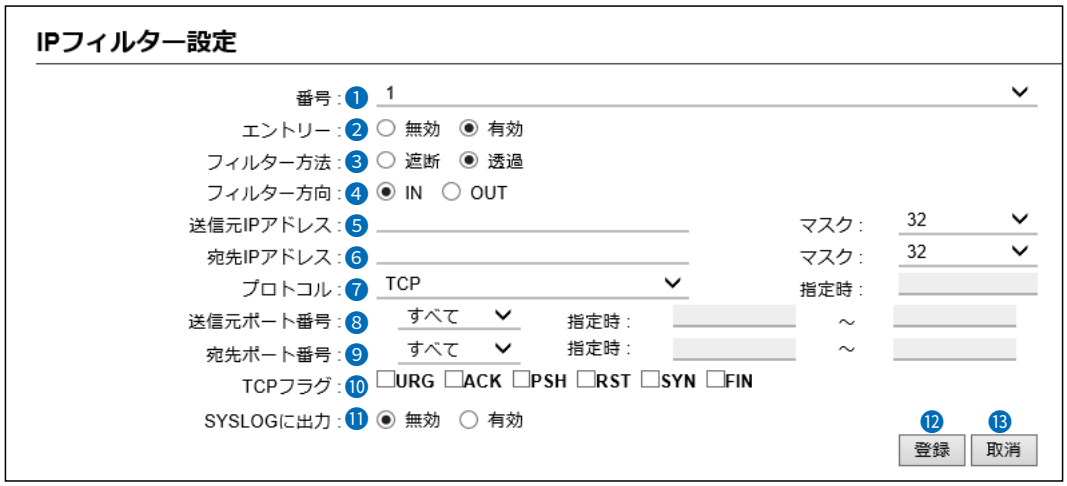
◎**TCP**　：TCPだけに一致します。
「TCP」を選択すると、[送信元 ポート番号](❽)欄、[宛先ポート番号](❾)欄、[TCPフラグ](❿)欄が表示されます。

◎**UDP**　：UDPだけに一致します。
「UDP」を選択すると、[送信元ポート番号](❽)欄、[宛先ポート番号](❾)欄が表示されます。

「IPフィルター」画面

ルーター設定 > IPフィルター

■ IPフィルター設定



※説明のため、[プロトコル](❼)欄を「TCP」に設定したときに表示される画面を使用しています。

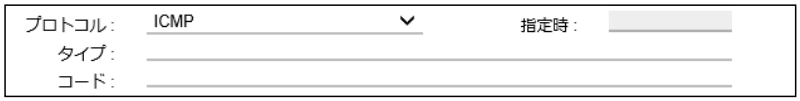
❼ プロトコル(つづき) ……

◎**TCP/UDP**：TCPとUDPに一致します。

「TCP/UDP」を選択すると、[送信元ポート番号](❽)欄、[宛先ポート番号](❾)欄が表示されます。

◎**ICMP**　：ICMPだけに一致します。

「ICMP」を選択すると、[タイプ]欄、[コード]欄(下図)が表示されます。



[タイプ]

フィルタリングの対象となるICMPヘッダー内のタイプを番号(0～255)で指定します。

※指定しないときは、すべてがフィルタリングの対象になります。

[コード]

フィルタリングの対象となるICMPヘッダー内のコードを番号(0～255)で指定します。

※指定しないときは、すべてがフィルタリングの対象になります。

◎**IGMP**　：IGMPだけに一致します。

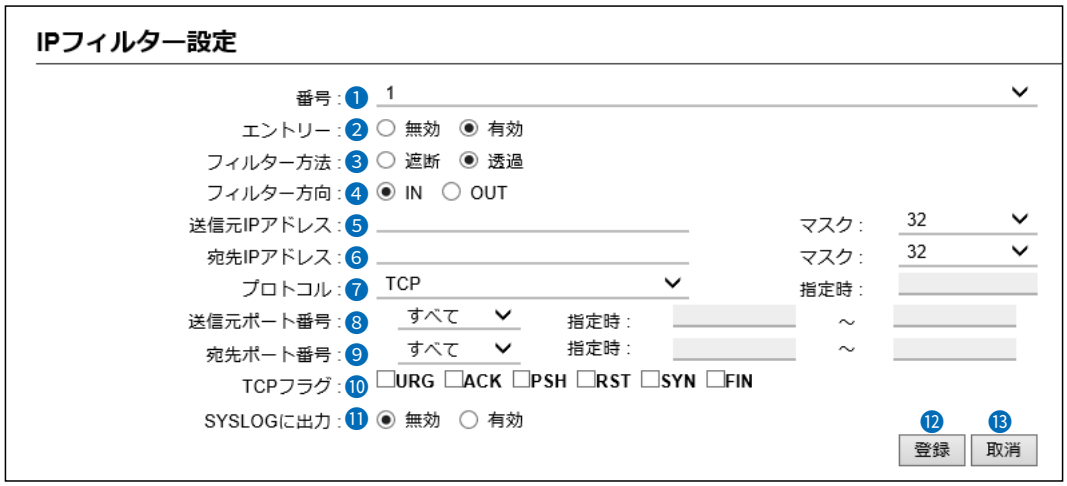
◎**指定**　：右のテキストボックスに、IP層ヘッダーに含まれる上位層プロトコル番号を入力します。

プロトコル番号は、「0～255」までの半角数字を入力します。

「IPフィルター」画面

ルーター設定 > IPフィルター

■ IPフィルター設定



※説明のため、[プロトコル](❼)欄を「TCP」に設定したときに表示される画面を使用しています。

❽ 送信元ポート番号 ……

フィルタリングの対象となる発信元のTCP/UDPポート番号を指定する項目です。（初期設定：すべて）

指定には、2とおりの方法があります。

◎数字で指定するとき

1.「指定」を選択します。

2.[指定時：(始点)～(終点)]欄のテキストボックスに番号を入力します。
特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。
入力できる範囲は、「1～65535」までの半角数字です。

◎ニーモニックで指定するとき

「すべて」、「指定」以外の項目を選択します。
本製品で指定できるニーモニックは、「DNS」、「Finger」、「FTP」、「Gopher」、「NEWS」、「POP3」、「SMTP」、「Telnet」、「Web」、「Whois」です。
※「すべて」を選択した場合は、すべてのポート番号を対象とします。

❾ 宛先ポート番号 ……

フィルタリングの対象となる発信元のTCP/UDPポート番号を指定する項目です。（初期設定：すべて）

指定には、2とおりの方法があります。

◎数字で指定するとき

1.「指定」を選択します。

2.[指定時：(始点)～(終点)]欄のテキストボックスに番号を入力します。
特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。
入力できる範囲は、「1～65535」までの半角数字です。

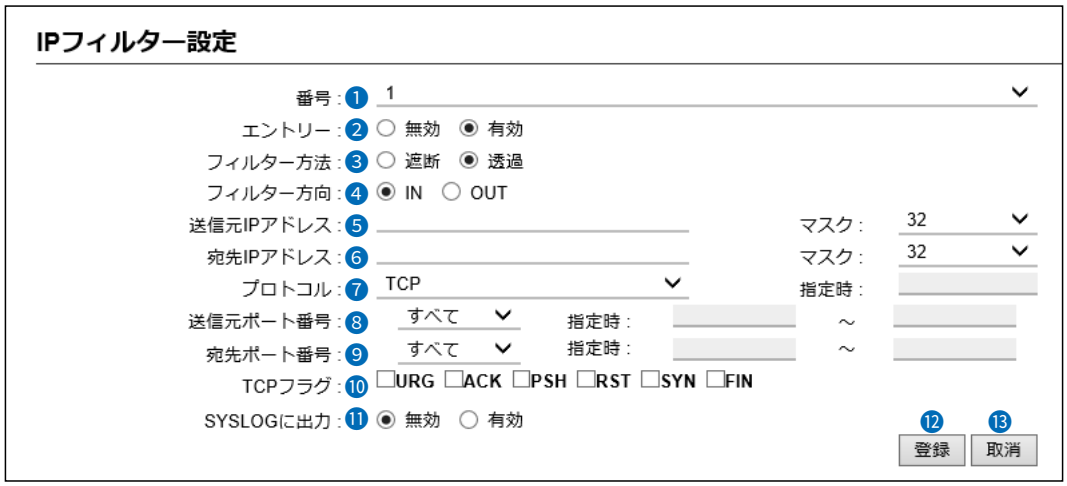
◎ニーモニックで指定するとき

「すべて」、「指定」以外の項目を選択します。
本製品で指定できるニーモニックは、「DNS」、「Finger」、「FTP」、「Gopher」、「NEWS」、「POP3」、「SMTP」、「Telnet」、「Web」、「Whois」です。
※「すべて」を選択した場合は、すべてのポート番号を対象とします。

「IPフィルター」画面

ルーター設定 > IPフィルター

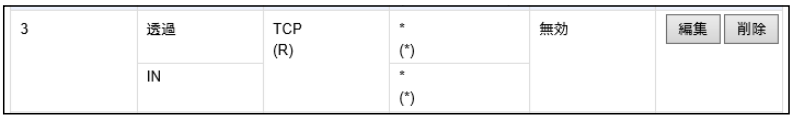
■ IPフィルター設定



※説明のため、[プロトコル](❼)欄を「TCP」に設定したときに表示される画面を使用しています。

❿ TCPフラグ ……

[プロトコル](❼)欄で「TCP」を選択したとき、フィルタリングの対象となるTCPの通信フラグを選択する項目です。 （初期設定：指定なし）
本製品で指定できるTCPフラグは、URG、ACK、PSH、RST、SYN、FINです。
※選択したTCPフラグは、[現在の登録]項目の[プロトコル(TCPフラグ)]欄で、下記の画面のように表示(例：RST)します。



※「指定なし」を選択した場合は、TCPのフラグオプションをフィルターの条件にしません。

⓫ SYSLOGに出力 ……

IPフィルター登録時、このオプションを「有効」に設定すると、フィルタリング処理をしたとき、SYSLOGを出力します。
（IPフィルター新規作成時の初期値：無効）
※SYSLOGが出力されると、「情報表示」メニューの「SYSLOG」画面に表示されます。(P.2-3)
※大量のログを処理すると、システム処理速度に影響します。
動作確認や試験運用以外は、通話品質を確保するため、ご利用をお控えください。

⓬〈登録〉 ……

[IPフィルター設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[IPフィルター設定一覧]項目に表示されます。

⓭〈取消〉 ……

[IPフィルター設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「IPフィルター」画面

ルーター設定 > IPフィルター

■ IPフィルター設定一覧

[IPフィルター設定]項目(P.4-17)から登録した現在の各エントリーの内容が表示されます。

IPフィルター設定一覧

番号	フィルター方法 フィルター方向	プロトコル (TCPフラグ)	送信元IPアドレス (送信元ポート番号) 宛先IPアドレス (宛先ポート番号)	SYSLOGに出力	❶ ❷
59	遮断	TCP/UDP	* (135)	無効	編集 削除
	OUT		* (*)		
60	遮断	TCP/UDP	* (*)	無効	編集 削除
	OUT		* (135)		
61	遮断	TCP/UDP	* (445)	無効	編集 削除
	OUT		* (*)		
62	遮断	TCP/UDP	* (*)	無効	編集 削除
	OUT		* (445)		
63	遮断	TCP (フラグ指定なし)	* (*)	無効	編集 削除
	OUT		* (137-139)		
64	遮断	UDP	* (137-139)	無効	編集 削除
	OUT		* (137-139)		

※画面の内容は、登録例です。

【初期設定で登録されているIPフィルターについて】

◎59 ～64番：Windowsのアプリケーションを外部からリモートコントロールされる危険性、およびファイル共有機能による外部への情報漏えいを防止します。

※「＊」は、各欄で設定できる「すべて」を対象としています。

❶ **〈編集〉** …… ボタンの左側に表示されたIPフィルターを編集するボタンです。
〈編集〉をクリックすると、表示された内容が[IPフィルター設定]項目の各欄に表示されます。

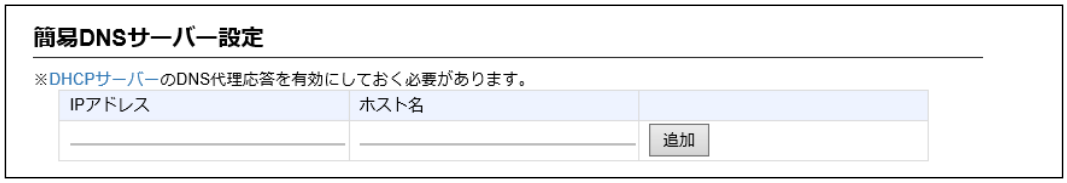
❷ **〈削除〉** …… ボタンの左側に表示されたIPフィルターを削除するボタンです。

「簡易DNS」画面

ルーター設定 > 簡易DNS

■ 簡易DNSサーバー設定

本製品を簡易DNSサーバーとして使用するとき設定します。

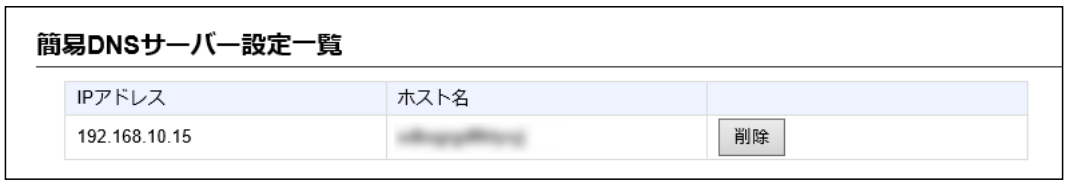


端末のホスト名と対応するIPアドレスの組み合わせを入力して、〈追加〉をクリックします。
登録すると、ドメイン名からIPアドレスを検索するDNS要求と、IPアドレスからドメイン名を検索するDNS逆引き要求に応答します。
※最大32個の組み合わせまで登録できます。
※本製品のDNS代理応答機能を使用する場合に有効です。
※ローカルIPアドレスとそのホスト名を登録するときは、静的DHCPサーバーを利用してMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを固定しておくことをおすすめします。
※ホスト名として「ホスト名.ドメイン名」を登録しておくと、ホスト名のみ一致する場合でも応答します。

ルーター設定 > 簡易DNS

■ 簡易DNSサーバー設定一覧

[簡易DNSサーバー設定]項目で登録した内容が表示されます。



登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

「VPN」画面

ルーター設定 > VPN

■ IPsec設定

IPsecによる仮想プライベートネットワーク(VPN)接続を使用するための設定です。

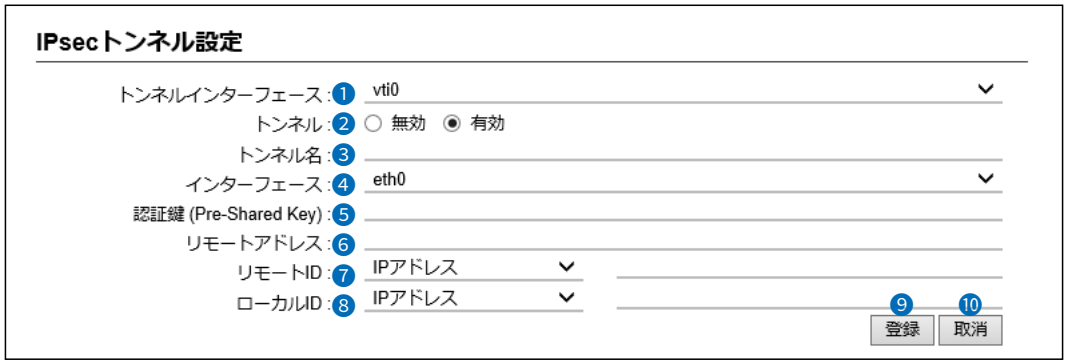
IPsec…… 本製品のIPsec機能を設定します。 (初期設定：無効)
「有効」に設定すると、IPsecトンネルを使用したVPN接続を利用できます。

「VPN」画面

ルーター設定 > VPN

■ IPsecトンネル設定

IPsecによる仮想プライベートネットワーク(VPN)接続を使用するための設定です。



❶ トンネルインターフェース …… IPsecトンネルを登録するインターフェースを指定します。
選択できる範囲は「vti0～vti31」です。

❷ トンネル …… 登録するIPsecトンネルの使用について設定します。 (初期設定：有効)
登録しても使用しないときは、「無効」を選択します。

❸ トンネル名 …… IPsecトンネルを識別する名称を半角31(全角31)文字以内で入力します。

❹ インターフェース …… 接続先と通信するインターフェースを選択します。 (初期設定：eth0)

◎eth0
「WAN接続先」画面(P.4-6)の回線種別を「固定IP」または「DHCPクライアント」に設定しているときに選択します。

◎ppp0(WAN1)～ppp7(WAN8)
「WAN接続先」画面(P.4-6)の回線種別を「PPPoE(WAN1～WAN8)」に設定しているときに選択します。

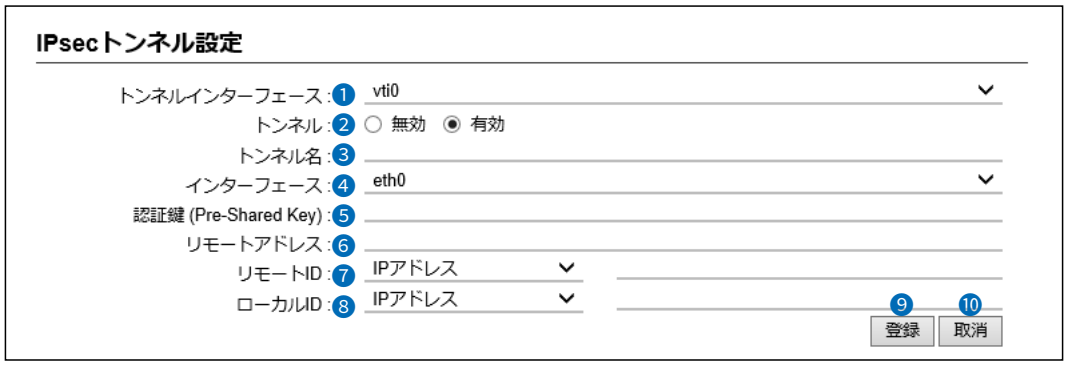
❺ 認証鍵(Pre-Shared Key) …… 接続先との認証に使用します。
接続先の機器と同じ文字列を半角128文字以内の英数字で入力します。

❻ リモートアドレス …… 接続先のWAN側IPアドレス、またはホスト名を入力します。

「VPN」画面

ルーター設定 > VPN

■ IPsecトンネル設定



❼ リモートID ……

接続先の機器を識別するIDを設定します。
IDは、「IPアドレス」、「KEYID」、「FQDN」、「USER-FQDN」からタイプを選択します。（初期設定：IPアドレス）
IPアドレス：IPアドレス形式
KEYID：半角256文字以内の英数字
FQDN：半角253文字以内のドメイン名
USER-FQDN：半角254文字以内のメールアドレス形式
入力例：user@xxxx.yyyy.zzzz

①64文字以内
②「xxxx」、「yyyy」、「zzzz」は、それぞれ63文字以内

❽ ローカルID ……

接続先の機器を識別するIDを設定します。
IDは、「IPアドレス」、「KEYID」、「FQDN」、「USER-FQDN」からタイプを選択します。（初期設定：IPアドレス）
IPアドレス：IPアドレス形式
KEYID：半角256文字以内の英数字
FQDN：半角253文字以内のドメイン名
USER-FQDN：半角254文字以内のメールアドレス形式
入力例：user@xxxx.yyyy.zzzz

①64文字以内
②「xxxx」、「yyyy」、「zzzz」は、それぞれ63文字以内

❾〈登録〉 ……

[IPsecトンネル設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[IPsecトンネル設定一覧]項目に表示されます。

❿〈取消〉 ……

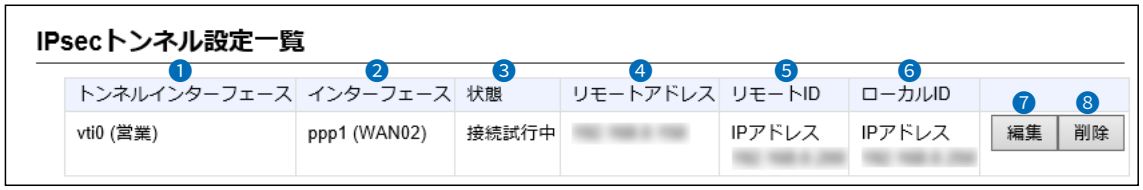
[IPsecトンネル設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「VPN」画面

ルーター設定 > VPN

■ IPsecトンネル設定一覧

[IPsecトンネル設定]項目で登録した内容が表示されます。



❶ トンネルインターフェース ……　インターフェース名(トンネル名)が表示されます。

❷ インターフェース ……　トンネル送信元のインターフェース名が表示されます。

❸ 状態 ……　IPsec接続の状態が表示されます。

◎**接続中**
　IPsecトンネルが接続されている状態です。

◎**接続待機中**
　トンネルの接続先からのIPsec接続試行を待っている状態です。

◎**接続試行中**
　トンネルの接続先に対してIPsec接続試行を実行中です。

◎**IPsec無効**
　IPsec設定のIPsecが無効化されている状態です。

◎**無効**
　IPsecトンネルが無効化されている状態です。

❹ リモートアドレス ……　接続先に設定されている相手先IPアドレス、またはホスト名が表示されます。
設定されていない場合は「ー」が表示されます。
接続中は相手先IPアドレスが表示されます。

❺ リモートID ……　IPsec接続に使用するID(相手側)が表示されます。

❻ ローカルID ……　IPsec接続に使用するID(自分側)が表示されます。

❼〈編集〉 ……　ボタンの左側に表示されたIPsecトンネルを編集するボタンです。
〈編集〉をクリックすると、表示された内容を含むIPsecトンネルの設定が、[IPsecトンネル設定]項目の各欄に表示されます。

❽〈削除〉 ……　ボタンの左側に表示されたIPsecトンネルを削除するボタンです。

ブリッジ接続設定

第 5 章

この章では、
「ブリッジ接続設定」画面の設定について説明します。

「ブリッジ接続」画面 …… 5-2
■ ブリッジ接続設定 …… 5-2
■ ブリッジ接続設定一覧(組み合わせ) …… 5-11
■ ブリッジ接続設定一覧(ブリッジ接続先指定) …… 5-12
■ AMBE+2ボコーダー割当設定 …… 5-13
「ブリッジ個別呼出」画面 …… 5-15
■ ブリッジ個別呼出ルール設定の保存と書き込み …… 5-15
■ ブリッジ個別呼出ルール設定 …… 5-16
■ ブリッジ個別呼出ルール設定一覧 …… 5-17

5 ブリッジ接続設定

「ブリッジ接続」画面

ブリッジ接続設定 > ブリッジ接続

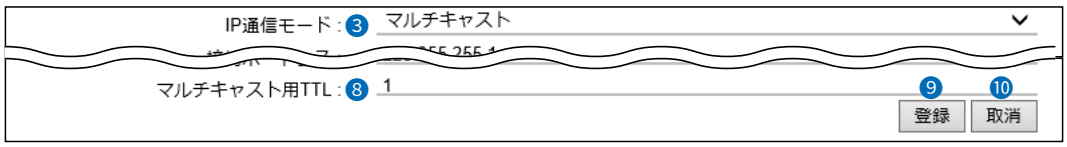
■ ブリッジ接続設定

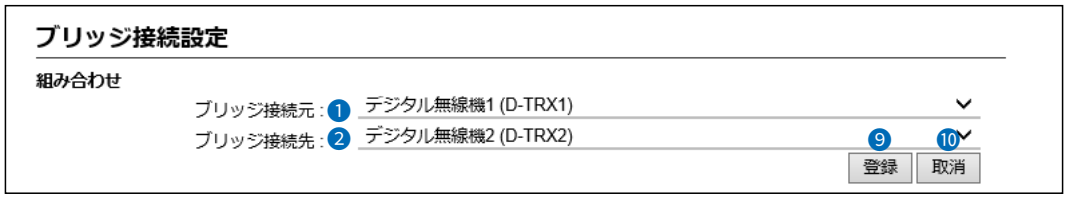
無線機ポートのブリッジ接続の組み合わせを設定します。
※ブリッジ接続設定に割り当てた各ポートは、「呼出先設定」(P.8-6)を利用した通信には利用できません。
※[MIC]ポートにスピーカーマイクロホンを接続すると[EXT1]ポートの音声入出力が切断されます。
[MIC]ポートと[EXT1]ポートの音声入出力を同時に使用することはできませんのでご注意ください。

ユニキャスト設定時

※上図は、[ブリッジ接続先](❷)欄で「ブリッジ接続先指定」を選択したときの画面を使用しています。

マルチキャスト設定時





※上図は、[ブリッジ接続先](❷)欄で「デジタル無線機2(D-TRX2)」を選択したときの画面を使用しています。

❶ ブリッジ接続元 …… 接続に使用するポートを一覧から選択します。

❷ ブリッジ接続先 …… [ブリッジ接続元](❶)欄で指定したポートとブリッジ接続する接続先ポート、または「ブリッジ接続先指定」を選択します。
[ブリッジ接続元](❶)欄で選択したポートにより接続できないポートは表示されません。

5 ブリッジ接続設定

「ブリッジ接続」画面

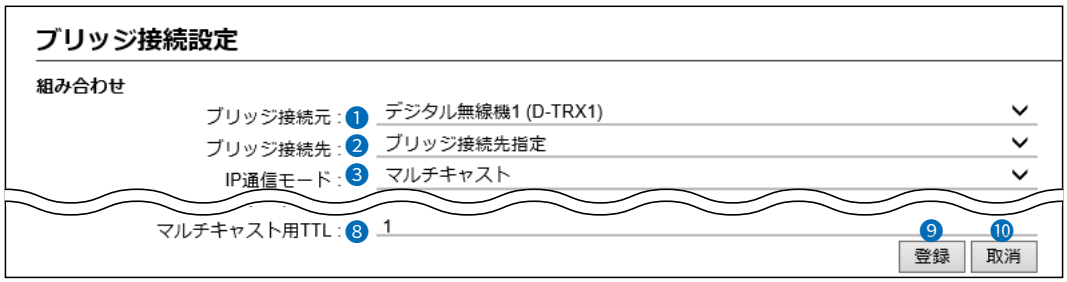
ブリッジ接続設定 > ブリッジ接続

■ ブリッジ接続設定

ユニキャスト設定時

※上図は、[ブリッジ接続先](❷)欄で「ブリッジ接続先指定」を選択したときの画面を使用しています。

マルチキャスト設定時



❸ IP通信モード …… 本製品とブリッジ接続する周辺機器がネットワークで通信するための方式(ユニキャスト、マルチキャスト)を、ブリッジ接続ごとに設定します。

❹ ブリッジ個別呼出 …… 本製品とネットワーク接続する機器をデジタル無線機から個別呼び出しする機能について設定します。 (初期設定:無効)
「有効」に設定すると、「ブリッジ個別呼出」画面の[ブリッジ個別呼出ルール設定一覧]項目(P.5-17)に登録された相手局番号に対するブリッジ個別呼出接続先に接続します。
※個別呼び出し機能を本製品とネットワーク接続するデジタル無線機で使用できます。
※ブリッジ個別呼出はブリッジ接続元とブリッジ接続先でデジタル無線機(1～4)とブリッジ接続先指定を組み合わせたときに表示されます。

5 ブリッジ接続設定

「ブリッジ接続」画面

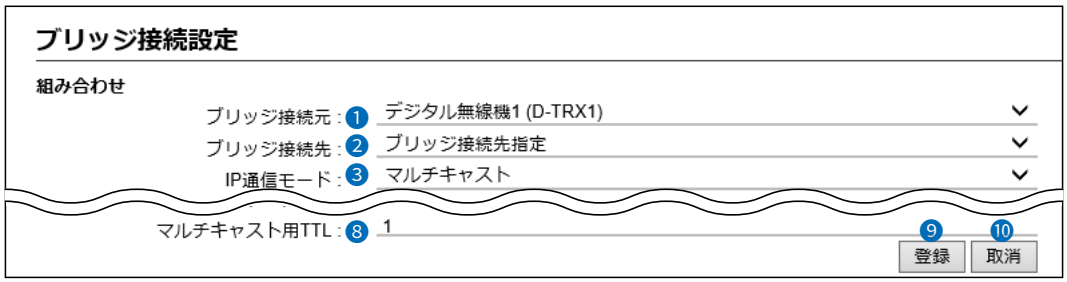
ブリッジ接続設定 > ブリッジ接続

■ ブリッジ接続設定

ユニキャスト設定時

※上図は、[ブリッジ接続先](❷)欄で「ブリッジ接続先指定」を選択したときの画面を使用しています。

マルチキャスト設定時



❺ 接続先アドレス ……

[IP通信モード]項目で設定されたIP通信モードにより、表示される内容が異なります。[IP通信モード]項目は、[ブリッジ接続先]項目を[ブリッジ接続先指定]を選択することで、設定できます。

※[ブリッジ個別呼出](❹)欄で「有効」を選択したときは、接続先アドレスを「ブリッジ個別呼出」画面にある[ブリッジ個別呼出ルール設定]項目で設定しますので、この設定は表示されません。

◎IP通信モードが「ユニキャスト」の場合

通話相手側のIPアドレス、またはドメイン名を半角英数字(63文字以内)で設定します。

◎IP通信モードが「マルチキャスト」の場合

通話相手側の接続先アドレスと同じマルチキャストアドレスを設定します。

※初期設定では「239.255.255.1」が入力されているため、[接続先アドレス]を変更してください。

※設定できる範囲は、「224.0.0.0～239.255.255.255」(クラスD)です。

5 ブリッジ接続設定

「ブリッジ接続」画面

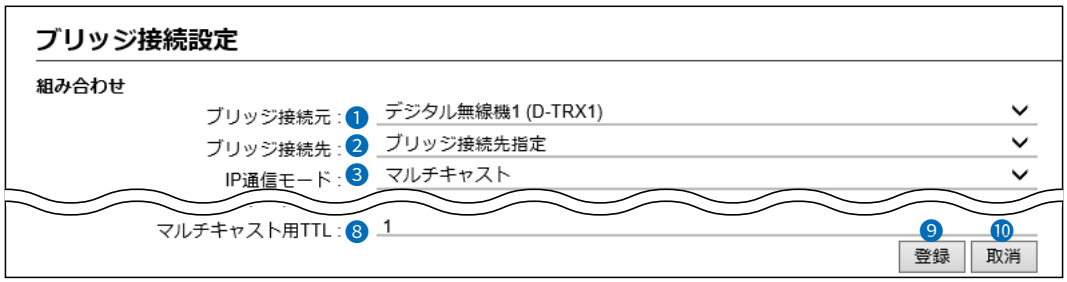
ブリッジ接続設定 > ブリッジ接続

■ ブリッジ接続設定

ユニキャスト設定時

※上図は、[ブリッジ接続先](❷)欄で「ブリッジ接続先指定」を選択したときの画面を使用しています。

マルチキャスト設定時



❻ 接続先ポート番号 ……

通話相手側に設定された[自局ポート番号](❼)欄と同じポート番号を設定します。
※設定できる範囲は、「2～65534」の偶数値だけです。
そのほか、本製品が使用する一部のポートで利用できないものがあります。
※通信には、設定したポート番号(RTP)と設定したポート番号＋1(RTCP)の2つを使用します。
※「ユニキャスト」で使用する場合は、本製品のほかの接続設定の接続先ポート番号と重複しないように設定してください。
※初期設定は、「無線機ポート詳細設定」メニューの「外部入出力(EXT)」画面にある[外部入出力モード設定]項目の設定内容により異なります。
(初期設定：**[IP通信モード]欄の設定が「ユニキャスト」の場合**

選択肢	初期設定	選択肢	初期設定
デジタル無線機 1（D-TRX1）	23000	外部出力 4（EXT4）	23114
デジタル無線機 1（D-TRX1）	23002	緊急通知	23116
デジタル無線機 1（D-TRX1）	23004	マイク（MIC）	23150
デジタル無線機 1（D-TRX1）	23006	RoIP ゲートウェイ 1	24300
外部入力 1（EXT1）/ 外部入出力 1（EXT1）	23100	RoIP ゲートウェイ 2	24302
外部出力 1（EXT1）	23102	RoIP ゲートウェイ 3	24304
外部入力 2（EXT2）/ 外部入出力 2（EXT2）	23104	RoIP ゲートウェイ 4	24306
外部出力 2（EXT2）	23106	RoIP ゲートウェイ 5	24308
外部入力 3（EXT3）/ 外部入出力 3（EXT3）	23108	RoIP ゲートウェイ 6	24310
外部出力（EXT3）	23110	RoIP ゲートウェイ 7	24312
外部入力 4（EXT4）/ 外部入出力 4（EXT4）	23112	RoIP ゲートウェイ 8	24314

5 ブリッジ接続設定

「ブリッジ接続」画面

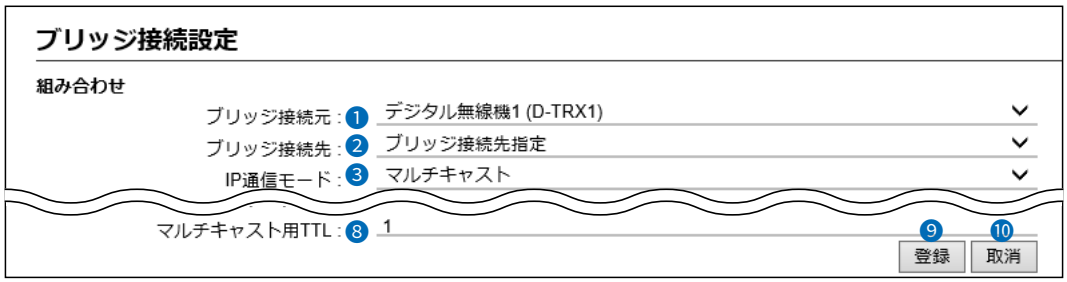
ブリッジ接続設定 > ブリッジ接続

■ ブリッジ接続設定

ユニキャスト設定時

※上図は、[ブリッジ接続先](❷)欄で「ブリッジ接続先指定」を選択したときの画面を使用しています。

マルチキャスト設定時



❻ 接続先ポート番号(つづき) …… **[IP通信モード]欄の設定が「マルチキャスト」の場合**

選択肢	初期設定	選択肢	初期設定
デジタル無線機 1（D-TRX1）	22510	外部出力4(EXT4)	22510
デジタル無線機 1（D-TRX1）	22510	緊急通知	22520
デジタル無線機 1（D-TRX1）	22510	マイク(MIC)	22510
デジタル無線機 1（D-TRX1）	22510	RoIPゲートウェイ1	22530
外部入力 1（EXT1）/ 外部入出力 1（EXT1）	22510	RoIPゲートウェイ2	22530
外部出力 1（EXT1）	22510	RoIPゲートウェイ3	22530
外部入力 2（EXT2）/ 外部入出力 2（EXT2）	22510	RoIPゲートウェイ4	22530
外部出力 2（EXT2）	22510	RoIPゲートウェイ5	22530
外部入力 3（EXT3）/ 外部入出力 3（EXT3）	22510	RoIPゲートウェイ6	22530
外部出力（EXT3）	22510	RoIPゲートウェイ7	22530
外部入力 4（EXT4）/ 外部入出力 4（EXT4）	22510	RoIPゲートウェイ8	22530

5 ブリッジ接続設定

「ブリッジ接続」画面

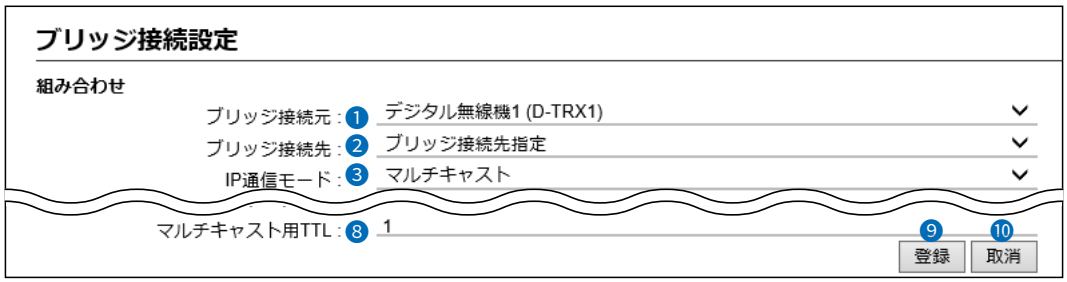
ブリッジ接続設定 > ブリッジ接続

■ ブリッジ接続設定

ユニキャスト設定時

※上図は、[ブリッジ接続先](❷)欄で「ブリッジ接続先指定」を選択したときの画面を使用しています。

マルチキャスト設定時



❼ 自局ポート番号 ……

音声信号を受信するためのポート番号を設定します。
※音声信号の送信元ポート番号としても使用します。
※設定できる範囲は、「1024～65534」の偶数値だけです。
そのほか、本製品が使用する一部のポートで利用できないものがあります。
※通信には、設定したポート番号(RTP)と設定したポート番号＋1(RTCP)の2つを使用します。
※「ユニキャスト」で使用する場合は、本製品のほかの接続設定の自局ポート番号と重複しないように設定してください。
※初期設定は、「無線機ポート詳細設定」メニューの「外部入出力(EXT)」画面にある[外部入出力モード設定]項目の設定内容により異なります。
(初期設定：**[IP通信モード]欄の設定が「ユニキャスト」の場合**

選択肢	初期設定	選択肢	初期設定
デジタル無線機1(D-TRX1)	23000	外部出力4(EXT4)	23114
デジタル無線機1(D-TRX1)	23002	緊急通知	23116
デジタル無線機1(D-TRX1)	23004	マイク(MIC)	23150
デジタル無線機1(D-TRX1)	23006	RoIPゲートウェイ1	24300
外部入力1(EXT1)/外部入出力1(EXT1)	23100	RoIPゲートウェイ2	24302
外部出力1(EXT1)	23102	RoIPゲートウェイ3	24304
外部入力2(EXT2)/外部入出力2(EXT2)	23104	RoIPゲートウェイ4	24306
外部出力2(EXT2)	23106	RoIPゲートウェイ5	24308
外部入力3(EXT3)/外部入出力3(EXT3)	23108	RoIPゲートウェイ6	24310
外部出力(EXT3)	23110	RoIPゲートウェイ7	24312
外部入力4(EXT4)/外部入出力4(EXT4)	23112	RoIPゲートウェイ8	24314

5 ブリッジ接続設定

「ブリッジ接続」画面

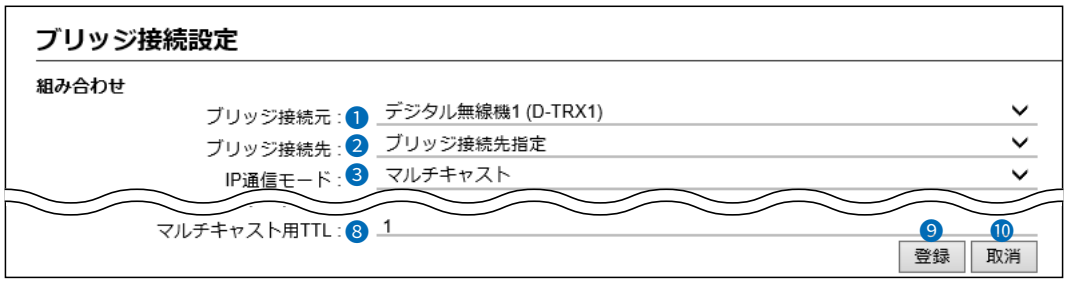
ブリッジ接続設定 > ブリッジ接続

■ ブリッジ接続設定

ユニキャスト設定時

※上図は、[ブリッジ接続先](❷)欄で「ブリッジ接続先指定」を選択したときの画面を使用しています。

マルチキャスト設定時



❼ 自局ポート番号 …… **[IP通信モード]欄の設定が「マルチキャスト」の場合**

選択肢	初期設定	選択肢	初期設定
デジタル無線機1(D-TRX1)	22510	外部出力4(EXT4)	22510
デジタル無線機1(D-TRX1)	22510	緊急通知	22520
デジタル無線機1(D-TRX1)	22510	マイク(MIC)	22510
デジタル無線機1(D-TRX1)	22510	RoIPゲートウェイ1	22530
外部入力1(EXT1)/外部入出力1(EXT1)	22510	RoIPゲートウェイ2	22530
外部出力1(EXT1)	22510	RoIPゲートウェイ3	22530
外部入力2(EXT2)/外部入出力2(EXT2)	22510	RoIPゲートウェイ4	22530
外部出力2(EXT2)	22510	RoIPゲートウェイ5	22530
外部入力3(EXT3)/外部入出力3(EXT3)	22510	RoIPゲートウェイ6	22530
外部出力(EXT3)	22510	RoIPゲートウェイ7	22530
外部入力4(EXT4)/外部入出力4(EXT4)	22510	RoIPゲートウェイ8	22530

5 ブリッジ接続設定

「ブリッジ接続」画面

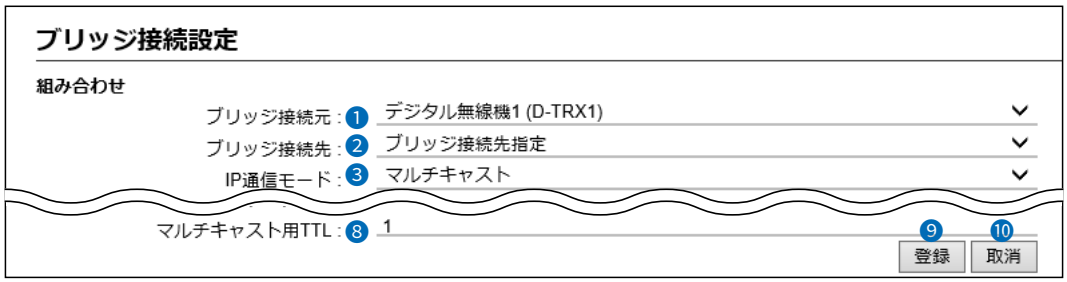
ブリッジ接続設定 > ブリッジ接続

■ ブリッジ接続設定

ユニキャスト設定時

※上図は、[ブリッジ接続先](❷)欄で「ブリッジ接続先指定」を選択したときの画面を使用しています。

マルチキャスト設定時



❽ マルチキャスト用TTL ……

送信した音声パケットの有効期限として、通信先に音声パケットが届くまでに通過するルーターの数を設定します。（初期設定：1）
ルーターを通過するごとに、設定されたTTL値が減少していき、0になると音声パケットは、自動的に消滅しますので、配信範囲を制限できます。
設定できる範囲は、「1～255」です。
※[ブリッジ接続設定]項目のブリッジ接続先を、ブリッジ接続先指定に選択し、[IP通信モード]欄を「マルチキャスト」に設定されているとき、表示されます。

5 ブリッジ接続設定

「ブリッジ接続」画面

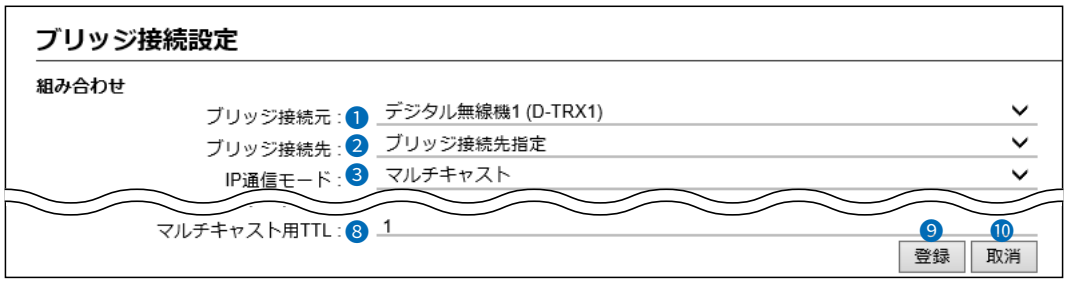
ブリッジ接続設定 > ブリッジ接続

■ ブリッジ接続設定

ユニキャスト設定時

※上図は、[ブリッジ接続先](❷)欄で「ブリッジ接続先指定」を選択したときの画面を使用しています。

マルチキャスト設定時



❾〈登録〉 …… [ブリッジ接続設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、各ポートをブリッジ接続元とブリッジ接続先で組み合わせたときは、ブリッジ接続設定一覧(組み合わせ)に表示されます。
ブリッジ接続先がブリッジ接続先指定で登録したときは、ブリッジ接続設定一覧(ブリッジ接続先指定)に表示されます。

❿〈取消〉 …… [ブリッジ接続設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

5 ブリッジ接続設定

「ブリッジ接続」画面

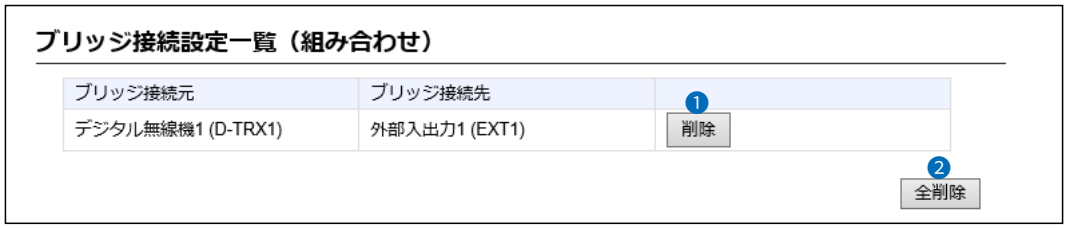
ブリッジ接続設定 > ブリッジ接続

■ ブリッジ接続設定一覧(組み合わせ)

[ブリッジ接続設定]項目で設定された組み合わせが表示されます。

※[ブリッジ接続先]欄(P.5-2)を「ブリッジ接続先指定」に設定した場合は、ブリッジ接続設定一覧(ブリッジ接続先指定)(P.5-12)に表示されます。

※登録されている組み合わせは、接続中です。
組み合わせによっては、AMBE+2ボコーダーの割り当て(P.5-13)が必要です。



❶〈削除〉 …… クリックすると、その行の登録内容を削除します。
※削除すると、元に戻せません。

❷〈全削除〉 …… クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

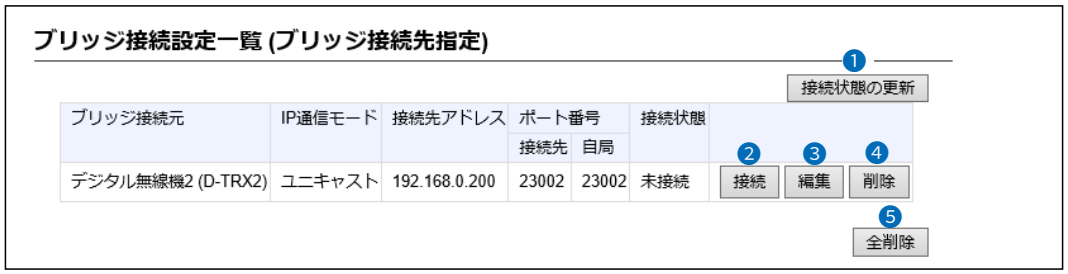
5　ブリッジ接続設定

「ブリッジ接続」画面

ブリッジ接続設定 > ブリッジ接続

■ ブリッジ接続設定一覧(ブリッジ接続先指定)

[ブリッジ接続設定]項目で設定された内容が表示されます。
※[ブリッジ接続先]欄(P.5-2)を「ブリッジ接続先指定」以外に設定した場合はブリッジ接続設定一覧(組み合わせ)(P.5-11)に表示されます。



❶〈接続状態の更新〉 …… クリックすると、ブリッジ接続先設定一覧を最新の接続状態に更新します。

❷〈接続〉 …… クリックすると、その行のブリッジ接続先と本製品のブリッジ接続元を接続します。クリックしたあとは、〈切断〉に変わります。
※接続ボタンがグレーアウトしているときはAMBE+2ボコーダー割当設定の設定が必要です。
※接続中は、設定内容の編集ができません。

❸〈編集〉 …… クリックすると、登録内容を編集できます。
編集内容は、[ブリッジ接続設定]項目に表示されます。

❹〈削除〉 …… クリックすると、その行の登録内容を削除します。
※削除すると、元に戻せません。

❺〈全削除〉 …… クリックすると、すべての登録内容を削除します。
※全削除すると、元に戻せません。

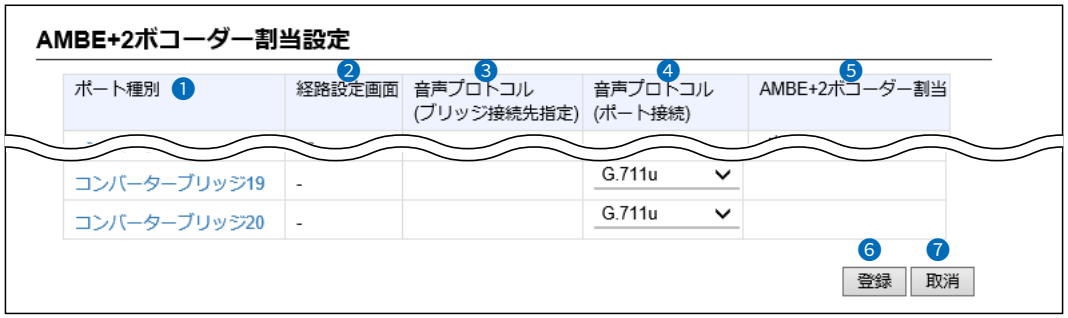
5　ブリッジ接続設定

「ブリッジ接続」画面

ブリッジ接続設定 > ブリッジ接続

■ AMBE+2ボコーダー割当設定

各ポート種別に音声プロトコル、AMBE+2ボコーダーを割り当てます。



❶ ポート種別 ……

本製品の無線機ポートが表示されます。各ポートのリンク先をクリックすると、「無線機ポート詳細設定」メニューの各設定画面へ移動します。
コンバーターブリッジだけ、「PBX詳細設定」メニューの「コンバーターブリッジ設定」画面へ移動します。

❷ 経路設定画面 ……

無線機呼出の呼出先の経路を設定している設定画面が表示されます。
ブリッジ接続で組み合わせとして設定している場合は「ブリッジ接続」、それ以外の場合は「呼出先設定」と表示されます。
「呼出先設定」のリンク先から「呼出先設定」メニューの「呼出先設定」へ移動できます。

❸ 音声プロトコル（ブリッジ接続先指定） ……

ブリッジ通信で設定できます。
通話に使用する音声プロトコルを、「G.711u」、「ブリッジプロトコル」、「AMBE+2」から選択します。
※[ブリッジ接続先]欄(P.5-2)で「ブリッジ接続先指定」を設定した場合に、[音声プロトコル(ブリッジ接続先指定)]欄に選択メニューが表示されます。

❹ 音声プロトコル（ポート接続） ……

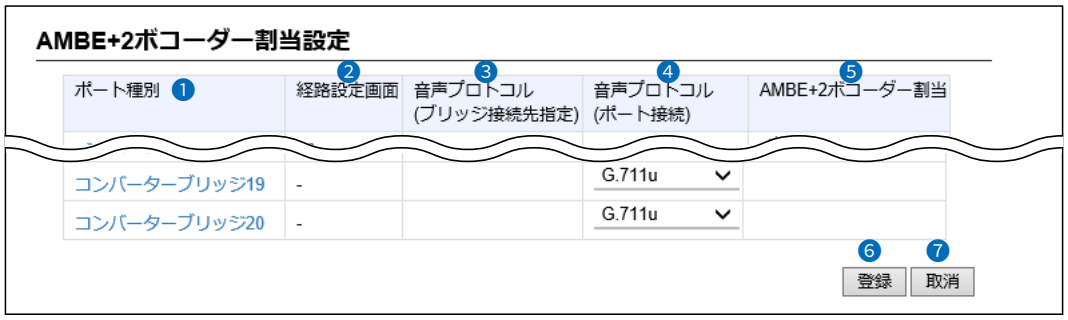
RoIPゲートウェイとコンバーターブリッジで設定できます。通話に使用する音声プロトコルを、「G.711u」、「無線機電話プロトコル」、「ブリッジプロトコル」、「AMBE+2」から選択します。
（初期設定：RoIPゲートウェイ1～RoIPゲートウェイ8→G.711u
コンバーターブリッジ1～コンバーターブリッジ20→G.711u）
「無線機電話プロトコル」はコンバーターブリッジだけ表示されます。
※「AMBE+2」を選択すると、[AMBE+2ボコーダー割当]（❺）欄が設定できます。
※IP1000C、AP-9500との接続には、「無線機電話プロトコル」を選択してください。
※VE-PG4との接続には、「ブリッジプロトコル」を選択してください。

5　ブリッジ接続設定

「ブリッジ接続」画面

ブリッジ接続設定 > ブリッジ接続

■ AMBE+2ボコーダー割当設定



❺ AMBE+2ボコーダー割当……　AMBE+2ボコーダーの設定を「なし」、「内蔵」、「CT-24」から選択します。
（初期設定:デジタル無線機1(D-TRX1)～デジタル無線機4(D-TRX4)→内蔵）
◎**内蔵**　：4つまで設定できます。
◎**CT-24**　：2つまで設定できます。（別売品のCT-24が必要）
※デジタル無線機1(D-TRX1)～デジタル無線機4(D-TRX4)の音声プロトコルはAMBE＋2固定です。
「ブリッジ接続設定」項目(P.5-2)で[ブリッジ接続元]と[ブリッジ接続先]をデジタル無線機にして組み合わせると、[AMBE＋2ボコーダー割当]欄が非表示となります。

❻〈登録〉……　[AMBE+2ボコーダー割当設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[AMBE+2ボコーダー割当設定]項目に表示されます。

❼〈取消〉……　[AMBE+2ボコーダー割当設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「ブリッジ個別呼出」画面

ブリッジ接続設定 > ブリッジ個別呼出

■ ブリッジ個別呼出ルール設定の保存と書き込み

ブリッジ個別呼出ルールをファイルで管理できます。

❶ 保存したファイルを書き込む …

[ファイルに保存する](❸)欄の操作で保存した「ブリッジ個別呼出ルールファイル」(拡張子：csv)の内容を本製品に書き込むときに使用します。
「ブリッジ個別呼出ルールファイル」の保存先を指定するため、〈参照...〉をクリックます。
表示された画面で目的のブリッジ個別呼呼出ルールファイル(例：bridge_route.csv)を選択して、〈開く(O)〉をクリックします。
選択したファイルの参照先が表示されたことを確認して、〈書き込み〉をクリックすると、[ブリッジ個別呼出ルール設定一覧]項目にファイルの内容が表示されます。
書き込む前の内容は消去されますので、ご注意ください。
※あらかじめ書き込んだ「ブリッジ個別呼出ルールファイル」(拡張子：csv)は、「管理」メニューの「設定の保存/復元」画面から設定の復元をすると、設定ファイル(拡張子：sav)の内容に変わりますので、ご注意ください。

❷ 文字コード ……

[ファイルに保存する](❸)欄で保存するファイルの文字コードを「UTF-8」、「Shift_JIS」から選択します。 (初期設定：UTF-8)

❸ ファイルに保存する ……

[ブリッジ個別呼出ルール設定一覧]項目の内容を「ブリッジ個別呼出ルールファイル」として、パソコンに保存します。
〈保存〉をクリックして、表示された画面の〈保存(S)〉をクリックすると、「ブリッジ個別呼出ルールファイル」(拡張子：csv)として保存できます。
※保存したファイルは、テキストエディターなどで編集できます。

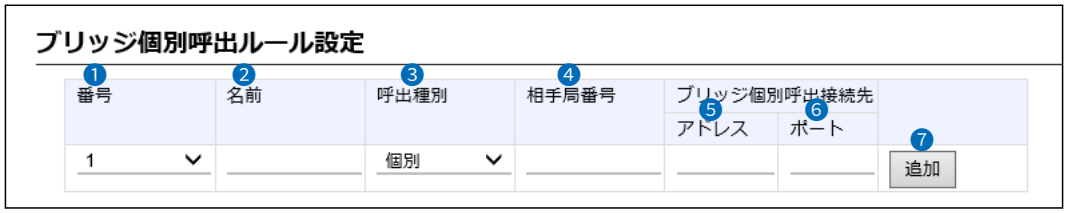
5　ブリッジ接続設定

「ブリッジ個別呼出」画面

ブリッジ接続設定 > ブリッジ個別呼出

■ ブリッジ個別呼出ルール設定

本製品とネットワーク接続するデジタル無線機からブリッジ接続先を個別に呼び出すときのルールを設定します。



❶ **番号** ……　相手局番号を登録する番号を選択します。
最大1000件まで登録できます。

❷ **名前** ……　任意の名前を半角31文字(全角15)以内で入力します。

❸ **呼出種別** ……　呼び出したい端末側無線機の呼出種別を選択します。
◎**個別**　：特定の端末側無線機を仮想で呼び出すとき選択します。
◎**グループ**：特定のグループに所属する端末側無線機を仮想で一斉に呼び出すとき選択します。
◎**全体**　：一斉にすべての端末側無線機を呼び出すとき選択します

❹ **相手局番号** ……　呼び出したい端末側無線機の自局番号(個別番号)、またはグループ番号を4桁で入力します。
設定できる範囲は、「0001～9999」です。

❺ **アドレス** ……　呼び出したい端末側無線機と通信する無線機の接続先に設定されたIPアドレスを入力します。

❻ **ポート** ……　呼び出したい端末側無線機と通信する無線機の接続先に設定されたポート番号を入力します。

❼ **〈追加〉** ……　ブリッジ個別呼出を本製品に登録するとき、クリックします。

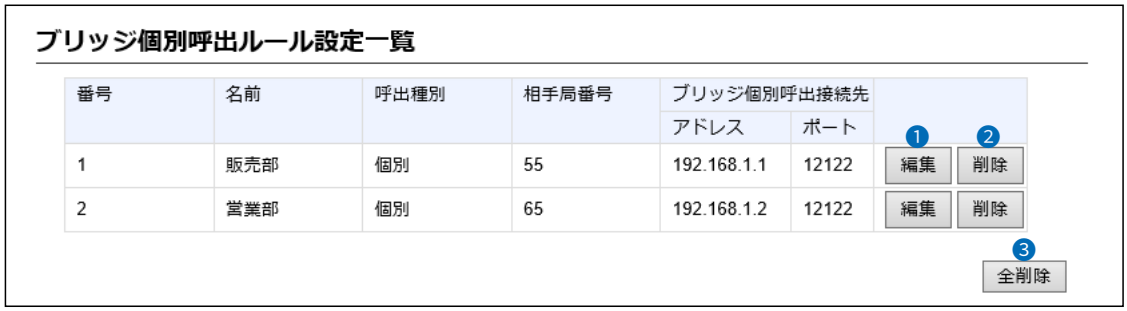
5　ブリッジ接続設定

「ブリッジ個別呼出」画面

ブリッジ接続設定 > ブリッジ個別呼出

■ ブリッジ個別呼出ルール設定一覧

[ブリッジ個別呼出ルール設定]項目で登録された登録の一覧です。



❶〈編集〉 …… クリックすると、登録内容を編集できます。
編集内容は、[ブリッジ個別呼出ルール設定]項目に表示されます。

❷〈削除〉 …… クリックすると、その行の登録内容を削除します。
※削除すると、元に戻せません。

❸〈全削除〉 …… クリックすると、すべての登録内容を削除します。
※全削除すると、元に戻せません。

無線機コントローラー設定

第 6 章

この章では、
「無線機コントローラー設定」画面の設定について説明します。

「RoIP通信設定」画面 …… 6-2
■ 他拠点通信設定 …… 6-2
■ VoIP拡張設定 …… 6-3
「テナント設定」画面 …… 6-6
■ テナント設定 …… 6-6
「RoIPサーバー」画面 …… 6-7
■ 通話優先順位設定 …… 6-7
「他拠点接続」画面 …… 6-8
■ 他拠点接続設定 …… 6-8
■ 他拠点接続設定一覧 …… 6-9
「近隣呼出接続」画面 …… 6-10
■ 近隣呼出接続設定 …… 6-10
■ アクセスポイント検索設定 …… 6-11
■ 近隣呼出接続設定一覧 …… 6-13
「無線機管理」画面 …… 6-14
■ 無線機管理 …… 6-14
「無線機追加」画面 …… 6-16
■ TRX番号設定 …… 6-16
■ TRX番号設定一覧 …… 6-18
■ TRX番号一括設定 …… 6-19
「無線機個別」画面 …… 6-20
■ 無線機個別設定 …… 6-20
■ 無線機個別設定コピー …… 6-52
■ 無線機個別設定一覧 …… 6-52
「無線LAN」画面 …… 6-53
■ 無線LAN設定 …… 6-53
■ 無線LAN設定一覧 …… 6-60
「アドレス帳」画面 …… 6-61
■ アドレス帳グループ設定 …… 6-61
■ アドレス帳グループ詳細設定 …… 6-61
■ アドレス帳設定の保存と書き込み …… 6-62
■ アドレス帳設定 …… 6-64
■ アドレス帳設定一覧 …… 6-66
「メッセージ」画面 …… 6-67
■ メッセージグループ設定 …… 6-67
■ メッセージグループ詳細設定 …… 6-67
■ メッセージ設定の保存と書き込み …… 6-68
■ メッセージ設定 …… 6-70
「プレゼンス」画面 …… 6-71
■ プレゼンス設定 …… 6-71
「設定グループ詳細」画面 …… 6-72
■ 設定グループ設定一覧 …… 6-72
■ 設定グループ設定 …… 6-73
■ 設定グループ一括設定 …… 6-82

6　無線機コントローラー設定

「RoIP通信設定」画面

無線機コントローラー設定 > RoIP通信設定

■ 他拠点通信設定

本製品の他拠点通信機能について設定します。
設定することにより、ほかのコントローラー(他拠点)と接続して、それぞれに登録されたIP100H、IP100FSが通信できるようになります。

❶ 他拠点通信モード ……

複数のコントローラー(他拠点)と接続するときの通信モードを、「サブ」、「マスター」から選択します。　（初期設定：サブ）
グループ呼出や全体呼出のような複数の無線機が、対象となる呼出種別に対して、下記のように設定します。
◎**サブ**　：他拠点接続先は1ヵ所だけ設定できます。
◎**マスター**　：他拠点接続先を10台まで設定できます。

❷ 自局ポート番号 ……

音声信号を受信するためのポート番号を設定します。（初期設定：32000）
※設定できる範囲は、「1024～65534」の偶数値だけです。
　通信には、設定したポート番号(RTP)と設定したポート番号＋1(RTCP)の2つを使用します。
※音声信号の送信元ポート番号としても使用します。
※ほかの機器で使用する自局ポート番号と重複しないように設定してください。

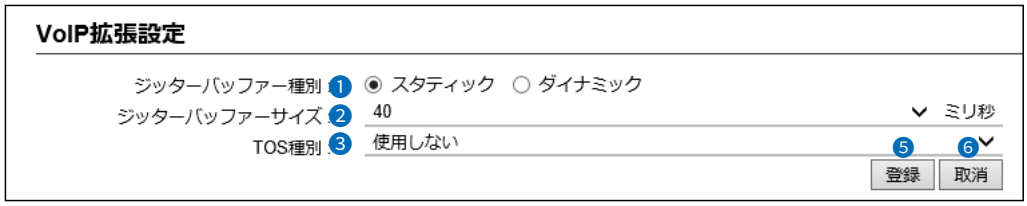
「RoIP通信設定」画面

無線機コントローラー設定 > RoIP通信設定

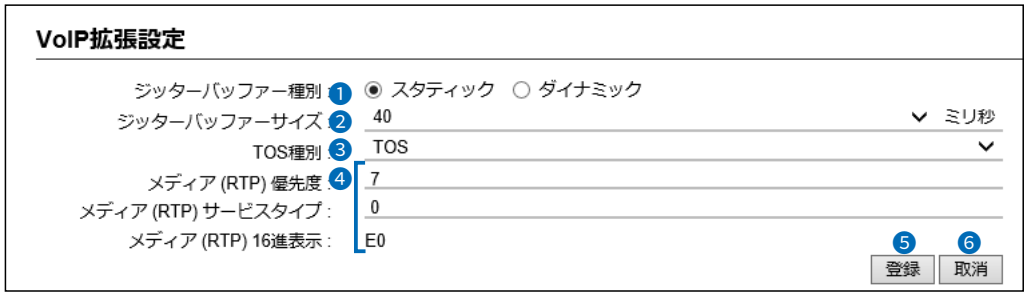
■ VoIP拡張設定

本製品の他拠点接続での通話音質について設定します。
※下記のように、TOS種別の設定ごとに[VoIP拡張設定]項目の内容が変更になります。

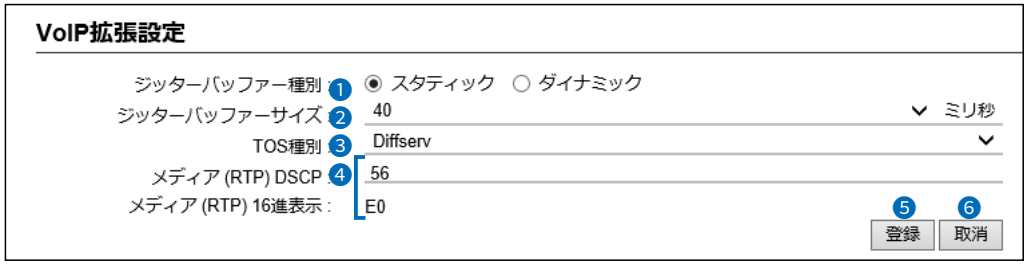
TOS種別：使用しない



TOS種別：TOS



TOS種別：Diffserv



※説明のため、[ジッターバッファー種別](❶)欄を「スタティック」に設定したときに表示される画面を使用しています。

❶ ジッターバッファー種別 ……

パケットの揺らぎによる音声途切れを軽減するために使用するジッターバッファーを、「スタティック」、「ダイナミック」から選択します。
（初期設定：ダイナミック）

◎スタティック
音声を受信したとき、[ジッターバッファーサイズ]欄で設定した時間で音声データを蓄えます。

◎ダイナミック
音声を受信したとき、揺らぎに応じて音声データを蓄える時間が変動します。

❷ ジッターバッファーサイズ ……

音声を受信したとき、音声データを蓄える時間を設定します。（初期設定：40）
設定できる範囲は、「20」(ミリ秒)～「1000」(ミリ秒)です。
設定する時間が短いほど遅延は少なくなりますが、音声が途切れやすくなります。

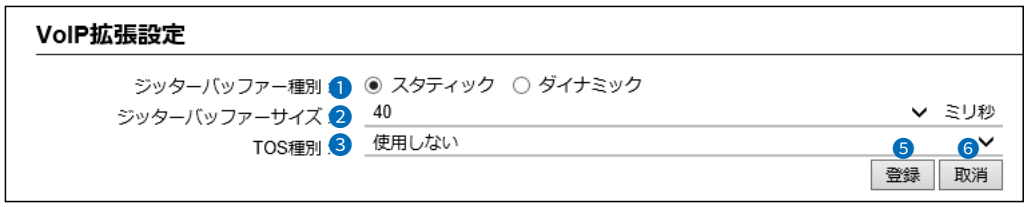
※[ジッターバッファー種別](❶)欄で「ダイナミック」を選択したときは、表示されない項目です。

「RoIP通信設定」画面

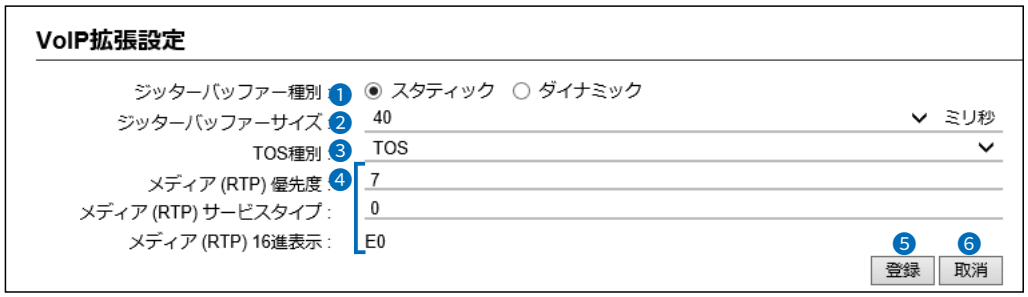
無線機コントローラー設定 > RoIP通信設定

■ VoIP拡張設定

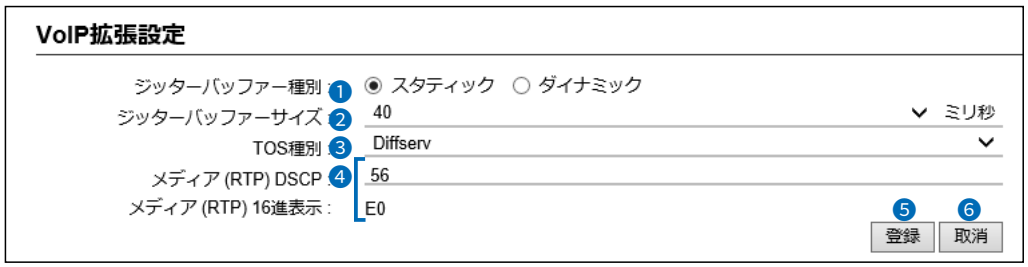
TOS種別：使用しない



TOS種別：TOS



TOS種別：Diffserv



※説明のため、[ジッターバッファー種別](❶)欄を「スタティック」に設定したときに表示される画面を使用しています。

❸ TOS種別 …… 本製品のTOS機能について設定します。 （初期設定：使用しない）

◎使用しない

TOS機能を使用しません。

◎TOS

TOS(Type Of Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。
RFC1349に準拠して、1ビット～3ビットを優先度、4ビット～7ビットをサービスタイプとして、10進数で設定します。
残りの1ビットは、未使用フィールドとして、0に固定されています。
優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎Diffserv

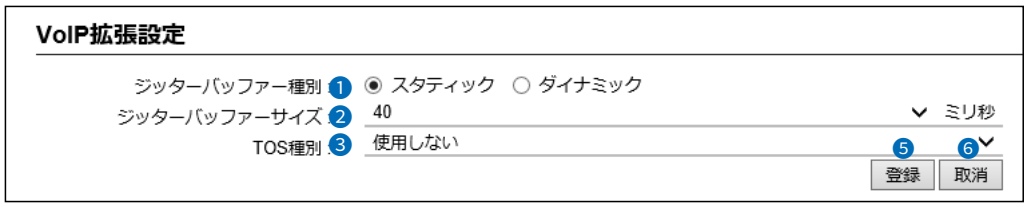
Diffserv(Differentiated Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。
1ビット～6ビットをDSCPとして、10進数で設定します。
残りの2ビットは、未使用フィールドとして、0に固定されています。

「RoIP通信設定」画面

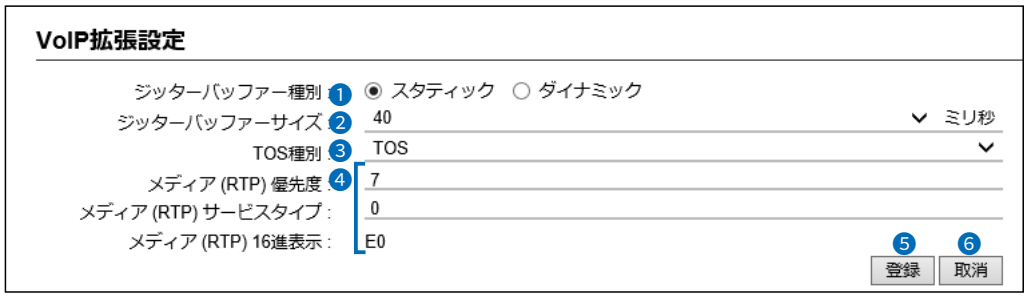
無線機コントローラー設定 > RoIP通信設定

■ VoIP拡張設定

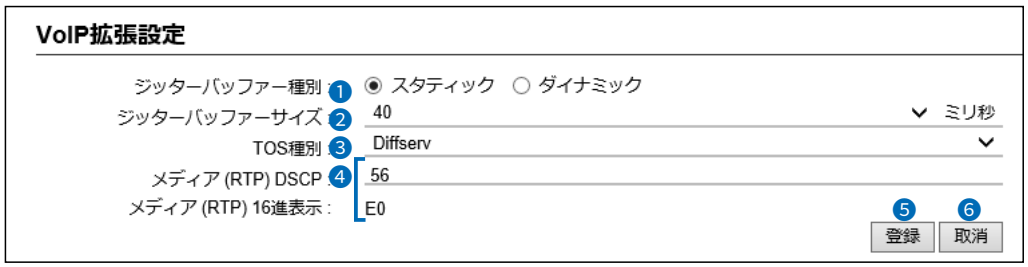
TOS種別：使用しない



TOS種別：TOS



TOS種別：Diffserv



※説明のため、[ジッターバッファー種別](❶)欄を「スタティック」に設定したときに表示される画面を使用しています。

❹ メディア(RTP) ……

TOSフィールド内に出力された音声パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

◎**メディア(RTP)優先度**
TOSの優先度フィールドの値を設定します。
設定できる範囲は、「0～7」(10進数)です。 (初期設定：7)
優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎**メディア(RTP)サービスタイプ**
TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。
設定できる範囲は、「0 ～ 15」(10進数)です。 (初期設定：0)

◎**メディア(RTP)DSCP**
DSCP(Differentiated Services Code Point)の値を設定します。
設定できる範囲は、「0 ～63」(10進数)です。 (初期設定：56)

❺〈登録〉 …… [VoIP拡張設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

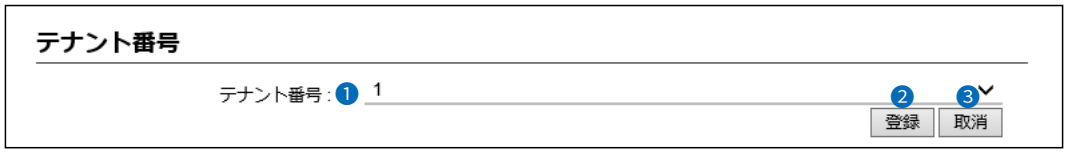
❻〈取消〉 …… [VoIP拡張設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「テナント設定」画面

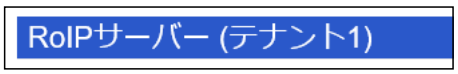
無線機コントローラー設定 > テナント設定

■ テナント設定

本製品に所属するIP100H、IP100FSをシステム上の管理目的で分けるテナント(例：警備会社/管理会社)を設定します。
※異なるテナント間では他拠点通信など周辺機器を含め通信できません。
※本製品で設定できるテナント番号は、1から10の中から1つ選択します。
※収容する無線端末(IP100H/100FS)はすべて1つのテナントで動作します。



❶ テナント番号 …… 運用するテナントの番号を選択します。 (初期設定：1)
※選択したテナント番号は、下記のメニューに反映されます。
◎「RoIPサーバー設定」メニュー
◎「無線機設定」メニュー
◎「設定グループ」メニュー(※「無線LAN」画面以外)
◎「呼出先設定」メニュー



例：[テナント番号](❶)欄を「1」で設定した場合

❷〈登録〉 …… [テナント番号]項目で選択したテナント番号を登録するボタンです。

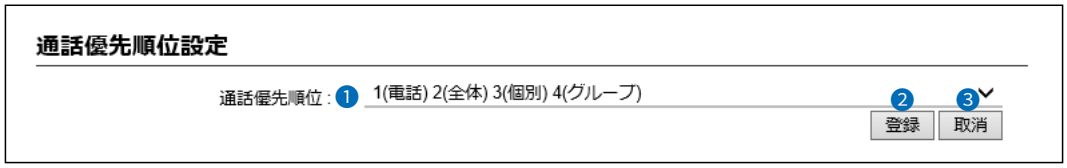
❸〈取消〉 …… [テナント番号]項目のテナント番号を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「RoIPサーバー」画面

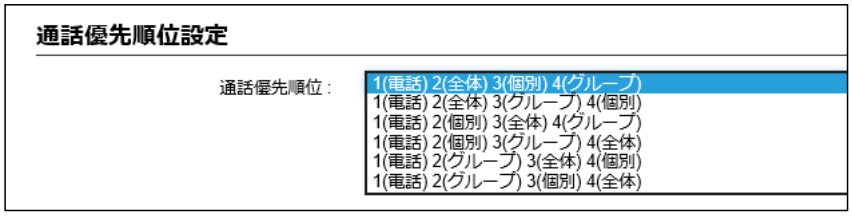
無線機コントローラー設定 > RoIPサーバー設定 > RoIPサーバー

■ 通話優先順位設定

呼出種別の優先順位を設定します。



❶ 通話優先順位 …… 呼出種別の優先順位を変更するときに設定します。
（初期設定：1(電話) 2(全体) 3(個別) 4(グループ)）
※選択できる設定値は、下図をご覧ください。



※呼出種別ごとの優先度は、6-26ページをご覧ください。

❷〈登録〉 …… [通話優先順位設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

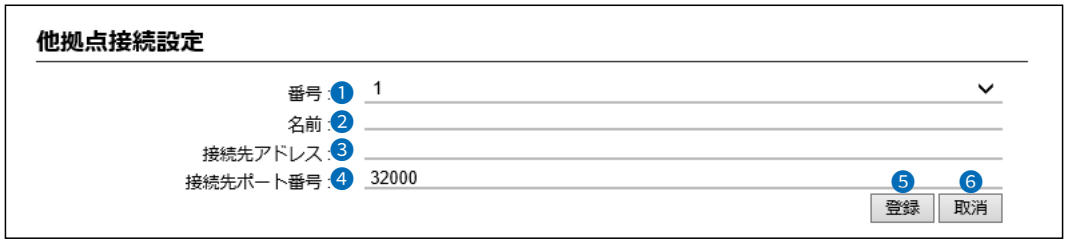
❸〈取消〉 …… [通話優先順位設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「他拠点接続」画面

無線機コントローラー設定 > RoIPサーバー設定 > 他拠点接続

■ 他拠点接続設定

ほかの無線機コントローラーやVE-PG3(ブリッジモード)、VE-PG4と他拠点接続するための設定です。



❶ **番号** ……　他拠点接続する機器を登録する番号を選択します。　(初期設定：1)
最大100件まで登録できます。

❷ **名前** ……　登録する他拠点の名称を任意の半角31文字(全角31文字)以内で入力します。

❸ **接続先アドレス** ……　接続する相手側の機器に設定されたIPアドレス、またはドメイン名を半角英数字(63文字以内)で設定します。

❹ **接続先ポート番号** ……　接続する相手側の機器に設定された[自局ポート番号]欄を設定します。
(初期設定：32000)
※設定できる範囲は、「2～65534」の偶数値だけです。
通信には、設定したポート番号(RTP)と設定したポート番号＋1(RTCP)の2つを使用します。

❺ **〈登録〉** ……　[他拠点接続設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[他拠点設定一覧]項目に表示されます。

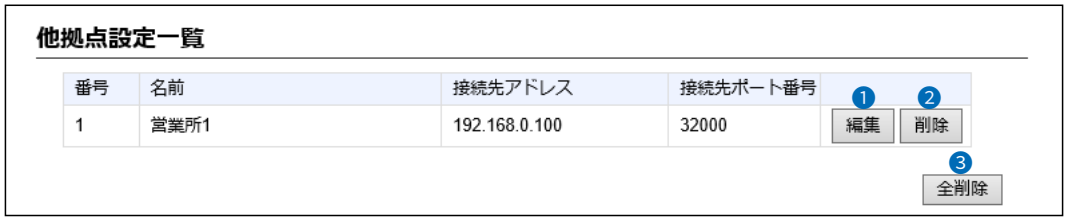
❻ **〈取消〉** ……　[他拠点接続設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「他拠点接続」画面

無線機コントローラー設定 > RoIPサーバー設定 > 他拠点接続

■ 他拠点接続設定一覧

[他拠点接続設定]項目で登録した内容が表示されます。



※画面の値は、設定例です。

❶〈編集〉 …… クリックすると、その行の登録内容を編集できます。
編集内容は、[他拠点接続設定]項目に表示されます。

❷〈削除〉 …… クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。

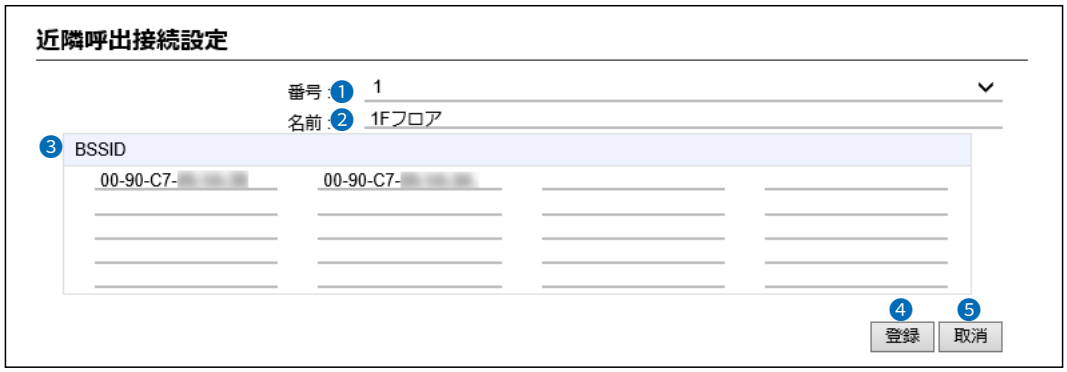
❸〈全削除〉 …… クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

「近隣呼出接続」画面

無線機コントローラー設定 > RoIPサーバー設定 > 近隣呼出接続

■ 近隣呼出接続設定

特定のエリアに限定して運用をするための設定です。
近隣呼出機能を使用してIP100Hが全体/グループ呼び出しをすると、IP100Hが接続している無線アクセスポイントと同一エリア内の無線アクセスポイントに接続しているIP100Hを呼び出します。
※IP100FSから近隣呼出機能を使用する場合は、無線アクセスポイント(エリア)を指定して呼び出します。



※画面の値は、設定例です。

❶ 番号 …… 近隣呼出機能を使用して呼び出すエリアを登録する番号を選択します。
最大20件まで登録できます。 (初期設定：1)

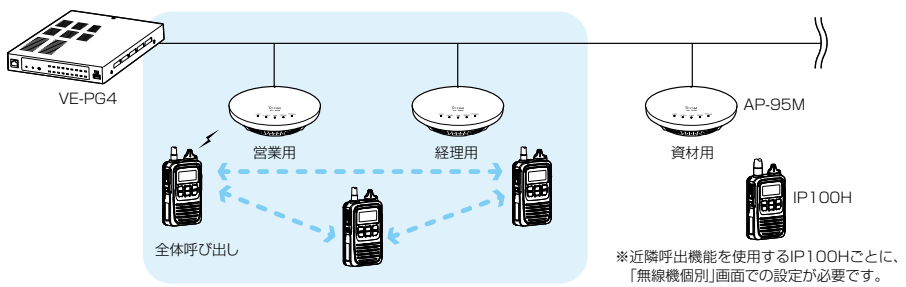
❷ 名前 …… 任意の名称(例：1Fフロア)を、31文字以内で入力します。

❸ BSSID …… 近隣呼出機能を使用して呼び出すエリア内にある無線アクセスポイントの[BSSID]を12桁(16進数)の半角英数字で入力します。
複数のアクセスポイントを登録した場合それらを1つの近隣エリアとして認識します。
※同一エリア内に最大20件まで無線アクセスポイントを登録できます。

❹〈登録〉 …… [近隣呼出接続設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[近隣呼出接続設定一覧]項目に表示されます。

❺〈取消〉 …… [近隣呼出接続設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

【IP100Hから近隣呼出機能で全体呼び出しをした場合】

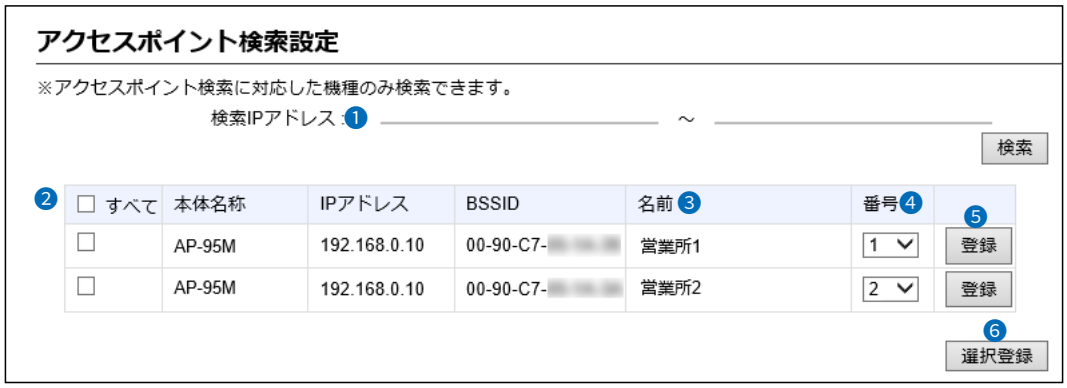


「近隣呼出接続」画面

無線機コントローラー設定 > RoIPサーバー設定 > 近隣呼出接続

■ アクセスポイント検索設定

同一ネットワーク上の無線アクセスポイントを検索して、近隣呼出機能を使用するエリアとして登録できます。
※2019年5月現在、対応する無線アクセスポイントは、AP-90M、AP-95M、AP-90MR、AP-900、AP-9000、SE-900(アクセスポイントモード時)です。



※画面の値は、設定例です。

❶ 検索IPアドレス ……

無線アクセスポイントを検索するIPアドレスの範囲を指定して、〈検索〉をクリックします。
検索を開始すると、ボタンが〈最新状態に更新〉と〈キャンセル〉に変わります。
検索された無線アクセスポイントは、一覧表に表示されます。
※開始IPアドレスだけ入力しても検索できます。
※近隣呼出接続設定一覧で、すでに登録されているBSSIDは表示されません。
※無線アクセスポイントのIP Advanced Radio Systemで本製品と同一のテナント番号の[通知]欄を「有効」に設定して、名前を登録しておくと、アクセスポイント検索で、BSSIDと名前の検索ができます。
本製品と同一のテナント番号の[通知]欄を「無効」に設定すると、VE-PG4から検索できません。

例:AP-95M「無線LAN1 IP Advanced Radio System」画面

❷ 選択ボックス ……

検索された複数の無線アクセスポイントを登録するとき、ボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。

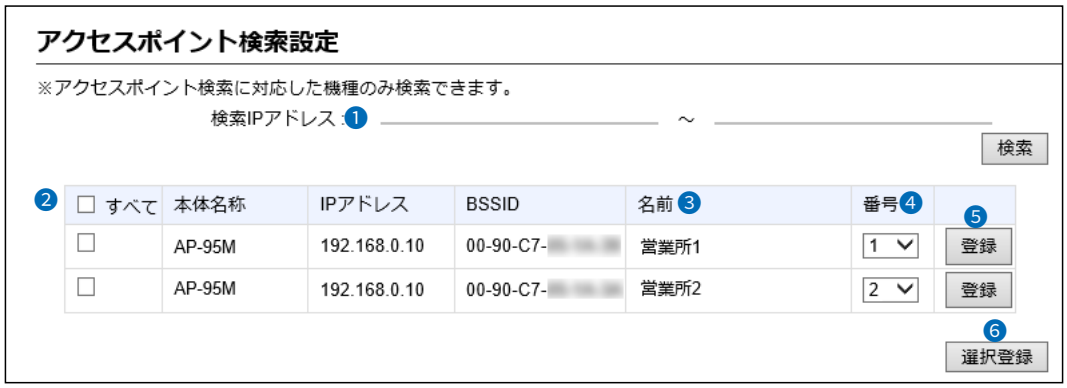
❸ 名前 ……

無線アクセスポイントのIP Advanced Radio System設定にて設定した名前が検索結果に表示されます。

「近隣呼出接続」画面

無線機コントローラー設定 > RoIPサーバー設定 > 近隣呼出接続

■ アクセスポイント検索設定



※画面の値は、設定例です。

❹ 番号 …… 登録するエリアを、[近隣呼出接続設定]項目の[番号]欄から選択します。
すでに登録しているエリア番号を選択した場合は、そのエリア番号にBSSIDが追加されます。
※すでに近隣呼出設定に登録されているエリア番号は選択されません。
※無線アクセスポイント側(IP Advanced Radio System設定)で本製品と同一テナント番号に登録された名前によって、下記のようにエリア番号が選択されます。
- すでに近隣呼出設定に登録されているエリア番号の「名前」が一致する場合、そのエリア番号が選択されます。(一致条件には空白も含まれます)
- すでに近隣呼出設定に登録されているエリア番号の「名前」が一致しない場合は未登録の先頭エリア番号が選択されます。

❺〈登録〉 …… [アクセスポイント検索設定]項目で検索された無線アクセスポイントを登録するボタンです。

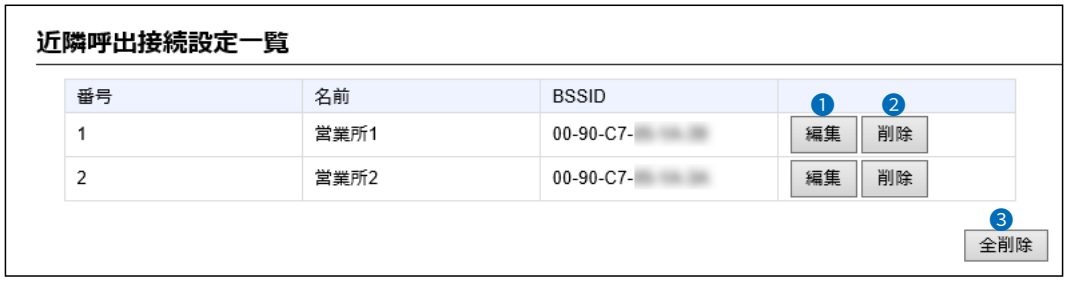
❻〈選択登録〉 …… [選択ボックス](❷)欄で選択した無線アクセスポイントを登録するボタンです。

「近隣呼出接続」画面

無線機コントローラー設定 > RoIPサーバー設定 > 近隣呼出接続

■ 近隣呼出接続設定一覧

[近隣呼出接続設定]項目、または[アクセスポイント検索設定]項目で登録した内容が表示されます。



※画面の値は、設定例です。

❶〈編集〉 …… クリックすると、その行の登録内容を編集できます。
編集内容は、[近隣呼出接続設定]項目に表示されます。

❷〈削除〉 …… クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。

❸〈全削除〉 …… クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

「無線機管理」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機管理

■ 無線機管理

本製品に登録しているIP100H、IP100FSの状態を確認して、必要に応じて、本製品からIP100Hを一斉に再起動できます。

※画面の値は、表示例です。
※設定内容が変更され、再起動が必要な場合、または再起動中は、太字で表示されます。

❶ 選択ボックス ……

再起動させたいIP100Hを複数選択するとき、ボックスにチェックマークを入れます。
※IP100FSや「接続中」と表示されていないIP100Hは選択できません。
※［すべて］欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。

❷ レジスト状態 ……

本製品に登録したIP100H、IP100FSの接続状況について、「未接続」、「接続中」などが表示されます。
※IP100Hの電源が入っていない、IP100FSが起動していないときなど、本製品に接続していない状態では、「未接続」が表示されます。
※「再起動コマンド受信中」、「再起動コマンド受信成功」、「再起動コマンド受信失敗」、「再起動準備中」、「再起動中」、「ファームウェア更新中」、「ファームウェア更新失敗」、「ファームウェアダウンロード中」、「状態通知送信失敗」、「バッテリー不足により失敗」は、「無線機管理」画面でIP100Hの再起動を実行した場合に表示される内容です。

❸ IPアドレス ……

本製品に登録したIP100H、IP100FSが使用しているIPアドレスが表示されます。
※IP100Hの電源が入っていない、IP100FSが起動していないときなど、本製品に接続していない状態では、「—」が表示されます。

❹ プレゼンス ……

本製品に登録したIP100Hから送信されたステータス情報（例：会議中）が表示されます。
※プレゼンス機能が無効の場合は、「—」が表示されます。
※〈レジスト状態の更新〉（❼）をクリックすると、最新のステータス情報が表示されます。
※IP100FSから遠隔ロックされ、IP100Hが送受信できない、または送信できない状態では、「送受信禁止」、または「送信禁止」が表示されます。
※IP100Hが緊急呼び出しをしている状態のときは、「緊急」が表示されます。

6 無線機コントローラー設定

「無線機管理」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機管理

■ 無線機管理

※画面の値は、表示例です。
※設定内容が変更され、再起動が必要な場合、または再起動中は、太字で表示されます。

❺ トークグループ ……

IP100Hが選択しているトークグループ番号が表示されます。
※トークグループの名前が登録されている場合は、トークグループ番号(名前)が表示されます。
※トークグループが選択されていない、またはIP100Hの電源が入っていないなど本製品に接続していない状態では、「—」が表示されます。

❻ 位置情報 ……

IP100Hが接続している無線アクセスポイントのBSSIDが表示されます。

❼〈レジスト状態の更新〉 ……

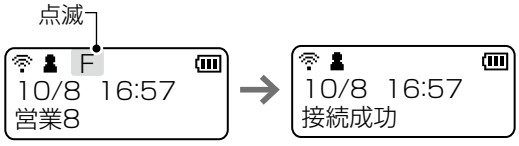
IP100H、IP100FSの接続状況、再起動実行時の動作状況確認を更新するとき、クリックします。

❽ バージョン ……

本製品に登録したIP100H、IP100FSのバージョン情報が表示されます。
※IP100Hの電源が入っていない、IP100FSが起動していないときなど、本製品に接続していない状態では、「—」が表示されます。

❾ ファームウェアの強制更新 ……

IP100Hのファームウェアを強制的に更新するときは、「有効」を選択して、本製品から[無線機再起動](❿)を実行します。
IP100Hの表示部で「F」表示が点滅し、更新の準備が完了すると、自動的に再起動して、ファームウェアの更新が実行されます。



※更新の準備に失敗したとき、IP100Hは再起動しません。
必要に応じて、再起動を実行してください。

❿ 無線機再起動 ……

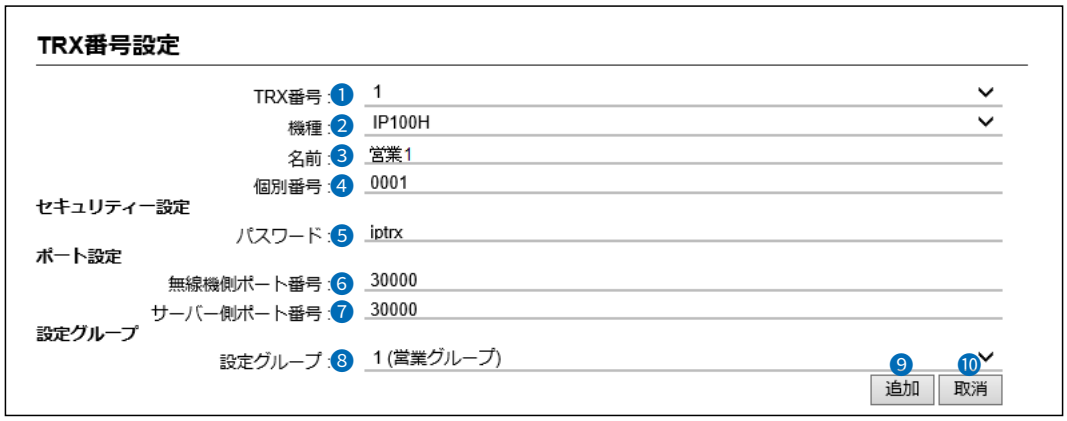
〈実行〉をクリックすると、[選択ボックス](❶)欄で指定したIP100Hが一斉に再起動します。

「無線機追加」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機追加

■ TRX番号設定

IP100H、IP100FSを新規登録するときに使用します。
※設定変更後は、IP100Hの再起動が必要です。



※画面の値は、設定例です。

❶ TRX番号 …… 使用するIP100H、IP100FSを登録する番号を選択します。
最大50台まで登録できます。（初期設定：1）

❷ 機種 …… 登録する機種を「IP100H」、「IP100FS」から選択します。
（初期設定：IP100H）

❸ 名前 …… 任意の名称を、半角31（全角15）文字以内で入力します。
※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大15文字になります。
※環境依存文字を入力しないでください。
環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。

❹ 個別番号 …… 使用するIP100H、IP100FSの自局番号（個別番号）を4桁で入力します。
設定できる範囲は、「0001～9999」です。（初期設定：0001）

❺ パスワード …… 使用するIP100H、IP100FSが本製品に接続するためのパスワードを、大文字/小文字の区別に注意して、12文字（半角英数字/記号）以内で入力します。
（初期設定：iptrx）

❻ 無線機側ポート番号 …… 本製品との通信に、IP100Hが使用する通信ポート（UDPポート番号）です。
※特に問題がある場合を除いては、初期設定でお使いください。
※初期設定時、TRX番号の「1」には「30000」、「2」には「30002」と、「1」から順に「30000～30098」が割り当てられています。
※設定できる範囲は、「2～59998」の偶数値だけです。
※そのほか、本製品が使用する一部のポートで利用できないものがあります。
※［機種］（❷）欄で「IP100FS」を選択したときは、表示されない項目です。

「無線機追加」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機追加

■ TRX番号設定

※画面の値は、設定例です。

❼ サーバー側ポート番号 ……

収容機器(IP100H、IP100FS)との通信に、本製品が使用する通信ポート(UDPポート番号)です。
本製品側として設定したポート番号(RTP)と設定したポート番号＋1(RTCP)の2つを使用して通信します。
※特に問題がある場合を除いては、初期設定でお使いください。
※初期設定時、TRX番号の「1」には「30000」、「2」には「30002」と、「1」から順に「30000～30098」が割り当てられています。
※設定できる範囲は、「1024 ～65534」の偶数値だけです。
※ほかのIP100H、IP100FSに設定するサーバー側ポート番号と重複できません。
※そのほか、本製品が使用する一部のポートで利用できないものがあります。

❽ 設定グループ ……

本製品に登録するIP100H、IP100FSが所属する設定グループ番号を設定します。（初期設定：1）
設定できる範囲は、「1」～「50」です。
共用するアドレス帳やメッセージ、通知音は、所属する設定グループごとに「設定グループ」メニューで設定します。

❾〈追加〉 ……

[TRX番号設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[TRX番号設定一覧]項目に表示されます。

❿〈取消〉 ……

[TRX番号設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈追加〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

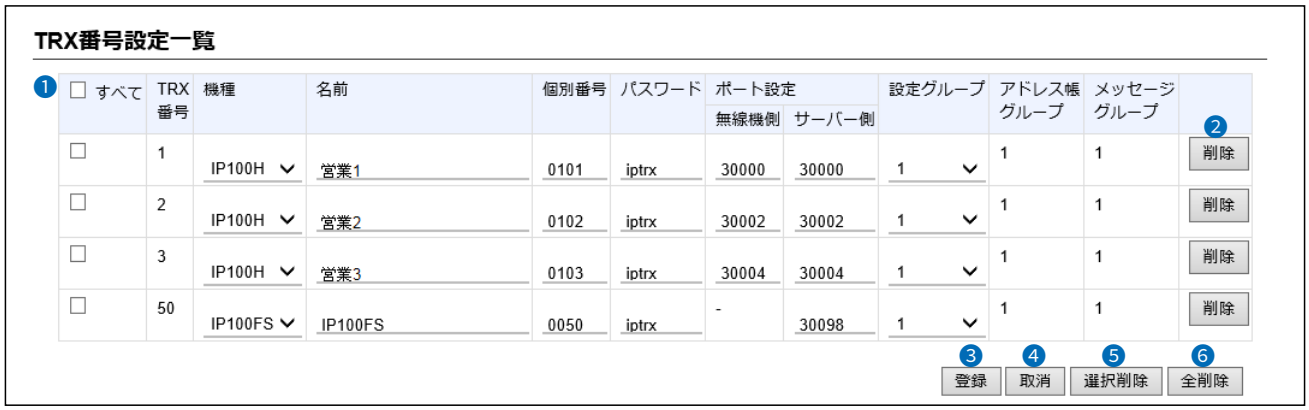
6　無線機コントローラー設定

「無線機追加」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機追加

■ TRX番号設定一覧

[TRX番号設定]項目で登録した無線機の設定一覧です。
※[TRX番号設定]項目で登録した内容の編集や削除にも使用します。
※各設定欄の説明は、[TRX番号設定]項目をご覧ください。



※画面の値は、設定例です。

❶ **選択ボックス** …… 登録された内容を複数削除するとき、ボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。

❷ **〈削除〉** …… クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。

❸ **〈登録〉** …… クリックすると、[TRX番号設定一覧]項目で編集した内容が登録されます。

❹ **〈取消〉** …… クリックすると、[TRX番号設定一覧]項目で編集した内容が変更前の状態に戻ります。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

❺ **〈選択削除〉** …… クリックすると、[選択ボックス](❶)欄で選択した番号の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。

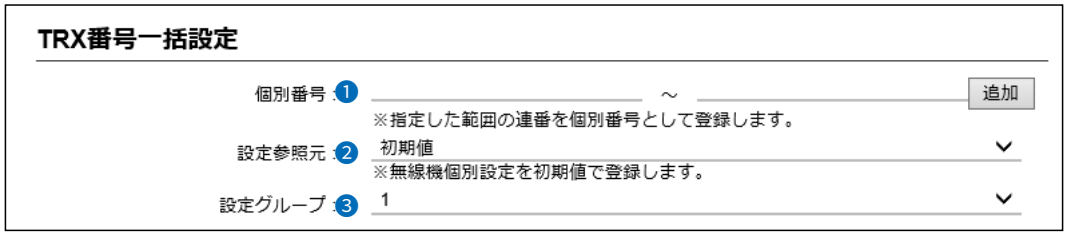
❻ **〈全削除〉** …… クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

「無線機追加」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機追加

■ TRX番号一括設定

連番で個別番号を一括登録したり、すでに登録した設定内容をほかの個別番号にコピーしたりできます。



❶ 個別番号 ……

連番で一括に登録したい個別番号の範囲を入力します。

〈追加〉

クリックすると、テキストボックスに入力した範囲(例：0004～0010)の個別番号が登録されます。

※入力した範囲で、すでに登録された個別番号がある場合は、「設定を上書きします。」が表示されます。

❷ 設定参照元 ……

初期設定内容(初期値)、またはすでに登録した設定内容を参照するか選択します。 (初期設定：初期値)

❸ 設定グループ ……

本製品に登録するIP100H、IP100FSが所属する設定グループ番号を設定します。 (初期設定：1)

設定できる範囲は、「1」～「50」です。

共用するアドレス帳やメッセージ、通知音は、所属する設定グループごとに「設定グループ」メニューで設定します。

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定

登録されたIP100Hごとに、機能の割り当てや通知音などを設定します。
※設定変更後は、IP100Hの再起動が必要です。

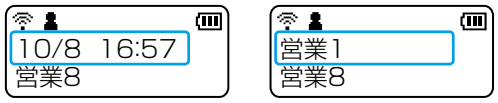
※説明のため、[アドレス帳からの呼出]（❼）欄を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

❶ 個別番号 ……

設定内容を編集するIP100Hの個別番号（名前）を選択します。
※「無線機追加」画面の[TRX番号設定]項目で、機種を「IP100FS」に設定した個別番号は表示されません。

❷ 表示項目 ……

IP100Hの待受画面に時計を表示するか、自局に登録された名前★を表示するかを選択します。（初期設定：時計）



時計選択時　　名前選択時

★「無線機追加」画面の[TRX番号設定]項目で、名前が登録されていない場合は、個別番号（例：0001）が表示されます。

❸ バックライト ……

IP100H使用時のバックライト機能を設定します。（初期設定：操作時点灯）
◎**常時消灯**　：バックライトが点灯しません。
◎**常時点灯**　：常にバックライトが点灯します。
◎**操作時点灯**：操作するとバックライトが点灯し、何も操作しない状態が約5秒つづくと、自動的に消灯します。

❹ 送信禁止 ……

送信を禁止して、受信専用としてIP100Hを使用するときに設定します。
（初期設定：無効）
※送信禁止中は、別売品マイクロホンのPTTスイッチやVOX機能による送信もできません。

6　無線機コントローラー設定

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定

※説明のため、[アドレス帳からの呼出]（❼）欄を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

❺ PTTロック ……

IP100Hの[PTT]（送信）スイッチによる送信を禁止したいときに設定します。（初期設定：無効）

※PTTロック中でも、別売品マイクロホンのスイッチやVOX機能による送信はできます。

❻ 待受画面での呼出 ……

IP100Hが待受画面のときに、呼び出す相手局（呼出種別）を表示するかしないかを設定します。（初期設定：有効）

◎**有効**：待受画面に、相手局（呼出種別）が表示されます。IP100Hの[PTT]（送信）スイッチを押すと、待受画面に表示された相手局（呼出種別）を呼び出します。

◎**無効**：待受画面に戻っても、相手局（呼出種別）を表示しません。

※キー操作による相手局（呼出種別）選択時は表示されます。

※「設定グループ」→「設定グループ詳細」画面にある相手局の表示切替は、無効になります。

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定

※説明のため、[アドレス帳からの呼出](❼)欄を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

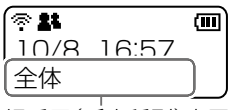
❼ アドレス帳からの呼出 ……

[アドレス帳]キー

IP100Hでアドレス帳を使用するかどうか設定します。(初期設定：無効)

◎**有効**：IP100Hの[アドレス帳]キーを押すごとに、呼出種別が切り替わります。

[アドレス帳先頭番号]欄で、はじめに表示する相手局(呼出種別)を「全体」、または「アドレス帳」の番号(1～50)で指定します。



相手局(呼出種別)表示

※[待受画面での呼出](❻)欄(P.6-21)が「有効」、かつ「設定グループ詳細」画面の[相手局の表示切替]欄(P.6-78)が「無効」の場合は、[アドレス帳先頭番号]欄で設定した相手局が、待受画面に表示されます。

[起動時のトークグループ指定](❾)欄が「有効」の場合、[アドレス帳番号]欄で設定したトークグループが優先して表示されます。

※「設定グループ」メニューで登録されたアドレス帳を使用します。

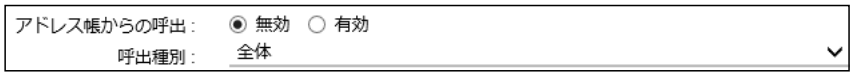
※[全体呼出の表示](❽)欄で「無効」を設定すると、アドレス帳から全体呼び出しが選択できなくなります。

◎**無効**：[アドレス帳]キーを押しても、呼出種別は下図の[呼出種別]で設定された内容から切り替わりません。

※[呼出種別]欄で、IP100Hから呼び出す特定の相手局(呼出種別)を指定できます。

「個別」、「グループ」を選択したときは、[呼出先番号]欄に個別番号、またはグループ番号を4桁の数字で入力します。

※着信時、IP100Hの画面には、アドレス帳に登録されている名前が表示されます。



「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定

※説明のため、[アドレス帳からの呼出]（❼）欄を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

❽ 全体呼出の表示 …… アドレス帳からの全体呼び出しについて設定します。（初期設定：有効）

※[アドレス帳からの呼出]（❼）欄を「無効」にした場合、この欄は表示されません。

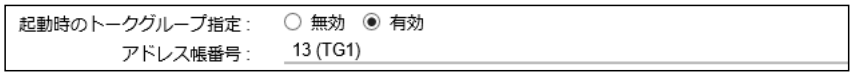
◎**有効**：アドレス帳に全体呼び出しが表示されます。

◎**無効**：アドレス帳に全体呼び出しが表示されません。

❾ 起動時のトークグループ指定 … 指定したトークグループを選択した状態で起動します。（初期設定：無効）

※[アドレス帳からの呼出]（❼）欄を「無効」にした場合、この欄は表示されません。

◎**有効**：[アドレス帳番号]欄で指定したトークグループを選択した状態でIP100Hを起動します。



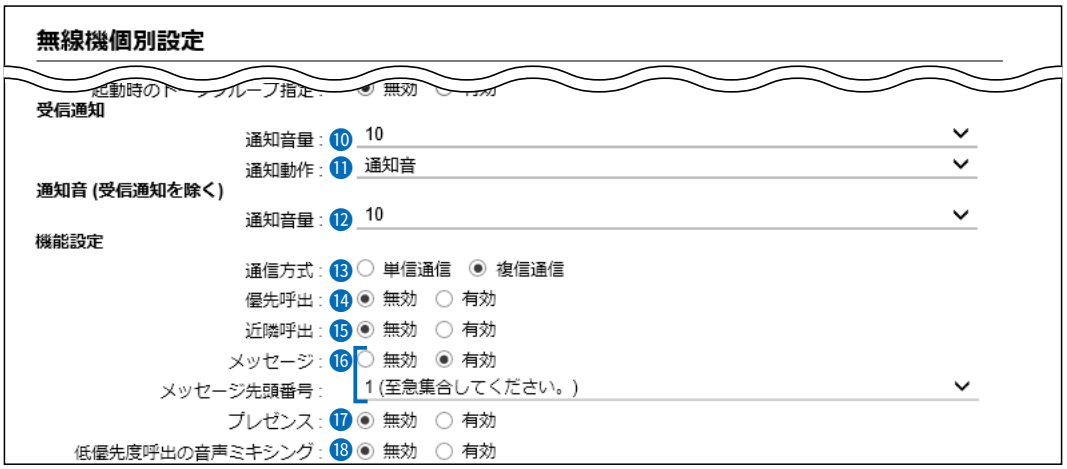
◎**無効**：トークグループを指定しないでIP100Hを起動します。

6　無線機コントローラー設定

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



※説明のため、[メッセージ](⑯)欄を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

⑩ 通知音量 ……

着信時やメッセージ受信時に鳴る通知音の音量レベルを設定します。
設定できる範囲は、「0」～「32」です。　（初期設定：10）
※「0」を設定した場合は、IP100H側の音量設定に関わらず、通知音は鳴りません。
※「設定グループ詳細」画面の[受信通知音]欄で設定した内容で、着信時やメッセージ受信時に通知音が鳴ります。

⑪ 通知動作 ……

着信時やメッセージ受信時の通知動作を設定します。　（初期設定：通知音）

◎通知音
着信時やメッセージ受信時、「設定グループ詳細」画面の[受信通知音]欄で設定した通知音でお知らせします。

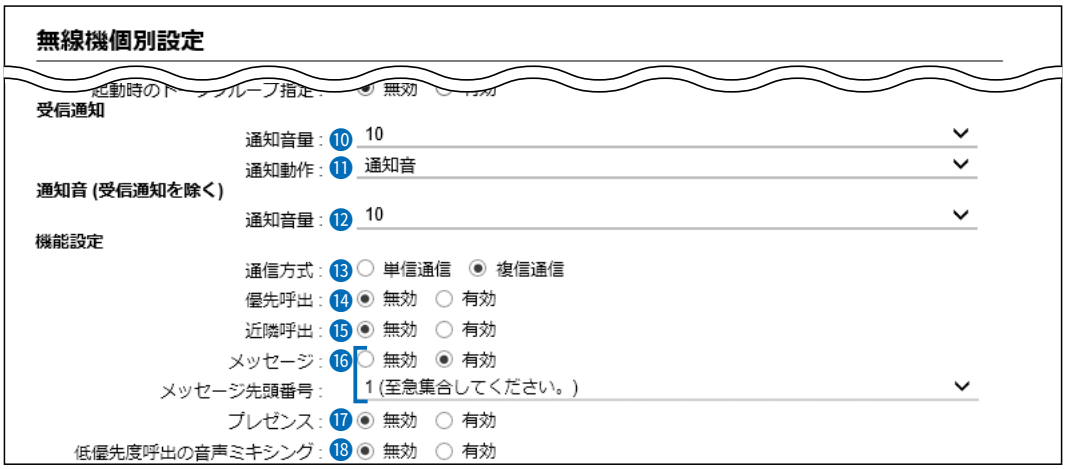
◎バイブレーション
着信時やメッセージ受信時、音を鳴らさずに振動だけでお知らせします。

◎通知音+バイブレーション
着信時やメッセージ受信時、「設定グループ詳細」画面の[受信通知音]欄で設定した通知音と振動でお知らせします。

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



※説明のため、[メッセージ](⑯)欄を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

⑫ 通知音量 ……

送信時や接続時などに鳴る通知音の音量レベルを設定します。
設定できる範囲は、「0」～「32」です。　（初期設定：10）
※「0」を設定した場合は、IP100H側の音量設定に関わらず、通知音は鳴りません。
※「設定グループ詳細」画面で設定した内容で、送信時や接続時などに通知音が鳴ります。

⑬ 通信方式 ……

IP100Hで使用する通信方式を設定します。　（初期設定：複信通信）

◎単信通信

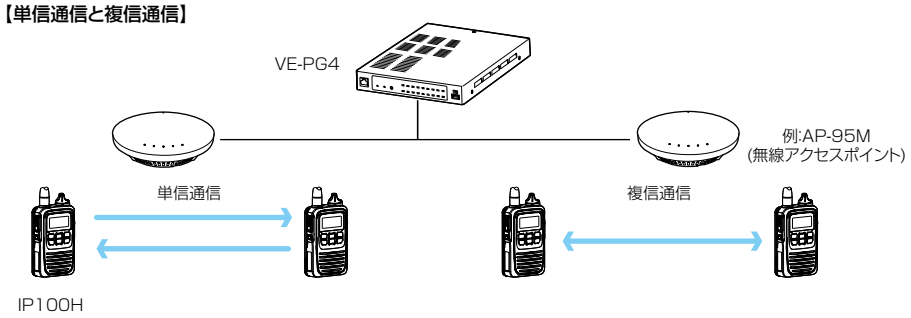
送信と受信を交互に切り替えて交信する方式です。

◎複信通信

複信は電話のように同時通話できる方式です。

※複信通信が設定されている場合は、IP100Hに別売品のマイクロホンなどを接続することで、相手が送信しているときでも、電話のように同時通話できます。

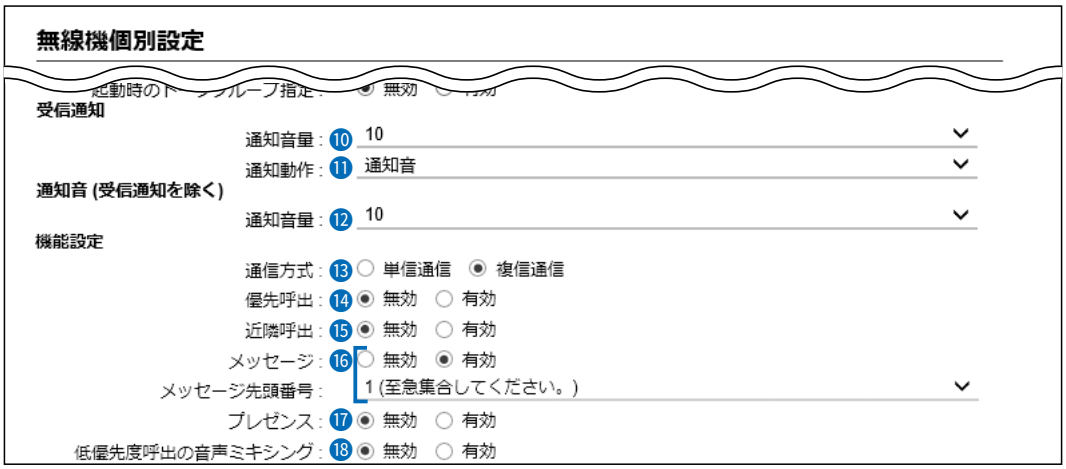
【単信通信と複信通信】



「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



※説明のため、[メッセージ](⑯)欄を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

⑭ 優先呼出 ……

IP100Hに優先度の高い呼び出し権限を付与する場合に使用する設定です。
(初期設定：無効)

呼出種別ごとの優先度は、下記のようになります。

優先度	優先準備	呼出種別	優先呼出	備考
高	固定	電話通信	—	電話通信
		緊急呼び出し(優先)	有効	—
		緊急呼び出し	無効	—
	可変★	全体呼出(優先)	有効	近隣呼出/IP100FS使用時も含む
		個別呼出(優先)	有効	IP100FS使用時も含む
		グループ呼出(優先)	有効	近隣呼出/IP100FS使用時も含む
		全体呼出	無効	近隣呼出も含む
		個別呼出	無効	—
低		グループ呼出	無効	近隣呼出も含む

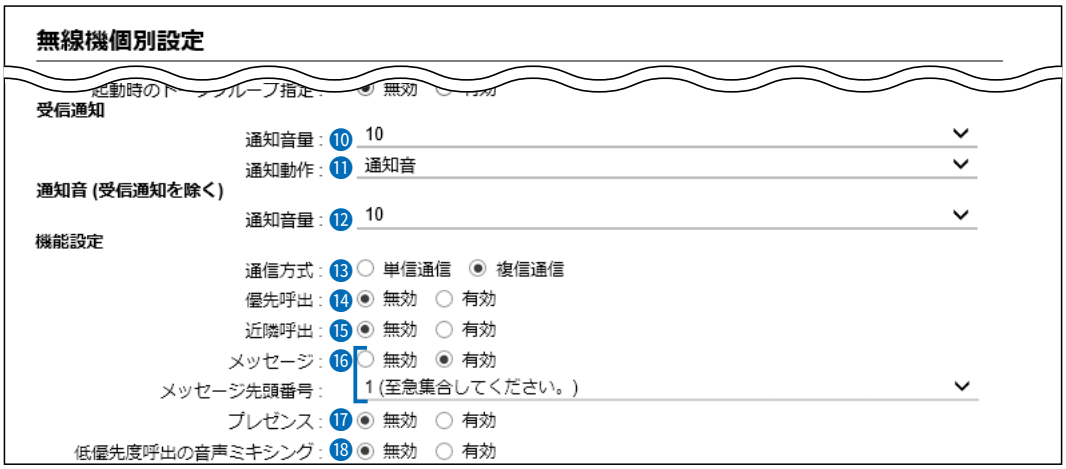
※同一優先順位内での優先度は、呼び出した順番になります。
※着信時の応答は、発信側の優先度にしたがいます。
★「可変」は、「RoIPサーバー」画面の[通話優先順位]項目(P.6-7)で変更できます。

【通信中に相手局を変更した場合】

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



※説明のため、[メッセージ](⑯)欄を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

⑮ 近隣呼出 ……

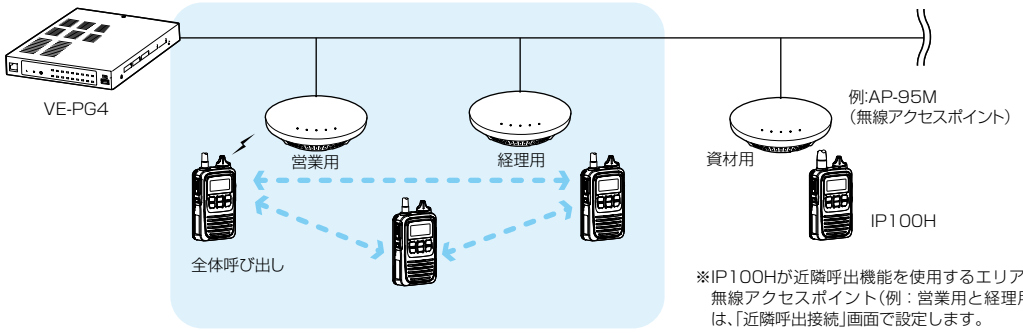
特定のエリアに限定して運用をするときに使用する設定です。

(初期設定：無効)

「有効」に設定して、IP100H側で近隣呼出機能を「ON」にしている状態で全体/グループ呼び出しをすると、IP100Hが接続している無線アクセスポイントと同一エリア内のIP100Hを呼び出します。

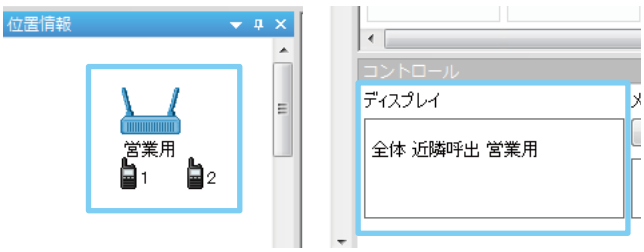
※[近隣呼出接続]画面の[近隣呼出接続設定]項目(P.6-10)でIP100Hが接続中のアクセスポイントのBSSIDが登録されていないと動作しません。

【IP100Hから近隣呼出機能で全体呼び出しをした場合】



※IP100Hが近隣呼出機能を使用するエリアの無線アクセスポイント(例：営業用と経理用)は、「近隣呼出接続」画面で設定します。

【IP100FSから近隣呼出機能で呼び出す場合】



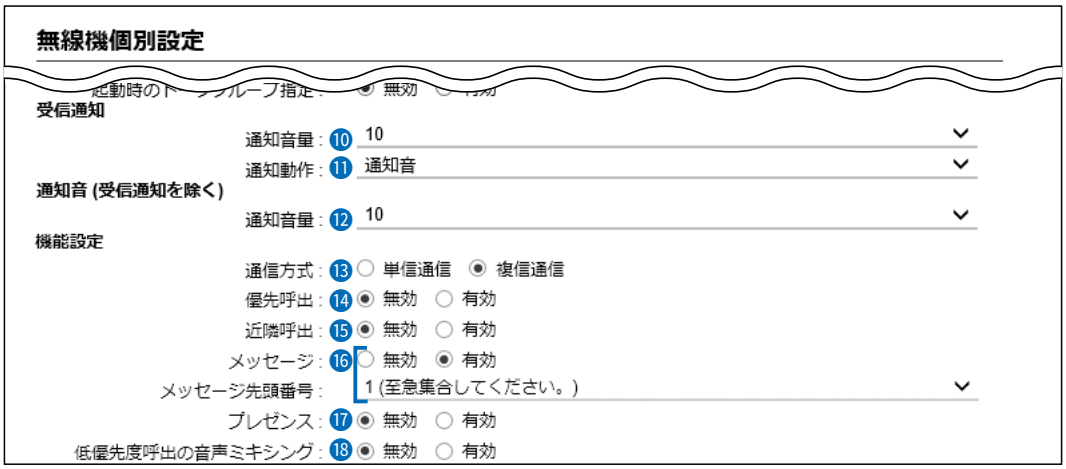
※IP100FSから近隣呼出機能を使用する場合は、指定した無線アクセスポイント(例：営業用)と同一エリア内にある無線アクセスポイント(例：経理用)に接続しているIP100Hを呼び出せます。

※位置情報で無線アクセスポイントを選択すると、呼出種別(個別/グループ/全体/近隣/電話)と表示名をディスプレイに表示します。

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定

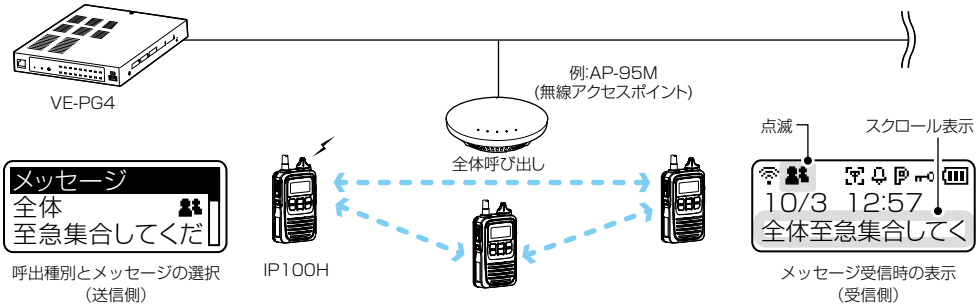


※説明のため、[メッセージ](⑯)欄を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

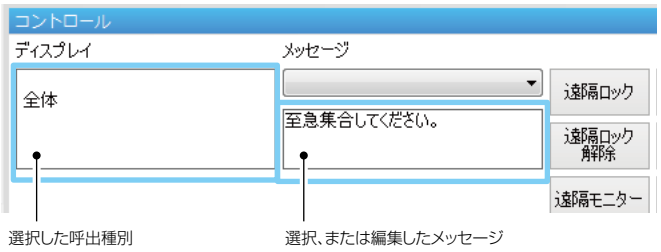
⑯ メッセージ ……

IP100Hでメッセージを送信するときに設定します。　（初期設定：無効）
「有効」を設定すると、IP100Hの[FUNC]キーを押してメッセージを選択できます。
※IP100Hから送信する半角32(全角16)文字以内の定型メッセージは、「設定グループ」メニューの「メッセージ」画面で最大10件登録できます。
※はじめに表示するメッセージを、[メッセージ先頭番号]欄で指定します。

【IP100Hからメッセージを送信する場合】



【IP100FSからメッセージを送信する場合】

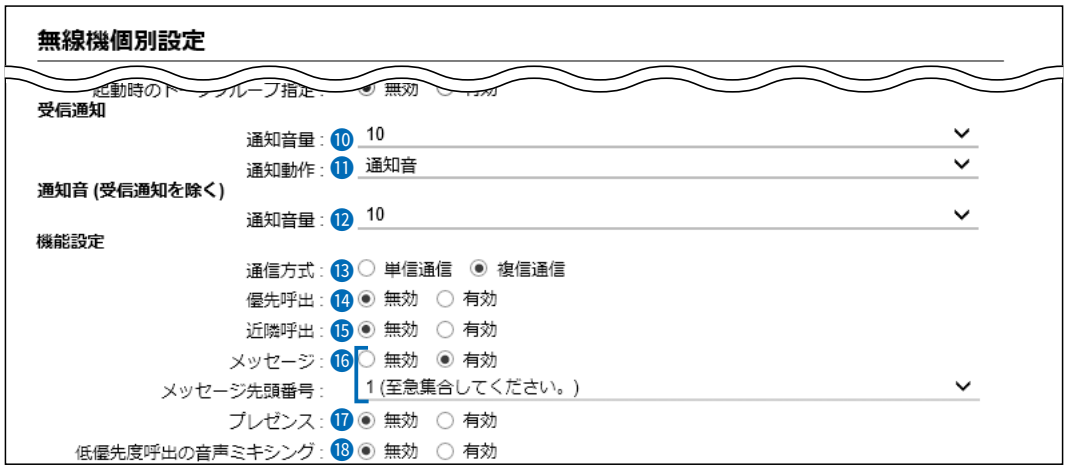


※IP100FSでは、最大100件の定型メッセージをサイトごとに登録できます。
登録したメッセージを選択、またはメッセージを編集して送信できます。

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



※説明のため、[メッセージ](⑯)欄を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

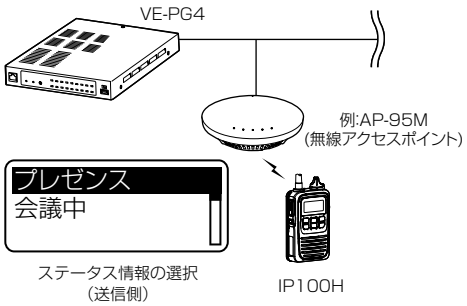
⑰ プレゼンス …… IP100Hからステータス情報(例：会議中)を送信するときに設定します。
(初期設定：無効)

※IP100Hから送信する半角32(全角16)文字以内のステータス情報は、「設定グループ」メニューの「プレゼンス」画面で最大10件登録できます。

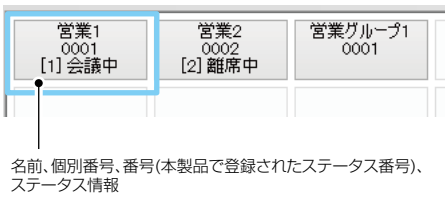
※「無効」を設定しているときは、IP100Hの[FUNC]キーを押してもプレゼンスを選択できません。

※IP100Hから送信されたステータス情報は、IP100FSのワンタッチボタン画面や本製品の「無線機管理」画面で確認できます。

【IP100Hからプレゼンスを送信する場合】



【IP100FSでプレゼンスを確認する場合】

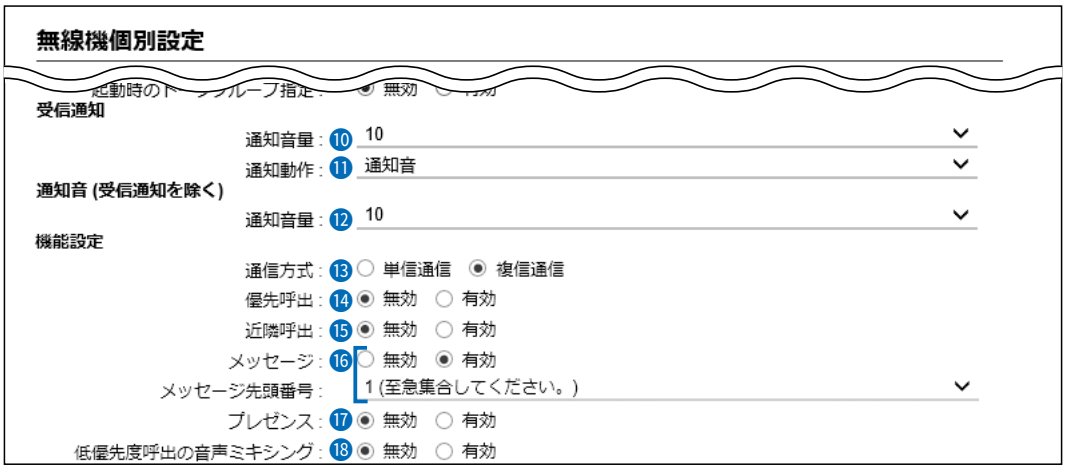


【本製品でプレゼンスを確認する場合】

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



※説明のため、[メッセージ](⑯)欄を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

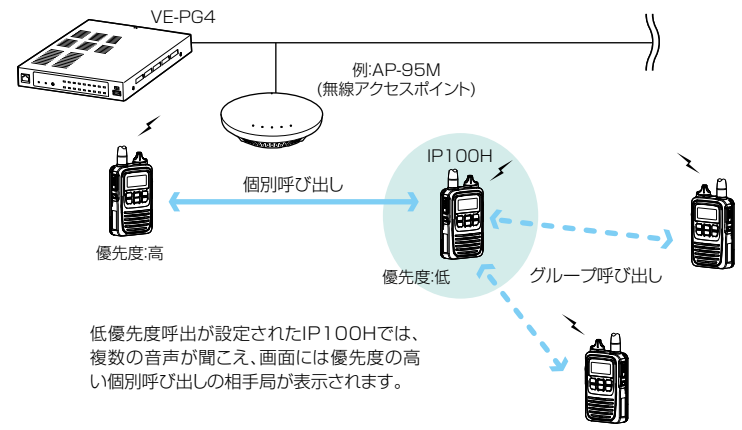
⑱ 低優先度呼出の音声ミキシング ……

通話中の相手局以外に、自局が所属する通話があれば、音声をミキシングして聞こえるようにできる機能です。（初期設定：無効）

※複数の通話をミキシングしている場合は、IP100Hの画面には、最も高い優先度の通話が表示されます。
優先度について詳しくは、6-27ページをご覧ください。

たとえば、グループ呼び出しで通話中に、ほかの相手局と個別呼び出しで通話するとき、本機能を使用しているIP100Hでは、個別呼び出しに加え、グループ呼び出しの音声もミキシングして聞こえます。
この場合、IP100Hの画面には、優先度の高い個別呼び出しの相手局が表示されます。

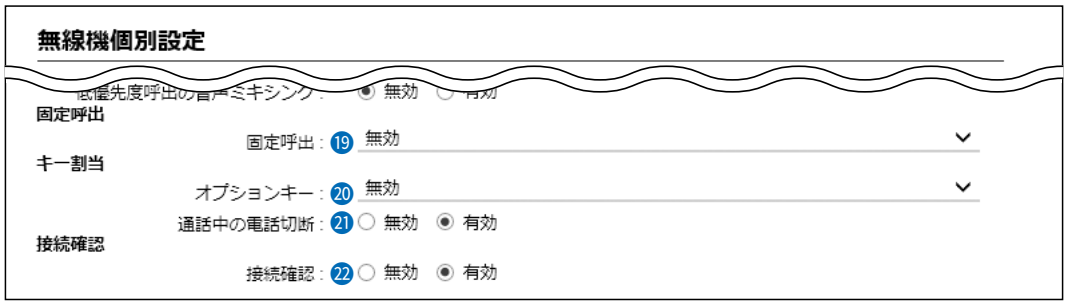
【低優先度呼出によるミキシング】



「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



⑲ 固定呼出 ……

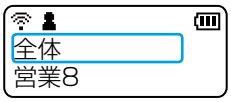
IP100Hの画面(3行目)に表示されている相手ではなく、特定の操作で、あらかじめ指定した別の相手先(呼出種別)を呼び出すときに使用します。

(初期設定：無効)

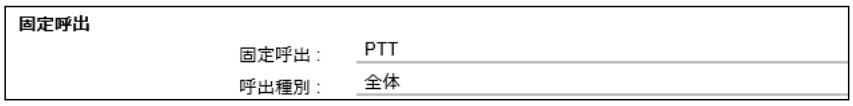
通常は別売品マイクロホンで運用し、特定の場合にIP100Hの[PTT(送信)]スイッチを押して相手先を切り替えるというような使いかたができます。

◎**無効**：固定呼出で送信しないとき

◎**PTT**：IP100Hの[PTT](送信)スイッチで固定呼出をするとき



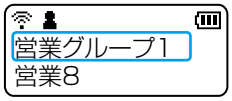
固定呼出「全体」選択時



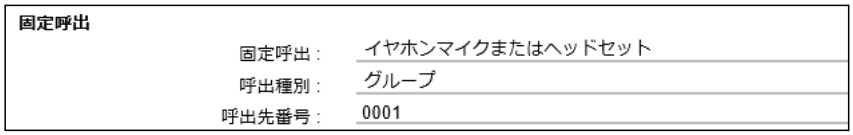
例：PTTで全体呼び出しをする場合

◎**イヤホンマイクまたはヘッドセット**

別売品マイクロホンのPTTスイッチやVOX機能で固定呼出をするとき



固定呼出「グループ」選択時



例：イヤホンマイクまたはヘッドセットでグループ呼び出しをする場合

※呼出種別は、「個別」、「グループ」、「全体」から指定します。

※[呼出種別]欄で「個別」、「グループ」を選択したときは、[呼出先番号]欄に個別番号、またはグループ番号を4桁の数字で入力します。

※固定呼出する相手先をIP100Hの画面(通常「日時」を表示している2行目)に常時表示されます。
[表示項目](❷)欄で「名前」を選択している場合は、自局に登録された名前が表示されます。(P.6-8)

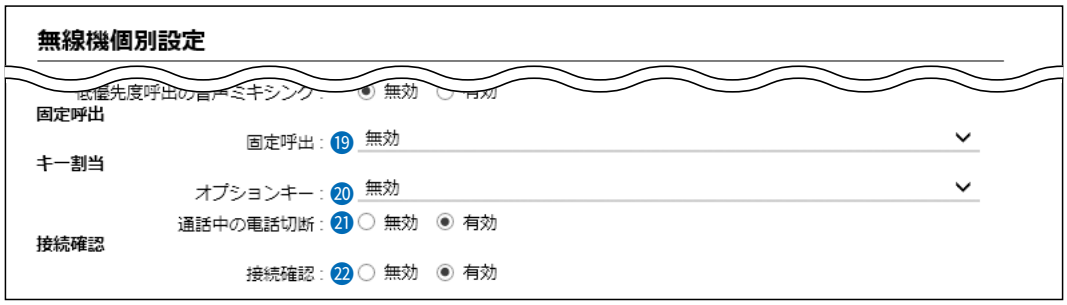
※固定呼出を設定したIP100Hでは、受信時に相手先の名前や呼出種別が画面(3行目)に表示されません。

※IP100Hの[PTT](送信)スイッチと別売品マイクロホンのPTTスイッチで同時に送信した場合、IP100H本体マイクからの音声はミュートします。

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



⑳ オプションキー ……

IP100Hの[オプション]キーに、よく使うメッセージや特定の相手をワンタッチで選択する、または電話を切るなどの機能を割り当てるときに設定します。（初期設定：無効）

※「無効」を設定しているときは、待受画面で[オプション]キーを押しても何も動作しません。

◎**メッセージ**

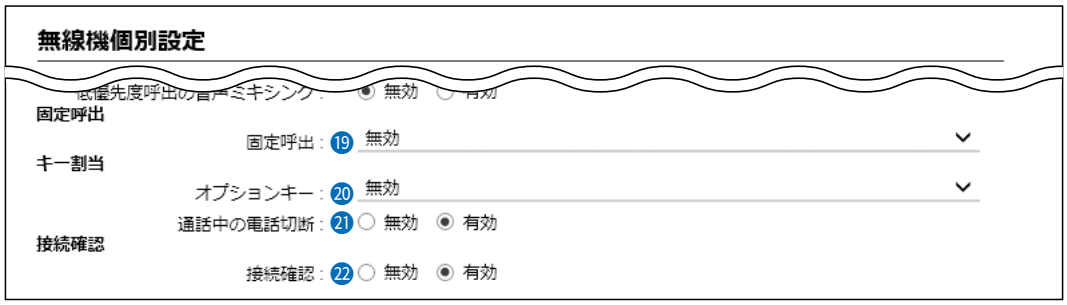
[オプション]キーを押すだけで、よく使うメッセージを選択したいときに設定します。

[メッセージ番号]欄には、「メッセージ」画面で登録した内容を指定します。

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



⑳ オプションキー ……

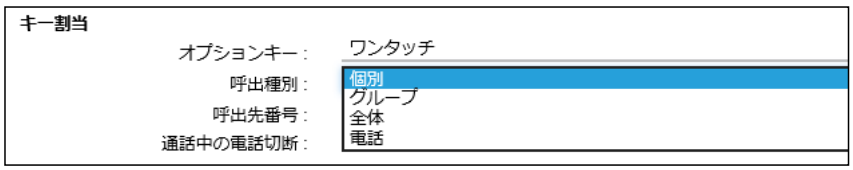
◎ワンタッチ

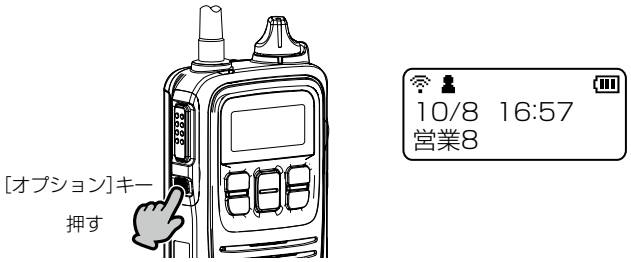
[オプション]キーを押すだけで、特定の呼出種別、または相手を選択したいときに設定します。

呼出種別は、「個別」、「グループ」、「全体」、「電話」から指定します。

※「個別」、「グループ」を選択したときは、[呼出先番号]欄に個別番号、またはグループ番号を4桁の数字で入力します。

※「電話」を選択したときは、[呼出先番号]欄に相手先の電話番号を31桁以内の数字と記号(#、＊)で入力します。

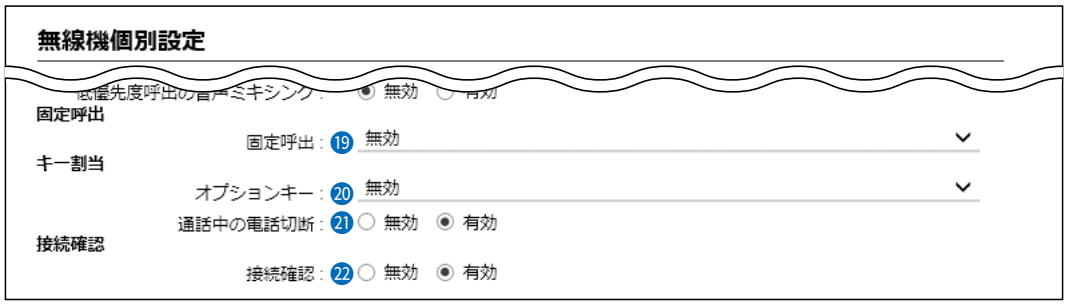




「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定

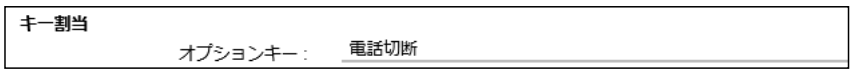


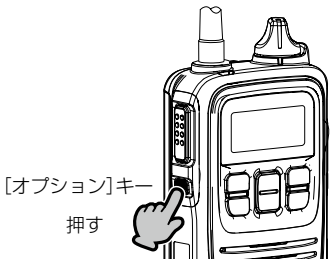
⑳ オプションキー ……

◎電話切断

[オプション]キーを押して、IP100Hから電話を切りたいときに設定します。

※[通話中の電話切断](㉑)欄を「有効」にして、[オプション]キーに、ほかの機能を割り当てることもできます。





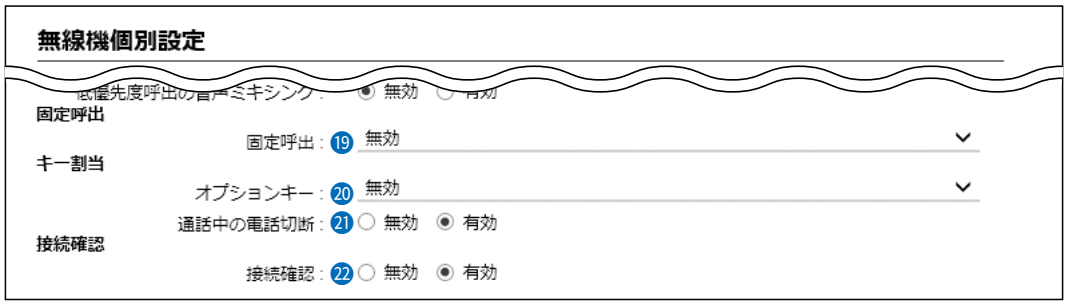
相手が応答する前、または通話中に[オプション]キーを押すと、IP100Hから電話を切れます。

※IP100Hから電話を切れるのは、電話機からIP100Hを個別に呼び出したとき、またはIP100Hから電話機を呼び出したときだけです。

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



⑳ オプションキー ……

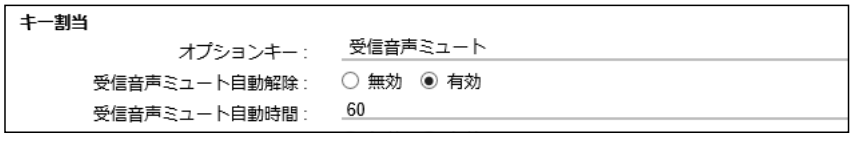
◎受信音声ミュート

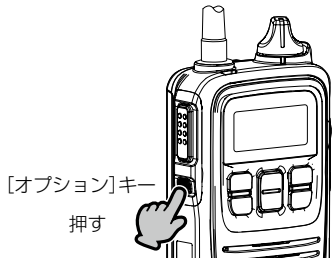
受信した音声(通知音は除く)をミュートしたいときに設定します。

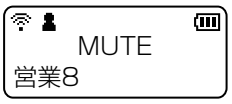
※[オプション]キーを長く(約1秒)押すごとに、ミュート機能をON/OFFできます。

※[PTT](送信)スイッチを押しても、ミュート機能を解除できます。
ただし、[通話中の電話切断](㉑)欄を「有効」にしている場合、電話通話中は切断動作になります。

※[受信音声ミュート自動解除]欄を「有効」にした場合は、設定時間が経過すると、自動的にミュート機能が解除されます。
「有効」にして使用するときは、ミュート機能が解除されるまでの時間を「10～600」(秒)の範囲で設定します。 (初期設定：60)







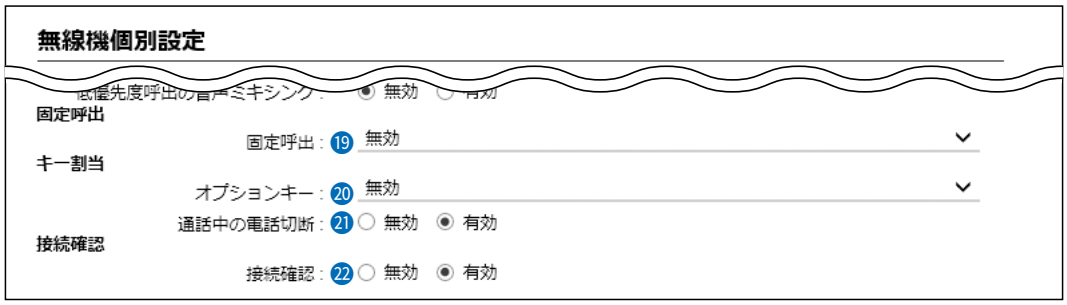
ミュート時の表示例

6　無線機コントローラー設定

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



⑳ オプションキー ……

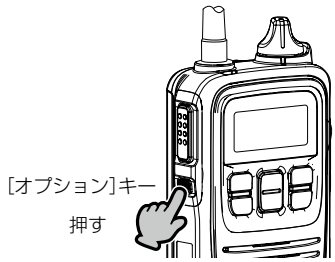
◎エマージェンシー

迅速な連絡が必要な場合など、緊急呼び出しをしたいときに設定します。

※「緊急」と表示されるまで、[オプション]キー★を長く押すと、一定間隔で警告音(ピロピロ…)が鳴ります。

相手から応答があったとき、または[オプション]キー★を長く押したときに、緊急呼び出しが解除されます。

★緊急呼び出し動作までの時間は、[動作判定時間](㉟)欄、解除までの時間は、[解除判定](㊱)欄が「有効」に変更することで設定できます。



緊急呼び出し時の表示

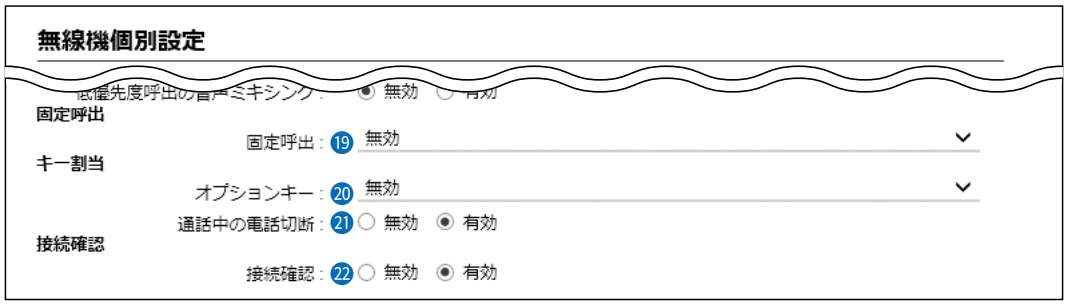
ご注意

本製品は、高度な信頼性が必要な用途に使用されることを目的とした製品ではありません。
電池の消耗や電波環境、無線アクセスポイントやネットワークの状態など、周囲の環境によって、通信できないことがあります。
緊急呼び出し機能、およびLone Worker機能は、補助的な使用を目的とした機能としてご理解ください。

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

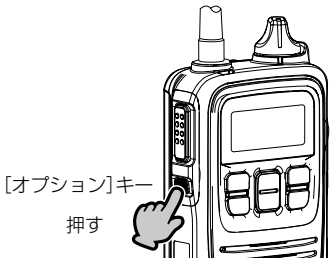
■ 無線機個別設定



㉑ 通話中の電話切断 ……

[オプション]キーを押して、IP100Hから電話を切りたいときに設定します。
（初期設定：有効）

※[オプションキー]（⑳）欄を「電話切断」にした場合は、表示されない項目です。



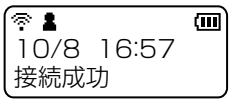
相手が応答する前、または通話中に[オプション]キーを押すと、IP100Hから電話を切れます。

※IP100Hから電話を切れるのは、電話機からIP100Hを個別に呼び出したとき、またはIP100Hから電話機を呼び出したときだけです。

㉒ 接続確認 ……

IP100Hから個別呼び出しをしたときに、相手先との接続を確認するための設定です。（初期設定：有効）

「有効」に設定すると、個別呼び出しをしたIP100Hの表示部に接続結果（接続成功/通話中/応答なし）が表示されます。



※相手先が圏外の場合は、「応答なし」が表示されます。

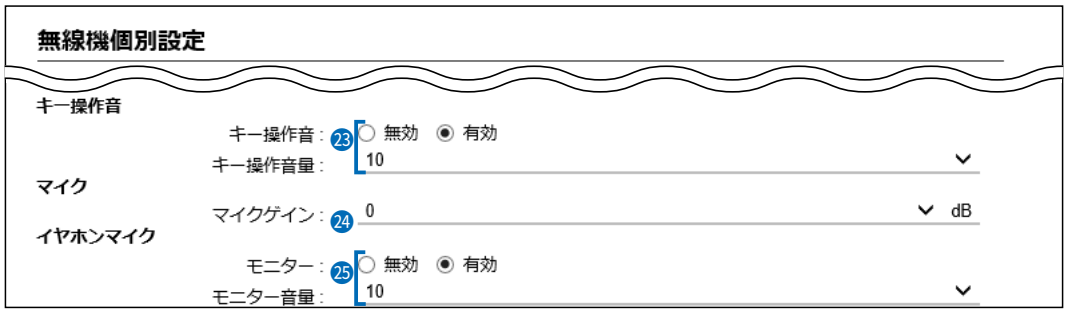
※「設定グループ詳細」画面で、接続通知音が「有効」に設定されているときは接続の成功や失敗を音でもお知らせします。

6　無線機コントローラー設定

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



※説明のため、[キー操作音]（㉓）欄、[モニター]（㉕）欄を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

㉓ キー操作音 ……

IP100Hのキーやスイッチを操作したときの確認音を設定します。
（初期設定：有効）

◎**無効**：確認音が鳴りません。
◎**有効**：確認音が鳴ります。
「有効」にして使用するときは、キー操作音量を、「0」～「32」の範囲で設定します。（初期設定：10）
※「0」を設定した場合は、IP100H側の音量設定に関わらず、確認音は鳴りません。

㉔ マイクゲイン ……

マイクロホンの感度を設定します。（初期設定：0）
設定できる範囲は、「－12（低）」～「12（高）」（3dB刻み）です。
※周囲の騒音が大きい場所では、低い値に設定し、大きめの声で話すことで、通話相手に聞きやすい音声になります。
また、周囲の雑音が小さい場所では、高い値に設定し、小さめの声で話すことで、通話相手に聞きやすい音声になります。

㉕ モニター ……

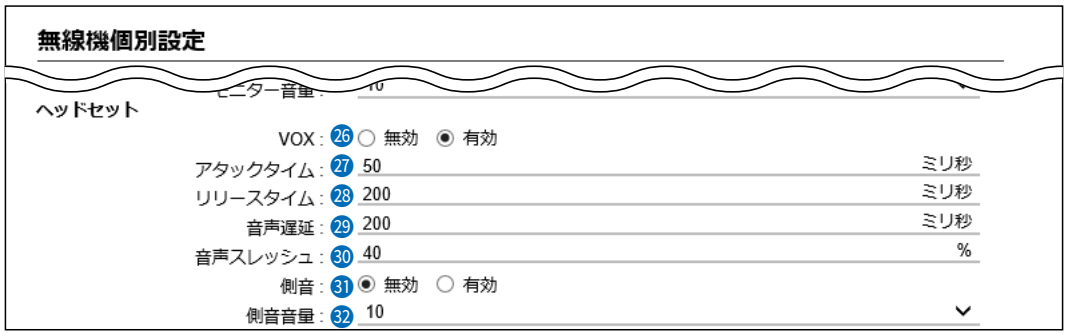
イヤホンマイク（別売品）接続時のモニター機能を設定します。
（初期設定：無効）

◎**無効**：モニター機能が動作しません。
◎**有効**：モニター機能が動作して、イヤホンから自分の音声が聞こえるようになり、話しやすくなります。
「有効」にして使用するときは、モニター音量を、「0」～「32」の範囲で設定します。（初期設定：10）
※「0」を設定した場合は、IP100H側の音量設定に関わらず、イヤホンから自分の音声は聞こえません。
※HM-186LSなどスピーカーマイクでは、ハウリングを起こすことがありますので、モニター機能を「有効」にしないでください。

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

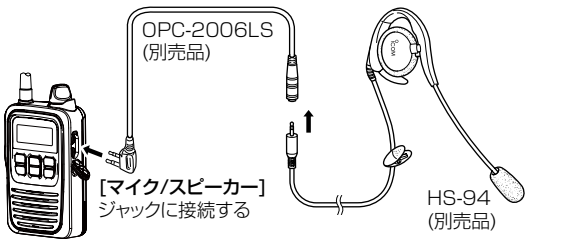
■ 無線機個別設定

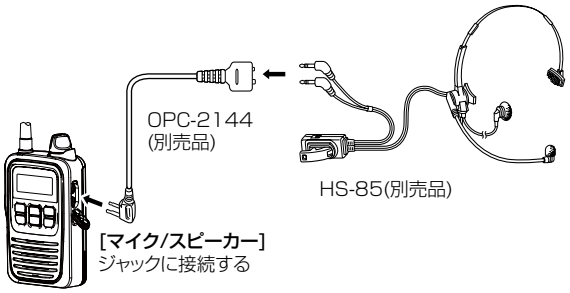


※説明のため、[VOX](㉖)欄を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

㉖ VOX ……

IP100HにVOX機能対応のヘッドセット(別売品)を接続して、音声によって送受信を自動的に切り替えるときに設定します。　　(初期設定：無効)
「有効」に設定して、別売品のVOX対応変換ケーブル(OPC-2006LS)と、ヘッドセット(HS-94/HS-95/HS-97/HS-99のいずれか)を接続すると使用できます。
※ケーブルを抜き差しする前に、必ずIP100Hの電源を切ってください。
※「有効」を選択すると、[アタックタイム](㉗)欄～[側音音量](㉜)欄が表示されます。



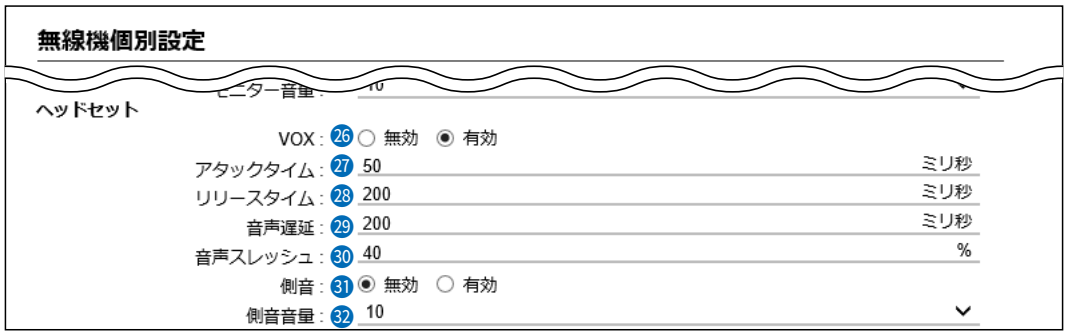


※HS-85(別売品)はVOX機能が内蔵されていますので、IP100Hに接続して使用する場合、[VOX](㉖)欄を「無効」にしてください。

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



※説明のため、[VOX]（㉖）欄を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

㉗ アタックタイム ……
VOX機能有効時

ヘッドセット（別売品）からIP100Hに音声信号が入力されたことを検知する時間を設定します。（初期設定：50）
検知後、送信を開始します。
設定できる範囲は、「5～2000」（5ミリ秒刻み）です。

㉘ リリースタイム ……
VOX機能有効時

IP100Hに入力されている音声が停止したと判断する時間を設定します。
検知後、送信を停止します。（初期設定：200）
設定できる範囲は、「5～2000」（5ミリ秒刻み）です。

㉙ 音声遅延 ……
VOX機能有効時

VOX送信による頭切れを防止するために、音声を遅延させる時間を設定します。（初期設定：200）
設定できる範囲は、「0 ～500」（5ミリ秒刻み）です。

㉚ 音声スレッシュ ……
VOX機能有効時

ヘッドセット（別売品）からIP100Hに音声信号が入力されたことを検知するしきい値レベルを設定します。（初期設定：40）
設定できる範囲は、「0～100」（%）です。
※設定値が小さいほど、小さな音声でも検知します。

㉛ 側音 ……
VOX機能有効時

ヘッドセット（別売品）接続時の側音機能を設定します。（初期設定：無効）
「有効」に設定すると、ヘッドセットから自分の音声が聞こえるようになり、話しやすくなります。

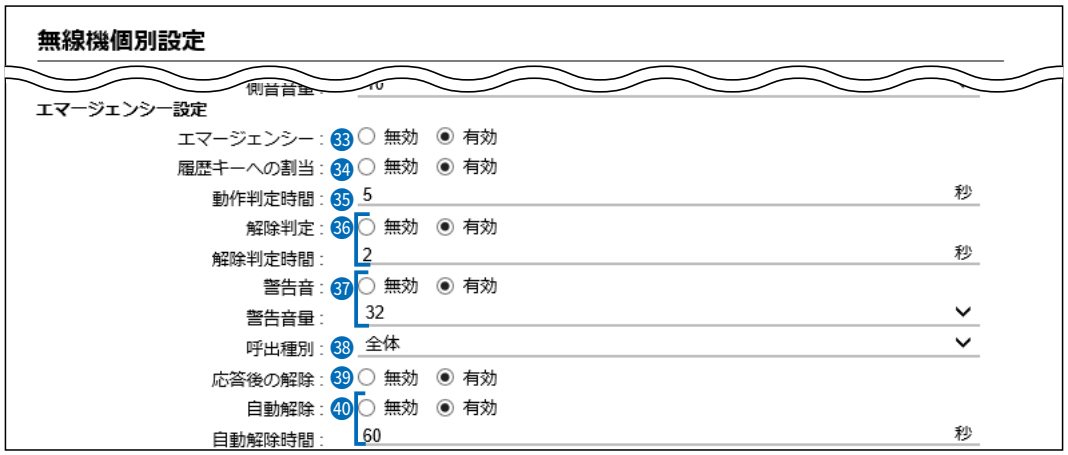
㉜ 側音音量 ……
VOX機能有効時

側音機能を使用するときの音量を調整します。
設定できる範囲は、「0」（最小）～「32」（最大）です。（初期設定：10）

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



※説明のため、[エマージェンシー](33)欄、[解除判定](36)欄、[自動解除](40)欄を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

33 エマージェンシー ……

迅速な連絡が必要な場合など、緊急呼び出しをしたいときに使用する機能です。（初期設定：無効）

※[オプションキー](20)欄を「エマージェンシー」に設定している(P.6-36)、または[履歴キーへの割当](34)欄を「有効」に設定している場合に使用できます。

※「緊急」と表示されるまで、[オプション]キーを長く(5秒以上★)押すと、一定間隔で警告音(ピロピロ…)が鳴ります。
相手から応答があったとき、または[オプション]キーを長く(5秒以上★)押したときに、緊急呼び出しが解除されます。

※[履歴]キーに緊急呼び出し機能が割り当てられている場合も、[オプション]キーと同様に操作できます。

★緊急呼び出し動作までの時間は[動作判定時間](35)欄、解除までの時間は[解除判定](36)欄で変更できます。

34 履歴キーへの割当 ……

緊急呼び出し機能有効時

[履歴]キーを長く押して、緊急呼び出しをするときに設定します。（初期設定：有効）

35 動作判定時間 ……

緊急呼び出し機能有効時

[オプション]キー、または[履歴]キーを押して、緊急呼び出しが動作するまでの時間を設定します。（初期設定：5）
「1～10」秒の範囲で設定します。

36 解除判定 ……

緊急呼び出し機能有効時

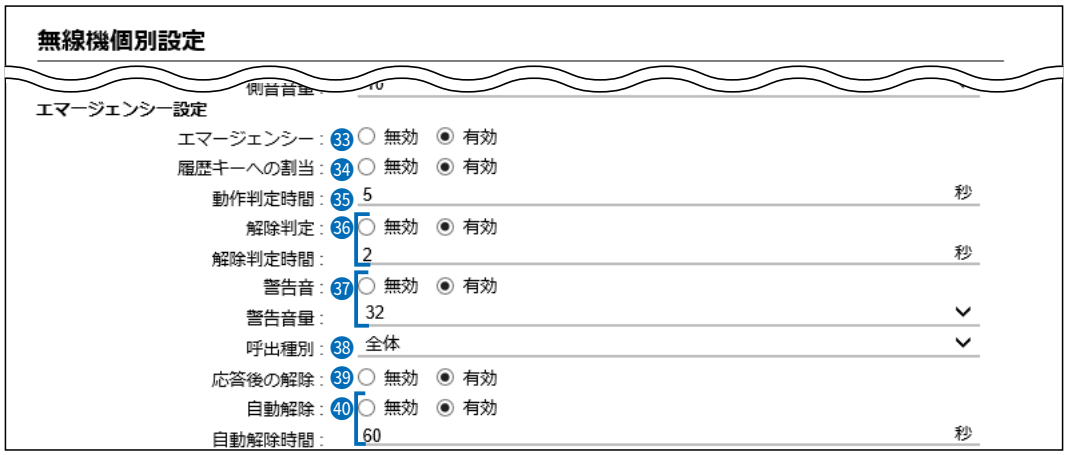
[オプション]キー、または[履歴]キーを押すと、緊急呼び出しが解除されます。（初期設定：無効）
「1～10」秒の範囲で設定します。

6　無線機コントローラー設定

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



※説明のため、[エマージェンシー](㉝)欄、[解除判定](㊱)欄、[自動解除](㊵)欄を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

㊲ 警告音 ……
緊急呼び出し機能有効時

「有効」に設定すると、緊急呼び出し状態で警告音(ピロピロ…)が鳴ります。
音量を、「0～32」の範囲で設定します。　(初期設定：有効(32))
※「無効」に設定するとサイレントモードになり、画面の「緊急」を非表示のまま緊急呼び出しが動作します。

㊳ 呼出種別 ……
緊急呼び出し機能有効時

緊急呼び出しを通知する相手を選択します。　(初期設定：全体)
※「個別」、または「グループ」を選択したときは、[呼出先番号]欄に個別番号、またはグループ番号を4桁の数字で入力します。
※「電話」を選択したときは、[呼出先番号]欄に相手先の電話番号を31桁以内の数字/記号(#、＊)で入力します。

㊴ 応答後の解除 ……
緊急呼び出し機能有効時

緊急呼び出しを受信した相手が応答した場合、緊急呼び出しを解除するかどうかを設定します。　(初期設定：有効)

㊵ 自動解除 ……
緊急呼び出し機能有効時

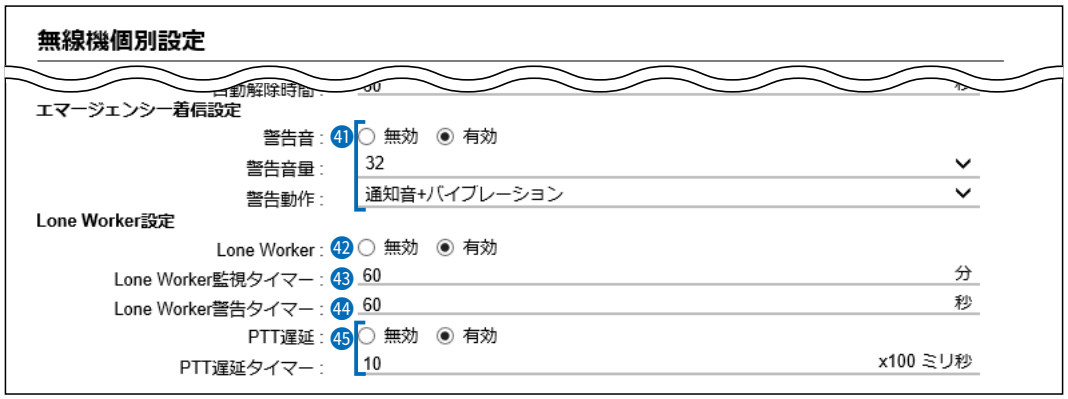
緊急呼び出しが動作してから一定時間経過すると、緊急呼び出しが解除されます。　(初期設定：無効)
「1～255」秒の範囲で設定します。

6　無線機コントローラー設定

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



※説明のため、[Lone Worker]（㊷）欄を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

㊶ 警告音 ……
緊急呼び出し機能有効時

緊急呼び出しを受信すると、警告音（ピロピロ…）が鳴動します。
音量を、「0」～「32」の範囲で設定します。
（初期設定： 警告音→有効
警告音量→32
警告動作→通知音+バイブレーション）
※［警告動作］欄では、緊急呼び出しを受信したときの動作を、「通知音」、「バイブレーション」、または「通知音+バイブレーション」から選択します。

㊷ Lone Worker ……
緊急呼び出し機能有効時

一定時間、無線機の操作がない場合、自動的に緊急呼び出しをする機能を設定します。（初期設定：無効）
※警備中など定期連絡を義務付けている場合に、何らかの事故が発生して連絡ができなかったときに便利な機能です。

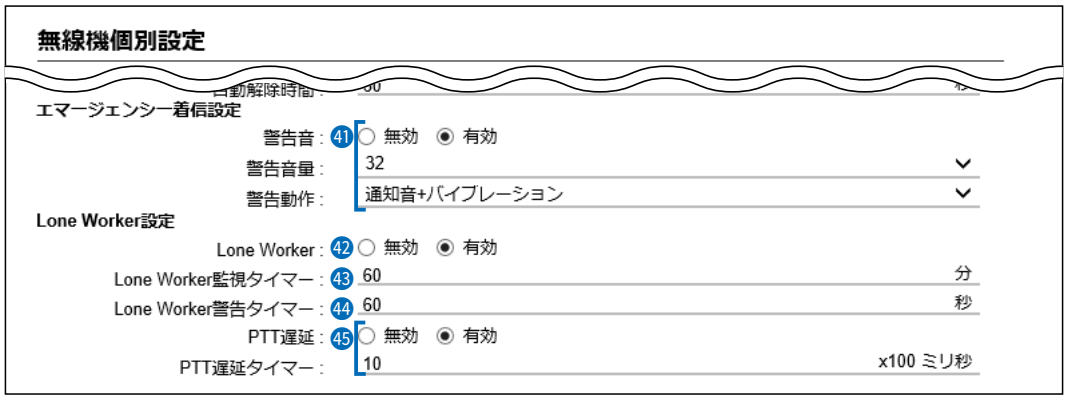
㊸ Lone Worker監視タイマー ……
Lone Worker機能有効時

一定時間、無線機の操作がないと認識するまでの時間を設定します。
※設定できる範囲は、「1～255」分です。（初期設定：60）
※無線機の操作がないと認識されると、「ピッ」と1回鳴って、［LoneWorker警告タイマー］（㊹）が動作します。
※無線機を操作すると、Lone Worker監視タイマーがリセットされます。

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



※説明のため、[Lone Worker]（㊷）欄を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

㊹ Lone Worker警告タイマー……
Lone Worker機能有効時

[Lone Worker監視タイマー]（㊸）欄で設定した時間を経過後、自動的に緊急呼び出し機能を開始するまでの時間を設定します。　（初期設定：60）
Lone Worker警告タイマーで設定した時間が経過しても無線機の操作がないときは、自動的に緊急呼び出しを開始します。
※設定できる範囲は、「1～255」秒です。
※緊急呼び出し機能が動作するまでに、無線機を操作すると、Lone Worker監視タイマーとLone Worker警告タイマーがリセットされます。
※Lone Worker警告タイマー動作中は、2秒ごとに「ピッ」と鳴ります。

㊺ PTT遅延 ……
Lone Worker機能有効時

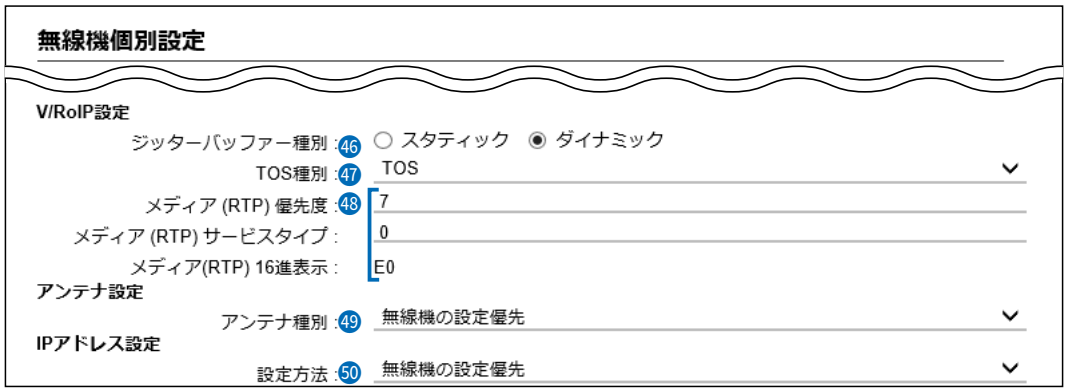
Lone Worker監視タイマーとLone Worker警告タイマーが動作中に、[PTT]（送信）スイッチを押しつづけたとき、送信されるまでの時間を設定します。
（初期設定：有効（10））
※時間を長く設定することで、[PTT]（送信）スイッチを押しても、送信されることなく、Lone Worker監視タイマーとLone Worker警告タイマーがリセットできます。
※設定できる範囲は、「1～255」x100ミリ秒です。
※[PTT]（送信）スイッチを設定した時間以上押しつづけると、送信状態になります。

ご注意
本製品は、高度な信頼性が必要な用途に使用されることを目的とした製品ではありません。
電池の消耗や電波環境、無線アクセスポイントやネットワークの状態など、周囲の環境によって、通信できないことがあります。
緊急呼び出し機能、およびLone Worker機能は、補助的な使用を目的とした機能としてご理解ください。

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



46 ジッターバッファー種別 ……

IP100Hが音声を受信したときに、パケットの揺らぎによる音声途切れを軽減するために使用するジッターバッファーを、「スタティック」、「ダイナミック」から選択します。（初期設定：ダイナミック）

◎スタティック

音声を受信したとき、[ジッターバッファーサイズ]欄で設定した時間で音声データを蓄えます。

設定できる範囲は、「20」(ミリ秒)～「500」(ミリ秒)です。

設定する時間が短いほど遅延は少なくなりますが、音声が途切れやすくなります。

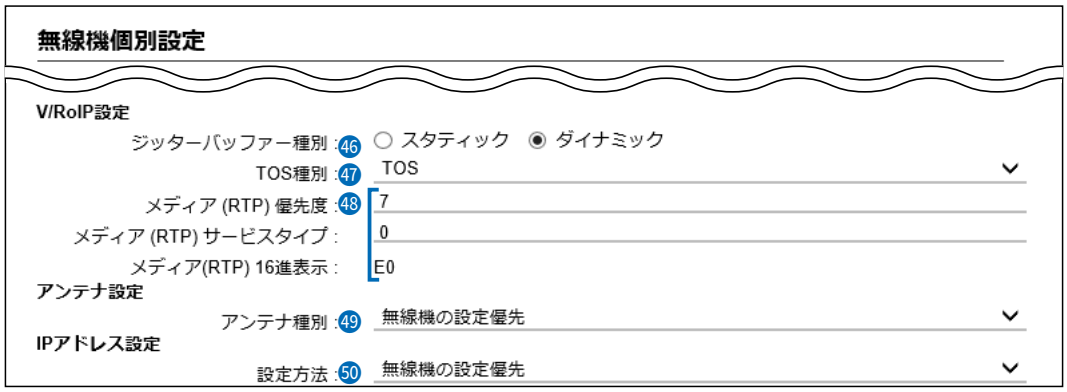
◎ダイナミック

音声を受信したとき、揺らぎに応じて音声データを蓄える時間が変動します。

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



47 TOS種別 …… IP100HのTOS機能について設定します。（初期設定：TOS）

◎使用しない

TOS機能を使用しません。

◎TOS

TOS(Type Of Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。
RFC1349に準拠して、1ビット～ 3ビットを優先度、4ビット～7ビットをサービスタイプとして、10進数で設定します。
残りの1ビットは、未使用フィールドとして、0に固定されています。
優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

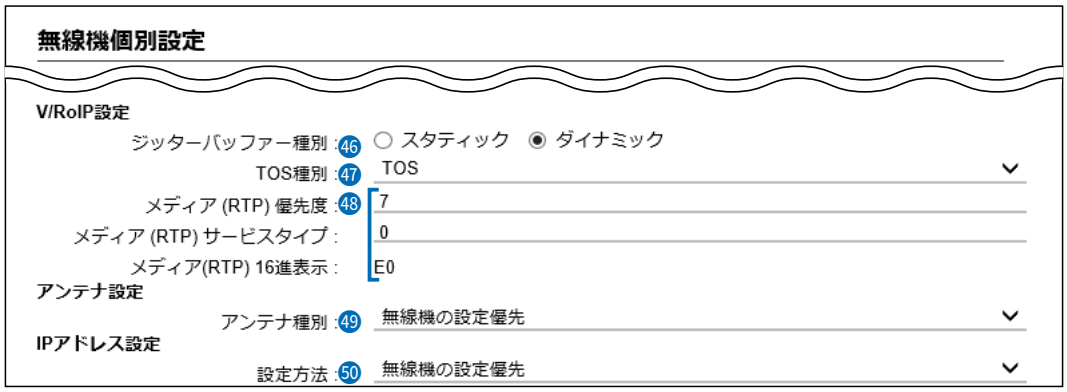
◎Diffserv

Diffserv(Differentiated Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。
1ビット～ 6ビットをDSCPとして、10進数で設定します。
残りの2ビットは、未使用フィールドとして、0に固定されています。

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



㊽ メディア(RTP) ……

TOSフィールド内に出力された音声パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

※[TOS種別](㊼)欄で「使用しない」を選択したときは表示されない項目です。

◎優先度

TOSの優先度フィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～7」(10進数)です。 (初期設定：7)

優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎サービスタイプ

TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。

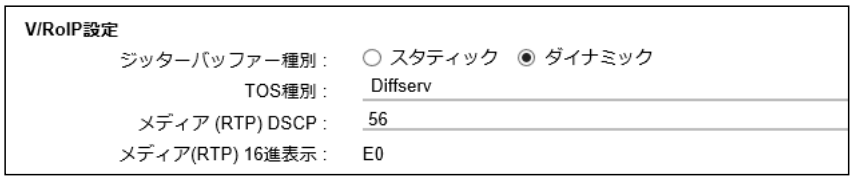
設定できる範囲は、「0 ～15」(10進数)です。 (初期設定：0)

◎DSCP

DSCP(Differentiated Services Code Point)の値を設定します。

設定できる範囲は、「0～63」(10進数)です。 (初期設定：56)

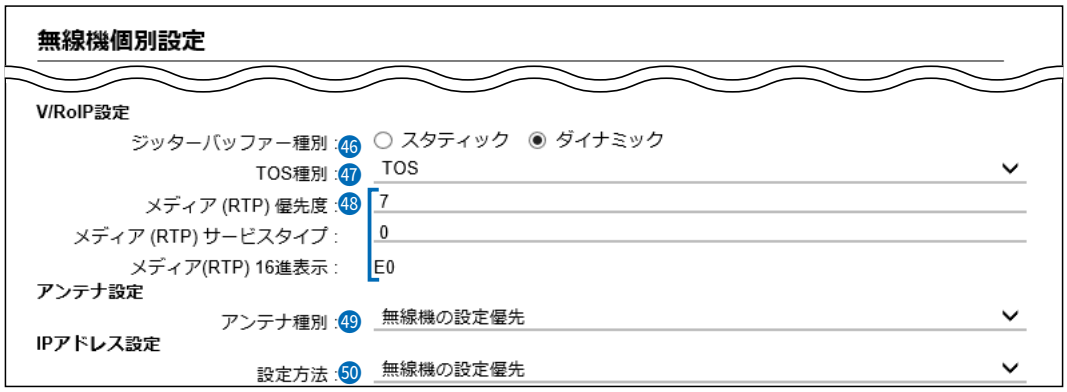
※[TOS種別](㊼)欄で「Diffserv」を選択したときに、表示される項目です。



「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



49 アンテナ種別 ……

IP100Hで使用するアンテナについて設定します。

（初期設定：無線機の設定優先）

◎無線機の設定優先

導入時は、CS-IP100Hで設定された内容を使用しますが、本製品で変更した場合は、その設定内容で動作するようになります。

◎内部アンテナ

下記のようなときに、IP100Hの内部アンテナを使用します。

◎IP100Hから送信される電波が届く範囲を狭めたいとき

◎通信エリアを制限してセキュリティーを高めたいとき

◎突起物がない状態で使いたいとき

◎外部アンテナ

送信される電波を広範囲に届けたいときに、外部アンテナ（IP100H付属品）を接続して使用します。

※IP100Hの内部アンテナは、外部アンテナに比べて、通信距離が短くなります。

※設置する環境や条件などにより、通信距離は異なります。

50 設定方法 ……

IP100HのIPアドレスに関する設定をします。

（初期設定：無線機の設定優先）

◎無線機の設定優先

導入時は、CS-IP100Hで設定された内容を使用しますが、本製品で変更した場合は、その設定内容で動作するようになります。

◎DHCPクライアント

DHCPサーバーからIPアドレスを自動取得するときに使用します。

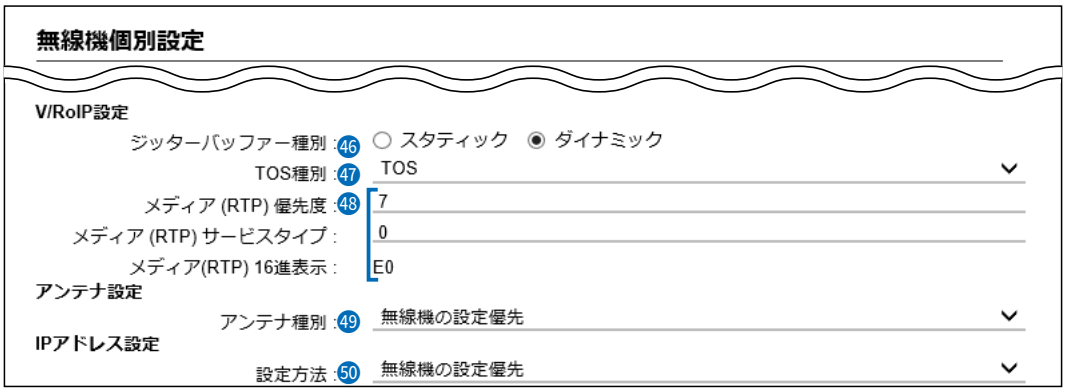
※必要に応じて、プライマリーDNSサーバー、セカンダリーDNSサーバーを設定してください。

6 無線機コントローラー設定

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

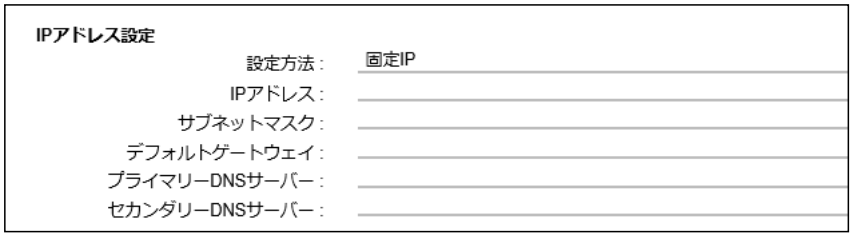
■ 無線機個別設定



50 設定方法 ……

◎固定IP

固定IPアドレスを割り当てるときに使用します。
ご利用になるネットワーク環境に応じて設定してください。

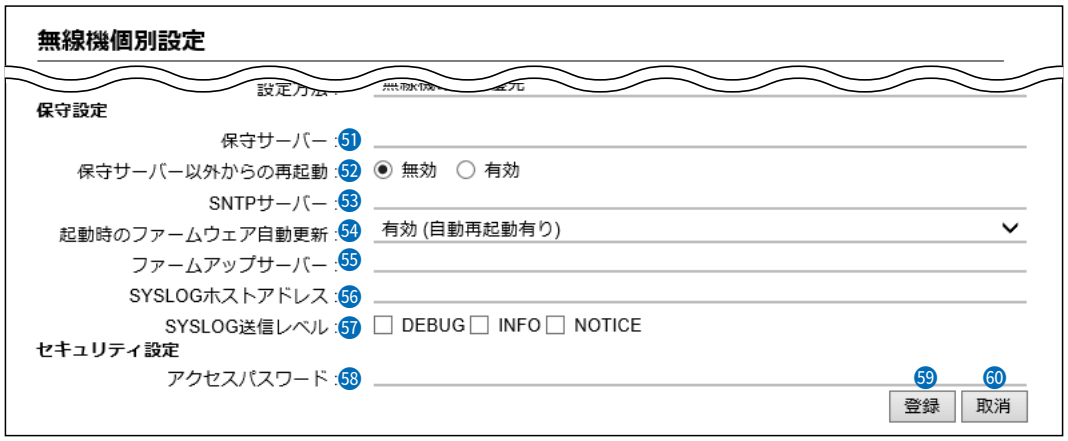


※ネットワーク部が異なる接続先と通信する場合、パケット転送先機器のIPアドレスをデフォルトゲートウェイに入力します。
※必要に応じて、プライマリーDNSサーバー、セカンダリーDNSサーバーを設定してください。

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



51 保守サーバー ……

IP100Hの保守サーバーに指定する機器のIPアドレス、またはホスト名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
※本製品を保守サーバーとして使用する場合は、この欄を設定する必要はありません。

52 保守サーバー以外からの再起動

保守サーバー(51)として指定した機器以外から、IP100Hを再起動させるかどうかを設定します。 (初期設定：無効)
※2019年5月現在、対応機種はVE-PG4、IP1000C、AP-9500です。

53 STNPサーバー ……

IP100HのSNTPサーバーに指定する機器のIPアドレスを入力します。
※本製品をSNTPサーバーとして使用する場合は、この欄を設定する必要はありません。

54 起動時のファームウェア自動更新 ……

本製品からIP100Hのファームウェアを自動更新するための設定です。
(初期設定：有効(自動再起動有り))

◎無効
本製品によるIP100Hのファームウェア自動更新を無効にします。

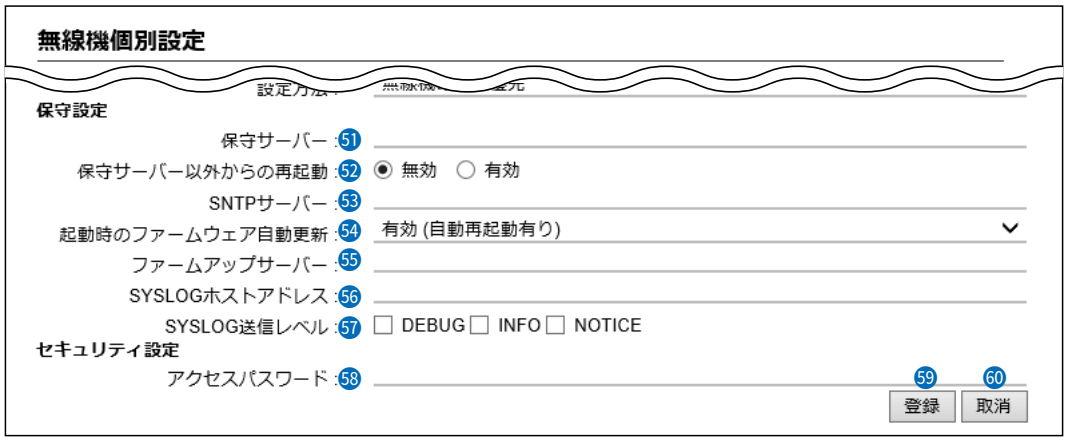
◎有効(自動再起動無し)
IP100Hの電源を入れたとき、本製品に内蔵しているファームウェアを確認し、更新する内容がある場合、IP100Hはファームウェアを取得します。
IP100Hの電源を入れなおすと、ファームウェアの更新を開始します。

◎有効(自動再起動有り)
IP100Hの電源を入れたとき、本製品に内蔵しているファームウェアを確認し、更新する内容がある場合、IP100Hはファームウェアの更新を開始します。
更新が完了すると、自動的にIP100Hが再起動します。
※本製品に内蔵しているIP100Hのファームウェアのバージョン情報は、「TOP」メニューで確認できます。

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定



55 ファームアップサーバー …… IP100Hのファームアップサーバーに指定する機器のIPアドレス、またはホスト名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
※本製品をファームアップサーバーとして使用する場合は、この欄を設定する必要はありません。

56 SYSLOGホストアドレス …… IP100HのSYSLOGサーバーに指定する機器(ホスト)のIPアドレスを入力します。
※ホストは、SYSLOGサーバー機能に対応している必要があります。

57 SYSLOG送信レベル …… [SYSLOGホストアドレス](56)欄に入力したホストへ送信するログ情報の各レベルを選択します。 (初期設定:☐ DEBUG ☐ INFO ☐ NOTICE)
ログ出力するレベルのチェックボックスをクリックして、チェックマーク[✔]を入れます。

58 アクセスパスワード …… CS-IP100H★から、書き込み、読み込み、ファームウェア更新をする場合の認証用パスワードを、半角16文字以内で設定します。
★CS-IP100Hは、IP100Hの無線LANや保守サーバーを設定できるソフトウェアです。
弊社ホームページからダウンロードできます。

59 〈登録〉 …… [無線機個別設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[無線機個別設定一覧]項目に内容の一部が表示されます。

60 〈取消〉 …… [無線機個別設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「無線機個別」画面

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定コピー

[無線機個別設定]項目で登録した無線機の設定内容をほかの無線機にコピーできます。
※IPアドレス設定はコピーされません。

※画面の値は、設定例です。

❶ 選択ボックス …… ボックスにチェックマークを入れて、コピー先の無線機を選択します。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。

❷〈コピー〉 …… クリックすると、コピー元無線機(上図：0101)の[無線機個別設定]項目に表示されている登録内容が、選択した個別番号の無線機(❶)にコピーされます。

❸〈取消〉 …… クリックすると、[選択ボックス](❶)欄のチェックマークが解除されます。
※〈コピー〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

無線機コントローラー設定 > 無線機設定 > 無線機個別

■ 無線機個別設定一覧

[無線機個別設定]項目で登録した内容の一部が表示されます。
登録内容を編集、確認するときは、[無線機個別設定]項目で[個別番号(名前)]を選択します。

機種	名前	個別番号	アドレス帳からの呼出	近隣呼出	メッセージ	プレゼンス	オプションキー
IP100H	営業1	0101	有効	有効	有効	有効	無効
IP100H	営業2	0102	有効	有効	有効	有効	無効
IP100H	営業3	0103	有効	有効	有効	有効	無効

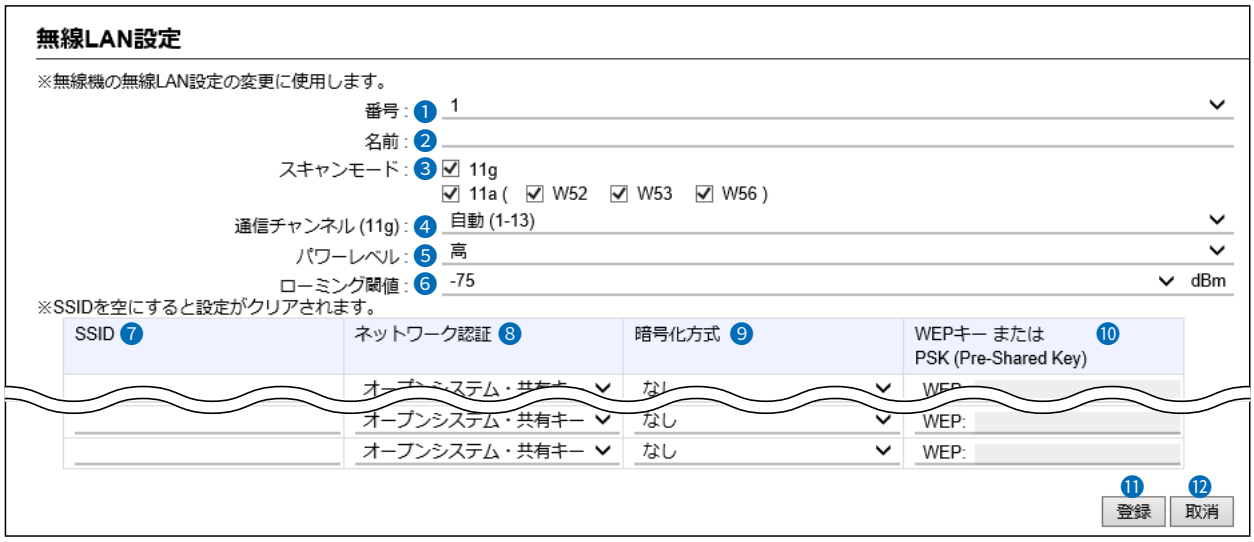
※画面の値は、設定例です。

「無線LAN」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ > 無線LAN

■ 無線LAN設定

IP100Hの無線LANに関する共通項目の設定を登録します。
※「設定グループ詳細」画面で、IP100Hが所属する設定グループごとに、無線LAN設定を指定できます。
※設定内容を変更した場合は、IP100Hの再起動が必要です。



❶ 番号 …… IP100Hが所属する設定グループで共用する無線LAN設定を登録する番号を選択します。（初期設定：1）
最大20件まで登録できます。

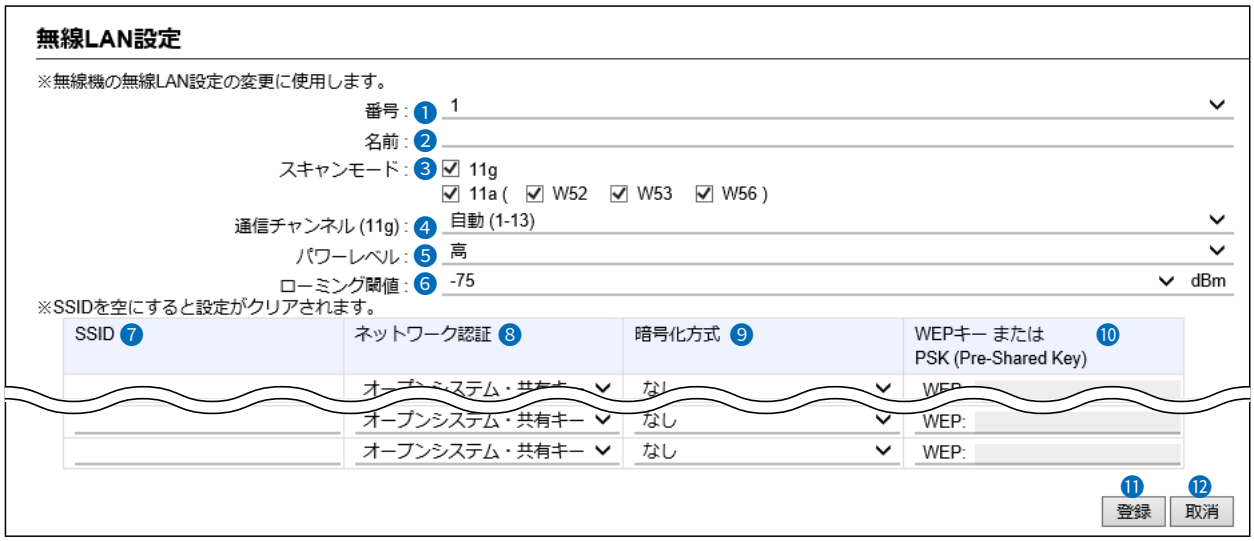
❷ 名前 …… 任意の名称を、31文字以内で入力します。（初期設定：空白(なし)）

❸ スキャンモード …… IP100Hで使用する無線LAN規格を設定します。
ここで設定した無線LAN規格の無線アクセスポイントに接続すると、通信できます。（初期設定：☑ 11g、☑ 11a(☑ W52 ☑ W53 ☑ W56)）
※チェックマークを入れた無線LAN規格のチャンネルが、自動設定するチャンネルの検索範囲になります。
※5.2/5.3GHz帯無線LANの使用は、電波法により、屋内に限定されます。5GHz帯を屋外で使用される場合は、11a(W56)だけにチェックマークを入れてください。

「無線LAN」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ > 無線LAN

■ 無線LAN設定



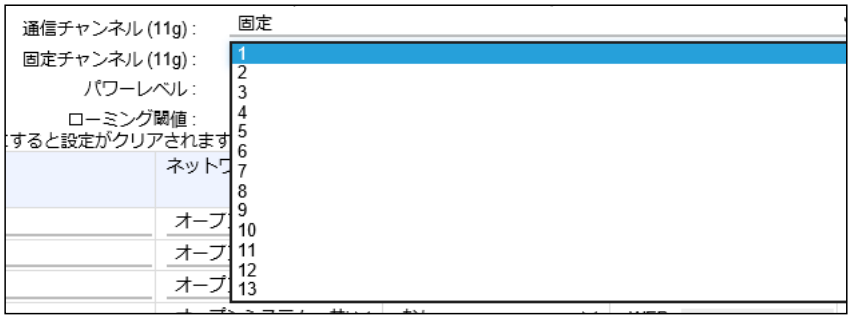
❹ 通信チャンネル(11g) ……

IP100Hで2.4GHz帯(11g)を使用する場合に、スキャンするチャンネルを設定します。（初期設定：自動(1-13)）

「自動(1-13)」、「自動(1,5,9,13)」、「固定」から選択します。

【特定のチャンネルを指定する場合は】

[通信チャンネル(11g)]欄で「固定」を選択して、[固定チャンネル(11g)]欄から使用するチャンネル(1～13)を指定します。



❺ パワーレベル ……

IP100Hの送信出力を、高/中/低(3段階)の中から選択します。（初期設定：高）

IP100Hの最大伝送距離は、パワーレベルが「高」の場合です。

パワーレベルを低くすると、伝送距離も短くなります。

【パワーレベルを低くする目的について】

◎IP100Hから送信される電波が広範囲に届くのを軽減したいとき

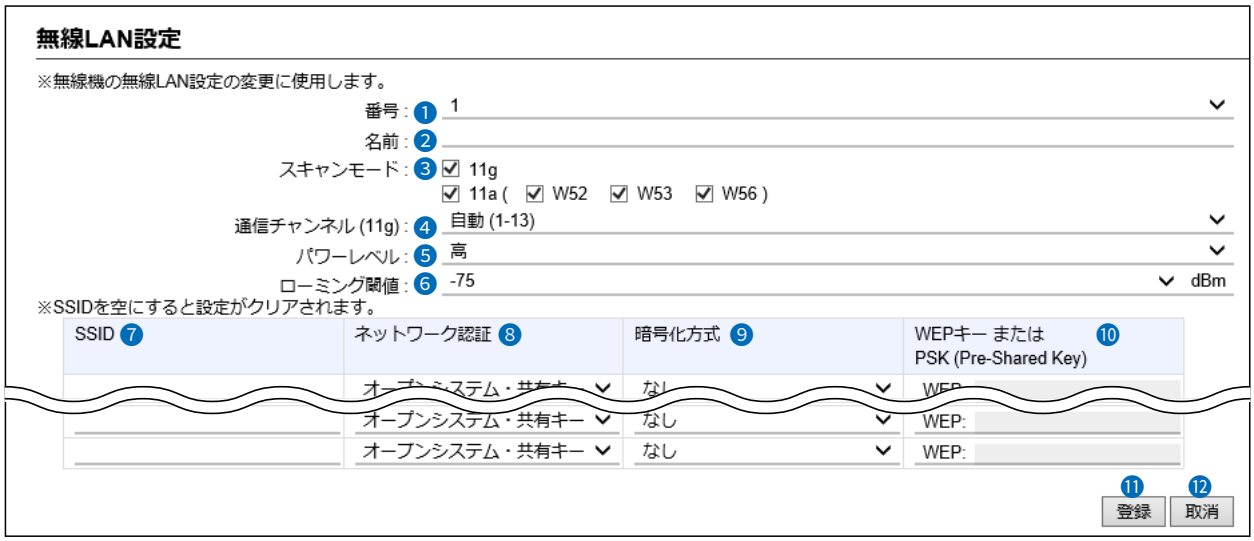
◎通信エリアを制限してセキュリティーを高めたいとき

◎比較的狭いエリアに複数台の無線アクセスポイントが設置された環境で、近くの無線LAN機器との電波干渉をなくして、通信速度の低下などを軽減したいとき

「無線LAN」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ > 無線LAN

■ 無線LAN設定



❻ ローミング閾値 ……

IP100Hがローミングを開始する受信信号強度を、「-1」～「-100」(dBm)から選択します。 (初期設定：-75)
設定値が大きい(例：-65)ほどローミングしやすく、設定値が小さい(例：-85)ほどローミングしにくくなります。

❼ SSID……

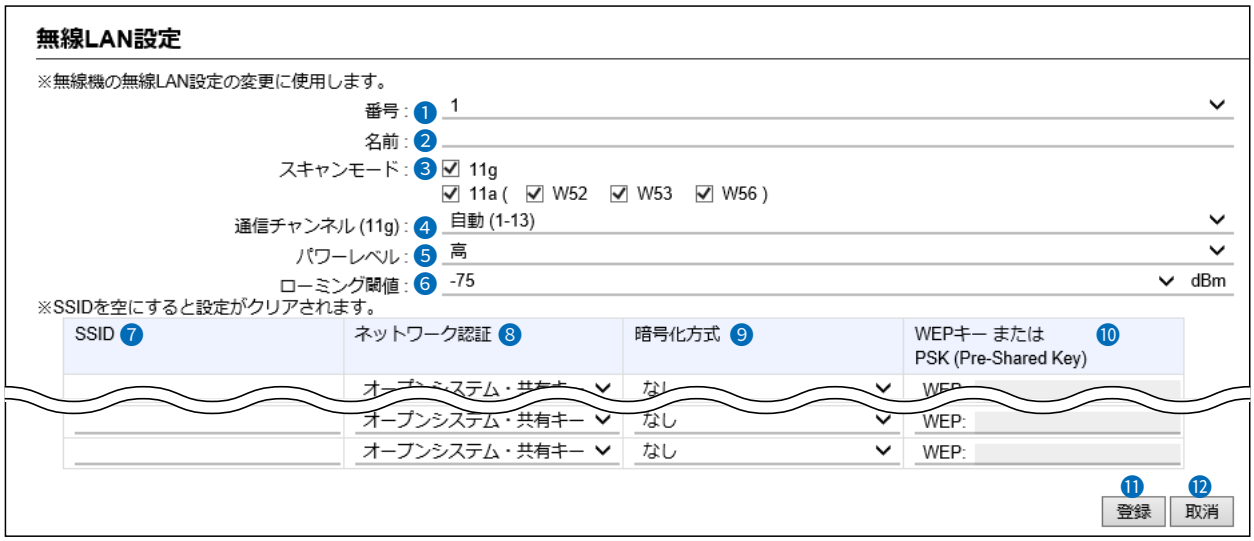
無線アクセスポイントに設定されたSSID(無線ネットワーク名)を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の半角英数字32文字以内で入力します。
※最大10件のSSIDを登録できます。
※[SSID]は、無線ネットワークのグループ分けをするために使用します。[SSID]の異なる無線LAN機器とは接続できません。
※無線アクセスポイントが無線伝送エリア内に複数存在しているような場合、個々の無線ネットワークグループを[SSID]で識別できます。
※複数の[SSID]を登録した場合、IP100Hは電波が強い無線アクセスポイントを自動で選択し、接続します。
※弊社以外の無線LAN機器では[ESSID]と表記されている場合があります。[SSID]と[ESSID]は、同じ意味で使用しています。

ご注意
次のような場合、無線LAN設定の登録はできません。
◎[SSID](❼)と[暗号化方式](❾)の組み合わせが重複する場合
◎先頭のSSIDが、他の無線LAN設定([番号](❶)が異なる設定)と重複する場合

「無線LAN」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ > 無線LAN

■ 無線LAN設定



8 ネットワーク認証 ……

無線アクセスポイントに設定されたネットワーク認証方式を選択します。
（初期設定：オープンシステム・共有キー）

※異なる認証方式の相手とは互換性がありませんので、通信する無線アクセスポイントと同じ設定にしてください。

【認証方式について】

◎**オープンシステム･共有キー**：
無線アクセスポイントにアクセスするとき、「オープンシステム」と「共有キー」を自動認識しますので、無線アクセスポイントと暗号鍵（キー）が同じであれば通信できます。

◎**オープンシステム**：
無線アクセスポイントにアクセスするとき、暗号鍵（キー）の認証をしません。

◎**WPA-PSK･WPA2-PSK**：
「WPA-PSK」認証と「WPA2-PSK」認証を自動認識します。

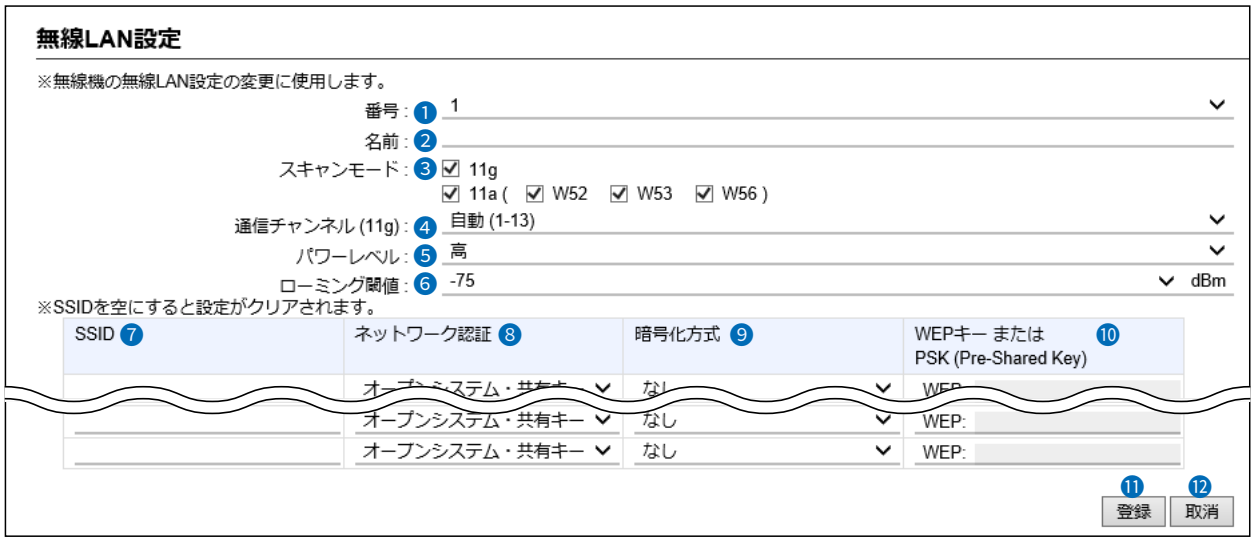
【ネットワーク認証と暗号化方式の対応について】

	オープンシステム	オープンシステム･共有キー	WPA-PSK WPA2-PSK
なし	○	○	×
WEP RC4	○	○	×
TKIP･AES	×	×	○

「無線LAN」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ > 無線LAN

■ 無線LAN設定



❾ 暗号化方式 ……

無線アクセスポイントに設定された暗号化方式を選択します。

（初期設定：なし）

対応する暗号化方式は、「WEP RC4」、「TKIP・AES」です。

※異なる暗号化方式の相手とは互換性がありませんので、通信する無線アクセスポイントと同じ設定にしてください。

【暗号化方式について】

◎なし

データを暗号化しないで通信します。

※[ネットワーク認証](❽)欄で、「オープンシステム･共有キー」、または「オープンシステム」を選択したときに使用できます。

※IEEE802.11n/a/g/b規格に準拠します。

◎WEP RC4

暗号鍵(キー)が一致した場合に、通信できる暗号化方式です。

※暗号鍵(キー)の長さは、64(40)/128(104)ビットの中から選択できます。

※[ネットワーク認証](❽)欄で、「オープンシステム･共有キー」、または「オープンシステム」を選択したときに使用できます。

※IEEE802.11a/g/b規格に準拠します。

◎TKIP･AES

無線LAN端末からのアクセスに対して、「TKIP」と「AES」を自動認識します。

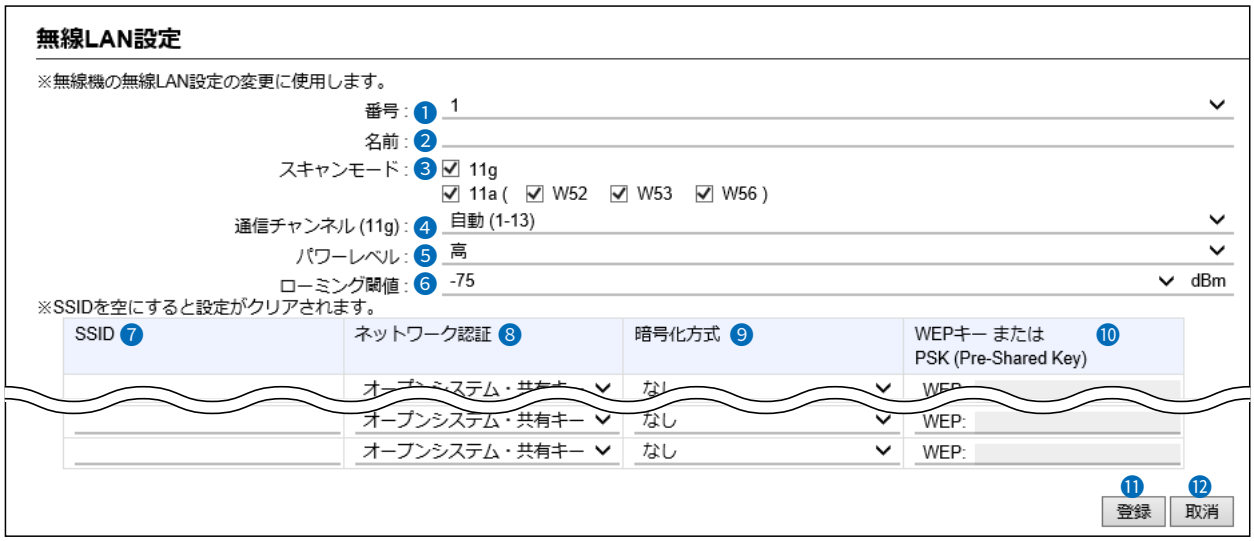
※[ネットワーク認証](❽)欄で、「WPA-PSK･WPA2-PSK」を選択したときに使用できます。

※「AES」が認識されたときだけ、IEEE802.11n規格で通信できます。

「無線LAN」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ > 無線LAN

■ 無線LAN設定



⑩ WEPキーまたは PSK(Pre-Shared Key) ……

【WEPキーについて】

無線アクセスポイントに設定された暗号鍵(キー)を入力します。

ネットワーク認証	暗号化方式	WEPキー または PSK (Pre-Shared Key)
オープンシステム・共有キー	WEP RC4 64 (40)	WEP: 0000000000

※[ネットワーク認証](⑧)欄で、「オープンシステム・共有キー」、または「オープンシステム」を選択したときに設定できます。

※「0～9」、および「a～f(またはA～F)」の16進数、またはASCII文字で、半角入力してください。

※入力する暗号鍵(キー)の桁数は、[暗号化方式](⑨)欄を設定したとき表示される桁数(10桁の表示例 : 0000000000)と同じに設定してください。ASCII文字で入力する場合は、16進数の半分(例 : 5文字)で入力してください。

【PSK(Pre-Shared Key)について】

無線アクセスポイントで設定した共有鍵(キー)を半角英数字で入力します。

ネットワーク認証	暗号化方式	WEPキー または PSK (Pre-Shared Key)
WPA-PSK・WPA2-PSK	TKIP・AES	PSK: 00000000

※[ネットワーク認証](⑧)欄で、「WPA-PSK・WPA2-PSK」を選択したときに設定できます。

※同じ暗号化方式を使用する相手と、同じ共有鍵(キー)を設定してください。

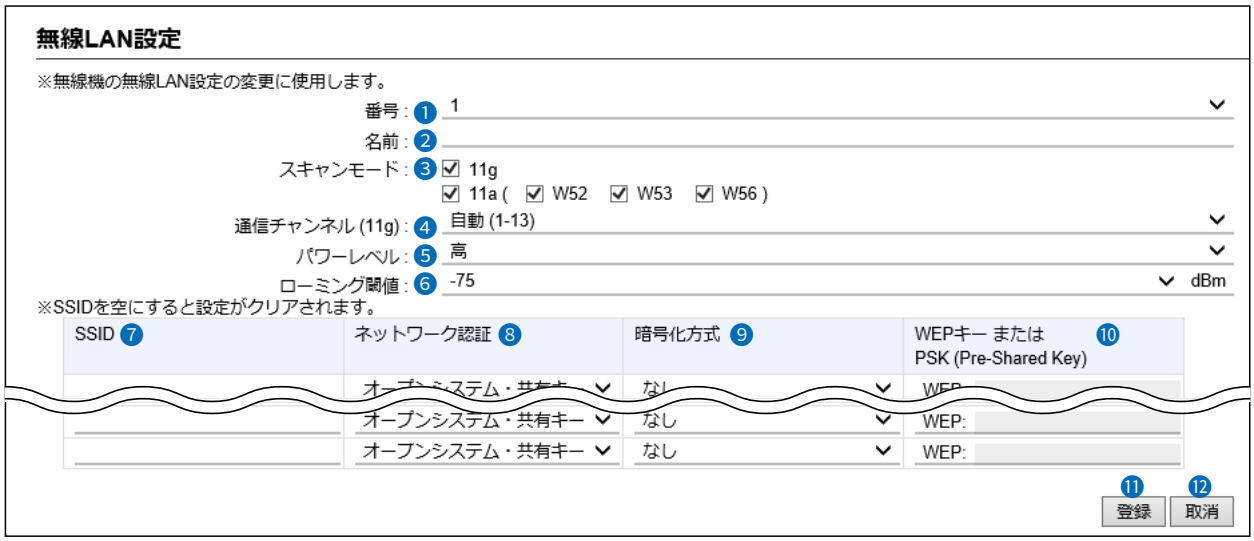
※16進数で設定するときは、64桁を入力してください。

※ASCII文字で設定するときは、大文字/小文字の区別に注意して、8文字～63文字を入力してください。

「無線LAN」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ > 無線LAN

■ 無線LAN設定



⓫〈登録〉 …… [無線LAN設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[無線LAN設定一覧]項目に表示されます。

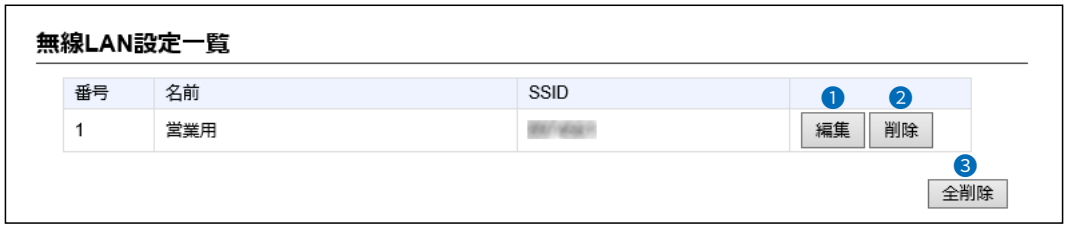
⓬〈取消〉 …… [無線LAN設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「無線LAN」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ > 無線LAN

■ 無線LAN設定一覧

[無線LAN設定]項目で登録した内容が表示されます。



※画面の値は、設定例です。

❶〈編集〉 …… クリックすると、登録内容を編集できます。
編集内容は、[無線LAN設定]項目に表示されます。

❷〈削除〉 …… クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。

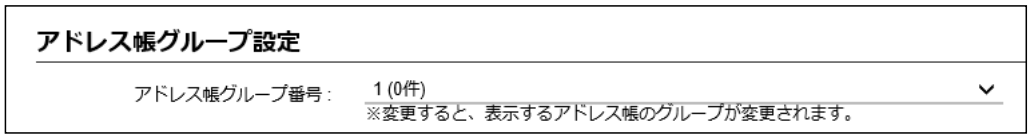
❸〈全削除〉 …… クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

「アドレス帳」画面

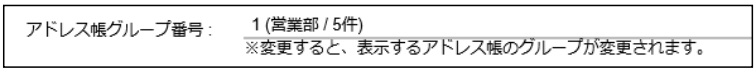
無線機コントローラー設定 > 設定グループ > アドレス帳

■ アドレス帳グループ設定

IP100Hが使用するアドレス帳を登録するときに使用します。
※「設定グループ詳細」画面で、IP100Hが所属する設定グループごとに、アドレス帳を指定できます。
※設定内容を変更した場合は、IP100Hの再起動が必要です。



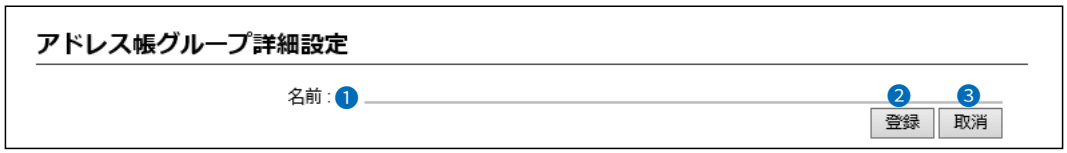
アドレス帳グループ番号……　IP100Hが使用するアドレス帳を登録する番号を選択します。
最大50件までグループを登録できます。
※グループに名前や呼出先番号が登録されているときは、下図のように表示されます。



無線機コントローラー設定 > 設定グループ > アドレス帳

■ アドレス帳グループ詳細設定

[アドレス帳グループ設定]項目で選択したグループに任意の名称を登録します。



❶ 名前 ……　任意の名称を、31文字以内で入力します。
※「アドレス帳」画面と「設定グループ詳細」画面で、グループを選択すると入力した名前が表示されます。

❷〈登録〉 ……　[アドレス帳グループ詳細設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

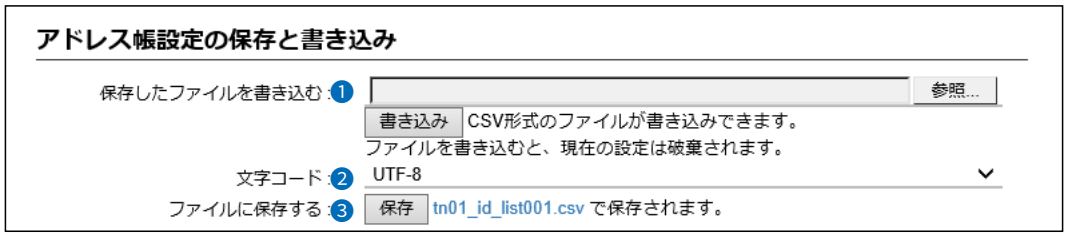
❸〈取消〉 ……　[アドレス帳グループ詳細設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「アドレス帳」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ > アドレス帳

■ アドレス帳設定の保存と書き込み

[アドレス帳グループ設定]項目で選択したグループのアドレス帳をファイルに保存したり、保存したファイルを本製品に書き込んだりします。
※設定内容を変更した場合は、IP100Hの再起動が必要です。



※上図は、[アドレス帳グループ設定]項目(P.6-61)でグループ番号「1」を選択したときの画面です。
グループに名前(例：営業部)が登録されているときは、[アドレス帳設定の保存と書き込み(営業部)]と表示されます。

❶ 保存したファイルを書き込む …

[ファイルに保存する](❸)欄の操作で保存したアドレス帳ファイル(拡張子：csv)の内容を本製品に書き込むとき使用します。
ファイルの保存先を指定するため、〈参照...〉をクリックします。
表示された画面で目的のファイルを選択して、〈開く(O)〉をクリックします。
テキストボックスに保存先を指定後、〈書き込み〉をクリックすると、[アドレス帳設定一覧]項目にその内容を書き込みます。
※書き込む前の内容は、消去されますのでご注意ください。
※「管理」メニューの「設定の保存/復元」画面で保存された設定ファイルを書き込むと、上書きされますのでご注意ください。
※[ファイルに保存する](❷)欄の操作で保存した状態のファイル、および6-63ページの書式で編集したファイル以外のインポートは、保証対象外になります。

❷ 文字コード ……

[ファイルに保存する](❸)欄で保存するファイルの文字コードを「UTF-8」、「Shift_JIS」から選択します。 (初期設定：UTF-8)

❸ ファイルに保存する ……

[アドレス帳設定一覧]項目に表示された内容をアドレス帳ファイルとして、パソコンに保存します。
〈保存〉をクリックして、表示された画面の〈保存(S)〉をクリックすると、アドレス帳ファイル(拡張子：csv)として保存できます。
※ファイル名は、[アドレス帳グループ設定]項目で選択したグループ番号に応じて変わります。
たとえば、テナント1のグループ1を選択したときのファイル名は、tn01_id_list001.csvになります。

「アドレス帳」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ > アドレス帳

■ アドレス帳設定の保存と書き込み

アドレス帳ファイルのインポートについて

保存した状態のファイル(P.6-62)、および下記条件で編集したファイル以外の書き込みは、保証対象外になります。

「アドレス帳ファイル」(拡張子:csv)の書式

	A	B	C	D	E	F	G
1	#文字コードの自動解析に使用しているため、コメント文は消さないでください。						
2	#	VE-PG4	アドレス帳設定	設定保存ファイル			
3	#	Firm Ver.					
4	#	File Ver.					
5	#グループ	営業部					
6	#番号	名前	呼出種別(indi=個別、group=グループ、tel=電話)	呼出先番号(個別、グループ)	呼出先番号(電話)	トークグループ	__
7	1	個別0001	indi	1		0	
8	2	個別0002	indi	2		0	
9	3	個別0003	indi	3		0	
10	4	グループ10	indi	10		0	
11	5	IP500H_11	indi	11		0	
12	6	IP500H_12	indi	12		0	
13	7	IP500H_13	indi	13		0	

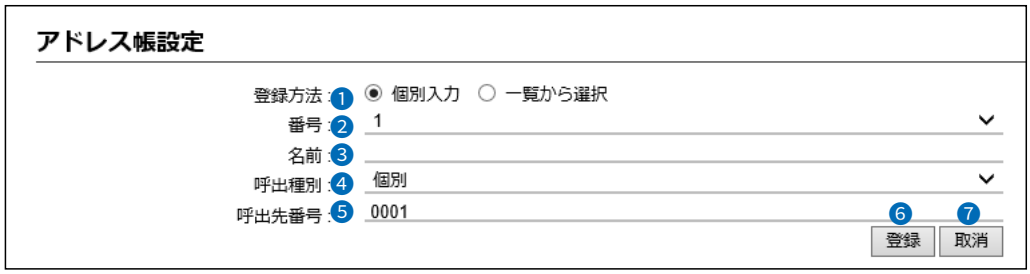
A列:グループ名:半角31(全角31)文字以内
　　番号:1～50　※重複しない番号を入力
B列:名前:半角32(全角16)文字以内
　　※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。
　　※環境依存文字を入力しないでください。
　　環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。
C列:呼出種別:個別 indi、グループ group、電話 tel
D列:呼出先番号(個別、グループ):半角数字4桁
E列:呼出先番号(電話):半角数字/記号(#、*)31桁以内
F列:トークグループ:無効 0、有効 1

「アドレス帳」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ > アドレス帳

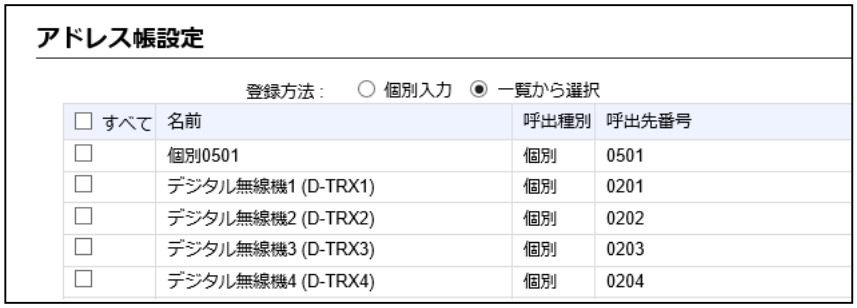
■ アドレス帳設定

[アドレス帳グループ設定]項目で選択したグループにアドレス帳を登録します。
※グループごとに、最大50件まで登録できます。
※[登録方法]欄で「個別入力」を選択したときの画面です。
※グループに名前(例：営業部)が登録されているときは、[アドレス帳設定(営業部)]と表示されます。



❶ 登録方法 ……

アドレス帳に通話相手を登録する方法を、「個別入力」、「一覧から選択」から選択します。



※「一覧から選択」をクリックすると、「無線機追加」画面や「呼出先設定」画面で登録した呼出先番号が一覧で表示されます。(上図参照)
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
※「一覧から選択」から選択する場合、半角31(全角16)を超える名前は登録できません。

❷ 番号 ……

個別入力時、アドレス帳に通話相手を登録する番号を選択します。
最大50件まで登録できます。

❸ 名前 ……

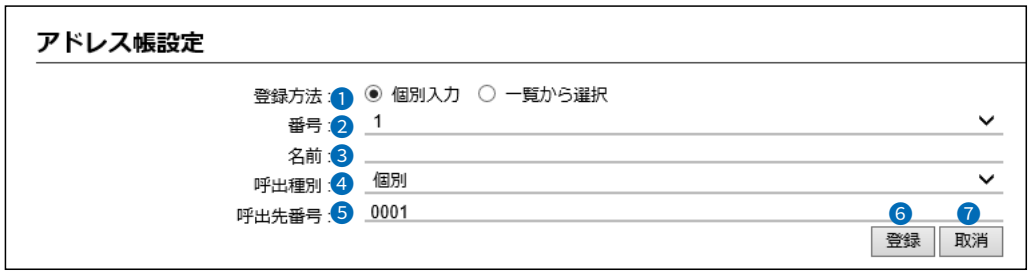
個別入力時、任意の名称を、半角32(全角16)文字以内で入力します。
※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。
※環境依存文字を入力しないでください。
環境依存文字を使用すると、IP100H の画面で正常に表示されません。

「アドレス帳」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ > アドレス帳

■ アドレス帳設定

※[登録方法]欄で「個別入力」を選択したときの画面です。
※グループに名前(例：営業部)が登録されているときは、[アドレス帳設定(営業部)]と表示されます。



❹ 呼出種別 …… 個別入力時、通話相手の種別を、「個別」、「グループ」、「トークグループ」、「電話」から選択します。

❺ 呼出先番号 …… 個別入力時、個別番号、グループやトークグループの番号を4桁の数字で入力します。
※[呼出種別](❹)欄で「電話」を選択したときは、相手先の電話番号を31桁以内の数字/記号(#、＊)で入力します。

❻〈登録〉 …… [アドレス帳設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[アドレス帳設定一覧]項目に表示されます。

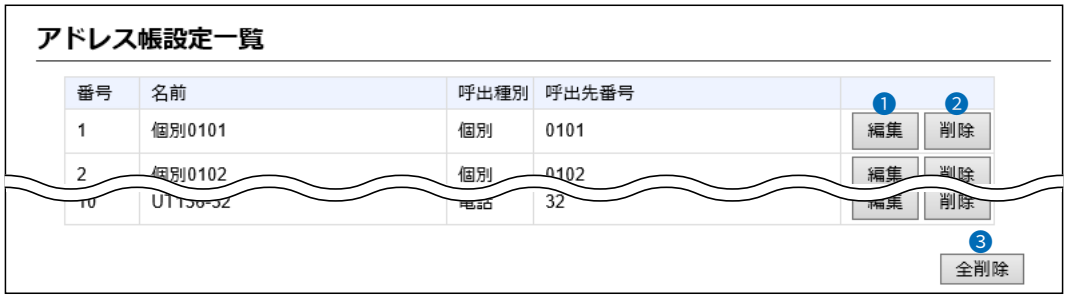
❼〈取消〉 …… [アドレス帳設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「アドレス帳」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ > アドレス帳

■ アドレス帳設定一覧

[アドレス帳設定]項目で登録した内容が表示されます。



※画面の値は、登録例です。
※グループに名前(例：営業部)が登録されているときは、[アドレス帳設定一覧(営業部)]と表示されます。

❶〈編集〉 …… クリックすると、その行の登録内容を編集できます。編集内容は、[アドレス帳設定]項目に表示されます。

❷〈削除〉 …… クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。

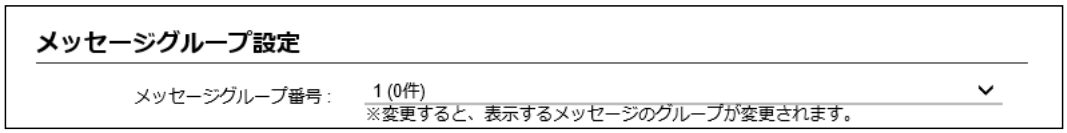
❸〈全削除〉 …… クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

「メッセージ」画面

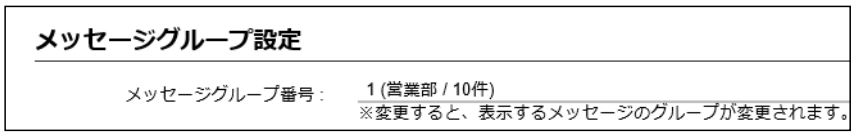
無線機コントローラー設定 > 設定グループ > メッセージ

■ メッセージグループ設定

IP100Hが送信するメッセージを登録するときに使用します。
※「設定グループ詳細」画面で、IP100Hが所属する設定グループごとに、メッセージグループを指定できます。
※設定内容を変更した場合は、IP100Hの再起動が必要です。



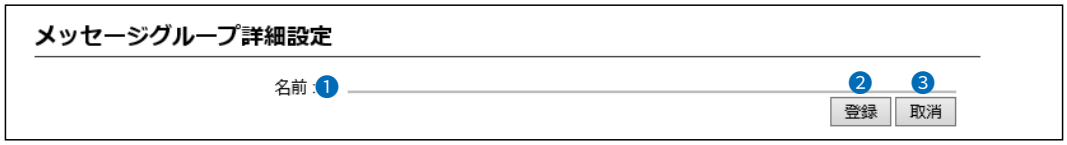
メッセージグループ番号……　IP100Hが使用するメッセージを登録するために、「1」～「50」の番号を選択します。
最大50件までグループを登録できます。
※グループに名前やメッセージが登録されているときは、下図のように表示されます。



無線機コントローラー設定 > 設定グループ > メッセージ

■ メッセージグループ詳細設定

[メッセージグループ設定]項目で選択したグループに任意の名称を登録します。



❶ **名前** …… 任意の名称を、31文字以内で入力します。
※「メッセージ」画面と「設定グループ詳細」画面で、グループを選択すると入力した名前が表示されます。

❷ **〈登録〉** …… [メッセージグループ詳細設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

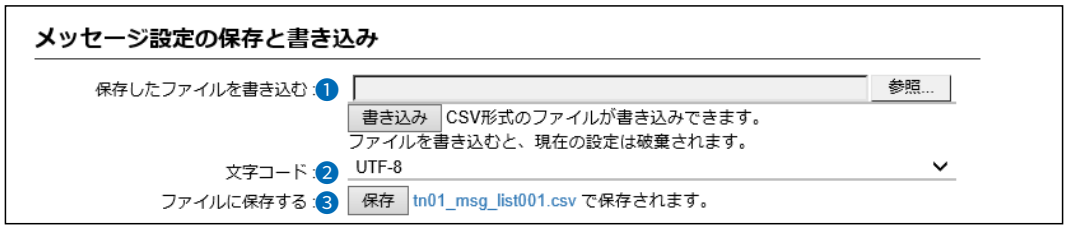
❸ **〈取消〉** …… [メッセージグループ詳細設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「メッセージ」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ > メッセージ

■ メッセージ設定の保存と書き込み

[メッセージグループ設定]項目で選択したグループのメッセージをファイルに保存したり、保存したファイルを本製品に書き込んだりします。
※設定内容を変更した場合は、IP100Hの再起動が必要です。



※画面は、[メッセージグループ設定]項目(P.6-67)でグループ番号「1」を選択したときの画面です。
※グループに名前(例：営業部)が登録されているときは、[メッセージ設定の保存と書き込み(営業部)]と表示されます。

❶ 保存したファイルを書き込む …

[ファイルに保存する](❸)欄の操作で保存したメッセージファイル(拡張子：csv)の内容を本製品に書き込むとき使用します。
ファイルの保存先を指定するため、〈参照...〉をクリックします。
表示された画面で目的のファイルを選択して、〈開く(O)〉をクリックします。
テキストボックスに保存先を指定後、〈書き込み〉をクリックすると、[メッセージ設定]項目にその内容を書き込みます。
※書き込む前の内容は、消去されますのでご注意ください。
※「管理」メニューの「設定の保存/復元」画面で保存された設定ファイルを書き込むと、上書きされますのでご注意ください。

❷ 文字コード ……

[ファイルに保存する](❸)欄で保存するファイルの文字コードを「UTF-8」、「Shift_JIS」から選択します。 (初期設定：UTF-8)

❸ ファイルに保存する ……

[メッセージ設定]項目に表示された内容をメッセージファイルとして、パソコンに保存します。
〈保存〉をクリックして、表示された画面の〈保存(S)〉をクリックすると、メッセージファイル(拡張子：csv)として保存できます。
※ファイル名は、[メッセージグループ設定]項目で選択したグループ番号に応じて変わります。
たとえば、テナント1のグループ1を選択したときのファイル名は、tn01_msg_list001.csvになります。

「メッセージ」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ > メッセージ

■ メッセージ設定の保存と書き込み

メッセージファイルのインポートについて

保存した状態のファイル(P.6-68)、および下記条件で編集したファイル以外の書き込みは、保証対象外になります。

「メッセージファイル」(拡張子:csv)の書式

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	#文字コードの自動解析に使用しているため、コメント文は消さないでください。							
2	#	VE-PG4	メッセージ設定保存ファイル					
3	#	Firm Ver.						
4	#	File Ver.						
5	#グループ	営業部						
6	#番号	定型文メッセージ						
7	1	至急集合してください。						
8	2	メッセージを送りました。						
9	3	メッセージを確認してください。						
10	4	問題ないですか。						
11	5	返信をお願いします。						
12	6	至急返信をお願いします。						
13	7	解散してください。						
14	8	作業が完了次第、戻ってください。						
15	9	荷物が届きました。						
16	10	作業が終わりました。						

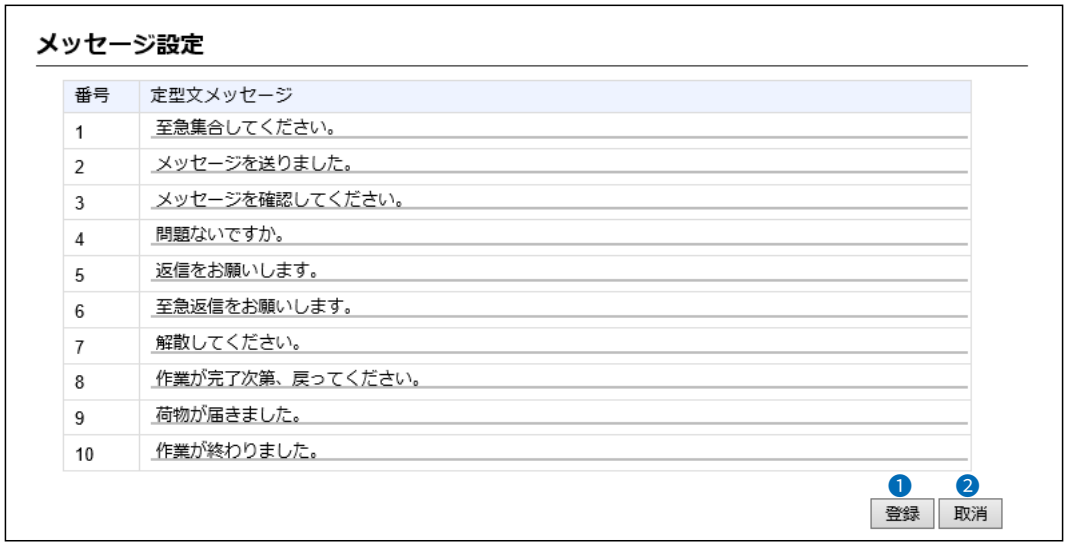
A列:グループ名:半角31(全角31)文字以内
　　番号:1～50(重複しない番号を入力)
B列:定型文メッセージ:半角32(全角16)文字以内
　　※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。
　　※環境依存文字を入力しないでください。
　　環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。

「メッセージ」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ > メッセージ

■ メッセージ設定

[メッセージグループ設定]項目で選択したグループにメッセージを登録します。
IP100Hから送信できる定型メッセージは半角32(全角16)文字以内です。
※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。
※環境依存文字を入力しないでください。
　環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。
※グループごとに、最大10件まで登録できます。



※画面の値は、入力例です。
※グループに名前(例：営業部)が登録されているときは、[メッセージ設定(営業部)]と表示されます。

❶〈登録〉 …… [メッセージ設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

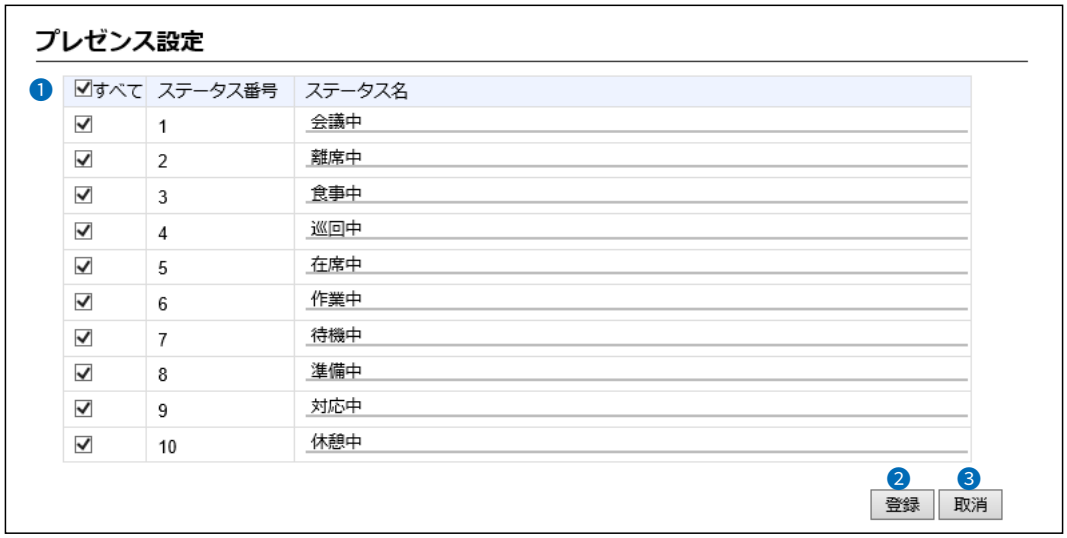
❷〈取消〉 …… [メッセージ設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「プレゼンス」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ > プレゼンス

■ プレゼンス設定

IP100Hが送信するステータス情報を登録するときに使用します。
ステータス情報は半角32(全角16)文字以内で、最大10件まで登録できます。
※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。
※環境依存文字を入力しないでください。
　環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。
※設定内容を変更した場合は、IP100Hの再起動が必要です。



※画面の値は、入力例です。

❶ 選択ボックス …… 登録された内容を無線機に表示するとき、ボックスにチェックマークを入れます。
※[ステータス名]欄に入力していても、ボックスにチェックマークを入れていない場合は、無線機に表示しません。
[ステータス名]欄が空白の場合でも、ボックスにチェックマークを入れると、[ステータス番号]が表示されます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。

❷〈登録〉 …… [プレゼンス設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

❸〈取消〉 …… [プレゼンス設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「設定グループ詳細」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ詳細

■ 設定グループ設定一覧

[設定グループ設定]項目で登録した内容が表示されます。

※画面の値は、設定例です。

❶〈追加〉 …… クリックすると、新しいグループが追加されます。

❷〈編集〉 …… クリックすると、その行の登録内容を編集できます。
編集内容は、[設定グループ設定]項目に表示されます。

❸〈削除〉 …… クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。

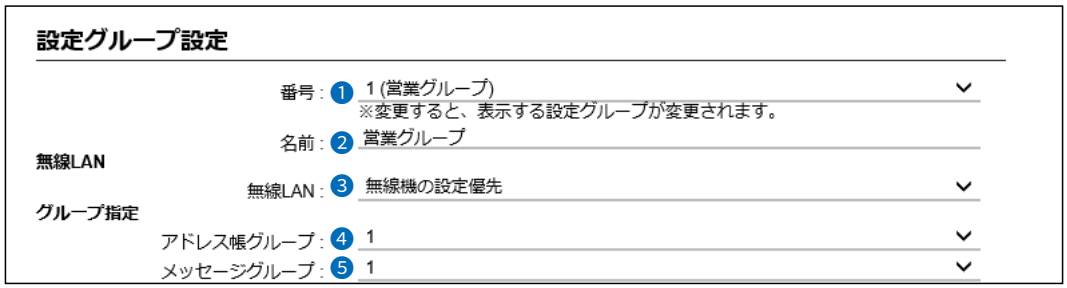
❹〈全削除〉 …… クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

「設定グループ詳細」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ詳細

■ 設定グループ設定

IP100Hが所属する設定グループごとに、アドレス帳や通知音などを設定します。
※設定変更後は、IP100Hの再起動が必要です。



※画面の値は、設定例です。

❶ 番号 ……

IP100Hが所属する設定グループについて、詳細な設定を登録する番号を選択します。
最大50件まで登録できます。

❷ 名前 ……

任意の名称を、31文字以内で入力します。
※「無線機追加」画面の[設定グループ]欄と「設定グループ詳細」画面の[設定グループ設定一覧]項目で入力した名前が表示されます。

❸ 無線LAN ……

設定グループで共用する無線LAN設定を選択します。
（初期設定：無線機の設定優先）
※「無線機の設定優先」は、最後に設定された内容で動作します。
※導入時は、CS-IP100Hで設定された内容を使用して、IP100Hが無線アクセスポイントに接続します。
本製品で変更した場合は、その設定内容で動作するようになります。
※選択する無線LAN設定は、「無線LAN」画面で登録した番号で指定します。

❹ アドレス帳グループ ……

設定グループで共用するアドレス帳を選択します。（初期設定：1）
※初期設定では、IP100Hはアドレス帳（呼出種別の切替）を使用できません。
※選択するアドレス帳は、「アドレス帳」画面で登録したグループ番号で指定します。

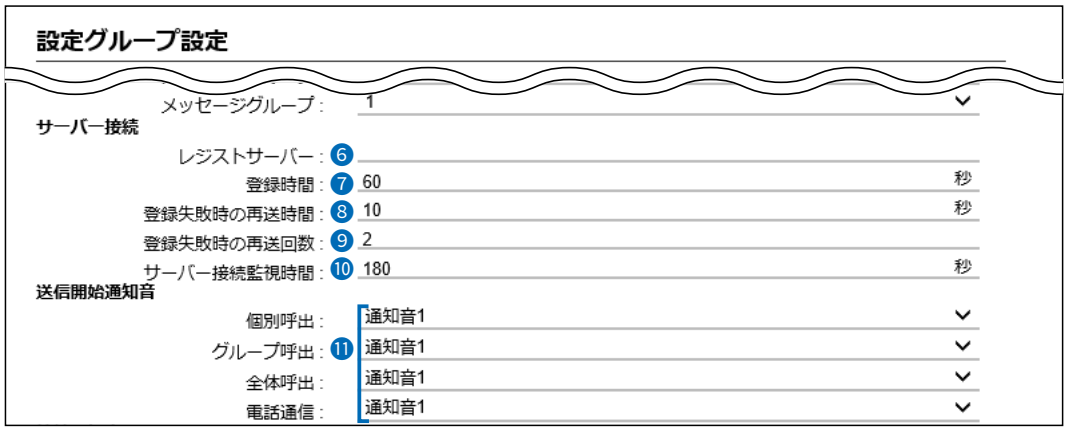
❺ メッセージグループ ……

設定グループで共用するメッセージを選択します。（初期設定：1）
※初期設定では、IP100Hはメッセージを送信できません。
※選択するメッセージは、「メッセージ」画面で登録したグループ番号で指定します。

「設定グループ詳細」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ詳細

■ 設定グループ設定



❻ レジストサーバー ……

IP100Hのレジストサーバーに指定する機器のIPアドレス、またはホスト名を入力します。
63文字以内の半角英数字で入力します。
※本製品をレジストサーバーとして使用する場合は、この欄を設定する必要はありません。

❼ 登録時間 ……

IP100Hが通信システムを使用するための登録情報を送信する間隔を設定します。（初期設定：60）
設定できる範囲は、「30～300」(秒)です。
※通常は、初期設定(60秒)で使用します。
※設定時間を短くすると、IP100Hが通話エリアの圏外に出た場合に本製品で登録状況識別を早めることができます。
これにより、該当のIP100Hへの個別呼び出しなどで、呼び出し側への不在応答を早めることができます。

❽ 登録失敗時の再送時間 ……

IP100Hが本製品との接続に失敗した場合に、再接続するまでの時間を設定します。（初期設定：10）
設定できる範囲は、「1～30」(秒)です。

❾ 登録失敗時の再送回数 ……

IP100Hが本製品との接続に失敗した場合に、再接続する回数を設定します。
設定できる範囲は、「1～10」(回)です。（初期設定：2）

❿ サーバー接続監視時間 ……

本製品がIP100Hの接続状態を監視する間隔を設定します。
設定できる範囲は、登録時間(❼)+「1～900」(秒)です。（初期設定：180）
※通常は、初期設定(180秒)で使用します。
※登録時間(❼)より短い時間は設定できません。

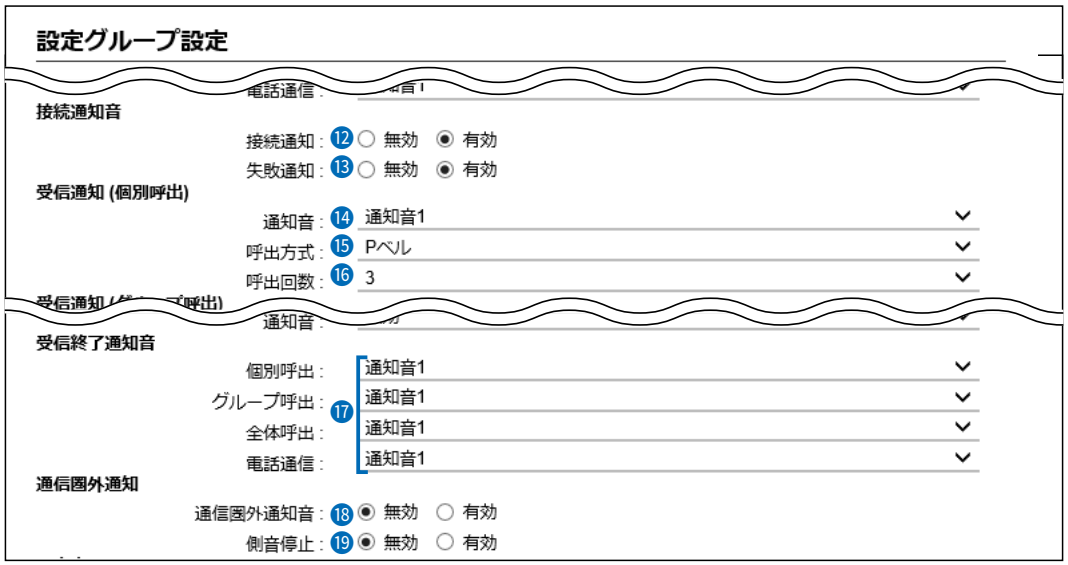
⓫ 送信開始通知音 ……

呼出種別ごとに、送信開始時の通知音を「無効」、「通知音1」～「通知音8」から設定します。（初期設定：通知音1）

「設定グループ詳細」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ詳細

■ 設定グループ設定



⑫ 接続通知 …… 接続に成功したことをお知らせする通知音を設定します。（初期設定：有効）
※個別呼び出し、またはメッセージやプレゼンスの送信、電話発信時に鳴動します。
※「無線機設定」メニューの「無線機個別」画面の［接続確認］項目が「無効」の場合は動作しません。

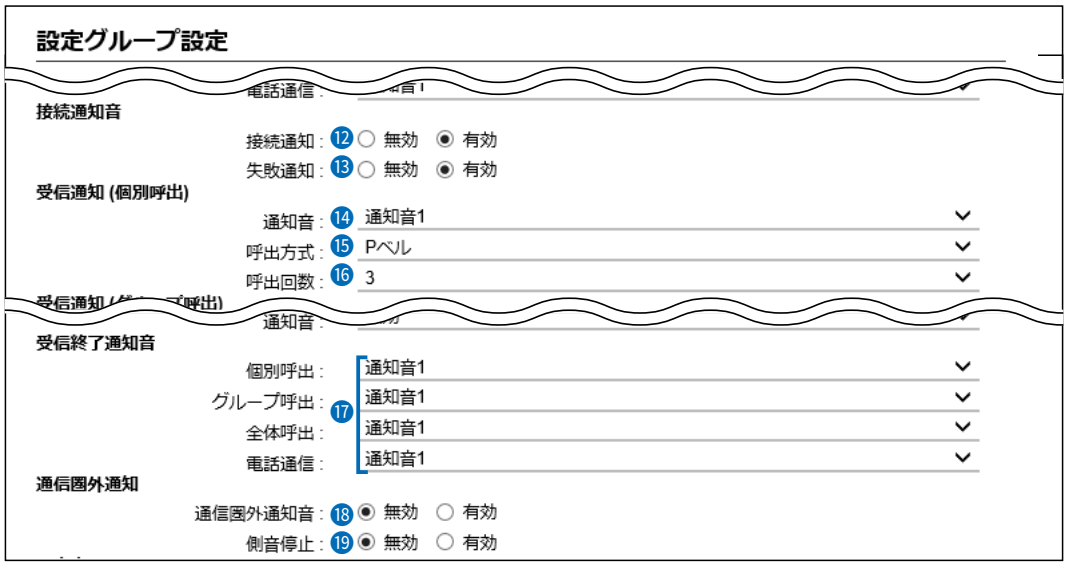
⑬ 失敗通知 …… 接続に失敗したことをお知らせする通知音を設定します。（初期設定：有効）
※個別呼び出し、またはメッセージやプレゼンスの送信、電話発信時に鳴動します。
※「無線機設定」メニューの「無線機個別」画面の［接続確認］項目が「無効」の場合は動作しません。

⑭ 受信通知音 …… 呼出種別ごとに、着信時または受信時の通知音を「無効」、「通知音1」～「通知音8」から設定します。（初期設定：無効）

「設定グループ詳細」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ詳細

■ 設定グループ設定



⑮ 呼出方式 ……

呼出種別ごとに、着信時の呼出方式を、「ポケットビープ」、「Pベル」から設定します。（初期設定：Pベル）

※[受信通知音]（⑭）欄が「無効」の場合は、設定できません。

※メッセージ受信の場合は、呼出方式の設定はありません。

◎ポケットビープ

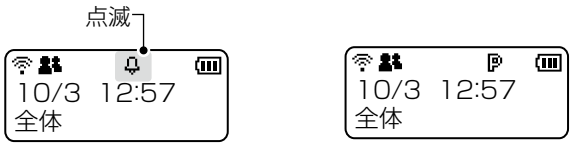
着信時、通知音とアイコンの点滅でお知らせする機能です。

◎Pベル

着信時、通知音でお知らせする機能です。

応答するまで、相手の音声をミュート（聞こえないように）します。

※IP100Hの[PTT]（送信）スイッチを押して応答すると、音声ミュートを解除し、相手の音声が聞こえます。



ポケットビープ動作時　　Pベル設定時

⑯ 呼出回数 ……

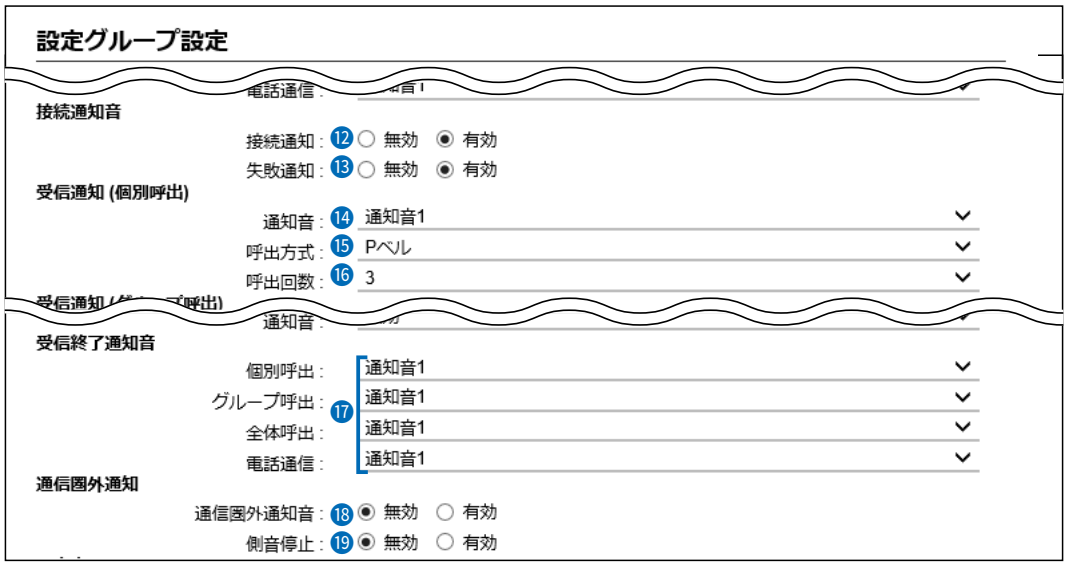
呼出種別ごとに、[受信通知音]（⑭）欄で選択した通知音の鳴動回数を設定します。（初期設定：3）

呼出回数は、「連続」、「1」、「3」、「10」、「20」（回）から選択します。

「設定グループ詳細」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ詳細

■ 設定グループ設定



⑰ 受信終了通知音 …… 呼出種別ごとに、音声受信終了時の通知音を「無効」、「通知音1」～「通知音8」から設定します。（初期設定：通知音1）
※受信が終了するたびに設定した通知音が鳴ります。

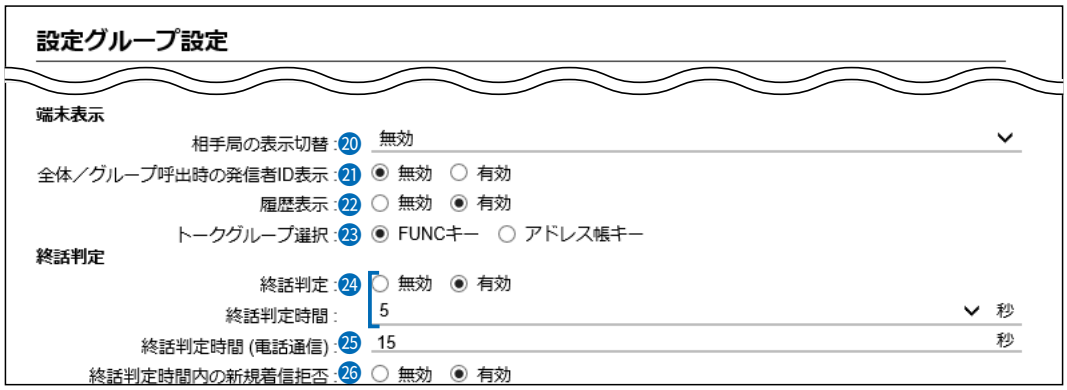
⑱ 通信圏外通知音 …… 圏外などで通信できなくなった、または圏内に戻り通信できる状態になったことをお知らせする通知音を設定します。（初期設定：無効）
◎**無効**：圏外時や圏内復帰時に通知音は鳴りません。
◎**有効**：圏外時や圏内復帰時に通知音が鳴ります。

⑲ 側音停止 …… 側音やモニター機能を停止して、圏外などで通信できなくなったことをお知らせする機能を設定します。（初期設定：無効）
◎**無効**：圏外時でも、ヘッドセットやイヤホンから自分の音声が聞こえます。
◎**有効**：圏外になると、ヘッドセットやイヤホンから自分の音声が聞こえなくなります。
※「無線機設定」の「無線機個別」画面の［モニター］項目、または［側音］項目が「無効」の場合は動作しません。

「設定グループ詳細」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ詳細

■ 設定グループ設定

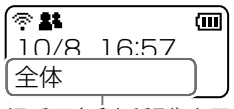


※画面の値は、設定例です。

⑳ 相手局の表示切替 ……

送信や操作後など、IP100Hが待受画面に戻ったときに、表示する相手局(呼出種別)の切り替えについて設定します。 (初期設定：無効)

◎**無効** ：「無線機設定」の「無線機個別」画面(呼出先指定)で設定した相手局、または呼出種別が表示されます。



相手局(呼出種別)表示

◎**送信操作** ：最後に送信した相手局が表示されます。

◎**送受信操作** ：最後に送信、または受信した相手局が表示されます。

◎**全操作** ：最後に送信、または受信した相手局か、アドレス帳/履歴で表示した相手局が表示されます。

㉑ 全体/グループ呼出時の発信者ID表示 ……

全体やグループ呼び出しを複数の端末で受信した場合、どの端末から送信されたのか確認できるように、IP100HやIP100FSの画面に発信者を表示する機能です。 (初期設定：無効)

◎**無効**：呼出種別だけが表示されます。

◎**有効**：呼出種別と発信者が表示されます。(表示例：発信元が営業1の場合)

全体呼び出し時

全体呼び出しによるメッセージ受信

㉒ 履歴表示 ……

履歴の表示を設定します。 (初期設定：有効)

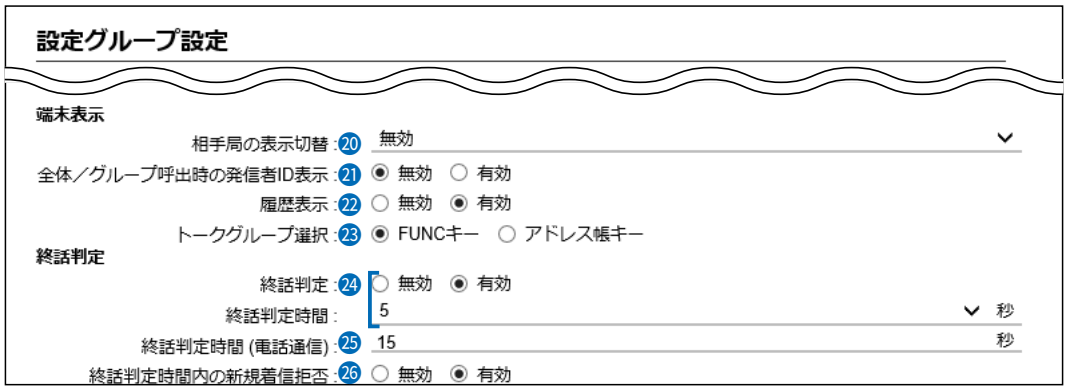
◎**無効**：[履歴]キーを押しても履歴は表示されません。

◎**有効**：[履歴]キーを押すと履歴が表示されます。

「設定グループ詳細」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ詳細

■ 設定グループ設定



※画面の値は、設定例です。

㉓ トークグループ選択 ……

トークグループの選択方法を設定します。　（初期設定：FUNCキー）

◎**FUNCキー**　：[FUNC]キーを操作してトークグループを選択します。

◎**アドレス帳キー**　：[アドレス帳]キーを操作してトークグループを選択します。

㉔ 終話判定 ……

通話相手からの送信が終了したあと、待ち受け状態（待受画面）に戻るまでの時間を「1」～「30」（秒）で設定します。　（初期設定：有効（5））

※「無効」に設定した場合は、[送信/受信]ランプの消灯と同時に待ち受け状態（待受画面）に戻ります。

㉕ 終話判定時間（電話通信） ……

電話通信で通話相手からの送信が終了したあと、待ち受け状態（待受画面）に戻るまでの時間を「0」～「600」（秒）で設定します。　（初期設定：15）

※「0」を設定した場合は、終話判定しません。

通話中に[オプション]キーを押して切断する、または相手が切断するまで通話状態となります。

㉖ 終話判定時間内の新規着信拒否

通話相手からの送信が終了したあと、待ち受け状態（待受画面）に戻るまでに着信があった場合、優先度に応じて着信を受けるか拒否するか（有効/無効）を設定します。　（初期設定：有効）

◎**有効（拒否する）**

現在の通話よりも高い優先度の着信は受け付けるが、それ以下または同等の優先度の着信は受け付けません。

終話判定時間が経過したあとに受け付けます。

※呼出種別ごとの優先度は、6-26ページをご覧ください。

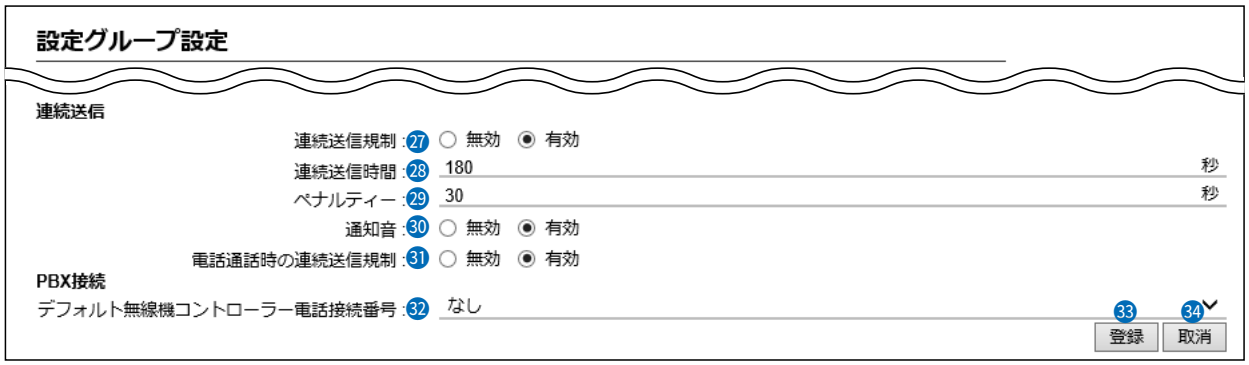
◎**無効（拒否しない）**

新規着信を受け付けます。

「設定グループ詳細」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ詳細

■ 設定グループ設定



※説明のため、[連続送信規制](㉗)欄を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

㉗ 連続送信規制 ……

連続送信を規制するときに設定します。 (初期設定：無効)
「無効」に設定しているときは、連続送信を規制しません。
※「有効」を選択すると、[連続送信時間](㉘)、[ペナルティー](㉙)、[通知音](㉚)、[電話通話時の連続送信規制](㉛)欄が表示されます。
※不用意にIP100Hの[PTT](送信)スイッチが押しつづけられているときなどに有効です。

㉘ 連続送信時間 ……

連続送信規制有効時に、連続送信できる時間を設定します。
設定できる範囲は、「11～600」(秒)です。 (初期設定：180)
※設定した時間を超えた場合は、自動的に送信を停止します。

㉙ ペナルティー ……

[連続送信時間](㉘)欄で設定した時間を超えたあと、再送信できるまでの時間(送信禁止時間)を設定します。 (初期設定：30)
設定できる範囲は、「1 ～600」(秒)です。
※送信禁止中は[PTT](送信)スイッチを押しても、送信できません。

㉚ 通知音 ……

連続送信を検出して送信規制するときに、規制音を鳴らして通知するための設定です。 (初期設定：有効)
※「有効」を選択すると、[連続送信時間](㉘)欄で設定した時間の10秒前に規制音が鳴ります。

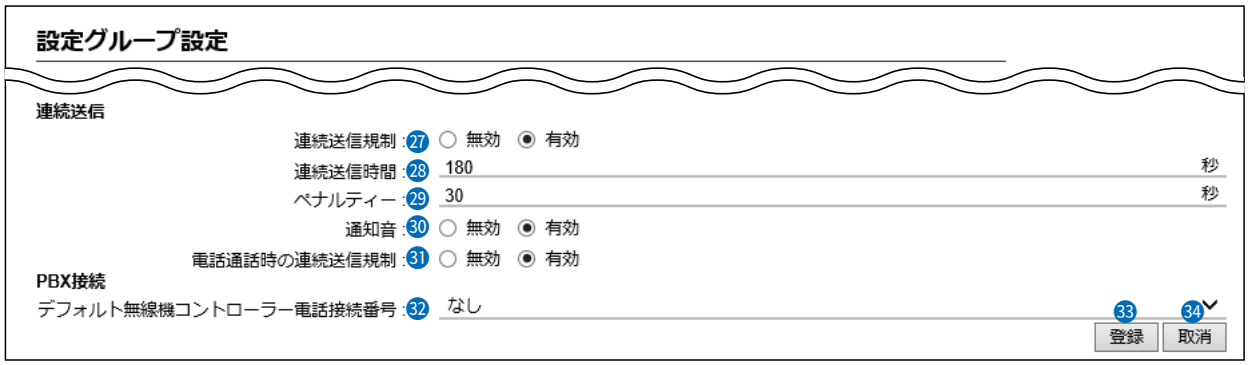
㉛ 電話通話時の連続送信規制 ……

電話通話時、[連続送信時間](㉘)で設定した時間を超えて送信した場合に、送信を自動停止するための設定です。 (初期設定：有効)
※「無効」に設定すると、電話通話中に[連続送信時間](㉘)で設定した時間を超えても、送信を停止しません。

「設定グループ詳細」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ詳細

■ 設定グループ設定



※説明のため、[連続送信規制]（㉗）欄を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

㉜ デフォルト無線機コントローラー電話接続番号 …… IP100Hから発信した電話番号に一致する呼出先設定がない場合に使用する無線機コントローラー電話接続を指定します。（初期設定：なし）

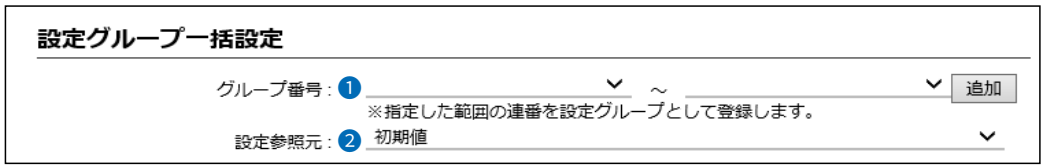
㉝〈登録〉 …… [設定グループ設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[設定グループ設定一覧]項目に表示されます。

㉞〈取消〉 …… [設定グループ設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「設定グループ詳細」画面

無線機コントローラー設定 > 設定グループ詳細

■ 設定グループ一括設定



❶ グループ番号 …… 連番で一括に登録したい設定グループの範囲を設定します。

〈追加〉

クリックすると、設定した範囲(例：4～10)のグループ番号が登録されます。

※設定した範囲で、すでに登録された個別番号がある場合は、「設定を上書きします。」が表示されます。

❷ 設定参照元 …… 初期値、またはすでに登録した設定内容を参照するかどうかを選択します。

（初期設定：初期値）

無線機ポート詳細設定

第 7 章

この章では、
「無線機ポート詳細設定」画面の設定について説明します。

「デジタル無線機(D-TRX)」画面 …… 7-2
■ デジタル無線機設定 …… 7-2
■ デジタル無線機機種設定 …… 7-3
■ デジタル無線機接続設定 …… 7-4
■ デジタル無線機通信設定 …… 7-7
■ デジタル無線機制御設定 …… 7-8
「外部入出力(EXT)」画面 …… 7-9
■ 外部入出力モード設定 …… 7-9
■ 外部入出力設定 …… 7-10
■ 無線機機種設定 …… 7-11
■ 無線機接続設定(汎用設定選択時) …… 7-12
■ ブリッジ通信設定(接続機器:無線機選択時)…… 7-20
■ 無線機制御設定(汎用設定選択時) …… 7-22
■ 無線機への音声送信制御設定 …… 7-24
■ 無線機からの音声受信制御設定 …… 7-25
■ ブリッジ通信設定(外部入出力モード:統合)…… 7-27
■ 外部入出力制御設定 …… 7-29
■ 外部入力制御設定 …… 7-30
■ 外部出力制御設定 …… 7-37
「緊急通知」画面 …… 7-49
■ ブリッジ通信設定 …… 7-49
「マイク(MIC)」画面…… 7-50
■ ブリッジ通信設定 …… 7-50
■ マイク制御設定 …… 7-51
■ マイク入力制御設定 …… 7-52
■ 音声出力制御設定 …… 7-53
「RoIPゲートウェイ」画面…… 7-54
■ RoIPゲートウェイ設定…… 7-54
■ RoIPゲートウェイ接続設定…… 7-55
■ RoIPゲートウェイ通信設定…… 7-57
■ RoIPゲートウェイ制御設定…… 7-58
■ ブリッジ通信設定 …… 7-59

7　無線機ポート詳細設定

「デジタル無線機(D-TRX)」画面

無線機ポート詳細設定 > デジタル無線機(D-TRX)

■ デジタル無線機設定

本製品とネットワーク接続するデジタル無線機を選択します。

ポート選択……　設定を変更するポートを選択します。

（初期設定：デジタル無線機1(D-TRX1)）

◎デジタル無線機1(D-TRX1)
◎デジタル無線機2(D-TRX2)
◎デジタル無線機3(D-TRX3)
◎デジタル無線機4(D-TRX4)

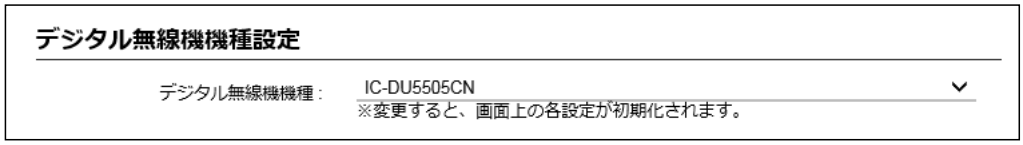
7　無線機ポート詳細設定

「デジタル無線機(D-TRX)」画面

無線機ポート詳細設定 > デジタル無線機(D-TRX)

■ デジタル無線機機種設定

本製品とネットワーク接続するデジタル無線機を設定します。
※本製品1台で、最大4台のデジタル無線機を本製品にネットワーク経由で接続できます。



デジタル無線機機種……　本製品とネットワーク接続するデジタル無線機を選択します。
（初期設定：IC-DU5505CN）

◎**免許局**　：IC-DU6505BN接続時
◎**登録局**　：IC-D6005N接続時
◎**IC-DU5505CN**：IC-DU5505CN接続時
※2019年5月現在、本製品で使用できるネットワーク対応のデジタル無線機は、IC-DU5505CN、IC-DU6505BN、IC-D6005Nです。

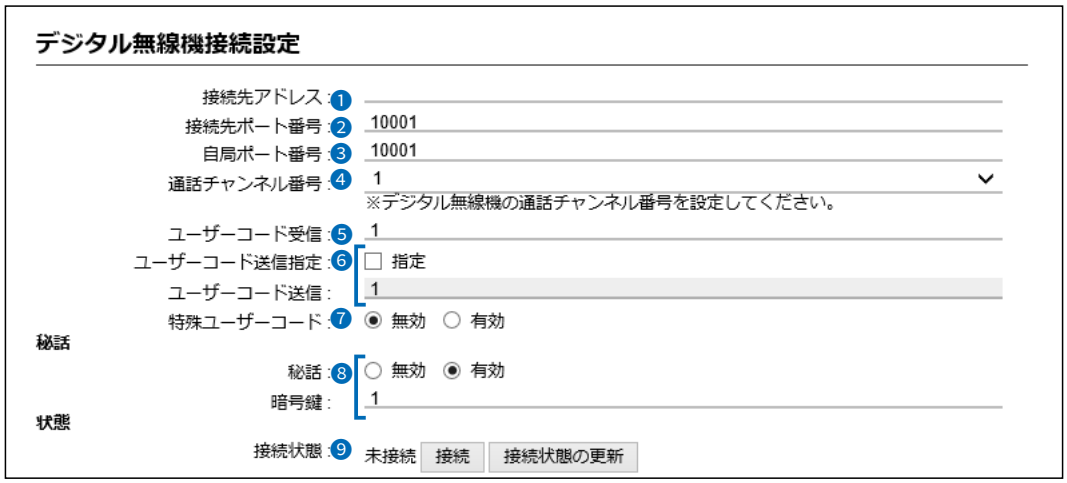
7　無線機ポート詳細設定

「デジタル無線機(D-TRX)」画面

無線機ポート詳細設定 > デジタル無線機(D-TRX)

■ デジタル無線機接続設定

本製品とネットワーク接続するデジタル無線機について、設定します。
※本製品1台で、最大4台のデジタル無線機を本製品にネットワーク経由で接続できます。



※説明のため、[デジタル無線機機種設定]項目で「IC-DU5505CN」を選択し、[秘話]欄(❽)を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

❶ 接続先アドレス ……　デジタル無線機本体にあらかじめ設定されたIPアドレスを設定します。

❷ 接続先ポート番号 ……　デジタル無線機本体に割り当てられたローカルポート番号を設定します。
(初期設定：デジタル無線機1(D-TRX1)→10001
デジタル無線機2(D-TRX2)→10002
デジタル無線機3(D-TRX3)→10003
デジタル無線機4(D-TRX4)→10004)
設定できる範囲は、「1～65535」です。
そのほか、本製品が使用する一部のポートで利用できないものがあります。
※ほかの機器に設定されたポート番号と重複しないように設定してください。

❸ 自局ポート番号 ……　本製品に割り当てるポート番号を設定します。
(初期設定：デジタル無線機1(D-TRX1)→10001
デジタル無線機2(D-TRX2)→10002
デジタル無線機3(D-TRX3)→10003
デジタル無線機4(D-TRX4)→10004)
設定できる範囲は、「1～65535」です。
そのほか、本製品が使用する一部のポートで利用できないものがあります。
※ほかの機器に設定されたポート番号と重複しないように設定してください。

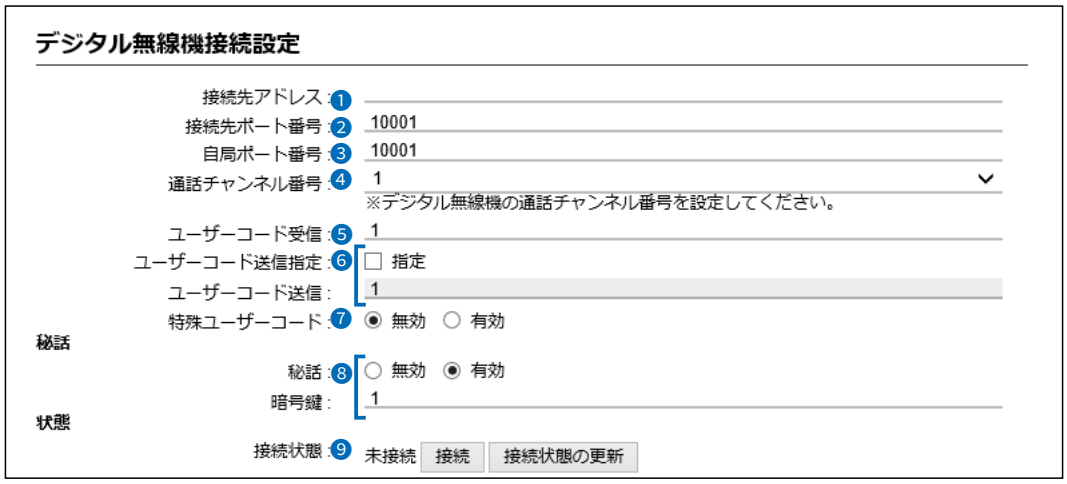
❹ 通話チャンネル番号 ……　デジタル無線機本体で使用する通話チャンネル番号を設定します。
※設定できる範囲は、接続する機種により異なります。　(初期設定：1)
※「免許局」、「IC-DU5505CN」の場合は「1」～「65」、「登録局」の場合は「1」～「14」、「16」～「30」になります。

7　無線機ポート詳細設定

「デジタル無線機(D-TRX)」画面

無線機ポート詳細設定 > デジタル無線機(D-TRX)

■ デジタル無線機接続設定



※説明のため、[デジタル無線機機種設定]項目で「IC-DU5505CN」を選択し、[秘話]欄(❽)を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

❺ ユーザーコード受信 ……

受信時のユーザーコードを「1～511」の範囲で設定します。
(初期設定：1)
交信する相手と同じユーザーコードに設定されている場合だけ交信できます。
※[デジタル無線機機種設定]項目で「免許局」や「登録局」を選択したときは、送受信共通のユーザーコードを設定する欄になります。

❻ ユーザーコード送信 ……

受信時と異なるユーザーコードを送信時に使用する場合だけ指定します。
(初期設定：ユーザーコード送信指定→□
ユーザーコード送信→1)
指定するときは、チェックボックスをクリックすると、送信時のユーザーコードを「1～511」の範囲で設定できます。
※[デジタル無線機機種設定]項目で「免許局」や「登録局」を選択したときは、この欄は表示されません。

❼ 特殊ユーザーコード ……

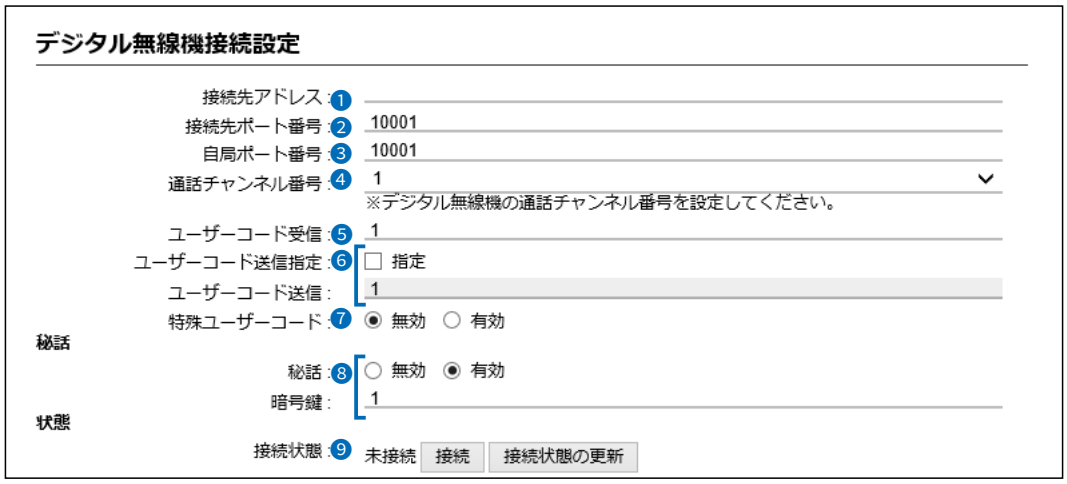
この設定を有効にした場合、同一の特殊ユーザーコードが設定されたデジタル無線機とのみ交信できます。
詳しくは販売店にお問い合わせください。
※[デジタル無線機機種設定]項目で「免許局」や「登録局」を選択したときは、この欄は表示されません。

7　無線機ポート詳細設定

「デジタル無線機(D-TRX)」画面

無線機ポート詳細設定 > デジタル無線機(D-TRX)

■ デジタル無線機接続設定



※説明のため、[デジタル無線機機種設定]項目で「IC-DU5505CN」を選択し、[秘話]欄(❽)を「有効」に設定したときに表示される画面を使用しています。

❽ 秘話 ……

秘話機能を設定していない相手に、通話内容を聞かれないようにするための設定です。　(初期設定：無効)
秘話機能を使用するときは、「有効」のラジオボタンをクリックします。
表示された[暗号鍵]欄に、「1～32767」(初期設定：1)の範囲で秘話キーを入力します。
※[暗号鍵]欄には、通信する相手が使用するキーIDに設定された秘話キーと同じ値に設定してください。

❾ 接続状態 ……

[接続先アドレス](❶)欄で設定した無線機と本製品の接続、接続状態の更新、切断をするボタンです。
※接続試行中、および接続中は、各欄(❶～❼)がグレー表示になり、設定を変更できません。
設定を変更するときは、〈切断〉をクリックし、未接続にしてから変更してください。
※[接続先アドレス](❶)欄を未設定で登録した場合は、〈接続〉、〈接続状態の更新〉がグレー表示になり、クリックできません。

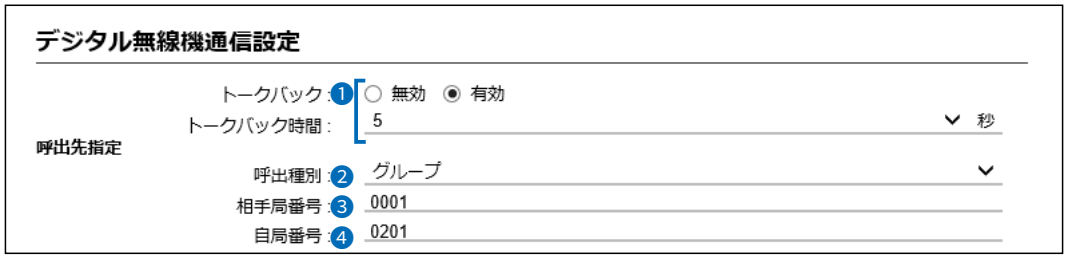
7　無線機ポート詳細設定

「デジタル無線機(D-TRX)」画面

無線機ポート詳細設定 > デジタル無線機(D-TRX)

■ デジタル無線機通信設定

本製品とネットワーク接続するデジタル無線機から端末側無線機を呼び出すための設定です。



❶ トークバック ……

本製品とネットワーク接続するデジタル無線機から端末側無線機を呼び出したとき、端末側無線機からのトークバックを有効にするかしないかを設定します。　(初期設定：有効(5))
「有効」に設定したときは、呼び出された端末側無線機との通話が終了してから、呼び出された経路を設定した時間接続を保持します。
設定できる範囲は、「1」～「10」(秒)です。

❷ 呼出種別 ……

本製品とネットワーク接続するデジタル無線機から端末側無線機を呼び出す形態を選択します。　(初期設定：グループ)
◎**個別**　：特定の端末側無線機を呼び出すとき選択します。
◎**グループ**：特定のグループに所属する端末側無線機を一斉に呼び出すとき選択します。
◎**全体**　：一斉にすべての端末側無線機を呼び出すとき選択します。

❸ 相手局番号 ……

呼び出す端末側無線機の自局番号(個別番号)、またはグループ番号を4桁で入力します。　(初期設定：0001)
設定できる範囲は、「0001～9999」です。
※[呼出種別](❷)欄で、「個別」、「グループ」を選択したとき、表示されます。

❹ 自局番号 ……

呼び出す側の自局番号を4桁で入力します。
(初期設定：デジタル無線機1(D-TRX1)→0201
デジタル無線機2(D-TRX2)→0202
デジタル無線機3(D-TRX3)→0203
デジタル無線機4(D-TRX4)→0204)
呼び出しを受けた相手に表示されます。
設定できる範囲は、「0001～9999」です。

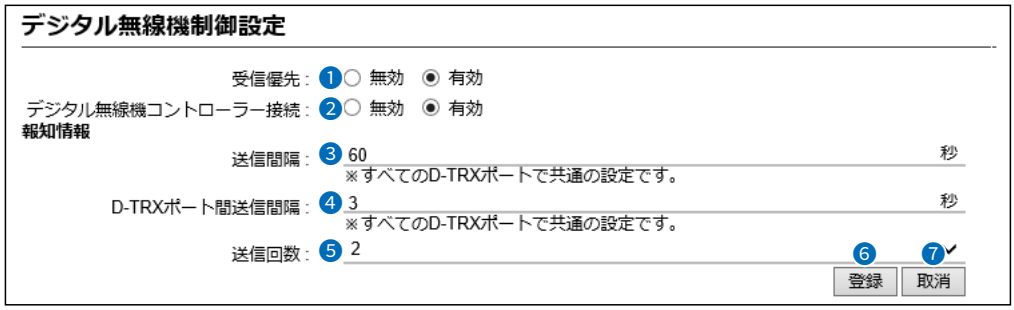
7　無線機ポート詳細設定

「デジタル無線機(D-TRX)」画面

無線機ポート詳細設定 > デジタル無線機(D-TRX)

■ デジタル無線機制御設定

本製品とネットワーク接続するデジタル無線機の制御について、設定します。



❶ 受信優先 ……

本製品に接続されたデジタル無線機が電波を受信している場合、そのデジタル無線機に送信(PTT)信号を出力しないようにする動作を有効とするか無効とするかを設定します。　(初期設定：有効)

❷ デジタル無線機コントローラー接続 ……

本製品に接続されたデジタル無線機が、デジタル無線機コントローラーと接続するかどうかを設定します。　(初期設定：無効)
「有効」に設定すると、端末側無線機に報知情報を送信します。
※この設定は、「拡張設定」メニューの「デジタル無線機コントローラー」画面で、[デジタル無線機コントローラー]欄を「有効」に設定したときに表示されます。
※この設定は、[デジタル無線機機種設定]項目で「IC-DU5505CN」を選択した場合は、表示されません。

❸ 送信間隔 ……

本製品に接続されたデジタル無線機から、端末側無線機に報知情報を送信する間隔を、「30」～「180」(秒)で設定します。　(初期設定：60)
※[デジタル無線機コントローラー接続](❷)欄で、「有効」を選択したとき、表示されます。
※設定した送信間隔は、D-TRX1～D-TRX4で設定内容が連動されます。

❹ D-TRXポート間送信間隔 ……

報知情報をD-TRXポート毎に順番に送信するための送信間隔を、「3」～「10」(秒)で設定します。　(初期設定：3)
※[デジタル無線機コントローラー接続](❷)欄で、「有効」を選択したとき、表示されます。
※設定したD-TRXポート間送信間隔は、D-TRX1～D-TRX4で設定内容が連動されます。

❺ 送信回数 ……

本製品に接続されたデジタル無線機から、端末側無線機に報知情報を送信する回数を、「1」～「8」で設定します。　(初期設定：2)
※[デジタル無線機コントローラー接続](❷)欄で、「有効」を選択したとき、表示されます。

❻〈登録〉 ……

[デジタル無線機(D-TRX)]画面で設定した内容を登録するボタンです。

❼〈取消〉 ……

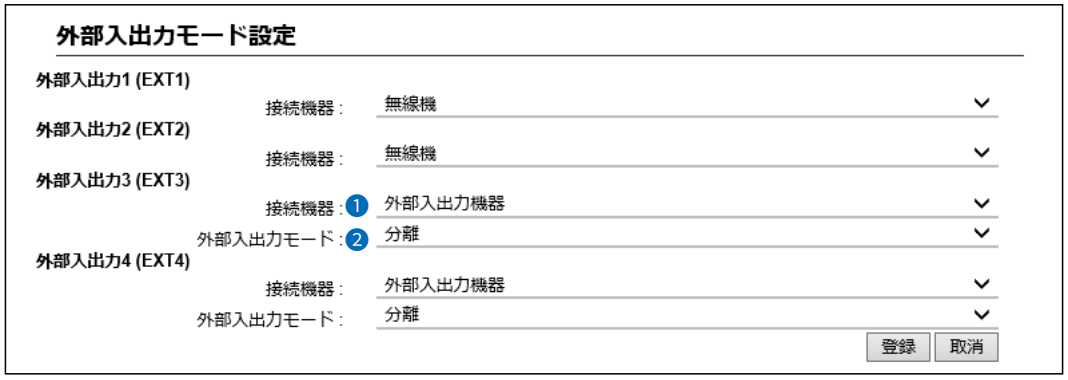
[デジタル無線機(D-TRX)]画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 外部入出力モード設定

本製品の[EXT](1～4)ポートについて、接続する機器や入出力モードを設定します。
※設定を変更すると、現在の動作モードで設定されている内容が初期化されますのでご注意ください。



❶ 接続機器 …… 本製品の[EXT](1～4)ポートに接続する機器を「外部入出力機器」、「無線機」から選択します。 (初期設定：外部入出力1(EXT1)→無線機
外部入出力2(EXT2)→無線機
外部入出力3(EXT3)→外部入出力機器
外部入出力4(EXT4)→外部入出力機器)

❷ 外部入出力モード …… 本製品の[EXT](1～4)ポートに外部機器を接続するときの入出力モードを「分離」、「統合」から選択します。
※[接続機器](❶)欄で、「外部入出力機器」を選択したとき、表示されます。
(初期設定：外部入出力3(EXT3)→分離
外部入出力4(EXT4)→分離)

◎分離
外部音声出力と外部音声入力を別々に制御できます。
◎統合
1台の装置をA1/A2端子(音声出力)とA3/A4端子(音声入力)に接続するとき選択します。
1台の外部機器からの音声信号入力と音声信号出力を同時に制御します。

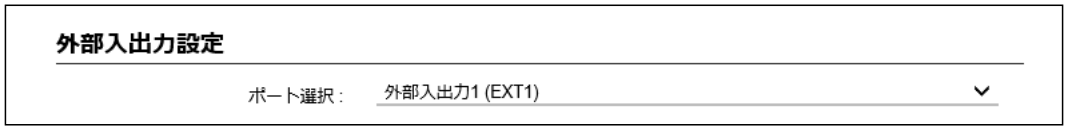
7　無線機ポート詳細設定

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 外部入出力設定

[無線機機種設定]項目で設定するポートを選択します。



ポート選択……　設定を変更するポートを、「外部入出力1(EXT1)」～「外部入出力4(EXT4)」から選択します。　(初期設定：外部入出力1(EXT1))

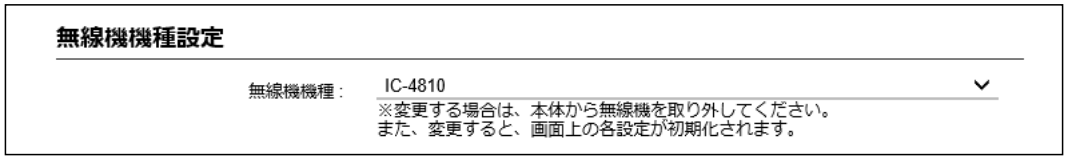
7 無線機ポート詳細設定

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 無線機機種設定

[外部入出力設定]項目で選択したポートに接続する無線機を選択します。
[外部入出力モード設定]項目で、接続機器を「無線機」に登録している場合、表示される項目です。



無線機機種……

本製品の[EXT](1～4)ポートに接続する無線機を選択します。
(初期設定：IC-4810)

◎IC-4800
◎IC-4810
◎IC-D50/DPR5
◎IC-D60/DPR6
◎IC-D5005/DPR1
◎IC-MS4880
◎IC-MS5010
◎IC-SAT100
◎**汎用設定**

※接続する無線機について、詳細な設定をする必要がある場合は、「汎用設定」(P.7-12)をご使用ください。(IC-SAT100を除く)
※指定機種以外の無線機中継ができる場合がありますが、関係法令にしたがい運用してください。
※変更する場合は、本体から無線機を取りはずしてください。
また、変更すると、画面上の各設定が初期化されます。

7　無線機ポート詳細設定

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 無線機接続設定(汎用設定選択時)

無線機機種設定で「汎用設定」を選択した場合に設定する項目です。
※「汎用設定」以外の機種を選択した場合は表示されない項目です。

❶ 無線機への送信音量オフセット

無線機のマイクゲインを補正します。
設定できる範囲は、「+20」～「−43」(dB)です。　(初期設定：−6)
※周囲の騒音が大きい場所では、低い値に設定し、大きめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。
また、周囲の雑音が小さい場所では、高い値に設定し、小さめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

❷ 無線機からの受信音量オフセット

無線機の受信音量を補正します。
設定できる範囲は、「+21」～「−74」(dB)です。　(初期設定：−2)

❸ PTT信号種別

無線機のマイク入力にPTT信号を重畳するかどうかを設定します。
(初期設定：単独PTT)
◎**単独PTT**：マイク入力端子とPTT(送信制御)端子がそれぞれある場合に設定します。
◎**重畳PTT**：マイク入力端子とPTT端子が共用の場合に設定します。

❹ PTT信号論理

PTTの制御ラインのアクティブ動作を設定します。　(初期設定：負論理)
◎**正論理**：PTTが押されていないときはLowレベル、押されたときはHighレベルになる場合に設定します。(アクティブ・ハイ)
◎**負論理**：PTTが押されていないときはHighレベル、押されたときはLowレベルになる場合に設定します。(アクティブ・ロー)

❺ SQL信号種別

無線機のスピーカー出力にSQL信号が重畳されているかどうかを設定します。
(初期設定：単独SQL)
◎**単独SQL**：スピーカー出力とSQL端子がそれぞれある場合に設定します。
◎**重畳SQL**：スピーカー出力にSQL信号が重畳される場合に使用します。

7　無線機ポート詳細設定

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 無線機接続設定(汎用設定選択時)

❻ SQL信号論理 ……

SQLの制御ラインの検出動作を設定します。　(初期設定：正論理)

◎**正論理**：SQL信号を受信していないときはLowレベル、受信時にHighレベルになる場合に設定します。(アクティブ・ハイ)

◎**負論理**：SQL信号を受信していないときはHighレベル、受信時にLowレベルになる場合に設定します。(アクティブ・ロー)

❼ 電源検出 ……

「有効」に設定すると、無線機の電源状態(ON/OFF)を検出します。

(初期設定：有効)

❽ 電源検出信号 ……

無線機の電源検出に使用する信号を設定します。

(初期設定：PTT信号種別で検出)

◎**単独PTT**：

マイク入力端子とPTT(送信制御)端子がそれぞれある場合に設定します。

◎**重畳PTT**：

マイク入力端子とPTT端子が共用の場合に設定します。

◎**PTT信号種別で検出**：

[PTT信号種別](❸)欄で選択した信号を使用する場合に設定します。

❾ 電源検出信号論理 ……

◎**正論理**：電源がOFFのときはLowレベル、ONになるとHighレベルになる場合に設定します。(アクティブ・ハイ)

◎**負論理**：電源がOFFのときはHighレベル、ONになるとLowレベルになる場合に設定します。(アクティブ・ロー)

(初期設定：正論理)

7　無線機ポート詳細設定

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 無線機接続設定(汎用設定選択時)

❿ 電源検出無効時間(OFF⇒ON) ……

無線機の電源が入ったことを検知したとき、無線機からの受信音を無効にする時間を設定します。　(初期設定：0)
設定できる範囲は、「0～10000(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。
※VOX、SQLともに動作します。
※「0」を設定した場合は、検知しても受信音を無効にしません。

⓫ 送受信切替 ……

この機能は、受信音(スピーカー)と送信音(マイク)を別々で動作させるか、共通で動作させるかを設定します。　(初期設定：無効)
「有効」にすると、送信音、受信音を1つの共通線ペアで切り替えて使用します。
(無線機の接続ポート A3/A4端子で共通利用)
使用する無線機が共通線切替タイプの場合、有効にします。

⓬ シリアル通信 ……

無線機のシリアル通信について設定します。
「有効」にすると、[クライアントモード](⓭)欄～[データ通信モード](⓱)欄が表示されます。　(初期設定：無効)

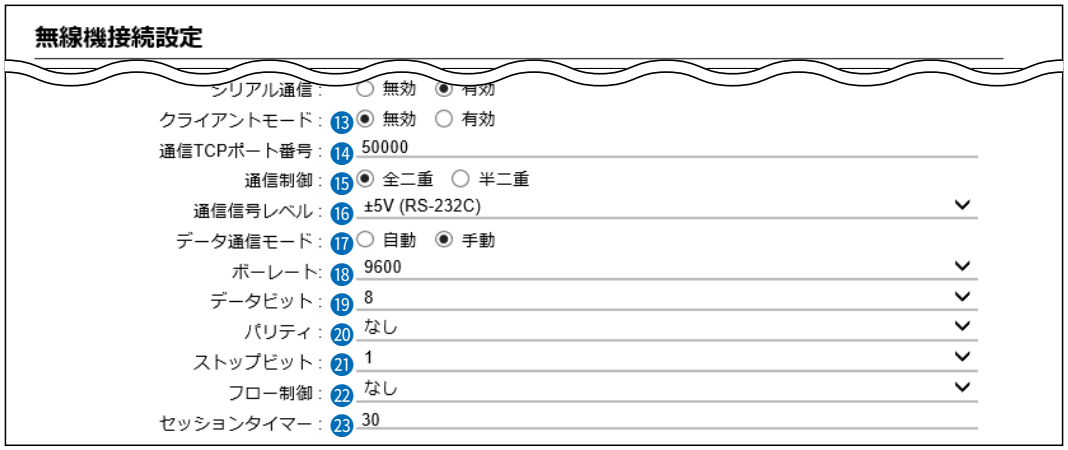
7 無線機ポート詳細設定

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 無線機接続設定(汎用設定選択時)

クライアントモード無効時



※上図は、[シリアル通信](⑫)欄、[データ通信モード](⑭)欄で「手動」を選択したときに表示される画面です。

クライアントモード有効時

※上図は、[シリアル通信](⑫)欄、[クライアントモード](⑬)欄で「有効」を選択したときに表示される画面です。

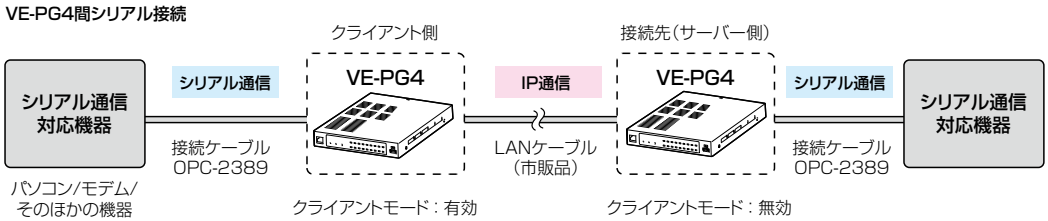
⑬ クライアントモード ……

クライアントモード機能を使用して、ほかの機器(VE-PG3/VE-PG4)に接続すると、本製品を経由したシリアル機器同士の通信ができます。

(初期設定 : 無効)

「有効」にすると、クライアント側に必要な[接続先アドレス](㉔)欄、[接続状態](㉖)欄などが表示されます。(P.7-19)

※接続先(サーバー側)との通信に必要なボートレートなどは、クライアントモードを有効にしたVE-PG4(本製品)で設定します。



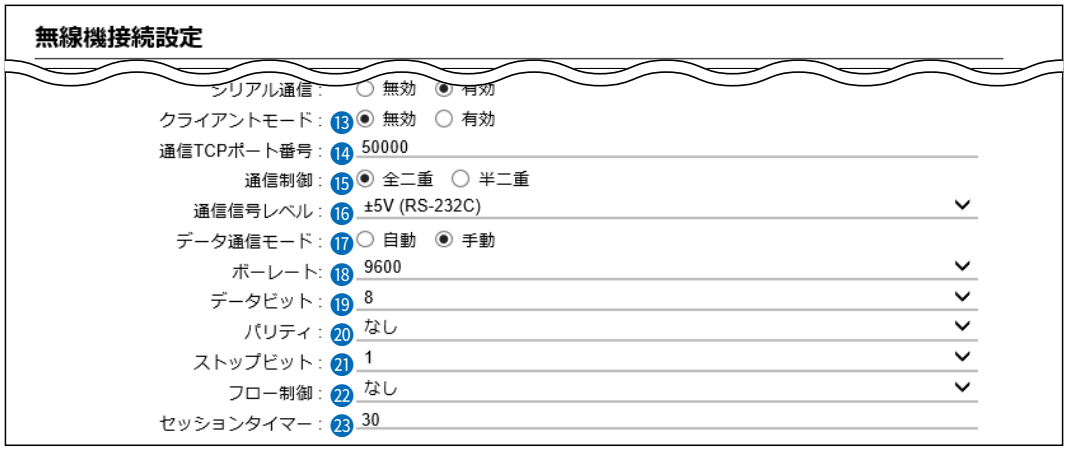
7　無線機ポート詳細設定

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 無線機接続設定(汎用設定選択時)

クライアントモード無効時



※上図は、[シリアル通信](⑫)欄、[データ通信モード](⑭)欄で「手動」を選択したときに表示される画面です。

クライアントモード有効時

※上図は、[シリアル通信](⑫)欄、[クライアントモード](⑬)欄で「有効」を選択したときに表示される画面です。

⑭ 通信TCPポート番号 ……

本製品のポート番号を設定します。
設定できる範囲は、「1024～65535」です。
(初期設定：EXT1→50000
EXT2→50001
EXT3→50002
EXT4→50003)
※[クライアントモード](⑬)欄を「有効」にすると、この項目は表示されません。

⑮ 通信制御 ……

シリアル通信時の通信方式を、「全二重」、「半二重」から選択します。
(シリアル通信有効時の初期値：全二重)
※制御回路切替「リレー回路」選択時、または8V電源供給「有効」選択時、通信制御は「全二重」だけになります。

⑯ 通信信号レベル ……

シリアル通信時の信号レベルを、「±5V(RS-232C)」、「0V/3V(ロジック)」、「0V/5V(ロジック)」から選択します。
(シリアル通信有効時の初期値：±5V(RS-232C))

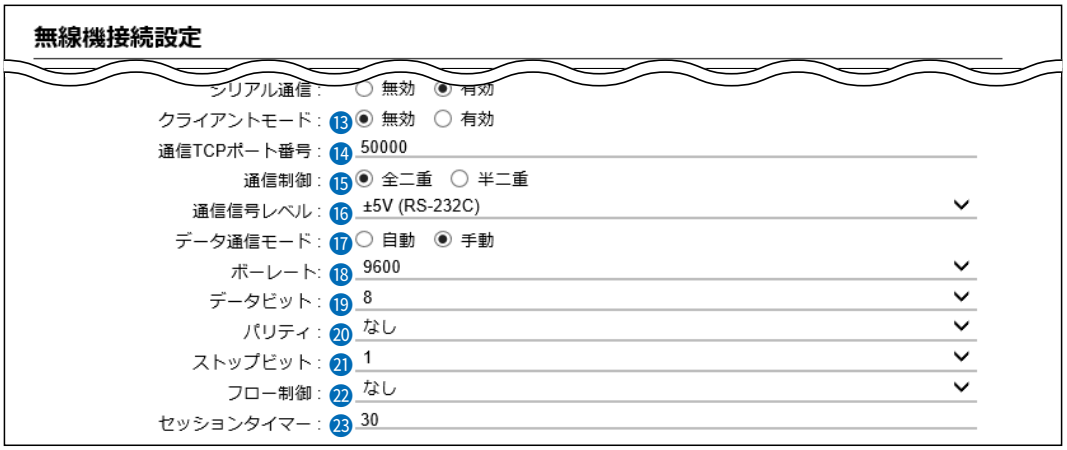
7　無線機ポート詳細設定

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 無線機接続設定(汎用設定選択時)

クライアントモード無効時



※上図は、[シリアル通信](⑫)欄、[データ通信モード](⑭)欄で「手動」を選択したときに表示される画面です。

クライアントモード有効時

※上図は、[シリアル通信](⑫)欄、[クライアントモード](⑬)欄で「有効」を選択したときに表示される画面です。

⑰ データ通信モード ……

シリアル通信で使用する機器との通信方法を設定します。(初期設定：手動)
※[クライアントモード](⑬)欄を「有効」にすると、この項目は表示されません。
◎**自動**：パソコンにインストールしたVirtual Serial Port(弊社ホームページからダウンロードできる無償ソフトウェア)と通信して、自動的に通信方法を設定します。
◎**手動**：手動で通信方法を設定します。
※「手動」を選択すると、[ボーレート](⑱)欄～[セッションタイマー](㉓)欄が表示されます。
※Virtual Serial Port(弊社ホームページからダウンロードできる無償ソフトウェア)を使用して通信する場合、簡易データ通信にチェックをつけて有効にしてください。

⑱ ボーレート ……

シリアル通信で使用する機器との通信速度を、「75」、「110」、「134」、「150」、「300」、「600」、「1200」、「1800」、「2400」、「4800」、「9600」、「19200」、「38400」、「57600」、「115200」から設定します。(初期設定：9600)

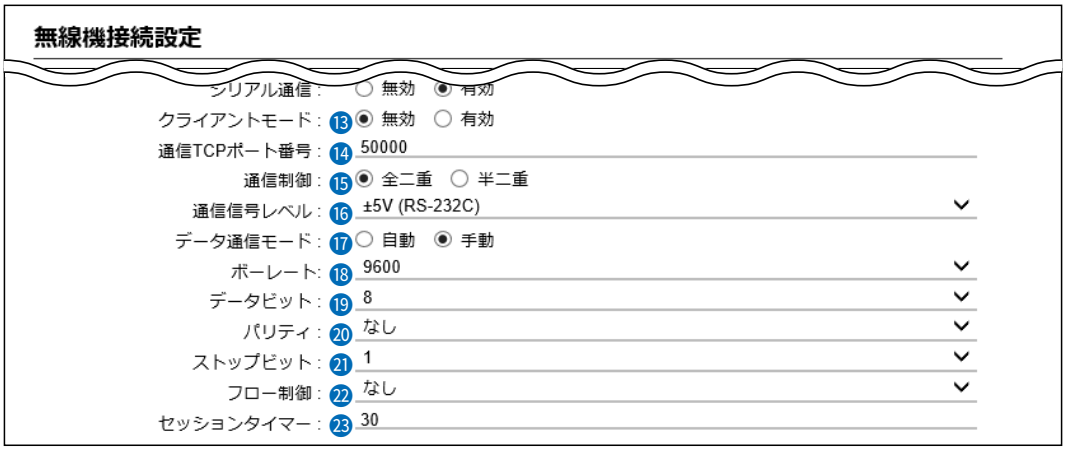
7　無線機ポート詳細設定

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 無線機接続設定(汎用設定選択時)

クライアントモード無効時



※上図は、[シリアル通信](⑫)欄、[データ通信モード](⑭)欄で「手動」を選択したときに表示される画面です。

クライアントモード有効時

※上図は、[シリアル通信](⑫)欄、[クライアントモード](⑬)欄で「有効」を選択したときに表示される画面です。

⑲ データビット ……　シリアル通信で1文字あたりに必要なデータビット数を、「6」～「8」から選択します。(初期設定：8)

⑳ パリティ ……　シリアル通信のエラー検出をするパリティービットについて、「なし」、「奇数」、「偶数」から選択します。(初期設定：なし)

㉑ ストップビット ……　シリアル通信のデータに付与するストップビットの長さを、「1」、または「2」から選択します。(初期設定：1)

㉒ フロー制御 ……　仮想シリアルポートのフロー制御を設定します。(初期設定：なし)

㉓ セッションタイマー ……　TCP/IPホストからの通信がないとき、TCPセッションを切断するまでの時間を設定します。(初期設定：30)
設定できる範囲は、「0」、または「1～86400」(秒)です。
※「0」の場合、セッションを切断しません。
※[クライアントモード](⑬)欄を「有効」にすると、この項目は表示されません。

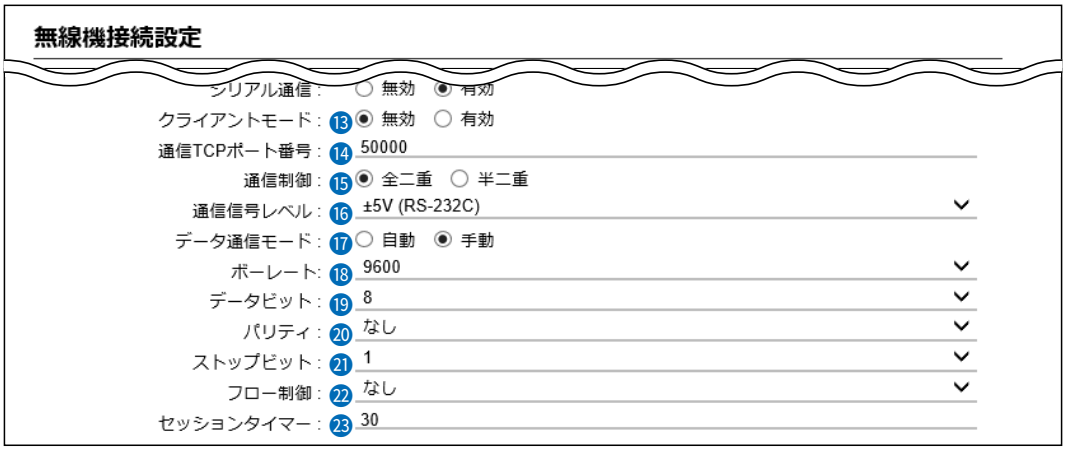
7　無線機ポート詳細設定

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 無線機接続設定(汎用設定選択時)

クライアントモード無効時



※上図は、[シリアル通信](⑫)欄、[データ通信モード](⑭)欄で「手動」を選択したときに表示される画面です。

クライアントモード有効時

※上図は、[シリアル通信](⑫)欄、[クライアントモード](⑬)欄で「有効」を選択したときに表示される画面です。

㉔ 接続先アドレス ……
クライアントモード有効時

シリアル通信相手側(VE-PG3/VE-PG4)に設定されたIPアドレスを設定します。

㉕ 接続先ポート番号 ……
クライアントモード有効時

シリアル通信相手側(VE-PG3/VE-PG4)に設定されたポート番号を設定します。
設定できる範囲は、「1024～65535」です。
(初期設定 : EXT1→50000
EXT2→50001
EXT3→50002
EXT4→50003)

㉖ 接続状態 ……
クライアントモード有効時

[接続先アドレス](㉔)欄で設定した接続先(VE-PG3/VE-PG4(サーバー側))と本製品の接続、接続状態の更新、切断をするボタンです。
※接続試行中、および接続中は、シリアル通信に関係する欄がグレー表示になり、設定を変更できません。
設定を変更するときは、〈切断〉をクリックし、未接続にしてから変更してください。
※[接続先アドレス](㉔)欄を未設定で登録した場合は、〈接続〉、〈接続状態の更新〉がクリックできません。

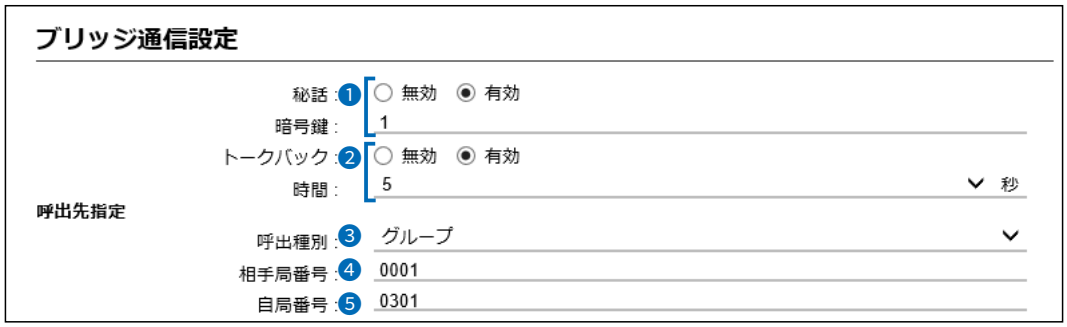
7　無線機ポート詳細設定

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ ブリッジ通信設定(接続機器：無線機選択時)

本製品の[EXT](1～4)ポートに接続された無線機のブリッジ接続通信について設定します。
また、この画面で呼び出す形態を指定することで、本製品の[EXT](1～4)に接続された無線機からブリッジ接続された相手先の機器、または呼出先設定で設定された機器を呼び出せます。
※[外部入出力モード]欄を「統合」に設定した場合は、7-27ページをご覧ください。



※説明のため、秘話(❶)欄を有効にしている画面を使用しています。
※IC-SAT100選択時、❷～❹の欄は表示されません。

❶ 秘話 ……

接続先の無線機に合わせて秘話機能を設定します。　(初期設定：無効)
設定できる範囲は、「1～32767」です。
※有効の場合は、上図のように、暗号鍵を入力できますので、通信する無線機と同じ秘話キーに設定してください。

❷ トークバック ……

トークバックを有効にするかしないかを設定します。(初期設定：有効(5))
「有効」に設定したときは、呼び出された相手先との通話が終了してから、呼び出された経路を、設定した時間接続を保持します。
設定できる範囲は、「1」～「10」(秒)です。

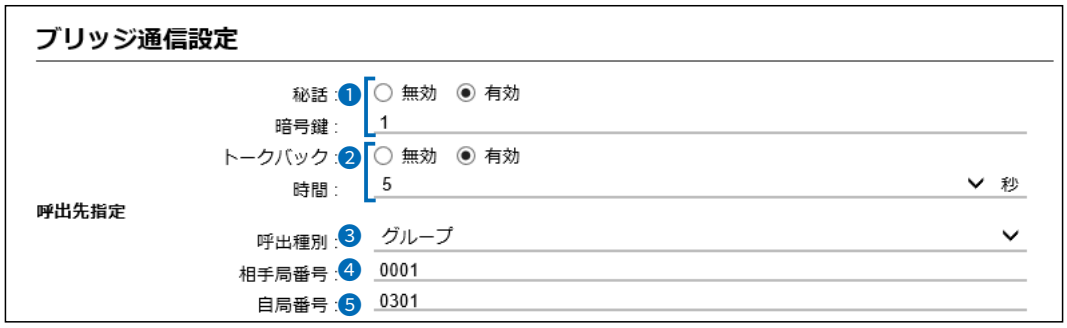
❸ 呼出種別 ……

本製品に接続された無線機が電波を受信した場合、端末側無線機を呼び出すときの形態を選択します。　(初期設定：グループ)
◎**個別**　：1台の端末側無線機を呼び出すとき選択します。
◎**グループ**：特定のグループに所属する端末側無線機を一斉に呼び出すとき選択します。
◎**全体**　：一斉にすべての端末側無線機を呼び出すとき選択します。

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ ブリッジ通信設定(接続機器 : 無線機選択時)



※説明のため、秘話(❶)欄を有効にしている画面を使用しています。
※IC-SAT100選択時、❷～❹の欄は表示されません。

❹ 相手局番号 ……

相手先の端末側無線機に設定された自局番号(個別番号)、またはグループ番号を4桁で入力します。 (初期設定 : 0001)
設定できる範囲は、「0001～9999」です。
※[呼出種別](❸)欄で、「個別」、「グループ」を選択したとき、表示されます。

❺ 自局番号 ……

呼び出す側の自局番号を4桁で入力します。
(初期設定 : 外部入出力1(EXT1)→0301
外部入出力2(EXT2)→0302
外部入出力3(EXT3)→0303
外部入出力4(EXT4)→0304)
呼び出しを受けた相手に表示されます。
設定できる範囲は、「0001～9999」です。

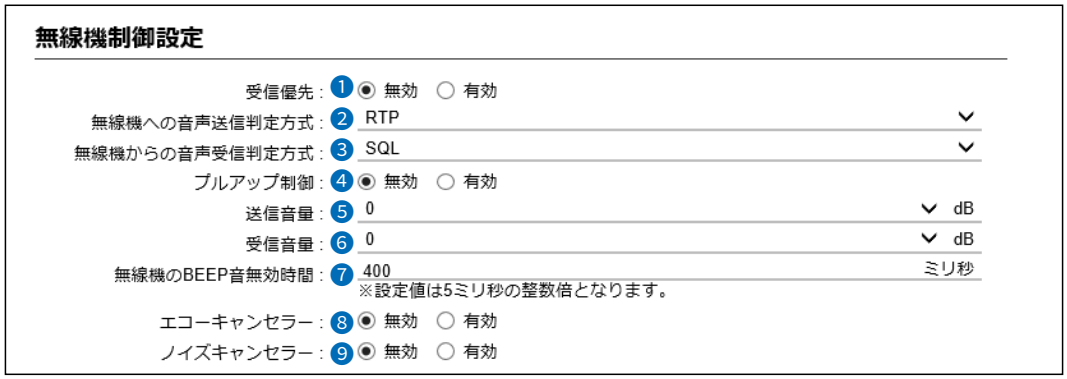
7　無線機ポート詳細設定

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 無線機制御設定(汎用設定選択時)

本製品の[EXT](1～4)ポートに接続された無線機の制御について設定します。



❶ 受信優先 ……

本製品に接続された無線機が電波を受信している場合、その無線機に送信(PTT)信号を出力しないようにする動作を有効とするか無効とするかを設定します。　(初期設定：有効)

IC-MS4880、汎用設定選択時　(初期設定：無効)

❷ 無線機への音声送信判定方式 …

汎用設定選択時

本製品に接続された無線機への送信制御の切り替えに使用する入力信号の種類を、「VOX」(音声信号)、「RTP」、「常時PTT有効」、「常時PTT無効」から選択します。　(初期設定：RTP)

◎**VOX**　：音声入力レベルをしきい値と比較して、信号の受信を判別します。

◎**RTP**　：該当する無線機へのRTPパケットを受信しているあいだ、無線機インターフェースの[PTT]スイッチを制御して、音声信号を無線機に送信します。

◎**常時PTT有効**　：常時[PTT]スイッチを有効にして、音声信号を無線機に送信します。

◎**常時PTT無効**　：常時[PTT]スイッチを無効にします。
本製品に接続された無線機に送信するときも[PTT]スイッチは無効のままとなります。

❸ 無線機からの音声受信判定方式…

本製品に接続された無線機からの音声受信判定方式を選択します。

(初期設定：SQL)

IC-D5005/DPR1、IC-MS4880、汎用設定選択時　(初期設定：VOX)

◎**VOX**　：音声入力レベルをしきい値と比較して、信号の受信を判別します。

◎**SQL**　：スケルチが開く/閉じるにより、信号の受信を判別します。
※2019年5月現在、SQLによる音声受信判定方式に対応する無線機は、IC-4810、IC-D60、IC-DPR6、IC-MS5010だけです。

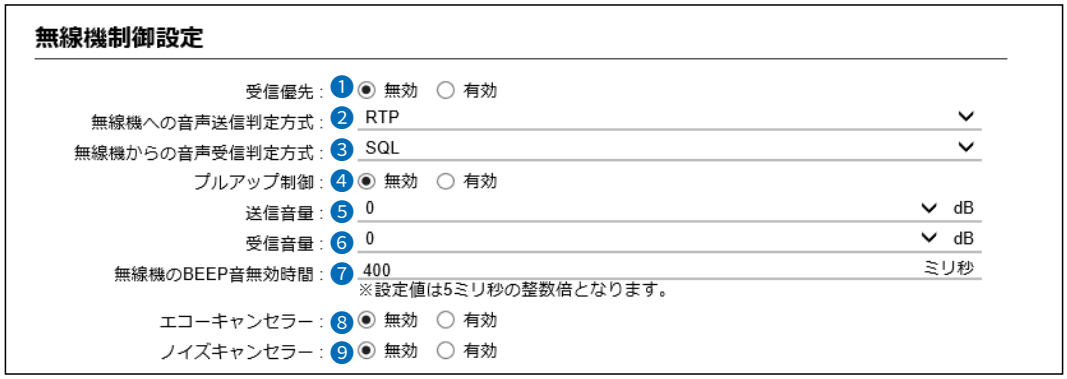
◎**常時受信**：常に信号の受信を判別します。

7　無線機ポート詳細設定

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 無線機制御設定(汎用設定選択時)



❹ プルアップ制御 ……
汎用設定選択時

単独スケルチ検出端子側を本製品内部で、プルアップ制御を有効にするかしないかを設定します。　(初期設定：無効)

❺ 送信音量 ……

本製品に接続された無線機への送信音量レベルを設定します。
設定できる範囲は、「+6」～「−12」(dB)です。　(初期設定：0)

❻ 受信音量 ……

本製品に接続された無線機からの受信音量レベルを設定します。
設定できる範囲は、「+6」～「−12」(dB)です。　(初期設定：0)

❼ 無線機のBEEP音無効時間 ……

本製品に接続された無線機のビープ音が送信音声に載らないように、VE-PG4が音声入力を検出してから実際に無線機が送信するまでの遅延時間を設定します。　(初期設定：400)
設定できる範囲は、「0～1000(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。
※「無線機機種設定」項目で「IC-MS4880」を選択した場合は、表示しません。

❽ エコーキャンセラー ……
汎用設定選択時

エコーキャンセラー機能を設定します。　(初期設定：無効)
「有効」に設定すると、同時通話(複信通信)するときに起こるエコー(反響)を低減します。
※通話する相手に返るエコー抑止に効果があります。

❾ ノイズキャンセラー ……
汎用設定選択時

ノイズキャンセラー機能を設定します。　(初期設定：無効)
◎**無効**：ノイズキャンセラー機能が動作しません。
◎**有効**：ノイズキャンセラー機能が動作して、周囲の雑音が低減され、通話相手がこちらの音声を聞きやすくなります。

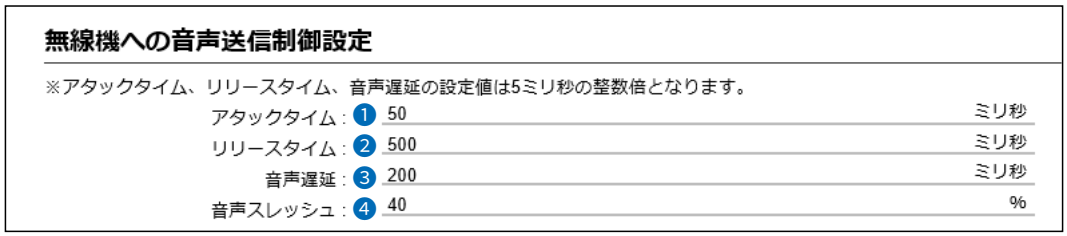
「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 無線機への音声送信制御設定

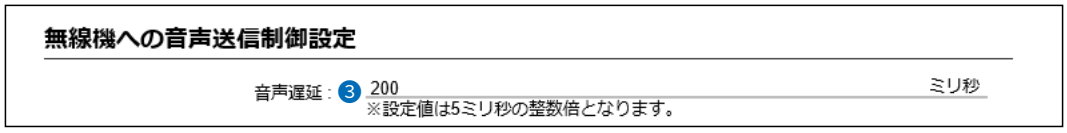
本製品に音声信号が入力されたとき、本製品の[EXT](1～4)ポートに接続された無線機を送信状態にするVOX制御の設定です。
※IC-SAT100選択時、この項目は表示されません。

汎用設定選択時



※説明として[無線機への音声送信判定方式]欄を「VOX」に設定したときの画面を使用しています。

汎用設定以外を設定時



❶ アタックタイム ……
汎用設定選択時

本製品に音声信号が入力されたことを検知して、無線機を送信状態にする時間を設定します。(初期設定：50)
設定できる範囲は、「5～500(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

❷ リリースタイム ……
汎用設定選択時

本製品に音声信号が入力されなくなったことを検知して、無線機の送信を停止する時間を設定します。
(初期設定：200)
無線機への音声受信判定方式：VOX (初期設定：500)
設定できる範囲は、「5～2000(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

❸ 音声遅延 ……

音声信号を蓄積し、遅延再生する時間を設定します。
(初期設定：200)
無線機への音声受信判定方式：RTP (初期設定：300)
ブリッジ接続先機器、または呼出先設定で設定された機器から本製品に接続した無線機の送信制御(RTP検出やVOX検出)で、無線機へPTT信号を出力後、音声信号を設定された時間だけ遅らせて出力します。
(初期設定：500)

設定値を大きくすることで、送信開始から電波送出に時間がかかる場合など通話頭切れを改善できることがあります。
設定できる範囲は、「0～1500(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

❹ 音声スレッシュ ……
汎用設定選択時

本製品に音声信号が入力されたとき、無線機を送信状態にする音声信号入力のしきい値レベルを設定します。
設定できる範囲は、「0～100」(%)です。 (初期設定：40)
※設定値が小さいほど、小さな音声でも検知します。

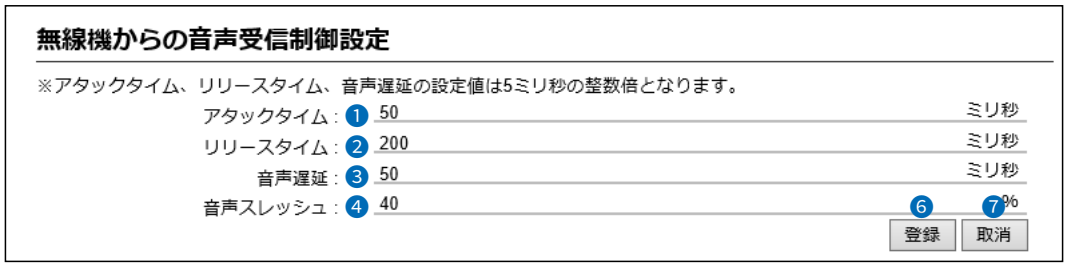
「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

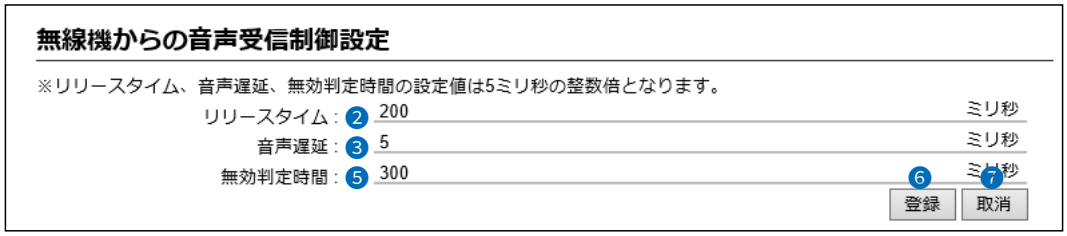
■ 無線機からの音声受信制御設定

[EXT](1～4)ポートに接続された無線機から本製品へ音声信号が入力されたとき、通信機器に対して音声信号を出力するときのVOX制御の設定です。

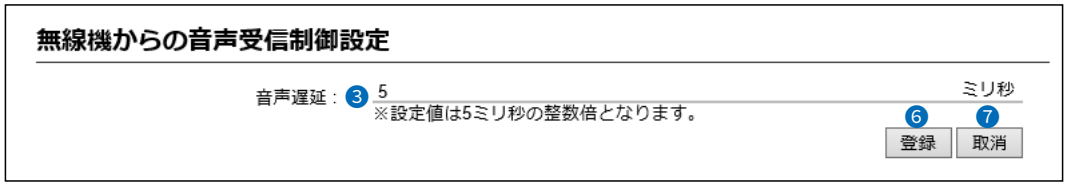
無線機からの音声受信判定方式：VOX



無線機からの音声受信判定方式：SQL



無線機からの音声受信判定方式：常時受信　IC-SAT100選択時



❶ アタックタイム ……

無線機から音声信号が入力されたことを検知して、通信機器に音声検知を通知する時間を設定します。　(初期設定：50)
設定できる範囲は、「5～2000(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

❷ リリースタイム ……

無線機から本製品の[EXT](1～4)ポートへ音声信号が入力されなくなったことを検知して、通信機器の送信を停止する時間を設定します。
(初期設定：200)
設定できる範囲は、「5～2000(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

❸ 音声遅延 ……

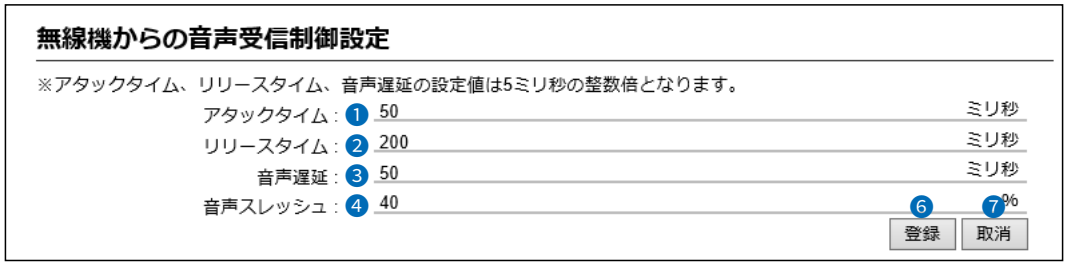
音声信号を蓄積し、遅延再生する時間を設定します。　(初期設定：5)
無線機からの音声受信判定方式:VOX　(初期設定：50)
本製品に接続された無線機からのVOX信号やSQL信号で受信判定後、音声信号を設定された時間だけ遅らせて、通信機器先に送出します。
通信先機器が通話頭切れなどの問題がある場合、設定値を大きくすることで改善できることがあります。
設定できる範囲は、「0～1500(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

「外部入出力(EXT)」画面

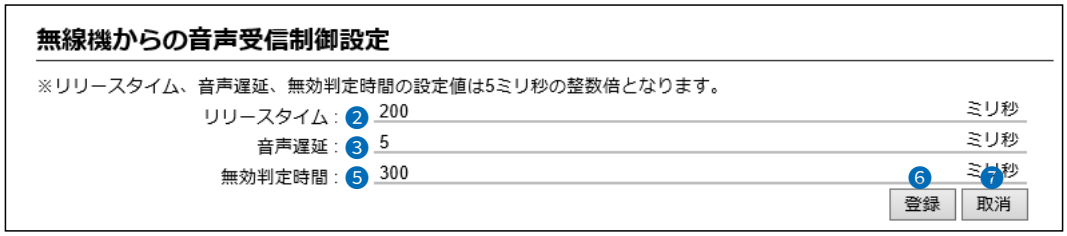
無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 無線機からの音声受信制御設定

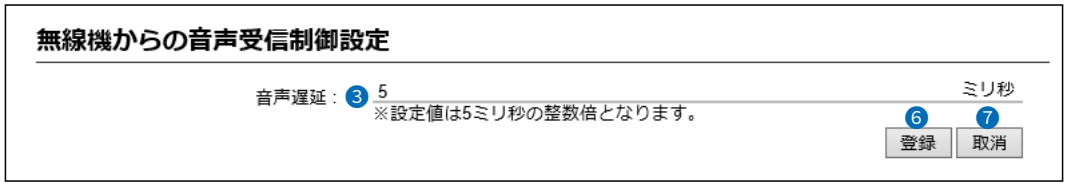
無線機からの音声受信判定方式：VOX



無線機からの音声受信判定方式：SQL



無線機からの音声受信判定方式：常時受信　IC-SAT100選択時



❹ 音声スレッシュ …… 無線機から入力されたことを検知する音声信号入力のしきい値レベルを設定します。（初期設定：40）
設定できる範囲は、「0～100」(%)です。
※設定値が小さいほど、小さな音声でも検知します。

❺ 無効判定時間 …… [無線機からの音声受信判定方式]欄を「SQL」に設定したとき、一定時間SQL信号の検出を無効にする時間を設定します。（初期設定：300）
設定できる範囲は、「0～2000(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

❻〈登録〉 …… [外部入出力設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

❼〈取消〉 …… [外部入出力設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

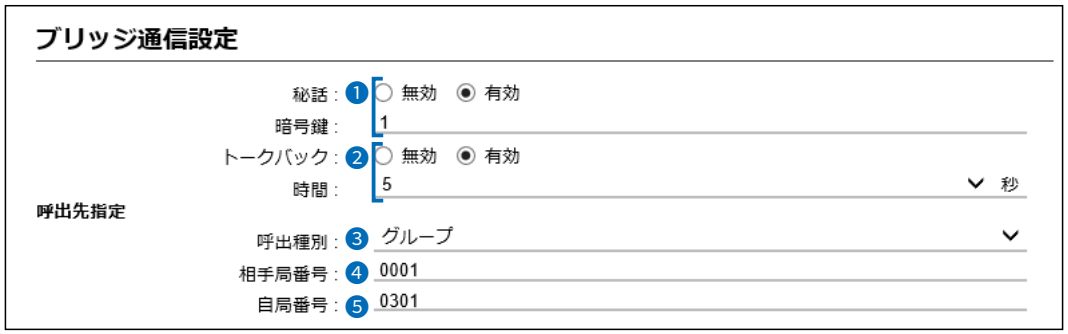
7　無線機ポート詳細設定

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ ブリッジ通信設定(外部入出力モード：統合)

本製品の[EXT](1～4)ポートに接続された外部入出力機器のブリッジ接続通信について設定します。
また、この画面で呼び出す形態を指定することで、本製品の[EXT](1～4)に接続された外部入出力機器からブリッジ接続された相手先の機器、または呼出先設定で設定された機器を呼び出せます。
※[接続機器]欄を「無線機」に設定した場合は、7-20ページをご覧ください。



※説明のため、秘話(❶)欄を有効にしている画面を使用しています。

❶ 秘話 ……

接続先の無線機に合わせて秘話機能を設定します。　(初期設定：無効)
設定できる範囲は、「1～32767」です。
※有効の場合は、上図のように、暗号鍵を入力できますので、接続先の無線機と同じ秘話キーに設定してください。

❷ トークバック ……

トークバックを有効にするかしないかを設定します。(初期設定：有効(5))
「有効」に設定したときは、呼び出された相手先との通話が終了してから、呼び出された経路を、設定した時間接続を保持します。
設定できる範囲は、「1」～「10」(秒)です。

❸ 呼出種別 ……

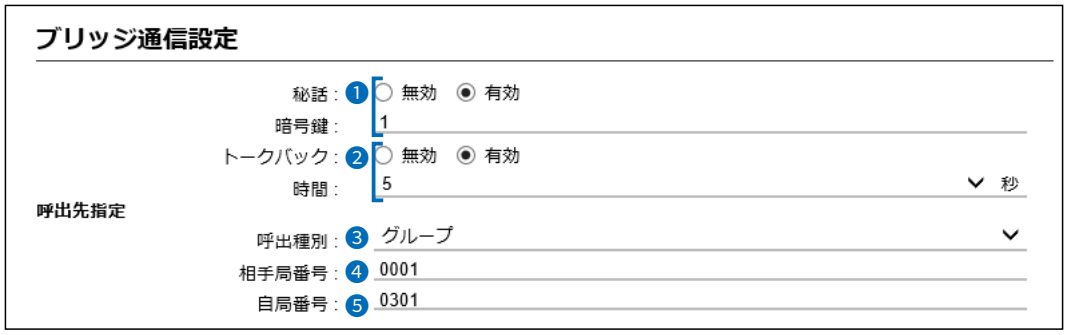
本製品に接続された外部機器から端末側無線機を呼び出すときの形態を選択します。　(初期設定：グループ)
◎**個別**　：1台の端末側無線機を呼び出すとき選択します。
◎**グループ**：特定のグループに所属する端末側無線機を一斉に呼び出すとき選択します。
◎**全体**　：一斉にすべての端末側無線機を呼び出すとき選択します。

7　無線機ポート詳細設定

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ ブリッジ通信設定(外部入出力モード：統合)



※説明のため、秘話(❶)欄を有効にしている画面を使用しています。

❶ 相手局番号 ……

相手先の端末側無線機に設定された自局番号(個別番号)、またはグループ番号を4桁で入力します。　(初期設定：0001)
設定できる範囲は、「0001～9999」です。
※[呼出種別](❸)欄で、「個別」、「グループ」を選択したとき、表示されます。

❷ 自局番号 ……

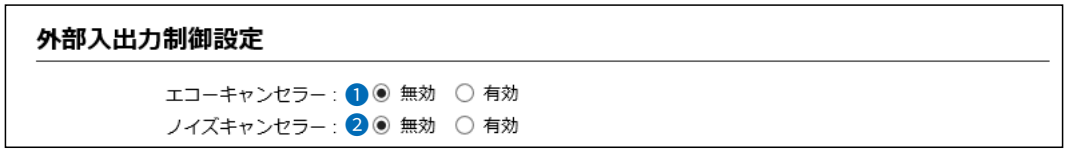
呼び出す側の自局番号を4桁で入力します。
(初期設定：外部入出力1(EXT1)→0301
外部入出力2(EXT2)→0302
外部入出力3(EXT3)→0303
外部入出力4(EXT4)→0304)
呼び出しを受けた相手に表示されます。
設定できる範囲は、「0001～9999」です。

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 外部入出力制御設定

本製品の[EXT](1～4)ポートの入出力制御についての設定です。
設定する外部入出力の接続機器の[外部入出力モード]欄を「統合」に登録する必要があります。



※上記は、[外部入出力モード]欄を「統合」に設定したときに、表示される画面です。
「分離」に設定されているときは、表示されません。

❶ エコーキャンセラー …… エコーキャンセラー機能を設定します。 (初期設定：無効)
「有効」に設定すると、同時通話(複信通信)するときに起こるエコー(反響)を低減します。
※通話する相手に返るエコー抑止に効果があります。

❷ ノイズキャンセラー …… ノイズキャンセラー機能を設定します。 (初期設定：無効)
◎**無効**：ノイズキャンセラー機能が動作しません。
◎**有効**：ノイズキャンセラー機能が動作して、周囲の雑音が低減され、通話相手がこちらの音声を聞きやすくなります。

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 外部入力制御設定

本製品の[EXT](1～4)ポートの入力制御についての設定です。
[秘話](❶)欄～[自局番号](❹)欄は[外部入出力モード]欄を「分離」に設定した場合に表示されます。
[外部入出力モード]欄を「統合」に設定した場合は、[入力接続先]欄(P.7-31)から表示されます。

※上記は、[外部入出力モード]欄を「分離」に設定したときに、表示される画面です。
「統合」に設定されているときは、表示されません。

❶ 秘話 ……

接続先の無線機に合わせて秘話機能を設定します。 (初期設定：無効)
設定できる範囲は、「1～32767」です。
※有効の場合は、上図のように、暗号鍵を入力できますので、接続先の無線機と同じ秘話キーに設定してください。

❷ 呼出種別 ……

本製品と接続された外部機器から、相手先の機器を呼び出す形態を選択します。 (初期設定：グループ)
◎**個別** ：1台の相手先の機器を呼び出すとき選択します。
◎**グループ** ：特定のグループに所属する相手先の機器を一斉に呼び出すとき選択します。
◎**全体** ：一斉にすべての相手先の機器を呼び出すとき選択します。

❸ 相手局番号 ……

相手先の機器に設定された自局番号(個別番号)、またはグループ番号を設定します。 (初期設定：0001)
設定できる範囲は、「0001～9999」です。
※[呼出種別](❷)欄で、「全体」を選択しているときは、表示されません。

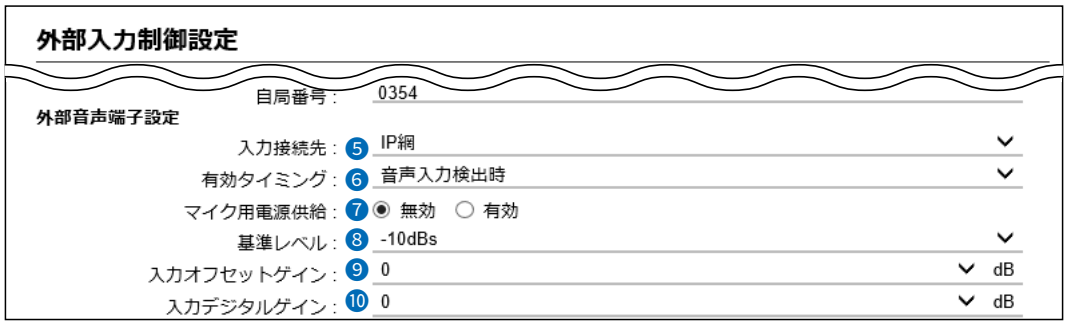
❹ 自局番号 ……

呼び出す側の自局番号を4桁で入力します。
(初期設定：外部入出力1(EXT1)→0351
外部入出力2(EXT2)→0352
外部入出力3(EXT3)→0353
外部入出力4(EXT4)→0354)
呼び出しを受けた相手に表示されます。
設定できる範囲は、「0001～9999」です。

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 外部入力制御設定



※上記は、[外部入出力モード]欄を「分離」に設定したときに、表示される画面です。
「統合」に設定されているときは、表示されません。

❺ 入力接続先 ……

本製品の[EXT](1～4)ポートから入力された音声信号の出力先経路を設定します。 (初期設定：IP網)

◎**外部出力**：本製品の[EXT](1～4)ポートと接続された外部機器へ音声信号を出力します。

※「外部入出力(EXT)」画面の[外部入出力モード設定]項目で、「統合」を設定したときは、選択できません。(P.7-9)

※「外部入出力(EXT)」画面の[外部出力制御設定]項目にあるフェードイン(P.7-44)と、フェードアウト(P.7-44)の設定が利用できます。

◎**IP網**：本製品にネットワーク経由で接続している機器に音声信号を出力します。

◎**緊急**：入力した音声信号を緊急通話として扱います。
「拡張設定」メニューにある「緊急通知」画面の[緊急通知設定]項目(P.9-2)で「有効」に設定されている機器に対して音声信号を出力します。

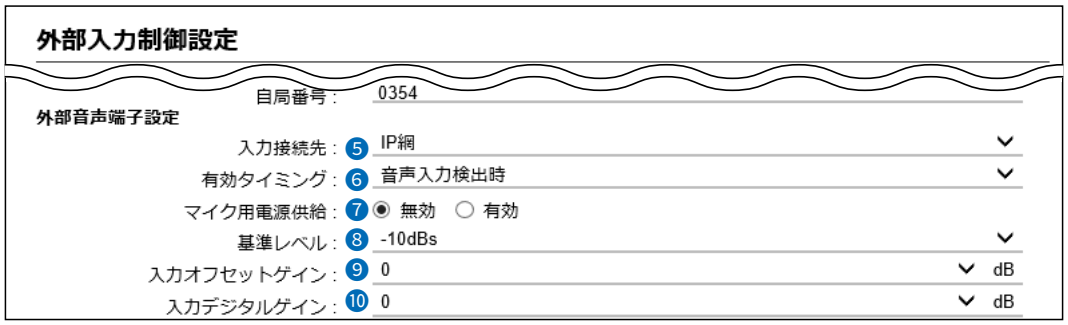
※[EXT](1～4)画面の[有効タイミング](❻)欄の設定条件を満たしたとき、本製品は緊急モードに動作が切り替わると同時に、緊急通知出力先の音声通話は、すべて切断されます。

※緊急通知としてネットワークに発信する場合は、「ブリッジ接続設定」メニューの「ブリッジ接続」画面で組み合わせのブリッジ接続元を「緊急通知」に選択し、ブリッジ接続先を「ブリッジ接続先指定」に設定した通知先を登録し、「拡張設定」メニューの「緊急通知」画面で、緊急通知装置の設定を「有効」に設定する必要があります。

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 外部入力制御設定



※上記は、[外部入出力モード]欄を「分離」に設定したときに、表示される画面です。
「統合」に設定されているときは、表示されません。

❻ 有効タイミング ……

音声信号の入力を有効とするための条件を設定します。
(初期設定：制御入力検出時)

◎常時接続
音声信号を[入力接続先](❺)欄で設定した接続先に常時出力します。
※[入力接続先](❺)欄で、「緊急」を設定しているときは、選択できません。

◎音声入力検出時
音声信号入力検出時、[入力接続先](❺)欄で設定した接続先に音声信号を出力します。

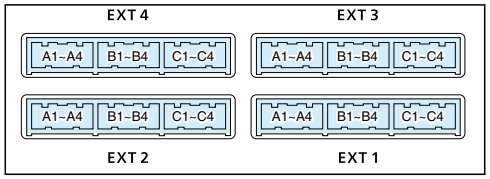
◎制御入力検出時
制御信号入力検出時、[入力接続先](❺)欄で設定した接続先に音声信号を出力します。

❼ マイク用電源供給 ……

電源が必要なマイクロホンなどを本製品の音声入力端子(下図：A3/A4)に接続する場合、その外部機器への電源供給をするかしないかを設定します。
(初期設定：無効)

❽ 基準レベル ……

本製品の音声入力端子(下図：A3/A4)について入力感度を、「−10dBs」、「−40dBs」(0dBs=0.775Vrms)から選択します。(初期設定：−10dBs)
※設定値は、接続する外部機器のオーディオ出力の信号レベルによりますが、目安として、マイクロホンを接続するときは「−40dBs」、外部機器のライン出力を接続するときは「−10dBs」を選択します。



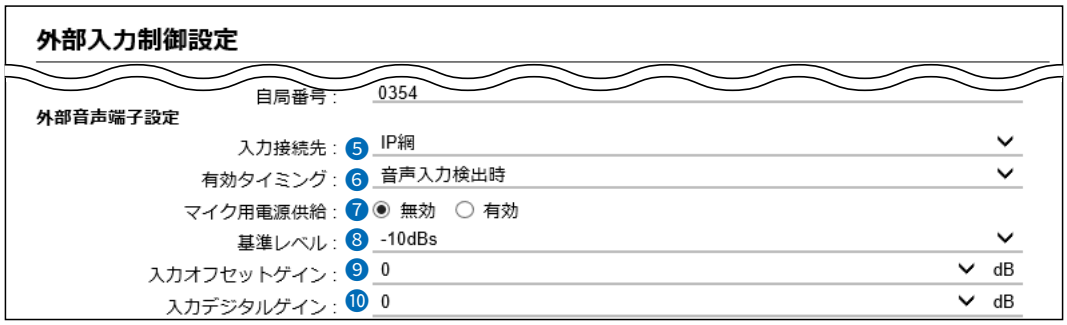
VE-PG4(後面)

※ポートの詳細については、VE-PG4取扱説明書[導入編]の6章をご覧ください。

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

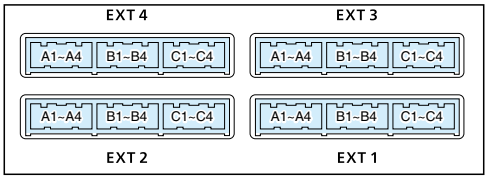
■ 外部入力制御設定



※上記は、[外部入出力モード]欄を「分離」に設定したときに、表示される画面です。
「統合」に設定されているときは、表示されません。

❾ 入力オフセットゲイン …… 本製品の音声入力端子(下図：A3/A4)から入力された信号の増幅度を設定します。(初期設定：0)
設定できる範囲は、「+21」～「−74」(1dB刻み)(dB)です。

❿ 入力デジタルゲイン …… 本製品の音声入力端子(下図：A3/A4)について、デジタル入力感度を設定します。(初期設定：0)
設定できる範囲は、「+6」～「−12」(1dB刻み)(dB)です。



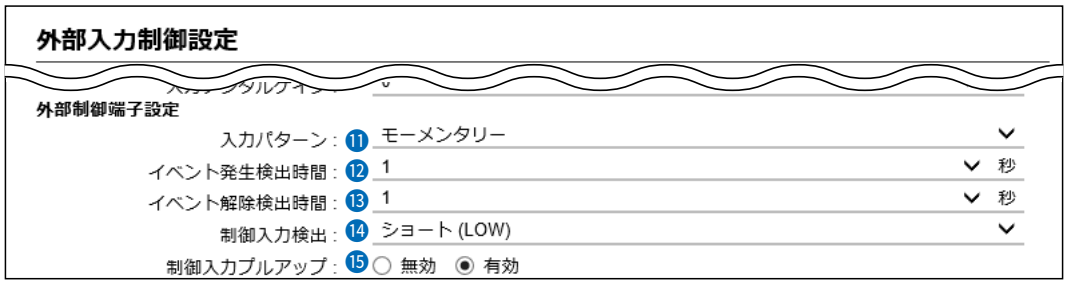
VE-PG4(後面)

※ポートの詳細については、VE-PG4取扱説明書[導入編]の6章をご覧ください。

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 外部入力制御設定



※上記は、[有効タイミング](❻)欄を[制御入力検出時]に設定したとき表示される項目です。

⓫ 入力パターン ……

外部機器でのイベント発生や解除を本製品に通知するときの接点動作パターンを設定します。 (初期設定：モーメンタリー)

◎**モーメンタリー**

本製品のB3/B4端子(汎用制御入力)のイベント発生から解除までがイベントとして検知されます。

◎**ワンショット**

本製品のB3/B4端子(汎用制御入力)のイベント発生から[イベント発生検出時間](⓬)欄で設定した時間までがイベントとして検知されます。

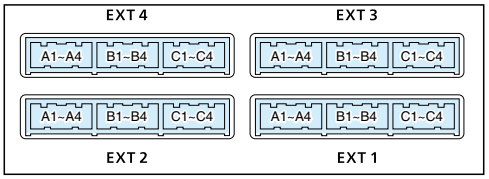
※イベント解除から、[イベント解除検出時間](⓭)欄で設定した時間経過すると、イベントの解除が検知されます。

⓬ イベント発生検出時間 ……

本製品のB3/B4端子(汎用制御入力)が、イベント発生を検知する時間(秒)を設定します。 (初期設定：1)

設定できる時間は、「0.1」、「0.3」、「0.5」、「1」、「1.5」、「2」、「3」(秒)です。

※接続する外部機器の仕様に応じて、最適な時間を選択してください。



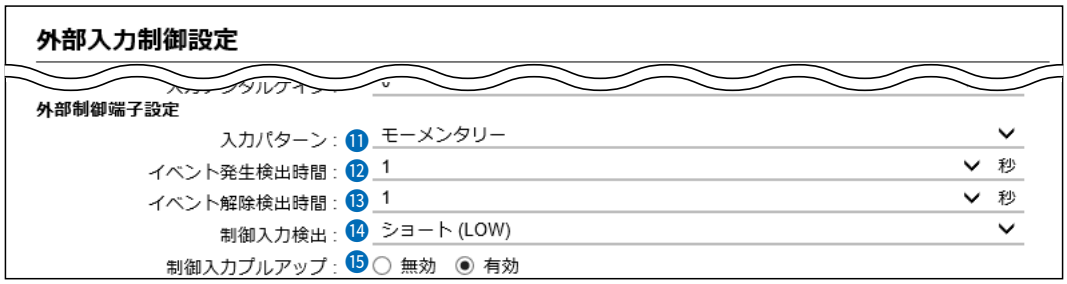
VE-PG4(後面)

※ポートの詳細については、VE-PG4取扱説明書[導入編]の6章をご覧ください。

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 外部入力制御設定



※上記は、[有効タイミング](❻)欄を[制御入力検出時]に設定したとき表示される項目です。

⓭ イベント解除検出時間 ……

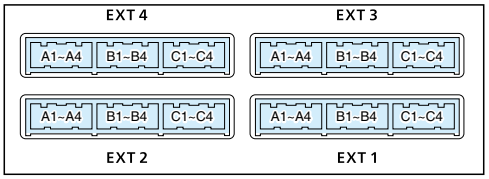
イベント解除から、本製品のB3/B4端子(汎用制御入力)がイベント解除を検知する時間(秒)を設定します。 (初期設定：1)
設定できる時間は、「0.1」、「0.3」、「0.5」、「1」、「1.5」、「2」、「3」(秒)です。
※接続する外部機器の仕様に応じて、最適な時間を選択してください。

⓮ 制御入力検出 ……

制御信号が入力されたと検出する本製品のB3/B4端子(汎用制御入力)の状態(ショート(LOW)/オープン(HIGH))を設定します。
(初期設定：ショート(LOW))
以下の条件で、制御信号入力を認識します。
制御入力をプルアップする場合(下記[制御入力プルアップ]⓯：有効時)
◎ショート(LOW) ：B3/B4 端子(汎用制御入力)を短絡した場合
◎オープン(HIGH)：B3/B4 端子(汎用制御入力)を開放した場合
制御入力をプルアップしない場合(下記[制御入力プルアップ]⓯：無効時)
◎ショート(LOW) ：B3/B4端子(汎用制御入力)間に電圧が印加されない場合
◎オープン(HIGH)：B3/B4端子(汎用制御入力)間に電圧が印加された場合

⓯ 制御入力プルアップ ……

B3/B4端子(汎用制御入力)側を本製品内部でプルアップするかしないかを設定します。 (初期設定：有効)



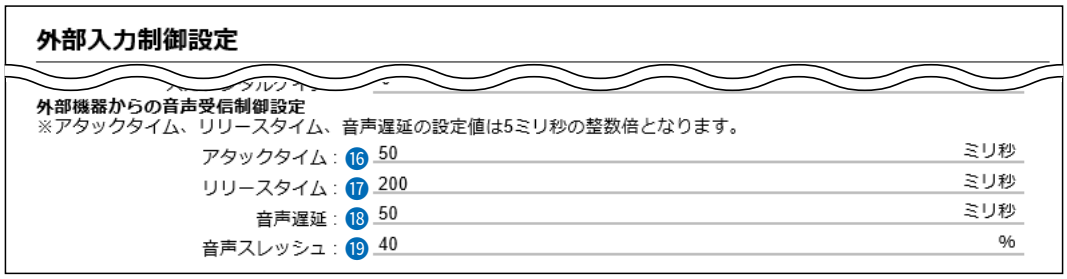
VE-PG4(後面)

※ポートの詳細については、VE-PG4取扱説明書[導入編]の6章をご覧ください。

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 外部入力制御設定



※上記は、[有効タイミング]欄(⑥)を「音声入力検出時」に設定したときに、表示される画面です。

⑯ アタックタイム ……
有効タイミング：音声入力検出時

外部機器から音声信号が入力されたことを検知するまでの時間を設定します。 (初期設定：50)
設定できる範囲は、「5～2000(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

⑰ リリースタイム ……
有効タイミング：音声入力検出時

外部機器から音声信号が入力されなくなったことを検知するまでの時間を設定します。 (初期設定：200)
設定できる範囲は、「5～2000(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

⑱ 音声遅延 ……

音声信号を蓄積し、遅延再生する時間を設定します。 (初期設定：5)
有効タイミング：音声入力検出時 (初期設定：50)
本製品に接続された外部機器からの音声信号でVOX検出後、音声信号を設定された時間だけ遅らせて、通信機器先に送出します。
通信先機器が通話頭切れなどの問題がある場合、設定値を大きくすることで改善できることがあります。
設定できる範囲は、「0～500(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

⑲ 音声スレッシュ ……
有効タイミング：音声入力検出時

外部機器からの入力を検知する音声信号入力のしきい値レベルを設定します。 (初期設定：40)
設定できる範囲は、「0～100」(%)です。
※設定値が小さいほど、小さな音声でも検知します。

7　無線機ポート詳細設定

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 外部出力制御設定

本製品の[EXT](1～4)ポートの出力制御についての設定です。

※上記は、[外部入出力モード]欄を「分離」に設定したときに、表示される画面です。
「統合」に設定されているときは、表示されません

❶ 秘話 …… 接続先の無線機に合わせて秘話機能を設定します。　(初期設定：無効)
設定できる範囲は、「1～32767」です。
※有効の場合は、上図のように、暗号鍵を入力できますので、接続先の無線機と同じ秘話キーに設定してください。

❷ 自局番号 …… 呼び出す側の自局番号を4桁で入力します。
(初期設定：外部入出力1(EXT1)→0301
外部入出力2(EXT2)→0302
外部入出力3(EXT3)→0303
外部入出力4(EXT4)→0304)
呼び出しを受けた相手に表示されます。
設定できる範囲は、「0001～9999」です。

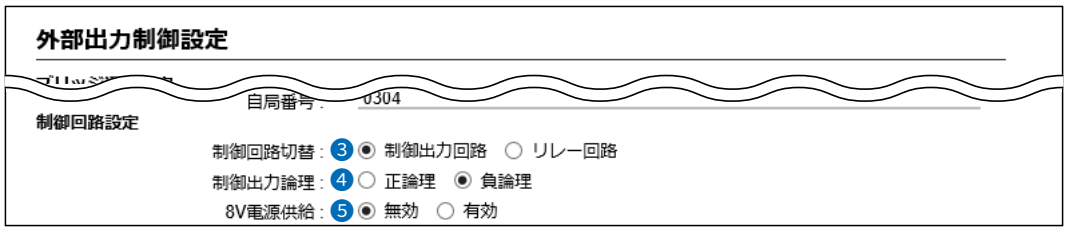
7　無線機ポート詳細設定

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 外部出力制御設定

制御回路：制御出力



制御回路：リレー回路

❸ 制御回路切替 ……

制御対象の回路形式を選択します。　（初期設定：制御出力回路）
※「リレー回路」を選択すると、上図のように[制御出力論理](❻)欄だけになります。
※リレー回路を選択すると、「シリアル通信」の[通信制御]欄から「半二重」が選択できなくなります。

❹ 制御出力論理 ……
制御回路：制御出力

イベント発生時に出力する信号の論理を選択します。（初期設定：負論理）

❺ 8V電源供給 ……

電源が必要なマイクロホンなどを本製品の外部出力端子(B2/B4端子)に接続する場合、その機器への電源供給をするかしないかを設定します。
※30mA以下でご使用ください。　（初期設定：無効）
※8V電源供給を「有効」にすると、「シリアル通信設定」の[通信制御]欄から「半二重」が選択できなくなります。

❻ 制御出力論理 ……
制御回路：リレー回路

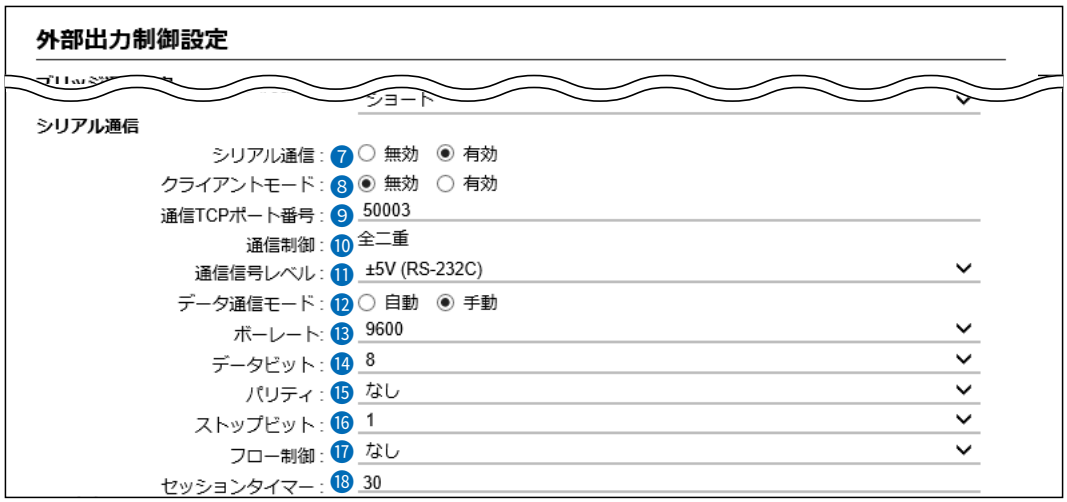
リレー出力端子(B1/B2端子)をオープンからショートにするか、ショートからオープンにするかを設定します。　（初期設定：ショート）
音声信号が出力されると同時に、制御信号を出力します。

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 外部出力制御設定

クライアントモード無効時



※説明のため、[シリアル通信](⑦)欄で「有効」、[データ通信モード](⑫)欄で「手動」を選択したときに表示される画面を使用しています。

⑦ シリアル通信 ……

外部出力ポートのシリアル通信について設定します。
「有効」にすると、[クライアントモード](⑧)欄～[データ通信モード](⑫)欄が表示されます。 (初期設定：無効)

⑧ クライアントモード ……

クライアントモード機能を使用して、ほかの機器(VE-PG3/VE-PG4)に接続すると、本製品を経由したシリアル機器同士の通信ができます。
(初期設定：無効)
「有効」にすると、クライアント側に必要な[接続先アドレス](⑲)欄、[接続状態](㉑)欄などが表示されます。(P.7-42)
※接続先(サーバー側)との通信に必要なボートレートなどは、クライアントモードを有効にしたVE-PG4(本製品側)で設定します。

⑨ 通信TCPポート番号 ……

本製品のポート番号を設定します。
設定できる範囲は、「1024～65535」です。
(EXT1選択時の初期値：50000
EXT2選択時の初期値：50001
EXT3選択時の初期値：50002
EXT4選択時の初期値：50003)
※[クライアントモード](⑧)欄を「有効」にすると、この項目は表示されません。

⑩ 通信制御 ……

シリアル通信時の通信方式を、「全二重」、「半二重」から選択します。
(シリアル通信有効時の初期値：全二重)
※制御回路切替「リレー回路」選択時、または8V電源供給「有効」選択時、通信制御は「全二重」だけになります。

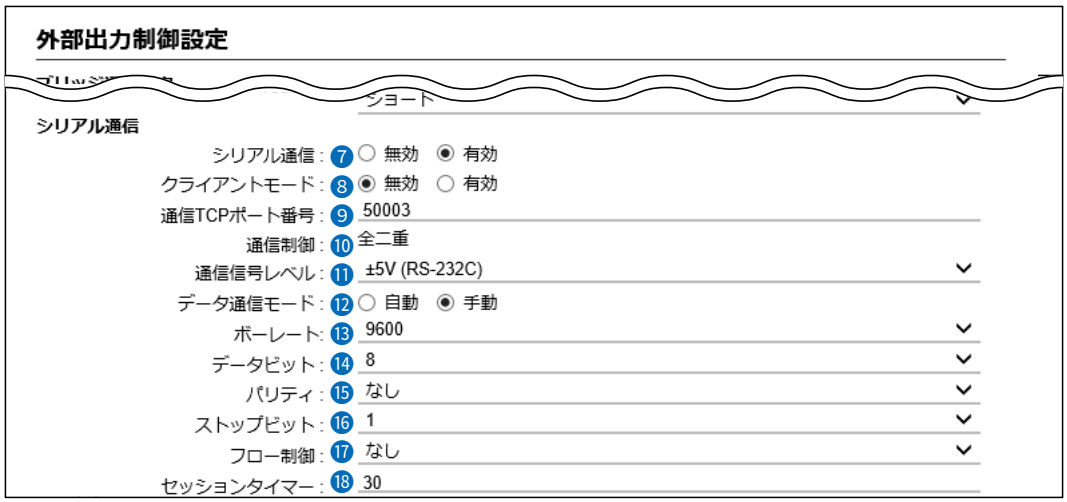
7　無線機ポート詳細設定

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 外部出力制御設定

クライアントモード無効時



※説明のため、[シリアル通信](⑦)欄で「有効」、[データ通信モード](⑫)欄で「手動」を選択したときに表示される画面を使用しています。

⑪ 通信信号レベル ……

シリアル通信時の信号レベルを、「±5V(RS-232C)」、「0V/3V(ロジック)」、「0V/5V(ロジック)」から選択します。
(シリアル通信有効時の初期値：±5V(RS-232C))

⑫ データ通信モード ……

シリアル通信で使用する機器との通信方法を設定します。（初期設定：自動）
◎**自動**：パソコンにインストールしたVirtual Serial Port(弊社ホームページからダウンロードできる無償ソフトウェア)と通信して、自動的に通信方法を設定します。
◎**手動**：手動で通信方法を設定します。
※Virtual Serial Port(弊社ホームページからダウンロードできる無償ソフトウェア)を使用して通信を行う場合、簡易データ通信にチェックをつけて有効にしてください。
※「手動」を選択すると、[ボーレート](⑬)欄～[セッションタイマー](⑱)欄が表示されます。
※[クライアントモード](⑧)欄を「有効」にすると、この項目は表示されません。

⑬ ボーレート ……

シリアル通信で使用する機器との通信速度を、「75」、「110」、「134」、「150」、「300」、「600」、「1200」、「1800」、「2400」、「4800」、「9600」、「19200」、「38400」、「57600」、「115200」から設定します。
(初期設定：9600)

⑭ データビット ……

シリアル通信で1文字あたりに必要なデータビット数を、「6」～「8」から選択します。
(初期設定：8)

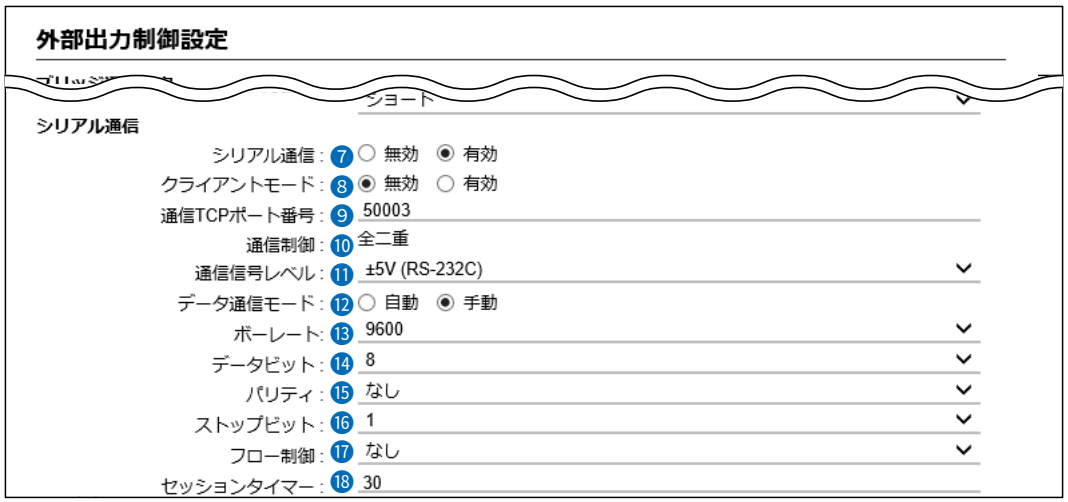
7　無線機ポート詳細設定

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 外部出力制御設定

クライアントモード無効時



※説明のため、[シリアル通信](⑦)欄で「有効」、[データ通信モード](⑫)欄で「手動」を選択したときに表示される画面を使用しています。

⑮ パリティ …… シリアル通信のエラー検出をするパリティービットについて、「なし」、「奇数」、「偶数」から選択します。 (初期設定：なし)

⑯ ストップビット …… シリアル通信のデータに付与するストップビットの長さを、「1」、または「2」から選択します。 (初期設定：1)

⑰ フロー制御 …… 仮想シリアルポートのフロー制御を設定します。 (初期設定：なし)

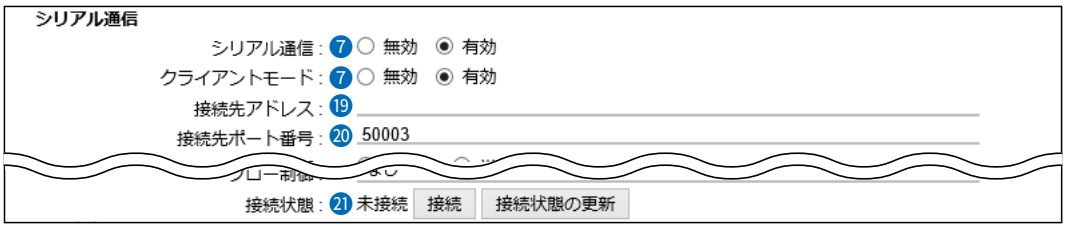
⑱ セッションタイマー …… TCP/IPホストからの通信がないとき、TCPセッションを切断するまでの時間を設定します。 (初期設定：30)
設定できる範囲は、「0」、または「1～86400」(秒)です。
※「0」の場合、セッションを切断しません。
※[クライアントモード](⑧)欄を「有効」にすると、この項目は表示されません。

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 外部出力制御設定

クライアントモード有効時



※説明のため、[シリアル通信](⑦)欄で「有効」、[クライアントモード](⑧)欄で「有効」を選択したときに表示される画面を使用しています。

⑲ 接続先アドレス ……

シリアル通信相手側(VE-PG3/VE-PG4)に設定されたIPアドレスを設定します。

※[クライアントモード](⑧)欄を「無効」にすると、この項目は表示されません。

⑳ 接続先ポート番号 ……

シリアル通信相手側(VE-PG3/VE-PG4)に設定されたポート番号を設定します。

設定できる範囲は、「1024 ～65535」です。

(EXT1選択時の初期値：50000
EXT2選択時の初期値：50001
EXT3選択時の初期値：50002
EXT4選択時の初期値：50003)

※[クライアントモード](⑧)欄を「無効」にすると、この項目は表示されません。

㉑ 接続状態 ……

[接続先アドレス](⑲)欄で設定した接続先(VE-PG3/VE-PG4(サーバー側))と本製品の接続、接続状態の更新、切断をするボタンです。

※接続試行中、および接続中は、シリアル通信に関係する欄がグレー表示になり、設定を変更できません。
設定を変更するときは、〈切断〉をクリックし、未接続にしてから変更してください。

※[接続先アドレス](⑲)欄を未設定で登録した場合は、〈接続〉、〈接続状態の更新〉がクリックできません。

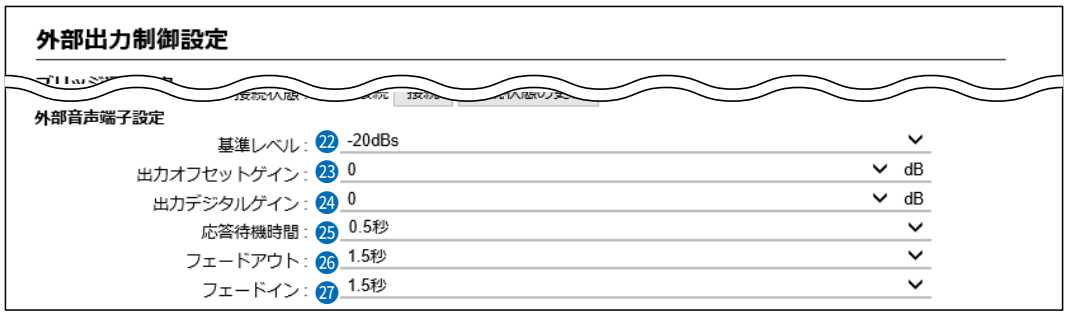
※[クライアントモード](⑧)欄を「無効」にすると、この項目は表示されません。

「外部入出力(EXT)」画面

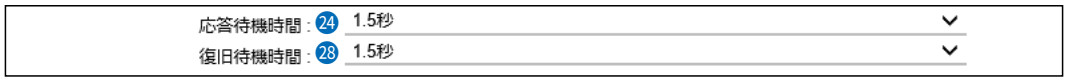
無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 外部出力制御設定

外部入出力モード：分離



外部入出力モード：統合



㉒ 基準レベル ……

外部機器と接続する本製品のA1/A2端子(音声出力)について、音声出力レベルを、「スピーカー」、「0dBs」、「-20dBs」から設定します。(0dBs=0.775Vrms)
(初期設定：-20dBs)

㉓ 出力オフセットゲイン ……

本製品のA1/A2端子(音声出力)に接続された機器へのアナログ音声の信号レベルを選択します。(初期設定：0dB)
設定できる範囲は、「+20」～「-43」(dB)です。

㉔ 出力デジタルゲイン ……

本製品のA1/A2端子(音声出力)に接続された機器へのデジタル音声の信号レベルを選択します。(初期設定：0dB)
設定できる範囲は、「+6」～「-12」(dB)です。

㉕ 応答待機時間 ……

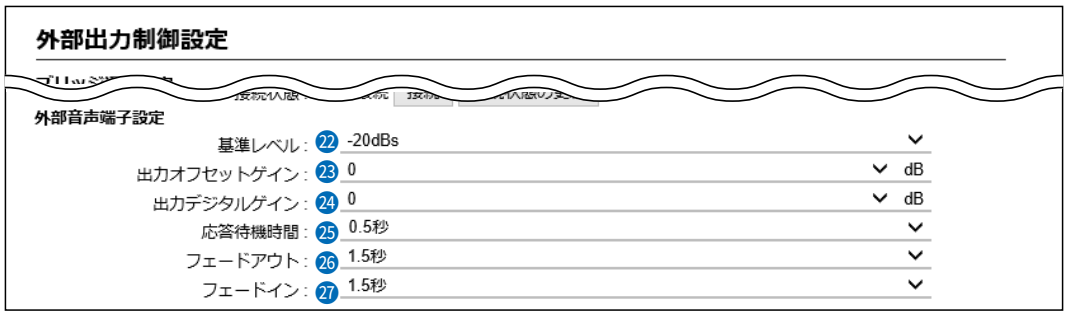
本製品に接続した機器への無線機コントローラー電話接続着信に対して、着信してから前置音を鳴らすまでの時間を設定します。
外部入出力モード:分離(初期設定：0.5秒)
外部入出力モード:統合(初期設定：1.5秒)
外部出力端子を放送アンプの電源制御に使用している場合など、これらの端子の動作から音声が出力されるまで、間隔が必要な場合に利用します。
「無効」、「0.5秒」、「1秒」、「1.5秒」、「2秒」、「3秒」から選択できます。
※「無効」を選択すると、着信と同時に前置音が鳴ります。

「外部入出力(EXT)」画面

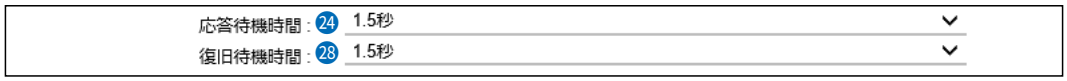
無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 外部出力制御設定

外部入出力モード：分離



外部入出力モード：統合



㉖ フェードアウト ……

外部入出力モード：分離

オートフェーダー機能において、音声が小さくなりはじめて消えるまでの時間を設定します。（初期設定：1.5秒）
「無効」、「0.5秒」、「1秒」、「1.5秒」、「2秒」、「3秒」から選択できます。
※無線機コントローラー電話接続からの着信、通話時に有効な項目です。
※「無効」を選択すると、切り替え動作だけになります。
※オートフェーダー機能は、以下の設定でネットワークから着信したとき、外部音声入力に対して動作します。
◎外部入出力を分離(P.7-9)
◎入力接続先が外部出力設定(外部入力と出力が直結)
◎優先レベル設定時(P.14-11)
◎無線機コントローラー電話機接続からの割り込み着信
これ以外の状態では、オートフェーダー機能は動作せず、この設定は、応答待機時間の設定になります。

㉗ フェードイン ……

外部入出力モード：分離

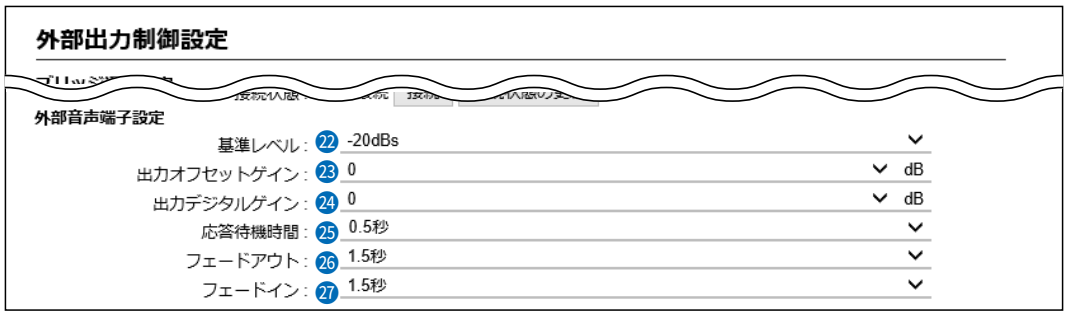
オートフェーダー機能において、音声が復帰をはじめてから元の音量に戻るまでの時間を設定します。（初期設定：1.5秒）
「無効」、「0.5秒」、「1秒」、「1.5秒」、「2秒」、「3秒」から選択できます。
※無線機コントローラー電話接続からの着信、通話時に有効な項目です。
※「無効」を選択すると、切り替え動作だけになります。
※オートフェーダー機能は、以下の設定でネットワークから着信したとき、外部音声入力に対して動作します。
◎外部入出力を分離(P.7-9)
◎入力接続先が外部出力設定(外部入力と出力が直結)
◎優先レベル設定時(P.14-11)
◎無線機コントローラー電話機接続からの割り込み着信
これ以外の状態では、オートフェーダー機能は動作せず、この設定は、復旧待機時間の設定になります。

「外部入出力(EXT)」画面

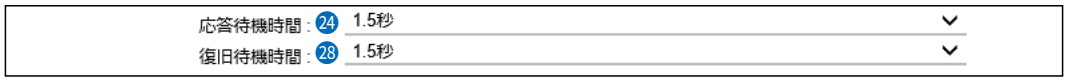
無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 外部出力制御設定

外部入出力モード：分離



外部入出力モード：統合



㉘ 復旧待機時間 ……

外部入出力モード：統合

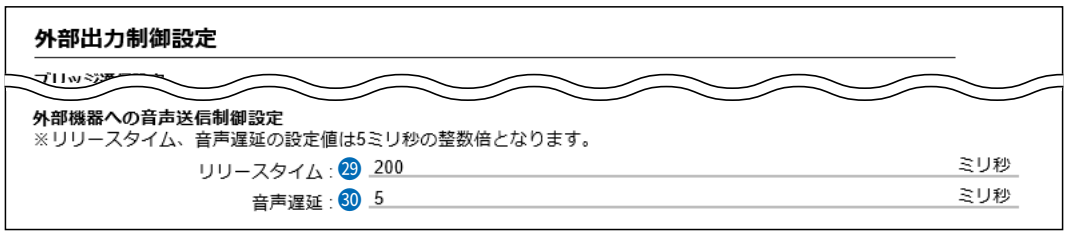
無線機コントローラー電話接続の通話終了後からリレー保持する時間を設定します。（初期設定：1.5秒）
外部出力端子を放送アンプの電源制御に使用している場合など、通話終了から電源断まで間隔が必要な場合に利用します。
「無効」、「0.5秒」、「1秒」、「1.5秒」、「2秒」、「3秒」から選択できます。
※「無効」を選択すると、切断と同時にリレーが解放します。
※無線機コントローラー電話接続からの着信、通話時に有効な項目です。

7　無線機ポート詳細設定

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 外部出力制御設定



29 リリースタイム ……

外部機器へ出力する音声信号が、本製品に入力されなくなったことを検知するまでの時間を設定します。　（初期設定：200）
設定できる範囲は、「5～2000(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。
※設定値が小さいほど、小さな音声でも検知します。

30 音声遅延 ……

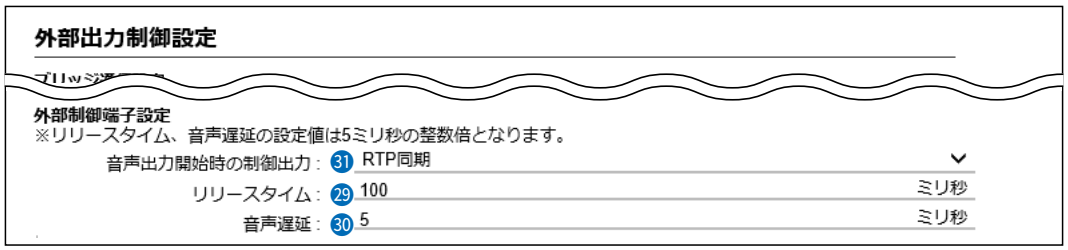
音声信号を蓄積し、遅延再生する時間を設定します。　（初期設定：5）
通信先機器から本製品に接続した外部機器への出力判定(RTP検出やVOX検出)で、制御回路を切り替えたあと、音声信号を設定された時間だけ遅らせて出力します。
外部出力機器の応答が遅れ、通話頭切れなどの問題がある場合、設定値を大きくすることで改善できることがあります。
設定できる範囲は、「0～1500(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

「外部入出力(EXT)」画面

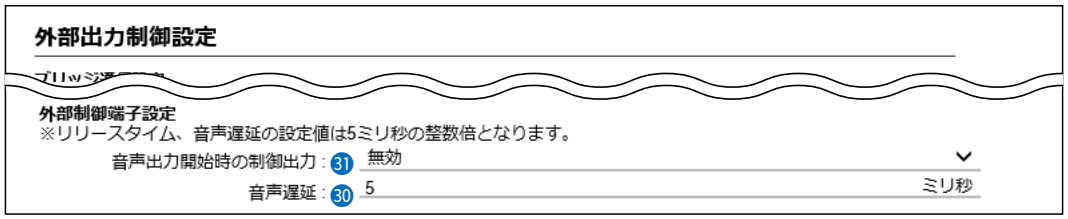
無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 外部出力制御設定

音声出力開始時の制御出力：RTP同期



音声出力開始時の制御出力：無効



※説明のため、[制御回路切替](❸)欄を「リレー回路」に選択したときに表示される画面を使用しています。

31 音声出力開始時の制御出力 ……

本製品の外部出力端子から音声信号が出力されると同時に、制御信号を出力するかしないかを設定します。　（初期設定：RTP同期）

◎**無効**　：制御信号を使用しない

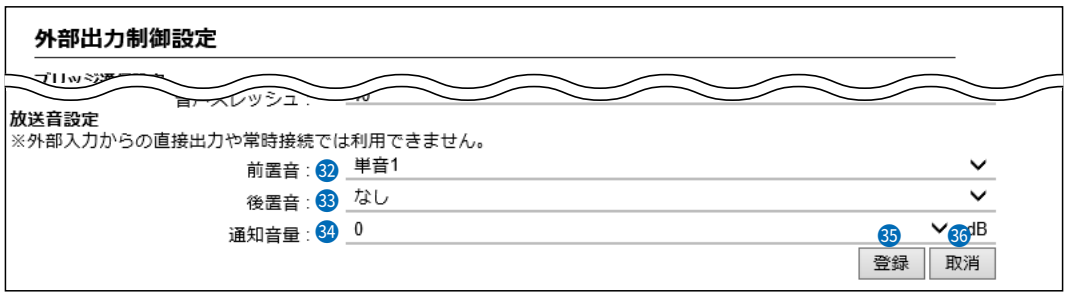
◎**RTP同期**：音声信号(RTP)を受信したとき、リレーが動作します。
発信側が常時接続のように音声信号の有無に関わらずRTPを送信してくる場合もリレーが動作状態になります。

※[制御回路切替](❸)欄を「制御出力回路」に設定した場合は、表示されません。

「外部入出力(EXT)」画面

無線機ポート詳細設定 > 外部入出力(EXT)

■ 外部出力制御設定



32 前置音 …… 放送開始前の効果音を、「なし」、「4音(アップ)」、「単音1」、「単音2」から選択します。（初期設定：単音1）

33 後置音 …… 放送終了後の効果音を、「なし」、「4音(ダウン)」、「単音1」、「単音2」から選択します。（初期設定：なし）

34 通知音量 …… 効果音(32、33)設定時の音量レベルを設定します。
設定できる範囲は、「+6」～「−12」(dB)です。（初期設定：0）

35 〈登録〉 …… 「外部入出力(EXT)」画面で設定した内容を登録するボタンです。

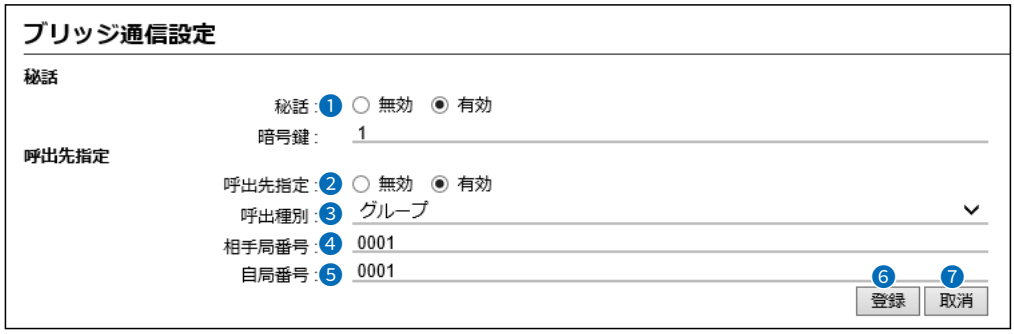
36 〈取消〉 …… 「外部入出力(EXT)」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「緊急通知」画面

無線機ポート詳細設定 > 緊急通知

■ ブリッジ通信設定

本製品とブリッジ接続した緊急通知先について設定します。



❶ 秘話 ……

接続先の無線機に合わせて秘話機能を設定します。　（初期設定：無効）
設定できる暗号鍵の範囲は、「1～32767」です。
※有効の場合は、上図のように、暗号鍵を入力できますので、接続先の無線機と同じ秘話キーに設定してください。

❷ 呼出先指定 ……

ブリッジ接続先を緊急通知装置として呼び出す際に呼出先を指定するときの設定です。　（初期設定：無効）
※「有効」に設定すると、❸～❺が表示されます。

❸ 呼出種別 ……

接続先の無線機から、ブリッジ接続先を呼び出すときの形態を「個別」/「グループ」/「全体」から選択します。　（初期設定：グループ）

❹ 相手局番号 ……

相手先の端末側無線機に設定された自局番号（個別番号）、またはグループ番号を4桁で入力します。　（初期設定：0001）
設定できる範囲は、「0001～9999」です。
※［呼出種別］（❸）欄で、「個別」、「グループ」を選択したとき、表示されます。

❺ 自局番号 ……

呼び出す側の自局番号を4桁で入力します。　（初期設定：0001）
呼び出しを受けた相手に表示されます。
設定できる範囲は、「0001～9999」です。

❻〈登録〉 ……

［ブリッジ通信設定］項目で設定した内容を登録するボタンです。

❼〈取消〉 ……

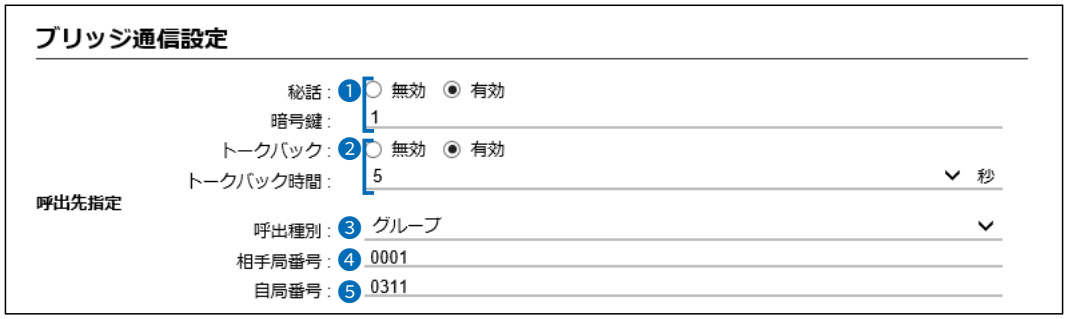
［ブリッジ通信設定］項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「マイク(MIC)」画面

無線機ポート詳細設定 > マイク(MIC)

■ ブリッジ通信設定

本製品に接続したマイクロホンについて、接続機器と通信するために必要な設定をします。



❶ 秘話 ……

接続先の無線機に合わせて秘話機能を設定します。
設定できる範囲は、「1～32767」です。 (初期設定：無効)
※有効の場合は、上図のように、暗号鍵を入力できますので、接続先の無線機と同じ秘話キーに設定してください。

❷ トークバック ……

トークバックを有効にするかしないかを設定します。 (初期設定：有効(5))
「有効」に設定したときは、呼び出された相手先との通信が終了してから、呼び出された経路を設定した時間接続を保持します。
設定できる範囲は、「1」～「10」(秒)です。

❸ 呼出種別 ……

本製品に接続されたマイクロホンのPTTを押下し、検知された場合、端末側無線機を呼び出すときの形態を選択します。 (初期設定：グループ)

❹ 相手局番号 ……

相手先の端末側無線機に設定された自局番号(個別番号)、またはグループ番号を4桁で入力します。 (初期設定：0001)
設定できる範囲は、「0001～9999」です。

❺ 自局番号 ……

呼び出す側の自局番号を4桁で入力します。 (初期設定：0311)
設定できる範囲は、「0001～9999」です。

「マイク(MIC)」画面

無線機ポート詳細設定 > マイク(MIC)

■ マイク制御設定

本製品に接続したマイクロホンについて、入出力制御を設定します。

❶ **通信方式** …… マイクロホンで使用する通信方式を設定します。 (初期設定：複信通信)

❷ **エコーキャンセラー** …… エコーキャンセラー機能を設定します。 (初期設定：有効)
「有効」に設定すると、同時通話(複信通信)するときに起こるエコー(反響)を低減します。
※通話する相手に返るエコー抑止に効果があります。

❸ **ノイズキャンセラー** …… ノイズキャンセラー機能を設定します。 (初期設定：有効)
◎**無効**：ノイズキャンセラー機能が動作しません。
◎**有効**：ノイズキャンセラー機能が動作して、周囲の雑音が低減され、通話相手がこちらの音声を聞きやすくなります。

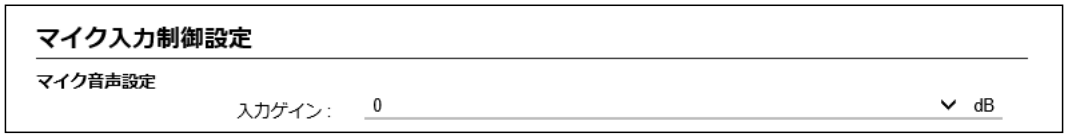
7　無線機ポート詳細設定

「マイク(MIC)」画面

無線機ポート詳細設定 > マイク(MIC)

■ マイク入力制御設定

本製品に接続したマイクロホンの入力制御についての設定です。



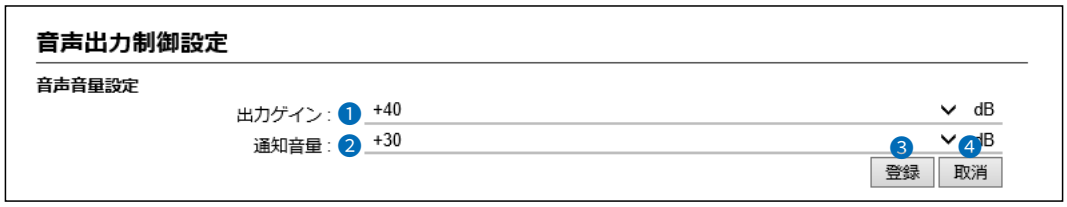
入力ゲイン…… マイクロホンについて、入力感度を設定します。（初期設定：0）
設定できる範囲は、「+6」～「－12」(1dB刻み)(dB)です。

「マイク(MIC)」画面

無線機ポート詳細設定 > マイク(MIC)

■ 音声出力制御設定

本製品に接続したマイクロホンの音声出力制御についての設定です。



❶ **出力ゲイン** …… 出力するデジタル音声の信号レベルを選択します。（初期設定：+40dB）
設定できる範囲は、「+63」～「0」(dB)です。

❷ **通知音量** …… 通知音の音量レベルを設定します。（初期設定：+30dB）
設定できる範囲は、「+63」～「0」(dB)です。

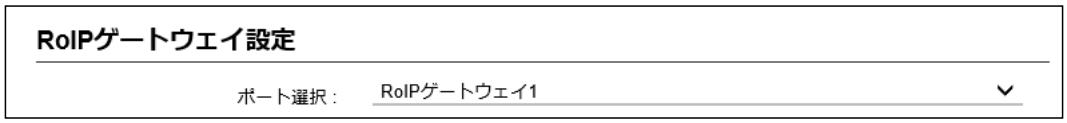
❸ **〈登録〉** …… 「マイク(MIC)」画面で設定した内容を登録するボタンです。

❹ **〈取消〉** …… 「マイク(MIC)」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「RoIPゲートウェイ」画面

無線機ポート詳細設定 > RoIPゲートウェイ

■ RoIPゲートウェイ設定



ポート選択…… RoIPゲートウェイ1～RoIPゲートウェイ8から設定を変更するポートを選択します。（初期設定：RoIPゲートウェイ1）

「RoIPゲートウェイ」画面

無線機ポート詳細設定 > RoIPゲートウェイ

■ RoIPゲートウェイ接続設定

本製品がRoIPゲートウェイ接続する接続先の設定です。

※説明のため、[IP通信モード](❶)欄を「マルチキャスト」に設定したときの画面を使用しています。

❶ IP通信モード …… 本製品に接続された機器がネットワークで通信するための方式を、ポートごとに設定します。（初期設定：ユニキャスト）

❷ 接続先アドレス …… RoIPゲートウェイの接続先アドレス、またはドメイン名(63文字以内)を設定します。

❸ 接続先ポート番号 …… 通話相手側に設定された[自局ポート番号](❹)欄と同じポート番号を設定します。
※設定できる範囲は、「2～65534」の偶数値だけです。
そのほか、本製品が使用する一部のポートで利用できないものがあります。
※通信には、設定したポート番号(RTP)と設定したポート番号＋1(RTCP)の2つを使用します。
※「ユニキャスト」で使用する場合は、本製品のほかの接続設定の接続先ポートと重複しないように設定してください。
（初期設定：RoIPゲートウェイ1→24400
RoIPゲートウェイ2→24402
RoIPゲートウェイ3→24404
RoIPゲートウェイ4→24406
RoIPゲートウェイ5→24408
RoIPゲートウェイ6→24410
RoIPゲートウェイ7→24412
RoIPゲートウェイ8→24414）

「RoIPゲートウェイ」画面

無線機ポート詳細設定 > RoIPゲートウェイ

■ RoIPゲートウェイ接続設定

※説明のため、[IP通信モード](❶)欄を「マルチキャスト」に設定したときの画面を使用しています。

❹ 自局ポート番号 ……

音声信号を受信するためのポート番号を設定します。
※音声信号の送信元ポート番号としても使用します。
※設定できる範囲は、「1024～65534」の偶数値だけです。
そのほか、本製品が使用する一部のポートで利用できないものがあります。
※通信には、設定したポート番号(RTP)と設定したポート番号＋1(RTCP)の2つを使用します。
※「ユニキャスト」で使用する場合は、本製品のほかの接続設定の自局ポート番号と重複しないように設定してください。

(初期設定：RoIPゲートウェイ1→24400
RoIPゲートウェイ2→24402
RoIPゲートウェイ3→24404
RoIPゲートウェイ4→24406
RoIPゲートウェイ5→24408
RoIPゲートウェイ6→24410
RoIPゲートウェイ7→24412
RoIPゲートウェイ8→24414)

❺ 音声プロトコル ……

[AMBE+2ボコーダー割当設定](7-57ページ)項目で設定した音声プロトコルが表示されます。

❻ マルチキャスト用TTL ……

送信した音声パケットの有効期限として、通信先に音声パケットが届くまでに通過するルーターの数を設定します。 (初期設定：1)
※[IP通信モード](❶)欄を「マルチキャスト」に選択している場合、表示されます。

❼ 接続状態 ……

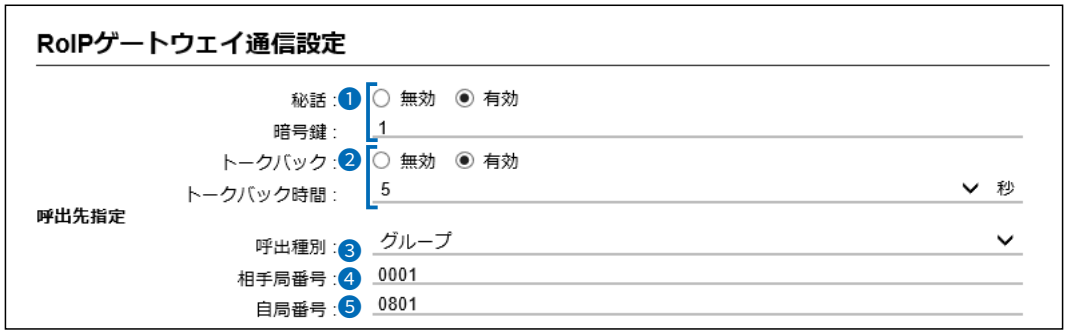
接続状態が「未接続」/「送信中」/「ドメイン解決エラー」/「送信エラー」で表示されます。
※[接続先アドレス](❷)欄を未設定で登録した場合は、〈接続〉、〈接続状態の更新〉がクリックできません。

「RoIPゲートウェイ」画面

無線機ポート詳細設定 > RoIPゲートウェイ

■ RoIPゲートウェイ通信設定

本製品がRoIPゲートウェイ通信する通信先の設定です。



※説明のため、[秘話](❶)欄を「有効」に設定したときの画面を使用しています。

❶ 秘話 ……

接続先の無線機に合わせて秘話機能を設定します。 (初期設定：無効)
設定できる範囲は、「1～32767」です。
※有効の場合は、上図のように、暗号鍵を入力できますので、接続先の無線機と同じ秘話キーに設定してください。

❷ トークバック ……

RoIPゲートウェイに接続した機器とのトークバックを有効にするかしないかを設定します。 (初期設定：有効(5))
「有効」に設定したときは、呼び出された相手先との通信が終了してから、呼び出された経路を設定した時間接続を保持します。
設定できる範囲は、「1」～「10」(秒)です。

❸ 呼出種別 ……

ブリッジ接続先の音声プロトコルがG.711uの場合、ブリッジ接続先からRoIPゲートウェイ側の機器を呼び出すときの形態を「個別」/「グループ」/「全体」から選択します。 (初期設定：グループ)

❹ 相手局番号 ……

相手先の端末側無線機に設定された自局番号(個別番号)、またはグループ番号を4桁で入力します。 (初期設定：0001)
設定できる範囲は、「0001～9999」です。

❺ 自局番号 ……

呼び出す側の自局番号を4桁で入力します。
設定できる範囲は、「0001～9999」です。
(初期設定：RoIPゲートウェイ1→0801
RoIPゲートウェイ2→0802
RoIPゲートウェイ3→0803
RoIPゲートウェイ4→0804
RoIPゲートウェイ5→0805
RoIPゲートウェイ6→0806
RoIPゲートウェイ7→0807
RoIPゲートウェイ8→0808)

7　無線機ポート詳細設定

「RoIPゲートウェイ」画面

無線機ポート詳細設定 > RoIPゲートウェイ

■ RoIPゲートウェイ制御設定

RoIPゲートウェイ制御設定

リリースタイム : ❶ 200 ミリ秒
※設定値は5ミリ秒の整数倍となります。

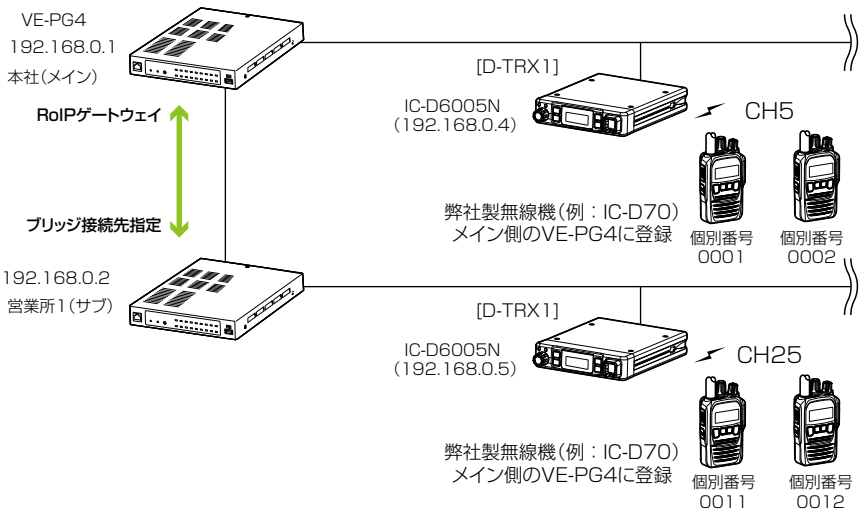
デジタル無線機コントローラー接続 : ❷ ○ 無効　◉ 有効

❶ リリースタイム ……

RoIPゲートウェイ側へ出力される音声信号が途絶えたことを検知する時間を設定します。
ここで設定した時間、音声信号が途絶えると、音声入力がなくなったと判断します。　（初期設定：200）
設定できる範囲は、「5～2000(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

❷ デジタル無線機コントローラー接続 ……

RoIPゲートウェイ経由でデジタル無線機コントローラー接続するときに設定します。　（初期設定：無効）
「有効」に設定すると、ほかのデジタル無線機コントローラーと接続して、それぞれに接続されたデジタル無線機と通信できます。
※この設定は、「拡張設定」メニューの「デジタル無線機コントローラー」画面で、[デジタル無線機コントローラー]欄を「有効」に設定したときに表示されます。
※メイン側はRoIPゲートウェイ経由でサブに接続し、サブ側はデジタル無線機(D-TRX)をブリッジ接続先指定で動作させ、メインのRoIPゲートウェイと接続します。

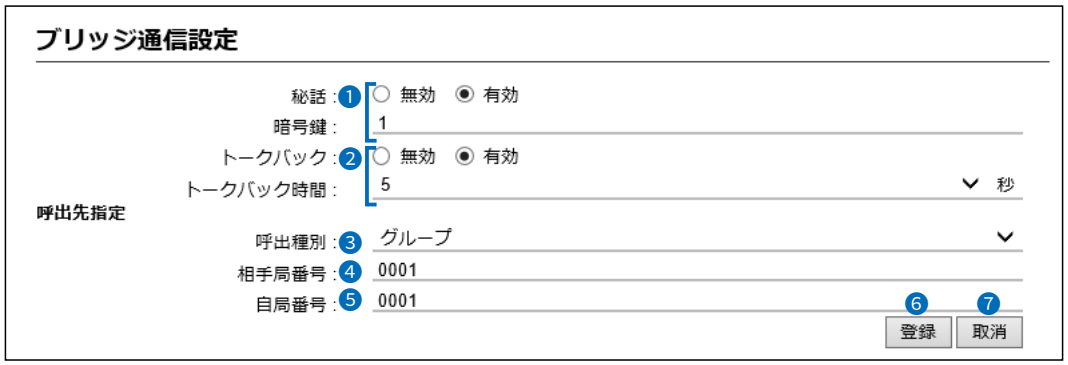


「RoIPゲートウェイ」画面

無線機ポート詳細設定 > RoIPゲートウェイ

■ ブリッジ通信設定

ブリッジ接続設定の組み合わせで、RoIPゲートウェイの接続先を「ブリッジ接続先指定」としたときのブリッジ間接続の設定です。



❶ **秘話** …… 接続先の無線機に合わせて秘話機能を設定します。（初期設定：無効）
設定できる範囲は、「1～32767」です。
※有効の場合は、上図のように、暗号鍵を入力できますので、通信する無線機と同じ秘話キーに設定してください。

❷ **トークバック** …… RoIPゲートウェイとブリッジ接続した機器とのトークバックを有効にするかしないかを設定します。（初期設定：有効(5)）
「有効」に設定したときは、呼び出された相手先との通信が終了してから、呼び出された経路を、設定した時間接続を保持します。
設定できる範囲は、「1」～「10」(秒)です。

❸ **呼出種別** …… RoIPゲートウェイ側の音声プロトコルがG.711uの場合、RoIPゲートウェイ側の機器からブリッジ接続先を呼び出すときの形態を選択します。
（初期設定：グループ）

❹ **相手局番号** …… 相手先の端末側無線機に設定された自局番号(個別番号)、またはグループ番号を4桁で入力します。（初期設定：0001）

❺ **自局番号** …… 呼び出す側の自局番号を4桁で入力します。（初期設定：0001）

❻ **〈登録〉** …… [RoIPゲートウェイ]画面で設定した内容を登録するボタンです。

❼ **〈取消〉** …… [RoIPゲートウェイ]画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

呼出先設定

第 8 章

この章では、
「呼出先設定」画面の設定について説明します。

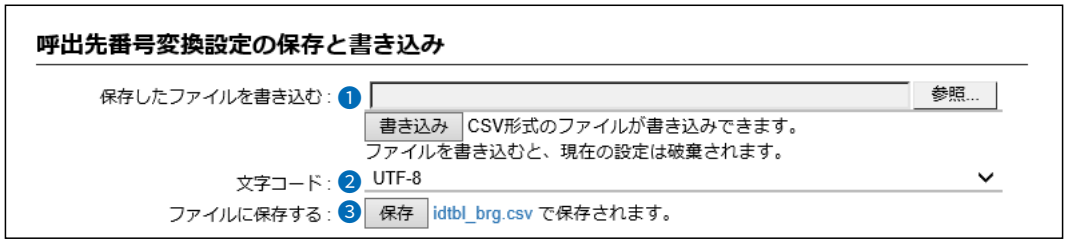
「呼出先番号変換」画面 …… 8-2
■ 呼出先番号変換設定の保存と書き込み …… 8-2
■ 呼出先番号変換とは …… 8-3
■ 呼出先番号変換 …… 8-4
■ 呼出先番号変換一覧 …… 8-5
「呼出先設定」画面 …… 8-6
■ 呼出先設定(全体) …… 8-6
■ 呼出先設定(グループ) …… 8-10
■ 呼出先設定(トークグループ) …… 8-15
■ 呼出先設定(個別) …… 8-21
■ 呼出先設定(電話) …… 8-23
■ 呼出先設定一覧(全体) …… 8-24
■ 呼出先設定一覧(グループ) …… 8-24
■ 呼出先設定一覧(トークグループ) …… 8-25
■ 呼出先設定一覧(管理用トークグループ) …… 8-26
■ 呼出先設定一覧(個別) …… 8-27
■ 呼出先設定一覧(電話) …… 8-28
■ 呼出先一括設定 …… 8-29

「呼出先番号変換」画面

呼出先設定 > 呼出先番号変換

■ 呼出先番号変換設定の保存と書き込み

呼出先(個別、グループ、全体)を別の呼出先に変換するテーブルをファイルで管理できます。



❶ 保存したファイルを書き込む …

[ファイルに保存する](❸)欄の操作で保存した「呼出先番号変換ファイル」(拡張子：csv)の内容を本製品に書き込むとき使用します。
「呼出先番号変換ファイル」の保存先を指定するため、〈参照...〉をクリックします。
表示された画面で目的の呼出先番号変換ファイル(例：idtbl_brg.csv)を選択して、〈開く(O)〉をクリックします。
選択したファイルの参照先が表示されたことを確認して、〈書き込み〉をクリックすると、[呼出先番号変換一覧]項目にファイルの内容が表示されます。
書き込む前の内容は消去されますので、ご注意ください。
※あらかじめ書き込んだ「呼出先番号変換ファイル」(拡張子：csv)は、「管理」メニューの「設定の保存/復元」画面から設定の復元をすると、設定ファイル(拡張子：sav)の内容に変わりますので、ご注意ください。

❷ 文字コード ……

[ファイルに保存する](❸)欄で保存するファイルの文字コードを「UTF-8」、「Shift_JIS」から選択します。 (初期設定：UTF-8)

❸ ファイルに保存する ……

[呼出先番号変換一覧]項目の内容を「呼出先番号変換ファイル」として、パソコンに保存します。
〈保存〉をクリックして、表示された画面の〈保存(S)〉をクリックすると、「呼出先番号変換」(拡張子：csv)として保存できます。
※保存したファイルは、テキストエディターなどで編集できます。

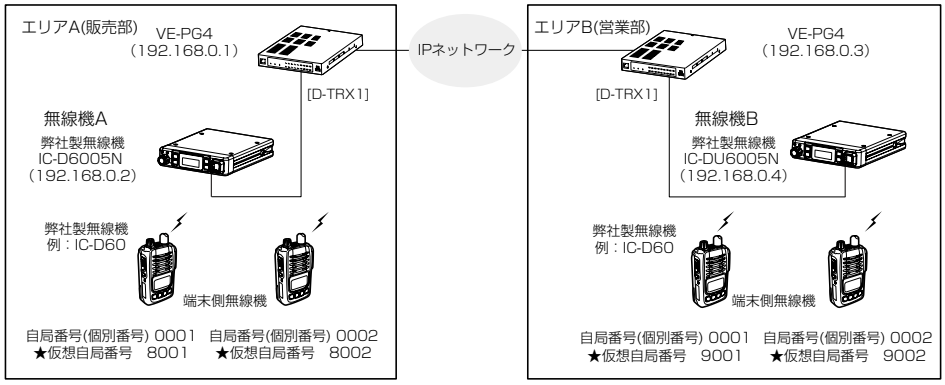
8 呼出先設定

「呼出先番号変換」画面

呼出先設定 > 呼出先番号変換

■ 呼出先番号変換とは

接続拠点間で、端末側無線機の自局番号（個別番号）が重複するような構成となる場合、指定呼出先を設定すると自分のグループ内（拠点内）の端末側無線機が呼び出されます。
これを回避するために、端末側無線機が呼出先を設定し送信したとき、VE-PG4が発信先と発信元の個別番号を変換する機能です。
エリアA側の端末側無線機（例：0001）が、エリアB側の端末側無線機（例：0002）を呼び出す場合、仮想の相手局番号（例:9002）を設定し送信すると、エリアA側のVE-PG4に登録された呼出先番号変換一覧を元に、相手先の番号に変換（例：発信先 9002→0002）して、エリアB側の端末側無線機（例：0002）を呼び出しできます。
同時に、エリアA側（発信元）の自局番号（例：0001）についても、エリアA側のVE-PG4に登録された呼出先番号変換一覧を元に変換（例：発信元 0001→8001）され、呼び出されたエリアB側の端末側無線機（例：0002）に表示（例：8001）されます。
また、エリアB側の端末側無線機（例：0002）が応答のために送信したときは、エリアB側のVE-PG4に登録された呼出先番号変換一覧を元に変換（例：発信先 8001→0001、発信元 0002→9002）されることで、接続拠点間（例：エリアA - エリアB）で相互の通話ができます。



エリアA側のVE-PG4の呼出先番号変換一覧

呼出先番号変換一覧

番号	名前	呼出先番号		呼出先番号変換		
		呼出種別	相手局番号	呼出種別	相手局番号	
1	発信先（エリアB営業部）	個別	9001	個別	0001	編集 削除
2	発信先（エリアB営業部）	個別	9002	個別	0002	編集 削除
3	発信先（エリアA販売部）	個別	0001	個別	8001	編集 削除
4	発信先（エリアA販売部）	個別	0002	個別	8002	編集 削除

エリアB側のVE-PG4の呼出先番号変換一覧

呼出先番号変換一覧

番号	名前	呼出先番号		呼出先番号変換		
		呼出種別	相手局番号	呼出種別	相手局番号	
1	発信先（エリアA販売部）	個別	8001	個別	0001	編集 削除
2	発信先（エリアA販売部）	個別	8002	個別	0002	編集 削除
3	発信先（エリアB営業部）	個別	0001	個別	9001	編集 削除
4	発信先（エリアB営業部）	個別	0002	個別	9002	編集 削除

※拠点間で重複する個別番号のご使用は推奨しません。
※発信のための変換情報と発信元を伝えるための情報を2行1組で登録する必要があります。

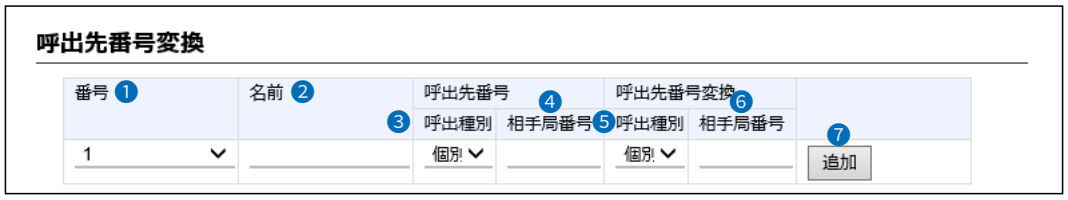
8 呼出先設定

「呼出先番号変換」画面

呼出先設定 > 呼出先番号変換

■ 呼出先番号変換

接続拠点間で子機の呼出先番号が重複している場合、接続拠点間で子機を呼び出すときの仮想相手局番号を実際の相手局番号に変換する機能の設定です。



❶ **番号** ……

相手局番号を登録する番号を選択します。
最大1000件まで登録できます。 （初期設定：1）

❷ **名前** ……

任意の名前を半角31文字(全角15)以内で入力します。

❸ **呼出種別(呼出先番号)** ……

本製品とネットワーク接続するデジタル無線機、または無線機コントローラーに着信したとき、子機(相手局番号)を仮想で呼び出す形態を選択します。
（初期設定：個別）

◎**個別** ：特定の子機を仮想で呼び出すとき選択します。
◎**グループ**：特定のグループに所属する子機を仮想で一斉に呼び出すとき選択します。
◎**全体** ：一斉にすべての子機を呼び出すとき選択します。

❹ **相手局番号(呼出先番号)** ……

相手の子機に、仮想で割り当てる番号を4桁で入力します。
設定できる範囲は、「0001～9999」です。
※[呼出種別(呼出先番号)](❸)を「全体」にしたときは、グレー表示になり、設定を変更できません。

❺ **呼出種別(呼出先番号変換)** ……

本製品とネットワーク接続するデジタル無線機、または無線機コントローラーに着信したとき、子機(相手局番号)を呼び出す形態を選択します。
（初期設定：個別）

◎**個別** ：1台の子機を呼び出すとき選択します。
◎**グループ**：特定のグループに所属する子機を一斉に呼び出すとき選択します。
◎**全体** ：一斉にすべての子機を呼び出すとき選択します。

❻ **相手局番号(呼出先番号変換)** …

子機の自局番号(個別番号)を4桁で入力します。
設定できる範囲は、「0001～9999」です。
※[呼出種別(呼出先番号変換)](❺)を「全体」にしたときは、グレー表示になり、設定を変更できません。

❼ **〈追加〉** ……

クリックすると、[呼出先番号変換一覧]項目に登録内容が表示されます。

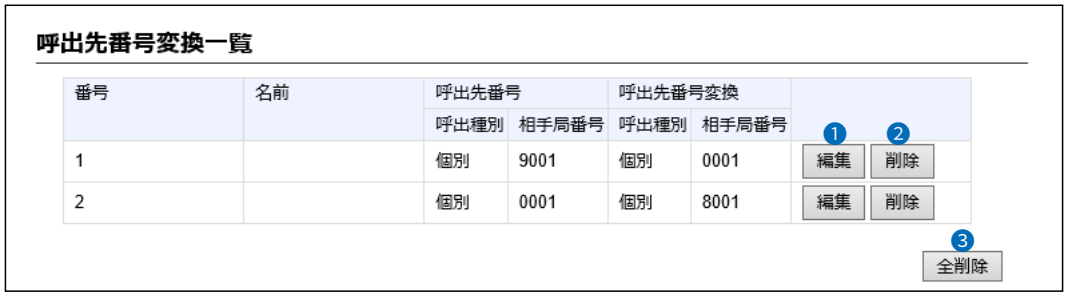
8 呼出先設定

「呼出先番号変換」画面

呼出先設定 > 呼出先番号変換

■ 呼出先番号変換一覧

[呼出先番号変換]項目で登録された登録の一覧です。



❶〈編集〉 …… クリックすると、その行の登録内容を編集できます。
編集内容は、[呼出先番号変換]項目に表示されます。

❷〈削除〉 …… クリックすると、その行の登録内容を削除します。
※削除すると、元に戻せません。

❸〈全削除〉 …… クリックすると、すべての登録内容を削除します。
※全削除すると、元に戻せません。

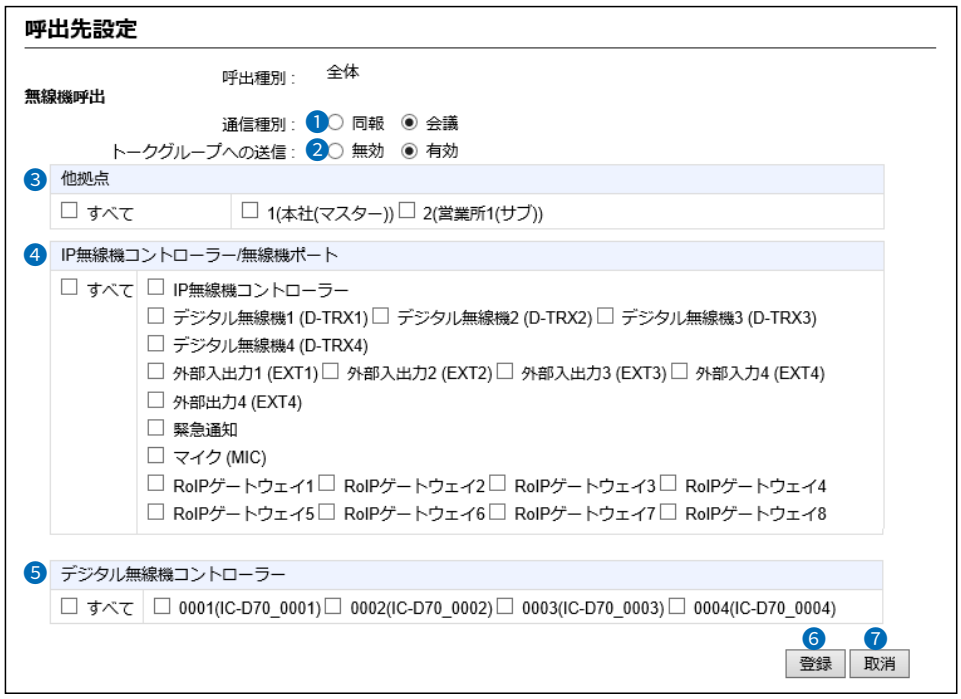
「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定(全体)

本製品が収容する無線LANトランシーバー(IP100H/IP100FS)すべてを呼び出す設定です。必要に応じて他拠点接続やIP無線機コントローラー(IP500Hなど)/無線機ポート/デジタル無線機コントローラーを含めることができます。(最大22ヵ所まで(IP無線機コントローラーは除く))

※[呼出先設定一覧(全体)]項目の〈編集〉をクリックすると、表示される画面です。



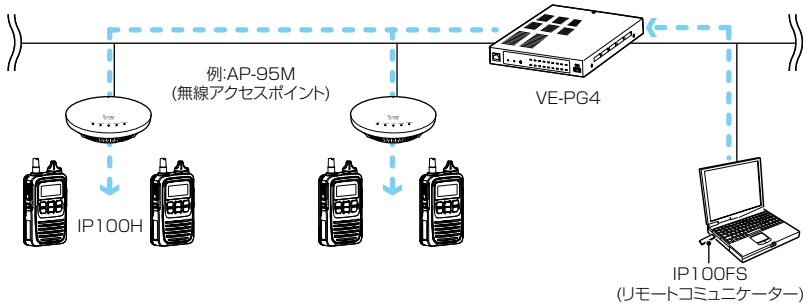
※画面は、呼出種別「全体」を編集するときの表示例です。

❶ 通信種別 ……

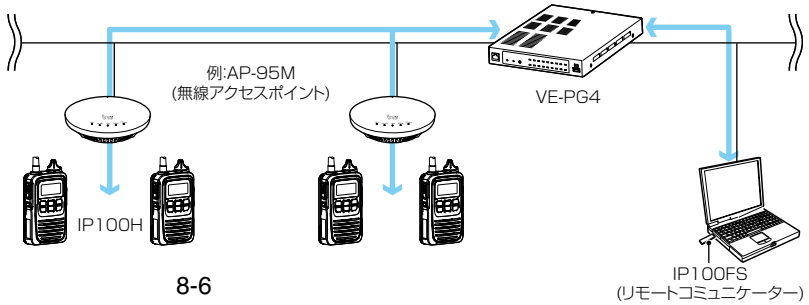
「同報」(単信通信による1対N)、または「会議」(複信通信による多者間通話)を設定します。

単信通信による同報

※「同報」を設定した場合は、呼び出し側の送信が終わるまで呼び出された側から返答できません。



複信通信による会議

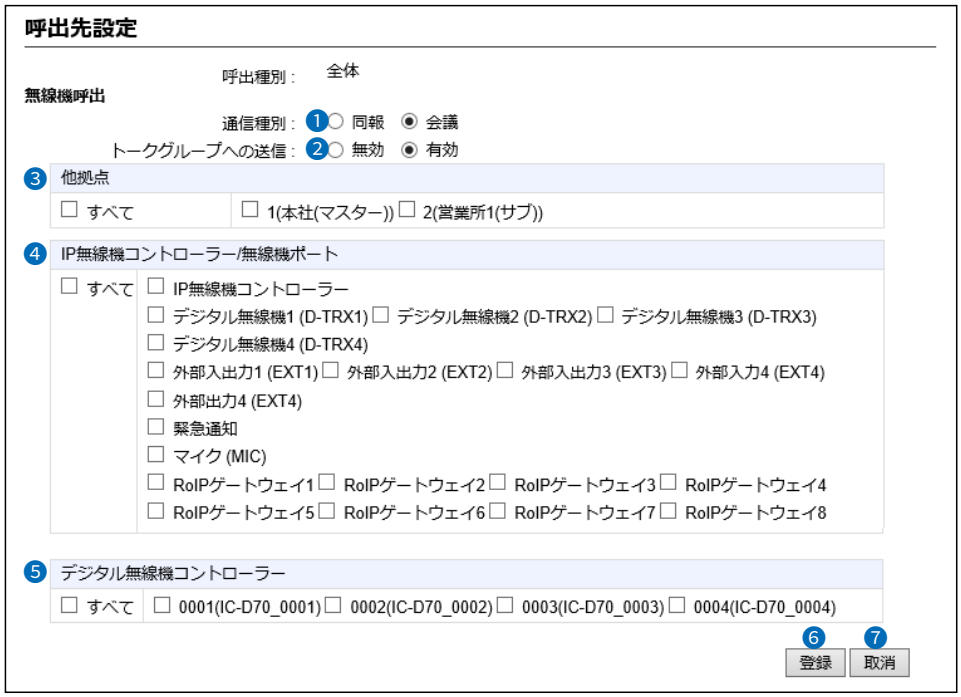


8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定(全体)



❷ トークグループへの送信 ……

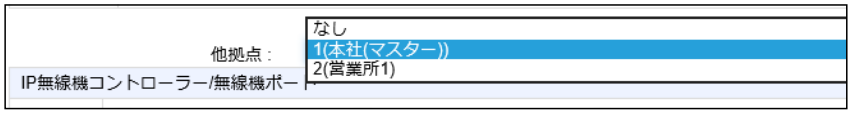
全体呼び出しの対象に、トークグループに所属している端末も含めるかどうかを設定します。（初期設定：有効）

❸ 他拠点 ……

複数の拠点を接続して、はなれた拠点間で全体呼び出しをするとき、接続先となる機器(他拠点)を選択します。

※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。

※「無線機コントローラー設定」メニューの「RoIP通信設定」画面で、他拠点通信モードを「サブ」に設定している場合(下図参照)は、マスターとなるコントローラーを接続先に指定します。



※設定する接続先は、[IP無線機コントローラー/無線機ポート](❹)欄、[デジタル無線機コントローラー](❺)欄と合わせて22ヵ所までです。

IP無線機コントローラーは、接続先の数に含まれません。

デジタル無線機コントローラーは、チェックした子機が帰属するデジタル無線機によって接続先の数が変わります。

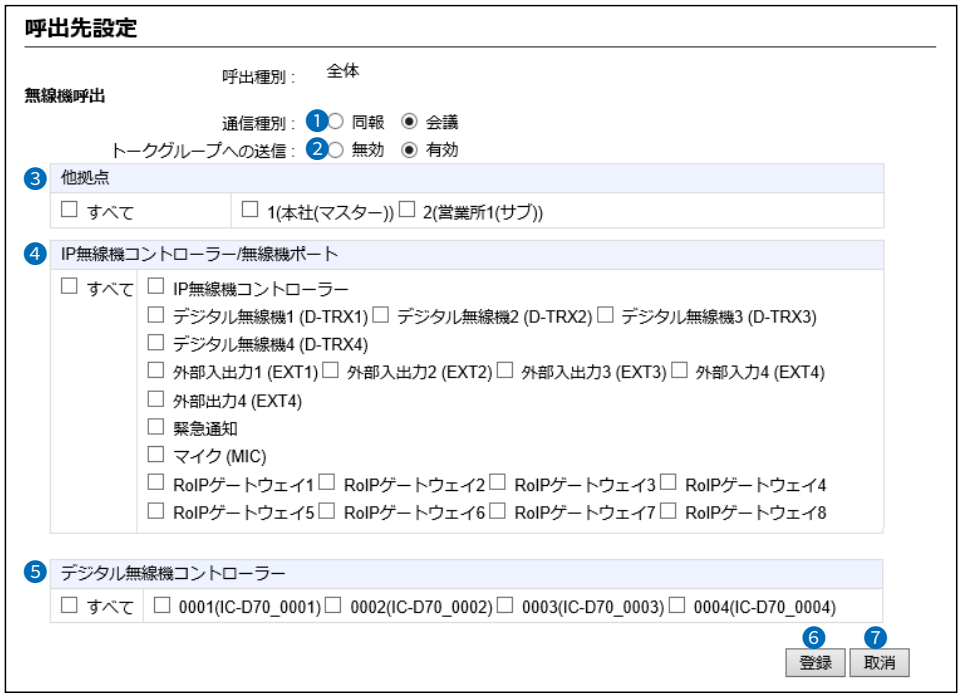
超えて設定した場合は、正しく通話ができません。

8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定(全体)



❹ IP無線機コントローラー/無線機ポート ……

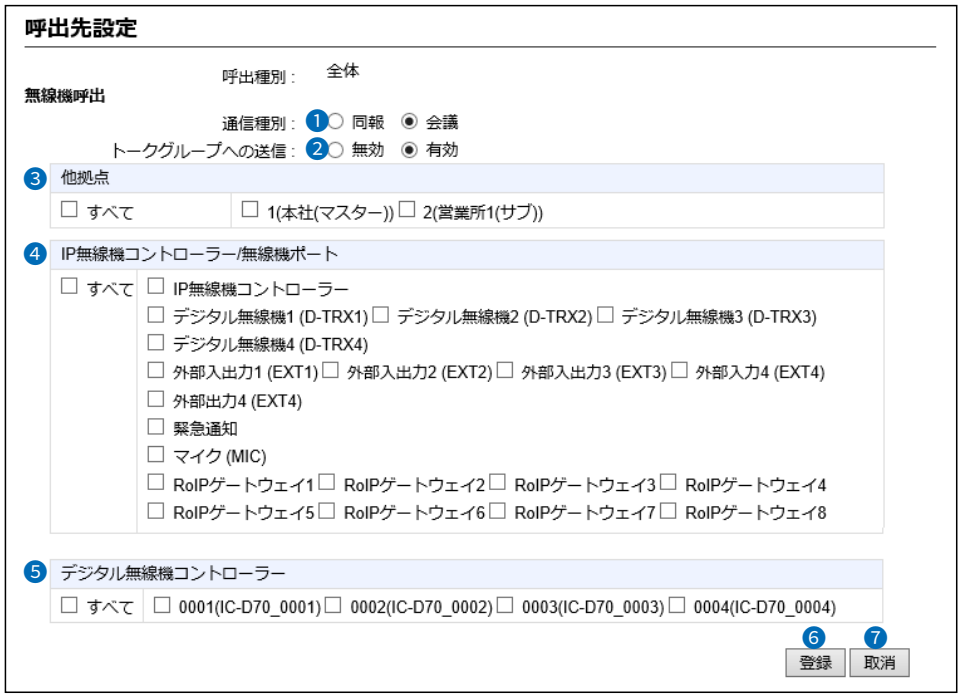
全体呼び出しの対象にする通信機器を選択します。
◎IP無線機コントローラー★1
◎デジタル無線機1(D-TRX1)～デジタル無線機4(D-TRX4)
◎外部入出力1(EXT1)～外部入出力4(EXT4)★2
◎緊急通知
◎マイク(MIC)
◎RoIPゲートウェイ1～RoIPゲートウェイ8
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
★1：IP無線機コントローラーと接続している場合にのみ表示されます。
★2：「無線機ポート詳細設定」メニューの「外部入出力(EXT)」画面にある外部入出力設定で接続機器を「外部入出力」、外部入出力モードを「分離」に設定した場合は、「外部入力」と「外部出力」が表示されます。
※[MIC]ポートにスピーカーマイクロホンを接続すると[EXT1]ポートの音声入出力が切断されます。
[MIC]ポートと[EXT1]ポートの音声入出力を同時に使用することはできませんのでご注意ください。
※設定する接続先は、[他拠点](❸)欄、[デジタル無線機コントローラー](❺)欄と合わせて22ヵ所までです。
IP無線機コントローラーは、接続先の数に含まれません。
デジタル無線機コントローラーは、チェックした子機が帰属するデジタル無線機によって接続先の数が変わります。
超えて設定した場合は、正しく通話ができません。

8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定(全体)



❺ デジタル無線機コントローラー … デジタル無線機から報知情報を受信する端末側無線機(自動チャンネル切替対応)を全体呼び出しの対象にする場合に選択します。
※この設定は、「拡張設定」メニューの「デジタル無線機コントローラー」画面で、[デジタル無線機コントローラー]欄を「有効」に設定したときに表示されます。
※設定する接続先は、[他拠点](❸)欄、[IP無線機コントローラー/無線機ポート](❹)欄と合わせて22ヵ所までです。
IP無線機コントローラーは、接続先の数に含まれません。
デジタル無線機コントローラーは、チェックした子機が帰属するデジタル無線機によって接続先の数が変わります。
超えて設定した場合は、正しく通話ができません。

❻〈登録〉 …… [呼出先設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[呼出先設定一覧(全体)]項目に表示されます。

❼〈取消〉 …… [呼出先設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

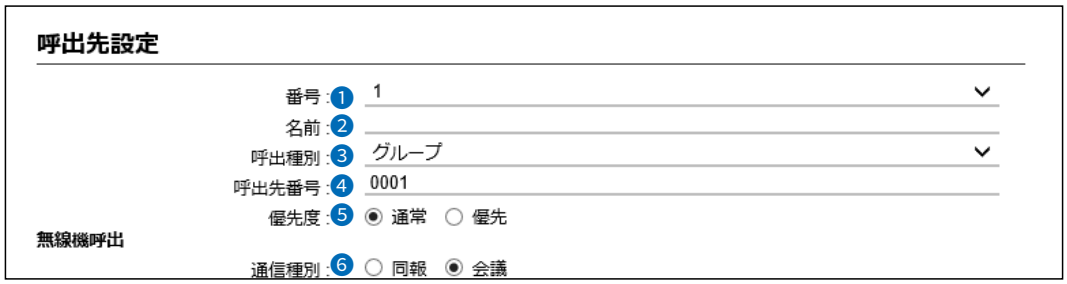
8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定(グループ)

IPネットワークや本製品の無線機ポートを経由して、呼び出すグループについて設定します。
※[呼出種別](❸)に応じて、表示される内容が一部変更になります。



※画面は、[呼出種別](❸)で「グループ」を選択したときの表示例です。

❶ 番号 …… 呼び出すグループを登録する番号を選択します。
各種類のグループや個別、電話を、合わせて最大1990件まで登録できます。

❷ 名前 …… 任意の名称を、半角31(全角31)文字以内で入力します。
※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大15文字になります。
※環境依存文字を入力しないでください。
環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。

❸ 呼出種別 …… 通話相手の種別として、「グループ」を選択します。

❹ 呼出先番号 …… 通話相手のグループ番号を、4桁の数字で入力します。

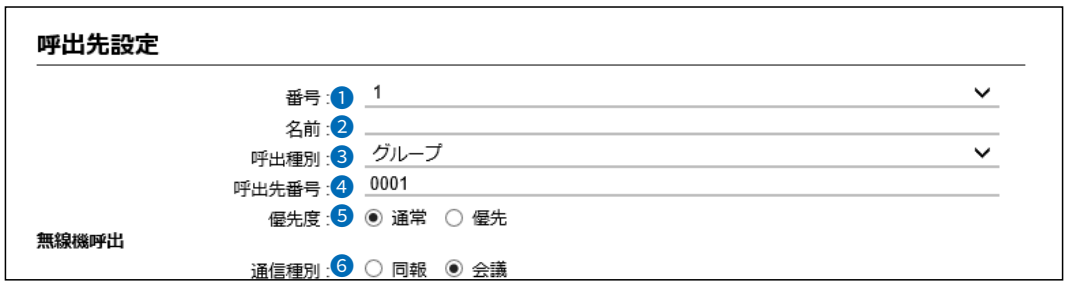
❺ 優先度 …… グループ通話同士の優先度を、「通常」、または「優先」から選択します。
※[呼出種別](❸)欄で「グループ」を選択したときに設定できます。

8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定(グループ)



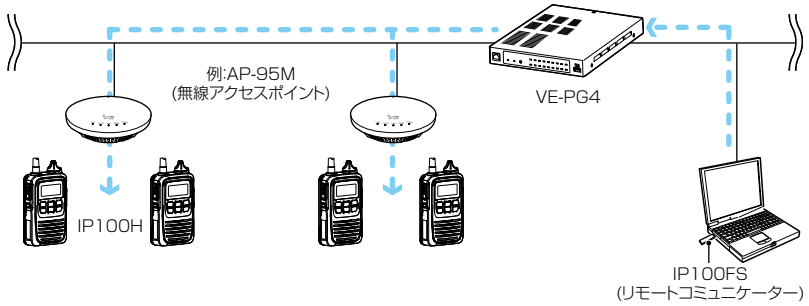
※画面は、[呼出種別](❸)で「グループ」を選択したときの表示例です。

❻ 通信種別 ……

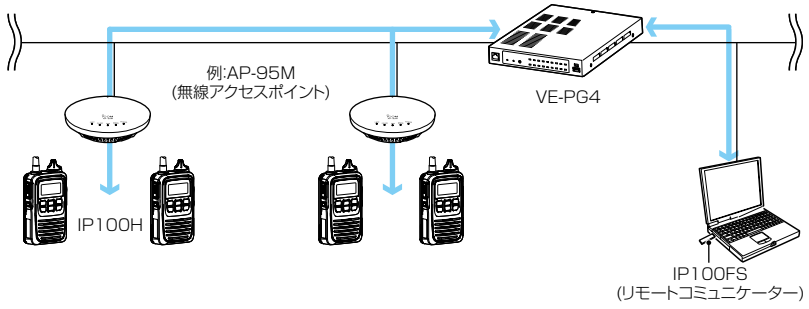
「同報」(単信通信による1対N)、または「会議」(複信通信による多者間通話)を設定します。

単信通信による同報

※「同報」を設定した場合は、呼び出し側の送信が終わるまで呼び出された側から返答できません。



複信通信による会議

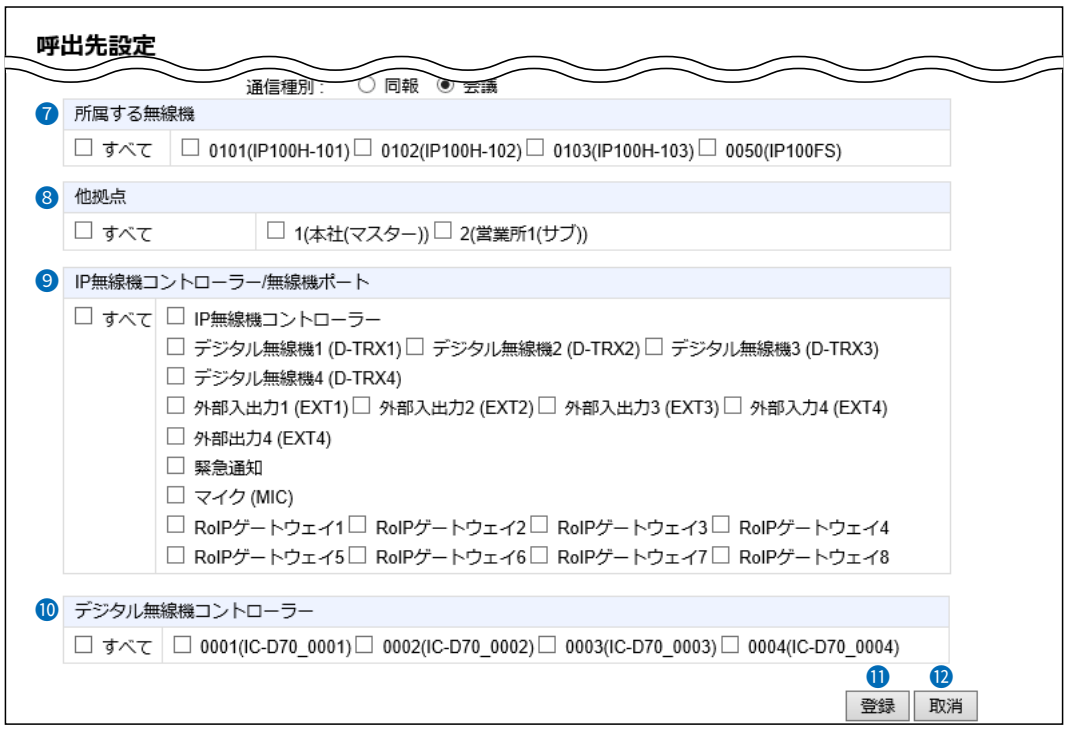


8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

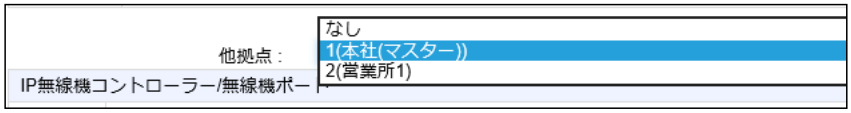
■ 呼出先設定(グループ)



※画面は、[呼出種別](❸)で「グループ」を選択したときの表示例です。

❼ 所属する無線機 …… 一覧からグループに所属するIP100H、IP100FSを選択します。
※「無線機追加」画面で追加したIP100H、IP100FSが一覧に表示されます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。

❽ 他拠点 …… 複数の拠点を接続して、はなれた拠点間でグループ呼び出しをするとき、接続先となる機器(他拠点)を選択します。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
※「RoIP通信設定」画面で、他拠点通信モードを「サブ」に設定している場合(下図)は、マスターとなるコントローラーを接続先に指定します。



※設定する接続先は、[IP無線機コントローラー/無線機ポート](❾)欄、[デジタル無線機コントローラー](❿)欄と合わせて22ヵ所までです。
IP無線機コントローラーは、接続先の数に含まれません。
デジタル無線機コントローラーは、チェックした子機が帰属するデジタル無線機によって接続先の数が変わります。
超えて設定した場合は、正しく通話ができません。

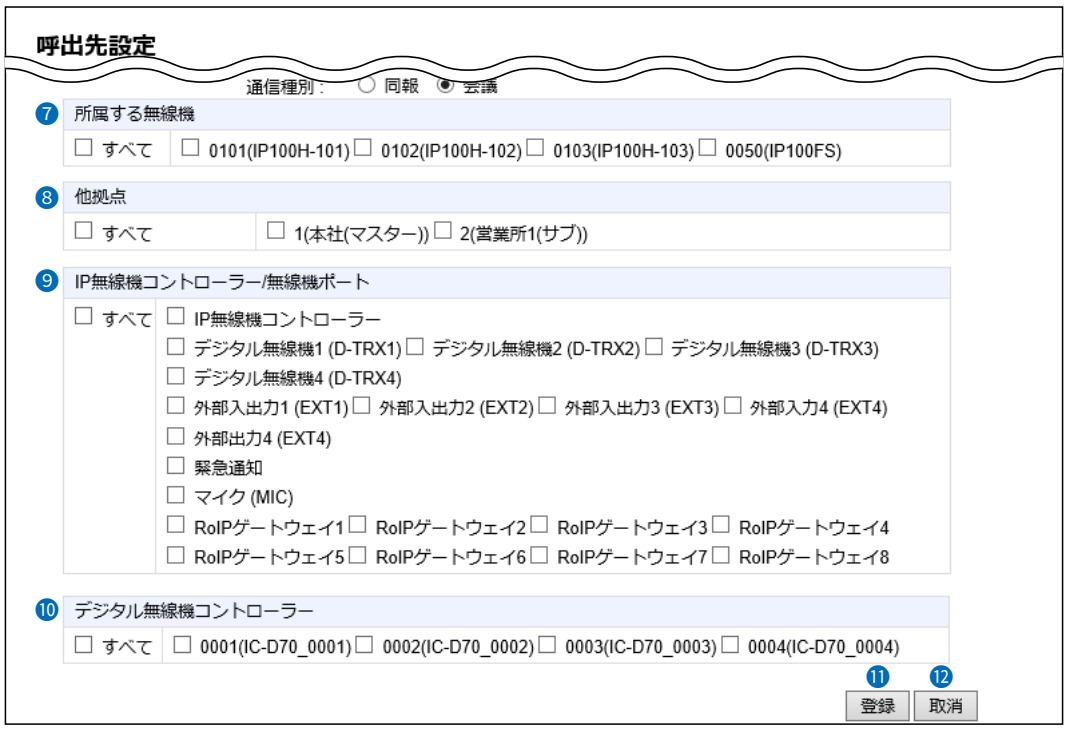
ご注意
他拠点接続機能をご使用になる場合は、「呼出先設定」画面(P.6-13)で他拠点間が対となるように設定してください。
たとえば、他拠点1でグループ1の呼出先設定が他拠点2となる場合は、他拠点2のグループ1の呼出先設定が他拠点1となるように設定してください。
※他拠点間の接続構成が、マスターと複数のサブからなる場合も同様です。

8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定(グループ)



※画面は、[呼出種別](❸)で「グループ」を選択したときの表示例です。

❾ IP無線機コントローラー/無線機ポート ……

グループ呼び出しの対象にする通信機器、呼出元の通信機器を選択します。
◎IP無線機コントローラー★1
◎デジタル無線機1(D-TRX1)～デジタル無線機4(D-TRX4)
◎外部入出力1(EXT1)～外部入出力4(EXT4)★2
◎緊急通知
◎マイク(MIC)
◎RoIPゲートウェイ1～RoIPゲートウェイ8
★1：IP無線機コントローラーと接続している場合にのみ表示されます。
★2：「無線機ポート詳細設定」メニューの「外部入出力(EXT)」画面にある外部入出力設定で接続機器を「外部入出力」、外部入出力モードを「分離」に設定した場合は、「外部入力」と「外部出力」が表示されます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
※[MIC]ポートにスピーカーマイクロホンを接続すると[EXT1]ポートの音声入出力が切断されます。
[MIC]ポートと[EXT1]ポートの音声入出力を同時に使用することはできませんのでご注意ください。
※設定する接続先は、[他拠点](❽)欄、[デジタル無線機コントローラー](❿)欄と合わせて22ヵ所までです。
IP無線機コントローラーは、接続先の数に含まれません。
デジタル無線機コントローラーは、チェックした子機が帰属するデジタル無線機によって接続先の数が変わります。
超えて設定した場合は、正しく通話ができません。

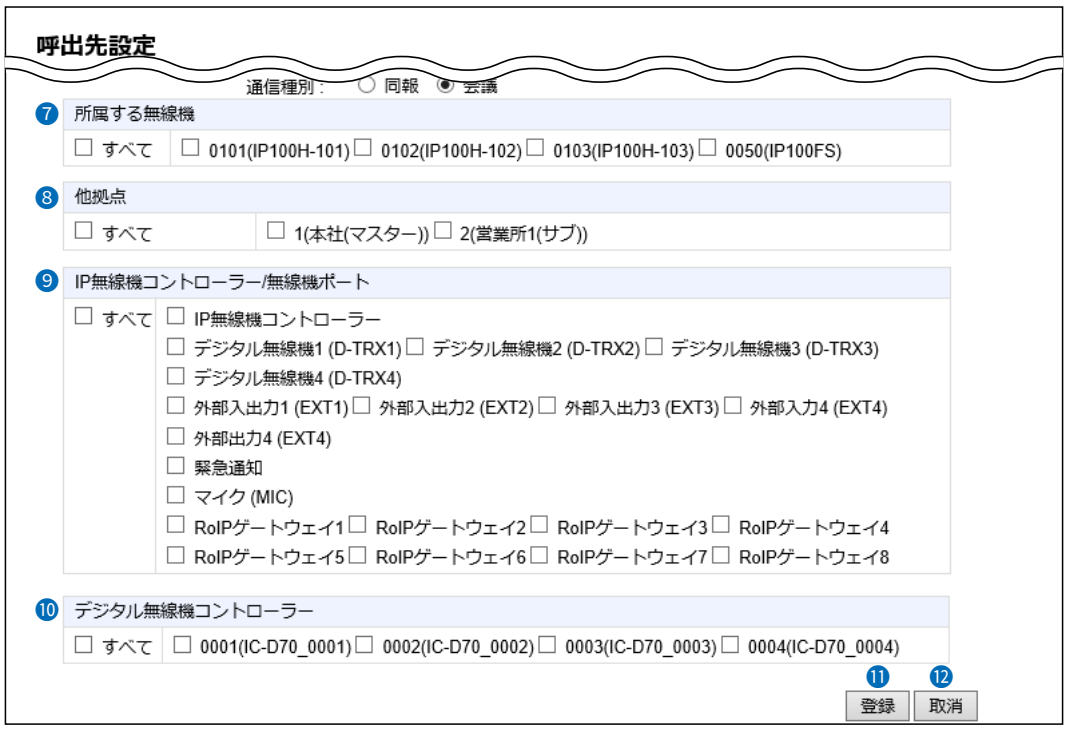
ご注意
IC-SAT100を設定した[EXT](1～4)ポートが所属できるグループ、トークグループは1つだけです。

8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定(グループ)



※画面は、[呼出種別](❸)で「グループ」を選択したときの表示例です。

❿ デジタル無線機コントローラー … デジタル無線機から報知情報を受信する端末側無線機(自動チャンネル切替対応)をグループ呼び出しの対象にする場合に選択します。

※この設定は、「拡張設定」メニューの「デジタル無線機コントローラー」画面で、[デジタル無線機コントローラー]欄を「有効」に設定したときに表示されます。

※設定する接続先は、[他拠点](❽)欄、[IP無線機コントローラー/無線機ポート](❾)欄と合わせて22ヵ所までです。
IP無線機コントローラーは、接続先の数に含まれません。
デジタル無線機コントローラーは、チェックした子機が帰属するデジタル無線機によって接続先の数が変わります。
超えて設定した場合は、正しく通話ができません。

⓫〈登録〉 …… [呼出先設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[呼出先設定一覧(グループ)]項目に表示されます。

⓬〈取消〉 …… [呼出先設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

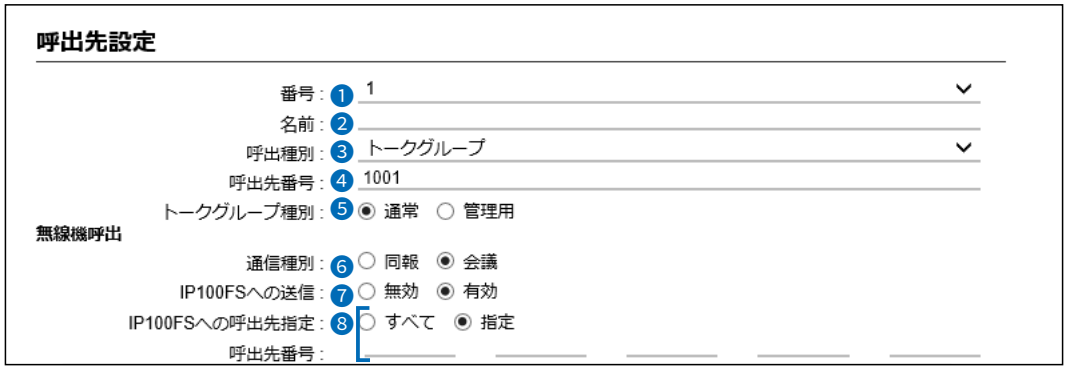
8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定(トークグループ)

IPネットワークや本製品の無線機ポートを経由して、呼び出すトークグループについて設定します。
※[呼出種別](❸)に応じて、表示される内容が一部変更になります。



※画面は、[呼出種別](❸)で「トークグループ」、[IP100FSへの呼出先指定](❽)で「指定」を選択したときの表示例です。

❶ 番号 ……

特定のトークグループを登録して呼び出す番号を選択します。
各種類のグループや個別、電話を合わせて最大1990件まで登録できます。

❷ 名前 ……

任意の名称を、半角31(全角31)文字以内で入力します。
※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大15文字になります。
※環境依存文字を入力しないでください。
環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。

❸ 呼出種別 ……

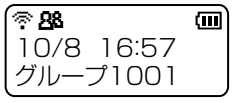
通話相手の種別として、「トークグループ」を選択します。

❹ 呼出先番号 ……

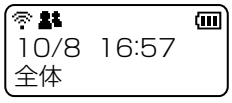
通話相手のグループ番号を、4桁の数字で入力します。
※ここで設定した番号を、「アドレス帳」画面の[アドレス帳設定]項目に登録する必要があります。
※「無線機コントローラー」メニューの「設定グループ詳細」画面にある[トークグループ]欄で「FUNCキー」を選択している場合、同じトークグループに所属する端末と通話できる状態になります。
「OFF」を選択すると、通常の待受画面に戻ります。

トークグループ選択時

トークグループOFF時



トークグループ
選択時の待受画面



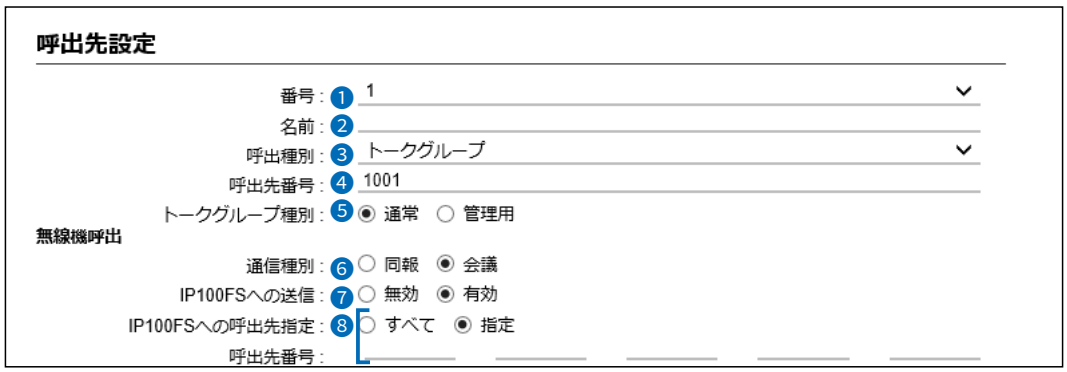
トークグループ
OFF時の待受画面

8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定(トークグループ)



※画面は、[呼出種別](❸)で「トークグループ」、[IP100FSへの呼出先指定](❽)で「指定」を選択したときの表示例です。

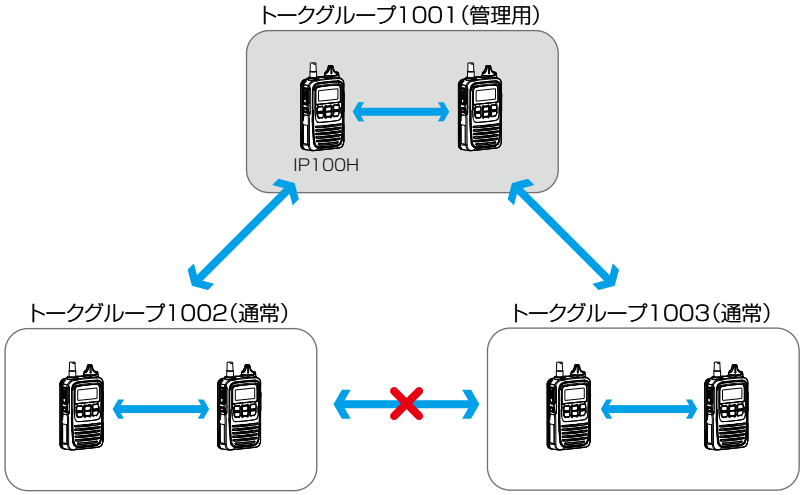
❺ トークグループ種別 ……

「管理用」を設定(下図)すると複数のトークグループと通話できます。

※[呼出種別](❸)欄で「トークグループ」を選択したときに設定できます。
※管理用トークグループに、他の管理用トークグループを所属させることはできません。
※トークグループは、複数の管理用トークグループに所属することはできません。

【例：トークグループ1002(通常)とトークグループ1003(通常)をトークグループ1001(管理用)に所属させた場合】

◎1001の呼び出しは、1001、1002、1003に所属している端末が呼び出される
◎1002の呼び出しは、1001、1002に所属している端末が呼び出される
◎1003の呼び出しは、1001、1003に所属している端末が呼び出される

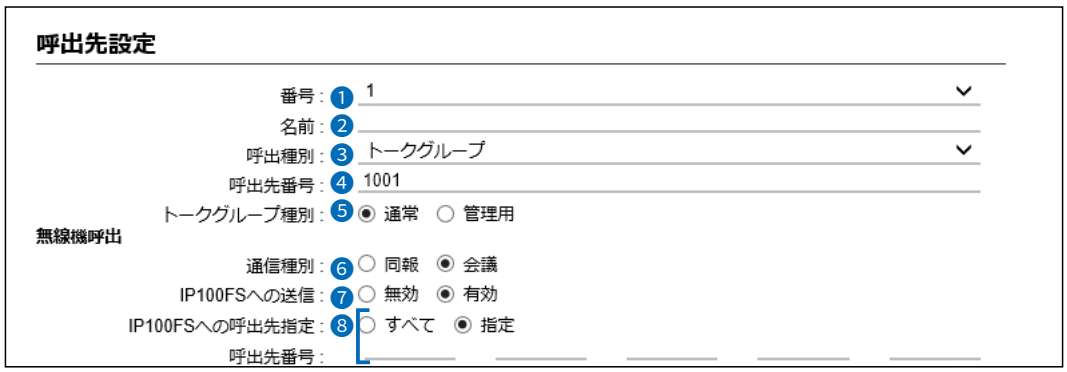


8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定(トークグループ)



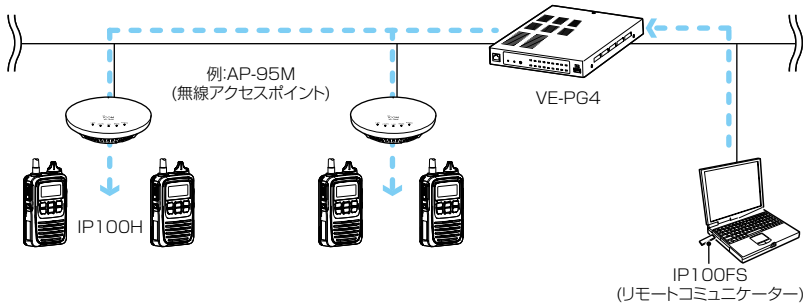
※画面は、[呼出種別](❸)で「トークグループ」、[IP100FSへの呼出先指定](❽)で「指定」を選択したときの表示例です。

❻ 通信種別 ……

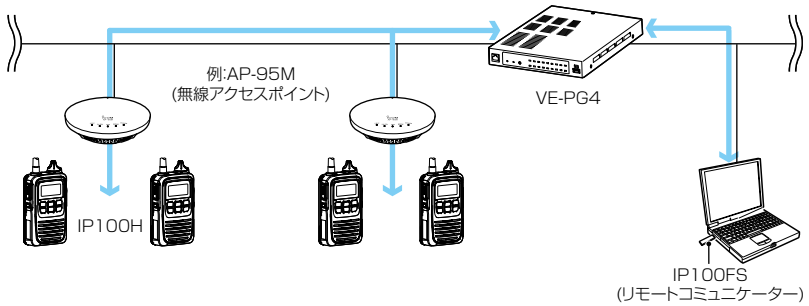
「同報」(単信通信による1対N)、または「会議」(複信通信による多者間通話)を設定します。

単信通信による同報

※「同報」を設定した場合は、呼び出し側の送信が終わるまで呼び出された側から返答できません。



複信通信による会議



❼ IP100FSへの送信……

トークグループ呼び出しの対象に、IP100FSも含めるかどうかを設定します。 (初期設定:有効)

❽ IP100FSへの呼出先指定……

トークグループ呼び出しの対象にIP100FSも含める(❼)場合、呼び出し先となるIP100FSを設定します。 (初期設定:すべて)

※「指定」を選択した場合は、IP100FSの個別番号(4桁)を最大5件まで設定できます。

※[IP100FSへの送信](❼)欄が「無効」に設定している場合は、表示されません。

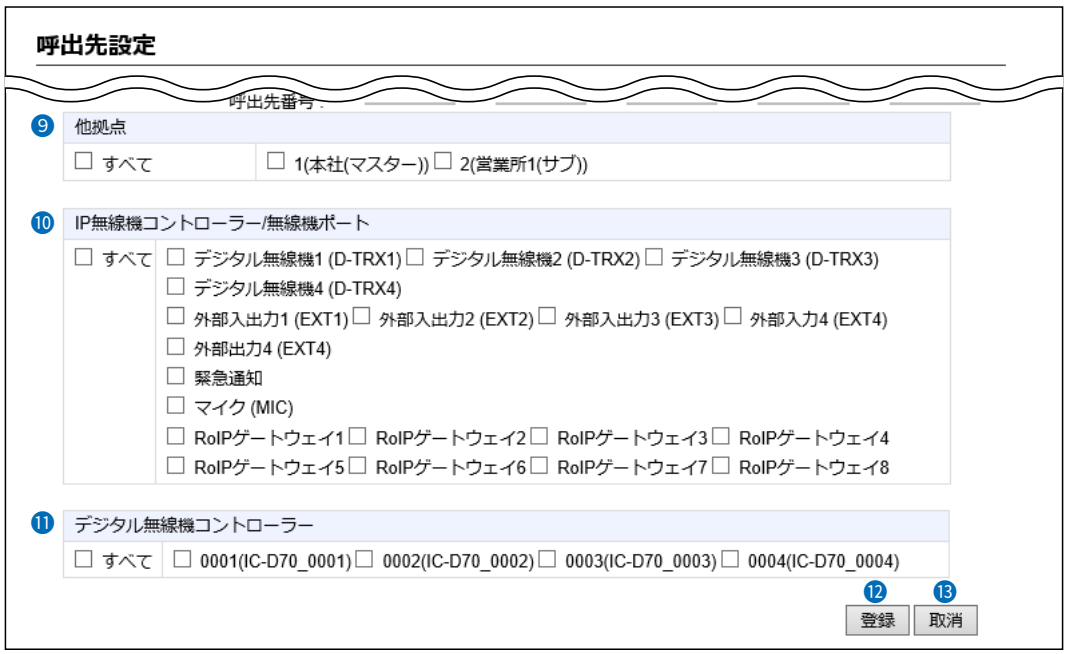
※管理トークグループ内では同一設定になるようにしてください。

8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定(トークグループ)



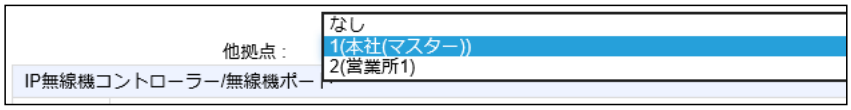
※画面は、[呼出種別](❸)で「トークグループ」を選択したときの表示例です。

❾ 他拠点 ……

複数の拠点を接続して、はなれた拠点間でトークグループ呼び出しをするとき、接続先となる機器(他拠点)を選択します。

※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。

※「RoIP通信設定」画面で、他拠点通信モードを「サブ」に設定している場合(下図)は、マスターとなるコントローラーを接続先に指定します。



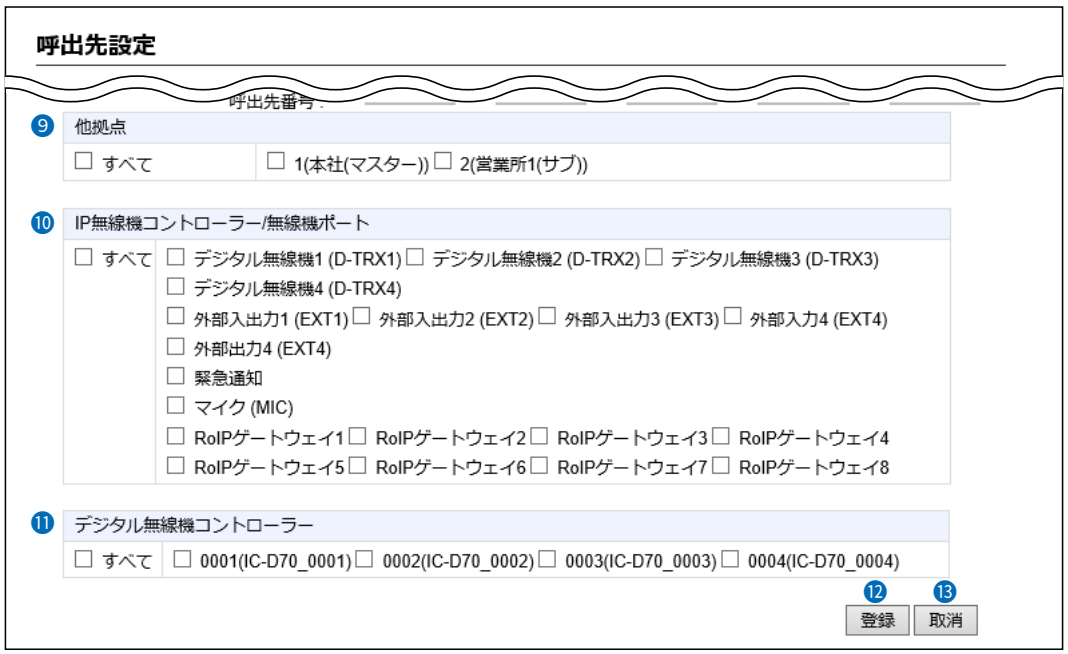
※設定する接続先は、[IP無線機コントローラー/無線機ポート](❿)欄、[デジタル無線機コントローラー](⓫)欄と合わせて22ヵ所までです。
IP無線機コントローラーは、接続先の数に含まれません。
デジタル無線機コントローラーは、チェックした子機が帰属するデジタル無線機によって接続先の数が変わります。
超えて設定した場合は、正しく通話ができません。

8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定(トークグループ)



※画面は、[呼出種別](❸)で「トークグループ」を選択したときの表示例です。

⑩ IP無線機コントローラー/無線機ポート ……

トークグループ呼び出しの対象にする通信機器、呼出元の通信機器を選択します。

◎IP無線機コントローラー★1
◎デジタル無線機1(D-TRX1)～デジタル無線機4(D-TRX4)
◎外部入出力1(EXT1)～外部入出力4(EXT4)★2
◎緊急通知
◎マイク(MIC)
◎RoIPゲートウェイ1～RoIPゲートウェイ8

★1：IP無線機コントローラーと接続している場合にのみ表示されます。
★2：「無線機ポート詳細設定」メニューの「外部入出力(EXT)」画面にある外部入出力設定で接続機器を「外部入出力」、外部入出力モードを「分離」に設定した場合は、「外部入力」と「外部出力」が表示されます。

※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
※設定する接続先は、[他拠点](❾)欄、[デジタル無線機コントローラー](⓫)欄と合わせて22ヵ所までです。
IP無線機コントローラーは、接続先の数に含まれません。
デジタル無線機コントローラーは、チェックした子機が帰属するデジタル無線機によって接続先の数が変わります。
超えて設定した場合は、正しく通話ができません。
※[MIC]ポートにスピーカーマイクロホンを接続すると[EXT1]ポートの音声入出力が切断されます。
[MIC]ポートと[EXT1]ポートの音声入出力を同時に使用することはできませんのでご注意ください。

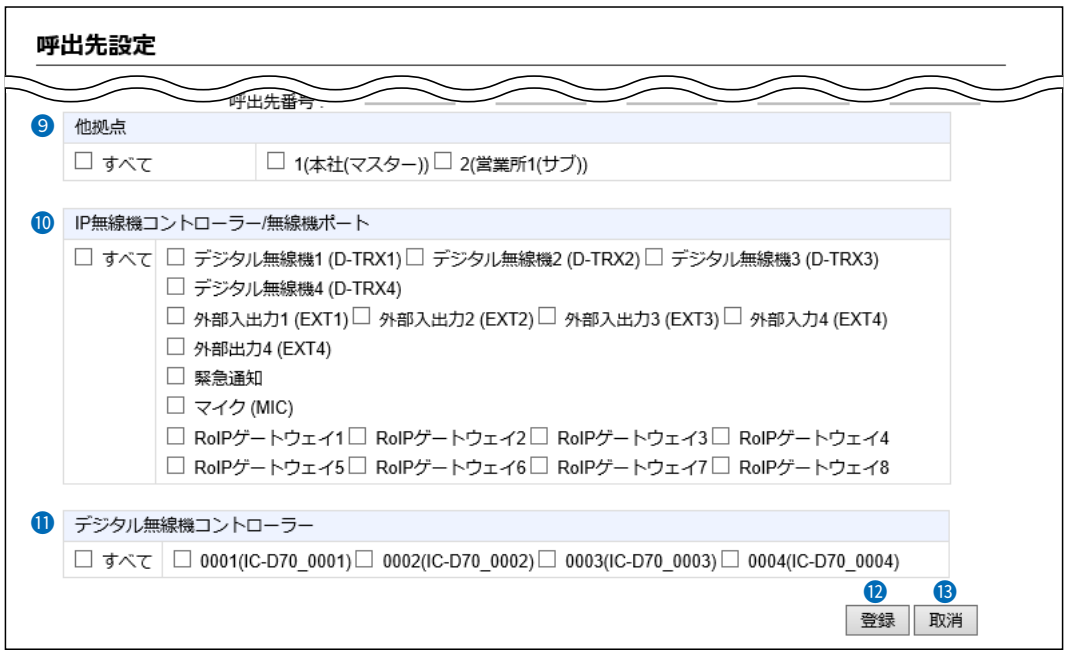
ご注意
IC-SAT100を設定した[EXT](1～4)ポートが所属できるグループ、トークグループは1つだけです。

8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定(トークグループ)



※画面は、[呼出種別](❸)で「トークグループ」を選択したときの表示例です。

⓫ デジタル無線機コントローラー … デジタル無線機から報知情報を受信する端末側無線機(自動チャンネル切替対応)をトークグループ呼び出しの対象にする場合に選択します。
※この設定は、「拡張設定」メニューの「デジタル無線機コントローラー」画面で、[デジタル無線機コントローラー]欄を「有効」に設定したときに表示されます。
※設定する接続先は、[他拠点](❾)欄、[IP無線機コントローラー/無線機ポート](❿)欄と合わせて22ヵ所までです。
IP無線機コントローラーは、接続先の数に含まれません。
デジタル無線機コントローラーは、チェックした子機が帰属するデジタル無線機によって接続先の数が変わります。
超えて設定した場合は、正しく通話ができません。

⓬〈登録〉 …… [呼出先設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[トークグループ種別](❺)欄で設定した種類によって表示される項目が変わります。
◎通常
[呼出先設定一覧(トークグループ)]項目に表示されます。
◎管理用
[呼出先設定一覧(管理用トークグループ)]項目に表示されます。

⓭〈取消〉 …… [呼出先設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

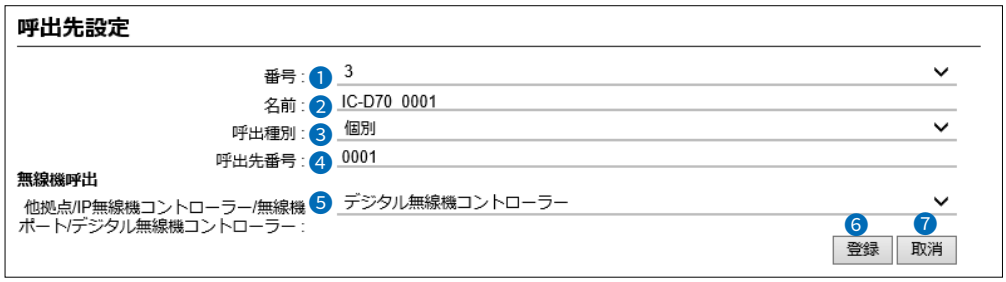
8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定(個別)

IPネットワークや本製品の無線機ポートを経由して、呼び出す相手局について設定します。
※[呼出種別](❸)に応じて、表示される内容が一部変更になります。



※画面は、[呼出種別](❸)で「個別」を選択したときの表示例です。

❶ 番号 ……
呼び出す相手局を登録する番号を選択します。
各種類のグループや個別、電話を合わせて最大1990件まで登録できます。

❷ 名前 ……
任意の名称を、半角31(全角31)文字以内で入力します。
※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大15文字になります。
※環境依存文字を入力しないでください。
環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。

❸ 呼出種別 ……
通話相手の種別として、「個別」を選択します。

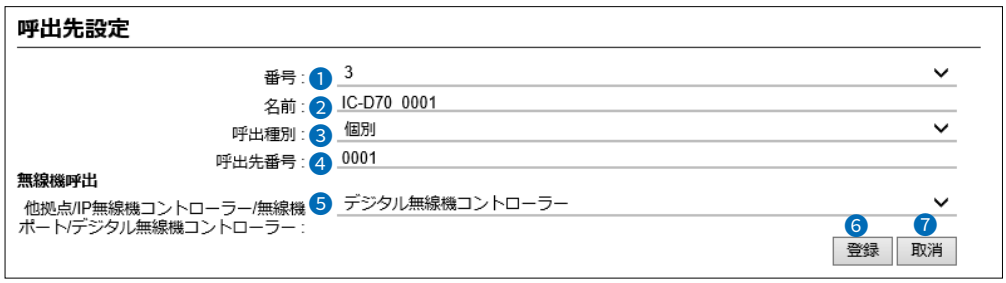
❹ 呼出先番号 ……
通話相手の個別番号を、4桁の数字で入力します。
※[他拠点/IP無線機コントローラー/無線機ポート/デジタル無線機コントローラー](❺)欄で「デジタル無線機コントローラー」を設定した場合、「デジタル無線機コントローラー」画面で設定したデジタル無線機の個別番号を入力します。

8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定(個別)



※画面は、[呼出種別](❸)で「個別」を選択したときの表示例です。

❺ 他拠点/IP無線機コントローラー/無線機ポート/デジタル無線機コントローラー

…… 個別呼び出しをする通信機器、または経路を選択します。

◎なし
◎他拠点接続★1
◎IP無線機コントローラー★2
◎デジタル無線機1(D-TRX1)～デジタル無線機4(D-TRX4)
◎外部入出力1(EXT1)～外部入出力4(EXT4)★3
◎緊急通知
◎マイク(MIC)
◎RoIPゲートウェイ1～RoIPゲートウェイ8
◎デジタル無線機コントローラー★4

★1：本製品に登録されている他拠点接続先が表示されます。
★2：IP無線機コントローラーと接続している場合にのみ表示されます。
★3：「無線機ポート詳細設定」メニューの「外部入出力(EXT)」画面にある外部入出力設定で接続機器を「外部入出力」、外部入出力モードを「分離」に設定した場合は、「外部入力」と「外部出力」が表示されます。
★4：「拡張設定」メニューの「デジタル無線機コントローラー」画面で、[デジタル無線機コントローラー]欄を「有効」に設定したときに表示されます。

※[MIC]ポートにスピーカーマイクロホンを接続すると[EXT1]ポートの音声入出力が切断されます。
[MIC]ポートと[EXT1]ポートの音声入出力を同時に使用することはできませんのでご注意ください。

❻〈登録〉 …… [呼出先設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[呼出先設定一覧(個別)]項目に表示されます。

❼〈取消〉 …… [呼出先設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

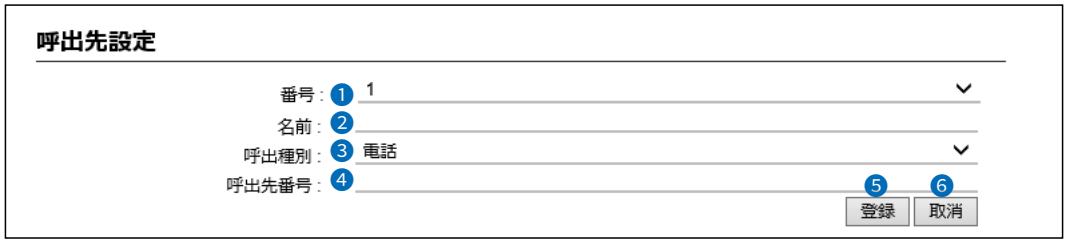
8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定(電話)

IPネットワークを経由して、電話機を呼び出すときに設定します。
※[呼出種別](❸)に応じて、表示される内容が一部変更になります。



※画面は、[呼出種別](❸)で「電話」を選択したときの表示例です。

❶ 番号 ……
呼び出す通話相手を登録する番号を選択します。
各種類のグループや個別、電話を、合わせて最大1990件まで登録できます。

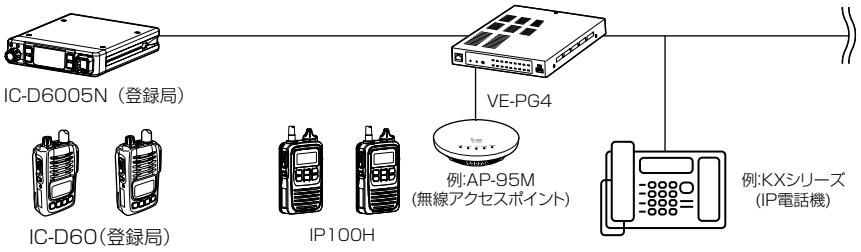
❷ 名前 ……
任意の名称を、半角31(全角31)文字以内で入力します。
※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大15文字になります。
※環境依存文字を入力しないでください。
環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。

❸ 呼出種別 ……
通話相手の種別として、「電話」を選択します。
※ここで選択する「電話」には、ブリッジ接続(VE-PG3経由)による通話で接続する弊社製無線機(例:IC-4810やIC-D60など)も含まれます。

❹ 呼出先番号 ……
相手先の電話番号を、31桁以内の数字と記号(#、*)で入力します。

❺〈登録〉 ……
[呼出先設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[呼出先設定一覧(電話)]項目に表示されます。

❻〈取消〉 ……
[呼出先設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。



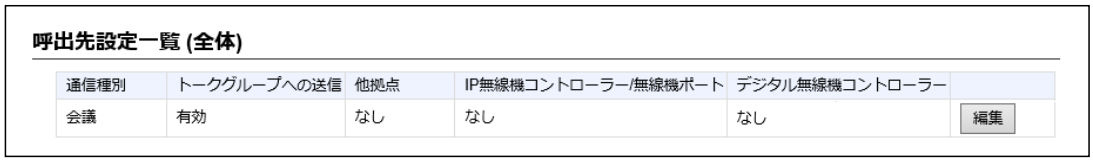
8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定一覧(全体)

[呼出先設定]項目で編集した内容が表示されます。
※〈編集〉をクリックすると、[呼出先設定]項目で登録内容を編集できます。
※デジタル無線機コントローラーは「拡張設定」メニューの「デジタル無線機コントローラー」画面で、[デジタル無線機コントローラー]欄を「有効」に設定したときに表示されます。

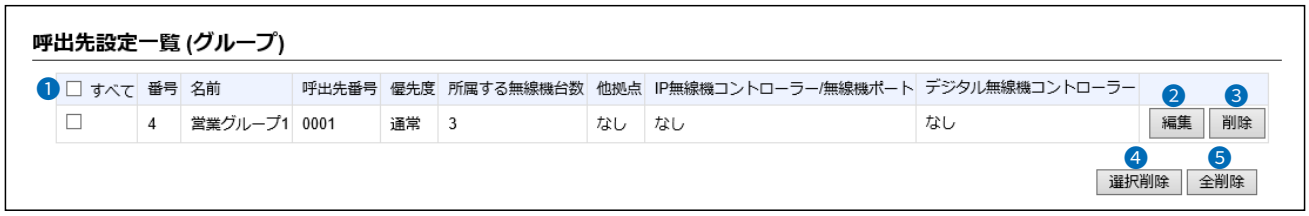


※画面の値は、入力例です

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定一覧(グループ)

[呼出先設定]項目で登録した内容が表示されます。
※デジタル無線機コントローラーは「拡張設定」メニューの「デジタル無線機コントローラー」画面で、[デジタル無線機コントローラー]欄を「有効」に設定したときに表示されます。



※画面の値は、入力例です。

❶ 選択ボックス …… 登録された内容を複数削除するとき、ボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。

❷〈編集〉 …… クリックすると、その行の登録内容を編集できます。
編集内容は、[呼出先設定]項目に表示されます。

❸〈削除〉 …… クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。

❹〈選択削除〉 …… クリックすると、[選択ボックス](❶)欄で選択した番号の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。

❺〈全削除〉 …… クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

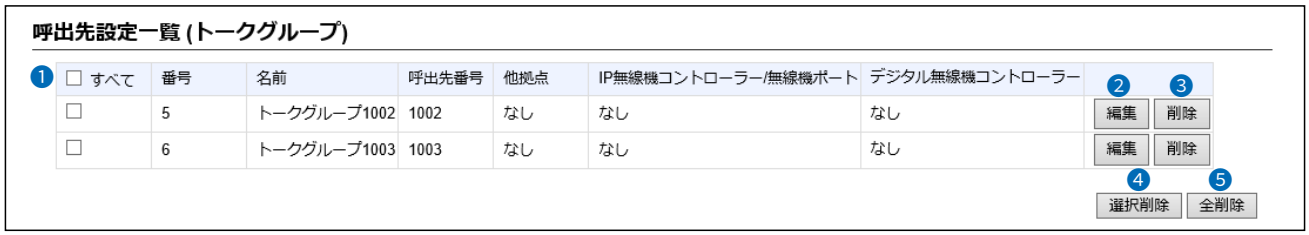
8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定一覧(トークグループ)

[呼出先設定]項目で登録した内容が表示されます。
※デジタル無線機コントローラーは「拡張設定」メニューの「デジタル無線機コントローラー」画面で、[デジタル無線機コントローラー]欄を「有効」に設定したときに表示されます。



※画面の値は、入力例です。

❶ 選択ボックス …… 登録された内容を複数削除するとき、ボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。

❷〈編集〉 …… クリックすると、その行の登録内容を編集できます。
編集内容は、[呼出先設定]項目に表示されます。

❸〈削除〉 …… クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。

❹〈選択削除〉 …… クリックすると、[選択ボックス](❶)欄で選択した番号の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。

❺〈全削除〉 …… クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定一覧(管理用トークグループ)

[呼出先設定]項目で登録した内容が表示されます。

※画面の値は、入力例です。

❶ **選択ボックス** …… 登録された内容を複数削除するとき、ボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。

❷ **〈編集〉** …… クリックすると、その行の登録内容を編集できます。
編集内容は、[呼出先設定]項目に表示されます。

❸ **〈削除〉** …… クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。

❹ **〈選択削除〉** …… クリックすると、[選択ボックス](❶)欄で選択した番号の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。

❺ **〈全削除〉** …… クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

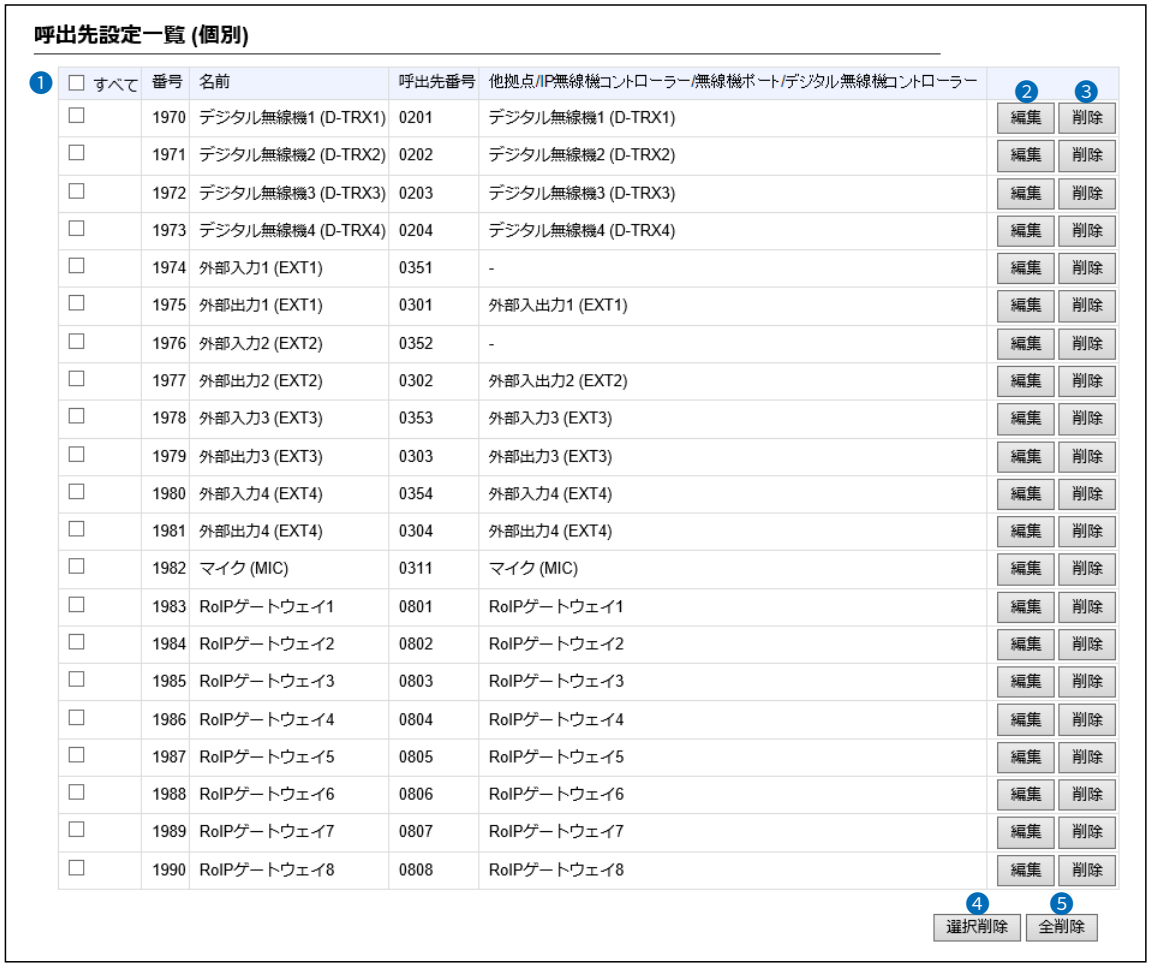
8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定一覧(個別)

[呼出先設定]項目で登録した内容が表示されます。
※デジタル無線機コントローラーは「拡張設定」メニューの「デジタル無線機コントローラー」画面で、[デジタル無線機コントローラー]欄を「有効」に設定したときに表示されます。



呼出先設定一覧 (個別)

❶	☐ すべて	番号	名前	呼出先番号	他拠点/IP無線機コントローラー/無線機ポート/デジタル無線機コントローラー	❷	❸
	☐	1970	デジタル無線機1 (D-TRX1)	0201	デジタル無線機1 (D-TRX1)	編集	削除
	☐	1971	デジタル無線機2 (D-TRX2)	0202	デジタル無線機2 (D-TRX2)	編集	削除
	☐	1972	デジタル無線機3 (D-TRX3)	0203	デジタル無線機3 (D-TRX3)	編集	削除
	☐	1973	デジタル無線機4 (D-TRX4)	0204	デジタル無線機4 (D-TRX4)	編集	削除
	☐	1974	外部入力1 (EXT1)	0351	-	編集	削除
	☐	1975	外部出力1 (EXT1)	0301	外部入出力1 (EXT1)	編集	削除
	☐	1976	外部入力2 (EXT2)	0352	-	編集	削除
	☐	1977	外部出力2 (EXT2)	0302	外部入出力2 (EXT2)	編集	削除
	☐	1978	外部入力3 (EXT3)	0353	外部入力3 (EXT3)	編集	削除
	☐	1979	外部出力3 (EXT3)	0303	外部出力3 (EXT3)	編集	削除
	☐	1980	外部入力4 (EXT4)	0354	外部入力4 (EXT4)	編集	削除
	☐	1981	外部出力4 (EXT4)	0304	外部出力4 (EXT4)	編集	削除
	☐	1982	マイク (MIC)	0311	マイク (MIC)	編集	削除
	☐	1983	RoIPゲートウェイ1	0801	RoIPゲートウェイ1	編集	削除
	☐	1984	RoIPゲートウェイ2	0802	RoIPゲートウェイ2	編集	削除
	☐	1985	RoIPゲートウェイ3	0803	RoIPゲートウェイ3	編集	削除
	☐	1986	RoIPゲートウェイ4	0804	RoIPゲートウェイ4	編集	削除
	☐	1987	RoIPゲートウェイ5	0805	RoIPゲートウェイ5	編集	削除
	☐	1988	RoIPゲートウェイ6	0806	RoIPゲートウェイ6	編集	削除
	☐	1989	RoIPゲートウェイ7	0807	RoIPゲートウェイ7	編集	削除
	☐	1990	RoIPゲートウェイ8	0808	RoIPゲートウェイ8	編集	削除

❹ 選択削除　❺ 全削除

※上図の値は、初期設定です。

❶ 選択ボックス …… 登録された内容を複数削除するとき、ボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。

❷〈編集〉 …… クリックすると、その行の登録内容を編集できます。
編集内容は、[呼出先設定]項目に表示されます。

❸〈削除〉 …… クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。

❹〈選択削除〉 …… クリックすると、[選択ボックス](❶)欄で選択した番号の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。

❺〈全削除〉 …… クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

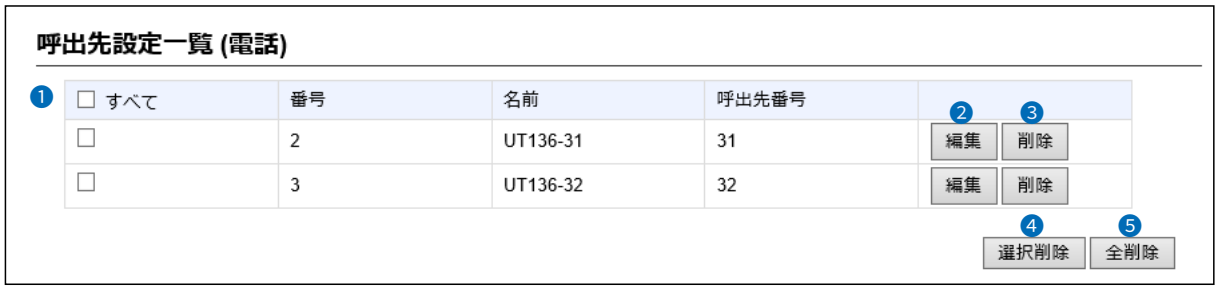
8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先設定一覧(電話)

[呼出先設定]項目で登録した内容が表示されます。



※画面の値は、入力例です。

❶ 選択ボックス …… 登録された内容を複数削除するとき、ボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。

❷〈編集〉 …… クリックすると、その行の登録内容を編集できます。
編集内容は、[呼出先設定]項目に表示されます。

❸〈削除〉 …… クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。

❹〈選択削除〉 …… クリックすると、[選択ボックス](❶)欄で選択した番号の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。

❺〈全削除〉 …… クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

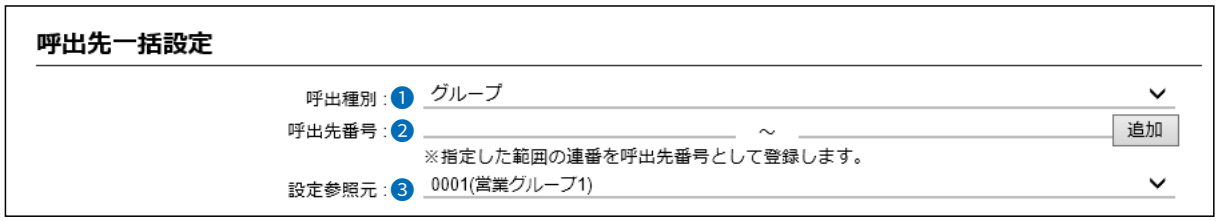
8 呼出先設定

「呼出先設定」画面

呼出先設定 > 呼出先設定

■ 呼出先一括設定

連番で呼出先番号を一括登録したり、すでに登録した設定内容を他の呼出先にコピーしたりできます。



※画面の値は、入力例です。

❶ 呼出種別 …… 通話相手の種別を、「個別」、「グループ」、「トークグループ」から選択します。

❷ 呼出先番号 …… 連番で一括に登録したい呼出先番号の範囲を入力します。

〈追加〉

[設定参照元]（❸）欄を設定したあとにクリックすると、テキストボックスに入力した範囲（例：0102～0105）の呼出先番号が登録されます。

※入力した範囲で、すでに登録された呼出先番号がある場合は、「設定を上書きします。」が表示されます。

❸ 設定参照元 …… すでに登録した端末やグループの設定内容から参照元を選択します。

拡張設定

第 9 章

この章では、
「拡張設定」画面の設定について説明します。

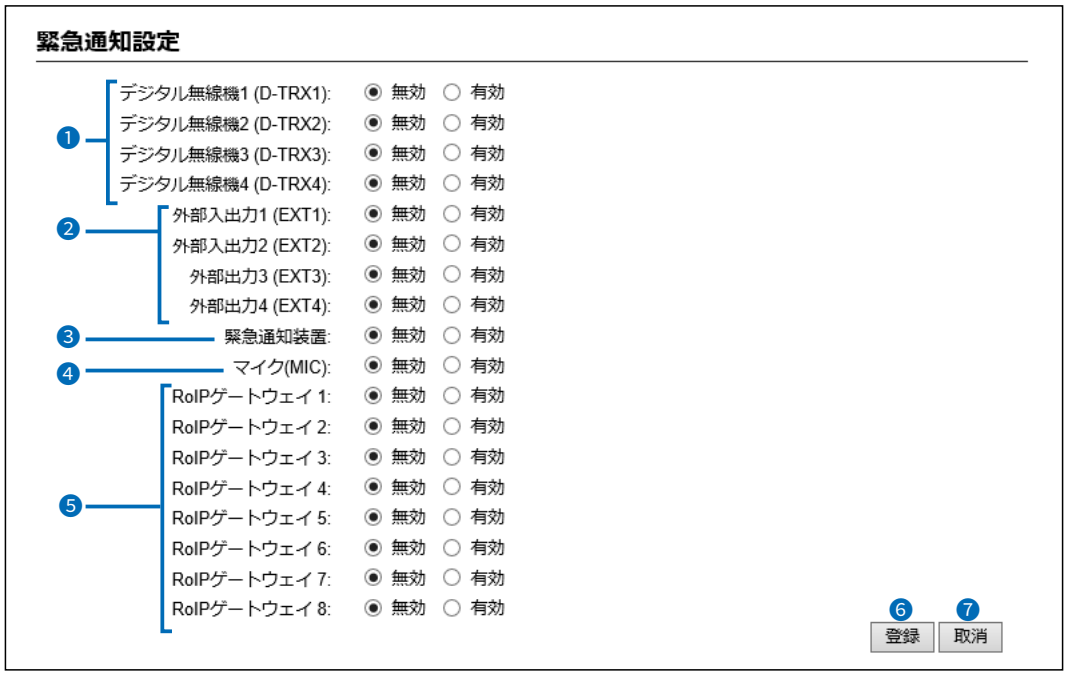
「緊急通知」画面 …… 9-2
■ 緊急通知設定 …… 9-2
「異常監視」画面 …… 9-4
■ LANポートリンクダウン …… 9-4
■ PING疎通テスト …… 9-5
■ SIPサーバーレジスト …… 9-6
「IP無線機情報フィルタリング」画面 …… 9-7
■ IP無線機情報フィルタリング設定 …… 9-7
■ フィルタリングリスト設定 …… 9-8
■ フィルタリングリスト一括設定 …… 9-9
「無線機ポート拡張」画面 …… 9-10
■ VoIP設定 …… 9-10
「無線機通話録音」画面 …… 9-13
■ 共通設定 …… 9-13
■ 録音ボックス設定 …… 9-14
■ 録音ボックス設定一覧 …… 9-16
「デジタル無線機コントローラー」画面 …… 9-17
■ デジタル無線機コントローラー設定 …… 9-17
■ デジタル無線機設定 …… 9-18
■ デジタル無線機設定一覧 …… 9-19
■ デジタル無線機一括設定 …… 9-20

「緊急通知」画面

拡張設定 > 緊急通知

■ 緊急通知設定

緊急通知に使用する機器を指定します。
本製品の[EXT](1～4)ポートに接続された外部機器からの音声信号入力、または「ブリッジ接続設定」画面(P.5-2)で設定した緊急通知の自局ポート番号への着信があったときに使用する機器を指定します。



❶ デジタル無線機1(D-TRX1)～デジタル無線機4(D-TRX4) ……

本製品にネットワーク経由で接続しているデジタル無線機(1～4)へ緊急通知を送信するときに設定します。 (初期設定：無効)

❷ 外部入出力1(EXT1)～外部入出力4(EXT4) ……

本製品の[EXT](1～4)ポートに接続された外部機器(または無線機)へ緊急通知を送信するときに設定します。 (初期設定：無効)

※「無線機ポート詳細設定」メニューの「外部入出力(EXT)」画面にある外部入出力設定で接続機器を「外部入出力」、外部入出力モードを「分離」に設定した場合は、「外部出力」が表示されます。

※[EXT1]とマイク(MIC)は併用できません。

❸ 緊急通知装置 ……

あらかじめブリッジ接続設定で設定した緊急通知装置へ緊急通知を送信するときに設定します。 (初期設定：無効)

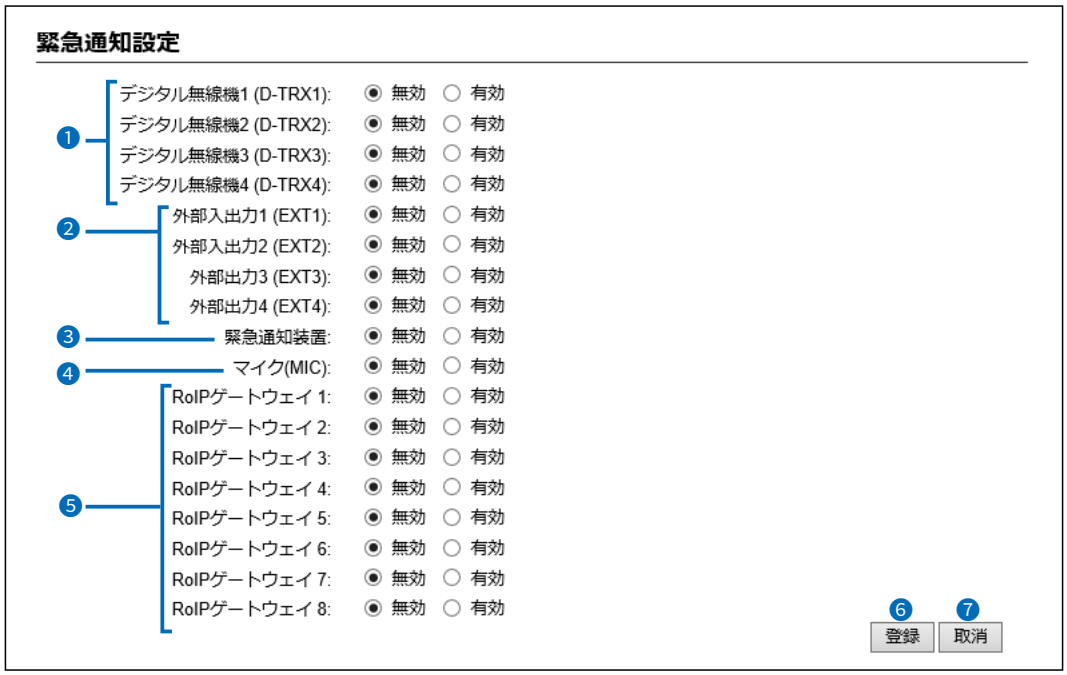
※「外部入出力」画面→[外部音声端子設定]項目にある[入力接続先]欄を「緊急」にする必要があります。
[有効タイミング]欄の設定にしたがって緊急通知します。

9 拡張設定

「緊急通知」画面

拡張設定 > 緊急通知

■ 緊急通知設定



❹ マイク(MIC) …… 本製品に接続しているマイクへ緊急通知を送信するときに設定します。（初期設定：無効）

❺ RoIPゲートウェイ1～RoIPゲートウェイ8 …… 本製品のRoIPゲートウェイとブリッジ接続している機器(RoIPゲートウェイ1～8)へ緊急通知を送信するときに設定します。（初期設定：無効）

❻〈登録〉 …… [緊急通知設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

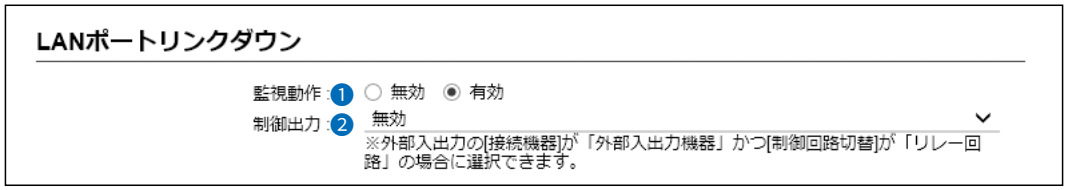
❼〈取消〉 …… [緊急通知設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「異常監視」画面

拡張設定 > 異常監視

■ LANポートリンクダウン

通信異常の監視について設定します。



※画面の内容は、設定例です。

❶ 監視動作 ……

本製品の[LAN]ポートについて、未接続状態(リンク切れ)を検出するときに設定します。 (初期設定：無効)

リンク切れや復帰を検出すると、下図のように「情報表示」メニューの「SYSLOG」画面に表示されます。

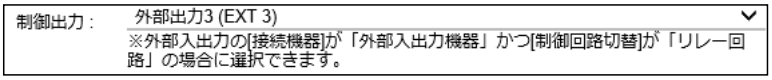
09-11 16:29:32	NOTICE	telephoned: LAN PORT LINK SUCCESS!!
09-11 16:29:12	NOTICE	telephoned: LAN PORT LINK ERROR!!

❷ 制御出力 ……

検出信号を、本製品のB1/B2端子(+/−)に接続した外部機器から出力するとき設定します。 (初期設定：無効)

※リレー出力端子として、B1/B2端子(+/−)を使用するために、「外部入出力」画面の[制御回路設定]項目を「リレー回路」に設定する必要があります。(P.7-38)

設定すると、下図の画面のように表示(例：外部出力3(EXT3))します。



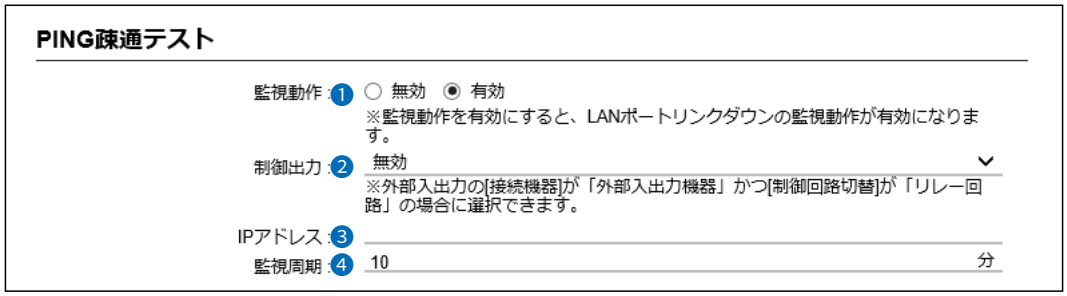
※外部制御出力パターンは、「外部入出力」画面の[外部出力制御設定]項目で設定できます。

「異常監視」画面

拡張設定 > 異常監視

■ PING疎通テスト

通信異常の監視について設定します。



※画面の内容は、設定例です。

❶ 監視動作 ……

指定ホストへのIPレベルの通信状態をPingによって確認するときに設定します。（初期設定：無効）

通信異常を検出すると、下図のように「情報表示」メニューの「SYSLOG」画面に表示されます。

日付・時間	レベル	内容
09-21 10:20:09	NOTICE	telephoned: PING SUCCESS!!
09-21 10:19:18	NOTICE	telephoned: PING ERROR!!

❷ 制御出力 ……

検出信号を、本製品のB1/B2端子(+/−)に接続した外部機器から出力するとき設定します。（初期設定：無効）

※リレー出力端子として、B1/B2端子(+/−)を使用するために、「外部入出力」画面の[制御回路設定]項目を「リレー回路」に設定する必要があります。(P.7-38)

※外部制御出力パターンは、「外部入出力(EXT)」画面の[外部出力制御設定]項目で設定できます。(P.7-47)

❸ IPアドレス ……

指定する接続先のIPアドレスを入力します。

❹ 監視周期 ……

指定ホストの監視間隔を設定します。（初期設定：10）

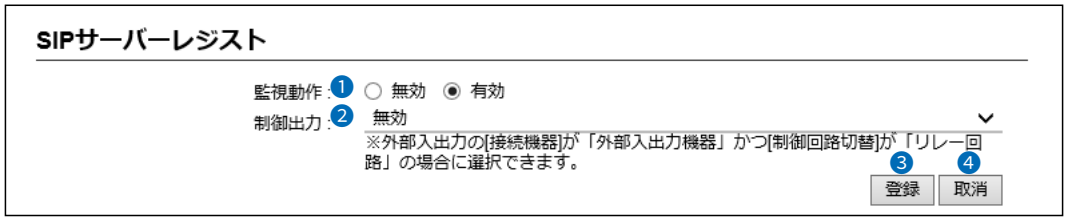
設定できる範囲は、「1～4320」(分)です。

「異常監視」画面

拡張設定 > 異常監視

■ SIPサーバーレジスト

通信異常の監視について設定します。



※画面の内容は、設定例です。

❶ 監視動作 ……

弊社製SIPサーバー(簡易中継サーバー)との接続失敗(1エントリー以上)を検出するときに設定します。 (初期設定：無効)
接続失敗を検出すると、下図のように「情報表示」メニューの「SYSLOG」画面に表示されます。

日付・時間	レベル	内容
09-21 09:16:26	NOTICE	telephoned: SIP REGIST ERROR!!

※[VoIP]ランプは、この設定に関係なく動作します。

❷ 制御出力 ……

検出信号を、本製品のB1/B2端子(+/−)に接続した外部機器から出力するとき設定します。 (初期設定：無効)
※リレー出力端子として、B1/B2端子(+/−)を使用するために、「外部入出力」画面の[制御回路設定]項目を「リレー回路」に設定する必要があります。(P.7-38)
※外部制御出力パターンは、「外部入出力(EXT)」画面の[外部出力制御設定]項目で設定できます。(P.7-47)

❸〈登録〉 ……

[LANポートリンクダウン]項目、[PING疎通テスト]項目、[SIPサーバーレジスト]項目で設定した内容を登録するボタンです。

❹〈取消〉 ……

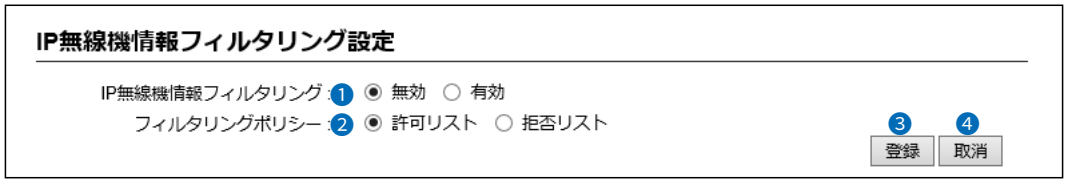
[LANポートリンクダウン]項目、[PING疎通テスト]項目、[SIPサーバーレジスト]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「IP無線機情報フィルタリング」画面

拡張設定 > IP無線機情報フィルタリング

■ IP無線機情報フィルタリング設定

位置情報表示ソフトウェア(PM-IP500)に送出するIP500Hなどの無線機情報を制限する設定です。



❶ IP無線機情報フィルタリング … 条件に応じて、位置情報表示ソフトウェア(PM-IP500)に送出する無線機情報(位置情報、プレゼンス)をフィルタリングする設定です。
(初期設定：無効)

❷ フィルタリングポリシー …… [フィルタリングリスト設定]項目に登録された個別番号の無線機情報の送出を許可するか拒否するかを設定します。 (初期設定：許可リスト)

◎許可リスト
個別番号が登録されたIP500Hなどの無線機情報を送出します。
※個別番号を登録していないIP500Hなどの無線機情報は送出しません。

◎拒否リスト
個別番号が登録されたIP500Hなどの無線機情報を送出しません。
※個別番号を登録していないIP500Hなどの無線機情報は送出します。

❸〈登録〉 …… [IP無線機情報フィルタリング設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

❹〈取消〉 …… [IP無線機情報フィルタリング設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

ご注意
IP無線機の情報は、お買い上げ時に、本製品に必要な各種情報送信が設定されている必要があります。

「IP無線機情報フィルタリング」画面

拡張設定 > IP無線機情報フィルタリング

■ フィルタリングリスト設定

IP無線機情報フィルタリングの対象となるIP500Hなどの個別番号を登録します。
※最大200件まで登録できます。

❶〈登録〉 …… [フィルタリングリスト設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

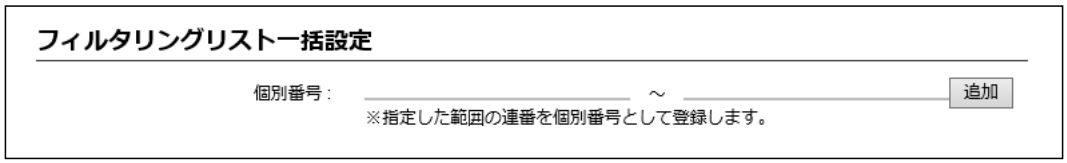
❷〈取消〉 …… [フィルタリングリスト設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

❸〈全削除〉 …… クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

「IP無線機情報フィルタリング」画面

拡張設定 > IP無線機情報フィルタリング

■ フィルタリングリストー括設定



個別番号……

連番で一括に登録したい個別番号の範囲を入力します。

〈追加〉

クリックすると、テキストボックスに入力した範囲(例：00004～00010)の個別番号が登録されます。

※入力した範囲で、すでに登録された個別番号がある場合は、「登録済みの設定があります。設定してもよろしいですか？(登録済みの番号が表示)」が表示されます。

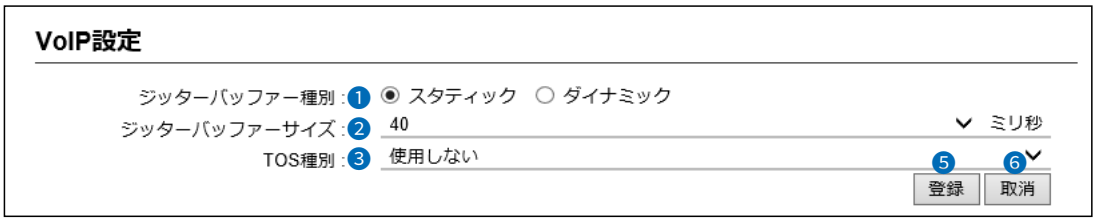
「無線機ポート拡張」画面

拡張設定 > 無線機ポート拡張

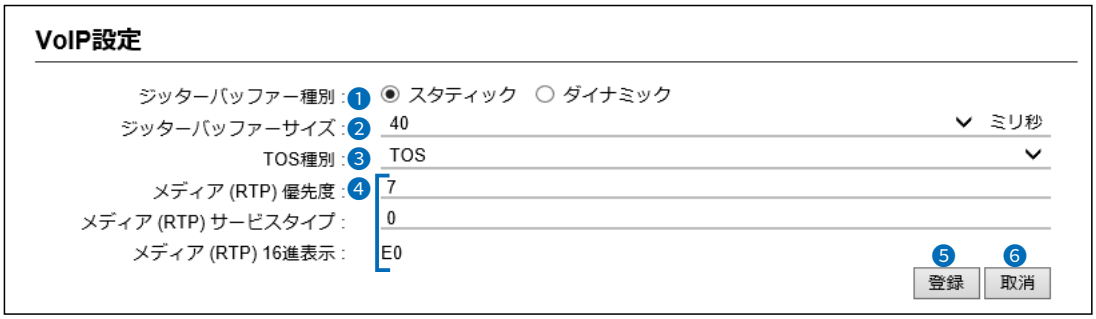
■ VoIP設定

RoIPゲートウェイ、ブリッジなどの音質について設定します。
※下記のように、TOS種別の設定ごとに[VoIP設定]項目の内容が変更になります。

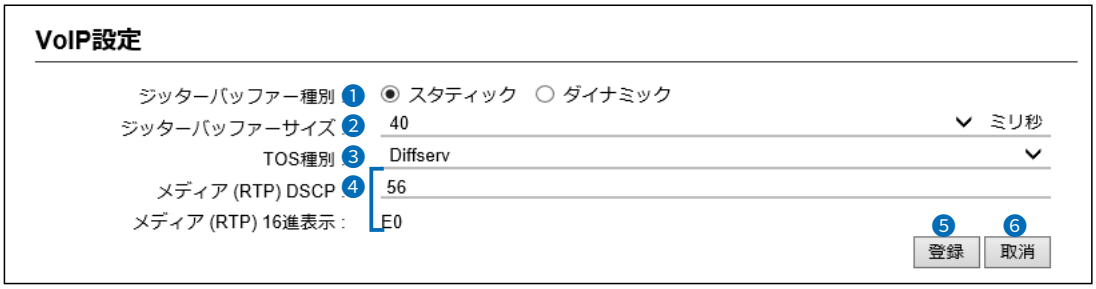
TOS種別：使用しない



TOS種別：TOS



TOS種別：Diffserv



※上図は、[ジッターバッファー種別](❶)欄で「スタティック」を選択したときに表示される内容です。

❶ ジッターバッファー種別 ……

パケットの揺らぎによる音声途切れを軽減するために使用するジッターバッファーを、「スタティック」、「ダイナミック」から選択します。

（初期設定：ダイナミック）

◎スタティック

音声を受信したとき、[ジッターバッファーサイズ](❷)欄で設定した時間で音声データを蓄えます。

◎ダイナミック

音声を受信したとき、揺らぎに応じて音声データを蓄える時間が変動します。

❷ ジッターバッファーサイズ ……

音声を受信したとき、音声データを蓄える時間を設定します。

（初期設定：40）

設定できる範囲は、「20」(ミリ秒)～「1000」(ミリ秒)です。
設定する時間が短いほど遅延は少なくなりますが、音声が途切れやすくなります。

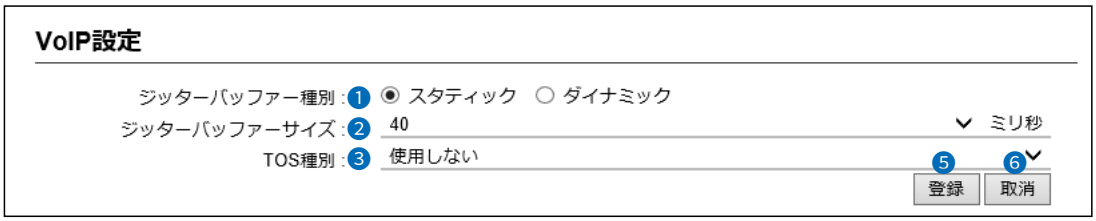
※[ジッターバッファー種別](❶)欄で「ダイナミック」を選択したときは、表示されない項目です。

「無線機ポート拡張」画面

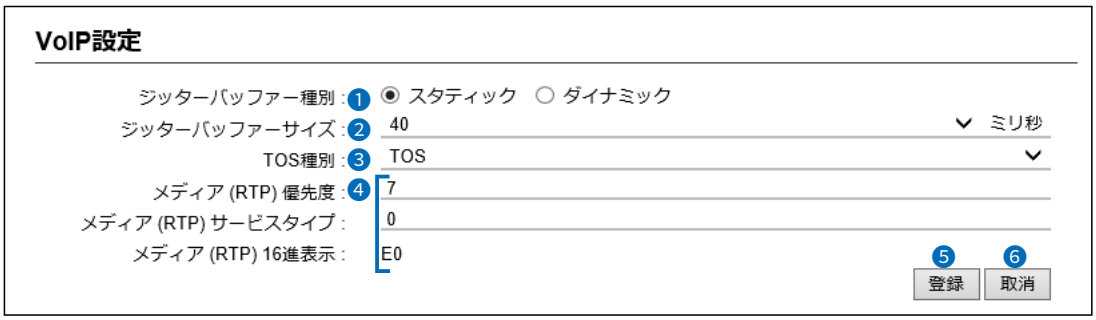
拡張設定 > 無線機ポート拡張

■ VoIP設定

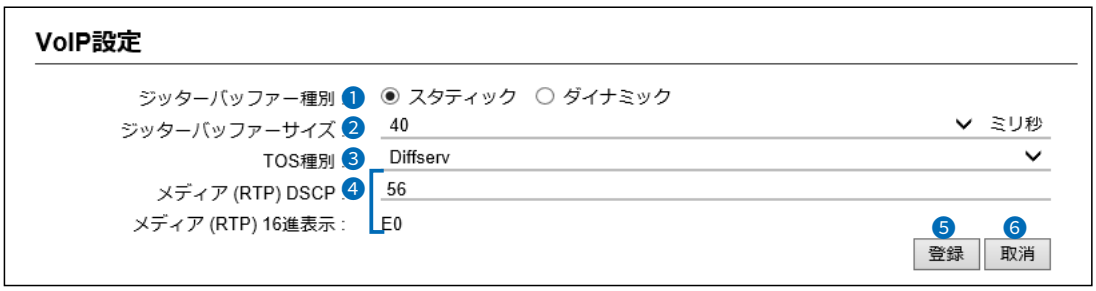
TOS種別：使用しない



TOS種別：TOS



TOS種別：Diffserv



※上図は、[ジッターバッファー種別]（❶）欄で「スタティック」を選択したときに表示される内容です。

❸ TOS種別 …… 本製品のTOS機能について設定します。（初期設定：使用しない）

◎使用しない

TOS機能を使用しません。

◎TOS

TOS（Type Of Service）のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド（8ビット）に出力します。RFC1349に準拠して、1ビット～ 3ビットを優先度、4ビット～7ビットをサービスタイプとして、10進数で設定します。

残りの1ビットは、未使用フィールドとして、0に固定されています。

優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎Diffserv

Diffserv（Differentiated Service）のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド（8ビット）に出力します。

1ビット～ 6ビットをDSCPとして、10進数で設定します。

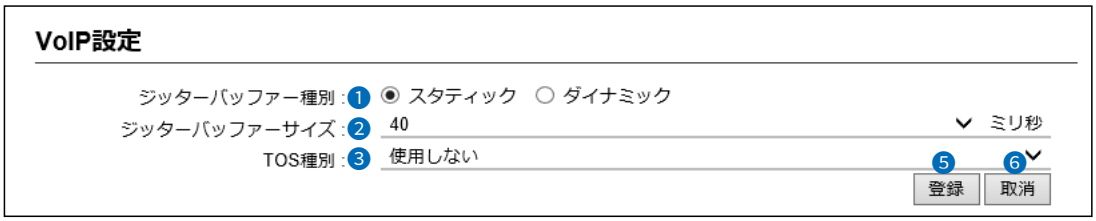
残りの2ビットは、未使用フィールドとして、0に固定されています。

「無線機ポート拡張」画面

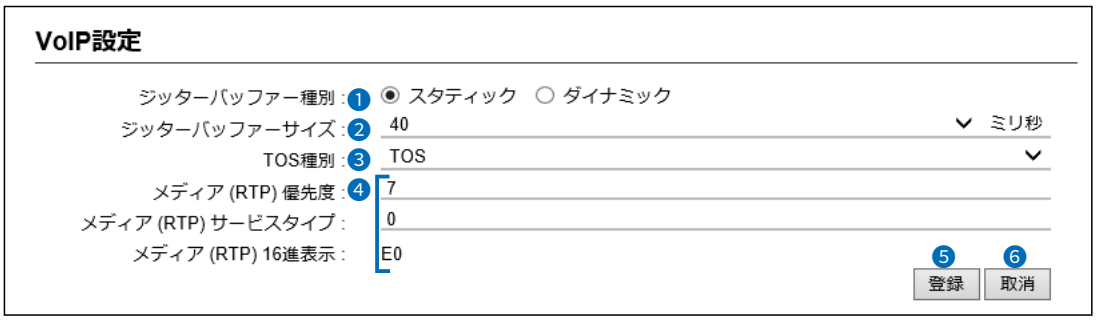
拡張設定 > 無線機ポート拡張

■ VoIP設定

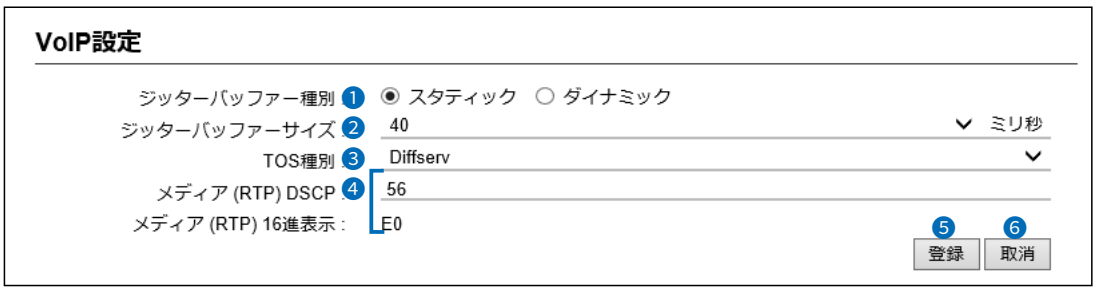
TOS種別：使用しない



TOS種別：TOS



TOS種別：Diffserv



※上図は、[ジッターバッファー種別]（❶）欄で「スタティック」を選択したときに表示される内容です。

❹ メディア(RTP) …… TOSフィールド内に出力された音声パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

◎優先度

TOSの優先度フィールドの値を設定します。
設定できる範囲は、「0 ～7」(10進数)です。（初期設定：7）
優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎サービスタイプ

TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。
設定できる範囲は、「0～15」(10進数)です。（初期設定：0）

◎DSCP

DSCP(Differentiated Services Code Point)の値を設定します。
設定できる範囲は、「0～63」(10進数)です。（初期設定：56）

❺〈登録〉 …… [VoIP設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

❻〈取消〉 …… [VoIP設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「無線機通話録音」画面

拡張設定 > 無線機通話録音

■ 共通設定

無線機通話の録音について設定します。

❶ 無通話録音 …… 無通話時も継続して録音する機能を設定します。（初期設定：有効）
※有効にした場合、通話が終了したあとも[無通話録音時間]（❷）で設定した秒数、録音がつづきます。
無通話録音時間内での送受信であれば、1つの録音ファイルで保存されます。
※無効にした場合は、通話が終了した時点で、録音ファイルが保存されます。
1回の送信、受信ごとにファイルが保存されます。

❷ 無通話録音時間 …… 通話終了後、無通話時も継続して録音する時間を指定します。（初期設定：5）

❸ 最新録音データの上書保存 …… 有効に設定した場合は、ディスク容量の不足時は旧データを削除して書き込みます。無効に設定した場合は、ディスク容量の不足時は最新録音データを保存しません。（初期設定：無効）

❹〈登録〉 …… [共通設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

❺〈取消〉 …… [共通設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

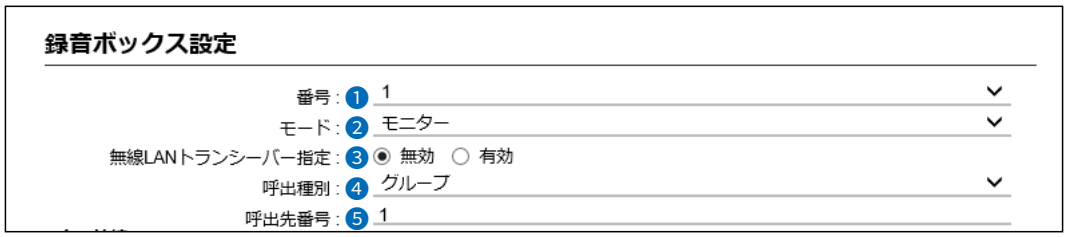
「無線機通話録音」画面

拡張設定 > 無線機通話録音

■ 録音ボックス設定

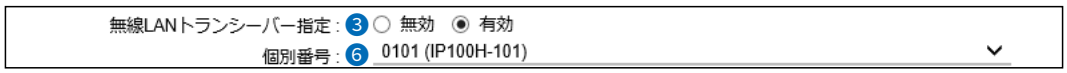
無線機との通話を録音する機能です。

無線LANトランシーバー指定：無効



※上図は、[モード](❷)欄で「モニター」、[呼出種別](❺)欄で「グループ」を選択したときの画面です。

無線LANトランシーバー指定：有効



❶ 番号 ……

登録する番号を選択します。
最大4件まで登録できます。

❷ モード ……

録音/モニターモードを指定します。（初期設定：無効）
◎**無効**　：録音機能を使用しません。
◎**録音**　：指定した通話を外部記憶装置に保存します。
◎**モニター**　：指定した通話を特定のポートから音声出力します。
◎**モニター+録音**　：録音とモニターを同時に実行します。

❸ 無線機LANトランシーバー指定

無線LANトランシーバーを指定するかを設定します。（初期設定：無効）
◎**無効**　：無線LANトランシーバーを指定しません。
◎**有効**　：[個別番号](❻)で対象となる無線LANトランシーバーを指定します。
※呼出種別に関係なく、指定した無線LANトランシーバーの通信を対象にします。

❹ 呼出種別 ……

録音対象の通話種別を指定します。（初期設定：全体）
◎**全体**　：全体呼び出しの通話を録音します。
◎**グループ**：[呼出先番号](❺)で指定したグループ呼び出しの通話を録音します。
◎**個別**　：[呼出先番号](❺)で指定した個別番号との通話を録音します。

❺ 呼出先番号 ……

録音対象の番号を指定します。（初期設定：1）

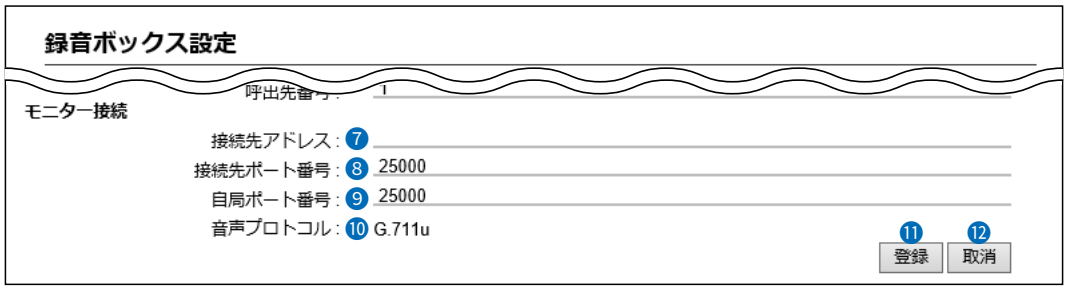
❻ 個別番号 ……

録音対象にする無線LANトランシーバーの個別番号を指定します。
※指定した番号の端末が「無線機コントローラー設定」メニューの「無線機追加」画面で削除された場合は、録音設定は無効になります。

「無線機通話録音」画面

拡張設定 > 無線機通話録音

■ 録音ボックス設定



※上図は、[モード](❷)欄(P.9-14)で「モニター」を選択したときの画面です。

❼ 接続先アドレス …… モニターとして接続する機器のIPアドレスを設定します。

❽ 接続先ポート番号 …… モニターとして接続する機器のポート番号を設定します。
(初期設定：1→25000
2→25002
3→25004
4→25006)

❾ 自局ポート番号 …… モニターとして使用する自局ポート番号を設定します。
(初期設定：1→25000
2→25002
3→25004
4→25006)

❿ 音声プロトコル …… モニター接続で使用するコーデックが表示されます。(G.711u固定)
※この項目は変更できません。

⓫〈登録〉 …… [録音ボックス設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

⓬〈取消〉 …… [録音ボックス設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「無線機通話録音」画面

拡張設定 > 無線機通話録音

■ 録音ボックス設定一覧

[録音ボックス設定]項目(P.9-14～P.9-15)で登録した内容が表示されます。

録音ボックス設定一覧

番号	モード	個別番号	呼出種別	呼出先番号	接続先アドレス	接続先ポート番号	自局ポート番号	音声プロトコル
1	録音	-	グループ	102	-	-	-	-
2	モニター + 録音	0101	-	-	192.168.0.10	25002	25002	G.711u
3	無効	-	-	-	-	-	-	-
4	無効	-	-	-	-	-	-	-

※画面の値は、設定例です

上図の画面では、グループの102宛ての通話を録音ボックス1に録音します。
また、個別番号0101との通話を録音ボックス2に録音しながら、同時に通話内容をモニター接続先IPアドレス(192.168.0.10)、モニター接続先ポート番号の25002宛てに送信しています。

「デジタル無線機コントローラー」画面

拡張設定 > デジタル無線機コントローラー

■ デジタル無線機コントローラー設定

デジタル無線機から報知情報を受信する端末側無線機(自動チャンネル切替対応)をコントロールする機能です。

❶ **デジタル無線機コントローラー** … 本製品のデジタル無線機コントローラーを設定します。 (初期設定：無効)
※有効に設定すると、他のデジタル無線機コントローラー設定が表示されます。

❷ **接続監視時間** …… デジタル無線機コントローラーの接続状況を監視する時間を「1～60(分)」で設定します。 (初期設定：10)
端末側無線機からの信号が指定した時間受信できなかった場合は、[デジタル無線機設定一覧]項目の[レジスト状態]欄が、「未接続」になります。
※「無線機ポート詳細設定」にある「デジタル無線機(D-TRX)」のデジタル無線機コントローラーの送信間隔よりも、短い時間を設定すると、接続監視時間を待たずに[レジスト状態]欄が、「未接続」になる場合があります。

❸ **〈登録〉** …… [デジタル無線機コントローラー設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

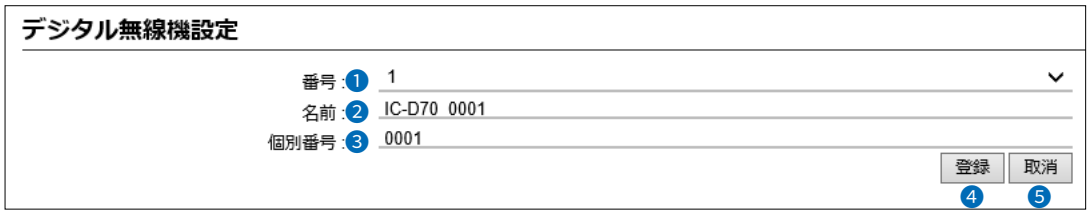
❹ **〈取消〉** …… [デジタル無線機コントローラー設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「デジタル無線機コントローラー」画面

拡張設定 > デジタル無線機コントローラー

■ デジタル無線機設定

端末側無線機を新規登録するときに使用します。
※2019年5月現在、登録できる無線機はIC-D70、IC-D70BT、IC-DU75です。



❶ **番号** …… 端末側無線機を登録する番号を選択します。
最大400件まで登録できます。

❷ **名前** …… 登録する端末側無線機の名前を、任意の31文字以内で入力します。

❸ **個別番号** …… 登録する端末側無線機の個別番号を4桁で入力します。
設定できる範囲は、「0001～9999」です。

❹ **〈登録〉** …… [デジタル無線機設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

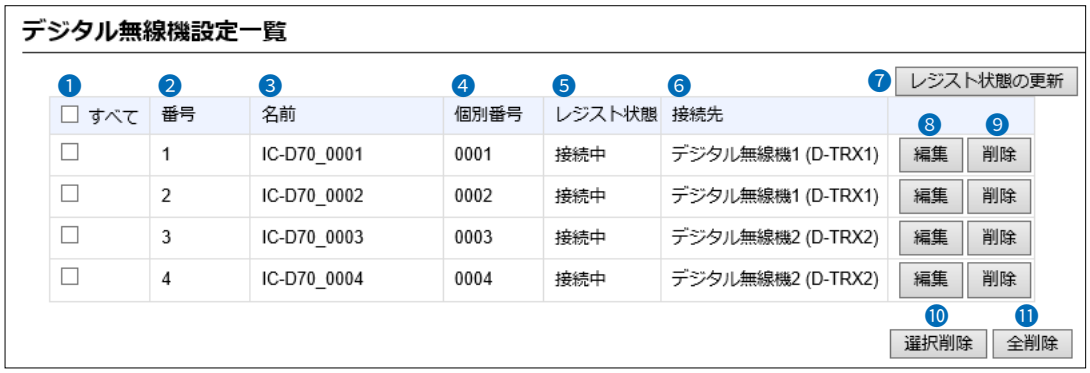
❺ **〈取消〉** …… [デジタル無線機設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「デジタル無線機コントローラー」画面

拡張設定 > デジタル無線機コントローラー

■ デジタル無線機設定一覧

[デジタル無線機設定]項目(P.9-18)で登録した内容が表示されます。
※この欄では、登録内容を変更できません。



❶ **選択ボックス** …… 登録された内容を複数削除するとき、ボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。

❷ **番号** …… [デジタル無線機設定]項目で登録した番号が表示されます。

❸ **名前** …… [デジタル無線機設定]項目で登録した名前が表示されます。

❹ **個別番号** …… [デジタル無線機設定]項目で登録した個別番号が表示されます。

❺ **レジスト状態** …… 本製品に登録した端末側無線機の接続状況が「接続中」/「未接続」で表示されます。
※端末側無線機の電源が入っていないときやデジタル無線機に接続されていないときなど、「未接続」が表示されます。

❻ **接続先** …… 本製品に登録した端末側無線機の接続先が、「デジタル無線機1(D-TRX1)」～「デジタル無線機4(D-TRX4)」、「RoIPゲートウェイ1」～「RoIPゲートウェイ8」で表示されます。

❼ **〈レジスト状態の更新〉** …… クリックすると、デジタル無線機設定一覧を最新のレジスト状態に更新します。

❽ **〈編集〉** …… クリックすると、その行の登録内容を編集できます。
編集内容は、[デジタル無線機設定]項目に表示されます。

❾ **〈削除〉** …… クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。

❿ **〈選択削除〉** …… クリックすると、[選択ボックス](❶)欄で選択した番号の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。

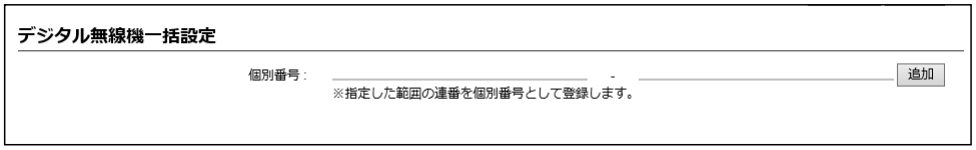
⓫ **〈全削除〉** …… クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

「デジタル無線機コントローラー」画面

拡張設定 > デジタル無線機コントローラー

■ デジタル無線機一括設定

連番で個別番号を一括登録できます。



個別番号…… 連番で一括に登録したい個別番号の範囲を入力します。

〈追加〉

クリックすると、テキストボックスに入力した範囲(例：0004～0010)の個別番号が登録されます。

IP回線設定

第 10 章

この章では、
「IP回線設定」画面の設定について説明します。

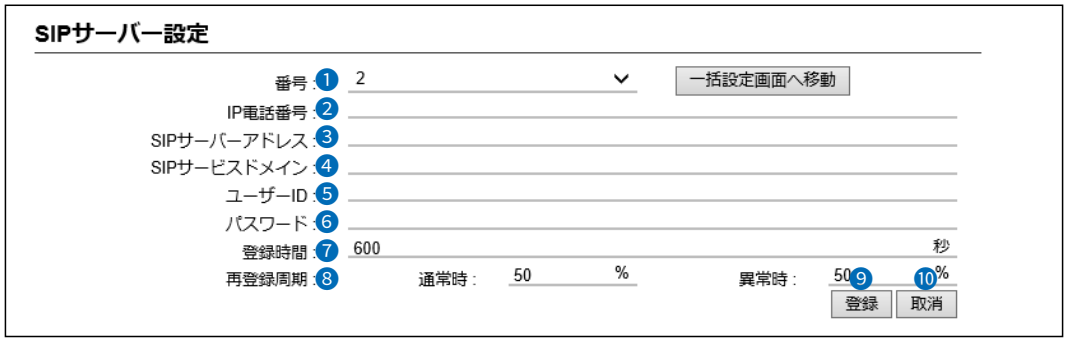
「IP回線」画面 …… 10-2
■ SIPサーバー設定 …… 10-2
■ SIPサーバー設定一覧 …… 10-4
■ SIPサーバー一括設定 …… 10-6
「Peer to Peer」画面 …… 10-7
■ Peer to Peer共通設定 …… 10-7
■ Peer to Peer設定 …… 10-8
■ Peer to Peer設定一覧 …… 10-9
「VoIP電話帳」画面 …… 10-10
■ VoIP電話帳の保存と書き込み …… 10-10
■ VoIP電話帳への登録 …… 10-12
■ VoIP電話帳登録一覧 …… 10-13

「IP回線」画面

IP回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定

SIPサーバー(簡易中継サーバー)(親機)の子機として、簡易中継サーバーと接続するときに設定します。



❶ 番号 ……

電話番号に対するSIPサーバーの設定を登録する番号を選択します。
最大100件まで登録できます。

〈一括設定画面へ移動〉

一括して新規登録するとき、クリックします。
クリックすると、「SIPサーバー一括設定」画面(P.10-6)に切り替わります。

❷ IP電話番号 ……

SIPサーバー(簡易中継サーバー)の子機として使用するIP電話番号を半角で入力します。
入力は、任意の半角数字、「＊」、「＃」で31桁までです。
※「PBX拡張設定」メニューの「拡張」画面で「電話番号での英字の使用」を「許可」にしている場合は、半角英字(大文字、小文字)が使用できます。
※SIPサーバー(簡易中継サーバー)(親機)側に登録されているときだけ、IP電話を使用できます。

❸ SIPサーバーアドレス ……

SIPサーバー(簡易中継サーバー)(親機)側のIPアドレス、またはホスト名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

❹ SIPサービスドメイン ……

SIPサーバー(簡易中継サーバー)(親機)側に設定されている内線ドメインを入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

❺ ユーザーID ……

[IP電話番号](❷)欄で設定した同じ番号を半角で入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

❻ パスワード ……

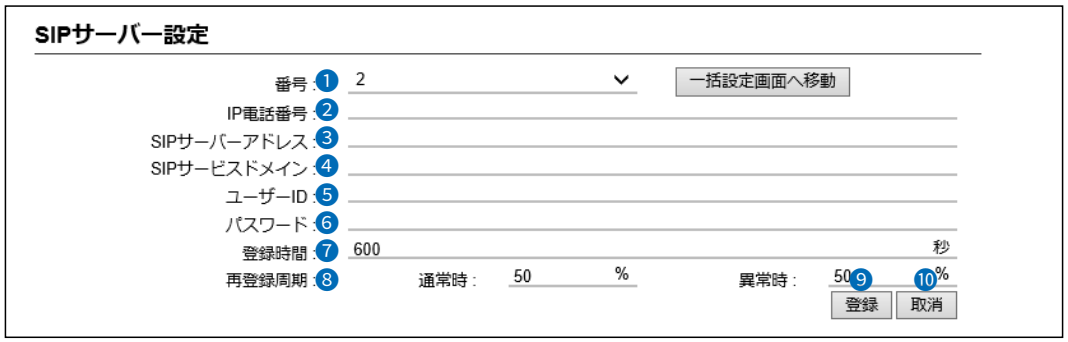
SIPサーバー(簡易中継サーバー)(親機)側への接続認証に使用するパスワードです。
入力は、半角英数字で31文字までです。
入力中の文字は、すべて＊(アスタリスク)、または●(黒丸)が表示されます。

10 IP回線設定

「IP回線」画面

IP回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定



❼ 登録時間 …… 本製品の接続情報をSIPサーバー(簡易中継サーバー)(親機)側で保持する時間です。 (初期設定：600)
設定できる範囲は、「60～28800」(秒)です。

❽ 再登録周期 …… 本製品の接続情報をSIPサーバー(簡易中継サーバー)(親機)側に再登録する周期を設定します。 (初期設定：通常時：50、異常時：50)
周期は、通常(接続成功)時と異常(接続失敗)時について、設定した[登録時間](❼)欄に対する比で指定します。
設定できる範囲は、「10～90」(%)です。

❾〈登録〉 …… [SIPサーバー設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

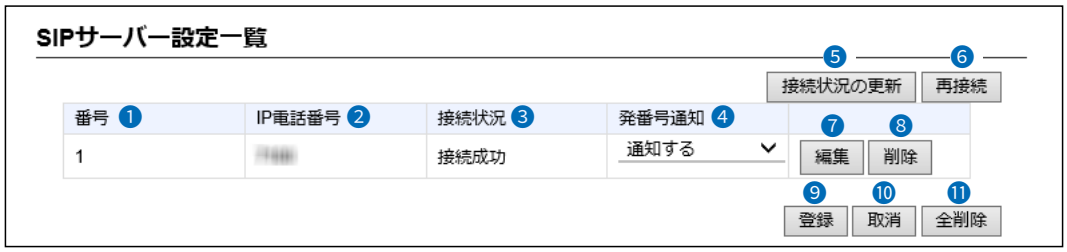
❿〈取消〉 …… [SIPサーバー設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「IP回線」画面

IP回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定一覧

[SIPサーバー設定]項目(P.10-2)で登録したIP電話番号で接続するSIPサーバー設定の一覧です。
発番号通知の設定、または登録したSIPサーバー設定の編集と削除にも使用します。



❶ 番号 ……

[SIPサーバー設定]項目で登録した番号が表示されます。
※この欄では番号の変更はできません。

❷ IP電話番号 ……

[SIPサーバー設定]項目で登録したIP電話番号が表示されます。
※この欄ではIP電話番号の変更はできません。

❸ 接続状況 ……

SIPサーバーとの接続状況が「接続試行中」/「接続成功」/「接続失敗」で表示されます。
SIPサーバー未設定時は、何も表示されません。
設定内容を登録後、〈接続状況の更新〉をクリックしても「接続成功」と表示されない場合は、設定内容を確認してください。

❹ 発番号通知 ……

IP電話使用時、IP電話番号を相手に通知する機能です。
(初期設定：通知する)

◎通知しない
発信先にIP電話番号を通知しません。
※相手側の端末によっては、通知される場合があります。

◎通知する
[SIPサーバー設定]項目で設定されたIP電話番号を発信先に通知します。

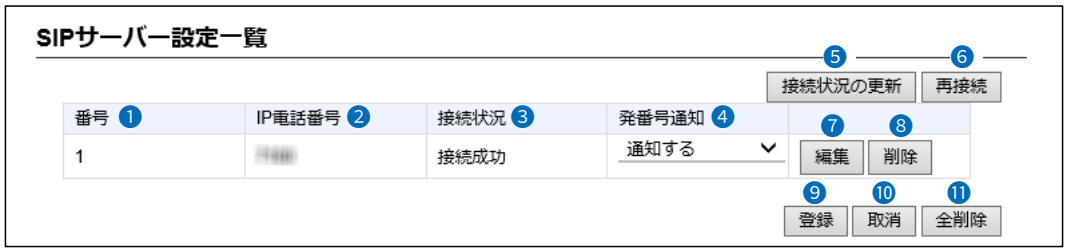
❺〈接続状況の更新〉 ……

現在の登録内容を更新するとき、クリックします。
※クリックしても[接続状況](❸)欄に「接続成功」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。

「IP回線」画面

IP回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定一覧



❻〈再接続〉 …… 登録されているSIPサーバーに再接続するとき、クリックします。

❼〈編集〉 …… ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[SIPサーバー設定]項目で、その内容を確認できます。
※[SIPサーバー設定一覧]項目では、[番号]と[IP電話番号]以外は確認できません。

❽〈削除〉 …… ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。

❾〈登録〉 …… [SIPサーバー設定一覧]項目で変更した内容を有効にするボタンです。

❿〈取消〉 …… [SIPサーバー設定一覧]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

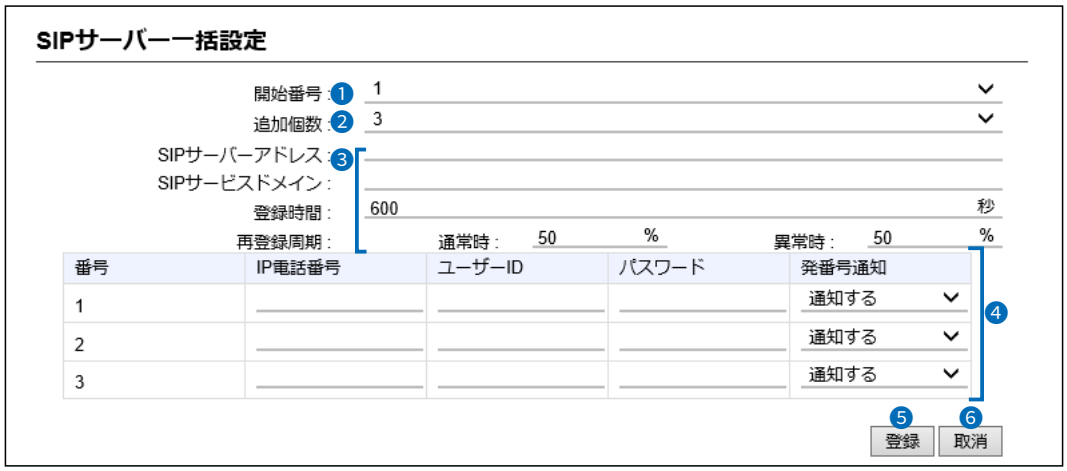
⓫〈全削除〉 …… 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。
※[SIPサーバー設定一覧]項目の内容がすべて削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

「IP回線」画面

IP回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー一括設定

接続するSIPサーバーを一括して登録する設定です。
[SIPサーバー設定]項目の[番号]欄(P.10-2)で〈一括設定画面へ移動〉をクリックしたときに表示される画面です。



❶ 開始番号 …… 各電話番号に対するSIPサーバーの設定を一括登録するために、開始番号を設定します。

❷ 追加個数 …… [個別設定項目]欄(❹)で登録するSIPサーバーの件数を設定します。

❸ SIPサーバー設定項目 …… 各電話番号に対するSIPサーバーについて、入力します。
※各設定欄の説明は、[SIPサーバー設定]項目をご覧ください。

❹ 個別設定項目 …… SIPサーバーに登録されている簡易中継サーバー(子機)ごとに、「IP電話番号」、「ユーザーID」、「パスワード」を入力し、「発番号通知」で通知する/しないを設定します。
※各設定欄の説明は、[SIPサーバー設定一覧]項目をご覧ください。

❺〈登録〉 …… [SIPサーバー一括設定]項目で変更した内容を有効にするボタンです。

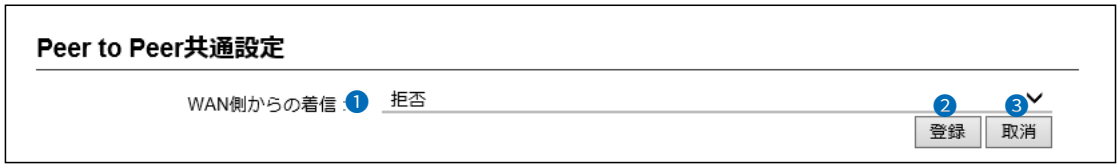
❻〈取消〉 …… [SIPサーバー一括設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「Peer to Peer」画面

IP回線設定 > Peer to Peer

■ Peer to Peer共通設定

WAN側回線からのPeer to Peer(SIPサーバーを経由しない1対1での通話)着信を禁止、または許可します。



❶ WAN側からの着信……　WAN側回線からのPeer to Peer着信について設定します。
(初期設定：拒否)
「許可」に設定すると、WAN側回線からのPeer to Peer着信を許可します。
※WAN側からの着信には、相手先SIP URIがVoIP電話帳に登録されている必要があります。

❷〈登録〉……　[Peer to Peer共通設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

❸〈取消〉……　[Peer to Peer共通設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「Peer to Peer」画面

IP回線設定 > Peer to Peer

■ Peer to Peer設定

Peer to Peer（SIPサーバーを経由しない1対1での通話）で通話するとき、自分のSIP URIを設定します。
※画面の内容は、設定例です。

❶ 番号 ……

自分の[SIP URI]を登録する番号を選択します。
最大500件まで登録できます。

❷ SIP URI ……

自分のSIP URIを半角英数字(63文字以内)で入力します。
次のどちらかの書式で入力できます。
◎sip：**[SIPユーザー名]@[本製品のIPアドレス]**
◎sip：**[SIPユーザー名]@[ホスト名.ドメイン名]**

[SIPユーザー名]部分の入力について

任意の英数字を入力します。
※[SIPユーザー名]部分は、数字だけの入力としないで、必ず英字1文字以上を含むように入力(例：VEPG4)してください。

[ホスト名.ドメイン名]部分について

◎通話相手のVoIP電話帳に、本製品のIPアドレスで登録されている場合は、本製品のLAN側IPアドレスを入力します。
◎通話相手のVoIP電話帳に、本製品のホスト名がダイナミックDNSや固定IPアドレスで登録されている場合は、通話相手から指定されたホスト名(例：telephone)．ドメイン名(例：icom.co.jp)を半角英数字で入力します。

❸ 同報着信 ……

「有効」に設定すると、[SIP URI](❷)欄で指定したSIP URIへの着信をVE-MA1(弊社製)からの同報着信として認識します。　(初期設定：無効)

❹〈登録〉 ……

[Peer to Peer設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

❺〈取消〉 ……

[Peer to Peer設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「Peer to Peer」画面

IP回線設定 > Peer to Peer

■ Peer to Peer設定一覧

[Peer to Peer設定]項目で登録した[SIP URI]の表示、および編集する[SIP URI]を選択します。

※画面の内容は、登録例です。

❶ 番号 ……
[Peer to Peer設定]項目で登録した番号が表示されます。
※この欄では番号の変更はできません。

❷ SIP URI ……
[Peer to Peer設定]項目で登録した[SIP URI]が表示されます。
※この欄では[SIP URI]の変更はできません。

❸ 同報着信 ……
[Peer to Peer設定]項目で登録した同報着信時の動作が表示されます。
※この欄では同報着信時の動作を変更はできません。
◎**無効**：[SIP URI](❷)欄のSIP URIに対して着信があった場合、通常の着信として扱います。
◎**有効**：[SIP URI](❷)欄のSIP URIに着信があった場合、同報着信として扱います。

❹〈編集〉 ……
ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[Peer to Peer設定]項目で、その内容を確認できます。

❺〈削除〉 ……
ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。

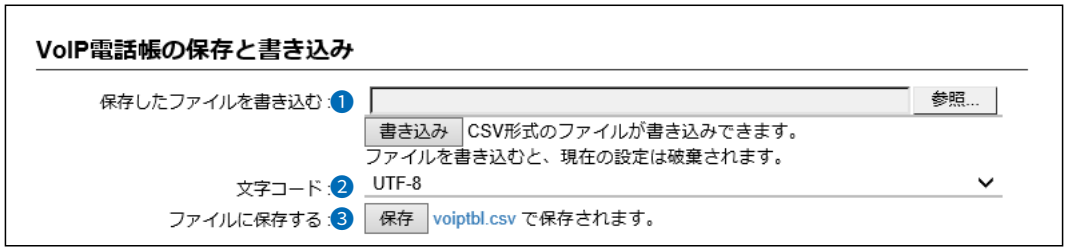
❻〈全削除〉 ……
登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。
※[Peer to Peer設定一覧]項目の内容がすべて削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

「VoIP電話帳」画面

IP回線設定 > VoIP電話帳

■ VoIP電話帳の保存と書き込み

登録したVoIP電話帳をファイルに保存したり、保存したファイルを本製品に書き込んだりします。



❶ 保存したファイルを書き込む …

[ファイルに保存する](❸)欄の操作で保存した「電話帳登録ファイル」(拡張子：csv)の内容を本製品に書き込むとき使用します。
「電話帳登録ファイル」の保存先を指定するため、〈参照...〉をクリックします。
表示された画面から目的の電話帳登録ファイル(例：voiptbl.csv)を選択して、〈開く(O)〉をクリックします。
選択した電話帳登録ファイルの参照先が表示されたことを確認できたら、〈書き込み〉をクリックすると、[VoIP電話帳登録一覧]項目にその内容が表示されます。
書き込む前の内容は、消去されますのでご注意ください。
※「管理」メニューの「設定の保存/復元」画面で保存された設定ファイルを書き込むと、VoIP電話帳の内容も、その設定ファイルに保存されているVoIP電話帳の内容に上書きされますのでご注意ください。

❷ 文字コード ……

[ファイルに保存する](❸)欄で保存するファイルの文字コードを「UTF-8」、「Shift_JIS」から選択します。 (初期設定：UTF-8)

❸ ファイルに保存する ……

[VoIP電話帳登録一覧]項目の内容を電話帳登録ファイル(例：adrtbl.csv)として、パソコンに保存します。
〈保存〉をクリックして、表示された画面にしたがって操作すると、電話帳登録ファイルを保存できます。
※保存した電話帳登録ファイルは、表計算ソフトウェアなどで編集できます。また、保存した電話帳登録ファイルは、本製品を使用する複数の相手に書き込みできます。

「VoIP電話帳」画面

IP回線設定 > VoIP電話帳

■ VoIP電話帳の保存と書き込み

電話帳登録ファイルのインポートについて

保存した状態のファイル(P.10-10)、および下記条件で編集したファイル以外の書き込みは、保証対象外になります。

「電話帳登録ファイル」(拡張子：csv)の書式

	A	B	C	D	E	F	G
1	#文字コードの自動解析に使用しているため、コメント文は消さないでください。						
2	#	VE-PG4	VoIP電話帳	設定保存ファイル			
3	#	Firm Ver.					
4	#	File Ver.					
5	#登録番号	名前	電話番号	SIP URI	—	—	—
6	1	telephone	tel:7000	sip:icom7000@telephone.voip.net	voip		
7	2	telephone1	tel:7100	sip:icom7100@telephone.voip.net	voip		

A列：登録番号(1～1000)、重複しない番号を入力
B列：名前(半角30(全角15)文字以内)
C列：電話番号(tel:任意の数字(半角31桁以内)と記号(#、＊))、文字列認識用のため、tel:につづけて入力
D列：SIP URI(半角英数字63文字以内)
　　通話相手のSIP URIの書式に合わせて、下記のどちらかで入力できます。
　　sip：[SIPユーザー名]@[相手先のIPアドレス]
　　sip：[SIPユーザー名]@[ホスト名.ドメイン名]
E列：発信経路("voip" 固定)

ご注意

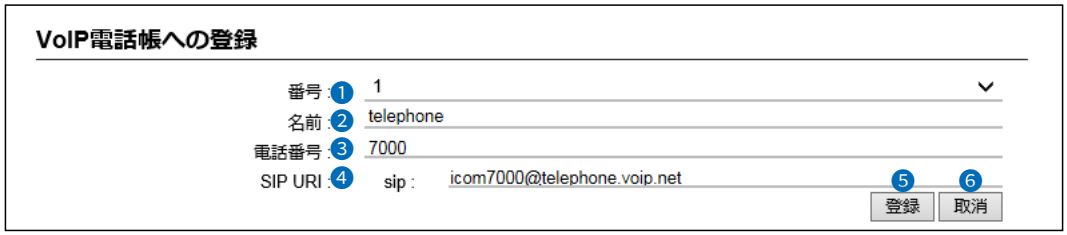
◎A列、C列には、コメント行(A列の#ではじまる行)を除き、重複しない番号を入力してください。
　上記画面の例では、1行～ 3行がコメント行です。
◎一度、[ファイルに保存する]欄(P.10-10)の操作で、CSVファイルとして保存してから、そのCSVファイルを表計算ソフトウェアなどで編集してください。
◎CSVファイルに含まれる改行コードがエラーの原因となりますので、他機種からの電話帳を移行する場合は、テキストエディターなどで不要な改行コードを削除してください。

「VoIP電話帳」画面

IP回線設定 > VoIP電話帳

■ VoIP電話帳への登録

Peer to Peer(SIPサーバーを介さない1対1での通話)でIP電話する相手の電話番号を登録します。
※画面の内容は、設定例です。



❶ 番号 ……

相手先電話番号を登録する番号を選択します。
最大1000件まで登録できます。

❷ 名前 ……

相手の名前を任意の半角31文字(全角15)以内で入力します。

❸ 電話番号 ……

電話機からダイヤルする電話番号を半角で入力します。
※「110」、「118」、「119」は、登録できません。
※相手とPeer to Peerで通話するときは、任意の数字と記号(#、＊)を半角31桁以内で入力します。

❹ SIP URI ……

相手の[SIP URI]を半角英数字(63文字以内)で入力します。
[電話番号](❸)欄に設定した電話番号を電話機からダイヤルをすると、[SIP URI]欄に入力した宛先に電話をかけます。
通話相手のSIP URIの書式に合わせて、下記のどちらかで入力できます。
◎sip：**[SIPユーザー名]@[相手先のIPアドレス]**
◎sip：**[SIPユーザー名]@[ホスト名.ドメイン名]**

❺〈登録〉 ……

[VoIP電話帳への登録]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[VoIP電話帳への登録一覧]項目に表示されます。

❻〈取消〉 ……

[VoIP電話帳への登録]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「VoIP電話帳」画面

IP回線設定 > VoIP電話帳

■ VoIP電話帳登録一覧

[VoIP電話帳への登録]項目で登録した内容が表示されます。
※画面の内容は、登録例です。

❶〈編集〉 …… ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。

❷〈削除〉 …… ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。

❸〈全削除〉 …… 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。
※[VoIP電話帳登録一覧]項目の内容がすべて削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

PBX設定

第 11 章

この章では、
「PBX設定」画面の設定について説明します。

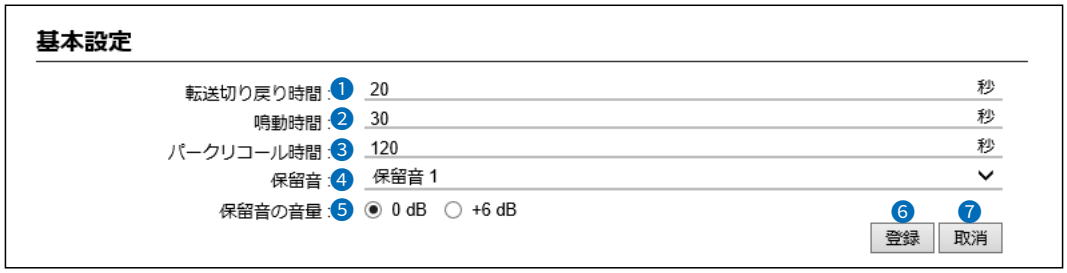
「基本」画面 …… 11-2
■ 基本設定 …… 11-2
「特番」画面 …… 11-3
■ 共通特番設定 …… 11-3
■ 電話機特番設定 …… 11-4
■ 無線機呼出プレフィクス設定 …… 11-6
■ 外線発信特番設定 …… 11-6
「内線個別」画面 …… 11-7
■ 内線設定 …… 11-7
■ 内線設定一覧 …… 11-10
■ 内線一括設定 …… 11-11
■ 内線個別詳細 …… 11-12
「内線代表」画面 …… 11-14
■ 内線代表設定 …… 11-14
■ 内線代表設定一覧 …… 11-17
「着信」画面 …… 11-18
■ 着信設定 …… 11-18

「基本」画面

PBX設定 > 基本

■ 基本設定

登録された内線子機(IP電話機)で共通に使用する基本設定です。



❶ 転送切り戻り時間 ……

内線子機から転送に失敗したとき、元の通話に戻すまでの時間です。
設定時間内に転送先が応答できなかったときは、転送を元の通話に戻します。
設定できる範囲は、「0～99」(秒)です。 (初期設定：20)
※「0」を設定した場合は、元の通話に戻りません。

❷ 鳴動時間 ……

転送を切り戻したときに鳴動時間が経過すると、通話を切断します。
設定できる範囲は、「1～99」(秒)です。 (初期設定：30)

❸ パークリコール時間 ……

通話をパーク保留したとき、転送元の内線子機をリコール(再呼び出し)するまでの時間です。
パークリコール設定時間内に誰もパーク応答しなかったとき、通話をパーク保留した子機にリコールを開始します。 (初期設定：120)
設定できる範囲は、「0～600」(秒)です。
※「0」を設定した場合は、リコールしません。

❹ 保留音 ……

内線子機で通話を保留したときの保留音を設定します。
保留音は、以下の全5種類から選択できます。 (初期設定：保留音1)
◎保留音1：エリーゼのために
◎保留音2：グリーンスリーブス
◎保留音3：峠の我が家
◎保留音4：カノン
◎保留音5：メヌエット

❺ 保留音の音量 ……

内線子機で通話を保留したとき、設定した[保留音](❹)の音量を、「0dB」(小)、「+6dB」(大)から設定します。 (初期設定：0dB)

❻ 〈登録〉 ……

[基本設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

❼ 〈取消〉 ……

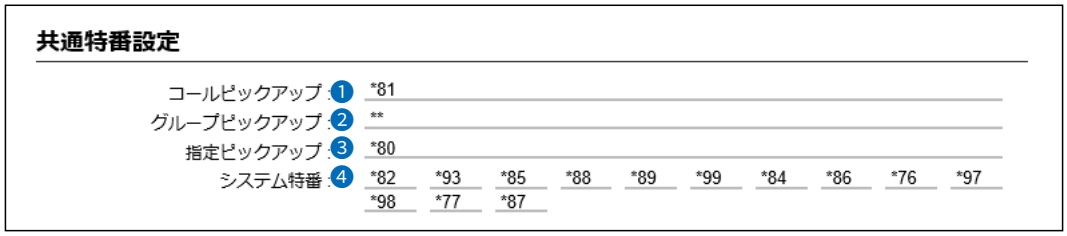
[基本設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「特番」画面

PBX設定 > 特番

■ 共通特番設定

無線機、電話機ともに使用できる特番設定です。



❶ コールピックアップ ……

この欄で設定した番号をダイヤルすると、ほかの内線子機への呼び出しに代理応答できます。（初期設定：＊81）

❷ グループピックアップ ……

この欄で設定した番号をダイヤルすると、同じ設定グループに所属するほかの内線子機への呼び出しに代理応答できます。（初期設定：＊＊）

※この欄で設定した番号につづけてピックアップグループ番号(P.13-13)をダイヤルすると、指定した設定グループへの呼び出しに代理応答できます。

❸ 指定ピックアップ ……

この欄で設定した番号につづけて内線番号をダイヤルすると、ダイヤルした内線番号の内線子機への呼び出しに代理応答できます。（初期設定：＊80）

❹ システム特番 ……

本製品のシステム内部で使用する特番です。

（初期設定：＊82 ＊93 ＊85 ＊88 ＊89 ＊99 ＊84 ＊86 ＊76 ＊97 ＊98 ＊77 ＊87）

これらの番号をほかの特番や内線番号として使用したい場合には、重複しない番号に変更してください。

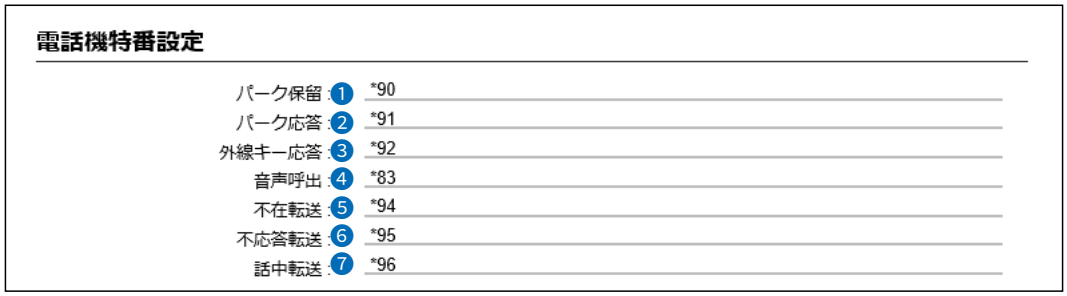
※システム特番は、登録した内線子機からダイヤルする番号ではありません。

「特番」画面

PBX設定 > 特番

■ 電話機特番設定

電話機のみ使用できる特番設定です。



❶ パーク保留 ……

この欄で設定した番号につづけてパーク番号、またはパーク機能を割り当てたフレキシブルボタンの番号(01～24)をダイヤルすると、通話をパーク保留できます。（初期設定：＊90）

❷ パーク応答 ……

この欄で設定した番号につづけてパーク番号、またはパーク機能を割り当てたフレキシブルボタンの番号(01 ～ 24)をダイヤルすると、ほかの内線子機でパーク保留した呼び出しに応答できます。（初期設定：＊91）

❸ 外線キー応答 ……

同じ設定グループに所属する内線子機から、外線着信や外線保留に応答するときに使用する特番です。（初期設定：＊92）

※着信している番号に、〈外線状態通知キー〉(P.13-17)を割り当てていない場合は、外線キー応答ができません。

※KXシリーズの着信に、ほかの内線子機から応答するときは、フレキシブルボタンがない内線子機でも使用できます。

◎KX-UT136N、KX-HDV230Nに着信した電話を、ほかの内線子機から応答する場合

同じ設定グループに所属する内線子機から、この欄で設定した番号(例：＊92)につづけて、外線着信中、または外線保留中の〈外線状態通知キー〉のキー番号(01～24)をダイヤルすると、外線着信や外線保留に応答できます。

例：03番のキー番号に応答するには、「＊9203」とダイヤルします。

◎フレキシブルボタンがない内線子機に着信した電話の場合

着信した内線子機に、フレキシブルボタンがないときは、KX-UT136N、KX-HDV230Nに着信したときのように、電話機本体で〈外線状態通知キー〉のキー番号(01 ～24)を識別できませんので、「＊81」(コールピックアップ)で応答することをおすすめします。

❹ 音声呼出 ……

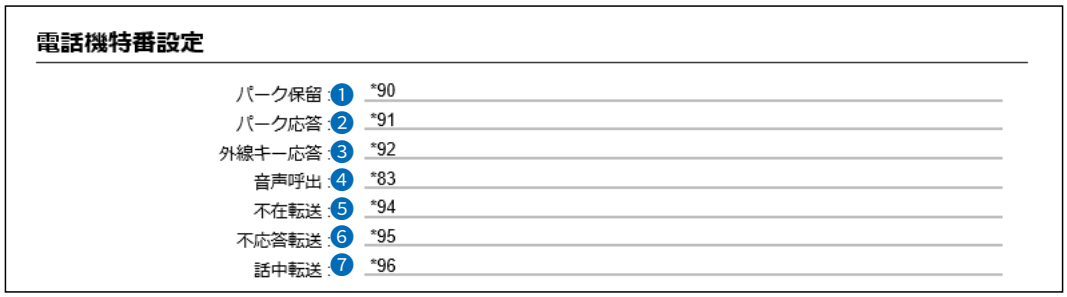
この欄で設定した番号につづけて内線番号をダイヤルすると、ダイヤルした内線番号の内線子機を音声で呼び出します。（初期設定：＊83）

※KXシリーズ以外の電話機には、音声呼び出しできません。

「特番」画面

PBX設定 > 特番

■ 電話機特番設定



❺ 不在転送 ……

この欄で設定した番号をダイヤルすると、あらかじめ指定した内線子機ごとの転送先に着信が転送されます。（初期設定：＊94）

※「＊94」につづけて転送先の電話番号をダイヤルすると、指定した転送先に着信が転送されます。

※不在転送機能を解除するときは、「＊94」だけをダイヤルします。
「＊94」をダイヤルして不在転送機能を解除したときは、「ピーピー、ピーピー」と鳴ります。
再度有効にしたときは、「ピピ、ピピ」と鳴ります。

❻ 不応答転送 ……

この欄で設定した番号をダイヤルすると、設定時間内に応答できない場合、あらかじめ指定した転送先に着信が転送されます。（初期設定：＊95）

※「＊95」につづけて転送先の電話番号をダイヤルすると、指定した転送先に着信が転送されます。

※不応答転送機能を解除するときは、「＊95」をダイヤルします。
「＊95」をダイヤルして不在転送機能を解除したときは、「ピーピー、ピーピー」と鳴ります。
再度有効にしたときは、「ピピ、ピピ」と鳴ります。

❼ 話中転送 ……

この欄で設定した番号をダイヤルすると、内線通話中に、ほかの内線から着信した場合、あらかじめ指定した転送先に着信が転送されます。（初期設定：＊96）

※「＊96」につづけて転送先の電話番号をダイヤルすると、指定した転送先に着信が転送されます。

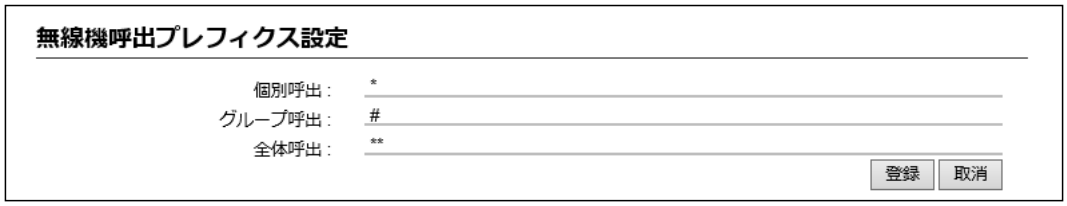
※話中転送機能を解除するときは、「＊96」だけをダイヤルします。
「＊96」をダイヤルして不在転送機能を解除したときは、「ピーピー、ピーピー」と鳴ります。
再度有効にしたときは、「ピピ、ピピ」と鳴ります。

「特番」画面

PBX設定 > 特番

■ 無線機呼出プレフィクス設定

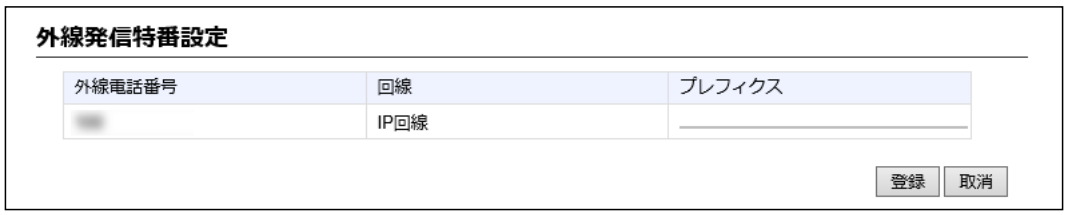
内線子機からのダイヤル操作やDID(Direct Inward Dialing)機能を使用して、無線機を呼び出す場合に使用するプレフィクスを設定します。
「プレフィクス＋無線機の自局番号(個別番号)」をダイヤルすると、無線機を個別呼び出し、「プレフィクス＋無線機のグループ番号」をダイヤルすると、無線機をグループ呼び出し、「プレフィクス(全体呼出)」をダイヤルすると、無線機を全体呼び出しすることができます。



PBX設定 > 特番

■ 外線発信特番設定

「内線個別」画面(P.11-7)で登録した回線捕捉と異なる回線を使用して外線へ発信するための番号です。



プレフィクス…… 回線(電話番号)ごとに、任意の半角数字と半角記号(#、＊)を7桁以内で入力します。
[プレフィクス]を付けて発信すると、選択した回線に切り替えて発信できます。
※ほかの特番や内線番号などと重複しないように設定してください。

「内線個別」画面

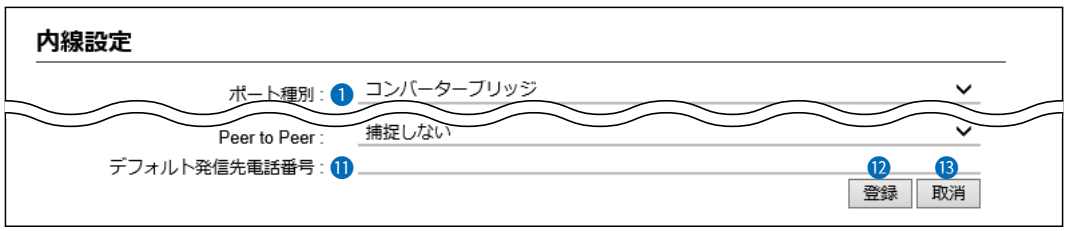
PBX設定 > 内線個別

■ 内線設定

内線子機(IP電話機)を新規登録するとき、または設定内容を編集するときに使用します。
※内線番号と内線代表番号は重複して登録できません。
　登録されている内線代表番号は、「内線代表」画面の[内線代表設定一覧]項目(P.11-17)で確認できます。

ポート種別:SIPフォン(自動)

ポート種別 : コンバーターブリッジ



❶ ポート種別 …… 本製品に接続している機器(ポート)を選択します。
(初期設定 : SIPフォン(自動))

❷ 番号 …… 内線子機を登録するために番号を選択します。電話機は「1」~「25」、コンバーターブリッジは「1」~「20」から設定します。

❸ 名前 …… 登録する内線子機の名前を、任意の31文字以内で入力します。

❹ 内線番号 …… 登録する内線子機の内線番号を、半角数字2桁~7桁で入力します。

❺ パスワード …… 登録した内線子機が、本製品に接続するときに使用するパスワードを、半角英数字31文字以内で入力します。
※ご使用になるIP電話機側のパスワードと一致しない場合は、本製品の内線子機として使用できませんのでご注意ください。
※[ポート種別](❶)欄で、「コンバーターブリッジ」を選択していると、パスワードを入力できません。

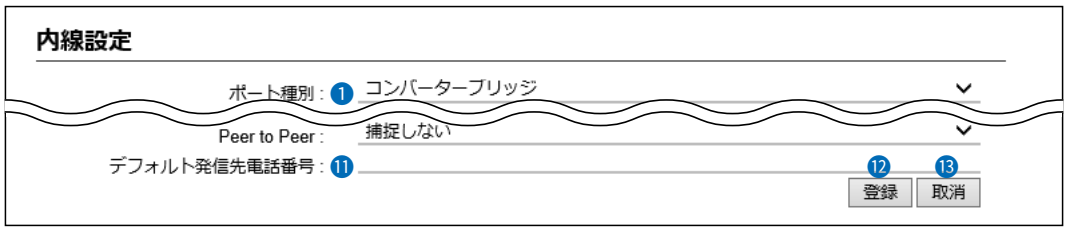
「内線個別」画面

PBX設定 > 内線個別

■ 内線設定

ポート種別:SIPフォン(自動)

ポート種別 : コンバーターブリッジ



❻ SIP外線へ内線番号表示 …… SIPサーバーへ発信時、発信先に内線番号を通知する機能です。
（初期設定：しない）

◎**しない**：「IP回線」画面→[SIPサーバー設定一覧]項目で設定された発番号通知にしたがいます。

「通知しない」の場合

発信先にIP電話番号を通知しません。

※相手側の端末によっては通知される場合があります。

「通知する」の場合

[SIPサーバー設定]項目で設定されたIP電話番号を接続先に通知します。

◎**する**　：[内線設定]項目で設定された内線番号を発信先に通知します。

❼ IP回線 …… プリセット発信時に使用するIP回線の電話番号を選択します。
（初期設定：捕捉しない）

❽ Peer to Peer …… Peer to Peer発信時に使用するSIPユーザー名を選択します。
（初期設定：捕捉しない）

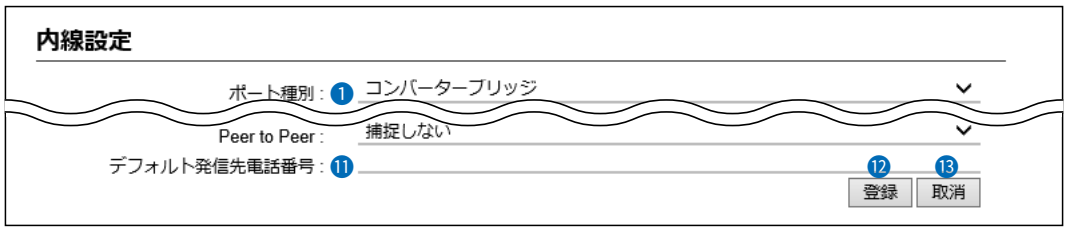
「内線個別」画面

PBX設定 > 内線個別

■ 内線設定

ポート種別:SIPフォン(自動)

ポート種別 : コンバーターブリッジ



❾ WAN側からの接続……

WAN側回線からの接続について設定します。　（初期設定：禁止）
「許可」に設定すると、WAN側回線からの接続を許可します。
※「許可」に設定した場合、特に［パスワード］(❺)欄に入力するパスワードは、長く複雑なものに設定することをおすすめします。
※［ポート種別］(❶)欄を「無線機コントローラー電話接続」、または「コンバーターブリッジ」に設定した場合は、表示されません。

❿ MACアドレス……

ご使用になるパナソニック社製IP電話機(KXシリーズ)のMACアドレスを入力します。
※［ポート種別］(❶)欄で、「標準SIPフォン」、「標準SIPフォン(WLAN)」、「無線機コントローラー電話接続」、「コンバーターブリッジ」を選択していると、MACアドレスを入力できません。
※MACアドレスの入力を間違えると、電話機を利用できません。
MACアドレスの確認方法については、ご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

⓫ デフォルト発信先電話番号……
ポート種別 : コンバーターブリッジ

［ポート種別］(❶)欄に接続している機器が発信したときに、発信先の電話番号を設定します。

⓬〈登録〉……

［内線設定］項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、［内線設定一覧］項目に表示されます。

⓭〈取消〉……

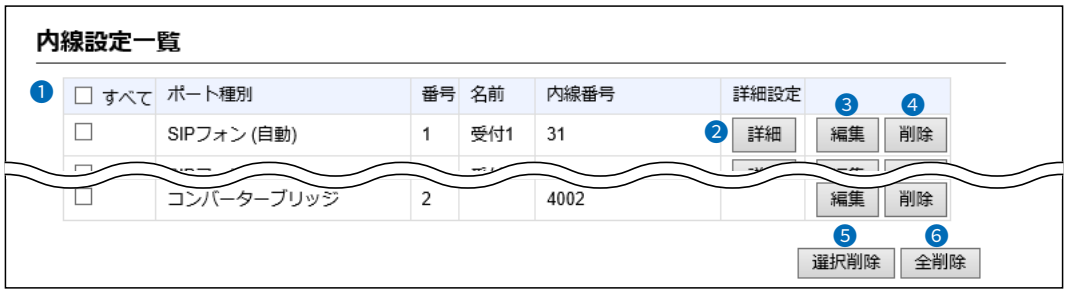
［内線設定］項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「内線個別」画面

PBX設定 > 内線個別

■ 内線設定一覧

[内線設定]項目(P.11-7)で登録した内線子機(IP電話機)の内線番号と機種などが表示されます。
※登録されている内線代表番号は、「内線代表」画面の[内線代表設定一覧]項目(P.11-17)で確認できます。



❶ **子機選択ボックス** …… 複数の内線子機を削除するとき、または複数の内線子機に設定をコピーするとき、ボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。

❷ **〈詳細〉** …… クリックすると[内線個別詳細]項目が表示されます。(P.11-12)

❸ **〈編集〉** …… クリックすると、ボタンの左欄に表示された内線番号(内線子機)の内容を[内線設定]項目で編集できます。

❹ **〈削除〉** …… クリックすると、ボタンの左欄に表示された内線番号に対する登録を削除します。

❺ **〈選択削除〉** …… クリックすると、[子機選択ボックス](❶)欄で選択した内線子機の内容を削除します。

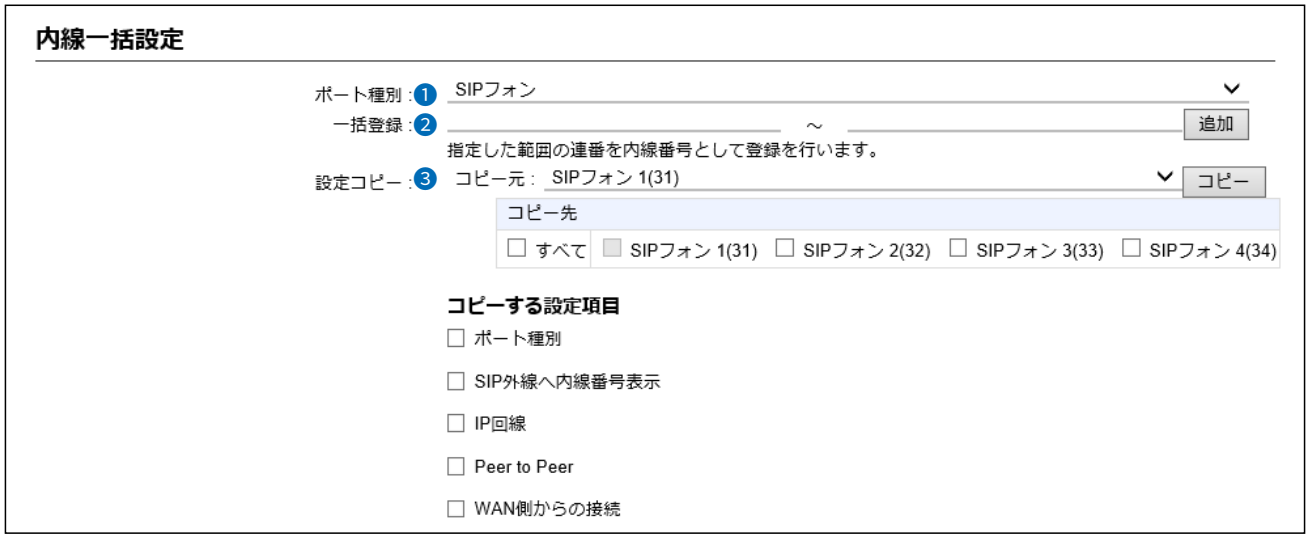
❻ **〈全削除〉** …… クリックすると、内線子機として登録されたすべての内容を削除します。
※全削除すると、元には戻せません。

「内線個別」画面

PBX設定 > 内線個別

■ 内線一括設定

連番で内線番号を一括登録したり、設定内容をほかの内線番号に一括コピーしたりできます。



❶ ポート種別 …… 設定コピーを行うポート種別を選択します。 （初期設定：SIPフォン）

❷ 一括登録 ……
連番で一括に登録したい内線番号の範囲を入力します。
〈追加〉
クリックすると、入力した範囲（例：41～45）の内線番号が[内線設定一覧]項目に登録されます。
※入力した範囲で、すでに登録された内線番号がある場合は、「内線番号：設定が重複しています」が表示されます。

❸ 設定コピー ……
登録した内線子機の設定内容をほかの内線子機にコピーできます。
【コピーのしかた】
1.[内線設定]項目で、コピー元の子機（例：31）について設定します。
2.[一括登録]（❷）欄で、登録する内線番号の範囲（例：41～45）を入力して、〈追加〉をクリックします。
3.[設定コピー]欄で、コピー先の内線子機（例：41～45）のチェックボックスをクリックします。
4.[設定コピー]欄で、コピー元の内線子機（例：31）を選択し、コピーする設定項目のチェックボックスをクリックします。
5.[設定コピー]欄の〈コピー〉をクリックします。

「内線個別」画面

PBX設定 > 内線個別

■ 内線個別詳細

内線子機の着信転送を設定します。
[内線設定一覧]項目の[詳細設定]欄(P.11-10)で〈詳細〉をクリックしたときに表示される画面です。

❶ 転送設定 …… 登録した内線子機が圏外などで着信できないとき、または離席などで電話に出られないときの転送を設定します。 (初期設定：転送しない)

❷ 転送先番号 …… 登録した内線子機の転送先になる電話番号(ほかの内線番号や携帯電話の番号など)を、半角数字31桁以内で入力します。 (初期設定：空白)
※本製品に接続したKX-UTシリーズの場合は、無条件で指定した転送先番号に転送します。

❸ 転送設定 …… 登録した内線子機が設定した呼び出し時間内に応答できないときの転送を設定します。 (初期設定：転送しない)

❹ 転送先番号 …… 登録した内線子機の転送先になる電話番号(ほかの内線番号や携帯電話の番号など)を、半角数字31桁以内で入力します。 (初期設定：空白)

❺ 呼び出し時間 …… 転送が開始されるまでの時間を設定します。 (初期設定：5)
設定できる時間は、「5」～「60」(5秒刻み)です。

「内線個別」画面

PBX設定 > 内線個別

■ 内線個別詳細

❻ 転送設定 …… 登録した内線子機が通話中に、ほかの内線子機から着信したときの転送を設定します。（初期設定：転送しない）
※通話中の外線着信では動作しません。

❼ 転送先番号 …… 登録した内線子機の転送先になる電話番号（ほかの内線番号や携帯電話の番号など）を、半角数字31桁以内で入力します。（初期設定：空白）

❽ 転送設定 …… 内線代表番号に着信した場合の転送を設定します。（初期設定：転送しない）

❾〈登録〉 …… [内線個別詳細]項目で設定した内容を有効にするボタンです。

❿〈取消〉 …… [内線個別詳細]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

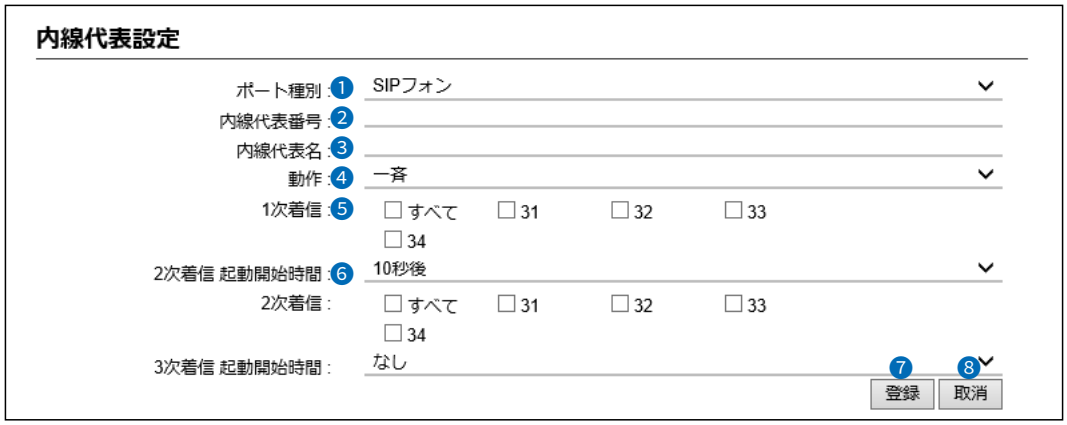
「内線代表」画面

PBX設定 > 内線代表

複数の内線番号を内線代表番号という1つのグループにまとめ、最大50件まで登録できます。
◎**一斉着信**：設定したグループ内で、着信させる内線子機(IP電話機)、着信させない内線子機を選択できます。
一斉着信では、一定時間、応答できない状態がつづくと、着信させる内線子機を変更できます。
※着信させる内線子機の選択は、1次着信から3次着信まで設定できます。
◎**順次着信**：設定したグループ内で、着信させる内線子機の順番を指定できます。
順次着信では「001」～「025」のテキストボックスに登録された順番に着信します。(P.11-15)
※通話中の場合は、次の番号に登録された内線子機に着信します。

■ 内線代表設定

内線代表で使用する内線代表番号を新規登録するときに使用します。
※内線番号と内線代表番号は重複して登録できません。
登録されている内線子機の内線番号と機種は、「内線個別」画面(P.11-7)で確認できます。



❶ **ポート種別** …… 内線代表を設定するポート種別を選択します。 (初期設定：SIPフォン)

❷ **内線代表番号** …… [内線代表名](❸)欄に対する内線代表番号を、半角数字2桁～7桁で入力します。
設定された内線代表番号をダイヤルすると、この項目で設定された内容にしたがって着信します。
外線から内線代表番号に着信させるときは、「着信」画面の[着信設定]項目にある[着信内線番号]欄(P.11-18)で設定できます。
※緊急通報(110、118、119)の番号は、使用しないでください。
※「0」ではじまる番号は、使用しないでください。

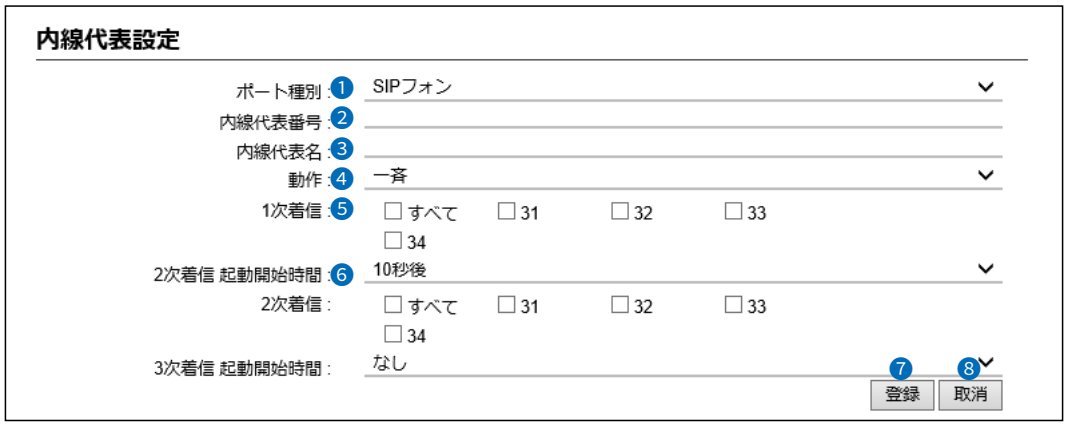
❸ **内線代表名** …… 登録する内線代表の名称を、任意の半角31(全角15)文字以内で入力します。

❹ **動作** …… 内線代表番号で着信したときの動作を選択します。
◎**一斉**：[1次着信](❺)欄で、着信させる内線子機のチェックボックスをクリックします。
※一定時間、応答できない状態がつづいたとき、着信させる内線子機を変更する場合は、[起動開始時間](❻)欄を設定します。
◎**順次**：「001」～「025」のテキストボックスで、着信させる内線子機の順番を指定できます。(P.11-16)

「内線代表」画面

PBX設定 > 内線代表

■ 内線代表設定



❺ 1次着信……

内線代表番号で着信したとき鳴動させる内線子機の内線番号を選択します。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
※[動作](❹)欄で「一斉」を選択したときは、[起動開始時間](❻)欄を設定すると、3次着信まで動作を設定できます。
※[動作](❹)欄で「順次」を選択したときは、表示されません。

❻ 起動開始時間 ……

次の着信動作に切り替わるまでの鳴動時間を設定します。（初期設定：なし）
設定できる範囲は、「なし」、「10秒後」～「60秒後」(5秒刻み)です。
※[動作](❹)欄で「順次」を選択したときは、表示されません。

❼〈登録〉 ……

[内線代表設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

❽〈取消〉 ……

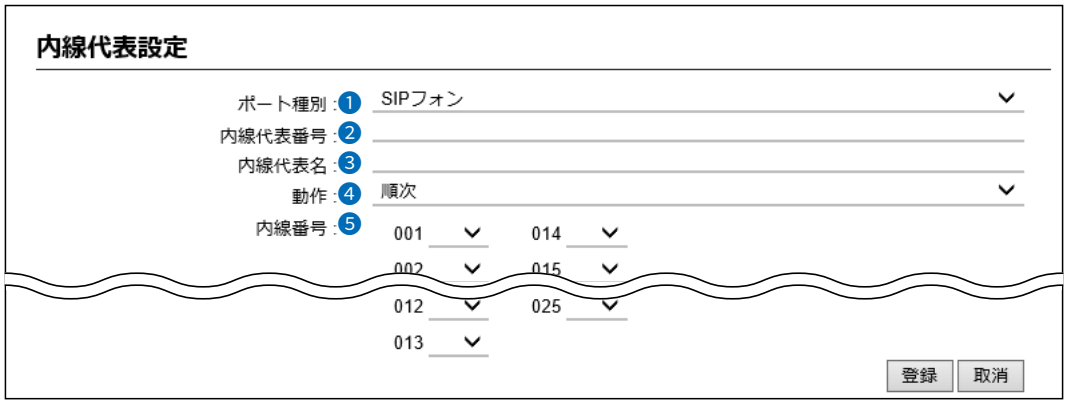
「内線代表設定」項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「内線代表」画面

PBX設定 > 内線代表

■ 内線代表設定

登録された内線代表番号に対する設定内容を編集するときに使用します。
※編集するときは、[内線代表設定一覧]項目(P.11-17)に表示された内線代表番号の〈編集〉をクリックします。
※登録された内線番号は、「内線個別」画面の[内線設定]項目(P.11-7)で編集できます。
※[動作](❹)欄で「順次」を選択したときの画面を使用しています。
※「一斉」を選択したときの説明については、11-14ページをご覧ください。



❶ ポート種別 …… 内線代表を設定するポート種別を選択します。 （初期設定：SIPフォン）

❷ 内線代表番号 …… 内線代表名(❷)に対する内線代表番号を、半角数字2桁～7桁で入力します。
設定された内線代表番号をダイヤルすると、この項目で設定された内容にしたがって着信します。
外線から内線代表番号に着信させるときは、「着信」画面の[着信設定]項目にある[着信内線番号]欄(P.11-18)で設定できます。
※緊急通報(110、118、119)の番号は、使用しないでください。
※「0」ではじまる番号は、使用しないでください。

❸ 内線代表名 …… 登録する内線代表の名称を、任意の半角31(全角15)文字以内で入力します。

❹ 動作 …… 内線代表番号で着信したときの動作を選択します。
◎**一斉**：設定したグループ内で、着信させる内線子機の順番を指定できます。
※一定時間、応答できない状態がつづいたとき、着信させる内線子機を変更できます。
着信させる内線子機の選択は、1次着信から3次着信まで設定できます。(P.11-14)
◎**順次**：設定したグループ内で、着信させる内線子機の順番を指定できます。

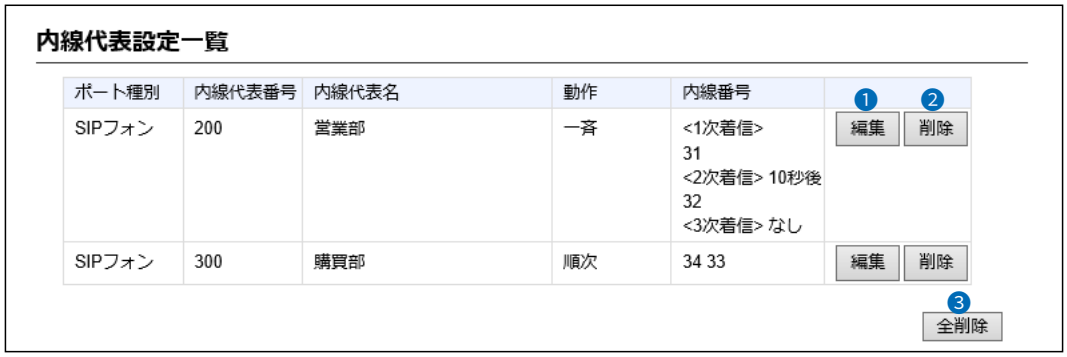
❺ 内線番号 …… 内線代表番号で着信したとき、鳴動させる内線子機の内線番号を選択します。
※「01」のテキストボックスに登録された内線子機が通話中の場合は、次の番号に登録された内線子機に着信します。
※KXシリーズなど多重着信に対応した多機能電話機では、順次着信が正しく動作しないことがあります。

「内線代表」画面

PBX設定 > 内線代表

■ 内線代表設定一覧

[内線代表設定]項目(P.11-14)で登録した内線代表番号に設定された着信動作が表示されます。



❶〈編集〉 …… クリックすると、ボタンの左欄に表示された内線代表番号の設定内容を[内線代表設定]項目で編集できます。

❷〈削除〉 …… クリックすると、ボタンの左欄に表示された内線代表番号に対する登録を削除します。

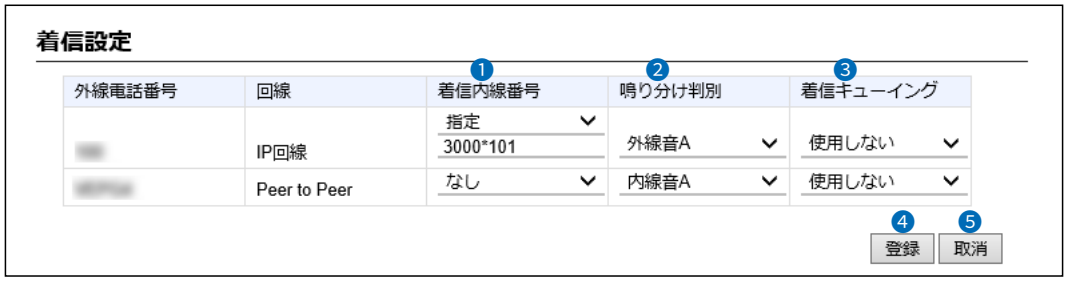
❸〈全削除〉 …… クリックすると、内線代表番号として登録されたすべての番号を削除します。

「着信」画面

PBX設定 > 着信

■ 着信設定

登録した着信内線番号の変更、着信キューイングの設定をします。



❶ 着信内線番号 ……

登録した外線電話番号(回線)に電話がかかってきたとき、着信させる内線子機の内線番号(ダイヤルイン)を設定します。　(初期設定：なし)
着信内線番号には内線番号、または内線代表番号を設定できます。
※「指定」を選択すると、上図のように、着信させる無線機の個別番号を入力できます。
※ダイヤルインを設定するときは、「PBX拡張設定」メニューの「DIDボックス」画面で、使用するDIDボックスを設定してください。

❷ 鳴り分け判別 ……

登録した外線電話番号ごとに、着信時の音(パターン)★を設定します。
(初期設定：外線音A(IP回線時)、内線音A(Peer to Peer時))
※KXシリーズ以外の電話機では無効な設定です。
KXシリーズを本製品に接続している場合は、下記から選択できます。
◎外線音A～外線音C　：外線着信時に使用される音(パターン)です。
◎内線音A～内線音C　：内線着信時に使用される音(パターン)です。
◎通知番号で判別　：「通知番号の先頭が0」、「番号非通知」、「番号桁数が8桁以上」のいずれかの場合は、着信時の音に「外線音A」を使用し、それ以外の場合は、「内線音A」を使用します。
★KXシリーズの電話機では、着信音ではなく、着信音の鳴るパターン(リズム)になります。
「電話機」画面の[着信音パターン割り当て]項目で割り当てたパターン(リズム)で鳴ります。

❸ 着信キューイング ……

着信中、または通話中に、新たに外線からの着信があっても話中にならないようにする機能です。　(初期設定：使用しない)
※「使用する」に設定すると、[着信内線番号](❶)欄で選択した内線子機に着信できない状態で、新たに外線からの着信があっても話中にならず、電話をかけた相手には登録した電話機が着信できる状態になるまで呼び出し音が聞こえます。

❹〈登録〉 ……

「着信設定」項目で設定した内容を登録するボタンです。

❺〈取消〉 ……

「着信設定」項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

PBX無線機呼出設定

第 12 章

この章では、
「PBX無線機呼出設定」画面の設定について説明します。

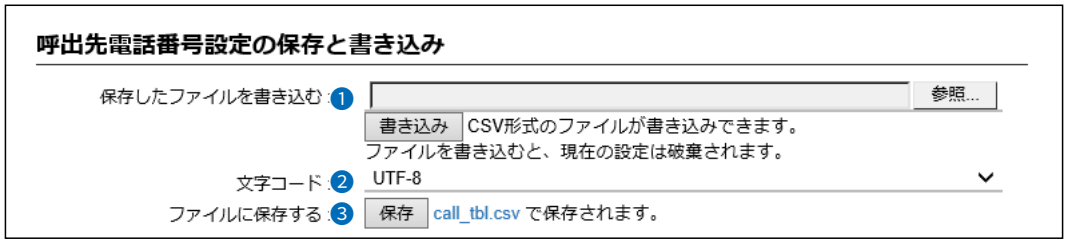
「呼出先電話番号」画面 …… 12-2
■ 呼出先電話番号設定の保存と書き込み …… 12-2
■ 呼出先電話番号 …… 12-3
■ 呼出先電話番号一覧 …… 12-4
「無線機呼出発信規制」画面 …… 12-5
■ 無線機発信規制種別 …… 12-5
■ 無線機発信規制設定 …… 12-5
■ 無線機発信規制設定一覧 …… 12-6

「呼出先電話番号」画面

PBX無線機呼出設定 > 呼出先電話番号

■ 呼出先電話番号設定の保存と書き込み

設定した呼出先電話番号をファイルに保存したり、保存したファイルを本製品に書き込んだりします。



❶ 保存したファイルを書き込む …

[ファイルに保存する](❸)欄の操作で保存した「呼出先電話番号ファイル」(拡張子：csv)の内容を本製品に書き込むとき使用します。
呼出先電話番号ファイルの保存先を指定するため、〈参照...〉をクリックします。
表示された画面で目的の呼出先電話番号ファイルを選択して、〈開く(O)〉をクリックします。
テキストボックスに保存先を指定後、〈書き込み〉をクリックすると、[呼出先電話番号一覧]項目にその内容を書き込みます。
書き込む前の内容は、消去されますのでご注意ください。
※呼出先電話番号ファイル(拡張子：csv)を書き込んだあと、「管理」メニューの「設定の保存/復元」画面から設定の復元をすると、設定ファイル(拡張子：sav)の内容に変わりますので、ご注意ください。

❷ 文字コード ……

[ファイルに保存する](❸)欄で保存するファイルの文字コードを「UTF-8」、「Shift_JIS」から選択します。

❸ ファイルに保存する ……

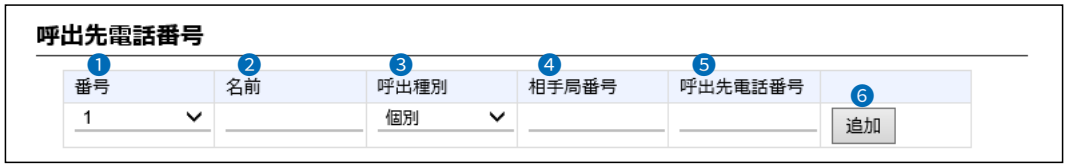
[呼出先電話番号一覧]項目に表示された内容を呼出先電話番号ファイルとして、パソコンに保存します。
〈保存〉をクリックして、表示された画面の〈保存(S)〉をクリックすると、割当番号ファイル(拡張子：csv)として保存できます。
※保存したファイルは、テキストエディターなどで編集できます。

「呼出先電話番号」画面

PBX無線機呼出設定 > 呼出先電話番号

■ 呼出先電話番号

端末側無線機からIP電話機を呼び出すとき、端末側無線機が使用する相手局番号に対して、本製品がダイヤルするIP電話機の電話番号を登録します。



❶ **番号** …… 端末側無線機が使用する相手局番号を登録する番号を選択します。
最大1000件まで登録できます。

❷ **名前** …… 呼び出し先の名前を任意の半角31文字(全角15)以内で入力します。

❸ **呼出種別** …… 端末側無線機からIP電話機を呼び出す形態を選択します。
◎**個別** ：[相手局番号](❹)欄に設定した番号で、端末側無線機から1台のIP電話機を呼び出すとき選択します。
◎**グループ**：[相手局番号](❹)欄に設定した番号で、端末側無線機から特定のグループに所属するIP電話機を一斉に呼び出すとき選択します。
◎**全体** ：[相手局番号](❹)欄に設定した番号で、端末側無線機からすべてのIP電話機を呼び出すとき選択します。

❹ **相手局番号** …… 端末側無線機が発信時に使用する相手局番号を4桁で入力します。
設定できる範囲は、「0001～9999」です。

❺ **呼出先電話番号** …… 端末側無線機からIP電話機を呼び出すとき、本製品がダイヤルするIP電話機の電話番号を31桁以内で入力します。

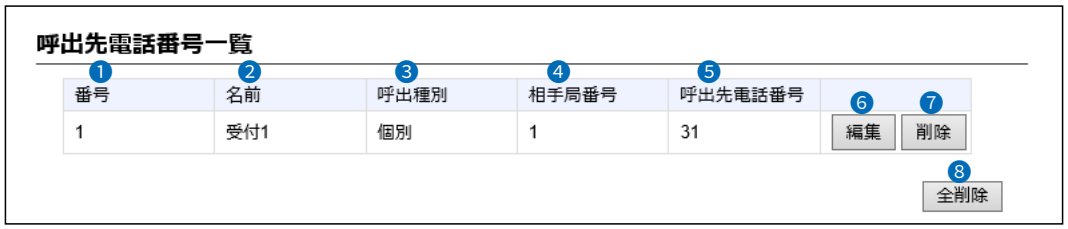
❻ **〈追加〉** …… [呼出先電話番号]項目で設定した内容を、[呼出先電話番号一覧]項目に登録するボタンです。

「呼出先電話番号」画面

PBX無線機呼出設定 > 呼出先電話番号

■ 呼出先電話番号一覧

[呼出先電話番号]項目(P.12-3)で登録した内容が表示されます。
※この欄では、登録内容を変更できません。



❶ **番号** …… [呼出先電話番号]項目で登録した番号が表示されます。

❷ **名前** …… [呼出先電話番号]項目で登録した名前が表示されます。

❸ **呼出種別** …… [呼出先電話番号]項目で登録した呼出種別が表示されます。

❹ **相手局番号** …… [呼出先電話番号]項目で登録した相手局番号が表示されます。

❺ **呼出先電話番号** …… [呼出先電話番号]項目で登録した呼出先電話番号が表示されます

❻ **〈編集〉** …… ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[呼出先電話番号]項目で、その内容を確認できます。

❼ **〈削除〉** …… ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容をすべて削除するときは、〈全削除〉をクリックします。

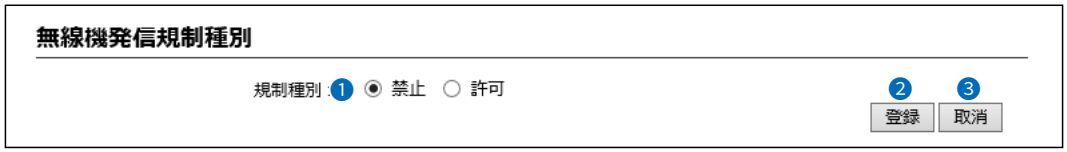
❽ **〈全削除〉** …… 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。
※[割当番号一覧]項目の内容がすべて削除されます。
※全削除すると、元には戻せません。

「無線機呼出発信規制」画面

PBX無線機呼出設定 > 無線機発信規制

■ 無線機発信規制種別

端末側無線機からの発信規制の形態を設定します。



❶ 規制種別 …… 端末側無線機からの発信規制を「禁止」、「許可」から選択します。
（初期設定：禁止）
[無線機発信規制設定一覧]項目に登録された無線機局番号に対して設定します。
◎禁止
[無線機発信規制設定一覧]項目に登録された無線機は、電話発信を禁止されます。
※登録されていない無線機は、電話発信できます。
◎許可
[無線機発信規制設定一覧]項目に登録された無線機は、電話発信できます。
※登録されていない無線機は、電話発信を禁止されます。

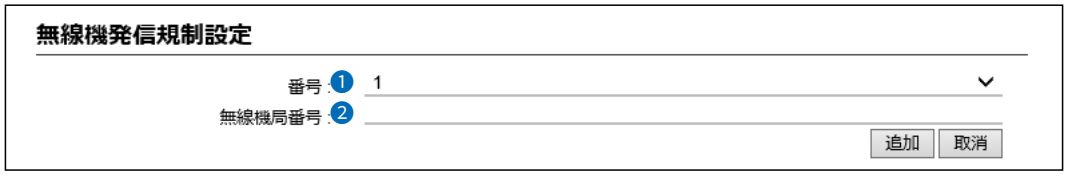
❷〈登録〉 …… 「無線機発信規制種別」項目で設定した内容を登録するボタンです。

❸〈取消〉 …… 「無線機発信規制種別」項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

PBX無線機呼出設定 > 無線機発信規制

■ 無線機発信規制設定

発信を規制する端末側無線機を登録します。



❶ 番号 …… 端末側無線機の自局番号（個別番号）を登録するために、「1」～「1000」の番号を選択します。（初期設定：1）
最大1000件まで登録できます。
〈追加〉
入力した無線機局番号を[無線機発信規制設定一覧]項目に登録するボタンです。
登録した端末側無線機は、[無線機発信規制設定一覧]項目で確認できます。
〈取消〉
変更した内容を、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈追加〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

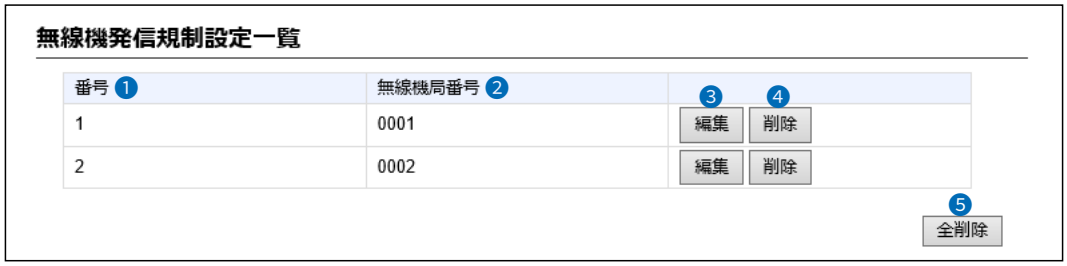
❷ 無線局番号 …… 登録する端末側無線機の自局番号（個別番号）を4桁で入力します。
設定できる範囲は、「0001～9999」です。

「無線機呼出発信規制」画面

PBX無線機呼出設定 > 無線機発信規制

■ 無線機発信規制設定一覧

[無線機発信規制設定]項目(P.12-5)で登録した無線機局番号の一覧が表示されます。
登録した無線機局番号は、編集したり、削除したりできます。



❶ **番号** …… [無線機発信規制設定]項目で登録した番号が表示されます。

❷ **無線局番号** …… [無線機発信規制設定]項目で登録した無線機の自局番号(個別番号)が表示されます。

❸ **〈編集〉** …… ボタンの左欄に表示された番号の無線機局番号を変更するとき、クリックします。
クリックすると、選択した番号の無線機局番号が[無線機発信規制設定]項目で編集できます。

❹ **〈削除〉** …… ボタンの左欄に表示された番号の無線機局番号を削除するとき、クリックします。

❺ **〈全削除〉** …… 登録した無線機局番号をすべて削除するとき、クリックします。
※[無線機発信規制一覧]項目に登録されている無線機局番号がすべて削除されます。
※全削除すると、元には戻せません。

PBX内線詳細設定

第 13 章

この章では、
「PBX内線詳細設定」画面の設定について説明します。

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面 …… 13-3
■ 電話機のメンテナンス …… 13-3
■ 電話機設定 …… 13-5
■ 機種個別設定(KX-UTシリーズ)(共通設定) …… 13-5
■ 発信音(共通設定) …… 13-6
■ 話中音(共通設定) …… 13-7
■ 規制音(共通設定) …… 13-8
■ 呼出音(共通設定) …… 13-9
■ 保留アラーム音(共通設定) …… 13-10
■ 着信音パターン(共通設定) …… 13-11
■ 着信音パターン割り当て(共通設定) …… 13-12
■ 機種共通設定(設定グループ) …… 13-13
■ 機種個別設定(KX-UTシリーズ)(設定グループ) …… 13-14
■ ボタン割当(設定グループ) …… 13-16
「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面 …… 13-23
■ 電話機のメンテナンス …… 13-23
■ 電話機設定 …… 13-25
■ 発信音(共通設定) …… 13-26
■ 話中音(共通設定) …… 13-27
■ 規制音(共通設定) …… 13-28
■ 呼出音(共通設定) …… 13-29
■ 保留アラーム音(共通設定) …… 13-30
■ 着信音パターン(共通設定) …… 13-31
■ 着信音パターン割り当て(共通設定) …… 13-32
■ 機種共通設定(設定グループ) …… 13-33
■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ)(設定グループ) …… 13-34
「増設ユニット(KX-HDV230)」画面 …… 13-44
■ 電話機のメンテナンス …… 13-44
■ 電話機設定 …… 13-46
■ 機種個別設定(KX-HDV230) …… 13-47
「電話帳」画面 …… 13-48
■ 設定グループの選択 …… 13-48
■ 電話帳の保存と書き込み …… 13-49
■ 電話帳への登録 …… 13-51
■ 電話帳登録一覧 …… 13-53

(次ページにつづく)

13 PBX内線詳細設定

下記は、前ページからの「つづき」です。

「無線機コントローラー電話接続」画面 …… 13-54
■ 無線機コントローラー電話接続設定 …… 13-54
■ 通信設定 …… 13-55
■ 制御設定 …… 13-56
■ 音声送信制御設定 …… 13-63
■ 音声受信制御設定 …… 13-64
■ V/RoIP制御設定 …… 13-65
■ 自動切断タイマー設定 …… 13-66
「コンバーターブリッジ」画面 …… 13-67
■ コンバーターブリッジ設定 …… 13-67
■ 接続設定 …… 13-68
■ 通信設定 …… 13-71
■ 制御設定 …… 13-73
■ 音声送信制御設定 …… 13-77
■ 音声受信制御設定 …… 13-78
■ V/RoIP制御設定 …… 13-79
■ 自動切断タイマー設定 …… 13-80

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 電話機のメンテナンス

登録された内線番号に、設定グループを設定します。

❶ 選択ボックス ……

複数のKXシリーズを再起動するときボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
※[状態](❹)欄が「未接続」と表示されているKXシリーズは選択できません。

❷ 内線番号 ……

「内線個別」画面(P.11-7)で登録された内線番号が表示されます。

❸ ポート種別 ……

「内線個別」画面(P.11-7)で登録された内線子機の機種(SIPフォン(自動)、SIPフォン(KX-UTシリーズ)、SIPフォン(KX-HDVシリーズ)、標準SIPフォン、標準SIPフォン(WLAN)、無線機コントローラー電話接続、コンバーターブリッジ)が表示されます。

❹ 状態 ……

本製品に登録された内線子機の接続状況が「接続済み」/「未接続」で表示されます。
※電話機の電源が入っていないときやネットワークに接続されていないときなど、本製品のSIPサーバーに登録(レジスト)されていない状態では、「未接続」が表示されます。
※ポート種別が「コンバーターブリッジ」、「無線機コントローラー接続接続」の場合は、「--」が表示されます。

❺ グループ設定 ……

本製品に登録された内線子機に対して、設定グループを設定します。
設定できる範囲は、「設定グループ1～設定グループ30」までです。
(初期設定：設定グループ1)
設定グループごとに、フレキシブルキーの機能割り当てを使用できます。
※フレキシブルボタンに割り当てた機能を、ほかの内線子機から、特番＋ボタン番号指定操作で利用する場合(例：外線キー保留への応答はパーク応答)は、設定グループを同じ設定にしてください。

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 電話機のメンテナンス

❻〈再起動〉 …… [状態](❹)欄が「接続済み」と表示されているKXシリーズを再起動するとき、クリックします。

❼〈選択端末再起動〉 …… [選択ボックス](❶)欄でチェックしたすべてのKXシリーズを一斉に再起動できます。

❽〈全端末再起動〉 …… [状態](❹)欄が「接続済み」と表示されているすべてのKXシリーズを一斉に再起動できます。

❾〈登録〉 …… [電話機のメンテナンス]項目で設定した内容を登録するボタンです。

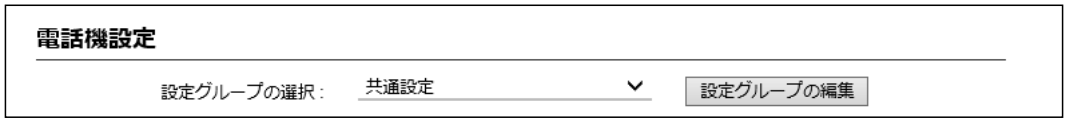
❿〈取消〉 …… 「電話機のメンテナンス」項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 電話機設定

本製品に登録した内線子機(IP電話機)の設定グループを変更します。



設定グループの選択……

本製品に登録した内線子機について設定する項目を、「共通設定」、「設定グループ1」～「設定グループ30」から選択します。
〈設定グループの編集〉をクリックすると、選択した項目ごとに表示される内容が切り替わります。

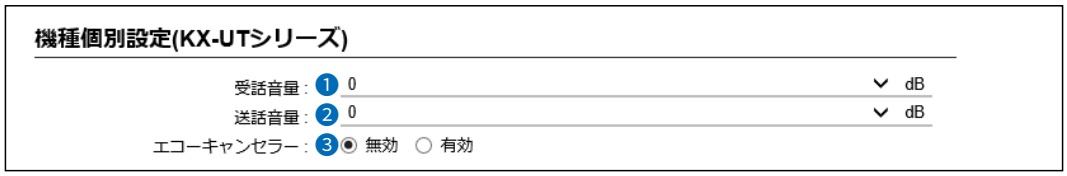
◎**共通設定**
本製品に登録したKX-UTシリーズで使用する共通の設定
・[機種個別設定(KX-UTシリーズ)]項目(受話音量/送話音量)
・[電話機音設定]項目(P.13-6～P.13-12)

◎**設定グループ1～設定グループ30**(P.13-13)
[電話機のメンテナンス]項目で登録した設定グループごとの設定
・[機種個別設定(KX-UTシリーズ)]項目(ボタン割当など)

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-UTシリーズ)(共通設定)

本製品に登録した内線子機(IP電話機)で共通に使用する設定です。



❶ 受信音量 …… KX-UTシリーズの受話音量を設定します。 (初期設定：0)
設定できる範囲は、「−6」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。

❷ 送話音量 …… KX-UTシリーズの送話音量を設定します。 (初期設定：0)
設定できる範囲は、「−6」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。

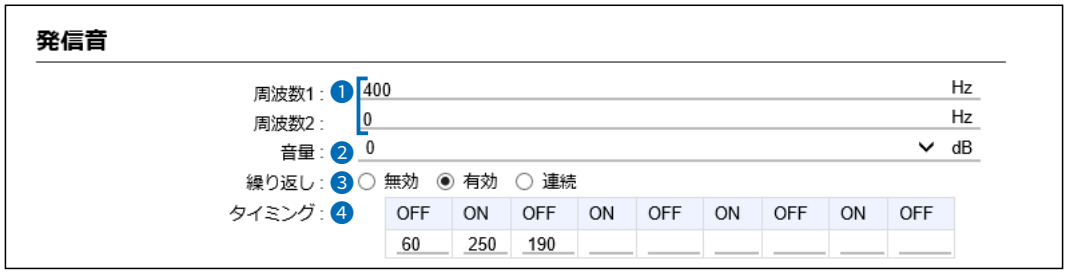
❸ エコーキャンセラー …… KX-UTシリーズのエコーキャンセラー機能を設定します。
(初期設定：無効)
「有効」に設定すると、通話するときに起こるエコー(反響)を低減します。

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 発信音(共通設定)

発信音(発信時に受話器を上げたときの音)を設定します。



❶ 周波数1/周波数2 ……

発信音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(初期設定：400(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせた音が鳴ります。

❷ 音量 ……

発信音の音量を設定します。(初期設定：0)
設定できる範囲は、「−24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。

❸ 繰り返し ……

[タイミング](❹)欄で作成した発信音のパターン(OFF/ON)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。(初期設定：有効)
◎**無効**：パターンの最後(上図：190)に到達すると、発信音を停止します。
◎**有効**：パターンの最後(上図：190)に到達すると、パターンの最初(上図：60)に戻り、発信音を繰り返します。
◎**連続**：連続的に[周波数1]/[周波数2](❶)欄で設定した音を鳴らします。

❹ タイミング ……

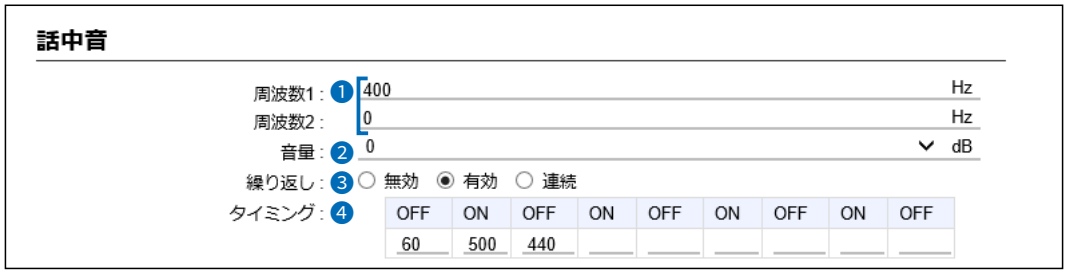
最大9個の値を使用して、発信音のパターン(OFF/ON)を設定します。
(初期設定：60、250、190)
最初のOFFに設定できる範囲は、「60～16000」(ミリ秒)です。
それ以外に設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
初期設定では、60ミリ秒間停止、250ミリ秒間鳴り、190ミリ秒間停止を繰り返します。

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 話中音(共通設定)

話中音を設定します。



❶ 周波数1/周波数2 ……

話中音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(初期設定：400(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせた音が鳴ります。

❷ 音量 ……

話中音の音量を設定します。 (初期設定：0)
設定できる範囲は、「−24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。

❸ 繰り返し ……

[タイミング](❹)欄で作成した話中音のパターン(OFF/ON)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。 (初期設定：有効)
◎**無効**：パターンの最後(上図：190)に到達すると、話中音を停止します。
◎**有効**：パターンの最後(上図：190)に到達すると、パターンの最初(上図：60)に戻り、話中音を繰り返します。
◎**連続**：連続的に[周波数1]/[周波数2](❶)欄で設定した音を鳴らします。

❹ タイミング ……

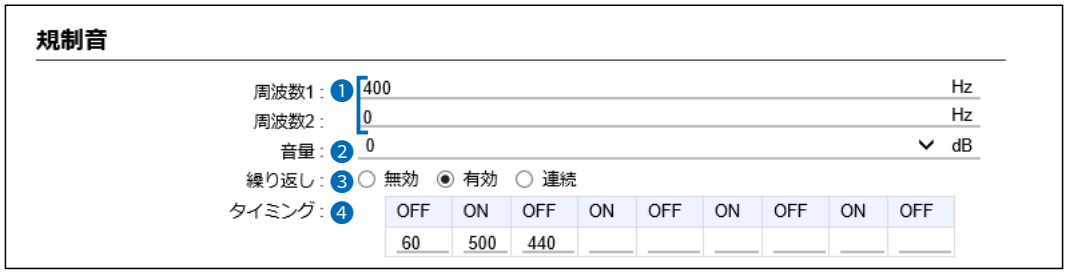
最大9個の値を使用して、話中音のパターン(OFF/ON)を設定します。
(初期設定：60、500、440)
最初のOFFに設定できる範囲は、「60～16000」(ミリ秒)です。
それ以外に設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
初期設定では、60ミリ秒間停止、500ミリ秒間鳴り、440ミリ秒間停止を繰り返します。

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 規制音(共通設定)

規制音を設定します。



❶ 周波数1/周波数2 ……

規制音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(初期設定：400(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせた音が鳴ります。

❷ 音量 ……

規制音の音量を設定します。 (初期設定：0)
設定できる範囲は、「−24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。

❸ 繰り返し ……

[タイミング](❹)欄で作成した規制音のパターン(OFF/ON)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。 (初期設定：有効)
◎**無効**：パターンの最後(上図：190)に到達すると、規制音を停止します。
◎**有効**：パターンの最後(上図：190)に到達すると、パターンの最初(上図：60)に戻り、規制音を繰り返します。
◎**連続**：連続的に[周波数1]/[周波数2](❶)欄で設定した音を鳴らします。

❹ タイミング ……

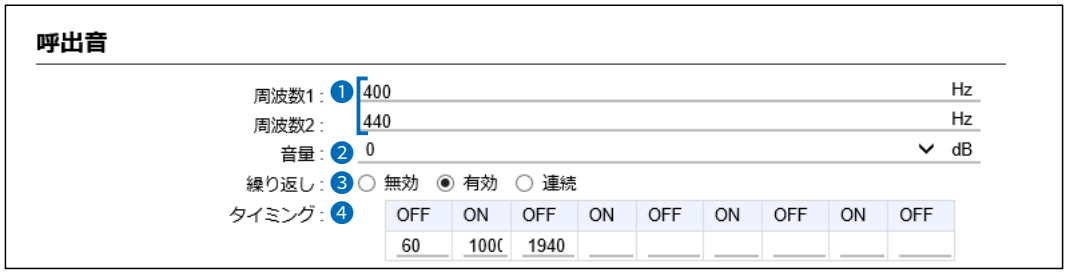
最大9個の値を使用して、規制音のパターン(OFF/ON)を設定します。
(初期設定：60、500、440)
最初のOFFに設定できる範囲は、「60～16000」(ミリ秒)です。
それ以外に設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
初期設定では、60ミリ秒間停止、500ミリ秒間鳴り、440ミリ秒間停止を繰り返します。

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 呼出音(共通設定)

呼出音(相手先を呼び出し中に使用する音)を設定します。



❶ 周波数1/周波数2 ……

呼出音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(初期設定:400(周波数1)/440(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせた音が鳴ります。

❷ 音量 ……

呼出音の音量を設定します。(初期設定:0)
設定できる範囲は、「−24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。

❸ 繰り返し ……

[タイミング](❹)欄で作成した呼出音のパターン(OFF/ON)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。(初期設定:有効)
◎**無効**:パターンの最後(上図:190)に到達すると、呼出音を停止します。
◎**有効**:パターンの最後(上図:190)に到達すると、パターンの最初(上図:60)に戻り、呼出音を繰り返します。
◎**連続**:連続的に[周波数1]/[周波数2](❶)欄で設定した音を鳴らします。

❹ タイミング ……

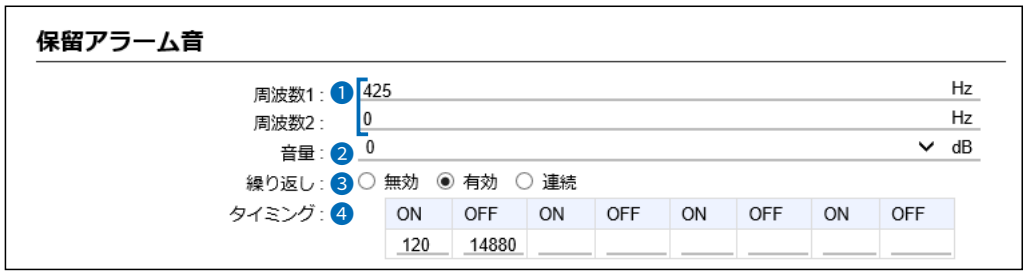
最大9個の値を使用して、呼出音のパターン(OFF/ON)を設定します。
(初期設定:60、1000、1940)
最初のOFFに設定できる範囲は、「60～16000」(ミリ秒)です。
それ以外に設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
初期設定では、60ミリ秒間停止、1000ミリ秒間鳴り、1940ミリ秒間停止を繰り返します。

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 保留アラーム音(共通設定)

保留アラーム音(保留後の第2通話が長時間になった場合に流れる音)を設定します。



❶ 周波数1/周波数2 ……

保留アラーム音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(初期設定:425(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせた音が鳴ります。

❷ 音量 ……

保留アラーム音の音量を設定します。 (初期設定:0)
設定できる範囲は、「−24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。

❸ 繰り返し ……

[タイミング](❹)欄で作成した保留アラーム音のパターン(OFF/ON)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。 (初期設定:有効)
◎**無効**:パターンの最後(上図:190)に到達すると、保留アラーム音を停止します。
◎**有効**:パターンの最後(上図:190)に到達すると、パターンの最初(上図:60)に戻り、保留アラーム音を繰り返します。
◎**連続**:連続的に[周波数1]/[周波数2](❶)欄で設定した音を鳴らします。

❹ タイミング ……

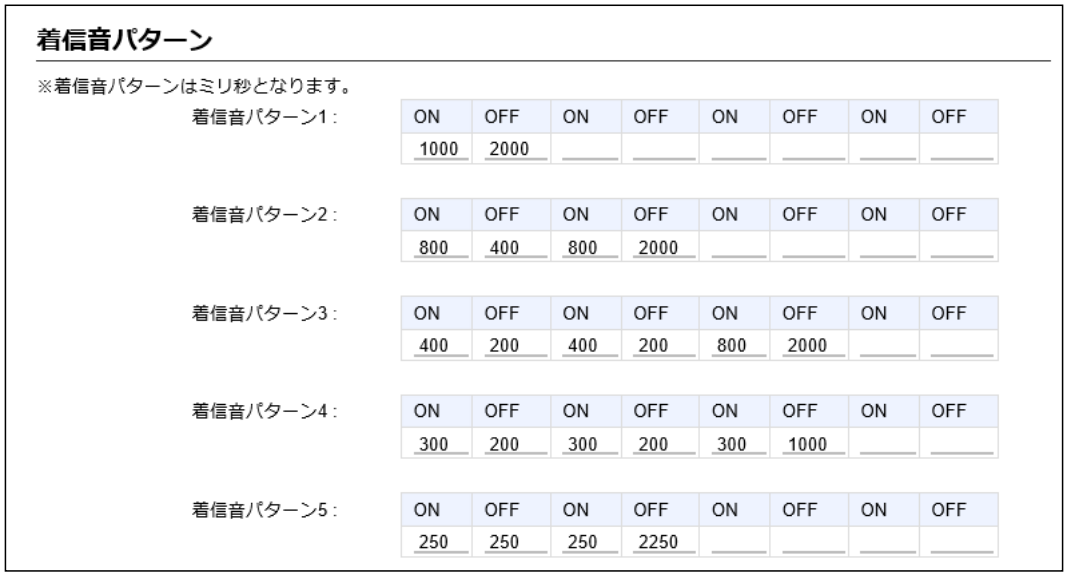
最大9個の値を使用して、保留アラーム音のパターン(OFF/ON)を設定します。 (初期設定:60、1000、1940)
最初のOFFに設定できる範囲は、「60～16000」(ミリ秒)です。
それ以外に設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
初期設定では、60ミリ秒間停止、1000ミリ秒間鳴り、1940ミリ秒間停止を繰り返します。

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 着信音パターン(共通設定)

着信音パターンを設定します。



着信音パターン1～
着信音パターン5 ……

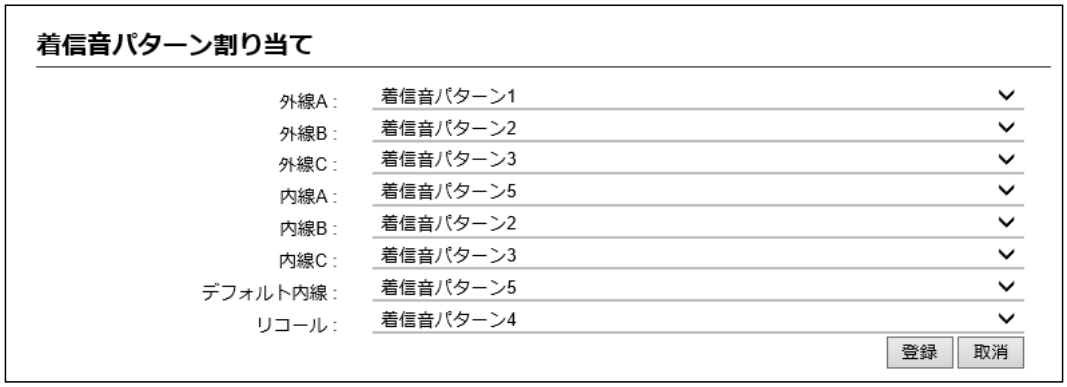
最大8個の値を使用して、着信音のパターン(ON/OFF)を設定します。
(初期設定： パターン1 1000、2000
パターン2 800、400、800、2000
パターン3 400、200、400、200、800、2000
パターン4 300、200、300、200、300、1000
パターン5 250、250、250、2250)
設定できる範囲は、「51～5000」(ミリ秒)です。
たとえば、「1000(ON)、2000(OFF)」と指定した場合、1000ミリ秒間鳴り、2000ミリ秒間停止のパターンとなります。
※パターンの最後は、ONで終了できませんので、ON/OFFをセットにして登録してください。
※KX-UTシリーズの着信音(パターン)は、パターンを割り当て電話機ごとの鳴り分け判別で使用します。(P.11-18、P.13-12)
※電話帳に一致した場合の着信音(音色)は、所属する設定グループごとに設定できます。(P.13-14)

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 着信音パターン割り当て(共通設定)

着信音パターン割り当てを設定します。



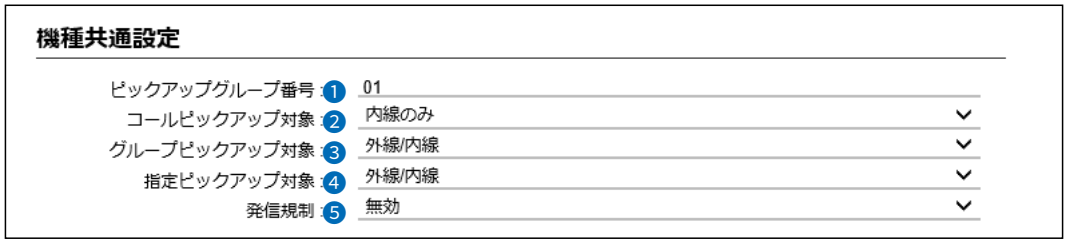
「着信」画面(P.11-18)で設定した鳴り分け判別を、「パターン1」～「パターン5」から選択します。
たとえば、[鳴り分け判別]欄で「外線音A」に設定されている場合、KX-UTシリーズに着信したとき「パターン1」が鳴ります。
※通知番号で「外線」と判別されると「外線A」、「内線」と判別されると「内線A」に設定した着信音が鳴ります。
※[鳴り分け判別]欄で内線(内線A ～内線C)に設定している回線(IP回線)からの着信は、内線として扱われます。
※ほかの内線子機から内線で着信した場合、「デフォルト内線」に設定した着信音が鳴ります。
※パーク保留した電話機にリコール(再呼出)する場合は、「リコール」に設定した着信音が鳴ります。

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 機種共通設定(設定グループ)

選択した内線子機(IP電話機)の設定グループごとに、キー操作や機能の割り当てを設定します。



❶ ピックアップグループ番号 …… 設定グループへの着信を代理応答するときに使用するピックアップグループ番号を半角数字7桁以内で入力します。
(初期設定：01(設定グループ1の場合))
※グループピックアップ特番(初期設定：＊＊)につづけて、この欄で設定した番号をダイヤルすると、指定した設定グループへの着信に代理応答できます。

❷ コールピックアップ対象 …… ほかの内線子機への着信について、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」から設定します。 (初期設定：内線のみ)

❸ グループピックアップ対象 …… 同じ設定グループのほかの子機への着信について、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」から設定します。 (初期設定：外線/内線)

❹ 指定ピックアップ対象 …… 指定の内線子機への着信について、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」から設定します。 (初期設定：外線/内線)

❺ 発信規制 …… 設定グループごとに、外線への発信規制を設定します。(初期設定：無効)
◎**無効** ：発信を規制しません。
◎**発信規制ルール1～16**：「番号計画」画面で設定した発信規制ルールにしたがって、特定の番号への発信を規制します。
※発信規制ルール「共通」の内容も適用されます。
◎**外線発信規制** ：外線への発信はできません。
※内線(Peer to Peerを含む)への発信は規制されません。

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-UTシリーズ)(設定グループ)

本製品に登録したKX-UTシリーズについて設定します。

❶ ダイヤル待ち時間 ……

ダイヤル操作を終了してから発信開始までの時間を設定します。
設定できる範囲は、「1」～「15」(秒)です。 (初期設定：5)
※ダイヤル操作中、設定した時間を過ぎても操作がないときは、発信を開始しますのでご注意ください。

❷ 外線通話中の内線着信 ……

外線通話中の内線着信(Peer to Peer着信を含む)に対する動作を設定します。 (初期設定：拒否)
「拒否」を設定すると、外線通話時に内線着信を拒否(話中応答)します。

❸ ボタン割当がない外線着信 ……

[ボタン割当]設定で、〈外線状態通知キー〉(P.13-17)を割り当てていないときや、〈外線状態通知キー〉がすべて使用中の場合に、〈外線着信キー〉、または〈DNキー〉への着信動作を設定します。 (初期設定：許可)

◎**許可**：〈外線着信キー〉、または〈DNキー〉に割り当てたフレキシブルボタンが空いているとき、そのボタンに着信します。
たとえば、〈外線状態通知キー〉を2つ割り当て、それがすべて使用中の場合、3本目以降は、〈外線着信キー〉、または〈DNキー〉に着信します。
ただし、〈外線状態通知キー〉での確認や応答はできません。

◎**拒否**：〈外線着信キー〉、または〈DNキー〉に割り当てたフレキシブルボタンが空いていても、そのボタンへの着信を拒否します。
たとえば、〈外線状態通知キー〉を2つ割り当て、それがすべて使用中の場合、3本目以降の着信が拒否されます。

❹ 外線状態通知キーの保留 ……

「許可」を設定すると、外線通話時に〈外線状態通知キー〉を操作して、外線保留できます。 (初期設定：拒否)

❺ 長時間保留の監視時間 ……

設定した時間を超えて自己保留をすると、警告音を鳴らします。
設定できる範囲は、「30～240」(秒)です。 (初期設定：180)

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 機種共通設定(KX-UTシリーズ)(設定グループ)

❻ 電話帳の利用 …… KX-UTシリーズの電話機が起動したときに、本製品の電話帳(共通最大300件/設定グループ最大100件)の内容を電話機本体の電話帳に反映するかどうかの設定です。 (初期設定：有効)

※「無効」に設定すると、電話機が起動しても、電話機本体の電話帳に反映されません。

❼ 電話帳[共通]の利用 …… KX-UTシリーズの電話機が起動したときに、本製品の共通電話帳(最大300件)の内容を電話機本体の電話帳に反映するかどうかの設定です。 (初期設定：有効)

※[電話帳の利用](❻)欄で「無効」を選択したときは、表示されない項目です。

❽ 電話帳の着信音 …… KX-UTシリーズの電話機に登録した相手先から着信したときの音を、「着信音1」～「着信音32」から設定します。 (初期設定：着信音1)

❾ キー操作音 …… KX-UTシリーズの電話機でキー操作したときの確認音を設定します。 (初期設定：有効)

「無効」を設定すると、キー操作したときの確認音が鳴りません。

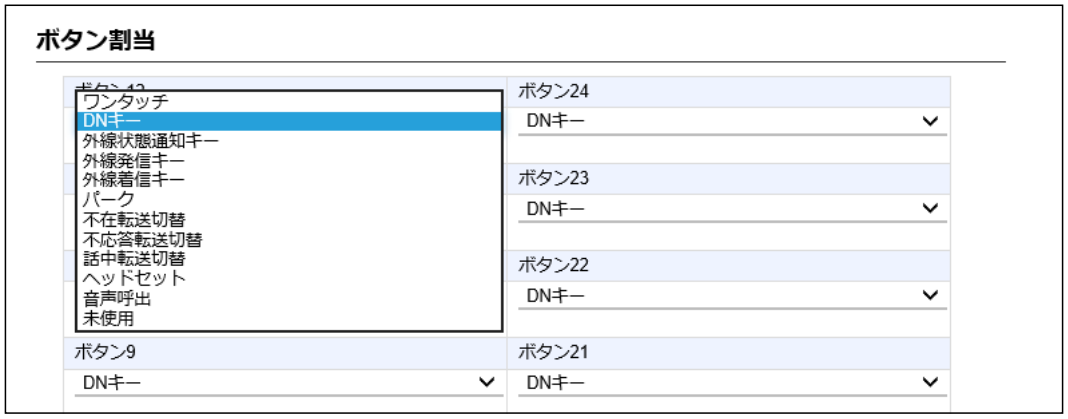
❿ 不在着信のディスプレイ表示 … 「不在着信」を待受画面に表示するかどうかを設定します。 (初期設定：無効)

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ ボタン割当(設定グループ)

本製品に登録したKX-UTシリーズのフレキシブルボタンについて設定します。



ボタン割当(1～24) ……

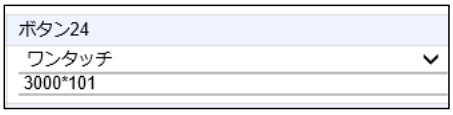
KX-UT136Nのフレキシブルボタンごとに機能を割り当てます。

(初期設定：DNキー)

◎ワンタッチ

よく利用する内線番号や外線番号、および本製品で設定した特番などを、あらかじめ登録して、ワンタッチの操作で発信できる機能です。

※外線発信先を登録する場合、外線発信特番設定のプレフィクスを前置きすると、指定回線(発信番号)での発信もできます。
指定しない場合、内線個別設定の回線捕捉設定にしたがいます。



例：ボタン24に〈ワンタッチ〉(特番3000＊101)を割り当てた場合

◎DNキー(Directory Number)

着信時、自己保留時など、状況を確認して応答できる機能です。

ランプ表示について

高速点滅(緑)　：内線着信中/外線着信中
低速点滅(緑)　：自己保留中(自端末)
点灯(緑)　　：通話中

※フレキシブルボタン番号(01 ～24)の点滅(緑)は、小さい番号順です。
※〈DNキー〉の割り当ては、最低2つ以上必要です。
※〈DNキー〉と〈外線着信キー〉の合計数が使用できる最大通話数です。
ただし、「通話数制限」画面で通話数が制限されている場合は、そちらを優先します。

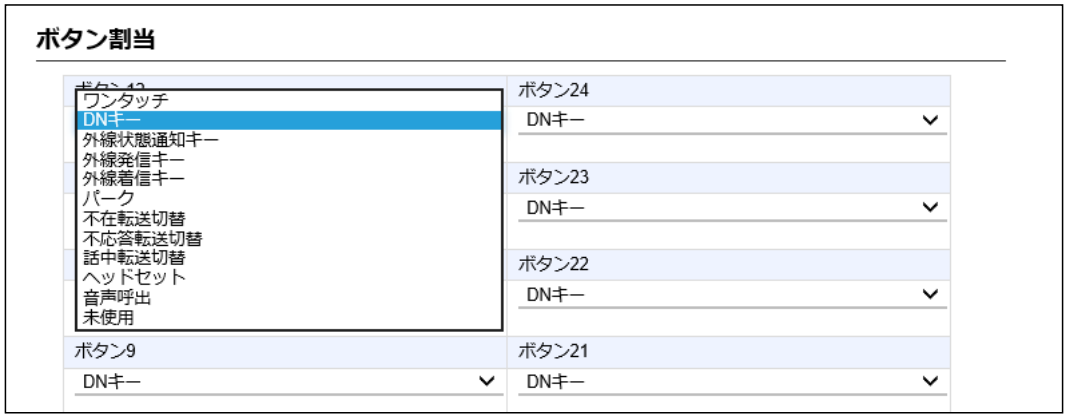
DNキーについてのご注意

◎DNキーは、内線/外線の通話や着信中に1つ、さらに保留など通話呼を保持するときに1つ使用します。
◎DNキーが不足すると通話呼を保留できない、新たな着信を受けられないような事象が発生します。
◎フレキシブルボタンがないKX-UT123Nでは、DNキーは本体内部に2つ固定割り当てされ、追加設定はできません。
外線通話中に新たな外線着信を受けると、先の通話を保留したり転送したりできません。(DNキー不足状態のため)このような場合は、先の通話を終了するか、ほかの電話機であとの着信に応答する必要があります。

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

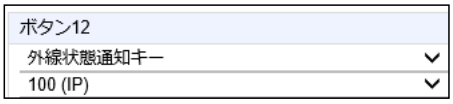
■ ボタン割当(設定グループ)



ボタン割当(1～24) ……

◎外線状態通知キー

割り当てた回線(IP回線)の使用状況を確認して、着信に応答、外線保留/応答できる機能です。



例：ボタン12に〈外線状態通知キー〉(IP回線)を割り当てた場合

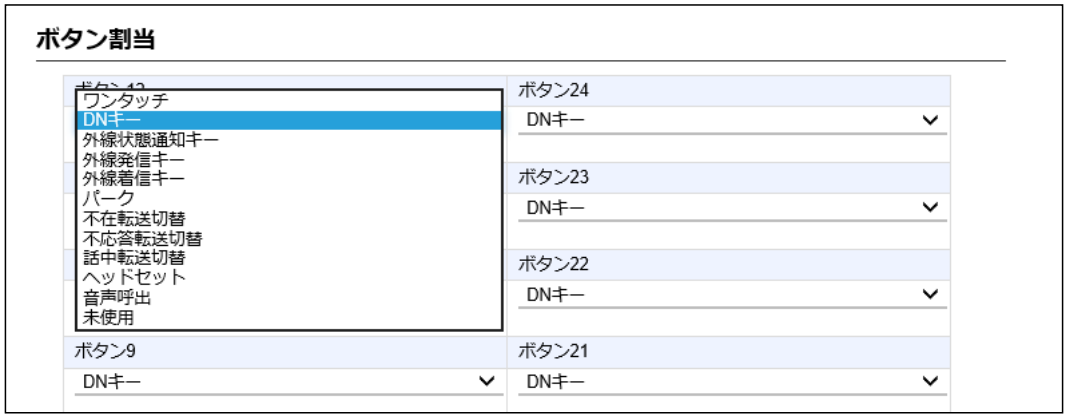
ランプ表示について

赤点滅：外線着信中/外線保留中
赤点灯：外線使用中(ほかの端末)
緑点灯：外線使用中(自端末)
※〈外線状態通知キー〉の割り当ては、契約チャネル数分必要です。

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

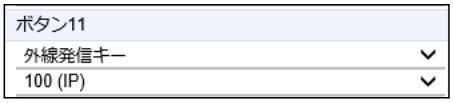
■ ボタン割当(設定グループ)



ボタン割当(1～24) ……

◎外線発信キー

外線発信時に使用する回線(IP回線)の電話番号を選択できる機能です。



例：ボタン11に〈外線発信キー〉(IP回線)を割り当てた場合

ボタンを押すと、電話機のディスプレイに該当する(設定した)発信プレフィクスが表示され、これにつづけて電話番号をダイヤルするか、あらかじめ電話番号を登録した〈ワンタッチ〉を押すと、選択した回線(IP回線)で発信します。

※電話帳から発信する場合、〈外線発信キー〉による回線捕捉ができません。

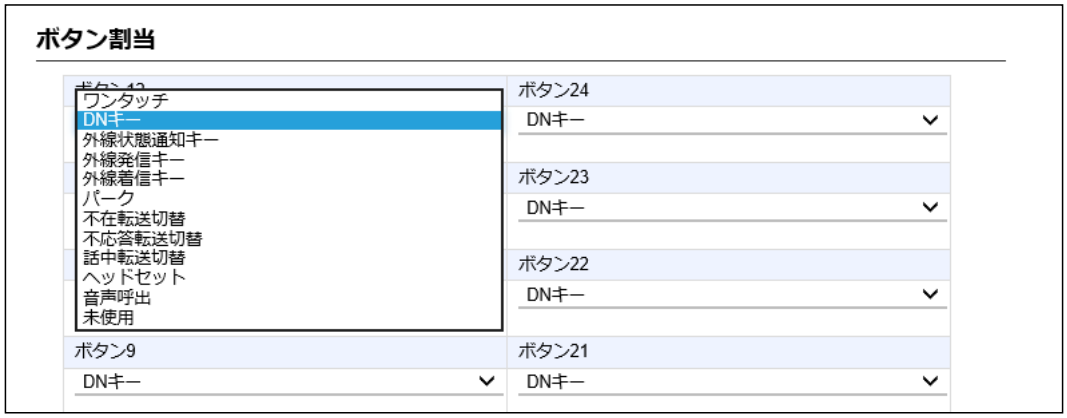
※〈外線発信キー〉と電話帳の短縮番号を組み合わせてダイヤルできません。

※割り当てた回線の使用状況は、〈外線状態通知キー〉で確認できます。

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

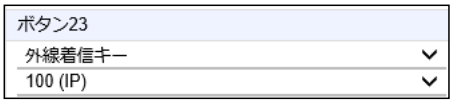
■ ボタン割当(設定グループ)



ボタン割当(1～24) ……

◎外線着信キー

割り当てた回線(IP回線)の電話番号への着信に応答できる機能です。



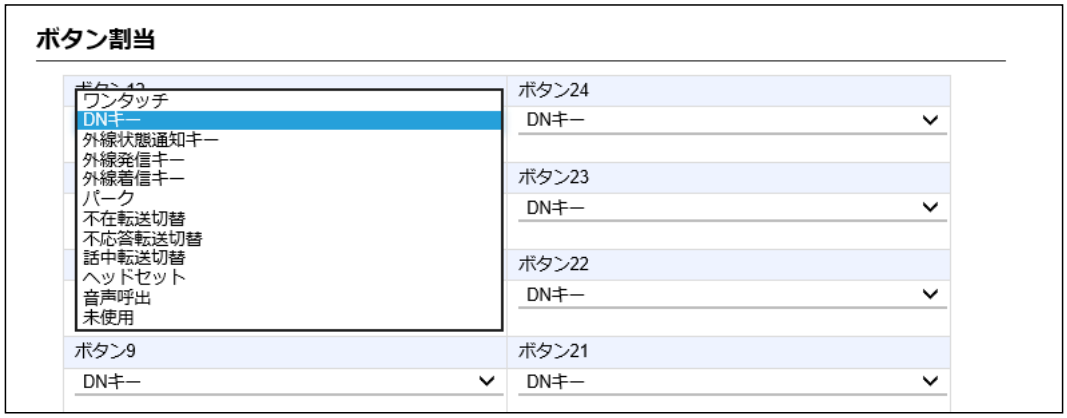
例：ボタン23に〈外線発信キー〉(IP回線)を割り当てた場合

※割り当てた回線の使用状況は、〈外線状態通知キー〉で確認や応答ができます。

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

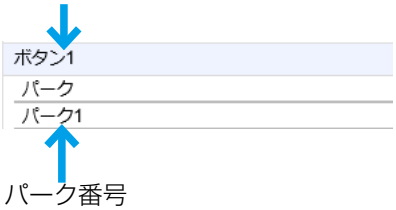
PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ ボタン割当(設定グループ)



ボタン割当(1～24) ……

ボタン番号



パーク番号

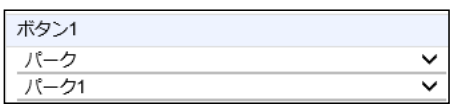
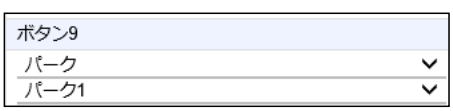
例：ボタン1にパーク1を
割り当てた場合

◎パーク

通話をパーク保留して、どの内線子機からでも応答できる機能です。
最低必要な〈DNキー〉の割り当て(2つ)以外に、最大22件まで、パーク保留・応答として設定できます。

※フレキシブルボタンがないKX-UT123Nだけの場合でも、パーク機能の割り当てが必要です。(左図参照)
ボタン1にパーク機能が割り当てられていない場合は、「＊90」「01」(ボタン番号)をダイヤルしても、パーク保留できません。

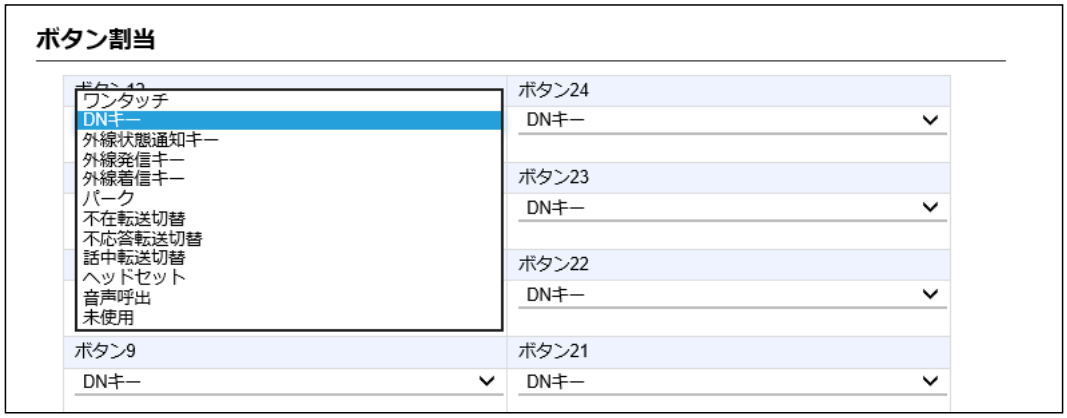
※特番につづけてダイヤルする番号の桁数により動作が異なりますのでご注意ください。
1桁：パーク番号(1 ～9)
2桁：ボタン番号(01 ～24)
フレキシブルボタンの番号とパーク番号が一致するようにしてください。
設定が異なると、パーク保留できないことがあります。(下表参照)

ボタン番号とパーク番号設定例	ダイヤル操作例	
	「＊90」「01」(パーク番号)	「＊90」「01」(パーク番号)
番号が一致している場合 	パーク1が割り当てられたボタン1にパーク保留されます。	ボタン1にパーク保留されます。
番号が一致していない場合 	パーク1が割り当てられたボタン9にパーク保留されます。	ボタン9にパーク保留されません。

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ ボタン割当(設定グループ)



ボタン割当(1～24) ……

◎不在転送切替

不在中にかかってきた電話をほかの電話機に転送する機能です。
不在転送機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。
※不在転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。
※転送先を設定していない場合は、「特番」画面の[不在転送]欄(P.11-5)で設定した特番(初期設定：＊94)につづけて転送先電話番号をダイヤルすると機能します。

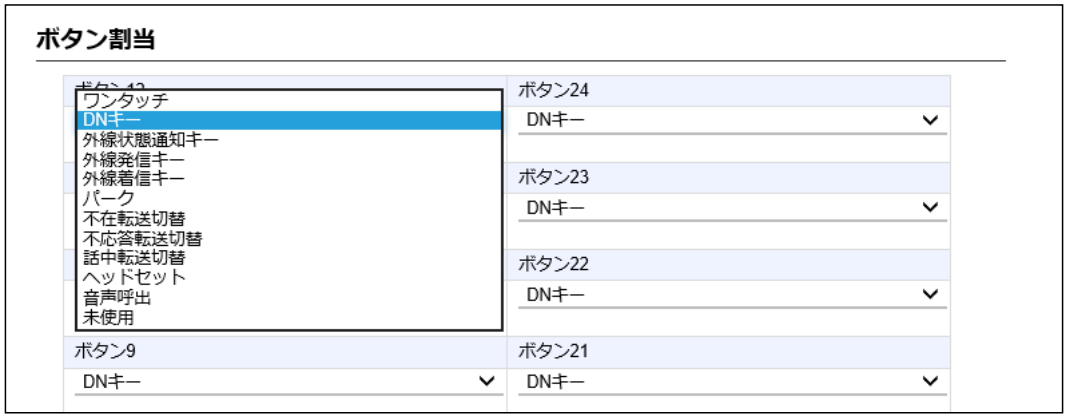
◎不応答転送切替

電話に応答できないときなど、かかってきた電話をほかの電話機に転送する機能です。
不応答転送機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。
※不応答転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。
※転送先を設定していない場合は、「特番」画面の[不応答転送]欄(P.11-5)で設定した特番(初期設定：＊95)につづけて転送先電話番号をダイヤルすると機能します。

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ ボタン割当(設定グループ)



ボタン割当(1～24) ……

◎話中転送切替

内線通話中にほかの内線がかかってきたときに、登録した電話番号に着信を転送する機能です。

話中転送機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。

※話中転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。

※転送先を設定していない場合は、「特番」画面の[話中転送]欄(P.11-5)で設定した特番(初期設定：＊96)につづけて転送先電話番号をダイヤルすると機能します。

◎ヘッドセット

KX-UT136Nにヘッドセットを接続して通話するときに使用するボタンです。

ヘッドセット機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。

◎音声呼出

ダイヤルした相手を直接音声で呼び出す機能です。

ボタンを押してダイヤルすると、呼び出し先の電話機(KX-UTシリーズ)のスピーカー機能が有効になります。

◎未使用

機能を割り当てません。

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 電話機のメンテナンス

登録された内線番号に、設定グループを設定します。

❶ 選択ボックス ……

複数のKXシリーズを再起動するときボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
※[状態](❹)欄が「未接続」と表示されているKXシリーズは選択できません。

❷ 内線番号 ……

「内線個別」画面(P.11-7)で登録された内線番号が表示されます。

❸ ポート種別 ……

「内線個別」画面(P.11-7)で登録された内線子機の機種(SIPフォン(自動)、SIPフォン(KX-UTシリーズ)、SIPフォン(KX-HDVシリーズ)、標準SIPフォン、標準SIPフォン(WLAN)、無線機コントローラー電話接続、コンバーターブリッジ)が表示されます。

❹ 状態 ……

本製品に登録された内線子機の接続状況が「接続済み」/「未接続」で表示されます。
※電話機の電源が入っていないときやネットワークに接続されていないときなど、本製品のSIPサーバーに登録(レジスト)されていない状態では、「未接続」が表示されます。
※ポート種別が「コンバーターブリッジ」、「無線機コントローラー接続接続」の場合は、「--」が表示されます。

❺ グループ設定 ……

本製品に登録された内線子機に対して、設定グループを設定します。
設定できる範囲は、「設定グループ1 ～設定グループ30」までです。
(初期設定：設定グループ1)
設定グループごとに、フレキシブルキーの機能割り当てを使用できます。
※フレキシブルボタンに割り当てた機能を、ほかの内線子機から、特番＋ボタン番号指定操作で利用する場合(例：外線キー保留への応答はパーク応答)は、設定グループを同じ設定にしてください。

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 電話機のメンテナンス

❻〈再起動〉 …… [状態](❹)欄が「接続済み」と表示されているKXシリーズを再起動するとき、クリックします。

❼〈選択端末再起動〉 …… [選択ボックス](❶)欄でチェックしたすべてのKXシリーズを一斉に再起動できます。

❽〈全端末再起動〉 …… [状態](❹)欄が「接続済み」と表示されているすべてのKXシリーズを一斉に再起動できます。

❾〈登録〉 …… [電話機のメンテナンス]項目で設定した内容を登録するボタンです。

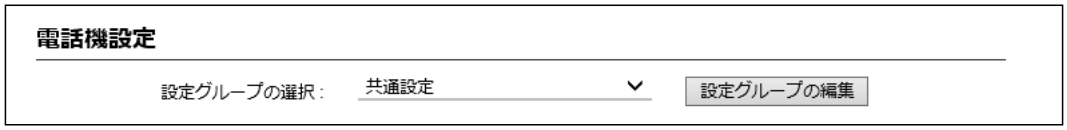
❿〈取消〉 …… 「電話機のメンテナンス」項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 電話機設定

本製品に登録した内線子機(IP電話機)の設定グループを変更します。



設定グループの選択……

本製品に登録した内線子機について設定する項目を、「共通設定」、「設定グループ1」～「設定グループ30」から選択します。
〈設定グループの編集〉をクリックすると、選択した項目ごとに表示される内容が切り替わります。

◎**共通設定**

本製品に登録したKX-HDVシリーズで使用する共通の設定

・[電話機音設定]項目(P.13-26～P.13-32)

◎**設定グループ1 ～設定グループ30**(P.13-33)

[電話機のメンテナンス]項目で登録した設定グループごとの設定

・[機種共通設定]項目

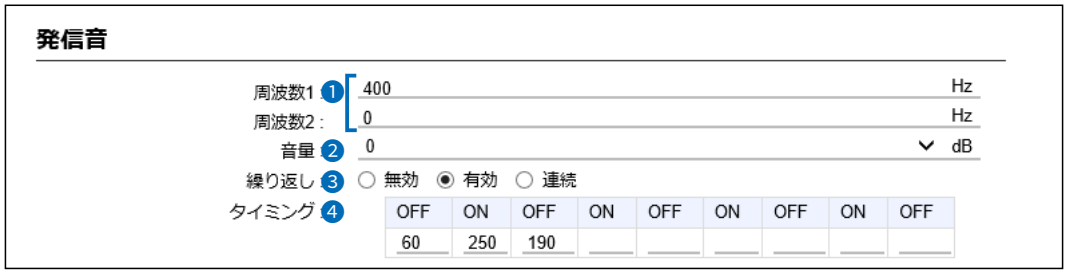
・[機種個別設定(KX-HDVシリーズ)]項目(ボタン割当など)

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 発信音(共通設定)

発信音(発信時に受話器を上げたときの音)を設定します。



❶ 周波数1/周波数2 ……

発信音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(初期設定:400(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせた音が鳴ります。

❷ 音量 ……

発信音の音量を設定します。(初期設定:0)
設定できる範囲は、「−24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。

❸ 繰り返し ……

[タイミング](❹)欄で作成した発信音のパターン(OFF/ON)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。(初期設定:有効)
◎**無効**:パターンの最後(上図:190)に到達すると、発信音を停止します。
◎**有効**:パターンの最後(上図:190)に到達すると、パターンの最初(上図:60)に戻り、発信音を繰り返します。
◎**連続**:連続的に[周波数1]/[周波数2](❶)欄で設定した音を鳴らします。

❹ タイミング ……

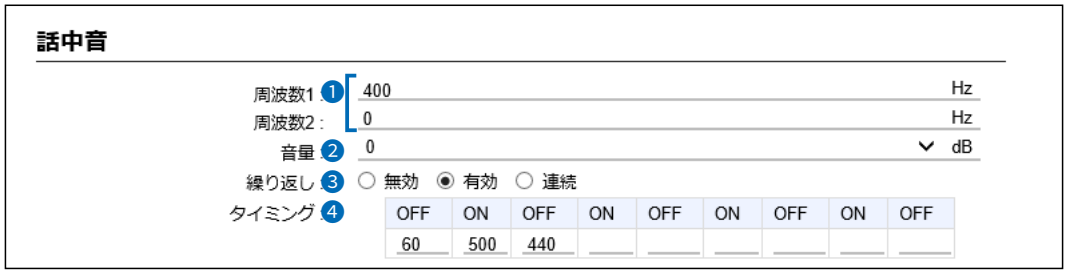
最大9個の値を使用して、発信音のパターン(OFF/ON)を設定します。
(初期設定:60、250、190)
最初のOFFに設定できる範囲は、「60～16000」(ミリ秒)です。
それ以外に設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
初期設定では、60ミリ秒間停止、250ミリ秒間鳴り、190ミリ秒間停止を繰り返します。

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 話中音(共通設定)

話中音を設定します。



❶ 周波数1/周波数2 ……

話中音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(初期設定:400(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせた音が鳴ります。

❷ 音量 ……

話中音の音量を設定します。 (初期設定:0)
設定できる範囲は、「−24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。

❸ 繰り返し ……

[タイミング](❹)欄で作成した話中音のパターン(OFF/ON)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。 (初期設定:有効)
◎**無効**:パターンの最後(上図:190)に到達すると、話中音を停止します。
◎**有効**:パターンの最後(上図:190)に到達すると、パターンの最初(上図:60)に戻り、話中音を繰り返します。
◎**連続**:連続的に[周波数1]/[周波数2](❶)欄で設定した音を鳴らします。

❹ タイミング ……

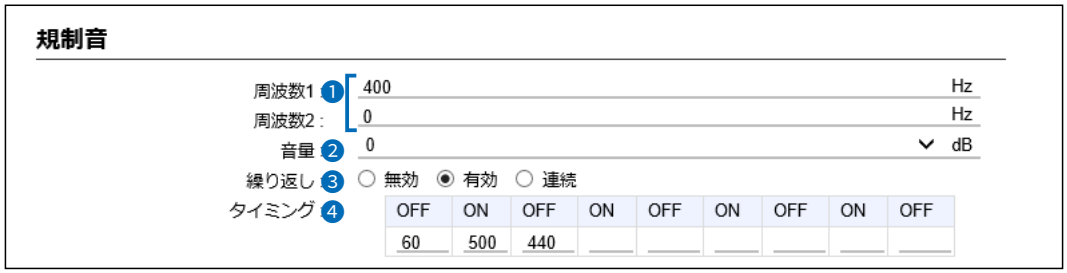
最大9個の値を使用して、話中音のパターン(OFF/ON)を設定します。
(初期設定:60、500、440)
最初のOFFに設定できる範囲は、「60～16000」(ミリ秒)です。
それ以外に設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
初期設定では、60ミリ秒間停止、500ミリ秒間鳴り、440ミリ秒間停止を繰り返します。

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 規制音(共通設定)

規制音を設定します。



❶ 周波数1/周波数2 ……

規制音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(初期設定:400(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせた音が鳴ります。

❷ 音量 ……

規制音の音量を設定します。 (初期設定:0)
設定できる範囲は、「−24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。

❸ 繰り返し ……

[タイミング](❹)欄で作成した規制音のパターン(OFF/ON)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。 (初期設定:有効)
◎**無効**:パターンの最後(上図:190)に到達すると、規制音を停止します。
◎**有効**:パターンの最後(上図:190)に到達すると、パターンの最初(上図:60)に戻り、規制音を繰り返します。
◎**連続**:連続的に[周波数1]/[周波数2](❶)欄で設定した音を鳴らします。

❹ タイミング ……

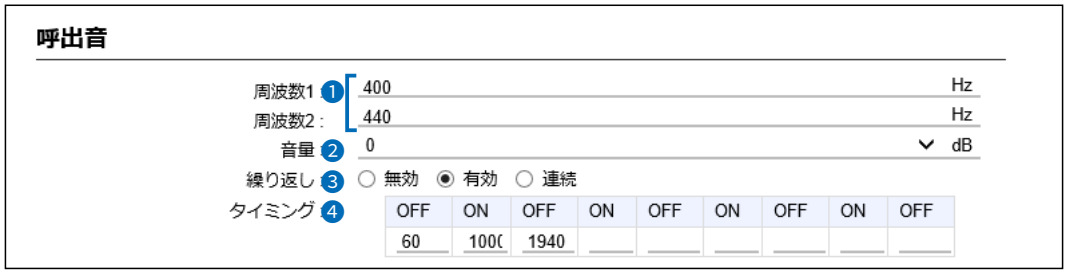
最大9個の値を使用して、規制音のパターン(OFF/ON)を設定します。
(初期設定:60、500、440)
最初のOFFに設定できる範囲は、「60～16000」(ミリ秒)です。
それ以外に設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
初期設定では、60ミリ秒間停止、500ミリ秒間鳴り、440ミリ秒間停止を繰り返します。

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 呼出音(共通設定)

呼出音(相手先を呼び出し中に使用する音)を設定します。



❶ 周波数1/周波数2 ……

呼出音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(初期設定:400(周波数1)/440(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせた音が鳴ります。

❷ 音量 ……

呼出音の音量を設定します。(初期設定:0)
設定できる範囲は、「−24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。

❸ 繰り返し ……

[タイミング](❹)欄で作成した呼出音のパターン(OFF/ON)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。(初期設定:有効)
◎**無効**:パターンの最後(上図:190)に到達すると、呼出音を停止します。
◎**有効**:パターンの最後(上図:190)に到達すると、パターンの最初(上図:60)に戻り、呼出音を繰り返します。
◎**連続**:連続的に[周波数1]/[周波数2](❶)欄で設定した音を鳴らします。

❹ タイミング ……

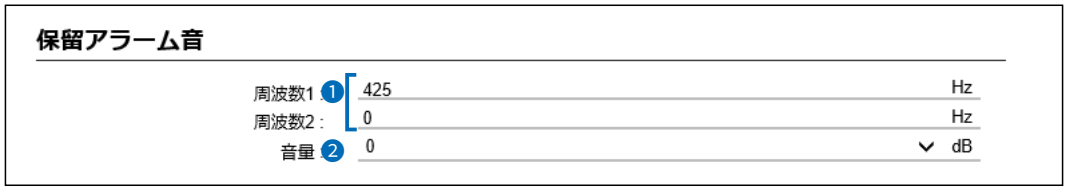
最大9個の値を使用して、呼出音のパターン(OFF/ON)を設定します。
(初期設定:60、1000、1940)
最初のOFFに設定できる範囲は、「60～16000」(ミリ秒)です。
それ以外に設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
初期設定では、60ミリ秒間停止、500ミリ秒間鳴り、440ミリ秒間停止を繰り返します。

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 保留アラーム音(共通設定)

保留アラーム音(保留後の第2通話が長時間になった場合に流れる音)を設定します。



❶ **周波数1/周波数2** …… 保留アラーム音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(初期設定：425(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせた音が鳴ります。

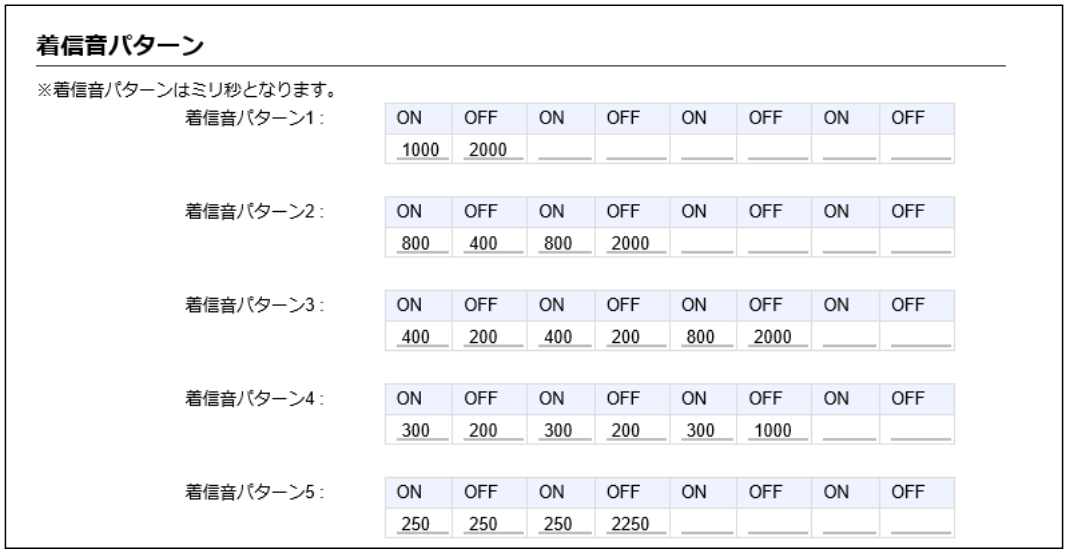
❷ **音量** …… 保留アラーム音の音量を設定します。(初期設定：0)
設定できる範囲は、「−24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 着信音パターン(共通設定)

着信音パターンを設定します。



着信音パターン1～
着信音パターン5 ……

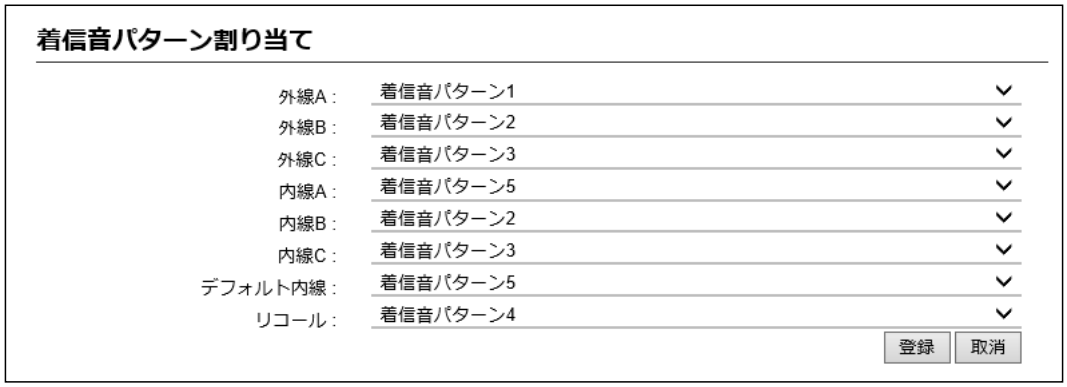
最大8個の値を使用して、着信音のパターン(ON/OFF)を設定します。
(初期設定 : パターン1 1000、2000
パターン2 800、400、800、2000
パターン3 400、200、400、200、800、2000
パターン4 300、200、300、200、300、1000
パターン5 250、250、250、2250)
設定できる範囲は、「51～5000」(ミリ秒)です。
たとえば、「1000(ON)、2000(OFF)」と指定した場合、1000ミリ秒間鳴り、2000ミリ秒間停止のパターンとなります。
※パターンの最後はONで終了できませんので、ON/OFFをセットにして登録してください。
※KX-HDVシリーズの着信音(パターン)は、パターンを割り当て電話機ごとの鳴り分け判別で使用します。(P.11-18、P.13-32)
※電話帳に一致した場合の着信音(音色)は、所属する設定グループごとに設定できます。(P.13-34)

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 着信音パターン割り当て(共通設定)

着信音パターン割り当てを設定します。



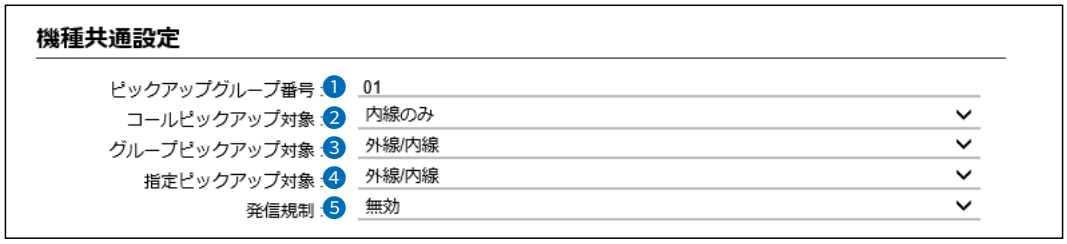
「着信」画面(P.11-18)で設定した鳴り分け判別を、「パターン1」～「パターン5」から選択します。
たとえば、[鳴り分け判別]欄で「外線音A」に設定されている場合、KX-HDVシリーズに着信したとき「パターン1」が鳴ります。
※通知番号で「外線」と判別されると「外線A」、「内線」と判別されると「内線A」に設定した着信音が鳴ります。
※[鳴り分け判別]欄で内線(内線A～内線C)に設定している回線(IP回線)からの着信は、内線として扱われます。
※ほかの内線子機から内線で着信した場合、「デフォルト内線」に設定した着信音が鳴ります。
※パーク保留した電話機にリコール(再呼出)する場合は、「リコール」に設定した着信音が鳴ります。

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 機種共通設定(設定グループ)

着信音パターン割り当てを設定します。



❶ ピックアップグループ番号 …… 設定グループへの着信を代理応答するときに使用するピックアップグループ番号を半角数字7桁以内で入力します。
(初期設定：01(設定グループ1の場合))
※グループピックアップ特番(初期設定：＊＊)につづけて、この欄で設定した番号をダイヤルすると、指定した設定グループへの着信に代理応答できます。

❷ コールピックアップ対象 …… ほかの内線子機への着信について、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」から設定します。 (初期設定：内線のみ)

❸ グループピックアップ対象 …… 同じ設定グループのほかの子機への着信について、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」から設定します。 (初期設定：外線/内線)

❹ 指定ピックアップ対象 …… 指定の内線子機への着信について、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」から設定します。 (初期設定：外線/内線)

❺ 発信規制 …… 設定グループごとに、外線への発信規制を設定します。 (初期設定：無効)
◎**無効** ：発信を規制しません。
◎**発信規制ルール1～16**：「番号計画」画面で設定した発信規制ルールにしたがって、特定の番号への発信を規制します。
※発信規制ルール「共通」の内容も適用されます。
◎**外線発信規制** ：外線への発信はできません。
※内線(Peer to Peerを含む)への発信は規制されません。

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ)(設定グループ)

本製品に登録したKX-HDVシリーズについて設定します。

❶ ダイヤル待ち時間 ……

ダイヤル操作を終了してから発信開始までの時間を設定します。
設定できる範囲は、「1」～「15」(秒)です。 (初期設定：5)
※ダイヤル操作中、設定した時間を過ぎても操作がないときは、発信を開始しますのでご注意ください。

❷ 外線通話中の内線着信 ……

外線通話中の内線着信(Peer to Peer着信を含む)に対する動作を設定します。 (初期設定：拒否)
「拒否」を設定すると、外線通話時に内線着信を拒否(話中応答)します。

❸ ボタン割当が無い外線着信 ……

[ボタン割当](❾)欄で、〈外線状態通知キー〉(P.13-17)を割り当てていないときや、〈外線状態通知キー〉がすべて使用中の場合に、〈外線着信キー〉、または〈DNキー〉への着信動作を設定します。 (初期設定：許可)

◎**許可**：〈外線着信キー〉、または〈DNキー〉に割り当てたフレキシブルボタンが空いているとき、そのボタンに着信します。
たとえば、〈外線状態通知キー〉を2つ割り当て、それがすべて使用中の場合、3本目以降は、〈外線着信キー〉、または〈DNキー〉に着信します。
ただし、〈外線状態通知キー〉での確認や応答はできません。

◎**拒否**：〈外線着信キー〉、または〈DNキー〉に割り当てたフレキシブルボタンが空いていても、そのボタンへの着信を拒否します。
たとえば、〈外線状態通知キー〉を2つ割り当て、それがすべて使用中の場合、3本目以降の着信が拒否されます。

❹ 外線状態通知キーの保留 ……

「許可」を設定すると、外線通話時に〈外線状態通知キー〉を操作して、外線保留できます。 (初期設定：拒否)

❺ 長時間保留の監視時間 ……

設定した時間を超えて自己保留をすると、警告音を鳴らします。
設定できる範囲は、「30～240」(秒)です。 (初期設定：180)

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ)(設定グループ)

❻ 電話帳の利用 ……

KX-HDVシリーズの電話機が起動したときに、本製品の電話帳(共通最大300件/設定グループ最大100件)の内容を電話機本体の電話帳に反映するかどうかの設定です。 (初期設定：有効)

※「無効」に設定すると、電話機が起動しても、電話機本体の電話帳に反映されません。

❼ 電話帳[共通]の利用 ……

KX-HDVシリーズの電話機が起動したときに、本製品の共通電話帳(最大300件)の内容を電話機本体の電話帳に反映するかどうかの設定です。

(初期設定：有効)

※[電話帳の利用](❻)欄で「無効」を選択したときは、表示されない項目です。

❽ 不在着信のディスプレイ表示 …

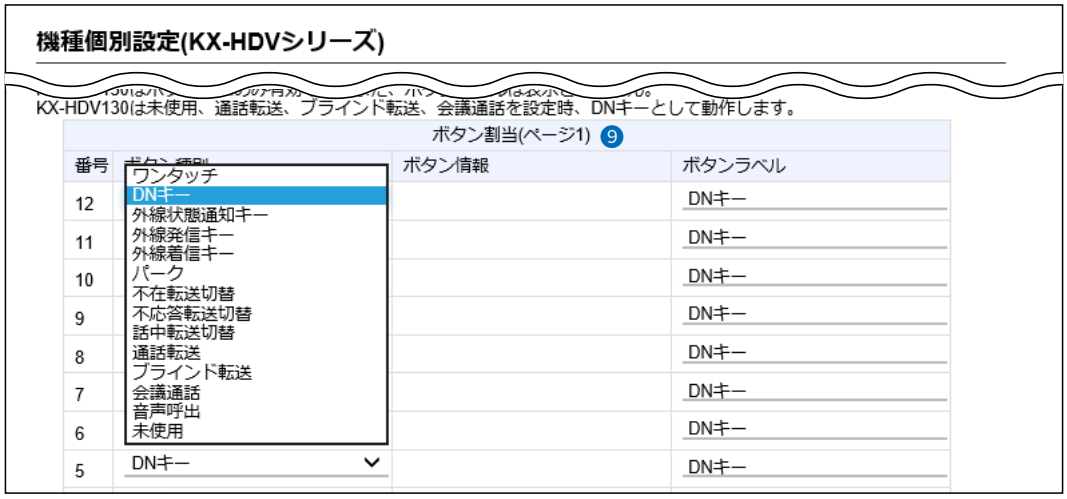
「不在着信」を待受画面に表示するかどうかを設定します。

(初期設定：無効)

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ)(設定グループ)



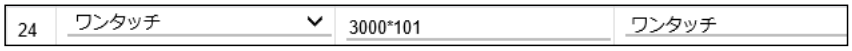
❾ ボタン割当(1～24) ……

KX-HDV230Nのフレキシブルボタンごとに機能を割り当てます。
(初期設定：DNキー)

◎ワンタッチ

よく利用する内線番号や外線番号、および本製品で設定した特番などを、あらかじめ登録して、ワンタッチの操作で発信できる機能です。

※外線発信先を登録する場合、外線発信特番設定のプレフィクスを前置きすると、指定回線(発信番号)での発信もできます。
指定しない場合、内線個別設定の回線捕捉設定にしたがいます。



例：ボタン24に〈ワンタッチ〉(特番3000＊101)を割り当てた場合

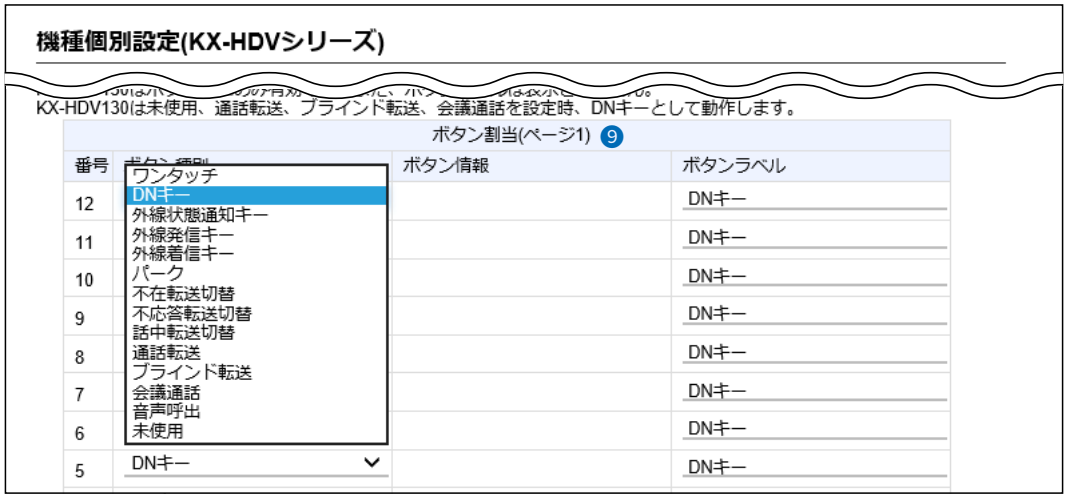
KX-HDV130Nについて

◎機能を ライン1/P1 [ ] 、ライン2/P2 [ ] の2つに割り当てできます。
◎この画面の「ボタン1」、「ボタン2」に割り当てられたものが ライン1/P1 [ ] 、ライン2/P2 [ ] に反映されます。
◎「未使用」、「通話転送」、「会議通話」、「ブラインド転送」を割り当てた場合、DNキーとして動作します。
◎ボタンラベルは表示されません。

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ)(設定グループ)



❾ ボタン割当(1～24) ……

◎**DNキー**(Directory Number)

着信時、自己保留時など、状況を確認して応答できる機能です。

ランプ表示について

高速点滅(青):内線着信中/外線着信中

低速点滅(青):自己保留中(自端末)

点灯(青):通話中

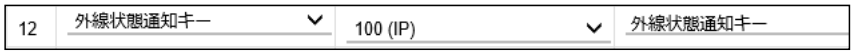
※フレキシブルボタン番号(01 ～24)の点滅(青)は、小さい番号順です。

※〈DNキー〉の割り当ては、最低2つ以上必要です。

※〈DNキー〉と〈外線着信キー〉の合計数が使用できる最大通話数です。
ただし、「通話数制限」画面で通話数が制限されている場合は、そちらを優先します。

◎**外線状態通知キー**

割り当てた回線(IP回線)の使用状況を確認して、着信に応答、外線保留/応答できる機能です。



例:ボタン12に〈外線状態通知キー〉(IP回線)を割り当てた場合

ランプ表示について

赤点滅:外線着信中/外線保留中

赤点灯:外線使用中

※〈外線状態通知キー〉の割り当ては、契約チャネル数分必要です。

DNキーについてのご注意

◎ DNキーは、内線/外線の通話や着信中に1つ、さらに保留など通話呼を保持するときに1つ使用します。

◎ DNキーが不足すると通話呼を保留できない、新たな着信を受けられないような事象が発生します。

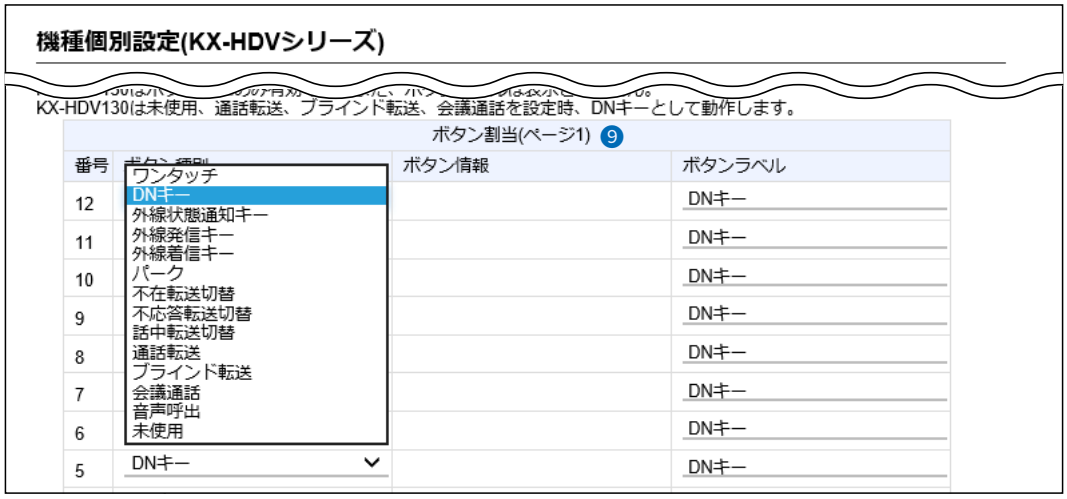
◎KX-HDV130Nでは、ライン1/P1 [ ] 、ライン2/P2 [ ] にDNキー以外を割り当てた場合、内部にDNキーが2つ動作します。
また上記とは別に、内部にDNキー(保留/転送用)が1つ動作します。

※ ライン1/P1 [ ] 、ライン2/P2 [ ] にDNキーを割り当てても、DNキーは2つしか動作しません。

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

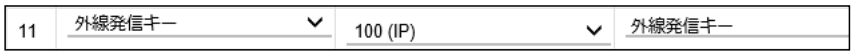
■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ)(設定グループ)



9 ボタン割当(1～24) ……

◎外線発信キー

外線発信時に使用する回線(IP回線)の電話番号を選択できる機能です。



例：ボタン11に〈外線発信キー〉(IP回線)を割り当てた場合

ボタンを押すと、電話機のディスプレイに該当する(設定した)発信プレフィクスが表示され、これにつづけて電話番号をダイヤルすると、選択した回線(IP回線)で発信します。

※〈外線発信キー〉と〈ワンタッチ〉を組み合わせて発信できません。

※電話帳から発信する場合、〈外線発信キー〉による回線捕捉ができません。

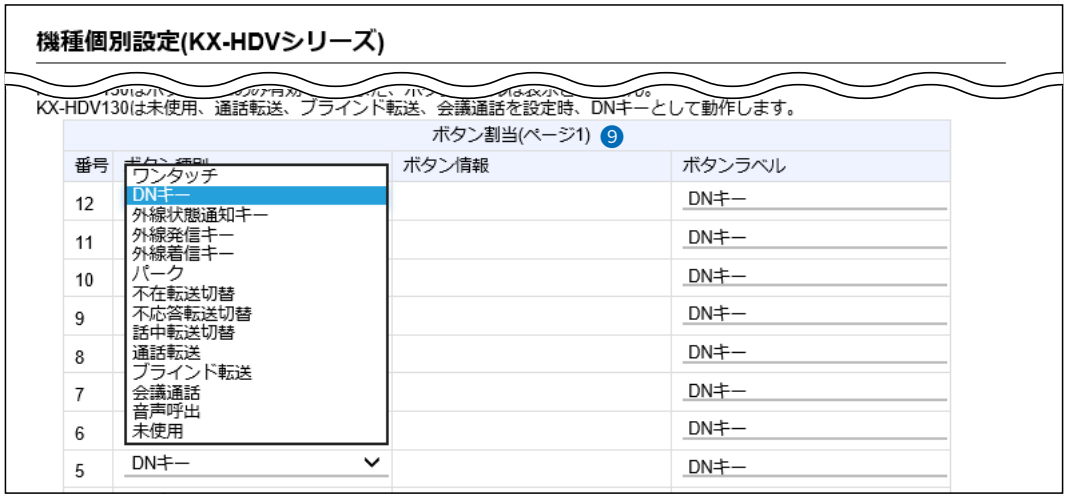
※〈外線発信キー〉と電話帳の短縮番号を組み合わせてダイヤルできません。

※割り当てた回線の使用状況は、〈外線状態通知キー〉で確認できます。

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

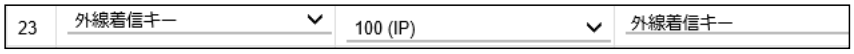
■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ)(設定グループ)



❾ ボタン割当(1～24) ……

◎外線着信キー

割り当てた回線(IP回線)の電話番号への着信に応答できる機能です。

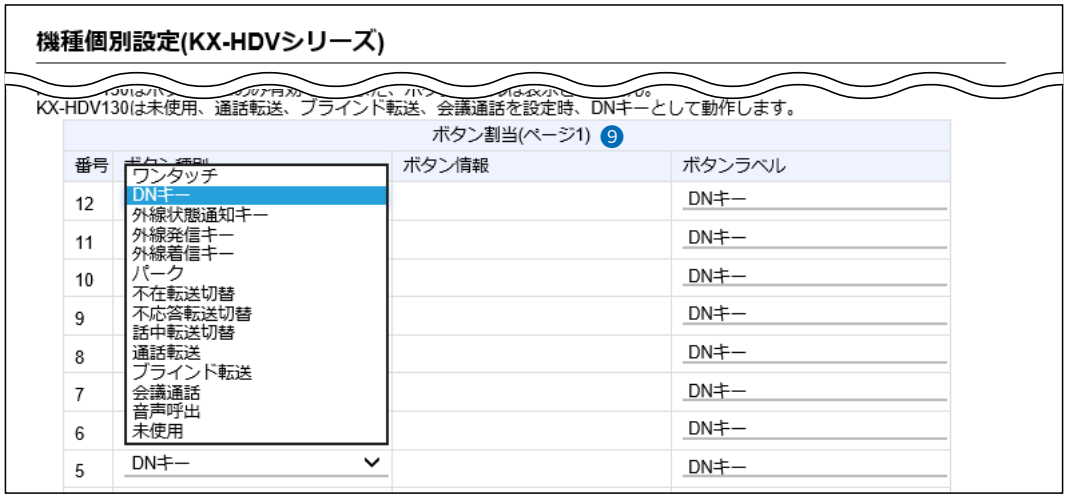


※割り当てた回線の使用状況は、〈外線状態通知キー〉で確認や応答ができます。

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ)(設定グループ)



❾ ボタン割当(1～24) ……

ボタン番号　　パーク番号

例：ボタン1にパーク1を
割り当てた場合

◎パーク

通話をパーク保留して、どの内線子機からでも応答できる機能です。
最低必要な〈DNキー〉の割り当て(2つ)以外に、最大22件まで、パーク保留・応答として設定できます。

※フレキシブルボタンがないKX-HDV130Nだけの場合でも、パーク機能の割り当てが必要です。(左図参照)
ボタン1にパーク機能が割り当てられていない場合は、「＊90」「01」(ボタン番号)をダイヤルしても、パーク保留できません。

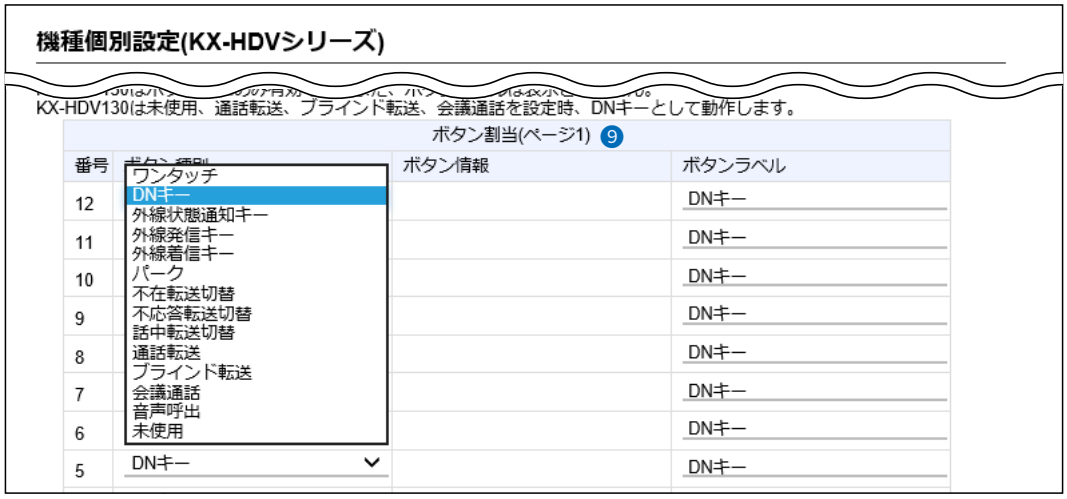
※特番につづけてダイヤルする番号の桁数により動作が異なりますのでご注意ください。
1桁：パーク番号(1～9)
2桁：ボタン番号(01～24)
フレキシブルボタンの番号とパーク番号が一致するようにしてください。
設定が異なると、パーク保留できないことがあります。(下表参照)

ボタン番号とパーク番号 設定例	ダイヤル操作例	
	「＊90」「1」(パーク番号)	「＊90」「01」(パーク番号)
番号が一致している場合 	パーク1が割り当てられたボタン1にパーク保留されます。	ボタン1にパーク保留されます。
番号が一致していない場合 	パーク1が割り当てられたボタン9にパーク保留されます。	ボタン9にパーク保留されません。

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ)(設定グループ)



❾ ボタン割当(1～24) ……

◎不在転送切替

不在中にかかってきた電話をほかの電話機に転送する機能です。

不在転送機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。

※不在転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。

※転送先を設定していない場合は、「特番」画面の[不在転送]欄(P.4-124)で設定した特番(初期設定：＊94)につづけて転送先電話番号をダイヤルすると機能します。

※「PBX設定」メニューの「内線設定」画面で、[内線設定一覧]項目にある〈詳細〉をクリックすると表示される画面でも設定できます。

◎不応答転送切替

電話に応答できないときなど、かかってきた電話をほかの電話機に転送する機能です。

不応答転送機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。

※不応答転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。

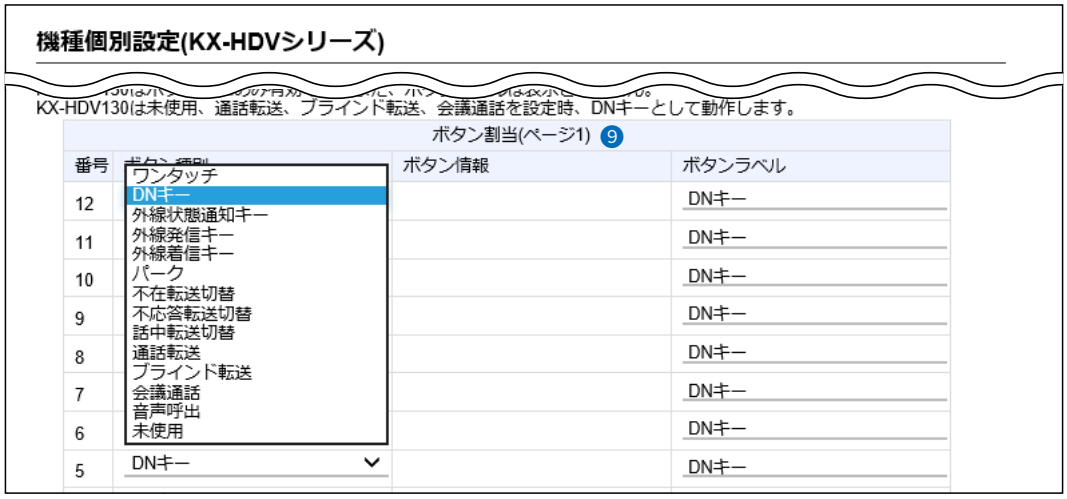
※転送先を設定していない場合は、「特番」画面の[不応答転送]欄(P.11-5)で設定した特番(初期設定：＊95)につづけて転送先電話番号をダイヤルすると機能します。

※「PBX設定」メニューの「内線設定」画面で、[内線設定一覧]項目にある〈詳細〉をクリックすると表示される画面でも設定できます。

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ)(設定グループ)



❾ ボタン割当(1～24) ……

◎話中転送切替

内線通話中にほかの内線がかかってきたときに、登録した電話番号に着信を転送する機能です。

話中転送機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。

※話中転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。

※転送先を設定していない場合は、「特番」画面の[話中転送]欄(P.11-5)で設定した特番(初期設定：＊96)につづけて転送先電話番号をダイヤルすると機能します。

※「PBX設定」メニューの「内線設定」画面で、[内線設定一覧]項目にある〈詳細〉をクリックすると表示される画面でも設定できます。

◎通話転送

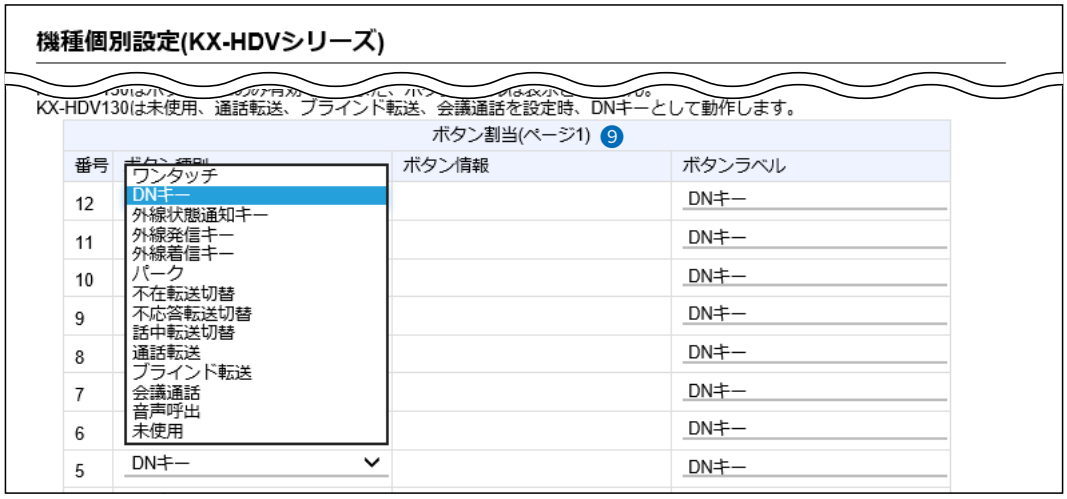
通話を保留して、登録した電話番号に転送する機能です。

転送先と通話後に実行を押す、または受話器を置くと転送完了です。

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX内線詳細設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ)(設定グループ)



❾ ボタン割当(1～24) ……

◎ブラインド転送

通話を保留して、登録した電話番号に転送する機能です。
ブラインド転送が割り当てられたボタンを押すと、転送先と通話せずに、一方的に転送します。

◎会議通話

通話を保留して、登録した電話番号に会議発信をする機能です。
転送先と通話中、□(会議)を押すと、転送先を含めた3者での会議通話ができます。

◎音声呼出

ダイヤルした相手を直接音声で呼び出す機能です。
ボタンを押してダイヤルすると、呼び出し先の電話機(KX-HDVシリーズ)のスピーカー機能が有効になります。

◎未使用

機能を割り当てません。

「増設ユニット(KX-HDV230)」画面

PBX内線詳細設定 > 増設ユニット(KX-HDV230) > 増設ユニット(1～5)

■ 電話機のメンテナンス

IP電話機(KXシリーズ)用の共通電話帳や設定グループごとに登録できる電話帳を編集するときに選択します。

❶ 選択ボックス ……

複数のKXシリーズを再起動するときボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
※[状態](❹)欄が「未接続」と表示されているKXシリーズは選択できません。

❷ 内線番号 ……

「内線個別」画面(P.11-7)で登録された内線番号が表示されます。

❸ ポート種別 ……

「内線個別」画面(P.11-7)で登録された内線子機の機種(SIPフォン(自動)、SIPフォン(KX-UTシリーズ)、SIPフォン(KX-HDVシリーズ)、標準SIPフォン、標準SIPフォン(WLAN)、無線機コントローラー電話接続、コンバーターブリッジ)が表示されます。

❹ 状態 ……

本製品に登録された内線子機の接続状況が「接続済み」/「未接続」で表示されます。
※電話機の電源が入っていないときやネットワークに接続されていないときなど、本製品のSIPサーバーに登録(レジスト)されていない状態では、「未接続」が表示されます。
※ポート種別が「コンバーターブリッジ」、「無線機コントローラー接続接続」の場合は、「--」が表示されます。

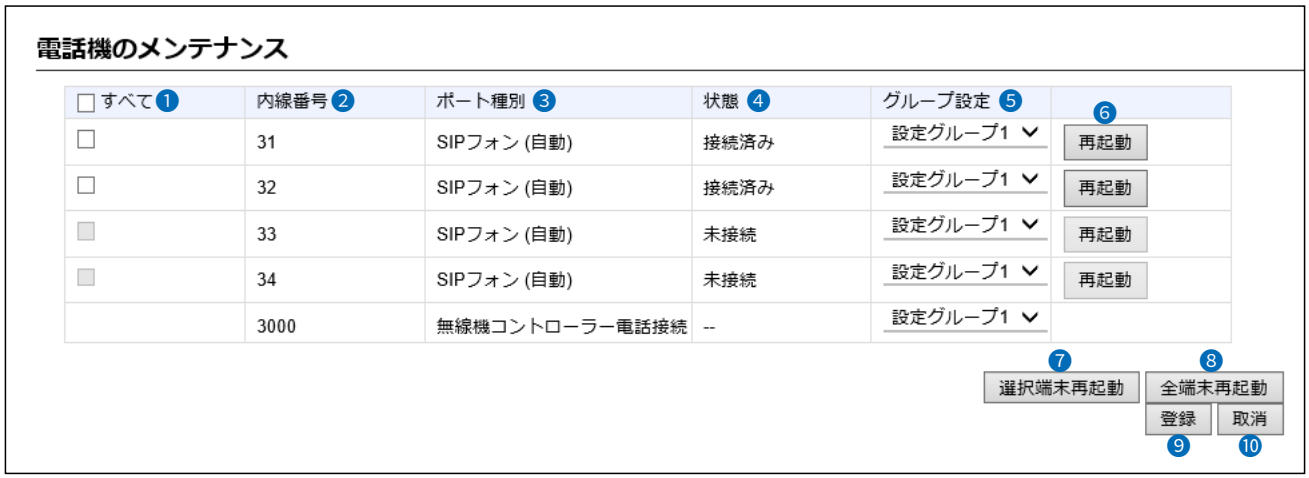
❺ グループ設定 ……

本製品に登録された内線子機に対して、設定グループを設定します。
設定できる範囲は、「設定グループ1 ～設定グループ30」までです。
(初期設定：設定グループ1)
設定グループごとに、フレキシブルキーの機能割り当てを使用できます。
※フレキシブルボタンに割り当てた機能を、ほかの内線子機から、特番＋ボタン番号指定操作で利用する場合(例：外線キー保留への応答はパーク応答)は、設定グループを同じ設定にしてください。

「増設ユニット(KX-HDV230)」画面

PBX内線詳細設定 > 増設ユニット(KX-HDV230) > 増設ユニット(1～5)

■ 電話機のメンテナンス



❻〈再起動〉 …… [状態](❹)欄が「接続済み」と表示されているKXシリーズを再起動するとき、クリックします。

❼〈選択端末再起動〉 …… [選択ボックス](❶)欄でチェックしたすべてのKXシリーズを一斉に再起動できます。

❽〈全端末再起動〉 …… [状態](❹)欄が「接続済み」と表示されているすべてのKXシリーズを一斉に再起動できます。

❾〈登録〉 …… [電話機のメンテナンス]項目で設定した内容を登録するボタンです。

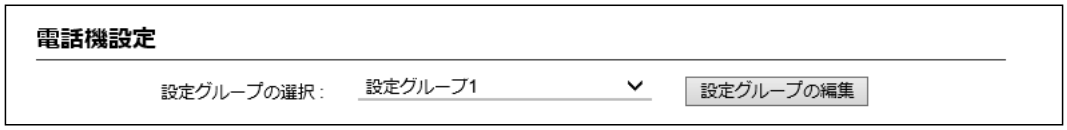
❿〈取消〉 …… 「電話機のメンテナンス」項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「増設ユニット(KX-HDV230)」画面

PBX内線詳細設定 > 増設ユニット(KX-HDV230) > 増設ユニット(1～5)

■ 電話機設定

本製品に登録した内線子機(IP電話機)の設定グループを変更します。



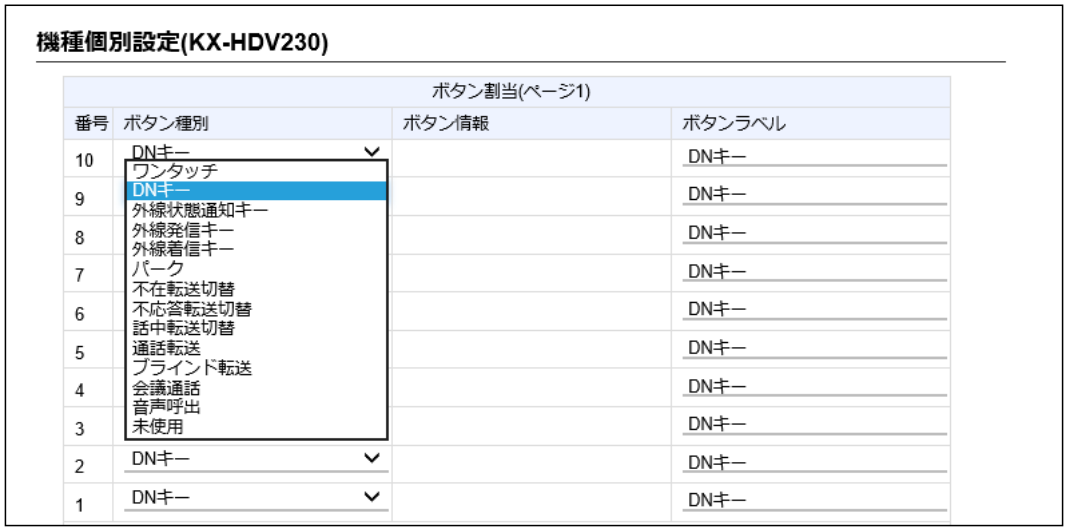
設定グループの選択……　本製品に登録した内線子機について設定する項目を、「設定グループ1」～「設定グループ30」から選択します。
〈設定グループの編集〉をクリックすると、選択した設定グループの内容に切り替わります。

「増設ユニット(KX-HDV230)」画面

PBX内線詳細設定 > 増設ユニット(KX-HDV230) > 増設ユニット(1～5)

■ 機種個別設定(KX-HDV230)

本製品に登録した増設ユニットのフレキシブルボタンについて設定します。



ボタン割当……
増設ユニット1(1～40)
増設ユニット2(41 ～ 80)
増設ユニット3(81 ～ 120)
増設ユニット4(121～ 160)
増設ユニット5(161～ 200)

増設ユニットのフレキシブルボタンごとに機能を割り当てます。
各機能の説明は、13-36ページ～13-43ページをご覧ください。
◎ワンタッチ★
◎DNキー(Directory Number)
◎外線状態通知キー
◎外線発信キー★
◎外線着信キー
◎パーク
◎不在転送切替
◎不応答転送切替
◎話中転送切替
◎通話転送★
◎ブラインド転送★
◎会議通話★
◎音声呼出★
◎未使用★
※増設ユニット2～5に割り当てられるのは、★印のものだけです。

「電話帳」画面

PBX内線詳細設定 > 電話帳

■ 設定グループの選択

IP電話機(KXシリーズ)用の共通電話帳や設定グループごとに登録できる電話帳を編集するときに選択します。

電話帳の選択……

編集するIP電話機(KXシリーズ)用の電話帳を、〈共通〉、〈設定グループ1〉～〈設定グループ30〉から選択します。

クリックすると、選択した電話帳の登録内容を[電話帳登録一覧]項目(P.13-53)で確認、または編集できます。

※[電話帳の保存と書き込み]項目では、選択した電話帳ごとに、電話帳の保存やファイルを書き込みできます。

※登録した件数は、それぞれのボタンの下に表示されます。

※IP電話機(KXシリーズ)の設定グループは、「電話機(KX-UT/KX-HDVシリーズ)」画面の[電話機のメンテナンス]項目(P.13-3、P.13-23)で登録できます。

「電話帳」画面

PBX内線詳細設定 > 電話帳

■ 電話帳の保存と書き込み

選択した電話帳ごとに、ファイルに保存したり、保存したファイルを本製品に書き込んだりします。

❶ 保存したファイルを書き込む …

[ファイルに保存する]（❸）欄の操作で保存した「電話帳登録ファイル」（拡張子：csv）の内容を本製品に書き込むとき使用します。
電話帳登録ファイルの保存先を指定するため、〈参照...〉をクリックします。
表示された画面で目的の電話帳登録ファイルを選択して、〈開く(O)〉をクリックします。
テキストボックスに保存先を指定後、〈書き込み〉をクリックすると、[電話帳登録一覧]項目にその内容を書き込みます。
書き込む前の内容は、消去されますのでご注意ください。
※「管理」メニューの「設定の保存/復元」画面で保存された設定ファイルを書き込むと、あとから書き込んだ設定ファイルの内容に上書きしますのでご注意ください。
※下記ファイル以外のインポートは、保証対象外になります。
◎[ファイルに保存する]（❸）欄の操作で保存した状態のファイル
◎13-50ページの書式で保存した状態のファイル

❷ 文字コード ……

[ファイルに保存する]（❸）欄で保存するファイルの文字コードを「UTF-8」、「Shift_JIS」から選択します。　（初期設定：UTF-8）

❸ ファイルに保存する ……

[電話帳登録一覧]項目に表示された内容を電話帳登録ファイルとして、パソコンに保存します。
〈保存〉をクリックして、表示された画面の〈保存(S)〉をクリックすると、電話帳登録ファイル（拡張子：csv）として保存できます。
※ファイル名は、[設定グループの選択]項目（P.13-48）でクリックしたボタンに応じて変わります。
たとえば、設定グループ1をクリックしたときの電話帳登録ファイル名は、phonebook01.csvになります。

「電話帳」画面

PBX内線詳細設定 > 電話帳

■ 電話帳の保存と書き込み

電話帳登録ファイルのインポートについて

保存した状態のファイル(P.13-49)、および下記条件で編集したファイル以外の書き込みは、保証対象外になります。

「電話帳登録ファイル」(拡張子：csv)の書式

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	#文字コードの自動解析に使用しているため、コメント文は消さないでください。									
2	#	VE-PG4	多機能電話電話帳	設定保存ファイル						
3	#	Firm Ver.								
4	#	File Ver.								
5	#番号	名前	電話番号	__	__	ヨミガナ	短縮番号	表示種別(0=電話番号、1=短縮番号)	回線種別(0=外線、1=内線)	電話帳グループ
6	1	ICOM1	tel:05012345678			アイコム1	tel:201	0	0	1
7	2	ICOM2	tel:05012345679			アイコム2	tel:202	0	0	1
8	3	営業所1	tel:0612345678			エイギョウショ1	tel:	0	0	1

A列：登録番号(共通電話帳：1～300、グループ電話帳：1～100)、重複しない番号を入力
B列：名前(半角30(全角15)文字以内)
C列：電話番号(tel:半角数字22桁以内)、文字列認識用のため、tel:につづけて入力
D列：文字の入力はしないこと(入力すると、内容は無効になる)、列は削除しないこと
E列：文字の入力はしないこと(入力すると、内容は無効になる)、列は削除しないこと
F列：ヨミガナ(任意の半角30文字以内)
G列：短縮番号(tel:半角数字7桁以内)、文字列認識用のため、tel:につづけて入力
※短縮番号を使用しない場合は、空白にすること
H列：表示種別(電話番号：0、短縮番号：1)
I列：回線種別(外線：0、内線：1)
※設定を変更しないでください。
J列：電話帳グループ(1 ～ 10)
※設定を変更しないでください。

ご注意

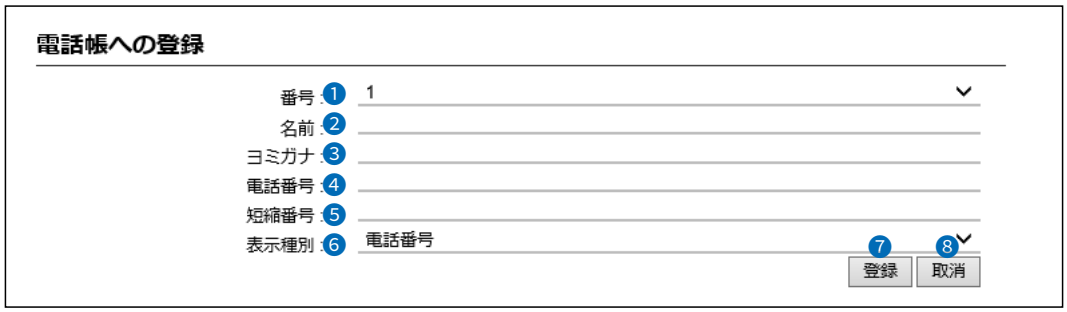
◎A列、C列、G列には、コメント行(A列の#ではじまる行)を除き、重複しない番号を入力してください。
上記画面の例では、1行～4行がコメント行です。
◎一度、[ファイルに保存する]欄(P.13-49)の操作で、CSVファイルとして保存してから、そのCSVファイルを表計算ソフトウェアなどで編集してください。
◎CSVファイルに含まれる改行コードがエラーの原因となりますので、他機種からの電話帳を移行する場合は、テキストエディターなどで不要な改行コードを削除してください。
◎JIS第2水準、旧字体などの一部で、正しく表示されない文字があります。
◎KX-UTシリーズの電話機では、UTF-16非対応の文字(㈱、℡など)が使用できません。

「電話帳」画面

PBX内線詳細設定 > 電話帳

■ 電話帳への登録

よく利用する電話番号を電話帳に登録します。
※電話帳を利用した発信など電話機ごとの操作については、VE-PG4取扱説明書[導入編]の4章も併せてご覧ください。



❶ 番号 ……

相手先電話番号を登録する番号を設定します。
◎**共通電話帳の場合**　：「1」～「300」の番号を選択します。
◎**グループ電話帳の場合**　：「1」～「100」の番号を選択します。

❷ 名前* ……

相手の名前を、任意の半角30文字(全角15)以内で入力します。

❸ ヨミガナ* ……

相手のヨミガナを、任意の半角30文字以内で入力します。
※半角カタカナ、半角英数字が使用できます。
※全角カナは、半角カタカナに変換されます。

❹ 電話番号* ……

電話機からダイヤルする電話番号を、半角数字22桁以内で入力します。
※「電話番号ルーティング設定」画面で設定した宛先電話番号、プレフィクスを付加した電話番号でも登録できます。

❺ 短縮番号 ……

必要に応じて、短縮番号を、半角数字7桁以内で入力します。
外線(IP回線)へ発信する、またはPeer to Peer(SIPサーバーを経由しない1対1での通話)で発信する場合に使用できます。
※特番やプレフィクスと短縮番号を組み合わせてダイヤルできません。
※KX-UT136N、KX-HDV230Nに割り当てられた〈外線発信キー〉と短縮番号を組み合わせてダイヤルできません。
※短縮番号が使用できるのは、内線個別設定で割り当てた回線捕捉番号だけです。
※短縮番号は、KXシリーズ以外の電話機からも利用できます。

短縮ダイヤル機能について

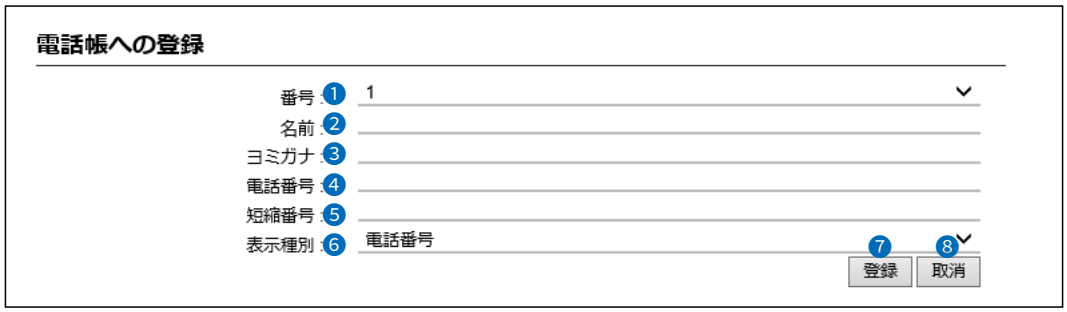
[短縮番号]欄に、緊急通報(110、118、119)、時報(117)や天気予報(177)など、「1」ではじまる3桁の番号を設定して、その番号をダイヤルすると、短縮番号発信が優先されるため、該当するサービスへ発信できないことがあります。
短縮ダイヤル機能は、特別な理由がない限り、「1」ではじまる3桁の番号を避けてご利用していただくことをおすすめします。

★空白(何も設定していない)の場合、電話帳に登録できません。

「電話帳」画面

PBX内線詳細設定 > 電話帳

■ 電話帳への登録



6 表示種別 …… 発信者の名前を表示させるとき、発信した相手の「短縮番号」、または「電話番号」のどちらを名前表示の識別に使用するかを選択します。
（初期設定：電話番号）

7 〈登録〉 …… [電話帳への登録]項目で設定した内容を登録するボタンです。

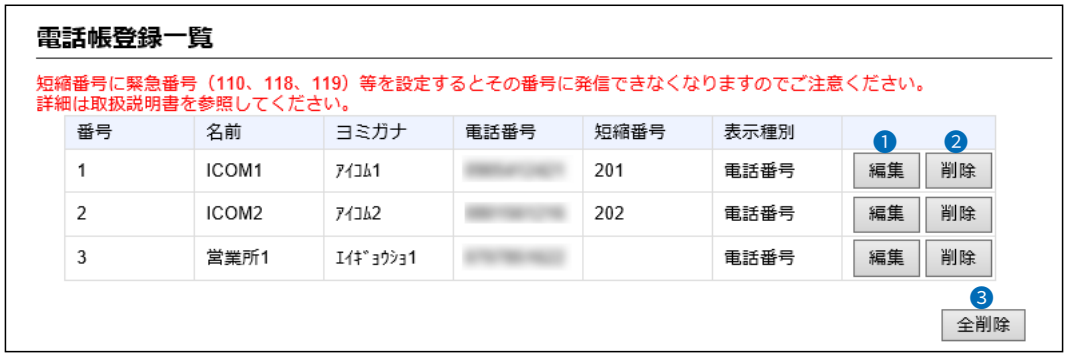
8 〈取消〉 …… [電話帳への登録]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「電話帳」画面

PBX内線詳細設定 > 電話帳

■ 電話帳登録一覧

[電話帳への登録]項目(P.13-51)で登録した内容が表示されます。



❶〈編集〉 …… クリックすると、ボタンの左欄に表示された内容を[電話帳への登録]項目で編集できます。

❷〈削除〉 …… ボタンの左欄に表示された登録内容を削除するとき、クリックします。

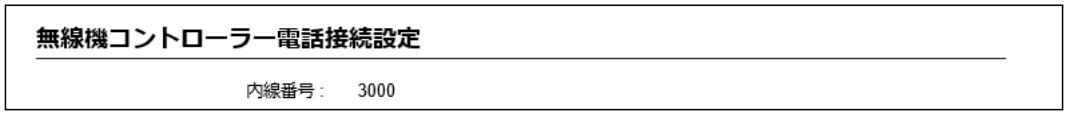
❸〈全削除〉 …… 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。

「無線機コントローラー電話接続」画面

PBX内線詳細設定 > 無線機コントローラー電話接続

■ 無線機コントローラー電話接続設定

本製品に収容した無線機とIP電話機が通話するための設定です。



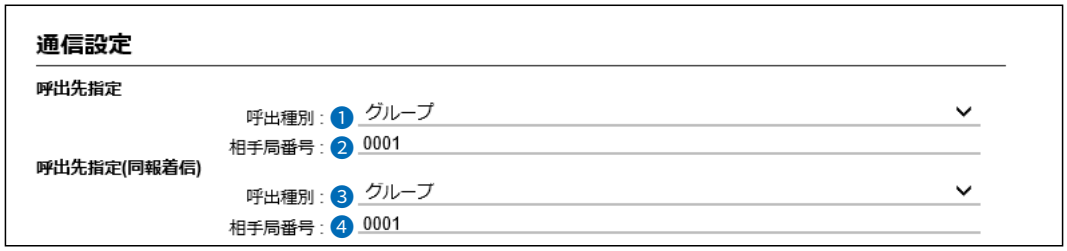
内線番号…… 「内線個別」画面の「内線設定」で設定した、「無線機コントローラー電話接続」の内線番号が表示されます。

「無線機コントローラー電話接続」画面

PBX内線詳細設定 > 無線機コントローラー電話接続

■ 通信設定

本製品に収容した無線機とIP電話機が通話するための設定です。



❶ 呼出種別 ……

電話機から本製品に収容した無線機を呼び出す形態を「個別」/「グループ」/「全体」から選択します。（初期設定：グループ）

❷ 相手局番号 ……

相手先の機器に設定された自局番号（個別番号）、またはグループ番号を設定します。（初期設定：0001）
設定できる範囲は、「0001～9999」です。
※［呼出種別］（❶）欄で、「全体」を選択しているときは、表示されません。

❸ 呼出種別 ……

「IP回線設定」メニューの「Peer to Peer」画面で設定された同報SIP URIから、本製品に収容した無線機を呼び出す形態を「個別」/「グループ」/「全体」から選択します。（初期設定：グループ）
※「Peer to Peer」画面の［同報着信］欄（P.10-8）を「有効」に設定していない場合、この機能を使用することができません。

❹ 相手局番号 ……

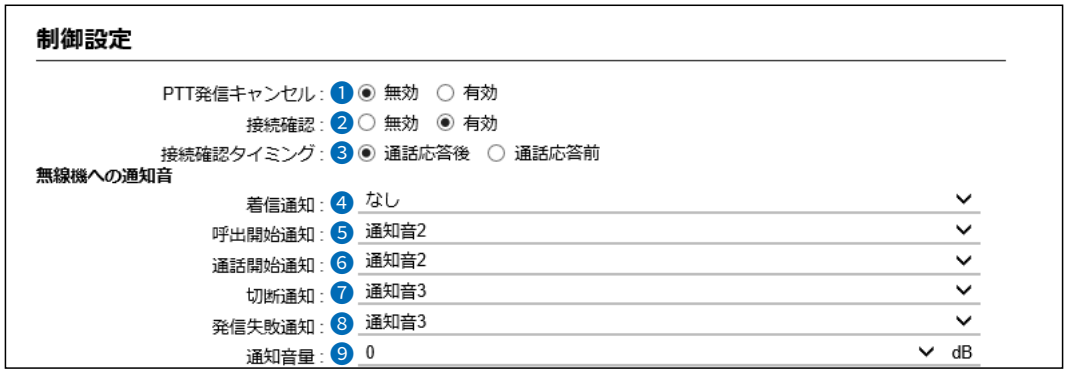
相手先の機器に設定された自局番号（個別番号）、またはグループ番号を設定します。（初期設定：0001）
設定できる範囲は、「0001～9999」です。
※［呼出種別］（❸）欄で、「全体」を選択しているときは、表示されません。
※「Peer to Peer」画面の［同報着信］欄（P.10-8）を「有効」に設定していない場合、この機能を使用することができません。

「無線機コントローラー電話接続」画面

PBX内線詳細設定 > 無線機コントローラー電話接続

■ 制御設定

本製品に収容した無線機とIP電話機の制御について設定します。



❶ PTT発信キャンセル ……

本製品に収容した無線機からIP電話機を呼び出し中、その無線機から再度呼び出しがあった場合、現在の呼び出しを中止します。　（初期設定：無効）

❷ 接続確認 ……

本製品に収容したIP電話機から無線機を呼び出したとき、接続確認をするための設定です。　（初期設定：有効）
「有効」に設定すると、接続確認に失敗した場合、通話を切断します。
※接続確認が失敗となるのは、無線機が通話中、または応答なし（タイムアウト5秒）の場合です。

❸ 接続確認タイミング ……

本製品に収容したIP電話機から無線機を呼び出したとき、接続確認をするタイミングを設定します。　（初期設定：通話応答後）
◎**通話応答後**：通話確立後に接続確認をします。
◎**通話応答前**：通話確立前に接続確認をします。

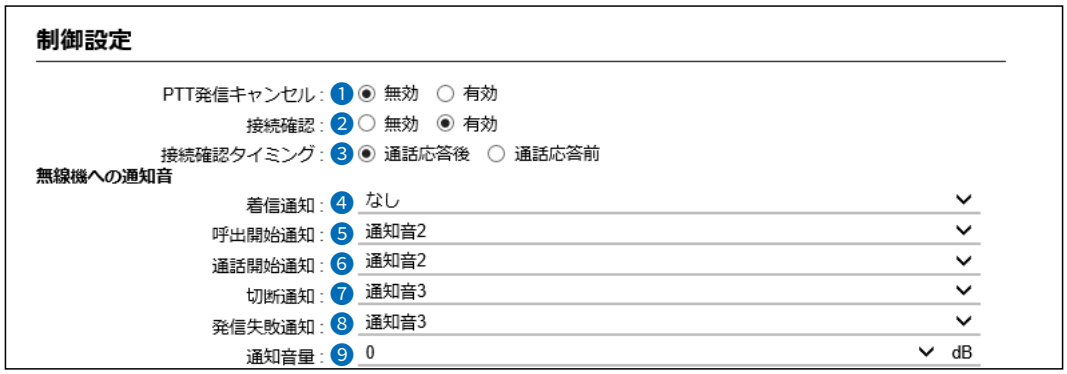
❹ 着信通知 ……

本製品に収容しているIP電話機からの着信を無線機に音で通知するかしないかを、「なし」、「通知音1」～「通知音3」から選択します。　（初期設定：なし）
※「なし」を設定時、無線機は自動応答になります。
※「通知音1」～「通知音3」を設定時、着信音が繰り返し鳴ります。
この時、無線機が、着信音と着信音のあいだ（無音）のタイミングで送信（送話）することで応答できます。

「無線機コントローラー電話接続」画面

PBX内線詳細設定 > 無線機コントローラー電話接続

■ 制御設定



❺ 呼出開始通知 …… 無線機からIP電話機を呼び出し中、その状態を無線機に音で通知するかしないかを、「なし」、「通知音1」～「通知音3」から選択します。
（初期設定：通知音2）

❻ 通話開始通知 …… 通話相手（IP電話機）が受話器を上げたとき、その状態を無線機に音で通知するかしないかを、「なし」、「通知音1」～「通知音3」から選択します。
（初期設定：通知音2）

❼ 切断通知 …… 通話相手（IP電話機）が受話器を置いたとき、無線機に音で切断を通知するかしないかを、「なし」、「通知音1」～「通知音3」から選択します。
（初期設定：通知音3）

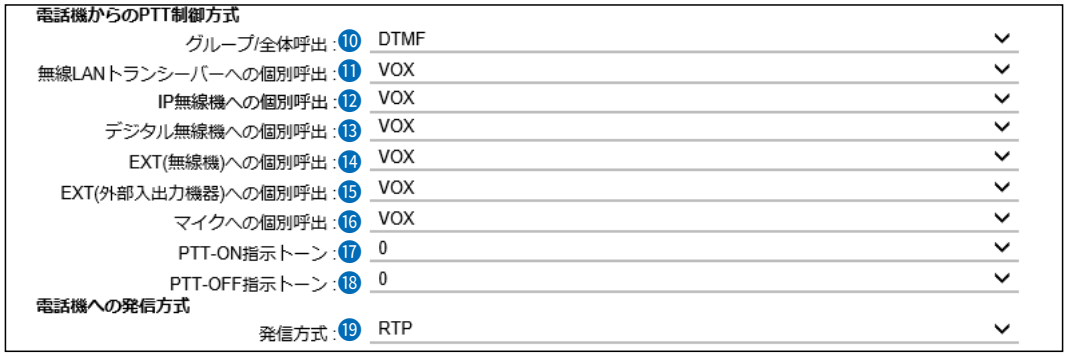
❽ 発信失敗通知 …… 無線機から通話相手（IP電話機）に呼び出しができないとき、その状態を無線機に音で通知するかしないかを、「なし」、「通知音1」～「通知音3」から選択します。
（初期設定：通知音3）

❾ 通知音量 …… 通知音（❹～❽）設定時の音量レベルを設定します。
設定できる範囲は、「＋6」～「－12」（dB）です。
（初期設定：0）

「無線機コントローラー電話接続」画面

PBX内線詳細設定 > 無線機コントローラー電話接続

■ 制御設定



※[グループ/全体呼出](⑩)欄～[マイクへの個別呼出](⑯)欄のいずれかを「DTMF」に設定したときだけ、[PTT-ON指示トーン](⑰)欄、[PTT-OFF指示トーン](⑱)欄が表示されます。

⑩ グループ/全体呼出 ……

電話機側の送話や受話の切り替えに使用する入力信号の種類を、「VOX」(音声信号)、「DTMF」(トーン信号)、「通話中常時送信」から選択します。

(初期設定：VOX)

◎**VOX** ：IP電話機から発声すると、音声信号を検知して、本製品に収容した無線機が送信状態になります。

◎**DTMF** ：IP電話機からのトーン信号を検知して、本製品に収容した無線機が送信状態になります。

◎**通話中常時送信**：通話を開始した時点から、本製品に収容した無線機が送信状態になります。

※通話中常時送信時、ブリッジ接続先からの受信(VOXやRTP)だけで、「無通話切断タイマー」(P.13-66)を判定します。本製品に収容した無線機から受信応答がない場合、無通話切断タイマーが動作することがあります。

⑪ 無線LANトランシーバーへの個別呼出 ……

電話機側の送話や受話の切り替えに使用する入力信号の種類を、「VOX」(音声信号)、「DTMF」(トーン信号)、「通話中常時送信」から選択します。

(初期設定：VOX)

◎**VOX** ：IP電話機から発声すると、音声信号を検知して、無線LANトランシーバーが受信状態になります。

◎**DTMF** ：IP電話機からのトーン信号を検知して、無線LANトランシーバーが受信状態になります。

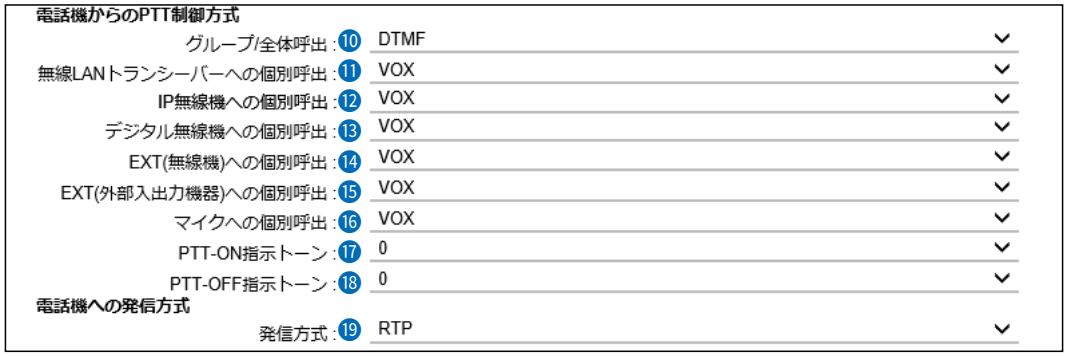
◎**通話中常時送信**：通話を開始した時点から、無線LANトランシーバーが受信状態になります。

※通話中常時送信時、無線LANトランシーバーからの受信(VOXやRTP)だけで、「無通話切断タイマー」(P.13-66)を判定します。無線LANトランシーバーから受信応答がない場合、無通話切断タイマーが動作することがあります。

「無線機コントローラー電話接続」画面

PBX内線詳細設定 > 無線機コントローラー電話接続

■ 制御設定



※[グループ/全体呼出](⑩)欄～[マイクへの個別呼出](⑯)欄のいずれかを「DTMF」に設定したときだけ、[PTT-ON指示トーン](⑰)欄、[PTT-OFF指示トーン](⑱)欄が表示されます。

⑫ IP無線機への個別呼出 ……

電話機側の送話や受話の切り替えに使用する入力信号の種類を、「VOX」(音声信号)、「DTMF」(トーン信号)、「通話中常時送信」から選択します。

(初期設定：VOX)

◎**VOX**　：IP電話機から発声すると、音声信号を検知して、本製品に接続されたIP無線機が送信状態になります。

◎**DTMF**　：IP電話機からのトーン信号を検知して、本製品と接続されたIP無線機が送信状態になります。

◎**通話中常時送信**：通話を開始した時点から、IP無線機が送信状態になります。

※通話中常時送信時、IP無線機からの受信(VOXやRTP)だけで、「無通話切断タイマー」(P.13-66)を判定します。ブリッジ接続先から受信応答がない場合、無通話切断タイマーが動作することがあります。

⑬ デジタル無線機への個別呼出 …

電話機側の送話や受話の切り替えに使用する入力信号の種類を、「VOX」(音声信号)、「DTMF」(トーン信号)、「通話中常時送信」から選択します。

(初期設定：VOX)

◎**VOX**　：IP電話機から発声すると、音声信号を検知して、デジタル無線機が送信状態になります。

◎**DTMF**　：IP電話機からのトーン信号を検知して、デジタル無線機が送信状態になります。

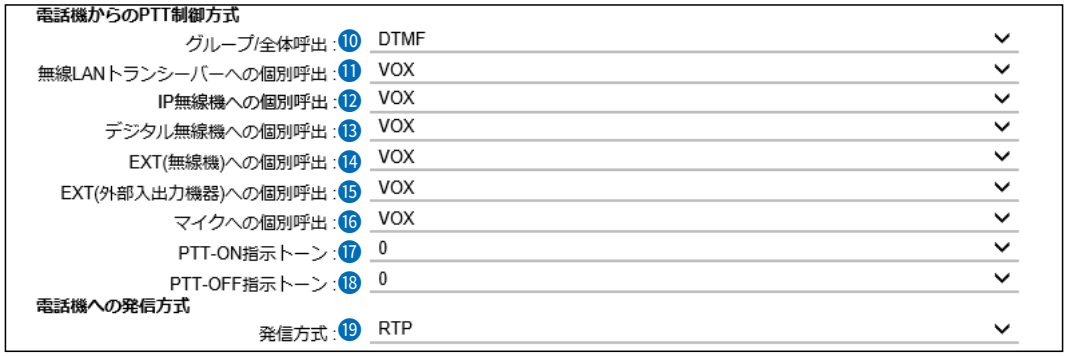
◎**通話中常時送信**：通話を開始した時点から、デジタル無線機が送信状態になります。

※通話中常時送信時、デジタル無線機からの受信(VOXやRTP)だけで、「無通話切断タイマー」(P.13-66)を判定します。デジタル無線機から受信応答がない場合、無通話切断タイマーが動作することがあります。

「無線機コントローラー電話接続」画面

PBX内線詳細設定 > 無線機コントローラー電話接続

■ 制御設定



※[グループ/全体呼出](⑩)欄～[マイクへの個別呼出](⑯)欄のいずれかを「DTMF」に設定したときだけ、[PTT-ON指示トーン](⑰)欄、[PTT-OFF指示トーン](⑱)欄が表示されます。

⑭ EXT(無線機)への個別呼出 ……

電話機側の送話や受話の切り替えに使用する入力信号の種類を、「VOX」(音声信号)、「DTMF」(トーン信号)、「通話中常時送信」から選択します。

(初期設定：VOX)

◎**VOX** ：IP電話機から発声すると、音声信号を検知して、EXT(無線機)が送信状態になります。

◎**DTMF** ：IP電話機からのトーン信号を検知して、EXT(無線機)が送信状態になります。

◎**通話中常時送信**：通話を開始した時点から、EXT(無線機)が送信状態になります。

※通話中常時送信時、EXT(無線機)からの受信(VOXやRTP)だけで、「無通話切断タイマー」(P.13-66)を判定します。EXT(無線機)から受信応答がない場合、無通話切断タイマーが動作することがあります。

⑮ EXT(外部入力機器)への個別呼出 ……

電話機側の送話や受話の切り替えに使用する入力信号の種類を、「VOX」(音声信号)、「DTMF」(トーン信号)、「通話中常時送信」から選択します。

(初期設定：VOX)

◎**VOX** ：IP電話機から発声すると、音声信号を検知して、EXT(外部入力機器)が送信状態になります。

◎**DTMF** ：IP電話機からのトーン信号を検知して、EXT(外部入力機器)が送信状態になります。

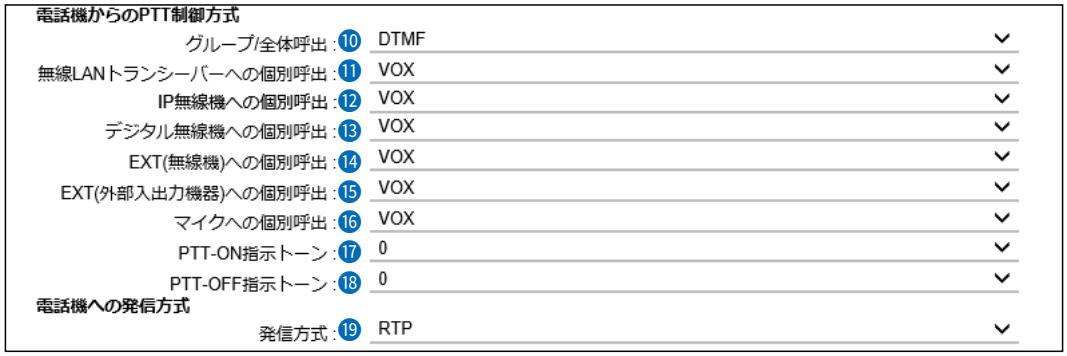
◎**通話中常時送信**：通話を開始した時点から、EXT(外部入力機器)が送信状態になります。

※通話中常時送信時、EXT(外部入力機器)からの受信(VOXやRTP)だけで、「無通話切断タイマー」(P.13-66)を判定します。EXT(外部入力機器)から受信応答がない場合、無通話切断タイマーが動作することがあります。

「無線機コントローラー電話接続」画面

PBX内線詳細設定 > 無線機コントローラー電話接続

■ 制御設定



※[グループ/全体呼出](⑩)欄～[マイクへの個別呼出](⑯)欄のいずれかを「DTMF」に設定したときだけ、[PTT-ON指示トーン](⑰)欄、[PTT-OFF指示トーン](⑱)欄が表示されます。

⑯ マイクへの個別呼出 ……

電話機側の送話や受話の切り替えに使用する入力信号の種類を、「VOX」(音声信号)、「DTMF」(トーン信号)、「通話中常時送信」から選択します。

(初期設定：VOX)

◎**VOX**　：IP電話機から発声すると、音声信号を検知して、スピーカーマイクロホンが受信状態になります。

◎**DTMF**　：IP電話機からのトーン信号を検知して、スピーカーマイクロホンが受信状態になります。

◎**通話中常時送信**：通話を開始した時点から、スピーカーマイクロホンが受信状態になります。

※通話中常時送信時、スピーカーマイクロホンからの受信(VOXやRTP)だけで、「無通話切断タイマー」(P.13-66)を判定します。スピーカーマイクロホンから受信応答がない場合、無通話切断タイマーが動作することがあります。

⑰ PTT-ON指示トーン ……

[グループ/全体呼出](⑩)欄～[マイクへの個別呼出](⑯)欄のいずれかで「DTMF」を選択したとき、IP電話機から無線機を送信状態にするトーン信号(DTMF)を、「0～9」、「＊」、「＃」から選択します。

(初期設定：0)

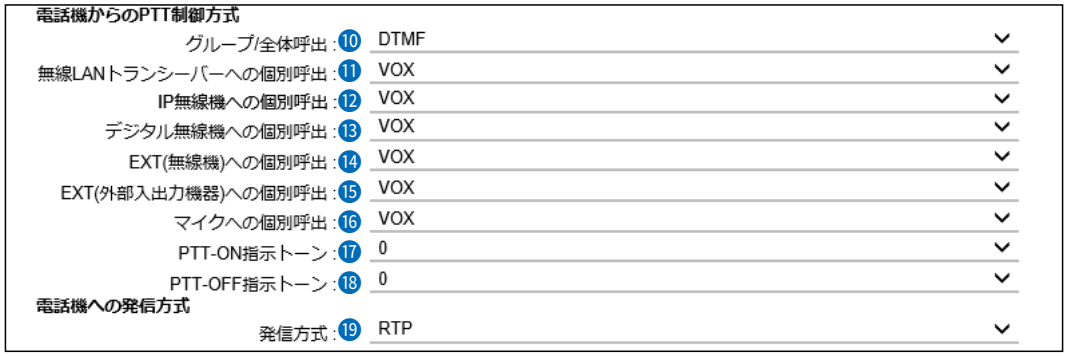
※相手の内線番号をダイヤルし、ここで設定した番号のボタンをIP電話機から押すと、トーン信号の入力を検知して、本製品と接続された無線機が送信状態になります。

※[PTT－OFF指示トーン](⑱)欄の設定と同じ値を設定したときは、ここで設定した番号のボタンを押すごとに送信の開始と停止を操作できます。

「無線機コントローラー電話接続」画面

PBX内線詳細設定 > 無線機コントローラー電話接続

■ 制御設定



※[グループ/全体呼出](⑩)欄～[マイクへの個別呼出](⑯)欄のいずれかを「DTMF」に設定したときだけ、[PTT-ON指示トーン](⑰)欄、[PTT-OFF指示トーン](⑱)欄が表示されます。

⑱ PTT-OFF指示トーン ……

[グループ/全体呼出](⑩)欄～[マイクへの個別呼出](⑯)欄のいずれかで「DTMF」を選択したとき、無線機の送信を停止するトーン信号(DTMF)を、「0～9」、「＊」、「＃」から選択します。

(初期設定：0)

※通話中、ここで設定した番号のボタンをIP電話機から押すと、トーン信号の入力を検知して、本製品と接続された無線機の送信を停止します。

※[PTT－ON指示トーン](⑰)欄の設定と同じ値を設定したときは、ここで設定した番号のボタンを押すごとに送信の開始と停止を操作できます。

⑲ 発信方式 ……

無線機コントローラーからIP電話システムへの発信トリガーを設定します。

(初期設定：RTP)

◎**VOX**：ブリッジインターフェースから受けたRTP(音声データパケット)に含まれる音声の有無をVOXで判定し、発信を開始します。

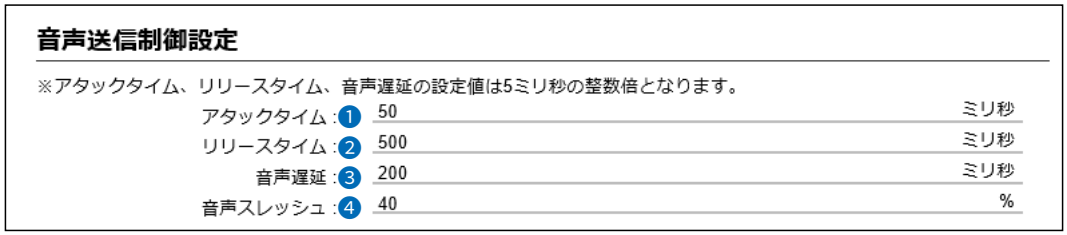
◎**RTP**：音声データの有無に関係なく、RTP(音声データパケット)受信をアタックタイム時間以上で判定し発信を開始します。

「無線機コントローラー電話接続」画面

PBX内線詳細設定 > 無線機コントローラー電話接続

■ 音声送信制御設定

本製品に収容したIP電話機からの音声入力信号の有無により、無線機コントローラーへの送話を制御するための設定をします。



❶ アタックタイム ……

IP電話機から音声信号が入力されたことを検知するまでの時間を設定します。
ここで設定した時間、連続して音声信号が検知されると、音声が入力されたと判断します。（初期設定：50）
設定できる範囲は、「5～500(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

❷ リリースタイム ……

IP電話機から音声信号が途絶えたことを検知する時間を設定します。
ここで設定した時間、音声信号が途絶えると、音声入力がなくなったと判断します。（初期設定：500）
設定できる範囲は、「5～2000(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

❸ 音声遅延 ……

音声信号を蓄積し、遅延再生する時間を設定します。（初期設定：200）
IP電話機と無線機などで通話中、IP電話機からの音声入力を検出後、送話音を設定された時間だけ遅らせて、無線機に送出します。
無線機側で、通話頭切れなどの問題がある場合、設定値を大きくすることで改善できることがあります。
設定できる範囲は、「0～1500(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

❹ 音声スレッシュ ……

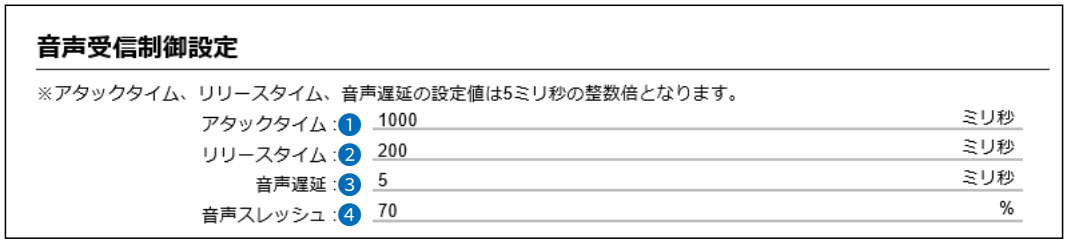
IP電話機からの音声入力レベルのしきい値を設定します。（初期設定：40）
設定できる範囲は、「0～100」(%)です。
※設定値が小さいほど、小さな音声でも検知します。

「無線機コントローラー電話接続」画面

PBX内線詳細設定 > 無線機コントローラー電話接続

■ 音声受信制御設定

無線機コントローラーからの音声入力信号の有無により、本製品に収容したIP電話機への送話を制御する設定をします。



❶ アタックタイム ……

無線機コントローラーから音声信号が入力されたことを検知する時間を設定します。
ここで設定した時間、連続して音声信号が検知されると、音声が入力されたと判断します。（初期設定：1000）
設定できる範囲は、「5～2000(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

❷ リリースタイム ……

無線機コントローラーから音声信号が途絶えたことを検知する時間を設定します。
ここで設定した時間、音声信号が途絶えると、音声入力がなくなったと判断します。（初期設定：200）
設定できる範囲は、「5～2000(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

❸ 音声遅延 ……

音声信号を蓄積し、遅延再生する時間を設定します。（初期設定：5）
IP電話機と無線機などで通話中、無線機からの音声受信を検出後、音声を設定された時間だけ遅らせてIP電話機に送出します。
IP電話機側で通話頭切れなどの問題がある場合、設定値を大きくすることで改善できる場合があります。
設定できる範囲は、「0～500(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

❹ 音声スレッシュ ……

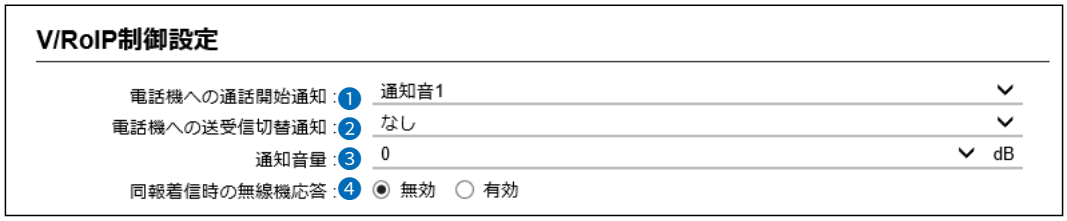
無線機コントローラーからの音声入力レベルのしきい値を設定します。（初期設定：70）
設定できる範囲は、「0～100」(%)です。
※設定値が小さいほど、小さな音声でも検知します。

「無線機コントローラー電話接続」画面

PBX内線詳細設定 > 無線機コントローラー電話接続

■ V/RoIP制御設定

本製品に収容したIP電話機から無線機コントローラーへ着信したときの詳細設定です。



❶ 電話機への通信開始通知 …… 通話相手のIP電話機に対して送信(発話)開始タイミングを音で通知するかしないかを、「なし」、「通知音1」～「通知音3」から選択します。
(初期設定：通知音1)

❷ 電話機への送受信切替通知 …… IP電話機に対して送受信の切り替えタイミングを音で通知するかしないかを、「なし」、「通知音1」～「通知音3」から選択します。 (初期設定：なし)

❸ 通知音量 …… [電話機への通話開始通知](❶)欄と[電話機への送受信切替通知](❷)欄で設定した通知音の音量レベルを設定します。
設定できる範囲は、「+6」～「−12」(dB)です。 (初期設定：0)

❹ 同報着信時の無線機応答 …… VE-MA1(弊社製)からの同報を、無線機コントローラーが受信中に、無線機コントローラーからの応答(送信)を有効にするか無効にするかを設定します。
(初期設定：無効)

※「有効」の場合、同報送信側が送信を中断後、無線機コントローラーからの送信で応答となります。
応答後は、送信元と応答した無線機コントローラーとの通話状態となり、ほかの同報先は切断されます。

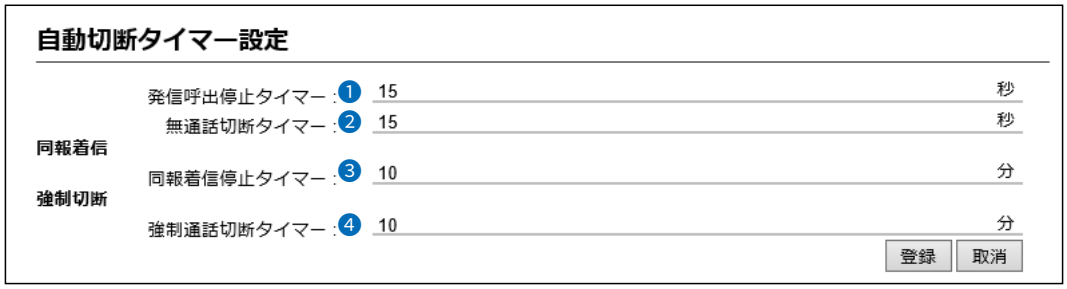
※「無効」の場合、無線機コントローラーから送信があっても応答せず、送信元の同報が継続します。

「無線機コントローラー電話接続」画面

PBX内線詳細設定 > 無線機コントローラー電話接続

■ 自動切断タイマー設定

通話、同報着信、強制切断など、各種タイマーの設定です。



❶ 発信呼出停止タイマー ……

無線機から発信したとき、ここで設定した時間、相手が応答しない場合は、発信を中止します。（初期設定：15）
設定できる範囲は、「0(OFF)、5 ～60」(秒)です。

❷ 無通話切断タイマー ……

無線機がIP電話機と通話中、ここで指定した時間、互いに無通話となった場合は通話を切断します。（初期設定：15）
設定できる範囲は、「0(OFF)、5 ～600」(秒)です。

❸ 同報着信停止タイマー ……

同報着信用SIP URI(P.10-8)に着信した通話に対する切断タイマーです。（初期設定：10）
ここで指定した時間、VE-MA1(弊社製)からの放送を無線機が受信した場合、放送の受信を中止します。
設定できる範囲は、「0(OFF)、1 ～120」(分)です。
※同報着信時は、[強制通話切断タイマー](❹)欄の設定も有効で、早く設定時間になったほうの通話が切断されます。

❹ 強制通話切断タイマー ……

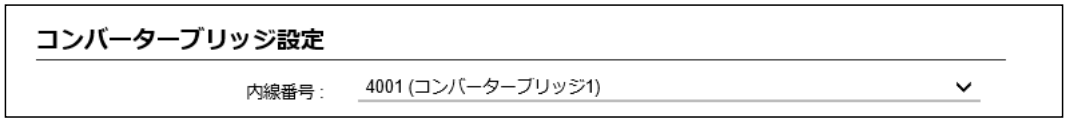
ここで指定した時間、IP電話機と無線機が通話した場合、強制的に通話を切断します。（初期設定：10）
設定できる範囲は、「0(OFF)、1～120」(分)です。

「コンバーターブリッジ」画面

PBX内線詳細設定 > コンバーターブリッジ

■ コンバーターブリッジ設定

[接続設定]項目で設定する内線番号を選択します。
本製品に収容した電話機と外部機器(IP1000Cなど)が通話するための設定です。



内線番号…… 「内線個別」画面の[内線設定]項目で設定した場合、「コンバーターブリッジ」の内線番号(ポート種別番号)が表示されます。
設定していない場合、(ポート種別番号)が表示されます。
設定変更するコンバーターブリッジを選択します。

「コンバーターブリッジ」画面

PBX内線詳細設定 > コンバーターブリッジ

■ 接続設定

本製品に収容したIP電話機などとブリッジ接続する機器の接続先を設定します。

※上図は、[IP通信モード](❶)欄で「マルチキャスト」を選択したときの画面です。

❶ IP通信モード ……

本製品に接続された機器がネットワークで通信するための方式を、ポートごとに設定します。（初期設定：ユニキャスト）

❷ 接続先アドレス ……

[IP通信モード設定](❷)欄によって、設定する内容が異なります。

◎**「マルチキャスト」を設定している場合**

通話相手側の接続先アドレスと同じIPアドレスを設定します。

※初期設定では「239.255.255.1」が入力されているため、[接続先アドレス]欄を変更してください。

※設定できる範囲は、「224.0.0.0～239.255.255.255」(クラスD)です。

◎**「ユニキャスト」を設定している場合**

通話相手側のLAN側IPアドレス、またはドメイン名を半角英数字(63文字以内)で設定します。

❸ 接続先ポート番号 ……

通話相手側の本製品に設定された[自局ポート番号](❹)欄を設定します

※設定できる範囲は、「2～65534」の偶数値だけです。
通信には、設定したポート番号(RTP)と設定したポート番号＋1(RTCP)の2つを使用します。

※ユニキャストで使用する場合は、ほかの接続機器に設定する接続先ポート番号と重複しないように設定してください。

（初期設定：**[IP通信モード]欄の設定が「ユニキャスト」の場合**

選択肢	初期設定	選択肢	初期設定
コンバーターブリッジ1	24200	コンバーターブリッジ11	24220
コンバーターブリッジ2	24202	コンバーターブリッジ12	24222
コンバーターブリッジ3	24204	コンバーターブリッジ13	24224
コンバーターブリッジ4	24206	コンバーターブリッジ14	24226
コンバーターブリッジ5	24208	コンバーターブリッジ15	24228
コンバーターブリッジ6	24210	コンバーターブリッジ16	24230
コンバーターブリッジ7	24212	コンバーターブリッジ17	24232
コンバーターブリッジ8	24214	コンバーターブリッジ18	24234
コンバーターブリッジ9	24216	コンバーターブリッジ19	24236
コンバーターブリッジ10	24218	コンバーターブリッジ20	24238

「コンバーターブリッジ」画面

PBX内線詳細設定 > コンバーターブリッジ

■ 接続設定

※上図は、[IP通信モード](❶)欄で「マルチキャスト」を選択したときの画面です。

❸ 接続先ポート番号（つづき） …… **[IP通信モード]欄の設定が「マルチキャスト」の場合**

選択肢	初期設定	選択肢	初期設定
コンバーターブリッジ1	22510	コンバーターブリッジ11	22510
コンバーターブリッジ2	22510	コンバーターブリッジ12	22510
コンバーターブリッジ3	22510	コンバーターブリッジ13	22510
コンバーターブリッジ4	22510	コンバーターブリッジ14	22510
コンバーターブリッジ5	22510	コンバーターブリッジ15	22510
コンバーターブリッジ6	22510	コンバーターブリッジ16	22510
コンバーターブリッジ7	22510	コンバーターブリッジ17	22510
コンバーターブリッジ8	22510	コンバーターブリッジ18	22510
コンバーターブリッジ9	22510	コンバーターブリッジ19	22510
コンバーターブリッジ10	22510	コンバーターブリッジ20	22510

❹ 自局ポート番号 ……

音声信号を受信するためのポート番号を設定します。
※音声信号の送信元ポート番号としても使用します。
※設定できる範囲は、「1024～65534」の偶数値だけです。
通信には、設定したポート番号（RTP）と設定したポート番号＋1（RTCP）の2つを使用します。
※ユニキャストで使用する場合は、本製品のほかの接続設定の自局ポート番号と重複しないように設定してください。
（初期設定：**[IP通信モード]欄の設定が「ユニキャスト」の場合**

選択肢	初期設定	選択肢	初期設定
コンバーターブリッジ1	24200	コンバーターブリッジ11	24220
コンバーターブリッジ2	24202	コンバーターブリッジ12	24222
コンバーターブリッジ3	24204	コンバーターブリッジ13	24224
コンバーターブリッジ4	24206	コンバーターブリッジ14	24226
コンバーターブリッジ5	24208	コンバーターブリッジ15	24228
コンバーターブリッジ6	24210	コンバーターブリッジ16	24230
コンバーターブリッジ7	24212	コンバーターブリッジ17	24232
コンバーターブリッジ8	24214	コンバーターブリッジ18	24234
コンバーターブリッジ9	24216	コンバーターブリッジ19	24236
コンバーターブリッジ10	24218	コンバーターブリッジ20	24238

「コンバーターブリッジ」画面

PBX内線詳細設定 > コンバーターブリッジ

■ 接続設定

※上図は、[IP通信モード](❶)欄で「マルチキャスト」を選択したときの画面です。

❹ 自局ポート番号（つづき） …… **[IP通信モード]欄の設定が「マルチキャスト」の場合**

選択肢	初期設定	選択肢	初期設定
コンバーターブリッジ1	22510	コンバーターブリッジ11	22510
コンバーターブリッジ2	22510	コンバーターブリッジ12	22510
コンバーターブリッジ3	22510	コンバーターブリッジ13	22510
コンバーターブリッジ4	22510	コンバーターブリッジ14	22510
コンバーターブリッジ5	22510	コンバーターブリッジ15	22510
コンバーターブリッジ6	22510	コンバーターブリッジ16	22510
コンバーターブリッジ7	22510	コンバーターブリッジ17	22510
コンバーターブリッジ8	22510	コンバーターブリッジ18	22510
コンバーターブリッジ9	22510	コンバーターブリッジ19	22510
コンバーターブリッジ10	22510	コンバーターブリッジ20	22510

❺ 音声プロトコル ……

「ブリッジ接続」画面の「AMBE+2ボコーダー割り当て設定」項目で割り当てた音声プロトコルが表示されます。
※この項目では変更できません。

❻ マルチキャスト用TTL ……

送信した音声パケットの有効期限として、通信先に音声パケットが届くまでに通過するルーターの数を設定します。
※[IP通信モード](❶)欄で「マルチキャスト」を選択した場合に表示されます。

❼ 接続状態 ……

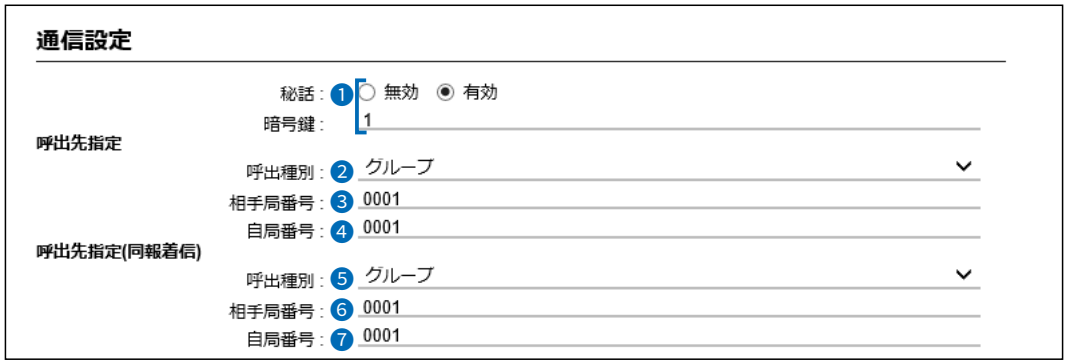
接続状態が「未接続」/「送信中」/「ドメイン解決エラー」/「送信エラー」で表示されます。
※ドメイン解決エラー は、[接続先アドレス]欄にドメイン名が入力されたとき、そのドメイン解決に失敗した場合に表示されます。
接続先アドレスが正しく入力されているか、またはDNSサーバーが正しく設定されているか確認してください。
※送信エラーは、[自局ポート番号]欄に、ほかの機能で、すでに使用中のポート番号を設定した場合に表示されます。

「コンバーターブリッジ」画面

PBX内線詳細設定 > コンバーターブリッジ

■ 通信設定

本製品に収容したIP電話機などとブリッジ接続する機器が通信するために必要な設定をします。



※説明のため、[秘話](❶)欄を「有効」を設定したときに表示される画面を使用しています。

❶ 秘話 …… 接続先の無線機に合わせて秘話機能を設定します。（初期設定：無効）
設定できる範囲は、「1～32767」です。
※有効の場合は、上図のように、暗号鍵を入力できますので、通信する無線機と同じ秘話キーに設定してください。

❷ 呼出種別 …… 本製品に収容したIP電話機からブリッジ接続先の機器を呼び出す形態を「個別」/「グループ」/「全体」から選択します。（初期設定：グループ）

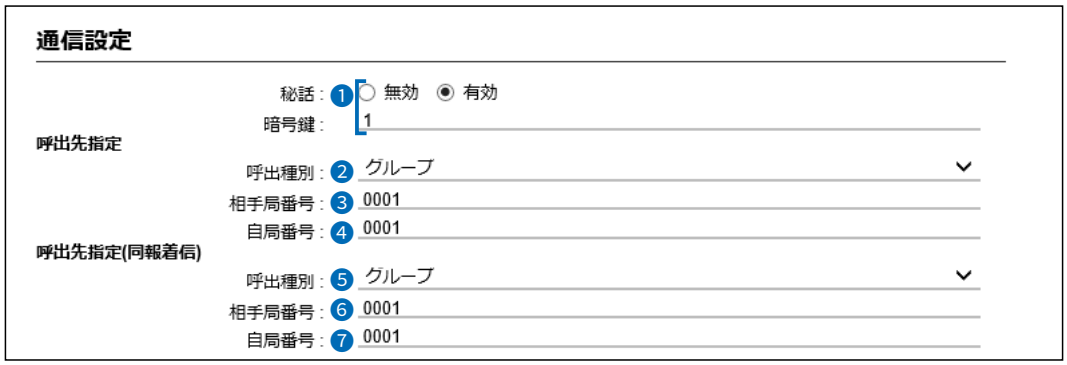
❸ 相手局番号 …… 相手先の機器に設定された自局番号（個別番号）、またはグループ番号を設定します。（初期設定：0001）
設定できる範囲は、「0001～9999」です。
※[呼出種別](❷)欄で、「全体」を選択しているときは、表示されません。

❹ 自局番号 …… 呼び出す側の自局番号を4桁で入力します。（初期設定：0001）
呼び出しを受けた相手に表示されます。
設定できる範囲は、「0001～9999」です。

「コンバーターブリッジ」画面

PBX内線詳細設定 > コンバーターブリッジ

■ 通信設定



※説明のため、[秘話]（❶）欄を「有効」を設定したときに表示される画面を使用しています。

❺ 呼出種別 ……

「IP回線設定」メニューの「Peer to Peer」画面で設定された同報SIP URIから、ブリッジ接続先のVE-PG4に接続している機器を呼び出す形態を「個別」/「グループ」/「全体」から選択します。（初期設定：グループ）
※「Peer to Peer」画面の[同報着信]欄(P.10-8)を「有効」に設定していない場合、この機能を使用することができません。

❻ 相手先番号 ……

相手先の機器に設定された自局番号（個別番号）、またはグループ番号を設定します。（初期設定：0001）
設定できる範囲は、「0001～9999」です。
※[呼出種別]（❺）欄で、「全体」を選択しているときは、表示されません。
※「Peer to Peer」画面の[同報着信]欄(P.10-8)を「有効」に設定していない場合、この機能を使用することができません。

❼ 自局番号 ……

呼び出す側の自局番号を4桁で入力します。（初期設定：0001）
呼び出しを受けた相手に表示されます。
設定できる範囲は、「0001～9999」です。
※「Peer to Peer」画面の[同報着信]欄(P.10-8)を「有効」に設定していない場合、この機能を使用することができません。

「コンバーターブリッジ」画面

PBX内線詳細設定 > コンバーターブリッジ

■ 制御設定

本製品に収容したIP電話機などとブリッジ接続する機器の制御について設定します。

※説明のため、「ブリッジ接続設定」メニュー→「ブリッジ接続」画面→[音声プロトコル(ポート接続)]欄(P.5-13)で「無線機電話プロトコル」、「ブリッジプロトコル」に設定したときに表示される画面を使用しています。

❶ 受信優先 ……

ブリッジ接続している機器から本製品に収容したIP電話機などRTP信号を受信しているとき、IP電話機側からRTPを送信しない動作を有効とするか無効とするかを設定します。 (初期設定：無効)

❷ PTT発信キャンセル ……

「有効」に設定すると、ブリッジ接続している機器から本製品に収容したIP電話機などを呼び出し中、その機器から再度呼び出しがあった場合、現在の呼び出しを中止します。 (初期設定：無効)

❸ 接続確認 ……

本製品に収容したIP電話機などからブリッジ接続先の機器を個別呼び出し(緊急通知を除く)をしたとき、接続確認をするための設定です。
(初期設定：有効)
「有効」に設定すると、接続確認に失敗した場合、通話を切断します。
※「ブリッジ接続設定」メニュー→「ブリッジ接続」画面→[音声プロトコル(ポート接続)]欄(P.5-13)で「無線機電話プロトコル」、「ブリッジプロトコル」に設定したとき、表示される項目です。
※接続確認が失敗となるのは、端末側が通話中、または応答なし(タイムアウト5秒)の場合です。

❹ 接続確認タイミング ……

本製品に収容したIP電話機などからブリッジ接続先の機器を個別呼び出し(緊急通知を除く)をしたとき、接続確認をするタイミングを設定します。
(初期設定：通話応答後)
◎**通話応答後**：通話確立後に接続確認をします。
◎**通話応答前**：通話確立前に接続確認をします。
※「ブリッジ接続設定」メニュー→「ブリッジ接続」画面→[音声プロトコル(ポート接続)]欄(P.5-13)で「無線機電話プロトコル」、「ブリッジプロトコル」に設定したとき、表示される項目です。

「コンバーターブリッジ」画面

PBX内線詳細設定 > コンバーターブリッジ

■ 制御設定

※説明のため、「ブリッジ接続設定」メニュー→「ブリッジ接続」画面→[音声プロトコル(ポート接続)]欄(P.5-13)で「無線機電話プロトコル」、「ブリッジプロトコル」に設定したときに表示される画面を使用しています。

❺ 着信通知 ……

本製品に収容したIP電話機からの着信をブリッジ接続先の無線機子機に音で通知するかしないかを、「なし」、「通知音1」～「通知音3」から選択します。
(初期設定：なし)

※「なし」を設定時、無線機子機は自動応答になります。
※「通知音1」～「通知音3」を設定時、着信音が繰り返し鳴ります。
この時、無線機子機が、着信音と着信音のあいだ(無音)のタイミングで送信(送話)することで応答できます。

❻ 呼出開始通知 ……

ブリッジ接続先の無線機子機から本製品に収容したIP電話機などを呼び出し中、その状態を無線機子機に音で通知するかしないかを、「なし」、「通知音1」～「通知音3」から選択します。 (初期設定：通知音2)

❼ 通話開始通知 ……

本製品に収容したIP電話機などが受話器を上げたとき、その状態をブリッジ接続先の無線機子機に音で通知するかしないかを、「なし」、「通知音1」～「通知音3」から選択します。 (初期設定：通知音2)

❽ 切断通知 ……

本製品に収容したIP電話機など受話器を置いたとき、ブリッジ接続先の機器に音で切断を通知するかしないかを、「なし」、「通知音1」～「通知音3」から選択します。 (初期設定：通知音3)

❾ 発信失敗通知 ……

ブリッジ接続先の無線機子機から本製品に収容したIP電話機などに呼び出しができないとき、その状態を無線機に音で通知するかしないかを、「なし」、「通知音1」～「通知音3」から選択します。 (初期設定：通知音3)

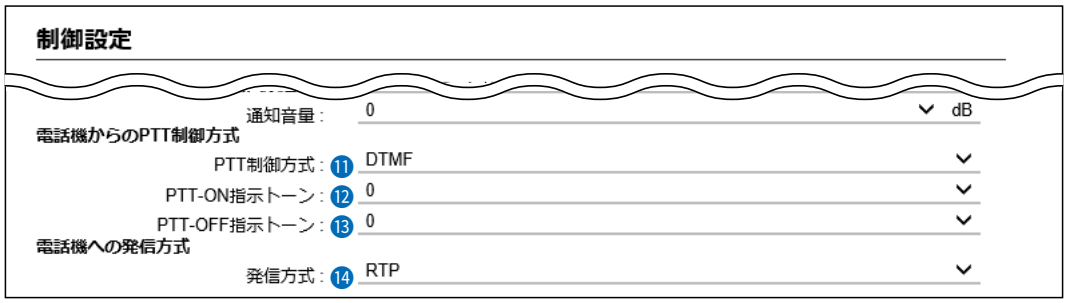
❿ 通知音量 ……

通知音(3～7)設定時の音量レベルを設定します。
設定できる範囲は、「+6」～「−12」(dB)です。 (初期設定：0)

「コンバーターブリッジ」画面

PBX内線詳細設定 > コンバーターブリッジ

■ 制御設定



※[PTT制御方式](⓫)欄を「DTMF」に設定したときだけ、[PTT-ON指示トーン](⓬)欄、[PTT-OFF指示トーン](⓭)欄が表示されます。

⓫ PTT制御方式 ……

本製品に収容したIP電話機側の送話や受話の切り替えに使用する入力信号の種類を、「VOX」(音声信号)、「DTMF」(トーン信号)、「通話中常時送信」から選択します。 (初期設定：VOX)

◎**VOX** ：IP電話機から発声すると、音声信号を検知して、本製品に接続された無線機が送信状態になります。

◎**DTMF** ：IP電話機からのトーン信号を検知して、本製品と接続された無線機が送信状態になります。

◎**通話中常時送信**：通話を開始した時点から、ブリッジ接続先の機器に接続された無線機が送信状態になります。

※通話中常時送信時、ブリッジ接続先からの受信(VOXやRTP)だけで、「無通話切断タイマー」(P.13-66)を判定します。
ブリッジ接続先から受信応答がない場合、無通話切断タイマーが動作することがあります。

⓬ PTT-ON指示トーン ……

[PTT制御方式](⓫)欄で「DTMF」を選択したとき、IP電話機から無線機を送信状態にするトーン信号(DTMF)を、「0～9」、「＊」、「＃」から選択します。 (初期設定：0)

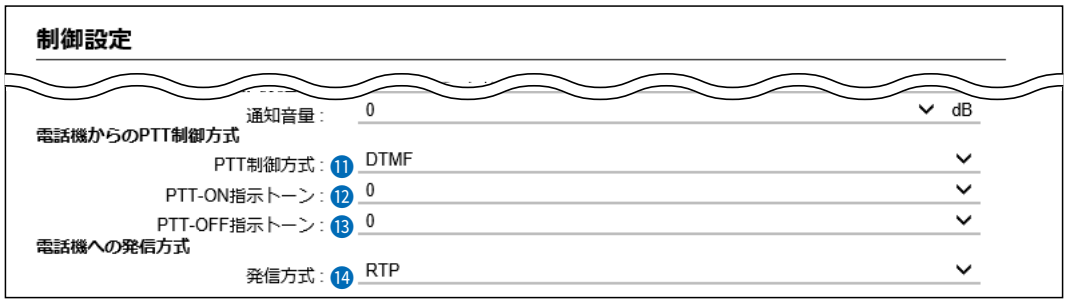
※相手の内線番号をダイヤルし、ここで設定した番号のボタンをIP電話機から押すと、トーン信号の入力を検知して、本製品と接続された無線機が送信状態になります。

※[PTT－OFF指示トーン](⓭)欄の設定と同じ値を設定したときは、ここで設定した番号のボタンを押すごとに送信の開始と停止を操作できます。

「コンバーターブリッジ」画面

PBX内線詳細設定 > コンバーターブリッジ

■ 制御設定



※[PTT制御方式](⓫)欄を「DTMF」に設定したときだけ、[PTT-ON指示トーン](⓬)欄、[PTT-OFF指示トーン](⓭)欄が表示されます。

⓭ PTT-OFF指示トーン ……

[PTT制御方式](⓫)欄で「DTMF」を選択したとき、無線機の送信を停止するトーン信号(DTMF)を、「0 ～9」、「＊」、「＃」から選択します。

(初期設定：0)

※通話中、ここで設定した番号のボタンをIP電話機から押すと、トーン信号の入力を検知して、本製品と接続された無線機の送信を停止します。

※[PTT－ON指示トーン](⓬)欄の設定と同じ値を設定したときは、ここで設定した番号のボタンを押すごとに送信の開始と停止を操作できます。

⓮ 発信形式 ……

ブリッジからIP電話システムへの発信トリガーを設定します。

(初期設定：RTP)

◎**VOX**：ブリッジインターフェースから受けたRTP(音声データパケット)に含まれる音声の有無をVOXで判定し、発信を開始します。

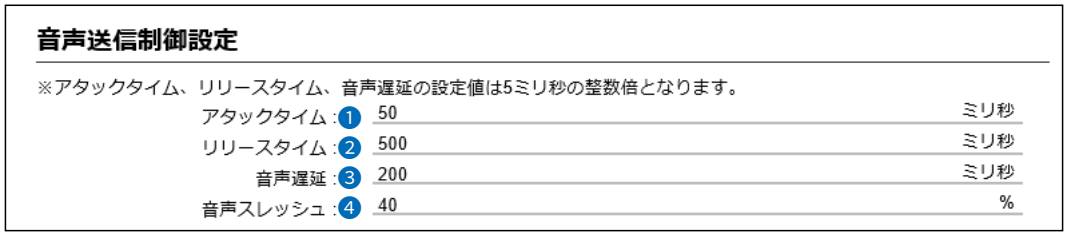
◎**RTP**：音声データの有無に関係なく、RTP(音声データパケット)受信をアタックタイム時間以上で判定し発信を開始します。

「コンバーターブリッジ」画面

PBX内線詳細設定 > コンバーターブリッジ

■ 音声送信制御設定

本製品にブリッジ接続された機器への音声入力信号の有無により、送信状態になるための動作を設定します。



❶ アタックタイム ……

ブリッジ接続している機器へ音声信号が入力されたことを検知するまでの時間を設定します。（初期設定：50）

設定できる範囲は、「5 ～500(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

❷ リリースタイム ……

ブリッジ接続している機器へ音声信号が入力されなくなったことを検知するまでの時間を設定します。（初期設定：500）

設定できる範囲は、「5 ～2000(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

❸ 音声遅延 ……

音声信号を蓄積し、遅延再生する時間を設定します。（初期設定：200）

ブリッジ接続先とIP電話などで通話中、IP電話機からの送話音をVOX検出後、音声信号(RTP)を設定された時間だけ遅らせて、ブリッジ接続先に送出します。ブリッジ接続先で、通話頭切れなどの問題がある場合、設定値を大きくすることで改善できることがあります。

設定できる範囲は、「0～500(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

❹ 音声スレッシュ ……

ブリッジ接続している機器へ入力を検知する音声信号入力のしきい値レベルを設定します。（初期設定：40）

設定できる範囲は、「0～100」(%)です。

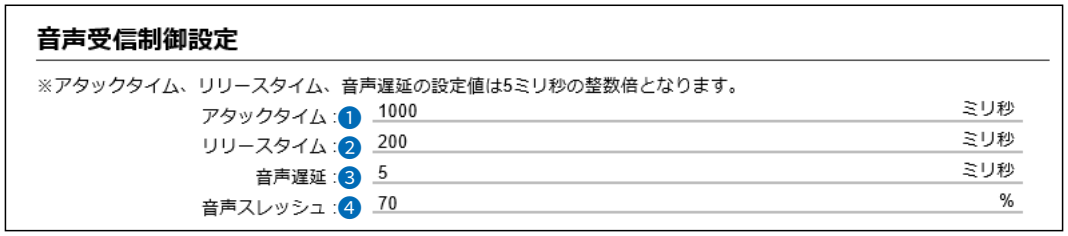
※設定値が小さいほど、小さな音声でも検知します。

「コンバーターブリッジ」画面

PBX内線詳細設定 > コンバーターブリッジ

■ 音声受信制御設定

本製品にブリッジ接続された機器への音声入力信号の有無により、受信状態になるための動作を設定します。



❶ アタックタイム ……

音声信号が入力されたことを検知する時間を設定します。
ここで設定した時間、連続して音声信号が検知されると、音声が入力されたと判断します。（初期設定：1000）
設定できる範囲は、「5 ～2000(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

❷ リリースタイム ……

音声信号が途絶えたことを検知する時間を設定します。
ここで設定した時間、音声信号が途絶えると、音声入力がなくなったと判断します。（初期設定：200）
設定できる範囲は、「5 ～2000(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

❸ 音声遅延 ……

音声信号を蓄積し、遅延再生する時間を設定します。（初期設定：5）
ブリッジ接続先とIP電話などで通話中、ブリッジ接続先からの受信信号(RTP)をVOX検出後、音声信号を設定された時間だけ遅らせて送出します。
IP電話機側で通話頭切れなどの問題がある場合、設定値を大きくすることで改善できる場合があります。
設定できる範囲は、「0 ～500(5ミリ秒刻み)」(ミリ秒)です。

❹ 音声スレッシュ ……

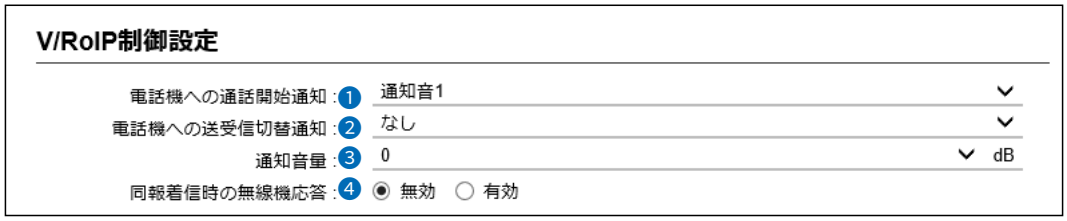
音声入力レベルのしきい値を設定します。（初期設定：70）
設定できる範囲は、「0 ～100」(%)です。
※設定値が小さいほど、小さな音声でも送信状態になります。

「コンバーターブリッジ」画面

PBX内線詳細設定 > コンバーターブリッジ

■ V/RoIP制御設定

電話機などから本製品にブリッジ接続された機器へ着信したときの詳細設定です。



❶ 電話機への通話開始通知 ……

通話相手のIP電話機に対して送信(発話)開始タイミングを音で通知するかしないかを、「なし」、「通知音1」～「通知音3」から選択します。
(初期設定：通知音1)

❷ 電話機への送受信切替通知 ……

IP電話機に対して送受信の切り替えタイミングを音で通知するかしないかを、「なし」、「通知音1」～「通知音3」から選択します。　(初期設定：なし)

❸ 通知音量 ……

[電話機への通話開始通知](❶)欄と[電話機への送受信切替通知](❷)欄で設定した通知音の音量レベルを設定します。
設定できる範囲は、「+6」～「−12」(dB)です。　(初期設定：0)

❹ 同報着信時の無線機応答 ……

VE-MA1(弊社製)からの同報を、本製品とブリッジ接続された機器で受信中に、ブリッジ接続された対向機器からの応答(送信)を有効にするか無効にするかを設定します。　(初期設定：無効)

※「有効」の場合、同報送信側が送信を中断後、ブリッジ接続された対向機器からの送信で応答となります。
応答後は、送信元と応答したブリッジ接続された対向機器との通話状態となり、ほかの同報先は切断されます。

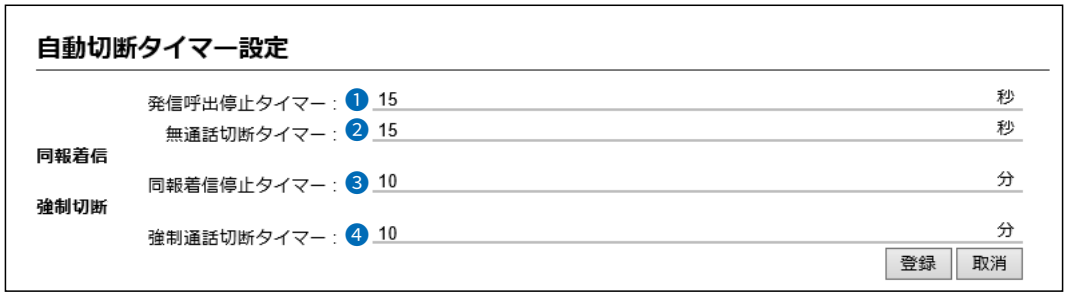
※「無効」の場合、ブリッジ接続された対向機器から送信があっても応答せず、送信元の同報が継続します。

「コンバーターブリッジ」画面

PBX内線詳細設定 > コンバーターブリッジ

■ 自動切断タイマー設定

通話、同報着信、強制切断など、各種タイマーの設定です。



❶ 発信呼出停止タイマー …… 無線機から発信したとき、ここで設定した時間、相手が応答しない場合は、発信を中止します。（初期設定：15）
設定できる範囲は、「0(OFF)、5～60」(秒)です。

❷ 無通話切断タイマー …… 無線機がIP電話機と通話中、ここで指定した時間、互いに無通話となった場合は通話を切断します。（初期設定：15）
設定できる範囲は、「0(OFF)、5～600」(秒)です。

❸ 同報着信着信停止タイマー …… 同報着信用SIP URI(P.10-8)に着信した通話に対する切断タイマーです。（初期設定：10）
ここで指定した時間、VE-MA1(弊社製)からの放送を無線機が受信した場合、放送の受信を中止します。
設定できる範囲は、「0(OFF)、1～120」(分)です。
※同報着信時は、[強制通話切断タイマー](❹)欄の設定も有効で、早く設定時間になったほうの通話が切断されます。

❹ 強制通話切断タイマー …… ここで指定した時間、IP電話機と無線機が通話した場合、強制的に通話を切断します。（初期設定：10）
設定できる範囲は、「0(OFF)、1～120」(分)です。

PBX拡張設定

第 14 章

この章では、
「PBX拡張設定」画面の設定について説明します。

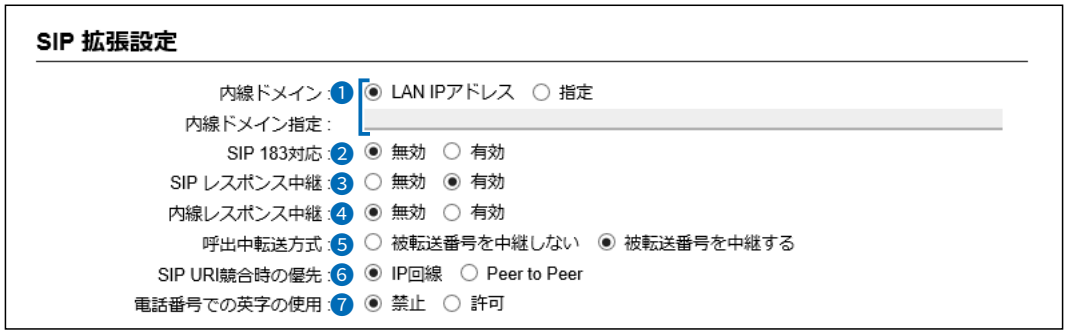
「拡張」画面 …… 14-2
■ SIP拡張設定 …… 14-2
■ VoIP設定 …… 14-4
「優先制御」画面 …… 14-11
■ 優先レベル設定 …… 14-11
■ 個別着信優先レベル設定 …… 14-12
■ 個別着信優先レベル設定一覧 …… 14-14
「番号計画」画面 …… 14-15
■ 電話番号ルーティング設定 …… 14-15
■ 電話番号ルーティング設定一覧 …… 14-16
■ 番号計画例外ルール …… 14-17
■ 発信先番号変換ルール設定 …… 14-18
■ 発信先番号変換ルール一覧 …… 14-19
■ 発信規制ルール設定 …… 14-20
■ 発信規制ルール一覧 …… 14-21
「外線サービスグループ」画面 …… 14-22
■ 外線サービスグループ設定 …… 14-22
「通話数制限」画面 …… 14-23
■ 通話数制限設定（システム全体） …… 14-23
■ 通話数制限設定 …… 14-24
「ゲートウェイ接続」画面 …… 14-25
■ ゲートウェイ接続設定 …… 14-25
■ ゲートウェイ接続設定一覧 …… 14-26
「番号表示変換」画面 …… 14-27
■ 発信元回線設定 …… 14-27
■ 番号表示変換ルール設定 …… 14-28
■ 番号表示変換ルール一覧 …… 14-29
「DIDボックス」画面 …… 14-30
■ 使用するボックス …… 14-30
■ DIDボックス設定 …… 14-31
■ DIDボックス設定一覧 …… 14-32

「拡張」画面

PBX拡張設定 > 拡張

■ SIP拡張設定

本製品に登録された端末で共通に使用する拡張設定です。



❶ 内線ドメイン ……

簡易中継サーバーとその子機間が共通で使用するSIPサービスドメイン名を任意に設定できます。 (初期設定：LAN IPアドレス)
入力は、半角英数字で63文字までです。
※ここで設定した値を子機側の[SIPサービスドメイン]欄に入力します。

❷ SIP183対応 ……

発信時、上位SIPサーバーから受信したSDP付き183 Session Progressの中継方法についての設定です。 (初期設定：無効)
◎**有効**：電話機に音声情報を伴う呼出(SDP付き183)もそのまま伝えます。それによって、呼出中、通話中の状態遷移を区別して伝えられますが、一部の端末で、呼出中状態ではDTMF信号が送出できないことがあります。
◎**無効**：相手への音声情報を伴う呼出(SDP付き183)を受信すると、子機に通話中に変換して伝え、上記の現象を回避できる場合があります。
※特に問題がある場合を除いては、初期設定でお使いください。

❸ SIPレスポンス中継 ……

発信時、上位SIPサーバーから受信したエラーメッセージの中継方法についての設定です。 (初期設定：有効)
◎**有効**：発信時、SIPサーバーからのエラーレスポンス(4xx～6xx)を受信すると、レスポンスコードをそのまま中継します。
◎**無効**：発信時、SIPサーバーからのエラーレスポンス(4xx～6xx)を受信すると、486レスポンスに変換して中継します。
※この設定は、スライド発信をするために必要です。
※ほかのSIPサーバーを簡易中継サーバーの子機として、本製品に接続するような構成で、スライド発信をご利用の場合は、[SIP レスポンス中継]欄を「有効」に設定してください。

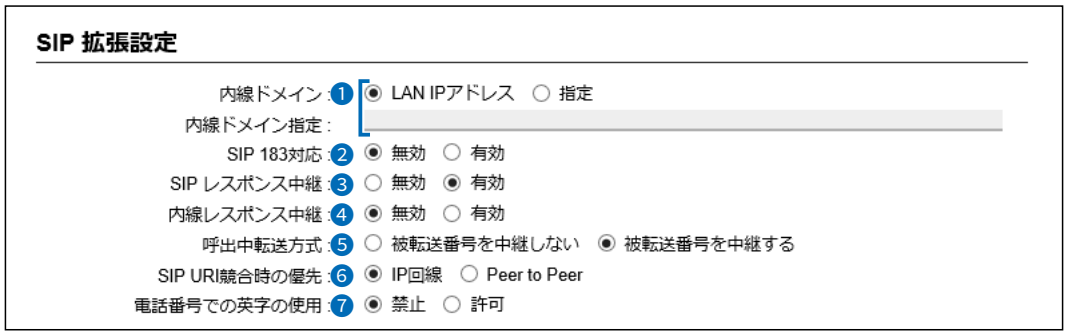
ご注意
IP電話ネットワーク内で、同じ内線ドメインは使用できません。
ほかのSIPサーバー(簡易中継サーバー)、VE-IG1やVE-AG1などのゲートウェイ装置を増設する場合、それぞれ異なる内線ドメインを設定してください。
[内線ドメイン]欄(❶)を初期設定(LAN IPアドレス)でお使いいただくと、内線ドメイン名の競合を回避できます。
本製品に設定した内線ドメインと、本製品の「IP回線設定」メニューの「IP回線」画面にあるSIPサービスドメインが一致するような構成はできません。

14 PBX拡張設定

「拡張」画面

PBX拡張設定 > 拡張

■ SIP拡張設定



❹ 内線レスポンス中継 ……

着信時、内線子機から受信したエラーメッセージの中継方法についての設定です。（初期設定：無効）

◎**有効**：着信時、内線子機からのエラーレスポンス(4xx～6xx)を受信すると、レスポンスコードをそのまま中継します。

◎**無効**：着信時、内線子機からのエラーレスポンス(4xx～6xx)を受信すると、486レスポンスに変換して中継します。

❺ 呼出中転送方式 ……

「被転送番号を中継する」に設定すると、転送先呼出中に受話器を置いて転送する(呼出中転送)とき、転送先に被転送の電話番号が表示されます。

(初期設定：被転送番号を中継する)

操作例

AからBにかかってきた電話を、BがCに転送するときに、Cの電話機にAの電話番号が表示されます。

「被転送番号を中継しない」に設定されている場合は、Cの電話機には、Bの電話番号が表示されます。

❻ SIP URI競合時の優先 ……

上位のSIPサーバー(簡易中継サーバー)からの着信で、IP回線とPeer to Peer(SIPサーバーを経由しない1対1での通話)のSIP URIが競合したとき、どちらとみなして動作するかを設定します。（初期設定：IP回線）

❼ 電話番号での英字の使用 ……

電話番号に英字を使用する場合に設定します。（初期設定：禁止）

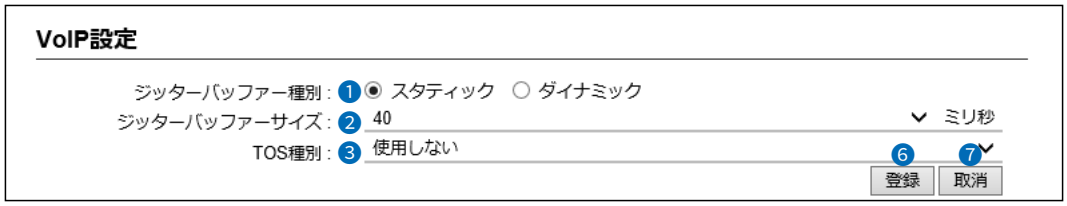
「拡張」画面

PBX拡張設定 > 拡張

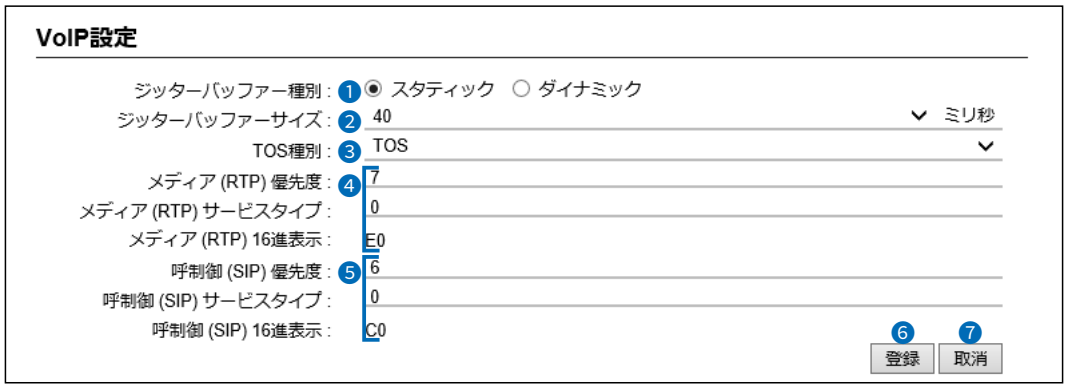
■ VoIP設定

IP電話での音質について設定します。
※下記のように、TOS種別の設定ごとに[VoIP設定]項目の内容が変更になります。

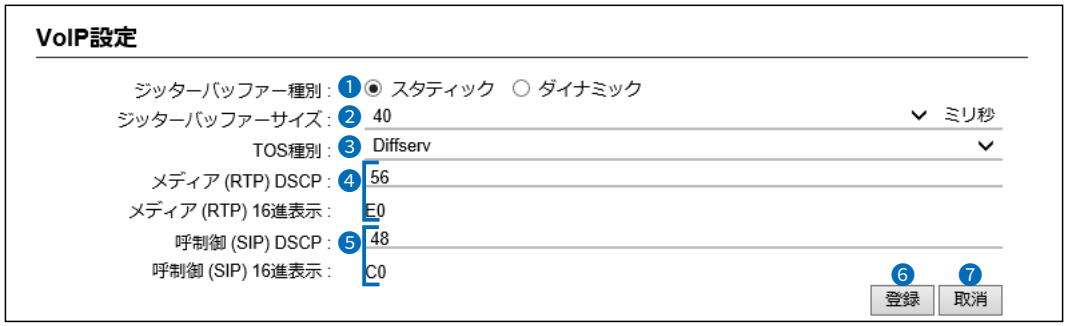
TOS種別：使用しない



TOS種別：TOS



TOS種別：Diffserv



※説明のため、[ジッターバッファー種別](❶)欄を「スタティック」を設定したときに表示される画面を使用しています。

❶ ジッターバッファー種別 ……

パケットの揺らぎによる音声途切れを軽減するために使用するジッターバッファーを、「スタティック」、「ダイナミック」から選択します。
（初期設定：ダイナミック）

◎スタティック
音声を受信したとき、[ジッターバッファーサイズ](❷)欄で設定した時間で音声データを蓄えます。

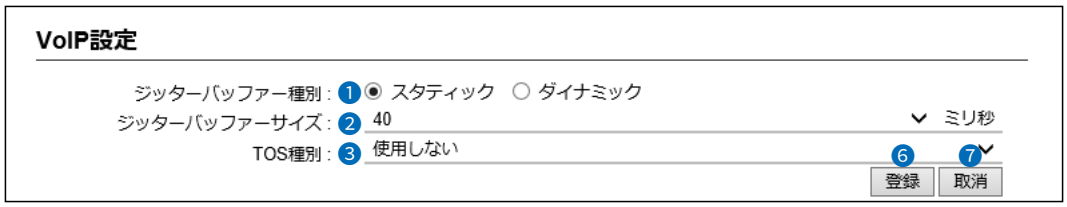
◎ダイナミック
音声を受信したとき、揺らぎに応じて音声データを蓄える時間が変動します。

「拡張」画面

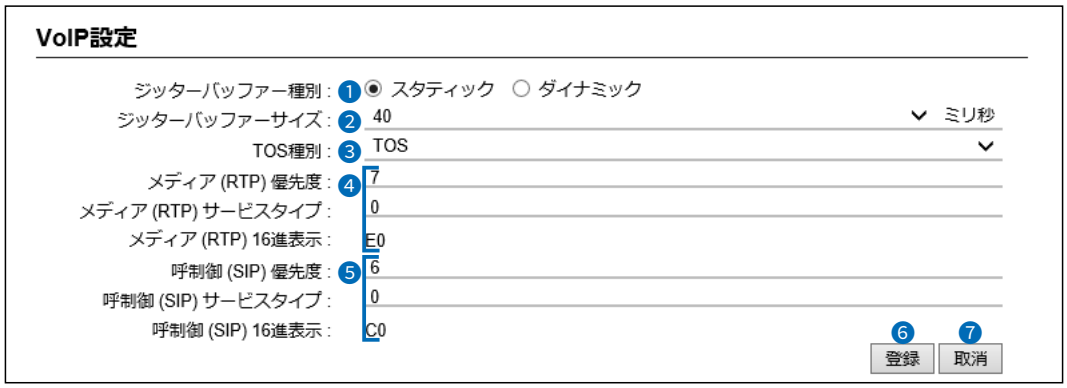
PBX拡張設定 > 拡張

■ VoIP設定

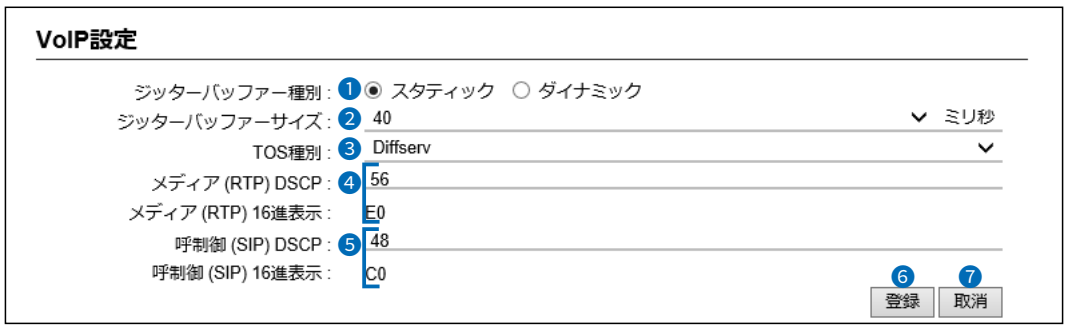
TOS種別：使用しない



TOS種別：TOS



TOS種別：Diffserv



※説明のため、[ジッターバッファー種別](❶)欄を「スタティック」を設定したときに表示される画面を使用しています。

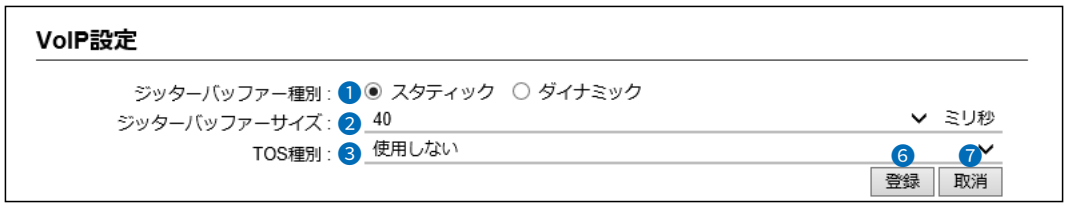
❷ ジッターバッファーサイズ …… 音声を受信したとき、音声データを蓄える時間を設定します。
（初期設定：40）
設定できる範囲は、「20」(ミリ秒)～「1000」(ミリ秒)です。
設定する時間が短いほど遅延は少なくなりますが、音声が途切れやすくなります。
※[ジッターバッファー種別](❶)欄で「ダイナミック」を選択したときは、表示されない項目です。

「拡張」画面

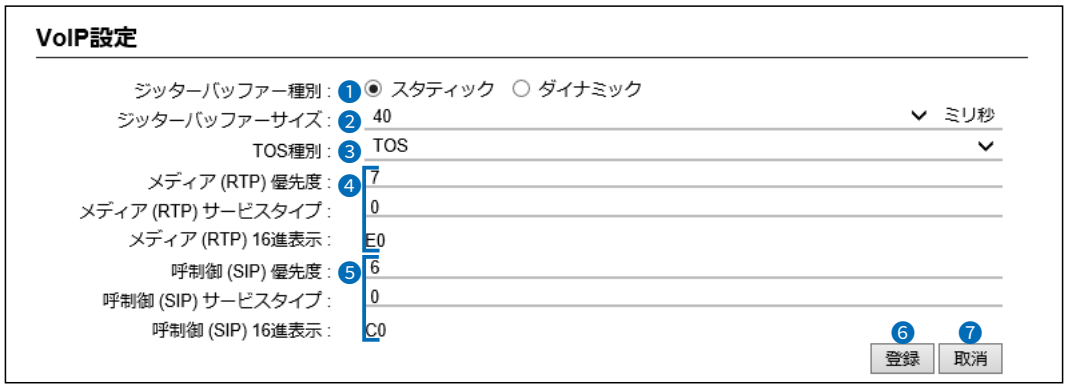
PBX拡張設定 > 拡張

■ VoIP設定

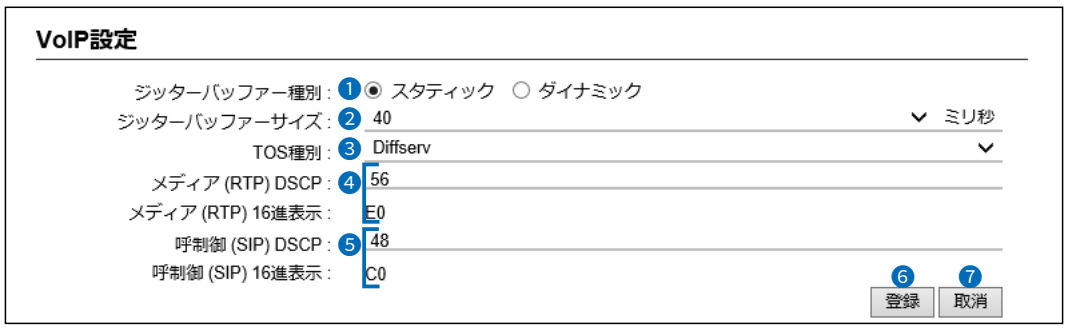
TOS種別 : 使用しない



TOS種別 : TOS



TOS種別 : Diffserv



※説明のため、[ジッターバッファー種別] (❶)欄を「スタティック」を設定したときに表示される画面を使用しています。

❸ TOS種別 …… 本製品のTOS機能について設定します。 （初期設定：TOS）

◎使用しない

TOS機能を使用しません。

◎TOS

TOS(Type Of Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。

RFC1349に準拠して、1ビット～3ビットを優先度、4ビット～7ビットをサービスタイプとして、10進数で設定します。

残りの1ビットは、未使用フィールドとして、0に固定されています。

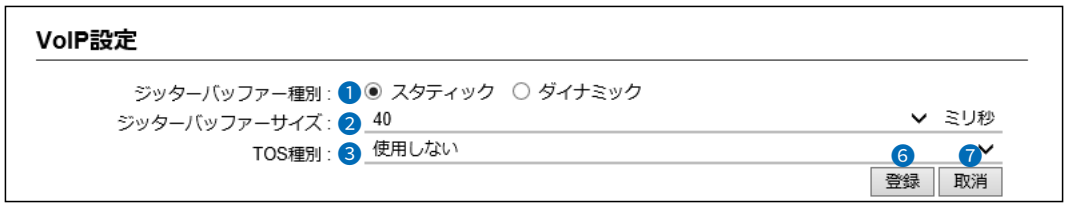
優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

「拡張」画面

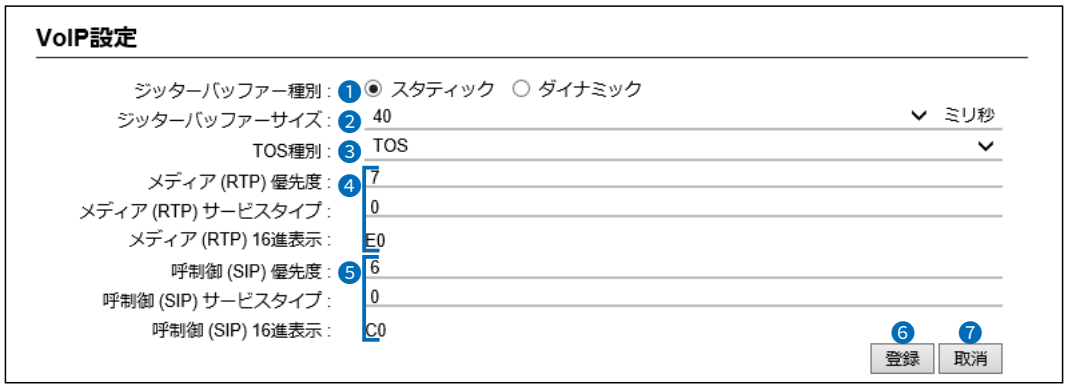
PBX拡張設定 > 拡張

■ VoIP設定

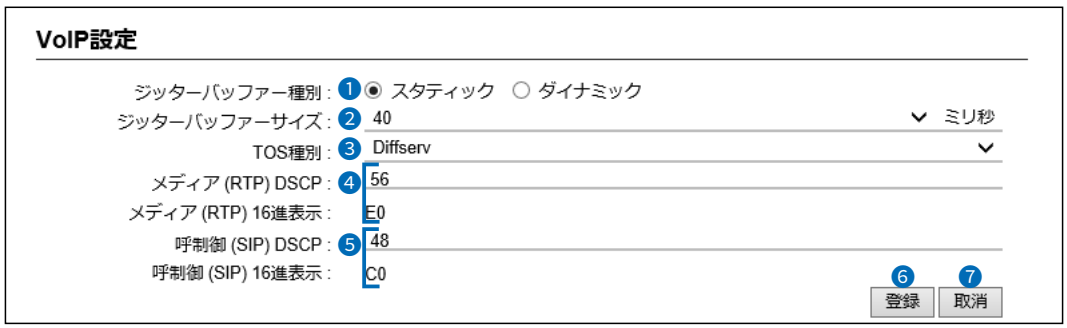
TOS種別 : 使用しない



TOS種別 : TOS



TOS種別 : Diffserv



※説明のため、[ジッターバッファー種別](❶)欄を「スタティック」を設定したときに表示される画面を使用しています。

❸ TOS種別 ……

◎Diffserv

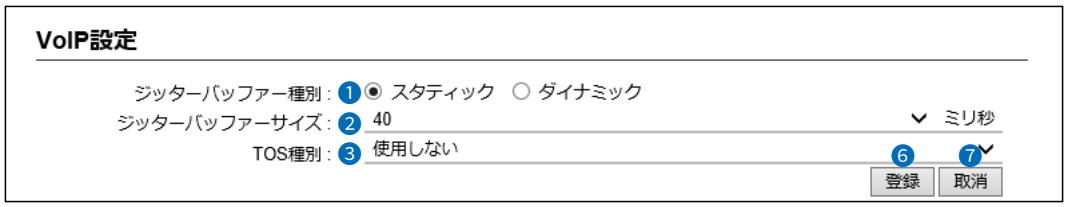
Diffserv(Differentiated Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。
1ビット～6ビットをDSCPとして、10進数で設定します。
残りの2ビットは、未使用フィールドとして、0に固定されています。

「拡張」画面

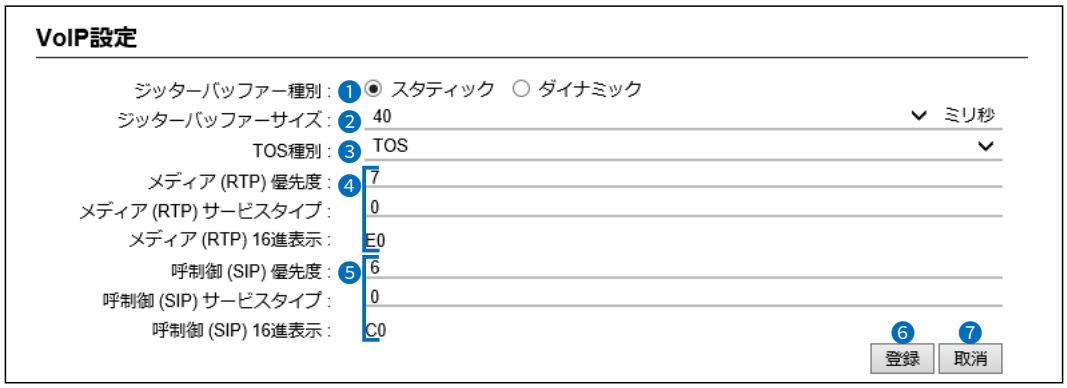
PBX拡張設定 > 拡張

■ VoIP設定

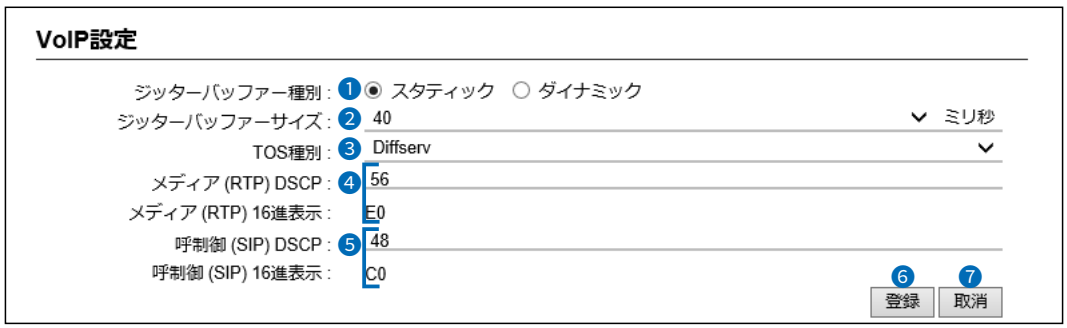
TOS種別：使用しない



TOS種別：TOS



TOS種別：Diffserv



※説明のため、[ジッターバッファー種別]（❶）欄を「スタティック」を設定したときに表示される画面を使用しています。

❹ メディア(RTP) ……

TOSフィールド内に出力された音声パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

◎メディア(RTP)優先度

TOSの優先度フィールドの値を設定します。
設定できる範囲は、「0 ～7」(10進数)です。（初期設定：7）
優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎メディア(RTP)サービスタイプ

TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。
設定できる範囲は、「0 ～15」(10進数)です。（初期設定：0）

◎メディア(RTP)DSCP

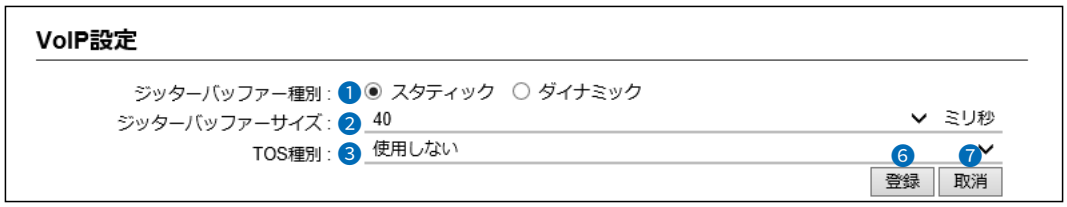
DSCP(Differentiated Services Code Point)の値を設定します。
設定できる範囲は、「0 ～63」(10進数)です。（初期設定：56）

「拡張」画面

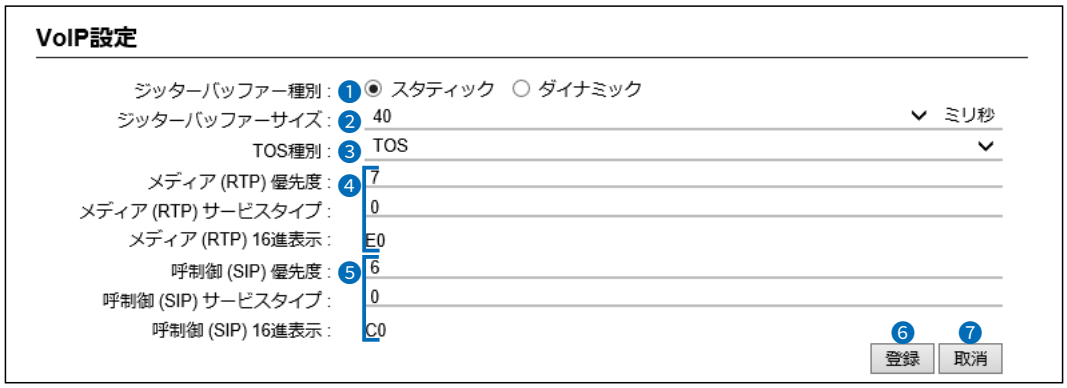
PBX拡張設定 > 拡張

■ VoIP設定

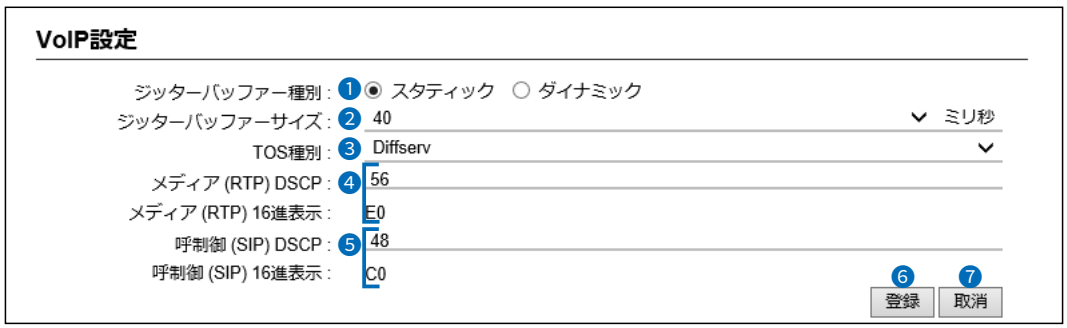
TOS種別：使用しない



TOS種別：TOS



TOS種別：Diffserv



※説明のため、[ジッターバッファー種別]（❶）欄を「スタティック」を設定したときに表示される画面を使用しています。

❺ 呼制御（SIP） ……

TOSフィールド内に出力された呼制御（電話の発着制御）パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

※「IP回線」画面の[接続先の選択]欄を設定すると、回線仕様に合わせた値になりますので、変更された値のままご使用ください。

◎優先度

TOSの優先度フィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0 ～7」（10進数）です。　（初期設定：5）

優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎サービスタイプ

TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。

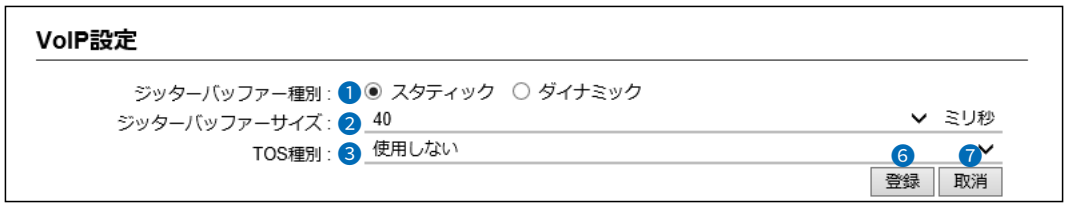
設定できる範囲は、「0 ～15」（10進数）です。　（初期設定：0）

「拡張」画面

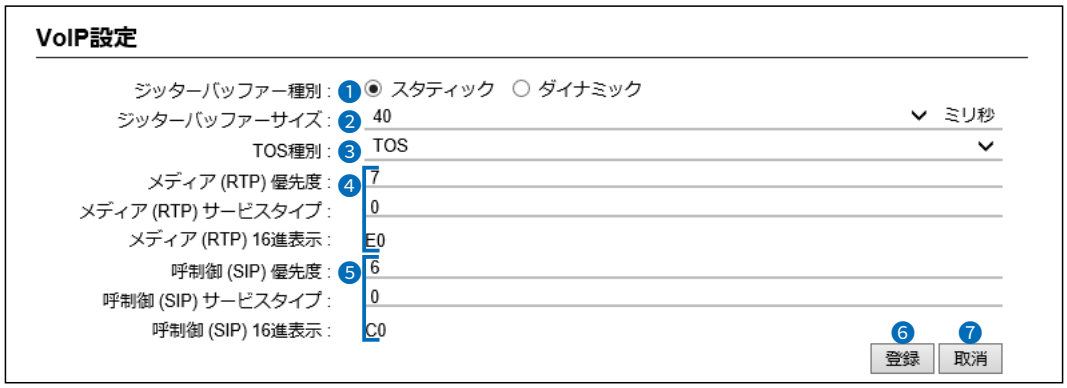
PBX拡張設定 > 拡張

■ VoIP設定

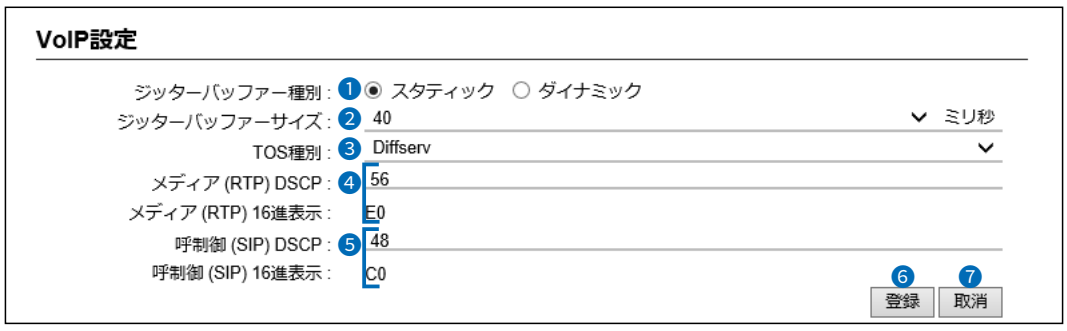
TOS種別：使用しない



TOS種別：TOS



TOS種別：Diffserv



※説明のため、[ジッターバッファー種別]（❶）欄を「スタティック」を設定したときに表示される画面を使用しています。

❺ 呼制御（SIP）（つづき）……

◎DSCP
DSCP（Differentiated Services Code Point）の値を設定します。
設定できる範囲は、「0 ～63」（10進数）です。　（初期設定：56）

❻ **〈登録〉** ……

[VoIP拡張設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

❼ **〈取消〉** ……

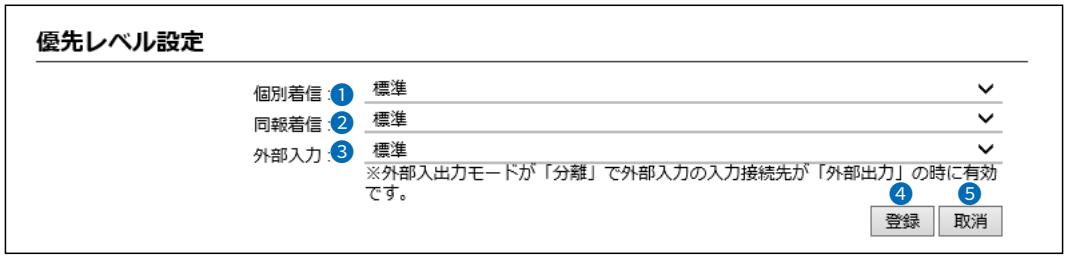
[VoIP拡張設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「優先制御」画面

PBX拡張設定 > 優先制御

■ 優先レベル設定

IP電話機や外部機器からの着信の優先度を設定します。



❶ 個別着信 …… 個別呼び出しによる着信の優先度を、「標準」、「優先」、「最優先」から選択します。（初期設定：標準）

❷ 同報着信 …… 一斉呼び出しによる着信の優先度を、「標準」、「優先」、「最優先」から選択します。（初期設定：標準）

❸ 外部入力 …… 本製品の[EXT](1～4)ポートに接続された外部機器からの着信の優先度を、「標準」、「優先」、「最優先」から選択します。（初期設定：標準）

❹〈登録〉 …… [優先レベル設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

❺〈取消〉 …… [優先レベル設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

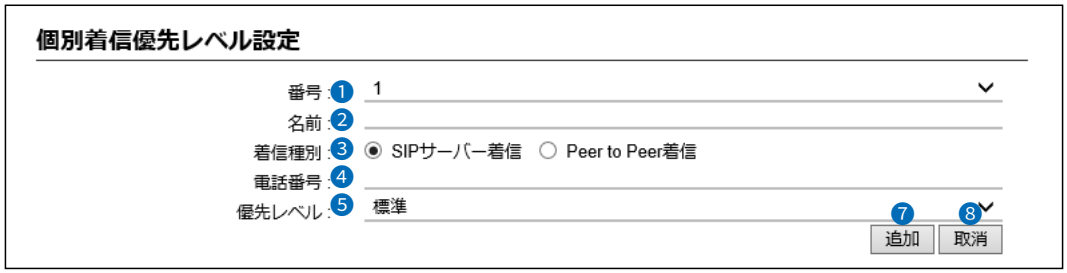
「優先制御」画面

PBX拡張設定 > 優先制御

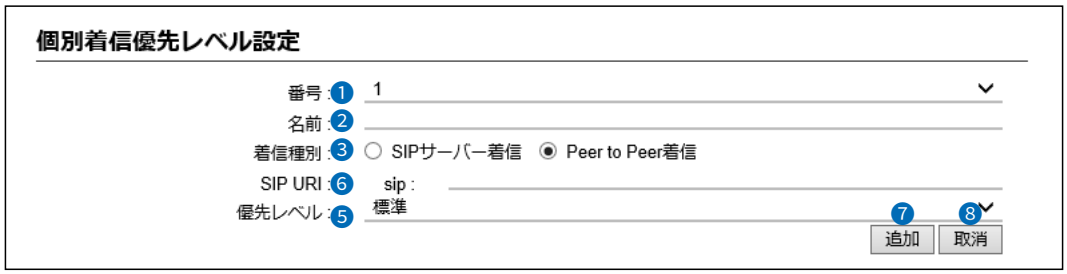
■ 個別着信優先レベル設定

指定したIP電話機からの着信を優先させたいときに設定します。
ほかのIP電話機や無線機と通話中に、指定したIP電話機から着信があると、現在の通話を切断し、呼出音が鳴ります。
指定したIP電話機以外からの着信は、「優先レベル」の設定にしたがいます。

着信種別：SIPサーバー着信



着信種別：Peer to Peeer着信



❶ **番号** …… 指定したIP電話機からの着信に対して、優先レベルを登録する番号を選択します。
最大20件まで登録できます。

❷ **名前** …… 登録する相手先の名称を任意の半角31文字(全角15)以内で入力します。

❸ **着信種別** …… 登録するIP電話機からの着信方法を設定します。
(初期設定：SIPサーバー着信)
◎**SIPサーバー着信**：SIPサーバー(IP回線)経由での着信
◎**Peer to Peer着信**　：Peer to Peerによる着信

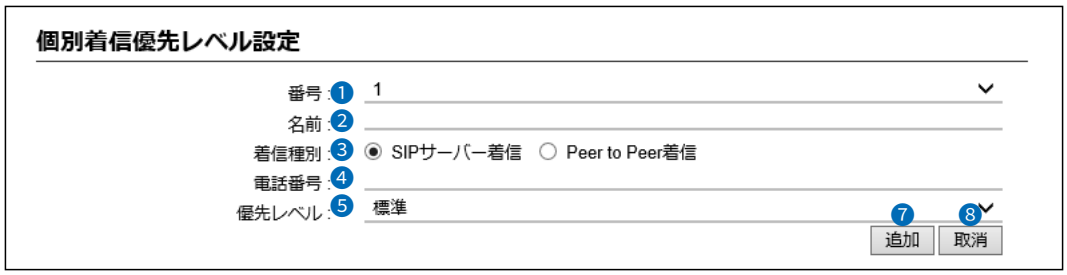
❹ **電話番号** …… 登録する相手先の電話番号を半角31文字以内で入力します。
着信種別：SIPサーバー着信

「優先制御」画面

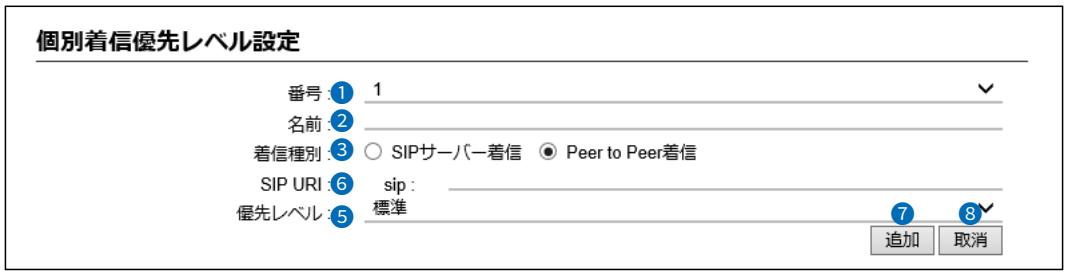
PBX拡張設定 > 優先制御

■ 個別着信優先レベル設定

着信種別：SIPサーバー着信



着信種別：Peer to Peeer着信



❺ 優先レベル ……

登録する相手先の優先レベルを、「標準」、「優先」、「最優先」から選択します。
（初期設定：標準）
通話中に着信した相手の優先レベルのほうが上位の場合は、通話を切り替えるため、現在の通話を切断して、呼出音が鳴ります。
優先レベルが同じ場合は、現在の通話を保持します。
ただし、緊急通知着信時を除きます。

❻ SIP URI ……

着信種別：Peer to Peeer着信

登録する相手先のSIP URIを半角63文字以内で入力します。

❼〈追加〉 ……

［個別着信優先レベル設定］項目で設定した内容を登録するボタンです。
［個別着信優先レベル設定一覧］項目で登録した内容を確認できます。

❽〈取消〉 ……

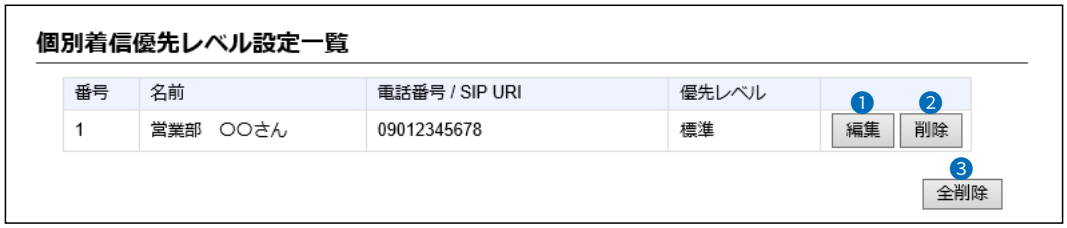
［個別着信優先レベル設定］項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈追加〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「優先制御」画面

PBX拡張設定 > 優先制御

■ 個別着信優先レベル設定一覧

[個別着信優先レベル設定]項目(P.14-12)で登録した内容が表示されます。



※画面の内容は、登録例です。

❶〈編集〉 …… ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[個別着信優先レベル設定]項目で、編集できます。

❷〈削除〉 …… ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容をすべて削除するときは、〈全削除〉をクリックします。

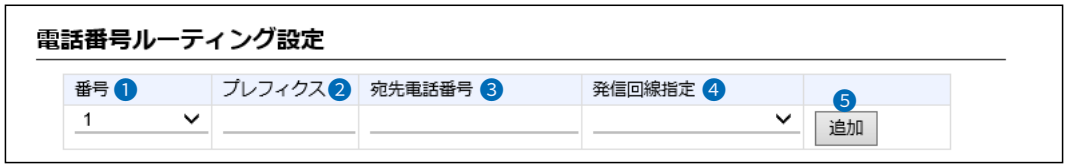
❸〈全削除〉 …… 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。
※[個別着信優先レベル設定]項目の内容がすべて削除されます。

「番号計画」画面

PBX拡張設定 > 番号計画

■ 電話番号ルーティング設定

相手先の電話番号、外線発信に使用する回線など、ルーティングの対象となる条件を設定します。



❶ **番号** …… 各宛先電話番号に対して使用する回線を登録する番号を選択します。
最大400件まで登録できます。

❷ **プレフィクス** …… 半角数字7桁以内で、プレフィクスを入力します。
入力したプレフィクスを相手先の電話番号に付けて発信すると、プレフィクスを取り除いた電話番号で、指定した回線(❹)に発信します。
※[外線発信特番設定]項目(P.11-6)でもプレフィクスを登録できます。

❸ **宛先電話番号** …… 対象となる番号を、半角数字30桁以内で入力します。
入力した電話番号が、外線へ発信するときの番号に含まれている場合(先頭からの部分一致)に、指定した回線(❹)に発信します。

❹ **発信回線指定** …… 「IP回線」画面で登録した回線を使用して発信します。

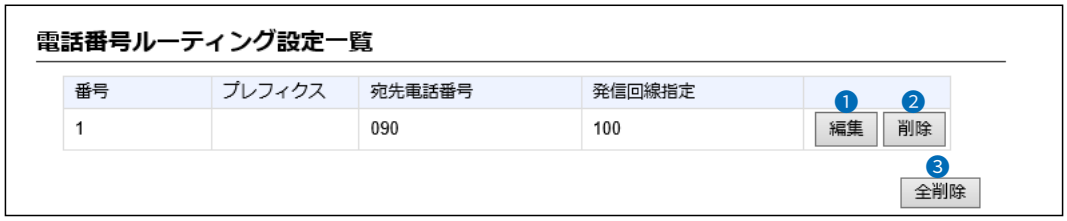
❺ **〈追加〉** …… [電話番号ルーティング設定]項目で設定した内容を[電話番号ルーティング設定一覧]項目に登録するボタンです。

「番号計画」画面

PBX拡張設定 > 番号計画

■ 電話番号ルーティング設定一覧

[電話番号ルーティング設定]項目で登録した設定内容が表示されます。



❶〈編集〉 …… クリックすると、ボタンの左欄に表示された内容を[電話番号ルーティング設定]項目で編集できます。

❷〈削除〉 …… クリックすると、ボタンの左欄に表示された設定内容を削除します。

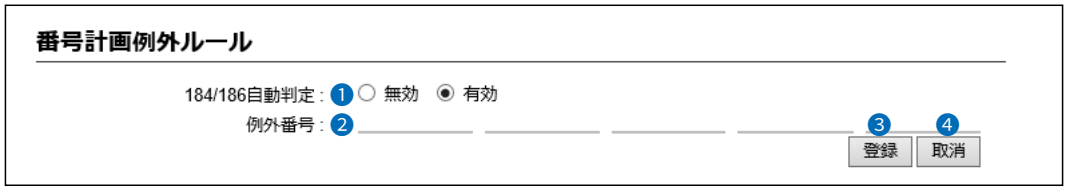
❸〈全削除〉 …… クリックすると、表示された設定内容をすべて削除します。

「番号計画」画面

PBX拡張設定 > 番号計画

■ 番号計画例外ルール

外線発信時、番号変換ルール/発信規制ルールの対象にしない特番について設定します。



❶ 184/186自動判定 …… 「184」や「186」につづけてダイヤルした宛先電話番号に対して、番号変換ルール/発信規制ルールを適用するかどうかを設定します。
(初期設定：有効)

❷ 例外番号 …… 番号変換ルール/発信規制ルールを適用しない特番(例外番号)を、最大5件まで登録できます。
外線発信時、ここに登録した特番以降の宛先電話番号が、番号変換ルール/発信規制ルールの対象になります。

❸〈登録〉 …… 「番号計画例外ルール」項目で設定した内容を登録するボタンです。

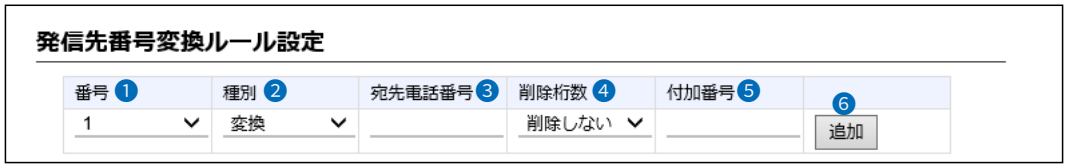
❹〈取消〉 …… 「番号計画例外ルール」項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「番号計画」画面

PBX拡張設定 > 番号計画

■ 発信先番号変換ルール設定

番号変換ルールの対象/例外となる発信先番号とグループを設定します。



❶ **番号** …… 登録された番号変換ルールを比較する順位を指定します。
設定できる範囲は、「1」～「100」です。

❷ **種別** …… 対象となる番号の変換条件を設定します。（初期設定：変換）
◎**変換**：番号変換ルールに一致した場合、番号を変換します。
◎**例外**：番号変換ルールに一致した場合、番号を変換しません。

❸ **宛先電話番号** …… 対象となる番号を半角数字15桁以内で入力します。（初期設定：空白）
ここで指定した番号が、外線へ発信するときの番号に含まれている場合(先頭からの部分一致)に、番号変換ルールが適用されます。

❹ **削除桁数** …… [宛先電話番号]（❸）欄で入力した番号を変換する場合に、その先頭から削除する番号の桁数を設定します。（初期設定：削除しない）
設定できる範囲は、「削除しない」、「1」～「15」です。

❺ **付加番号** …… 先頭に付加する番号を半角数字15桁以内で入力します。（初期設定：空白）

❻ **〈追加〉** …… [発信先番号変換ルール設定]項目で設定した内容を[発信先番号変換ルール一覧]項目に登録するボタンです。

変更ルール設定時の動作例について
下記は、上記画面で設定した変換ルールに対する動作例です。
◎**例1**
[宛先電話番号]（❸）欄：98765432
[削除桁数]（❹）欄　：削除しない
[付加番号]（❺）欄　：080
この場合、「98765432」をダイヤルすると、「08098765432」に変換されて発信します。
◎**例2**
[宛先電話番号]（❸）欄：00065432
[削除桁数]（❹）欄　：3
[付加番号]（❺）欄　：080987
この場合、「00065432」をダイヤルすると、「08098765432」に変換されて発信します。
番号変換ルールの対象となる番号について
内線子機からダイヤルした電話番号のうち、プレフィクスや特番以降の電話番号が番号変換ルールの対象になります。

「番号計画」画面

PBX拡張設定 > 番号計画

■ 発信先番号変換ルール一覧

[発信先番号変換ルール設定]項目で登録した内容が表示されます。

❶〈編集〉 …… クリックすると、ボタンの左欄に表示された内容を、[発信先番号変換ルール設定]項目で編集できます。

❷〈削除〉 …… ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。

❸〈全削除〉 …… 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。

設定例について

上記画面の登録例では、発信時、下記のルールにしたがって、発信者番号を変換して発信します。

◎「080」ではじまる番号に対して「1234」を付加し、「0800」ではじまる番号だけをそのままにするルール
「08012345678」をダイヤルしたときは、「123408012345678」に変換されて発信されます。
「08001234567」をダイヤルしたときは、番号3(上記画面)の行に設定された「例外」に一致するため、変換されずに「08001234567」をそのまま発信します。

◎「090」ではじまる番号に対して「1234」を付加するルール
「09012345678」をダイヤルしたときは、「123409012345678」に変換されて発信されます。

◎「5678」ではじまる番号に対して「5678」の4桁を削除して、「1234」を付加するルール
「5678123456」をダイヤルしたときは、「1234123456」に変換されて発信されます。

◎「0667935301」をダイヤルしたときは、番号1～番号4(上記画面)のどの行にも一致しないため、変換されずに「0667935301」をそのまま発信します。

番号表示変換ルール適用時について

◎内線子機から外線へ発信するときだけ、番号変換ルールが適用されます。
ルールの適用については、登録した回線(電話番号)ごとに「外線サービスグループ」画面で設定できます。

◎変換種別は、例外設定が優先されます。

◎番号変換ルールを複数設定しているときは、番号の小さい順に比較を開始します。
条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のルールは比較しません。

※削除により番号を付加する前の有効桁数が0以下になる場合、番号変換後の桁数が32桁以上になる場合は番号変換ルールが適用されません。

「番号計画」画面

PBX拡張設定 > 番号計画

■ 発信規制ルール設定

発信規制ルールのグループと対象/例外となる宛先電話番号を設定します。

❶ 発信規制ルール番号 ……

対象となる発信規制ルールのグループを選択します。　（初期設定：共通）
選択できる範囲は、「共通」、または「1」～「16」です。
発信規制ルールの適用については、内線子機の設定グループごとに「電話機設定」画面で設定できます。
※「共通」に設定した内容は、すべてのグループ(1 ～16)に適用されます。
〈追加〉
[発信規制ルール設定]項目で設定した内容を、[発信規制ルール一覧]項目に登録するボタンです。

❷ 発信規制リスト ……

発信規制ルールに一致した場合、外線への発信を規制する番号を、半角数字15桁以内で入力します。　（初期設定：空白）
ここで指定した番号が、外線へ発信するときの番号に含まれている場合(先頭からの部分一致)に、発信規制ルールが適用されます。
[発信規制ルール番号](❶)欄で選択したルール番号ごとに、最大20件まで登録できます。

❸ 発信許可リスト ……

発信規制ルールに一致した場合、外線への発信を許可する番号を、半角数字15桁以内で入力します。　（初期設定：空白）
ここで指定した番号が、外線へ発信するときの番号に含まれている場合(先頭からの部分一致)に、発信規制ルールが適用されます。
[発信規制ルール番号](❶)欄で選択したルール番号ごとに、最大20件まで登録できます。

「番号計画」画面

PBX拡張設定 > 番号計画

■ 発信規制ルール一覧

[発信規制ルール設定]項目で登録した内容が表示されます。

❶〈編集〉 …… クリックすると、ボタンの左欄に表示された内容を、[発信規制ルール設定]項目で編集できます。

❷〈削除〉 …… ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。

❸〈全削除〉 …… 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。

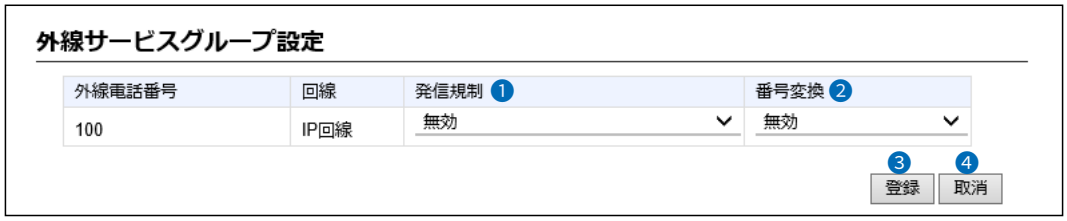
発信規制ルールの順番について
「電話機」画面や「外線サービスグループ」画面で設定した発信規制は、内線子機(設定グループ)、選択した回線(電話番号)の順に適用され、外線発信を規制します。
※海外への発信を許可しない、または特定の拠点への発信だけを許可するなど、外線発信を規制できます。
発信規制ルールの対象となる番号について
◎「電話機設定」画面(設定グループ)の[機種共通設定]項目で発信規制ルールを設定した場合
内線子機からダイヤルした電話番号のうち、プレフィクスや特番以降の宛先電話番号が発信規制ルールの対象になります。
◎「外線サービスグループ」画面で発信規制グループを設定した場合
選択した回線(電話番号)から発信するときの電話番号★が発信規制ルールの対象になります。
★内線子機からダイヤルした電話番号は、「番号計画」画面の番号変換ルールにしたがって、変更されます。

「外線サービスグループ」画面

PBX拡張設定 > 外線サービスグループ

■ 外線サービスグループ設定

本製品に登録した回線(電話番号)について、グループを設定します。



❶ **発信規制** ……

登録した回線(電話番号)ごとに、外線への発信規制を設定します。
(初期設定：無効)

◎**無効**　：発信を規制しません。
◎**発信規制ルール1～16**：「番号計画」画面で設定した発信規制ルールにしたがって、特定の番号への発信を規制します。
※発信規制ルール「共通」の内容も適用されます。
◎**外線発信規制**　：外線への発信はできません。
※内線(Peer to Peerを含む)への発信は規制されません。

❷ **番号変換** ……

登録した回線(電話番号)ごとに、外線発信時の番号変換ルールを設定します。
(初期設定：無効)
「有効」に設定すると、「番号計画」画面で設定した番号変換ルールにしたがって変換された番号で外線へ発信します。

❸ **〈登録〉** ……

[外線サービスグループ設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

❹ **〈取消〉** ……

[外線サービスグループ設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「通話数制限」画面

PBX拡張設定 > 通話数制限

■ 通話数制限設定(システム全体)

本製品に登録したすべての回線(電話番号)について、通話数の制限を設定します。

❶ 外線通話本数制限 ……

本製品に登録した回線で、発着信できる総通話数を設定します。
設定できる範囲は、「1」～「50」です。 (初期設定：50)
※本製品に登録した回線の総通話数が、[外線通話本数制限]欄で設定した通話数になると、新たに発着信があったとき話中になります。

❷ 優先回線用の通話数確保数 ……

優先したい回線に確保する総通話数を設定します。
設定できる範囲は、「0」～「50」です。 (初期設定：0)
※[外線通話本数制限](❶)欄で設定した以上の通話数を設定できますが、本製品で発着信できる総通話数を超える通話はできません。
※[外線通話本数制限](❶)欄と同じ、またそれ以上の通話数を設定した場合は、通常回線★を使用できません。
※通常回線★での通話総数は、外線通話本数制限から優先回線用の通話確保数を除いた値となります。
★本書では、優先回線の割り当てをしない回線を「通常回線」と表記します。

❸ 同時鳴動数確保 ……

外線着信で一斉鳴動する電話機を多数設定し、さらに着信が集中した場合、一時的に着信を制限する機能です。 (初期設定：有効)
※特に問題がある場合を除いては、初期設定でお使いください。

「通話数制限」画面

PBX拡張設定 > 通話数制限

■ 通話数制限設定

本製品に登録した回線(電話番号)について、通話数の制限や優先回線の割り当てを設定します。

❶ 外線電話番号 ……

「IP回線設定」メニューで登録した回線の電話番号が表示されます。
※この欄では電話番号の変更はできません。

❷ 回線 ……

「IP回線設定」メニューで登録した回線の種別が表示されます。

❸ 通話数制限 ……

電話番号ごとに、発着信できる通話数を制限します。
設定できる範囲は、「制限なし」、「1」～「50」です。　(初期設定：制限なし)
※本製品に登録したKX-UT136N、KX-HDV230Nの電話機では、回線の使用状況をフレキシブルボタンの点灯で確認できます。

❹ 優先回線の割り当て ……

本製品に登録した電話番号ごとに、優先回線の割り当てを設定します。
(初期設定：しない)
◎「する」に設定した回線は優先回線として機能します。
優先回線の通話数は[外線通話本数制限](P.14-23)、または[通話数制限](❸)です。
◎「しない」に設定した回線は、通常回線★として機能します。
通常回線の通話数は[外線通話本数制限]－[優先回線用の通話確保数](P.14-23)、または[通話数制限](❸)です。
※優先回線数が外線通話本数以上の場合、通常回線★は使用できません。
★本書では、優先回線の割り当てをしない回線を「通常回線」と表記します。

❺〈登録〉 ……

「通話数制限設定」項目で設定した内容を登録するボタンです。

❻〈取消〉 ……

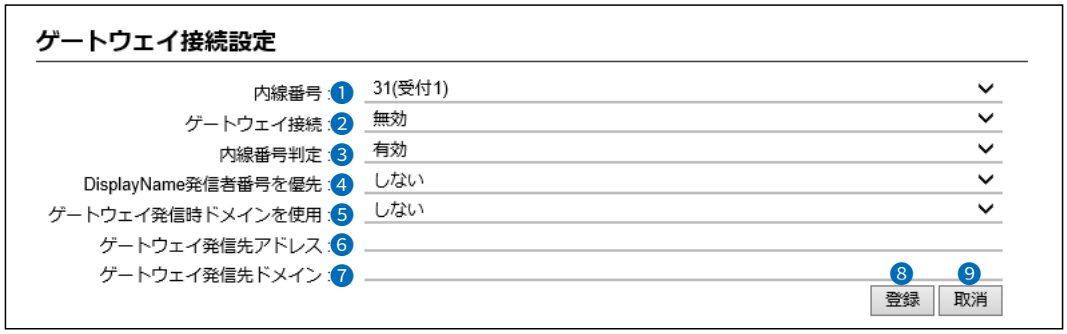
「通話数制限設定」項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「ゲートウェイ接続」画面

PBX拡張設定 > ゲートウェイ接続

■ ゲートウェイ接続設定

本製品のゲートウェイ接続について設定します。
※特定のシステム環境が必要となりますので、特別な理由がない限り初期設定のままでご使用ください。



❶ 内線番号 ……

ゲートウェイ接続を使用する内線子機の内線番号を選択します。
※この欄では「PBX設定」メニューで登録した内線番号を変更できません。

❷ ゲートウェイ接続 ……

本製品のゲートウェイ接続について設定します。（初期設定：無効）
「有効」に設定すると、内線子機が本製品にレジストされていなくても通信できる特殊な動作となります。

❸ 内線番号判定 ……

ゲートウェイ接続時の内線番号判定機能について設定します。
（初期設定：有効）
「無効」に設定すると、内線番号ではなくドメインの一致により、どの端末からの発信か判定します。
この機能により、多台数のゲートウェイ接続端末から内線機能を使用できるようになります。

❹ DisplayName発信者番号を優先 ……

ゲートウェイ接続を使用した着信時に、内線番号を判定する方法を設定します。（初期設定：しない）
「する」に設定すると、SIP URIの「DisplayName」エリアと内線番号で判定します。
「ユーザパート」エリアと内線番号で判定するときは、「しない」に設定します。
※この設定に関わらず、[内線番号判定]（❸）欄が優先されます。

❺ ゲートウェイ発信時ドメインを使用 ……

ゲートウェイ接続を使用した発信時に、指定されたドメインを使用するか設定します。（初期設定：しない）
本製品のIPアドレスを使用するときは、「しない」に設定します。

「ゲートウェイ接続」画面

PBX拡張設定 > ゲートウェイ接続

■ ゲートウェイ接続設定

❻ ゲートウェイ発信先アドレス … ゲートウェイ接続を使用した発信時に、接続する機器について設定します。
指定されたIPアドレスを入力します。

❼ ゲートウェイ発信先ドメイン … ゲートウェイ接続を使用した着信時の端末判定に、ドメインを使用する場合に設定します。
指定されたドメイン(または該当する機器のIPアドレス)を半角英数字63文字以内で入力します。

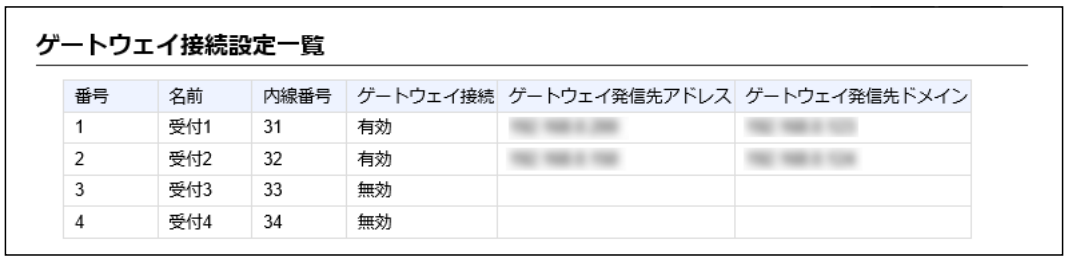
❽〈登録〉 …… [ゲートウェイ接続設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

❾〈取消〉 …… [ゲートウェイ接続設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

PBX拡張設定 > ゲートウェイ接続

■ ゲートウェイ接続設定一覧

[ゲートウェイ接続設定]項目で登録した内容が表示されます。



番号	名前	内線番号	ゲートウェイ接続	ゲートウェイ発信先アドレス	ゲートウェイ発信先ドメイン
1	受付1	31	有効	[redacted]	[redacted]
2	受付2	32	有効	[redacted]	[redacted]
3	受付3	33	無効		
4	受付4	34	無効		

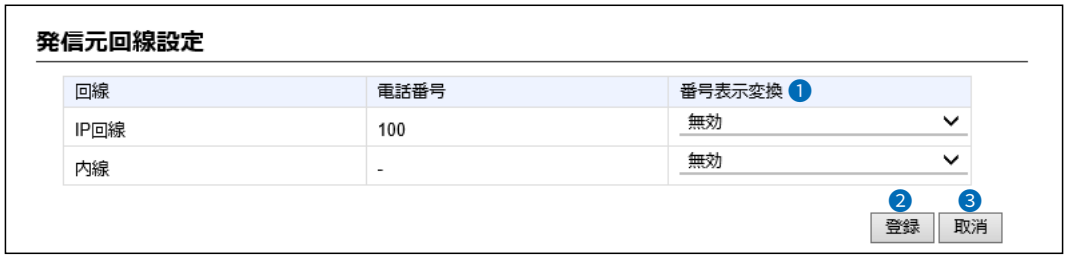
※登録した内容を変更するときは、[ゲートウェイ接続設定]項目で該当する内線番号を選択します。

「番号表示変換」画面

PBX拡張設定 > 番号表示変換

■ 発信元回線設定

着信時に、発信元番号(発番号)表示を変換する機能について設定します。



❶ 番号表示変換 …… 着信時に、発信元番号(発番号)を変換して表示するかどうか、登録した回線ごとに設定します。（初期設定：無効）
「有効」に設定すると、[番号表示変換ルール設定]項目で設定したルールにしたがって番号が表示されます。
※「内線」は同じSIPサーバー(本製品)に登録された内線子機からの着信が該当します。

❷〈登録〉 …… 「発信元回線設定」項目で設定した内容を登録するボタンです。

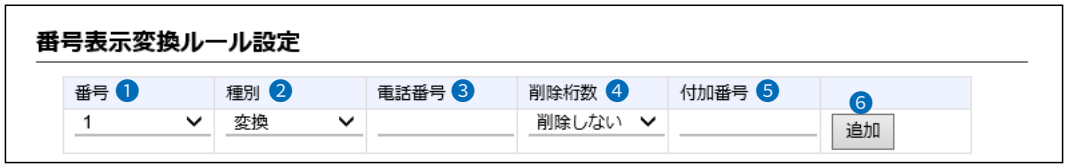
❸〈取消〉 …… 「発信元回線設定」項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「番号表示変換」画面

PBX拡張設定 > 番号表示変換

■ 番号表示変換ルール設定

番号表示変換ルールの対象/例外となる発信元番号(発番号)を設定します。



❶ 番号 ……

登録された番号表示変換ルールを比較する順位を指定します。
設定できる範囲は、「1」~「100」です。

❷ 種別 ……

対象となる番号の変換条件を設定します。 (初期設定：変換)
◎変換：番号表示変換ルールに一致した場合、表示番号を変換します。
◎例外：番号表示変換ルールに一致した場合、表示番号を変換しません。

❸ 電話番号 ……

対象となる番号を半角数字15桁以内で入力します。 (初期設定：空白)
ここで指定した番号が、着信した番号に含まれている場合(先頭からの部分一致)に、番号表示変換ルールが適用されます。

❹ 削除桁数 ……

[電話番号](❸)欄で入力した番号を変換する場合に、その先頭から削除する番号の桁数を設定します。 (初期設定：削除しない)
設定できる範囲は、「削除しない」、「1」~「15」です。

❺ 付加番号 ……

先頭に付加する番号を半角数字15桁以内で入力します。 (初期設定：空白)

❻ 〈追加〉 ……

[番号表示変換ルール設定]項目で設定した内容を、[番号表示変換ルール一覧]項目に登録するボタンです。

変更ルール設定時の動作例について
下記は、上記画面で設定した変換ルールに対する動作例です。
◎例1
[電話番号](❸)欄：98765432
[削除桁数](❹)欄：削除しない
[付加番号](❺)欄：080
この場合、「98765432」から着信すると、「08098765432」に変換されて表示されます。
◎例2
[電話番号](❸)欄：00065432
[削除桁数](❹)欄：3
[付加番号](❺)欄：080987
この場合、「00065432」から着信すると、「08098765432」に変換されて表示されます。

「番号表示変換」画面

PBX拡張設定 > 番号表示変換

■ 番号表示変換ルール一覧

[番号表示変換ルール設定]項目で登録した内容が表示されます。

❶〈編集〉 …… クリックすると、ボタンの左欄に表示された内容を、[番号表示変換ルール設定]項目で編集できます。

❷〈削除〉 …… ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。

❸〈全削除〉 …… 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。

設定例について

上記画面の登録例では、着信時、下記のルールにしたがって、発信者番号を変換して表示されます。

◎「080」ではじまる番号に対して「1234」を付加し、「0800」ではじまる番号だけをそのままにするルール
「08012345678」から着信したときは、「123408012345678」に変換されて表示されます。
「08001234567」から着信したときは、番号3(上記画面)の行に設定された「例外」に一致するため、変換されずに「08001234567」がそのまま表示されます。

◎「090」ではじまる番号に対して「1234」を付加するルール
「09012345678」から着信したときは、「123409012345678」に変換されて表示されます。

◎「5678」ではじまる番号に対して「5678」の4桁を削除して、「1234」を付加するルール
「5678123456」から着信したときは、「1234123456」に変換されて表示されます。

◎「0667935301」から着信したときは、番号1～番号4(上記画面)のどの行にも一致しないため、変換されずに「0667935301」がそのまま表示されます。

番号表示変換ルール適用時について

◎変換種別は、例外設定が優先されます。

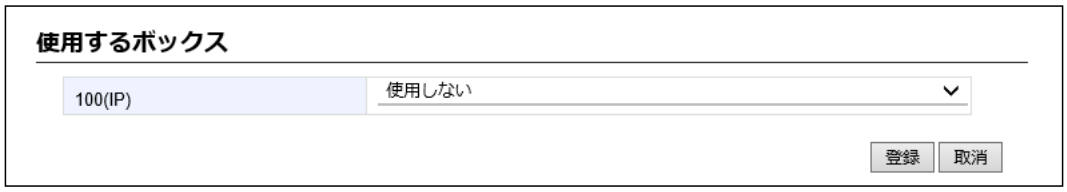
◎番号表示変換ルールを複数設定しているときは、番号の小さい順に比較を開始します。
条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のルールは比較しません。

※削除により番号を付加する前の有効桁数が0以下になる場合、番号表示変換後の桁数が32桁以上になる場合は番号表示変換ルールが適用されません。

「DIDボックス」画面

PBX拡張設定 > DIDボックス

■ 使用するボックス



使用するボックス…… 外線で使用するDIDボックスを選択します。 （初期設定：使用しない）

※「IP回線設定」メニューの「IP回線」画面で登録したIP電話番号がすべて表示されます。

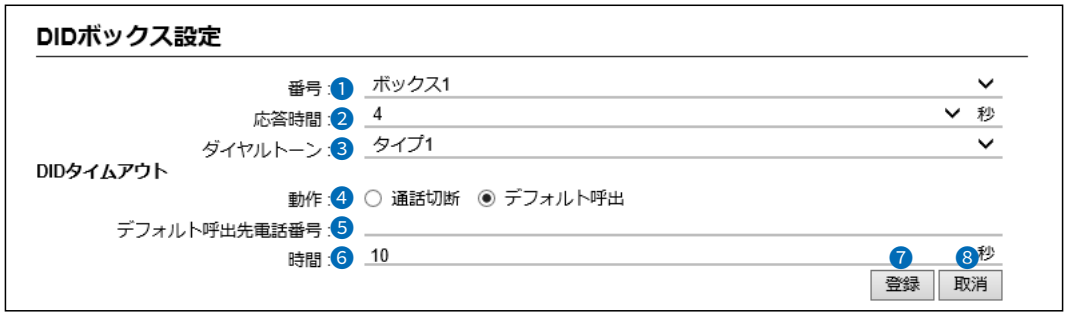
※DIDボックスを指定すると、「PBX設定」メニューの「着信」画面で設定した着信内線番号が、指定したDIDボックスに変更されます。

「DIDボックス」画面

PBX拡張設定 > DIDボックス

■ DIDボックス設定

各DIDボックスの動作について設定します。



※[動作](❹)欄を「デフォルト呼出」に設定した画面を使用しています。

❶ 番号 …… 設定するDIDボックスを選択します。 (初期設定：ボックス1)

❷ 応答時間 …… 外線に着信したとき、[ダイヤルトーン](❸)を開始するまでの時間(秒)を設定します。 (初期設定：4)
設定できる範囲は、「0」～「10」秒です。

❸ ダイヤルトーン …… 本製品のDID(Direct Inward Dialing)機能を使用するときに、IP電話機で流れるトーンのパターンを、「タイプ1」～「タイプ3」から選択します。
(初期設定：タイプ1)

❹ 動作 …… 本製品のDID(Direct Inward Dialing)機能を使用するときに、DTMF信号を受信しないまま、一定時間経過したときのタイムアウト動作を設定します。
(初期設定：通話切断)
※DTMF信号を1つでも受信した場合は、タイムアウトになりません。
◎**通話切断** ：端末側無線機を呼び出しせずに通話を切断します。
◎**デフォルト呼出** ：デフォルト呼出先電話番号で指定した電話番号に発信します。

❺ デフォルト呼出先電話番号 …… 本製品のDID(Direct Inward Dialing)機能を使用するときに、DTMF信号を受信しないまま、一定時間経過したときの発信先の電話番号を設定します。

❻ 時間 …… 本製品のDID(Direct Inward Dialing)機能を使用するときに、DTMF接続から、通話切断、またはデフォルト呼出するまでの時間を設定します。
設定できる範囲は、「0」、または「1～120」(秒)です。
※「0」の場合は、タイムアウトになりません。

❼〈登録〉 …… [DIDボックス設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

❽〈取消〉 …… [DIDボックス設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「DIDボックス」画面

PBX拡張設定 > DIDボックス

■ DIDボックス設定一覧

[DIDボックス設定]項目で登録した内容が表示されます。

DIDボックス設定一覧

番号	応答時間	ダイヤルトーン	DIDタイムアウト		
			動作	デフォルト呼出先電話番号	時間
ボックス1	4	タイプ1	デフォルト呼出	31	10
ボックス2	4	タイプ1	通話切断	-	10
ボックス3	4	タイプ1	通話切断	-	10
ボックス4	4	タイプ1	通話切断	-	10
ボックス5	4	タイプ1	通話切断	-	10
ボックス6	4	タイプ1	通話切断	-	10
ボックス7	4	タイプ1	通話切断	-	10
ボックス8	4	タイプ1	通話切断	-	10
ボックス9	4	タイプ1	通話切断	-	10
ボックス10	4	タイプ1	通話切断	-	10

DID操作について

◎ダイヤルトーンを開始してから、[時間]欄で設定した時間内に何も操作しないと、[動作]欄で設定した動作に移行します。
※1つでもボタンを押すとタイムアウト処理はされません。
◎DID操作後、[#]を押すと桁間タイマー(5秒)を待たずに即時発信できます。
◎DID番号が存在しない不完全番号の場合は、話中音後切断します。

管理

第 15 章

この章では、
「管理」画面の設定について説明します。

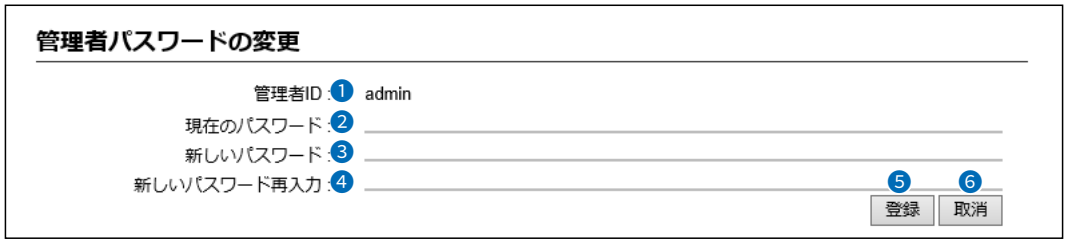
「管理者」画面 …… 15-2
■ 管理者パスワードの変更 …… 15-2
「管理ツール」画面…… 15-3
■ USB設定…… 15-3
■ HTTP/HTTPS設定 …… 15-5
■ HTTP/HTTPS設定後、設定画面にアクセスできなくなったときは …… 15-6
■ Telnet/SSH設定 …… 15-7
■ UID確認 …… 15-8
「時計」画面 …… 15-9
■ 時刻設定 …… 15-9
■ 自動時計設定 …… 15-10
■ SNTPサーバー設定 …… 15-11
「SYSLOG」画面 …… 15-12
■ SYSLOG設定 …… 15-12
「SNMP」画面 …… 15-13
■ SNMP設定…… 15-13
「ネットワークテスト」画面…… 15-14
■ PINGテスト …… 15-14
■ 経路テスト …… 15-15
「再起動」画面 …… 15-16
■ 再起動 …… 15-16
「設定の保存/復元」画面 …… 15-17
■ 設定の保存 …… 15-17
■ 設定の復元 …… 15-17
■ 設定内容一覧 …… 15-18
「初期化」画面 …… 15-19
■ 初期化 …… 15-19
「ファームウェアの更新」画面 …… 15-20
■ ファームウェア情報 …… 15-20
■ オンライン更新 …… 15-21
■ 自動更新 …… 15-22
■ 手動更新 …… 15-23

「管理者」画面

管理 > 管理者

■ 管理者パスワードの変更

本製品の設定画面にアクセスするためのパスワードを変更します。



❶ 管理者ID ……

本製品の設定画面へのアクセスを許可する管理者IDが表示されます。
※本製品の設定画面にアクセスすると、ユーザー名として入力を求められますので、本製品の管理者ID(admin)を入力します。
※本製品の[管理者ID]は、変更できません。

❷ 現在のパスワード ……

新しいパスワードに変更するとき、現在のパスワードを大文字/小文字の区別に注意して入力します。（初期設定：admin）
※入力中の文字は、すべて＊(アスタリスク)、または●(黒丸)で表示されます。

❸ 新しいパスワード ……

新しいパスワードを入力します。
大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字/記号(半角31文字以内)で入力します。
※新しいパスワードを登録後は、次回のアクセスからパスワードの入力を求める画面が表示されますので、そこに新しいパスワードを入力します。

❹ 新しいパスワード再入力 ……

確認のために、新しいパスワードを再入力します。

❺〈登録〉 ……

「管理者」画面で設定した内容を登録するボタンです。

❻〈取消〉 ……

「管理者」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

不正アクセス防止のアドバイス
本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。
数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた長く複雑なものにされることをおすすめします。

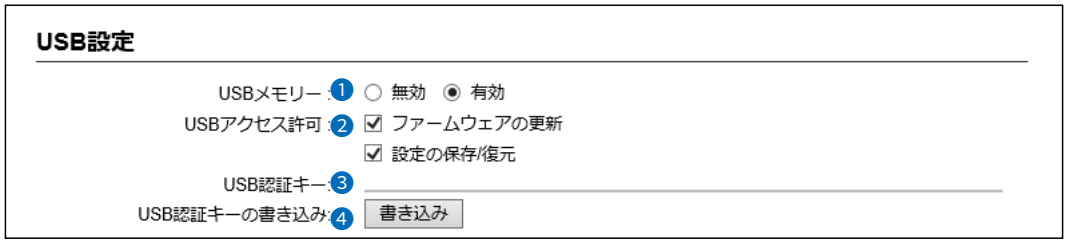
ご注意
管理者パスワードを忘れた場合、設定画面にアクセスするには、初期設定の状態に戻す必要があります。
※初期化するときは、VE-PG4取扱説明書[導入編]の5章をご覧ください。

「管理ツール」画面

管理 > 管理ツール

■ USB設定

市販のUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込んだときの動作を設定します。



❶ USBメモリー ……

USBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込んだときの動作について設定します。（初期設定：有効）

※「無効」に設定されていると、本製品のファームウェアファイルや設定ファイルなどを保存したUSBメモリーを差し込んでもファイルを読み込みません。

❷ USBアクセス許可 ……

本製品に接続されたUSBメモリーから読み込むファイルを選択します。

（初期設定：☑ ファームウェアの更新
☑ 設定の保存／復元）

※チェックマーク[✔]をはずすと、ファイルを保存したUSBメモリーを差し込んだ状態で、〈USB〉ボタンを短く押しても、該当ファイルを読み込みません。

◎**ファームウェアの更新**（P.15-20～P.15-23）
本製品のファームウェアファイル（拡張子：dat）を保存したUSBメモリーを差し込むと、ファームウェアをバージョンアップします。

◎**設定の保存／復元**（P.15-17）
本製品の設定ファイルをUSBメモリーに保存後、設定が異なる本製品にUSBメモリーを差し込んで、自動で設定を復元します。

❸ USB認証キー ……

本製品の[USB]ポートに差し込んだUSBメモリーへのファイルの読み込みと書き出しに対するUSB認証キーを設定します。
大文字/小文字の区別に注意して、64文字以内（任意の半角英数字/記号）で入力します。

※USB認証キーでアクセス制限できるのは、「ファームウェアの更新」と「設定の保存／復元」です。

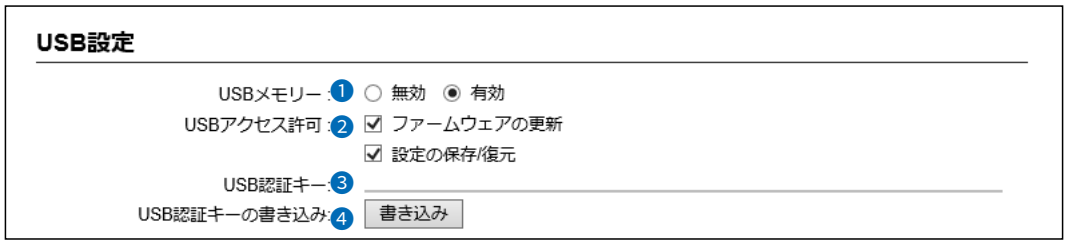
※入力後、「管理ツール」画面の〈登録〉をクリックすると、本製品にUSB認証キーが設定されます。

※本製品にUSB認証キーを設定すると、本製品からUSBメモリーに書き込んだUSB認証キーと同じかどうかを認証します。

「管理ツール」画面

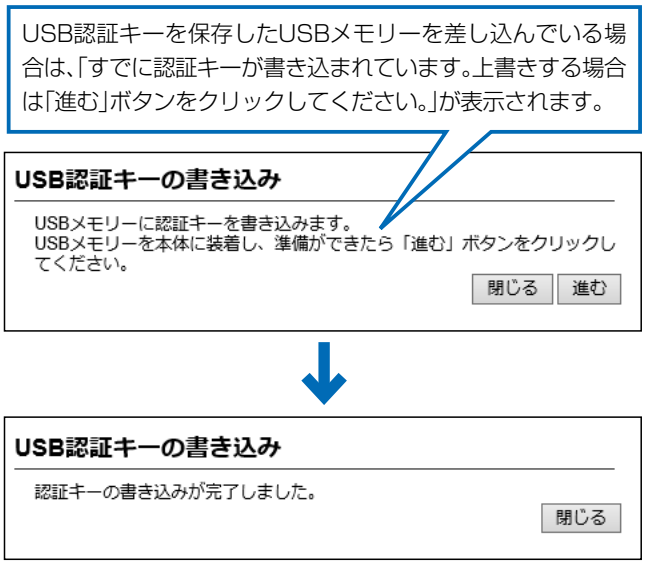
管理 > 管理ツール

■ USB設定

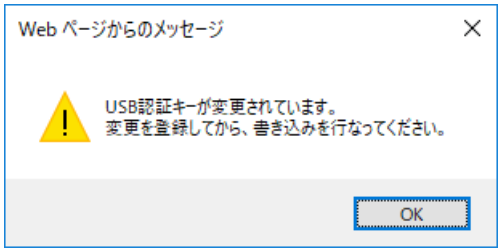


❹ USB認証キーの書き込み ……

本製品に設定されているUSB認証キーを本製品の[USB]ポートに差し込んだUSBメモリーへ書き込むボタンです。
〈書き込み〉をクリックして、表示される画面にしたがって操作してください。



※下記の画面が表示されたときは、〈OK〉をクリックして画面を閉じ、「管理ツール」画面の〈登録〉をクリックしてください。



「管理ツール」画面

管理 > 管理ツール

■ HTTP/HTTPS設定

HTTPとHTTPSは、WWWブラウザーから設定画面にアクセスするためのプロトコルです。
※両方を「無効」に設定すると、WWWブラウザーを使用して、本製品の設定画面にアクセスできなくなりますのでご注意ください。

❶ HTTP …… 本製品へのHTTPプロトコルによるアクセスの許可を設定します。
（初期設定：有効）

❷ HTTPポート番号 …… 本製品へのHTTPプロトコルによるアクセスのポート番号を設定します。
設定できる範囲は、「80」と「1024～65535」です。 （初期設定：80）
そのほか、本製品が使用する一部のポートで利用できないものがあります。
※HTTPS、Telnet、SSHを使用時、これらに設定されたポート番号と重複しないように設定してください。

❸ HTTPS…… 本製品へのHTTPSプロトコルによるアクセスの許可を設定します。
（初期設定：無効）
※HTTPSを使用すると、パスワードやデータが暗号化されるため、TelnetやHTTPでのアクセスより安全性が向上します。

❹ HTTPSポート番号…… 本製品へのHTTPSプロトコルによるアクセスのポート番号を設定します。
（初期設定：443）
設定できる範囲は、「443」と「1024～65535」です。
そのほか、本製品が使用する一部のポートで利用できないものがあります。
※HTTP、Telnet、SSHを使用時、これらに設定されたポート番号と重複しないように設定してください。

「管理ツール」画面

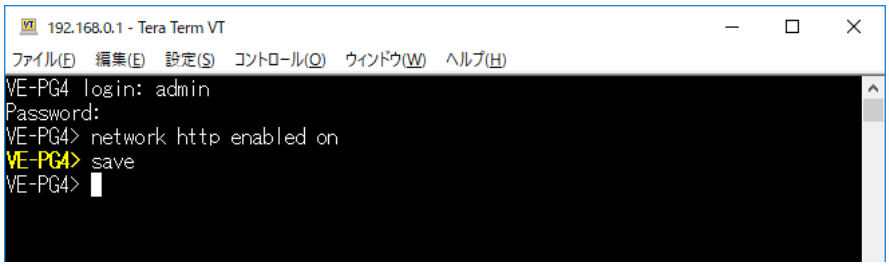
管理 > 管理ツール

■ HTTP/HTTPS設定後、設定画面にアクセスできなくなったときは

TelnetやSSH(詳しくは、VE-PG4取扱説明書[導入編]の6章をご覧ください。)で本製品(例：192.168.0.1)にアクセスして、VE-PG4>につづけて、下記の太字部分のように入力後、[Enter]キーを押してください。

※初期設定では、「Telnet/SSH設定」項目の[Telnet]欄が「無効」に設定されているため、Telnetクライアントから本製品にアクセスできません。(P.15-7)

① VE-PG4> **network http enabled on**　と入力し[Enter]キーを押します。
② VE-PG4> **save**　と入力し[Enter]キーを押す。
③ プロンプト応答後、本製品の設定画面へのアクセスを確認します。



「管理ツール」画面

管理 > 管理ツール

■ Telnet/SSH設定

TelnetクライアントやSSHクライアントからのアクセスについて設定します。

❶ Telnet …… 本製品へのTelnetプロトコルによるアクセスの許可を設定します。
（初期設定：無効）

❷ Telnetポート番号 …… 本製品へのTelnetプロトコルによるアクセスのポート番号を設定します。
（初期設定：23）
設定できる範囲は、「23」と「1024～65535」です。
そのほか、本製品が使用する一部のポートで利用できないものがあります。
※HTTP、HTTPS、SSHを使用時、これらに設定されたポート番号と重複しないように設定してください。

❸ SSH …… 本製品へのSSHプロトコルによるアクセスの許可を設定します。
（初期設定：有効）
※SSHを使用すると、SSHクライアントプログラムを使用して設定する内容を暗号化して通信できます。
※本製品が対応しているのは、SSHプロトコルのバージョン2だけです。
※SSHを使用するには、別途SSHクライアントをご用意ください。

❹ SSH認証方式 …… [SSH]（❸）欄で「有効」を設定したとき、本製品へのアクセスに対する認証方式を設定します。（初期設定：自動）
◎**パスワード認証** ： パスワードを使用して認証するときに設定します。
◎**公開鍵認証** ： 公開鍵を使用して認証するときに設定します。
◎**自動** ：「パスワード認証」と「公開鍵認証」を自動認識します。

❺ SSHポート番号 …… 本製品へのSSHプロトコルによるアクセスのポート番号を設定します。
（初期設定：22）
設定できる範囲は、「22」と「1024～65535」です。
そのほか、本製品が使用する一部のポートで利用できないものがあります。
※HTTP、Telnet、HTTPSを使用時、これらに設定されたポート番号と重複しないように設定してください。

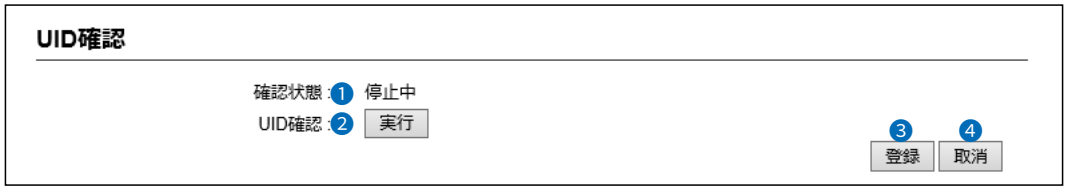
❻ SSH公開鍵 …… [SSH]（❸）欄を「有効」、[SSH認証方式]（❹）欄を「自動」/「公開鍵認証」に設定したとき、SSHでアクセスするときに使用する公開鍵を設定します。
設定するSSH公開鍵ファイルをテキストエディターなどで開き、その全文を本欄にペーストしてください。

「管理ツール」画面

管理 > 管理ツール

■ UID確認

複数設置した場合に、本製品を識別するための機能です。
どの機器の設定画面を操作しているのかを、本製品のランプで確認できます。



❶ **確認状態** …… UID確認の状態が表示されます。
◎**実行中**：UID確認中（[PWR]が☀赤点滅します。）
◎**停止中**：UID確認を実行していない

❷ **UID確認** …… 〈実行〉を押すと、本製品の[PWR]が☀赤点滅します。
※実行中は、ボタンが〈停止〉に切り替わります。
※UID確認は、2分で自動停止しますが、〈停止〉をクリックすると、手動で停止できます。

❸ **〈登録〉** …… 「管理ツール」画面で設定した内容を登録するボタンです。

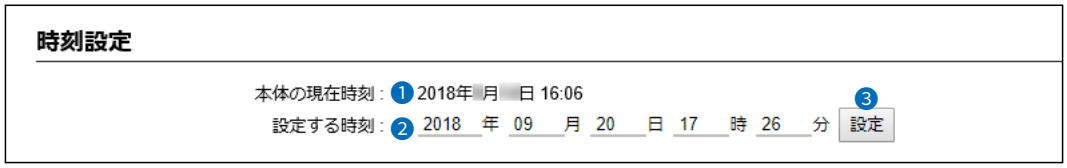
❹ **〈取消〉** …… 「管理ツール」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「時計」画面

管理 > 時計

■ 時刻設定

本製品の内部時計を手動で設定します。



❶ 本体の現在時刻 …… 本製品に設定されている時刻が表示されます。

❷ 設定する時刻 …… 本製品の設定画面にアクセスしたときの時刻が表示されます。
※お使いのWWWブラウザーで表示画面を更新すると、パソコンの時計設定を取得して表示します。

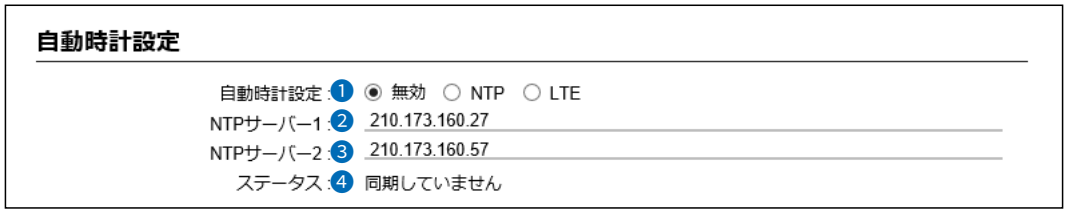
❸〈設定〉 …… [設定する時刻](❷)欄に表示された時刻を本製品に手動で設定するボタンです。
※時刻を手動で設定するときは、本製品の設定画面に再度アクセスするか、お使いのWWWブラウザーで表示画面を更新してから、〈設定〉をクリックしてください。

「時計」画面

管理 > 時計

■ 自動時計設定

本製品の内部時計を自動設定するとき、アクセスするタイムサーバーの設定です。



❶ 自動時計設定 ……

本製品の自動時計設定機能を設定します。（初期設定：無効）

◎**無効**　：自動時計設定機能を使用しない。

◎**NTP**　：ネットワーク上に存在するNTPサーバーに日時の問い合わせをして、内部時計を自動設定する。

◎**LTE**　：SIMカード装着時は、本製品に内蔵している無線通信モジュールに問い合わせをして内部時計を自動設定する。（回線のご契約と通信事業者の時刻サービス提供が必要です）

❷ NTPサーバー１ ……

アクセスするNTPサーバーのIPアドレスを入力します。（初期設定：210.173.160.27）

応答がないときは、[NTPサーバー2]（❸）欄で設定したNTPサーバーにアクセスします。

※初期に参照しているNTPサーバーアドレスは、インターネットマルチフィード株式会社 http://www.jst.mfeed.ad.jp/ のものです。

❸ NTPサーバー２ ……

[NTPサーバー1]の次にアクセスさせるNTPサーバーがあるときは、そのIPアドレスを入力します。（初期設定：210.173.160.57）

❹ ステータス ……

NTPサーバー、または無線通信モジュールとの同期の状態が表示されます。同期しているときは、「同期しました」が表示されます。

自動時計設定機能について

SIMカード装着時に自動時計設定を「LTE」に設定すると、本体起動時に無線通信モジュールに日時の問い合わせをします。
自動時計設定を「NTP」に設定すると、本体起動時にNTPサーバーに日時の問い合わせをします。
それ以降は、定期的に内部時計を自動設定します。

ご注意

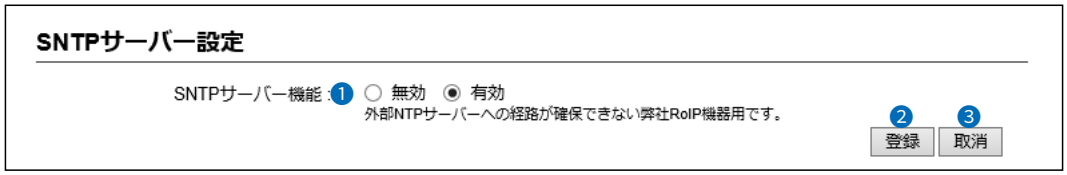
自動時計設定を「NTP」に設定したときは、NTPサーバーへの問い合わせ先（経路）を設定する必要があります。
経路を設定しない場合は問い合わせできませんので、自動時計設定機能をお使いいただけません。
「ネットワーク設定」メニュー→「IPアドレス」画面→[IPアドレス]項目にある[デフォルトゲートウェイ]欄、または「スタティックルーティング」画面の[スタティックルーティング設定]項目で、ルーティングテーブルを設定してください。

「時計」画面

管理 > 時計

■ SNTPサーバー設定

本製品を弊社製VoIP機器のNTPサーバーとして使用するときの設定です。



❶ SNTPサーバー機能 ……

本製品を弊社製RoIP機器用のNTPサーバーとして使用するときの設定です。
（初期設定：有効）
「有効」に設定すると、NTPサーバーとして動作する本製品に弊社製RoIP機器が日時の問い合わせをして、内部時計を自動設定します。
※この機能は、外部のNTPサーバーへの問い合わせ先（経路）が設定できない弊社製RoIP機器専用です。
※外部のNTPサーバーへの問い合わせ先（経路）が設定できない弊社製RoIP機器を本製品と併用している場合に、この機能を使用されることをおすすめします。
※この機能を使用するには、あらかじめ「時計」画面で、本製品本体の時計を設定してください。

❷〈登録〉 ……

「時計」画面で設定した内容を登録するボタンです。

❸〈取消〉 ……

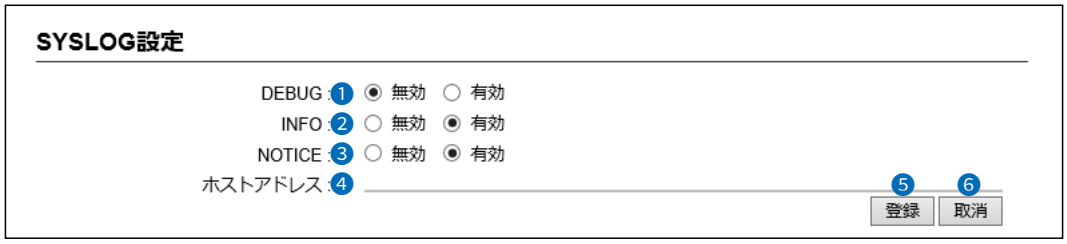
「時計」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「SYSLOG」画面

管理 > SYSLOG

■ SYSLOG設定

指定したホストにログ情報などを出力するための設定です。



❶ **DEBUG** …… 各種デバッグ情報を指定したホスト(❹)に出力する設定です。
（初期設定：無効）

❷ **INFO**…… INFOタイプのメッセージを指定したホスト(❹)に出力する設定です。
（初期設定：有効）

❸ **NOTICE** …… NOTICEタイプのメッセージを指定したホスト(❹)に出力する設定です。
（初期設定：有効）

❹ **ホストアドレス** …… SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。
※ホストは、SYSLOGサーバー機能に対応している必要があります。

❺ **〈登録〉** …… [SYSLOG設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

❻ **〈取消〉** …… [SYSLOG設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「SNMP」画面

管理 > SNMP

■ SNMP設定

IPネットワークにおいて、ネットワーク上の各ホストから本製品の情報を自動的に収集して、ネットワーク管理をするときの設定です。

❶ SNMP …… 本製品のSNMP機能を設定します。（初期設定：有効）
「有効」に設定すると、本製品の設定情報をSNMP管理ツール側で管理できます。

❷ コミュニティーID(GET) …… 本製品の設定情報をSNMP管理ツール側から読み出すことを許可するIDを、半角31文字以内の英数字で入力します。（初期設定：public）

❸ 場所 …… MIB-II(RFC1213)に対応するSNMP管理ツール側で表示される場所を、半角127文字以内の英数字で入力します。

❹ 連絡先 …… MIB-II(RFC1213)に対応するSNMP管理ツール側で表示される連絡先を、半角127文字以内の英数字で入力します。

❺〈登録〉 …… [SNMP設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

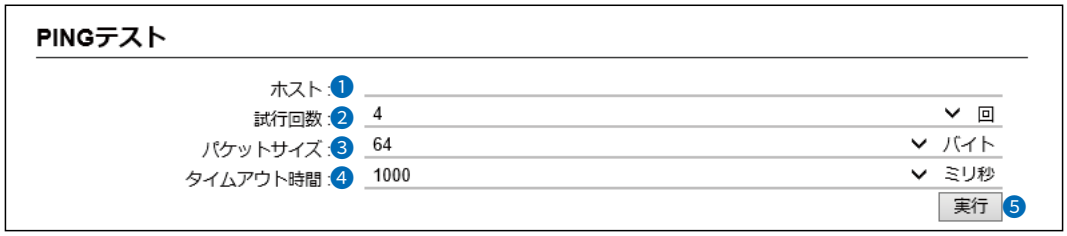
❻〈取消〉 …… [SNMP設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「ネットワークテスト」画面

管理 > ネットワークテスト

■ PINGテスト

本製品からPINGを送出し、ネットワークの疎通確認テストをします。



❶ ホスト …… PINGを送出する対象ホストのIPアドレス、またはドメイン名を半角64文字以内で入力します。

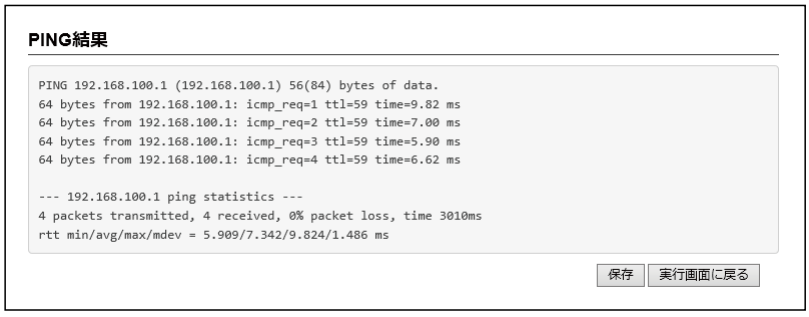
❷ 試行回数 …… PINGを送出する回数を、「1」、「2」、「4」、「8」から選択します。（初期設定：4）

❸ パケットサイズ …… 送信するパケットのデータ部分のサイズを設定します。（初期設定：64）
設定できるサイズは、「32」、「64」、「128」、「256」、「512」、「1024」、「1448」、「1500」、「2048」(バイト)です。

❹ タイムアウト時間 …… PING送出後、応答を待つ時間を、「500」、「1000」、「5000」(ミリ秒)から選択します。（初期設定：1000）
設定した時間以内に応答がないときは、タイムアウトになります。

❺〈実行〉 …… PINGテストを実行するボタンです。
クリックすると、「PING結果」表示に切り替わり、テスト結果が表示されます。

PING結果について



※上図は、表示例です。
◎〈保存〉をクリックすると、テスト結果をファイル(拡張子：txt)に保存します。
※ファイル名は、「ping_[対象ホストのアドレス].txt」で保存されます。
◎〈実行画面に戻る〉をクリックすると、画面が「PINGテスト」表示に戻ります。

「ネットワークテスト」画面

管理 > ネットワークテスト

■ 経路テスト

本製品から特定のノードに対しての経路テスト(traceroute)をします。

❶ ノード ……

経路テストをする対象ノード(機器)のIPアドレス、またはドメイン名を半角64文字 以内で入力します。

❷ 最大ホップ数 ……

経由するホップ数(中継設備数)の最大値を、「4」、「8」、「16」、「32」から選択します。（初期設定：16）

❸ タイムアウト時間 ……

テスト開始後、応答を待つ時間を、「1」、「3」、「5」(秒)から選択します。（初期設定：3）

設定した時間以内に応答がないときは、タイムアウトになります。

❹ DNS名前解決 ……

テスト結果に表示するIPアドレスを、ホスト名に変換するかどうか設定します。（初期設定：有効）

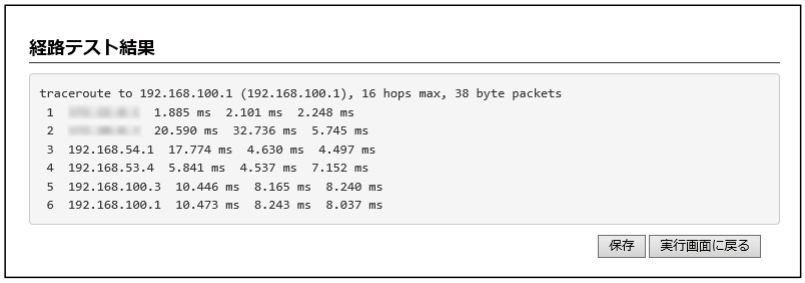
「有効」に設定すると、中継設備や対象ノードのアドレスに対して、DNS名前解決をします。

❺〈実行〉 ……

経路テストを実行するボタンです。

クリックすると、「経路テスト結果」表示に切り替わり、テスト結果が表示されます。

経路テスト結果について



※上図は、表示例です。

◎〈保存〉をクリックすると、テスト結果をファイル(拡張子：txt)に保存します。

※ファイル名は、「tracert_[対象ノードのアドレス].txt」で保存されます。

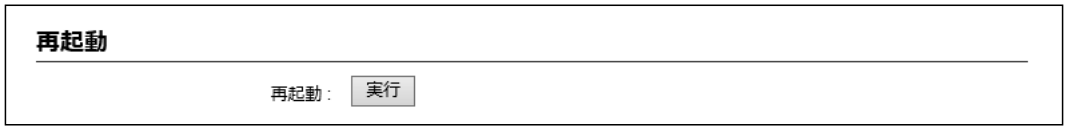
◎〈実行画面に戻る〉をクリックすると、画面が「経路テスト」表示に戻ります。

「再起動」画面

管理 > 再起動

■ 再起動

〈実行〉をクリックすると、本製品は再起動します。

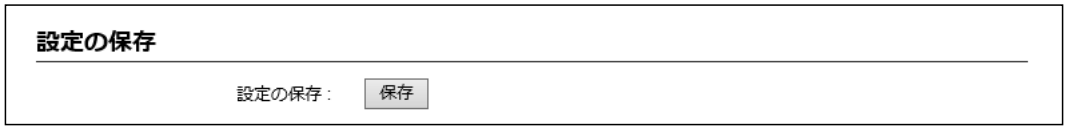


「設定の保存/復元」画面

管理 > 設定の保存/復元

■ 設定の保存

本製品の設定内容を保存します。
※保存した設定ファイル(拡張子：sav)は、本製品以外の製品(機種違い)では使用できません。

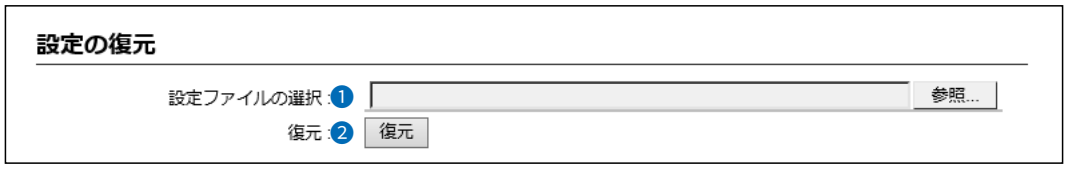


設定の保存……　本製品すべての設定内容をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップできます。
〈保存〉をクリックして、表示された画面にしたがって操作すると、設定ファイル(拡張子：sav)を保存できます。
保存したファイルは、[設定の復元]項目の操作で、本製品に書き込みできます。

管理 > 設定の保存/復元

■ 設定の復元

保存した設定ファイルを本製品に書き込みます。
※書き込みには数分かかる場合があります。



❶ 設定ファイルの選択 ……　[設定の保存]項目の操作で保存した設定ファイル(拡張子：sav)の内容を本製品に書き込むとき使用します。
設定ファイルの保存先を指定するため、〈参照...〉をクリックします。
表示された画面から目的の設定ファイルをクリックして、〈開く(O)〉をクリックすると、選択した設定ファイルの参照先が表示されます。

❷ 復元 ……　[設定ファイルの選択](❶)欄のテキストボックスに保存先を指定後、〈復元〉をクリックすると、本製品にその設定内容を書き込みます。
書き込む前の設定内容は、消去されますのでご注意ください。
※書き込みを完了すると、本製品は自動的に再起動します。
※市販のソフトウェアなどで編集したものは、誤動作の原因になりますので、本製品に登録しないでください。

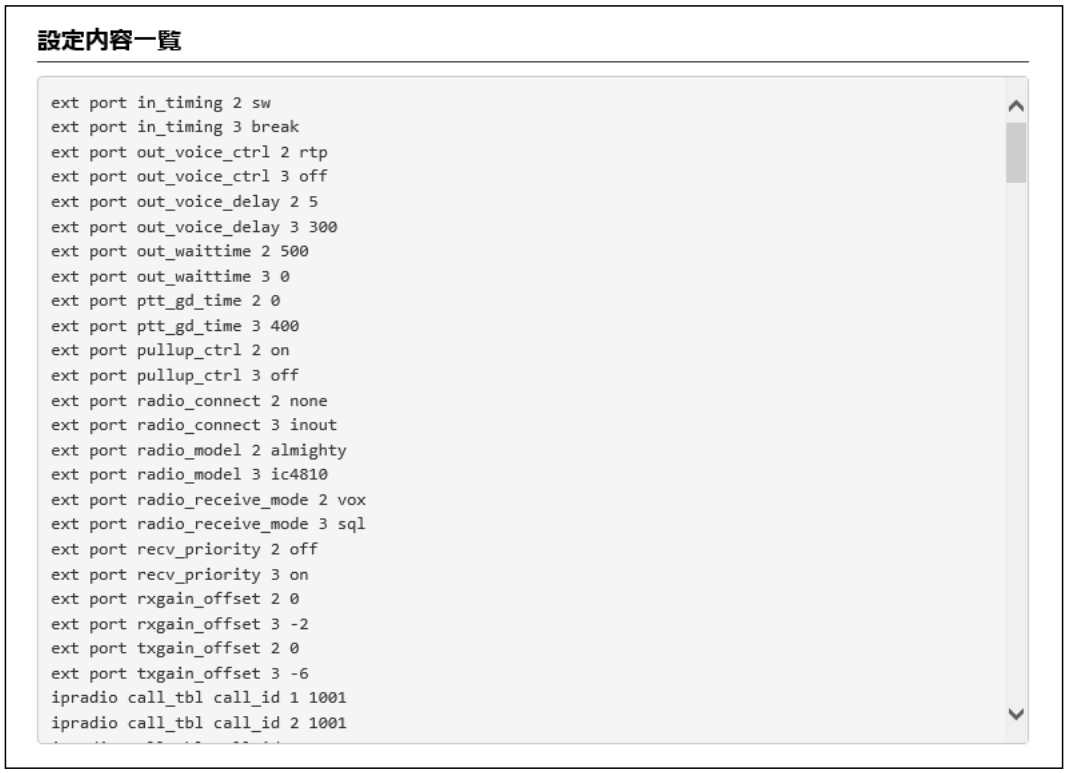
設定ファイルについてのご注意
本製品以外の機器へ書き込み、改変による障害、および書き込みに伴う本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失、または停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

「設定の保存/復元」画面

管理 > 設定の保存/復元

■ 設定内容一覧

初期設定から変更された内容が表示されます。
※初期設定や全設定初期化後は、何も表示されません。
※画面の内容は、表示例です。

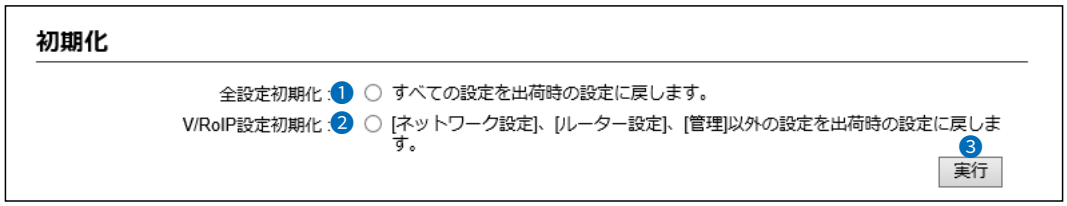


「初期化」画面

管理 > 初期化

■ 初期化

選択した初期化条件で、本製品の設定内容を初期化します。
※IPアドレスと管理者用のパスワードが不明な場合などの初期化については、VE-PG4取扱説明書[導入編]の5章も併せてご覧ください。



❶ 全設定初期化 …… 本製品に設定されたすべての内容を初期設定に戻します。
※初期化実行後、本製品のIPアドレスは「192.168.0.1」(初期設定)になります。
初期化によって、本製品にアクセスできなくなった場合は、パソコンのIPアドレスを変更してください。

❷ V/RoIP設定初期化…… 「ネットワーク設定」、「ルーター設定」、「管理」メニュー以外の設定内容を初期設定に戻します。

❸〈実行〉 …… 選択された初期化条件にしたがって、初期化します。

「ファームウェアの更新」画面

ファームウェアの更新についてのご注意
◎故障の原因になるため、ファームウェアの更新が完了するまで、本製品の電源を切らないでください。
◎更新中(約5分間)は、すべての接続が切断されます。
　自動更新を有効にしている場合は、ご利用中に更新が実行されることがありますのでご注意ください。
◎ネットワークやサーバーの状態によっては、更新に失敗することがあります。
※更新によって追加や変更になる機能、注意事項については、あらかじめ弊社ホームページでご確認ください。

管理 > ファームウェアの更新

■ ファームウェア情報

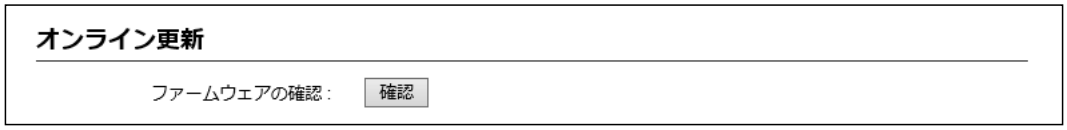
本製品のファームウェアについて、バージョン情報が表示されます。

「ファームウェアの更新」画面

管理 > ファームウェアの更新

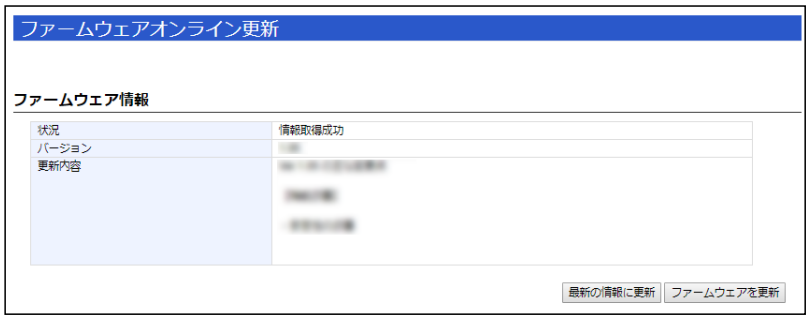
■ オンライン更新

ファームウェアをオンラインで更新します。
※ファームウェアの確認には、インターネットへの接続環境、またはLTE回線(4G/3G)ご契約が必要です。



ファームウェアの確認……

〈確認〉をクリックすると、アップデート管理サーバーに接続します。
接続に成功すると、最新のファームウェア情報(下図)が表示されます。



ファームウェア情報について

◎「新しいファームウェアはありません」が表示されるときは、現在のファームウェアが最新ですので、ファームウェアの更新は必要ありません。
◎「情報取得成功」と更新内容が表示されたときは、〈ファームウェアを更新〉をクリックすると最新のファームウェアをアップデート管理サーバーからオンラインで更新できます。
◎「接続失敗」や「サーバーからエラーが返されました」が表示されるときは、下記を参考に、本製品からアップデート管理サーバーへ接続できる環境であることをご確認ください。

SIMカード装着時

アンテナコネクター[ANT1]、[ANT2]にアンテナが取り付けられていますか？
→アンテナが取り付けられいることを確認する。

SIMカード未装着時

デフォルトゲートウェイとDNSサーバーアドレスを本製品に設定していますか？
→「ネットワーク設定」メニューの「IPアドレス」画面で設定を確認する本製品からWeb通信することを、ファイアウォールなどで遮断していませんか？
→ネットワーク管理者に確認する

ファームウェアの更新についてのご注意

故障の原因になるため、ファームウェアの更新が完了するまで、本製品の電源を切らないでください。
※更新によって追加や変更になる機能、注意事項については、あらかじめ弊社ホームページでご確認ください。

「ファームウェアの更新」画面

管理 > ファームウェアの更新

■ 自動更新

ファームウェアの自動更新機能を使用するときに設定します。
※SIMカードが挿入されている場合、[自動更新]項目は表示されません。

❶ 自動更新 …… ファームウェアの自動更新機能を設定します。（初期設定：有効）

自動更新機能有効時の通知機能について

[MSG]ランプが ● 緑点灯した場合は、ご都合のよいときにファームウェアの更新をしてください。（VE-PG4取扱説明書[導入編]5章）

※オンラインファーム検知時、ファームウェアは自動的に更新されません。

※更新内容によっては、アップデート管理サーバーから本製品のファームウェアが自動更新されることがあります。
運用中にファームウェアを更新して本製品が再起動しますので、自動更新を望まない場合は「無効」に設定してください。

❷〈登録〉 …… [自動更新]項目で設定した内容を登録するボタンです。

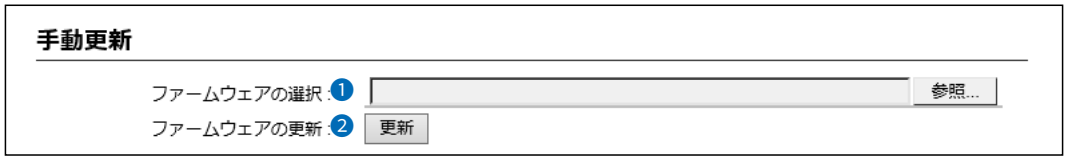
❸〈取消〉 …… [自動更新]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

「ファームウェアの更新」画面

管理 > ファームウェアの更新

■ 手動更新

パソコンに保存しているファイルを指定してファームウェアを更新します。

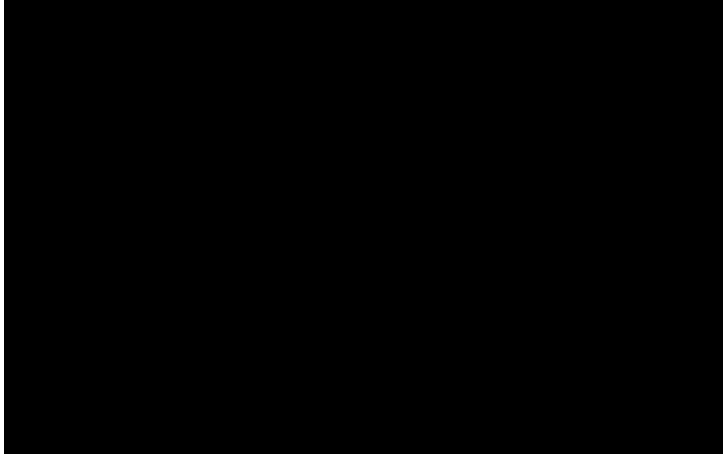


❶ ファームウェアの選択 …… 〈参照...〉をクリックして、表示された画面から、パソコンに保存している本製品のファームウェアファイル(拡張子：dat)を選択して、〈開く(O)〉をクリックします。
選択したファイルとその階層が、[ファームウェアの選択]項目のテキストボックスに自動入力されたことを確認します。

❷ ファームウェアの更新 …… 〈更新〉をクリックすると、[ファームウェアの選択]項目のテキストボックスに表示された保存先のファームウェアファイル(拡張子：dat)を本製品に書き込みます。
更新を開始すると、「ファームウェアを更新しています。」と表示されます。

ファームウェアの更新についてのご注意
故障の原因になるため、ファームウェアの更新が完了するまで、本製品の電源を切らないでください。
※更新によって追加や変更になる機能、注意事項については、あらかじめ弊社ホームページでご確認ください。

高品質がテーマです。



A7461-3J-4
© 2018–2019 Icom Inc. 201905

アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32

ICOM

取扱説明書

監視ツール

RS−PG4

VE-PG4用

はじめに
1 導入ガイド
2 操作画面について
3 サイトの状態表示について
4 ユーザーID/パスワードの変更

Icom Inc.

はじめに

VE-PG4に接続された無線機の設置場所には、無線機の送信状態などを監視する管理者が必要です。設置した場所に管理者がいない状態でご使用になるときは、VE-PG4と同じネットワークに接続されたパソコンから監視ツールを起動して、監視できる環境を構築してください。
本書では、この監視ツールを使用するための基本的な操作や機能について説明しています。

登録商標/著作権

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。
Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。
なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。
本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。
本ソフトウェア、および本ドキュメントは、アイコム株式会社が著作権を保有します。

動作環境について

次の日本語OSがインストールされたパソコンをご使用ください。
◎ Windows 10（32ビット/64ビット版）
◎ Windows 8.1（32ビット/64ビット版）
◎ Windows 7（32ビット/64ビット版：Service Pack1以降）
※ Windows 8.1のRTバージョンには対応していません。
※ すべてのパソコンでの動作を保証するものではありません。
※ 本書は、RS-PG4 Ver. 1.00を使用して説明しています。
※ 本書では、Windows 10の画面を例に説明しています。
※ 本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使いになるパソコンと多少異なる場合があります。
※ 本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。

ファイアウォールをご使用の場合

ファイアウォール（ウイルス対策ソフトウェアやインターネットセキュリティーソフトウェアなど）をご使用の場合、必要な通信が阻害され、正常に動作しないことがあります。
ご使用の前に、ファイアウォールの設定をご確認ください。

【ご参考】
RS-PG4は、TCPポート番号21000に接続します。

はじめに

本製品の概要について

◎RS-PG4は、VE-PG4専用の監視ツールです。
◎各サイトにVE-PG4を1台ずつ設定して、最大64サイトの運用状態を監視できます。（無線機の総数は最大512台）
◎1台のVE-PG4を複数のRS-PG4で監視できません。
◎RS-PG4がVE-PG4に接続できなかったり、VE-PG4とのネットワークが切断されたりすると、約120秒ごとにVE-PG4に再接続を試みます。
◎VE-PG4に接続された無線機の設置場所に管理者がいない状態でも、リモートからVE-PG4に接続された無線機に対しての制御状態を監視できます。
VE-PG4が意図しない送信制御になった場合は、リモートによりVE-PG4の送信制御を停止できます。

ご使用までの流れ

はじめてRS-PG4をお使いになる場合は、次の手順にしたがってお読みください。

Step 1　RS-PG4のインストール　（P.1-2～）
↓
Step 2　RS-PG4の起動　（P.1-3～）
↓
Step 3　サイトの設定　（P.1-4～）
↓
Step 4　設定ファイルの保存　（P.1-5～）
↓
Step 5　無線機の監視/制御　（P.1-6～）
↓
Step 6　RS-PG4の終了　（P.1-9～）

ダウンロードについて
弊社ホームページ(下記)にアクセスして、[ネットワーク機器]→[通信機能拡張ユニット]をクリックすると、RS-PG4が表示されます。

アイコム株式会社 ファームウェア/ドライバ ダウンロード
http://www.icom.co.jp/support/download/firmware_driver/

※弊社ホームページからのダウンロード手順については、予告なく変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。

導入ガイド

第 1 章

この章では、
本製品をご使用いただくために必要な基本設定の手順を説明しています。

1. インストールのしかた …… 1-2
2. 起動のしかた …… 1-3
3. サイトを設定する …… 1-4
4. 設定ファイルを保存する …… 1-5
5. 無線機を監視/制御する …… 1-6
   ■ VE-PG4に接続された無線機の送信を停止(ロック)するとき …… 1-7
   ■ VE-PG4に接続された無線機の送信停止(ロック)を解除するとき …… 1-8
6. RS-PG4を終了する …… 1-9

1. インストールのしかた

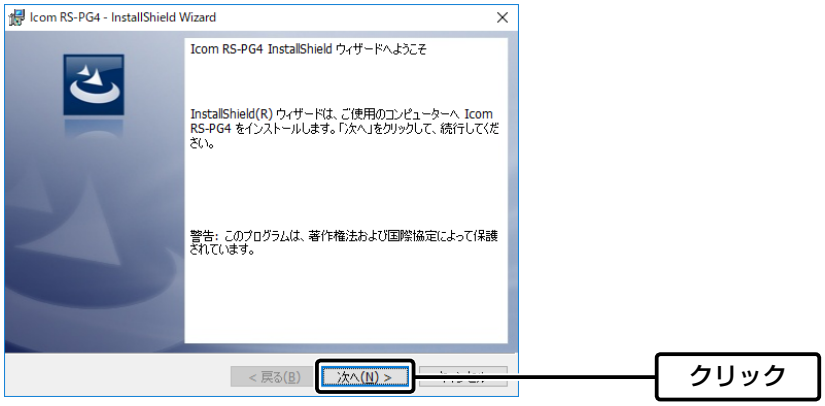
1 管理者権限でログオンします。
※ほかのアプリケーションを起動しているときは、すべて終了してください。

2 弊社ホームページよりダウンロードしたファイルを解凍後、インストーラーの保存先フォルダーを開きます。

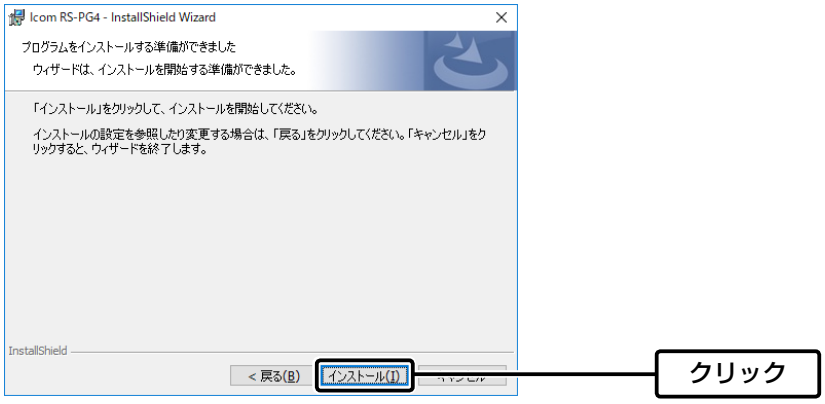
3 「Setup.exe」(EXEファイル)をダブルクリックして、インストーラーを起動します。
※ご使用のパソコンで、拡張子が表示されないときは、フォルダーオプションから拡張子の表示設定を変更してください。

4 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、〈はい(Y)〉をクリックします。

5 〈次へ(N)>〉をクリックします。



6 〈インストール(I)〉をクリックします。



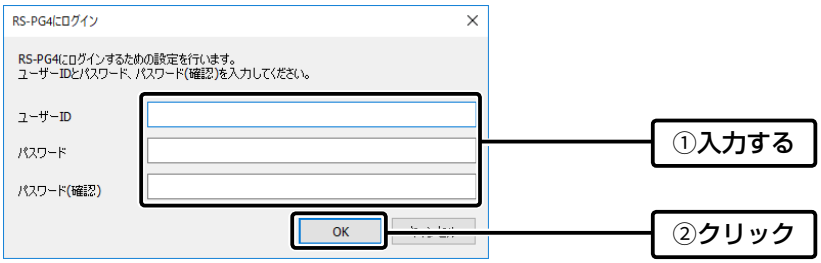
7 〈完了(F)〉をクリックします。

2. 起動のしかた

ご注意
初回起動時に、RS-PG4を使用するためのユーザーIDとパスワードを、「RS-PG4にログイン」画面(手順2)で設定してください。
※次回起動時は、設定したユーザーID、パスワードの入力が必要です。
※ユーザーID、パスワードが不明な場合は起動できません。初期化操作については、4-2ページをご覧ください。
※再設定すると、過去に作成した設定ファイル(P.1-5)は、ユーザーID、パスワードが一致しないと読み込めませんのでご注意ください。

1 デスクトップ上の[RS-PG4]アイコンをダブルクリックします。
※ほかのアプリケーションを起動しているときは、すべて終了してください。

2 任意の31文字以内で、[ユーザーID]と[パスワード]、[パスワード(確認)]を入力して、〈OK〉をクリックします。

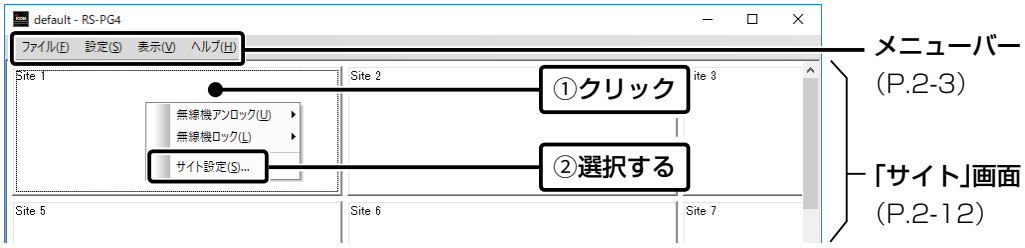


RS-PG4の操作画面が表示されます。
※設定するユーザーID、パスワードは、容易に推測されないものにしてください。
数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた長く複雑なものをおすすめします。

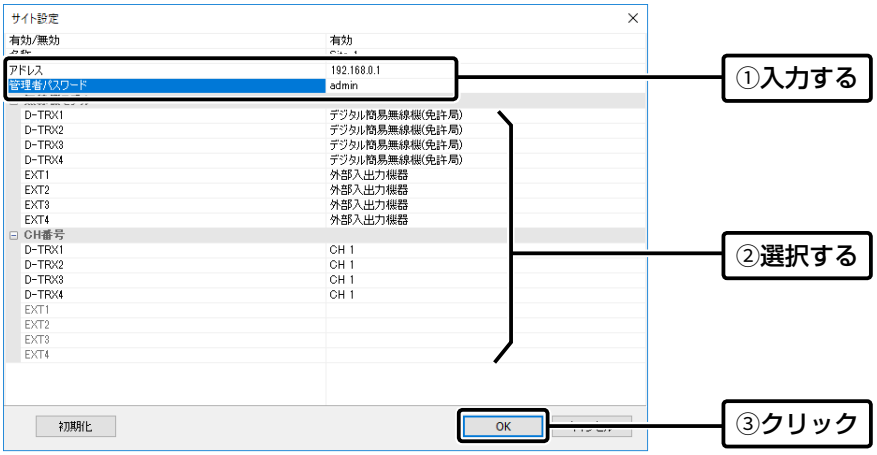
3. サイトを設定する

1 RS-PG4起動後、背景色が白色のサイト（例：Site 1）をクリックして、表示されたメニューで「サイト設定(S)...」を選択します。

※操作画面に表示される項目については2-2ページ～2-17ページ、サイトの背景色については3-2ページ～3-4ページをご覧ください。



2 「サイト設定」画面が表示されたら、監視するVE-PG4のIPアドレスと管理者パスワード、VE-PG4に接続された無線機を設定して、〈OK〉をクリックします。



※上記は、表示例です。

「サイト設定」画面の設定項目について

無線機モデルは、VE-PG4の「ポート詳細設定」メニューで設定した機種と同じ設定をしてください。
※2018年8月現在、VE-PG4に接続できる弊社製無線機は、下記のとおりです。
名称、CH番号は、RS-PG4上での表示用として使用します。

「名称」　：10文字以内
「無線機モデル」　：デジタル簡易無線機（登録局）　IC-D50★1、IC-D60、IC-DPR5★1、IC-DPR6、IC-D5005★1、IC-DPR1★1、IC-D6005N★2
　：デジタル簡易無線機（免許局）　IC-DU5505CN★1★2、IC-DU6505BN★2
　：特定小電力　IC-4800★1、IC-4810
　：特定小電力（同時通話型）　IC-MS4880、IC-MS5010
　：外部入出力機器　無線機以外の機器が接続されている場合
「CH番号」★3　：CH1 ～ CH14、呼出CH★4、CH16 ～ CH30（デジタル簡易無線機（登録局）選択時）
　：CH1 ～ CH65（デジタル簡易無線機（免許局）選択時）
　：CH1 ～ CH20、中継CH1 ～中継CH27（特定小電力/特定小電力（同時通話型）選択時）

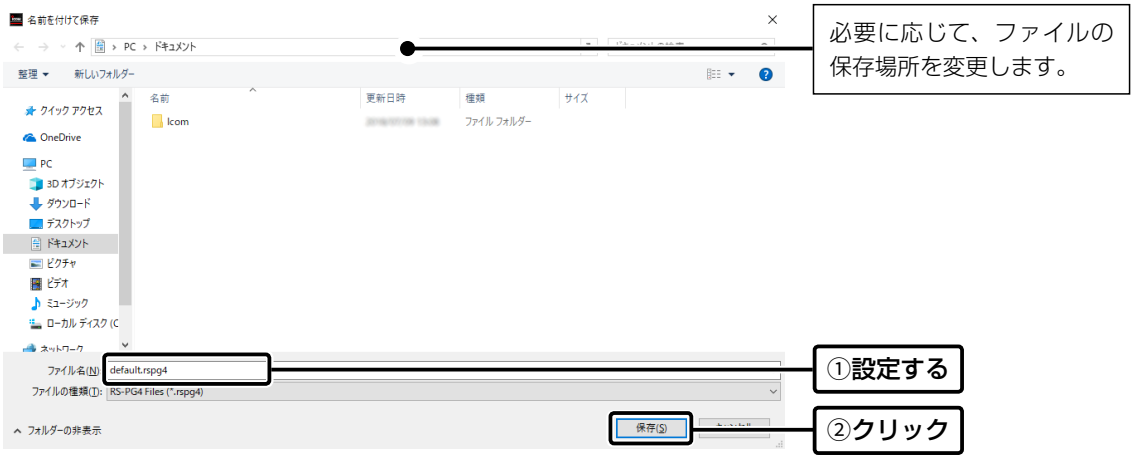
★1：生産終了品です。
★2：本システムで使用できるネットワーク対応のデジタル無線機です。
★3：CH番号は、無線機で使用する通話チャンネルとは連動していません。
★4：「呼出CH」は、[D-TRX1]ポート～[D-TRX4]ポートでは指定できません。

4. 設定ファイルを保存する

設定した内容をファイルとして、パソコンに保存できます。
※設定内容を保存しておくと、次回起動時に利用できます。

1 メニューバーの「ファイル(F)」→「名前を付けて保存(A)...」をクリックします。

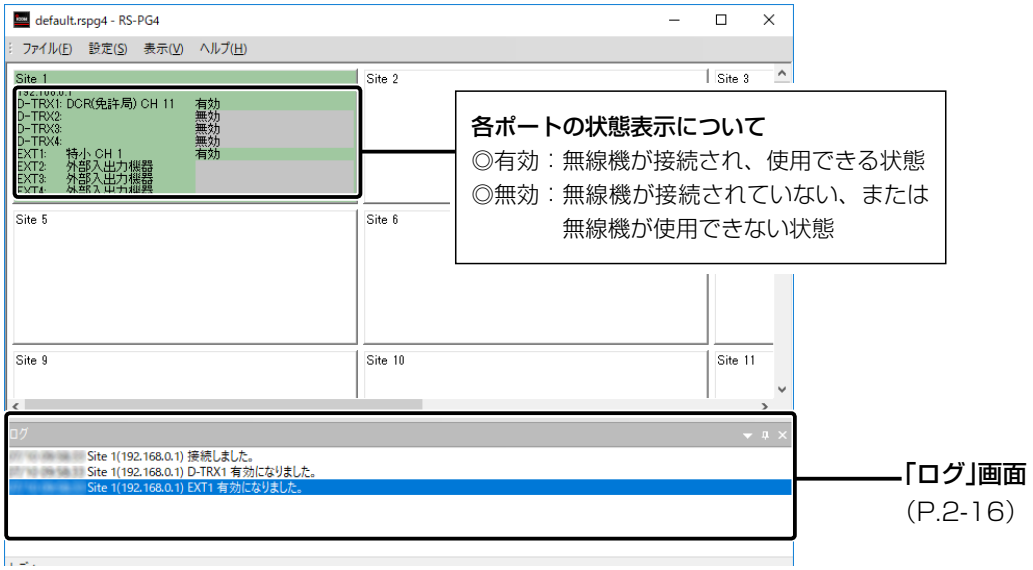
2 「名前を付けて保存」画面が表示されたら、任意のファイル名を設定して、〈保存(S)〉をクリックします。
※「.rspg4」の拡張子が付いた設定ファイルが、選択した場所に保存されます。



設定ファイルの保存場所について
次回起動時は、最後に保存した設定ファイルを自動的に読み込みますので、設定ファイルを保存した場所から移動させないことをおすすめします。

5. 無線機を監視/制御する

IPアドレス、管理者パスワードが正しく入力されると、サイトの背景色が緑色に変わり、各ポートに接続している無線機を監視できます。
※サイトの背景色、各ポートの状態表示について詳しくは、3-2ページ～3-4ページをご覧ください。



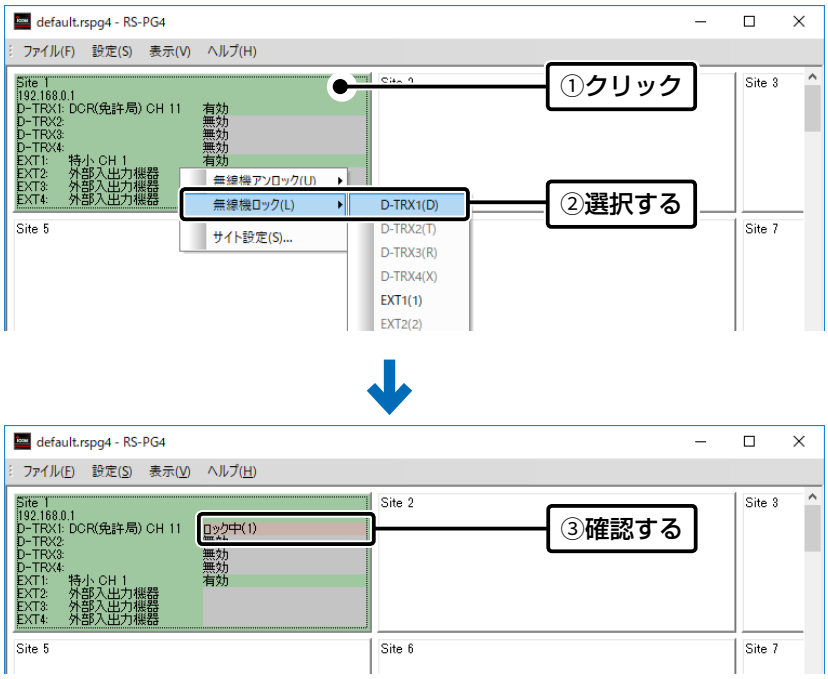
※上記は、表示例です。

5. 無線機を監視/制御する

■ VE-PG4に接続された無線機の送信を停止(ロック)するとき

VE-PG4に接続された無線機が意図しない送信状態になった場合は、リモートにより無線機の送信を停止できます。

(例)[D-TRX1]ポートに接続された無線機の送信を停止する場合
① 操作するサイトをクリックします。(例：Site 1)
② 表示されたメニューで「無線機ロック(L)」、「D-TRX1(D)」を順に選択します。
※無線機の送信を停止中は、「ロック中(秒)」を表示します。
※連続送信時間(P.2-4)が経過した場合も、自動的に無線機の送信を停止します。



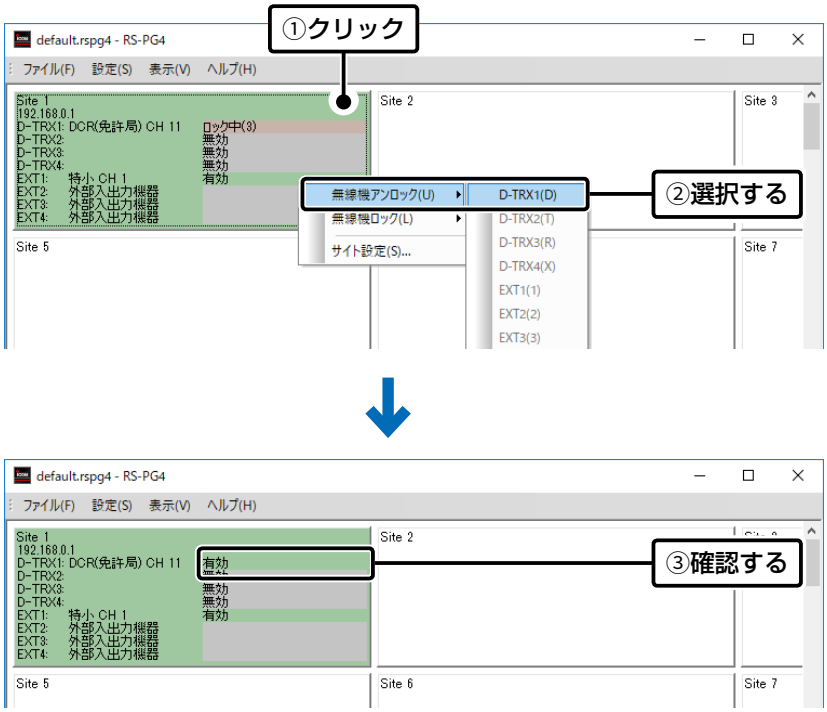
※上記は、操作例です。

5. 無線機を監視/制御する

■ VE-PG4に接続された無線機の送信停止(ロック)を解除するとき

VE-PG4に接続された無線機に対して、リモートにより無線機の送信停止を解除できます。

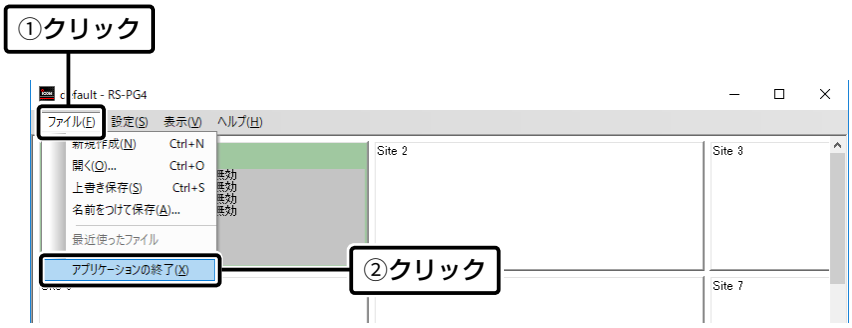
(例)[D-TRX1]ポートに接続された無線機の送信停止を解除する場合
① 操作するサイトをクリックします。(例：Site 1)
② 表示されたメニューで「無線機アンロック(U)」、「D-TRX1(D)」を順に選択します。
※解除後、状態表示は「有効」になります。
※ロック規制時間(P.2-5)が経過すると、自動的に無線機の送信停止を解除します。



※上記は、操作例です。

6. RS-PG4を終了する

メニューバーの「ファイル(F)」→「アプリケーションの終了(X)」をクリックして、RS-PG4を終了します。
※画面右上の[×]をクリックしても、終了できます。



VE-PG4に接続された無線機の送信停止を解除していない場合は
VE-PG4に接続された無線機の送信を停止中に「アプリケーションの終了(X)」を選択すると、確認のダイアログボックスが表示されます。
無線機の送信停止を解除する場合は、〈いいえ(N)〉をクリックして、1-8ページの手順で操作してください。
※〈はい(Y)〉をクリックすると、無線機の送信を停止したままで、RS-PG4を終了します。

操作画面について

第 2 章

この章では、
操作画面に表示される各項目や機能などについて説明します。

1. 画面構成について …… 2-2
2. メニューバー…… 2-3
■ ファイル(F)メニュー …… 2-3
■ 設定(S)メニュー …… 2-4
■ 表示(V)メニュー …… 2-9
■ ヘルプ(H)メニュー …… 2-11
3.「サイト」画面 …… 2-12
4.「ログ」画面 …… 2-16
■ ログについて …… 2-16
■「ログ」画面の表示について …… 2-16
5. ステータスバー …… 2-17

2　操作画面について

1. 画面構成について

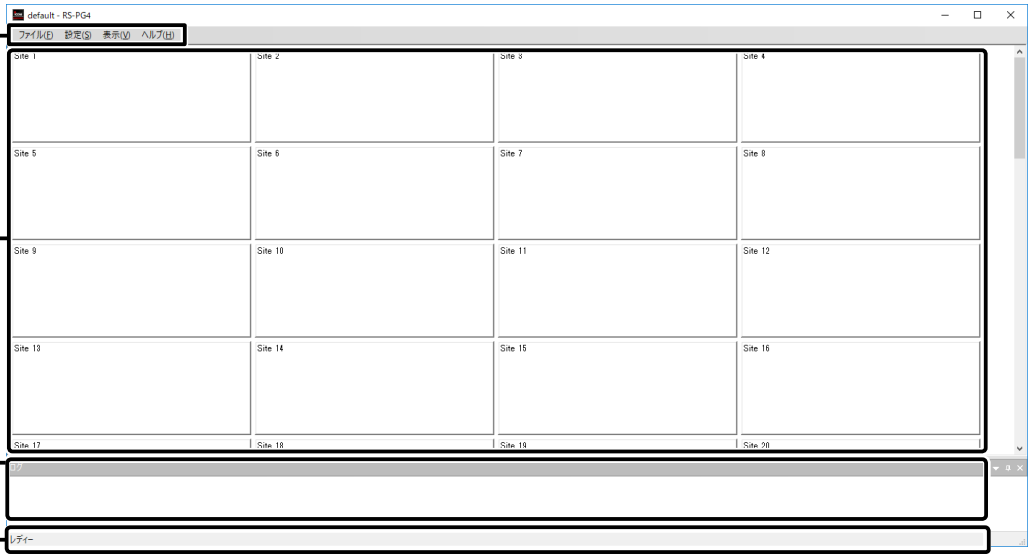
操作画面に表示される項目については、各参照ページをご覧ください。

メニューバー
(P.2-3～P.2-11)

「サイト」画面
(P.2-12～P.2-15)

「ログ」画面
(P.2-16)

ステータスバー
(P.2-17)



2　操作画面について

2. メニューバー

操作画面に表示されるメニューバーについて説明します。

■ ファイル(F)メニュー

RS-PG4の設定ファイルの新規作成、開く、保存するときなどに使用します。

❶ 新規作成(N) Ctrl+N……　設定ファイルを新規作成します。

❷ 開く(O)... Ctrl+O ……　既存の設定ファイルを開きます。
※異なるユーザーID、パスワードで保存された設定ファイルは、読み込めません のでご注意ください。

❸ 上書き保存(S) Ctrl+S……　作業中の設定ファイルを上書き保存します。

❹ 名前を付けて保存(A)...……　作業中の設定ファイルに名前を付けて保存します。

❺ 最近使ったファイル ……　最近使用した設定ファイルを表示します。

❻ アプリケーションの終了(X)……　RS-PG4を終了します。
※タイトルバーの[×]をクリックしてもRS-PG4を終了できます。

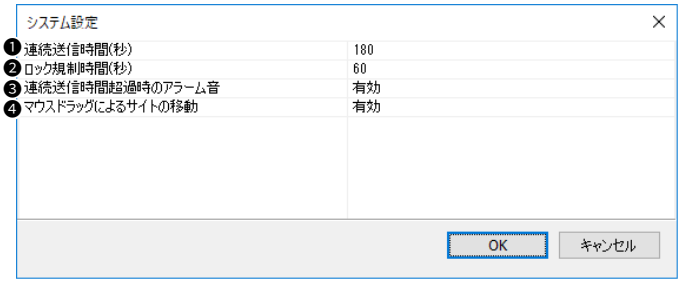
2　操作画面について

2. メニューバー

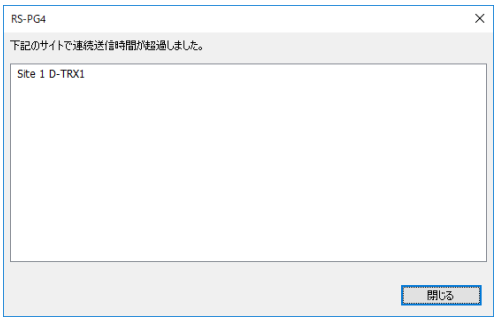
■ 設定(S)メニュー

RS-PG4の共通設定項目を表示します。

❶ システム設定(S)... ……　「システム設定」画面を表示します。



❶ 連続送信時間(秒) ……　VE-PG4に接続された無線機の送信を停止するまでの時間(秒)を「60～180」の範囲で設定します。　(初期設定：180)
設定時間が経過しても、連続送信している場合は、自動的に無線機の送信を停止して、確認画面を表示します。
※異なるユーザーID、パスワードで保存された設定ファイルは、読み込めませんのでご注意ください。

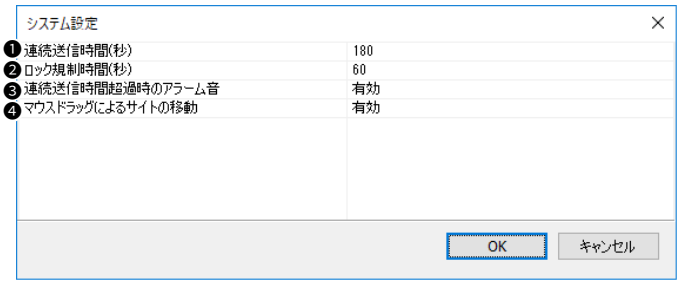


※上記は、表示例です。

2. メニューバー

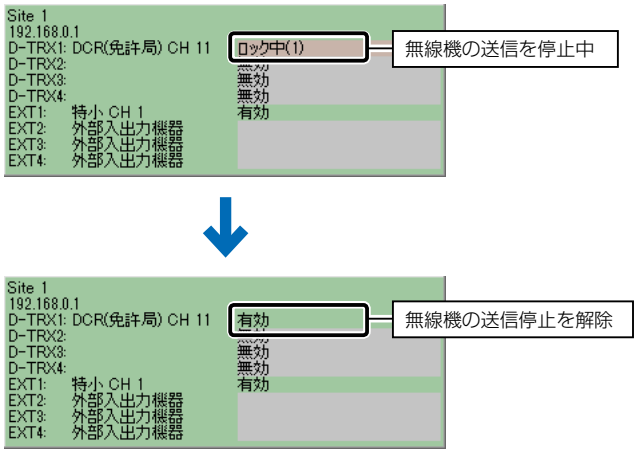
■ 設定(S)メニュー

❶ システム設定(S)...(つづき)



❷ ロック規制時間(秒) ……

VE-PG4に接続された無線機の送信停止を解除するまでの時間(秒)を「0、5～180」の範囲で設定します。　(初期設定：60)
設定時間が経過すると、自動的に無線機の送信停止を解除して、無線機の状態表示が「有効」になります。
※「0」に設定した場合、自動的に無線機の送信停止を解除しません。



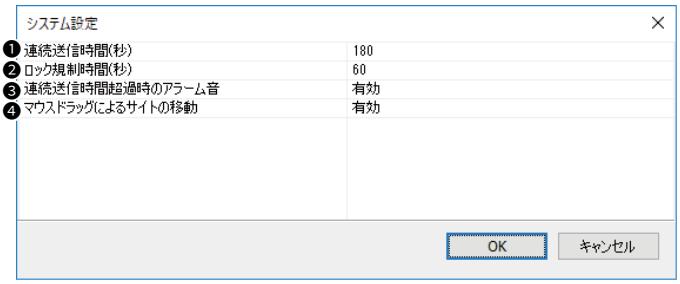
※上記は、表示例です。

手動で解除するときは、1-7ページの手順を操作してください。

2. メニューバー

■ 設定(S)メニュー

❶ システム設定(S)...(つづき)

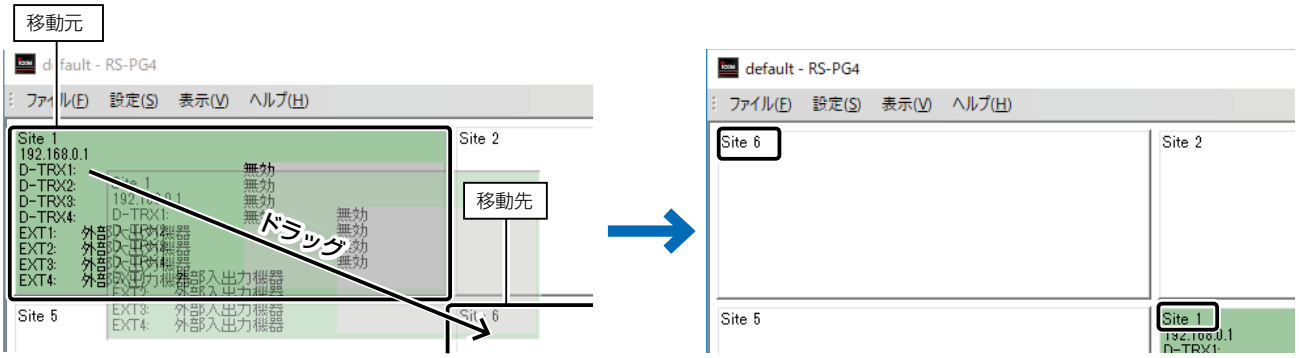


❸ 連続送信時間超過時のアラーム音 ……

［連続送信時間(秒)］欄で指定した時間が経過した場合のアラーム音について設定します。　（初期設定：有効）
「無効」にすると、指定した時間を超えてもアラーム音は鳴りません。

❹ マウスドラッグによるサイトの移動 ……

サイトを選択したときのマウス操作について設定します。（初期設定：有効）
サイトを選択した状態で、マウスをドラッグ＆ドロップすると、移動元と移動先が入れ替わります。（例：Site 1⇔Site 6）
「無効」にすると、サイトを選択した状態でマウス操作しても移動できません。

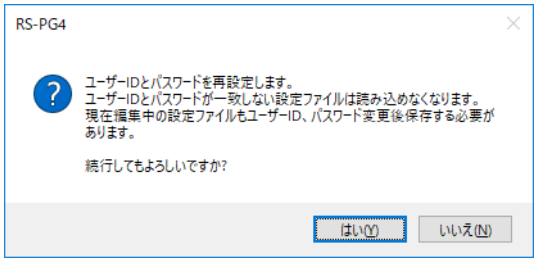


※上記は、表示例です。

2. メニューバー

■ 設定(S)メニュー

❷ ログイン設定(L)... ……　ユーザーIDとパスワードを再設定します。
※操作については、4-3ページをご覧ください。

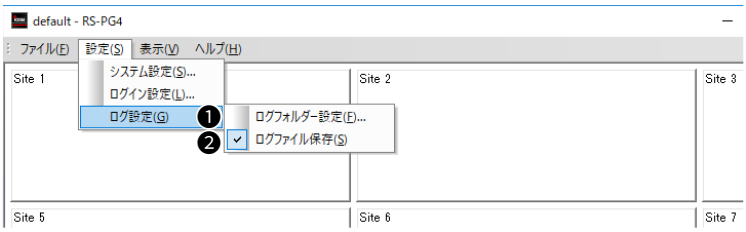


再設定すると、過去に作成した設定ファイルは、ユーザーID、パスワードが一致しないと読み込めませんのでご注意ください。

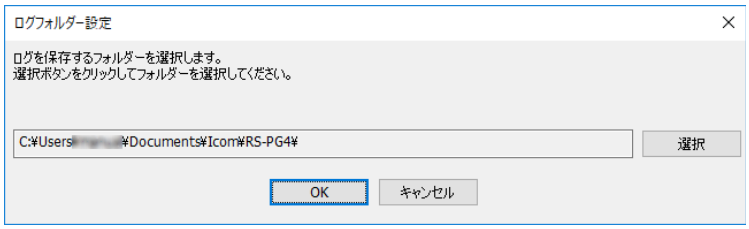
2. メニューバー

■ 設定(S)メニュー

❸ ログ設定(G) …… 「ログ設定」メニューを表示します。



❶ ログフォルダー設定(F)... …… ログファイルの保存先を設定します。
選択すると、「ログフォルダー設定」画面を表示します。



❷ ログファイル保存(S) …… ログファイルを保存する/しないを設定します。
(初期設定：✔ログファイル保存(S))
チェックを入れると、ログファイルを保存します。

2　操作画面について

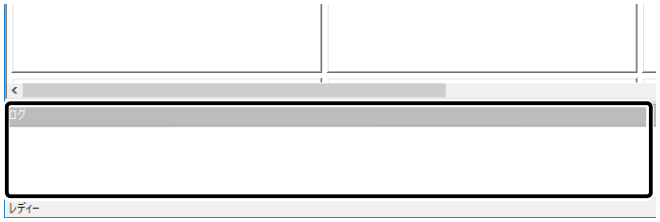
2. メニューバー

■ 表示(V)メニュー

RS-PG4の表示に関する設定項目です。

❶ ログ(O) ……　ログの表示/非表示を設定します。　（初期設定：✔ログ(O)）

チェックを入れると、ログを表示します。



❷ ステータスバー(S)……　ステータスバーの表示/非表示を設定します。

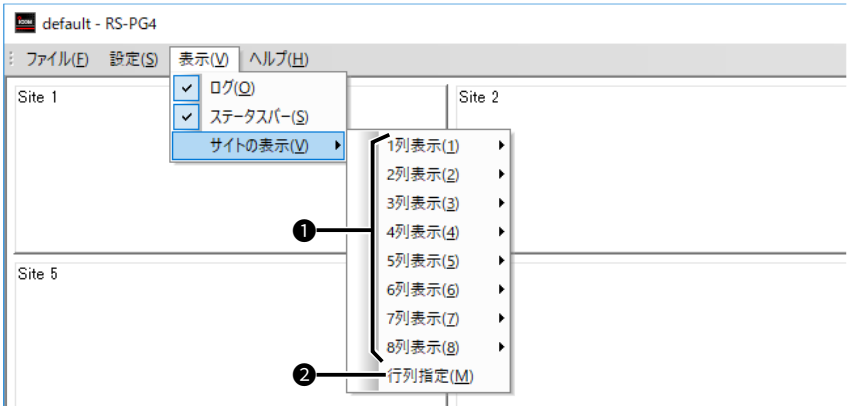
（初期設定：✔ステータスバー(S)）

チェックを入れると、ステータスバーを表示します。

2. メニューバー

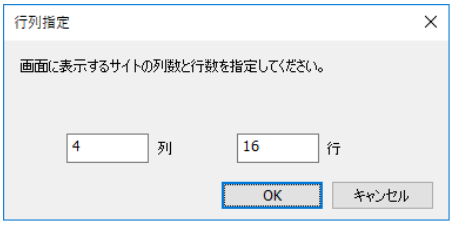
■ 表示(V)メニュー

❸ サイトの表示(V)……　「サイトの表示」メニューを表示します。



❶ 1列表示(1)～8列表示(8) …　画面に表示するサイトの列数(1～8)と行数(1～64)の組み合わせをリストから選択します。　(初期設定：4列16行表示)

❷ 行列指定(M) ……　「行列指定」画面を表示します。



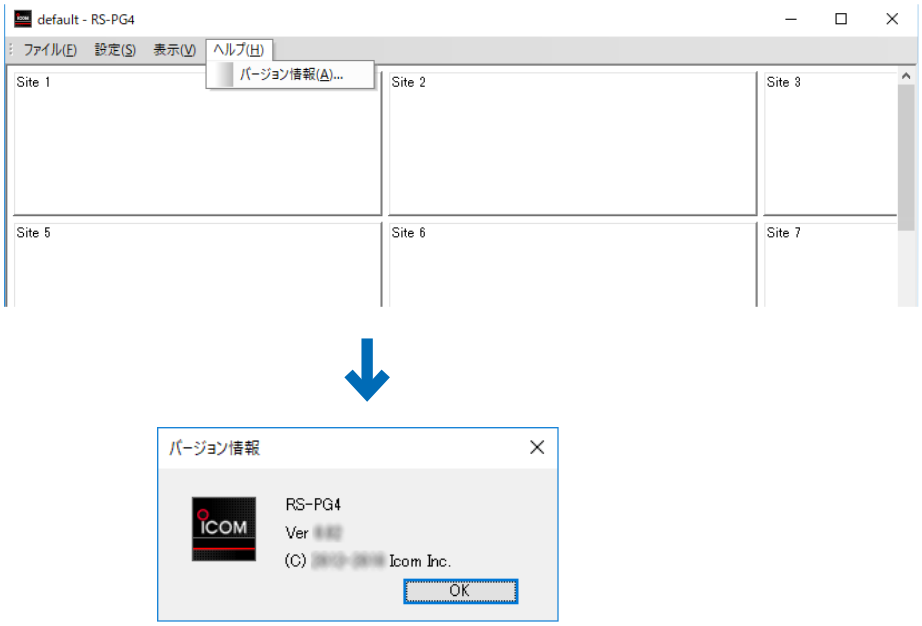
画面に表示するサイトの列数と行数を手動で指定します。

2　操作画面について

2. メニューバー

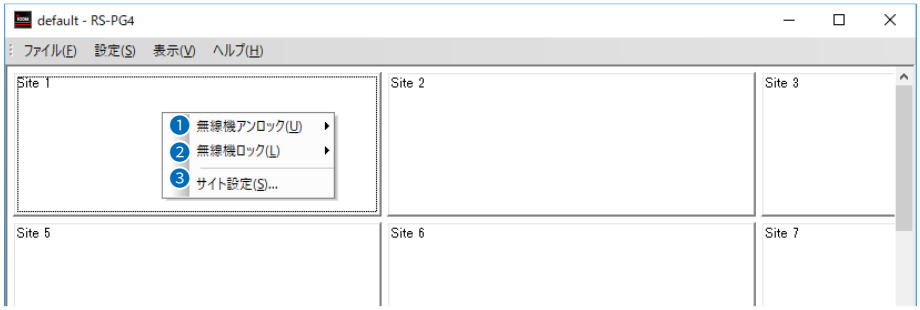
■ ヘルプ(H)メニュー

RS-PG4のバージョン、著作権情報を表示します。



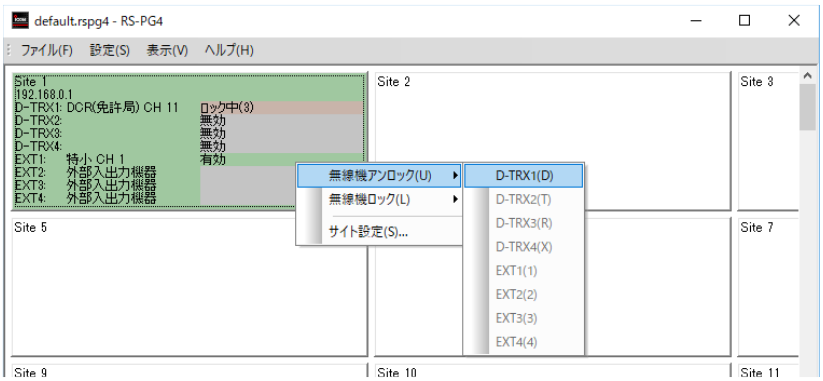
3.「サイト」画面

RS-PG4では、各サイトにVE-PG4を1台ずつ設定して、最大64サイトの運用状態を監視できます。
無線機の総数は、最大512台です。
サイト(例：Site 1)をクリックすると、下図のようにメニューが表示されます。



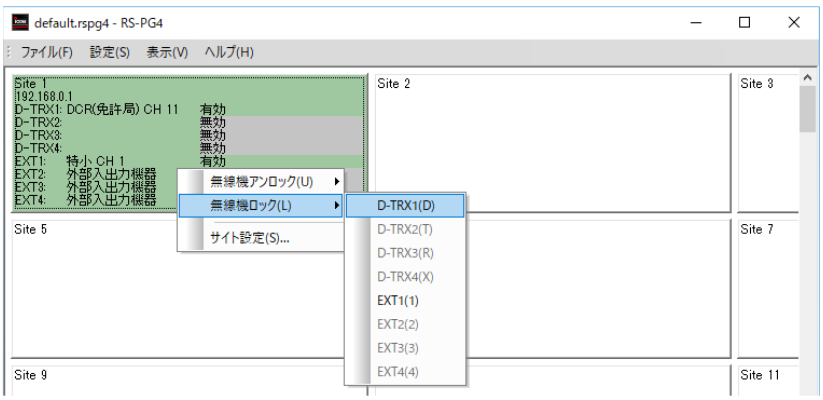
❶ 無線機アンロック(U) ……

送信停止を解除する無線機が接続されたVE-PG4のポート(例：D-TRX1(D))を指定します。
※指定できるのは、送信停止中のポートだけです。

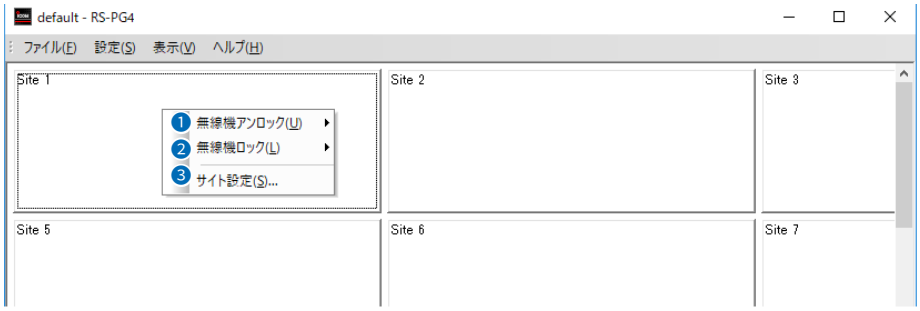


❷ 無線機ロック(L) ……

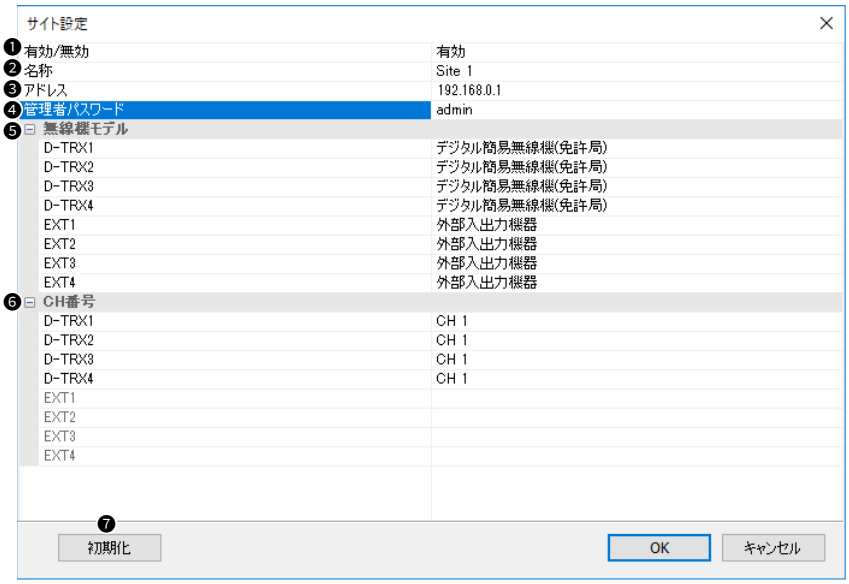
送信を停止する無線機が接続されたVE-PG4のポート(例：D-TRX1(D))を指定します。
※指定できるのは、無線機が接続され、使用できる状態のポートだけです。



3.「サイト」画面



❸ サイト設定(S)…… 「サイト設定」画面を表示します。



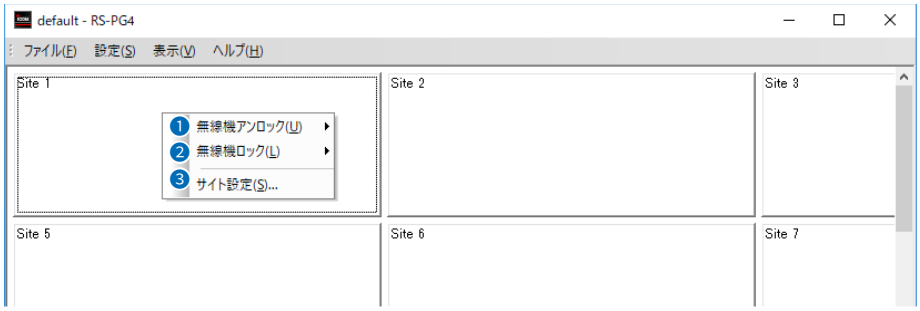
❶ 有効/無効…… 管理するサイトの有効/無効を切り替えます。 (初期設定：有効)
「無効」にすると、[アドレス]欄や[管理者パスワード]欄が登録されていてもVE-PG4に接続しません。

❷ 名称 …… 管理するサイトの名称を10文字以内で入力します。
(初期設定：Site(サイト)番号)

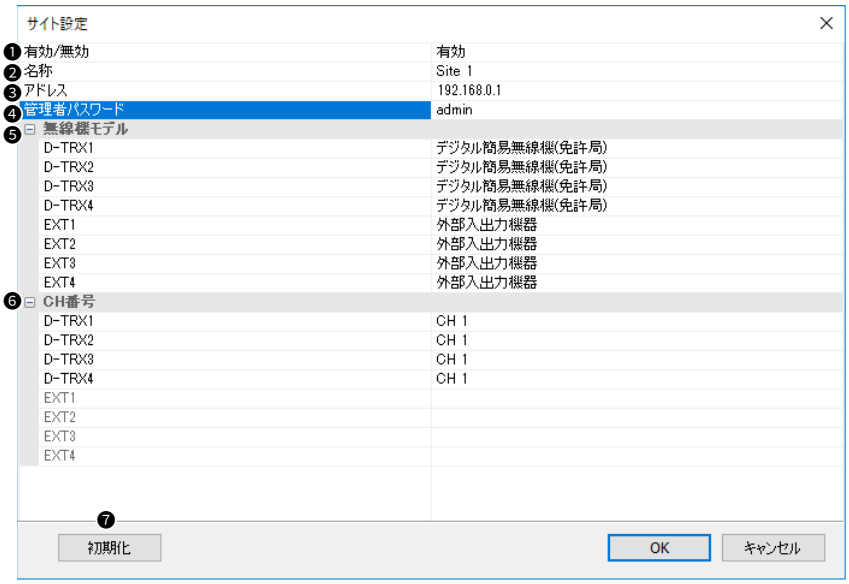
❸ アドレス …… 管理するサイトのVE-PG4に設定されたIPアドレス、またはドメイン名を入力します。
※ドメイン名の場合は、半角英数字255文字以内で入力します。
※アドレスの最後に「:」(コロン)を付けると、ポートを指定できます。

❹ 管理者パスワード …… 管理するサイトのVE-PG4に設定されたパスワードを入力します。

3.「サイト」画面



❸ サイト設定(S)（つづき）



❺ 無線機モデル ……

無線機が接続されたポートごとに、VE-PG4のポート設定と一致するように該当するものを選択します。

※2018年8月現在、VE-PG4に接続できる弊社製無線機は、下記のとおりです。

（初期設定：[D-TRX1]～[D-TRX4]　デジタル簡易無線機(免許局)
：[EXT1]～[EXT4]　外部入出力機器）

◎デジタル簡易無線機(登録局)：IC-D50★1、IC-D60、IC-DPR5★1、IC-DPR6、IC-D5005★1、IC-DPR1★1、IC-D6005N★2

◎デジタル簡易無線機(免許局)：IC-DU5505CN★1★2、IC-DU6505BN★2

◎特定小電力　：IC-4800★1、IC-4810

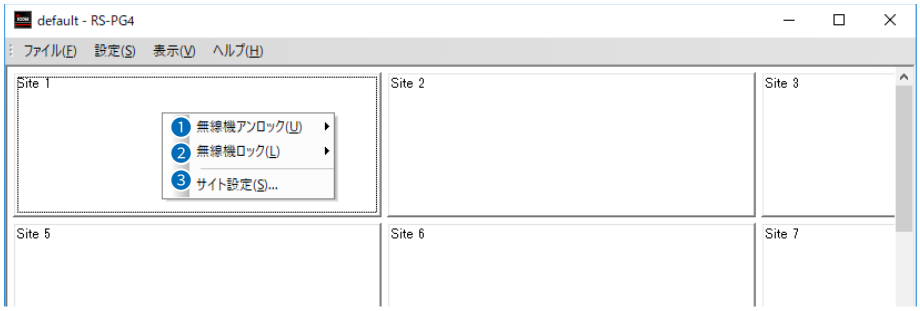
◎特定小電力(同時通話型)　：IC-MS4880、IC-MS5010

◎外部入出力機器　：無線機以外の機器が接続されている場合

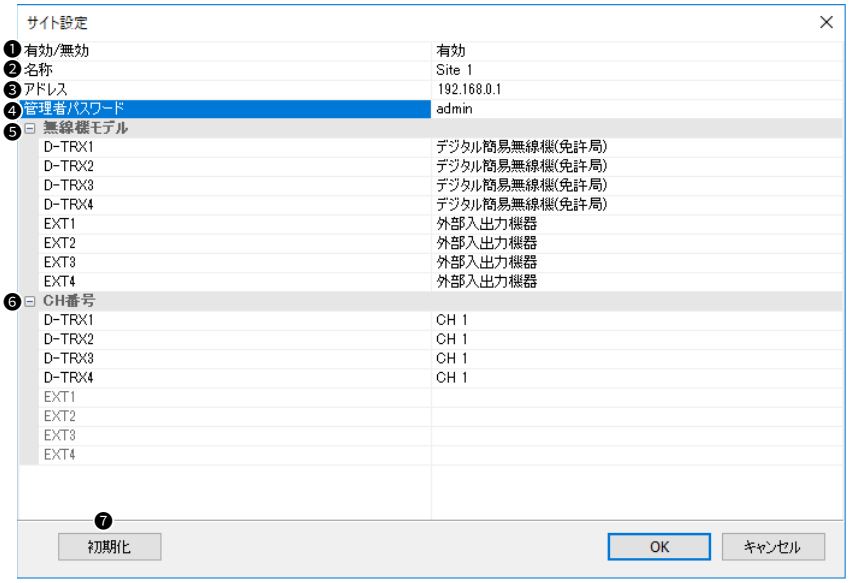
★1：生産終了品です。

★2：本システムで使用できるネットワーク対応のデジタル無線機です。

3.「サイト」画面



❸ サイト設定(S)（つづき）



❻ CH番号 ……

無線機が接続されたポートごとに、無線機に設定した通話チャンネルを選択します。（初期設定：CH1）

※[無線機モデル]欄で設定した無線機により、選択できる通話チャンネルが切り替わります。

◎デジタル簡易無線機(登録局)の場合

CH1 ～CH14、呼出CH、CH16 ～CH30

※「呼出CH」は、[D-TRX1]ポート～[D-TRX4]ポートでは指定できません。

◎デジタル簡易無線機(免許局)の場合

CH1～CH65

◎特定小電力/特定小電力(同時通話型)の場合

CH1～CH20、中継CH1～中継CH27

※[無線機モデル]欄で「外部入出力機器」が設定されている場合は、何も表示しません。

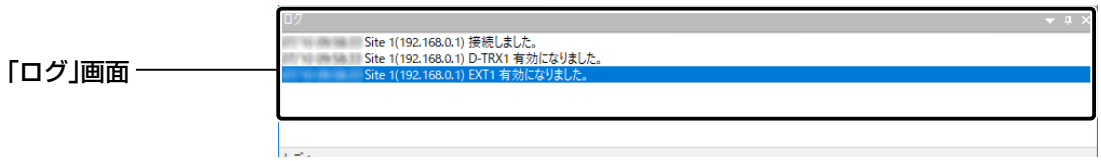
❼〈初期化〉 ……

「サイト設定」画面の設定内容を初期化するときに、クリックします。

※初期化した内容は、〈OK〉をクリックするまで適用されません。

4.「ログ」画面

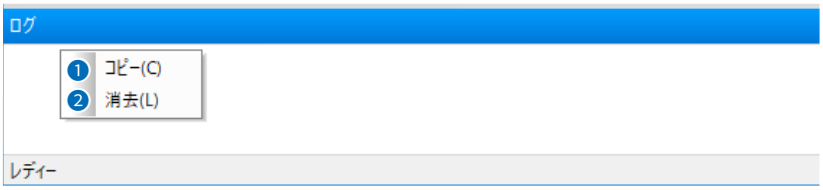
RS-PG4がVE-PG4に接続したり、VE-PG4に接続された無線機が送信状態や送信停止状態になったりすると、動作履歴が残ります。この履歴をログといいます。



RS-PG4を起動すると、ログ収集を開始します。
ログファイル保存の設定(P.2-8)が有効なときは、ログを操作画面上に表示するとともに、ログファイルに保存されます。
※最大1000行まで表示でき、それ以降は古い情報が削除されます。

■ ログについて

「ログ」画面内を右クリックすると、下図のようにメニューが表示されます。

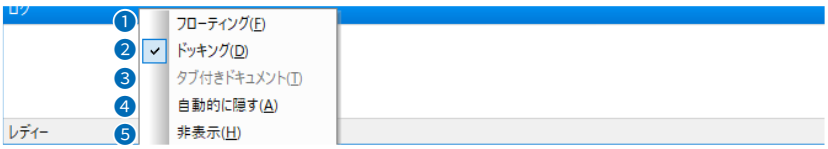


❶ **コピー(C)** …… 「ログ」画面に表示しているログをすべてクリップボードにコピーします。

❷ **消去(L)** …… 「ログ」画面に表示しているログをすべて削除します。

■「ログ」画面の表示について

「ログ」画面のタイトル(ログ)部分を右クリックすると、下図のようにメニューが表示されます。



❶ **フローティング(F)** …… 「ログ」画面だけを別画面で表示します。

❷ **ドッキング(D)** …… 「ログ」画面が操作画面と一体になります。(初期設定：✔ドッキング(D))

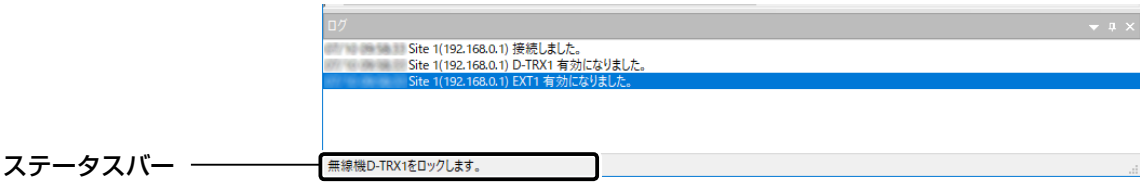
❸ **タブ付きドキュメント(T)** …… このメニューは常に無効(グレー表示)となります。

❹ **自動的に隠す(A)** …… 使用しないあいだ、自動的に「ログ」画面を隠します。

❺ **非表示(H)** …… 「ログ」画面を表示しません。
※「ログ」画面を表示する場合は、メニューバーの「表示(V)」→「ログ(O)」の順に操作してください。(P.2-9)

5. ステータスバー

操作画面で選択した項目の説明が、ステータスバーに表示されます。



たとえば、「サイト設定(S) ...]を選択すると、下図のように説明がステータスバーに表示されます。

サイトの状態表示について

第 3 章

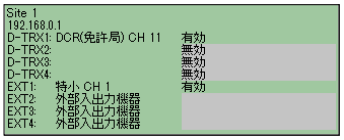
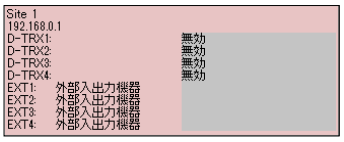
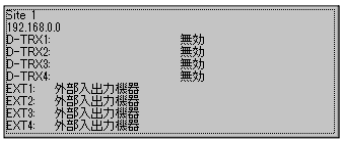
この章では、
管理するサイトの状態表示について説明します。

1. サイトの背景色について …… 3-2
2. 無線機の状態表示について …… 3-3
3. 無線機モデルについて …… 3-4

3　サイトの状態表示について

1. サイトの背景色について

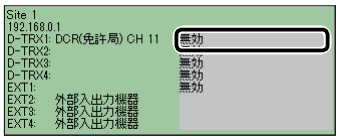
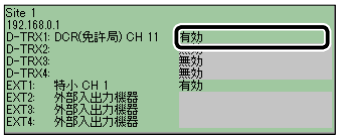
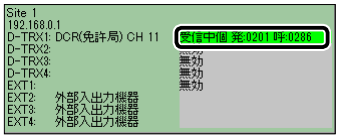
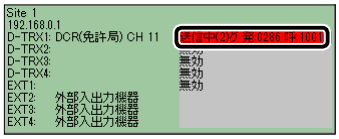
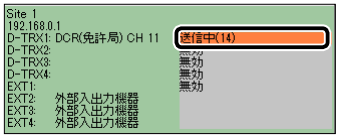
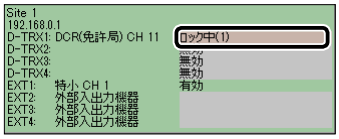
背景色によって、各サイトの動作状況を確認できます。

背景色	状態	表示例
白	監視するサイトが割り当てられていない状態	
緑	VE-PG4への接続認証が成功して監視状態にあるサイト	
桃	VE-PG4への接続認証が失敗して監視状態にないサイト	
灰	VE-PG4への接続が失敗して監視状態にないサイト、 またはサイト設定が「無効」になっているサイト	

3　サイトの状態表示について

2. 無線機の状態表示について

文字と背景色によって、VE-PG4に接続されている無線機への制御状態を確認できます。

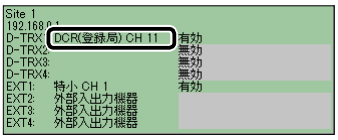
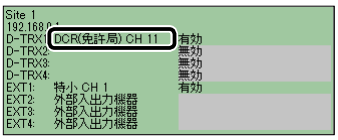
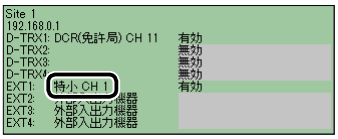
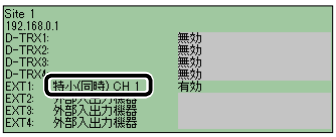
文字	背景色	状態	表示例
無効	灰	無線機が接続されていない、または無線機が使用できない状態	
有効	緑	無線機が接続され、使用できる状態	
受信中★	黄緑	無線機に受信中	
送信中(秒)★	赤	無線機が送信中	
	橙	無線機が送信中、および無線機に受信中	
ロック中(秒)	茶	無線機への送信を停止中	

★印は、横に下記の文字が表示されることがあります。
「個」　：無線機が個別呼出をしている状態です。
「グ」　：無線機がグループ呼出をしている状態です。
「発：」：発信している無線機の番号が表示されます。
「呼：」：呼び出しを受けている無線機の番号が表示されます。

3　サイトの状態表示について

3. 無線機モデルについて

「サイト設定」画面(P.1-6、P.2-12)で設定した無線機モデルは、サイトでは下記のように表示されます。

無線機モデルの名称	サイトでの表示	表示例
デジタル簡易無線機(登録局)	DCR(登録局)	
デジタル簡易無線機(免許局)	DCR(免許局)	
特定小電力	特小	
特定小電力(同時通話型)	特小(同時)	

ユーザーID/パスワードの再設定

第 4 章

この章では、
ユーザーID/パスワードの再設定について説明します。

1. ログイン画面から再設定する …… 4-2
2.「ログイン設定(L)」メニューから再設定する …… 4-3

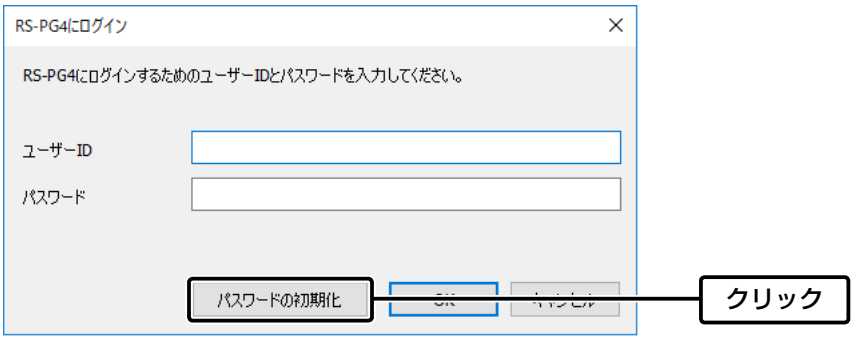
4　ユーザーID/パスワードの再設定

1. ログイン画面から再設定する

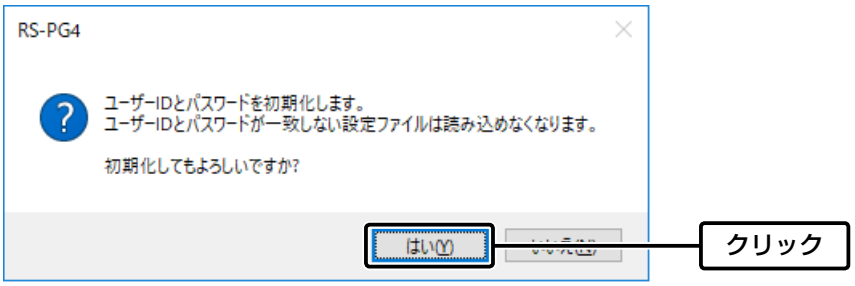
設定したユーザーID、パスワードが不明な場合、下記の手順で再設定してください。
※再設定すると、過去に作成した設定ファイル(P.1-8)は、ユーザーID、パスワードが一致しないと読み込めませんのでご注意ください。

1　RS-PG4を起動します。(P.1-3)

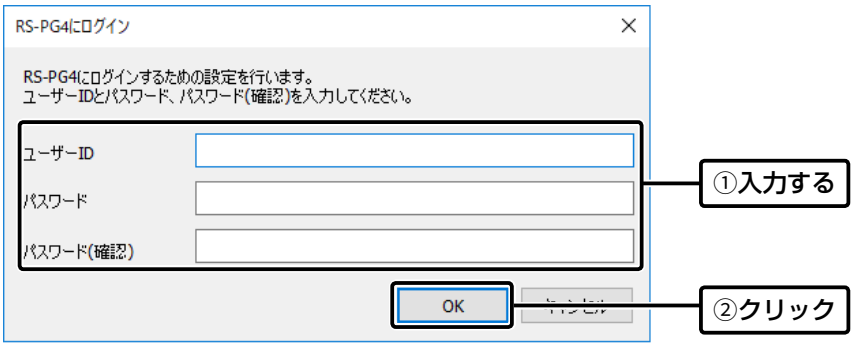
2　〈パスワードの初期化〉をクリックします。



3　〈はい(Y)〉をクリックします。



4　任意の31文字以内で、新しいユーザーIDとパスワードを設定します。
[ユーザーID]と[パスワード]、[パスワード(確認)]を入力して、〈OK〉をクリックします。
RS-PG4の操作画面が表示されます。

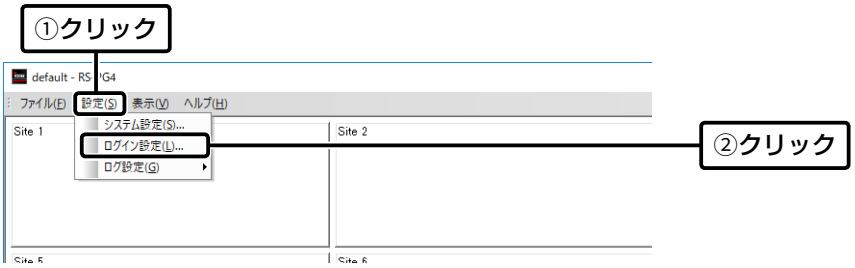


4　ユーザーID/パスワードの再設定

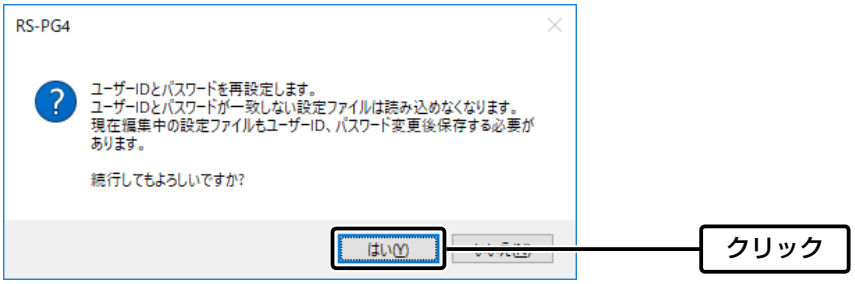
2.「ログイン設定(L)」メニューから再設定する

設定したユーザーID、パスワードを変更する場合、下記の手順で再設定してください。

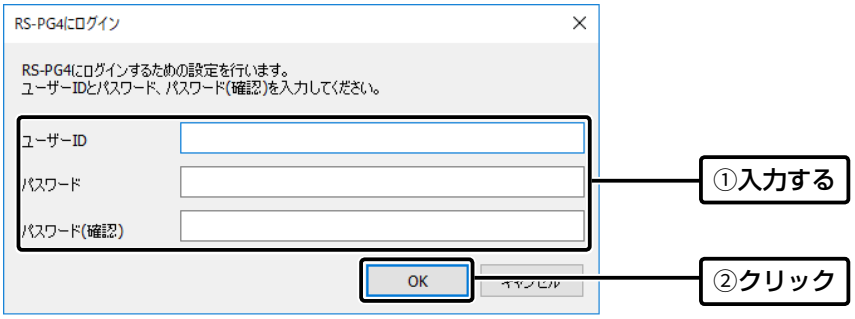
1　メニューバーの「設定(S)」→「ログイン設定(L)」をクリックします。



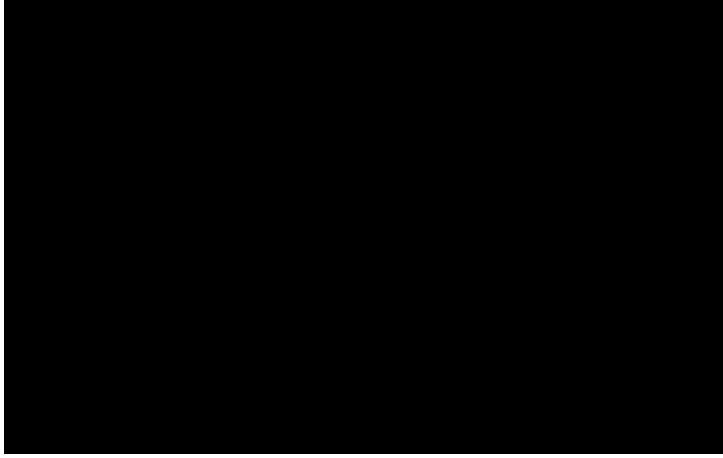
2　〈はい(Y)〉をクリックします。



3　任意の31文字以内で、新しいユーザーIDとパスワードを設定します。
[ユーザーID]と[パスワード]、[パスワード(確認)]を入力して、〈OK〉をクリックします。
※再設定が完了したら、1-8ページの手順で設定ファイルを保存してください。



高品質がテーマです。



アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32

A7461-5J
© 2018 Icom Inc.